

新型コロナウイルスへの対応により、内容や順序などを変更する場合があります。

專門科目群

ヴォーカルコース

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュ I	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。
到達目標
自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step1,2) & 1Qのまとめ

クォーター末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step3,4) & 2Qのまとめ

学期末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅡ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。
到達目標
自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step5,6) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step7,8) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュⅢ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step9) & 1Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step10) & 2Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅣ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。この科目では、講師の実務経験（ピアニスト、作編曲家）の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step11) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step12) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	専攻ソルフェージュⅢ	演	実	蒲池 愛

科目概要

ヴォーカリストには、さまざまな音楽能力が求められるものです。この授業では講師の実務経験(CMやTV番組、ゲーム、アニメ、映画、の作曲編曲)からレコーディングでプロのヴォーカリストとして作曲家が求めるやり取りが出来るように毎回、「叩く」「書く」「弾く」「歌う」などの多様な実習を行います。最終的に即座に「音楽の理解力」「リズムセンス」「聴音力」などプロとして必要とされる総合的な力をつけて行ける事を目指します。自分で楽しく弾き語りもできるようなコードの押さえ方なども実習します。

到達目標

ヴォーカリストとして、スタジオなど現場で笑顔でふるまえるようにソルフェージュ力を身につけましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	個別ソルフェージュ力チェック	それぞれのレベルをチェックします
第2回	読譜・リズム・聴音	読譜練習・リズム聴音・音程唱・コーリユーブンゲン
第3回	読譜・視唱	読譜練習・視唱・リズム合奏
第4回	音程唱・聴音	音程唱・聴音(メロディ・リズム)・音あて
第5回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(穴埋め)
第6回	引き語り	引き語り発表 (クラスコンサート)
第7回	試験	聴音(メロディ・リズム)・間違い探し

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
毎時間プリントを使用します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	読譜・リズム・視唱	読譜練習・リズム合奏・視唱
第2回	読譜・視唱・聴音	読譜練習 視唱・聴音(穴埋め・間違い探し)
第3回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(穴埋め・間違い探し)
第4回	音程唱・聴音・視奏	音程唱・聴音(音あて・穴埋め)・視奏練習
第5回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(穴埋め・メロディ)
第6回	読譜・音程唱・聴音	読譜練習・音程唱・聴音(穴埋め・メロディ・リズム)
第7回	リズム・視唱・聴音	カデンツ実習・両手伴奏の仕方
第8回	試験	聴音(メロディ・リズム) 弾き語り実習

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
毎時間プリントを使用します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	専攻ソルフェージュⅣ	演		蒲池 愛

科目概要

ヴォーカリストには、さまざまな音楽能力が求められるものです。この授業では講師の実務経験(CMやTV番組、ゲーム、アニメ、映画、の作曲編曲)からレコーディングでプロのヴォーカリストとして作曲家が求めるやり取りが出来るように毎回、「叩く」「書く」「弾く」「歌う」などの多様な実習を行います。最終的に即座に「音楽の理解力」「リズムセンス」「聴音力」などプロとして必要とされる総合的な力をつけて行ける事を目指します。自分で楽しく弾き語りもできるようなコードの押さえ方なども実習します。

到達目標

プロのヴォーカリストとして現場スタジオなどで自信をもってふるまえるように頑張りましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	読譜・音程唱・聴音	読譜練習・音程唱・聴音(音あて・間違い探し)
第2回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(リズム・穴埋め・メロディ)
第3回	読譜・視唱・聴音	読譜練習・視唱・聴音(音あて・間違い探し)
第4回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(メロディ・間違い探し)
第5回	読譜・聴音・視奏	読譜練習・聴音(2声音あて・間違い探し)・視奏練習
第6回	引き語り	自由曲で弾き語り発表 2曲
第7回	試験	聴音(メロディ・リズム)・2声 弾き語り実習 ハモリ等

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	読譜・聴音・視奏	読譜練習・聴音(2声音あて・間違い探し)・視奏練習
第2回	リズム・視唱・耳コピ	リズム合奏・視唱・耳コピ(導入)
第3回	読譜・音程唱・聴音	読譜練習・音程唱・聴音(2声音あて・穴埋め)
第4回	ハモリの練習	ハモリやコーラスの練習
第5回	自作ソルフェージュ課題作曲	自作ソルフェージュ課題を作曲してみる
第6回	自作ソルフェージュ課題作曲	自作ソルフェージュ課題を作曲してみる 両手伴奏を考える
第7回	自作ソルフェージュ課題発表	自作ソルフェージュ課題 発表 (授業実習)
第8回	試験	視唱・聴音(リズム・メロディ・2声)

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
毎時間プリントを使用します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅰ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	一年間で学習する内容のガイダンス、講師・学生の自己紹介、簡単な知識チェックテストを行います。
第2回	譜表・音名	基礎中の基礎、五線、譜表、音名を学びます。音部記号(ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号)の譜面の読み方を学びます。
第3回	音符・休符	音符、休符のそれぞれの長さ、記譜法を学びます。
第4回	拍子	4/4や6/8など、拍子によって変わる読譜、記譜法を学びます。
第5回	リズムの記譜法	前回学んだ拍子に合わせた、リズムの記譜法を学びます。
第6回	変化記号	変化記号のルール、小節内、小節をまたいだ場合、など、各ケースでの変化記号の読み方、付け方を学びます。
第7回	1Qのまとめテスト	1Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音階①	音階がどのようなルールの上に成り立っているのかを学びます。この回では、五度圏表を作成し、調の関係性を見ていきます。
第2回	音階②	前回学んだ五度圏表を用い、それぞれの調号、長音階、短音階を学びます。
第3回	夏休み前の復習、音階③	夏休み前に学んだ、音階を重点的に復習します。
第4回	調①	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。
第5回	調②	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。近親調も学びます。
第6回	音程①	幹音を基本とした、音程の答え方を学んでいきます。
第7回	音程②	基本の音程をベースに、変化記号がついた場合の呼称の変化、転回音程などを学んでいきます。
第8回	春学期のまとめテスト	1Q2Q合わせた春学期の確認テストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅱ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。4Qでは、総ざらいで復習し、基礎を固めて行きます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1Q2Qの復習①	主に音階、調の復習をします。
第2回	1Q2Qの復習②	主に音程の復習をします。
第3回	移調と転調	移調楽器への書き換え、臨時記号による転調の見分け方例を学びます。
第4回	楽語・記号	テキスト後半に記載されている、楽語、標語、各種記号を一通り確認します。
第5回	和音・コード①	和声学における和音の呼称、対応するコードの呼称、音の構成を学びます。
第6回	和音・コード②	いくつかの基本コードの呼称、音の構成を学びます。
第7回	3Qのまとめテスト	3Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習①	1Qで学んだ基礎事項の復習をします。
第2回	復習②	音階、調の復習をします。
第3回	復習③	音階、調の復習をします。この項目は、特に重点的に復習し、確実に習得してもらいます。
第4回	復習④	音程の復習をします。
第5回	復習⑤	移調楽器の復習をします。
第6回	復習⑥	コードの復習をします。
第7回	復習⑦	全体的に、弱点と思われる項目を復習します。
第8回	1年間のまとめテスト	1年間学んだ、全ての項目を網羅したテストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験（TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動）に基づき、コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標

理論学習と実習を繰り返し、学んだ事を自作曲に活かせる様、進めていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ペントニック・スケール	様々なジャンルから、ペントニック・スケールで構成されている楽曲をリストアップします。
第2回	セカンダリー・ドミナント	セカンダリー・ドミナントを復習します。
第3回	パッシング・ディミニッシュ	パッシング・ディミニッシュを学びます。
第4回	循環コード(1)	循環コードのパターンを分析し、フレーズを作成します。
第5回	循環コード(2)	4週で作成したフレーズを移調楽器用にパート譜を作成します。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	1Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サブドミナント・マイナー	サブドミナント・マイナーの用法を学びます。
第2回	バックイング	duo曲の伴奏を分析し、メロ譜に伴奏を付けます。
第3回	カノン	様々なカノン进行分析し、カノンを作成します。
第4回	リズム	リズム譜を読み、2人一組で実習します。
第5回	カウンターライン カウンターメロディ	カウンターライン・カウンターメロディについて。
第6回	リフ	既存曲のリフを分析し、リフからテーマを作成します。
第7回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第8回	2Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、春学期の学習内容を踏まえて、オリジナル作品制作に役立つ理論等を学びます。

到達目標

実習で作成した楽曲の試演を取り入れ、演奏しやすい譜面作りを行います。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	裏コード	裏コードの用法を学びます。
第2回	コード付け	既存曲を分析し、既習したコードを取り入れます。
第3回	ホルンの5度(1)	ホルンの5度の用法を学びます。
第4回	ホルンの5度(2)	前回作成したフレーズをホルン用にパート譜を作成します。
第5回	ナポリの和音	ナポリの和音の用法を学びます。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	3Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドリアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第2回	ミクソリディアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第3回	フリジアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第4回	ジブシー	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第5回	ブルー・ノート	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第6回	試演(1)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第7回	試演(2)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第8回	4Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲演習 I	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

作編曲は、昨今ではPC上で、各種DAWソフトを使用して行うことが通常となってきましたが、この授業では、楽譜を書いて作編曲を行います。編成による譜表の違い、楽器による記譜法の違い、メロディとコードの関係など、様々な観点で楽譜に書き込む作編曲を学んでいきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

適切な譜表を選び、適切な記譜ができること、その上で、各自の思う音楽を自在に書き表わせるようにしてもらいます。年度末まで8～16小節の小品を作成できることが目標です。春学期は、まだ理論の知識が追いついていないこともあり、既存曲の分析を行うことで、作編曲における引き出しを増やしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の解説をします。どんな曲が好きか、どうして好きなのか、どんな曲が作れるようになりたいのかのアンケートを実施します。
第2回	分析①	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第3回	分析②	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第4回	分析③	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第5回	分析④	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第6回	分析⑤	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第7回	1Qのまとめテスト	自分の好きな曲について、聴き込み、どんな構成か、楽器か、音色かなど文章化してもらいます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分析⑥	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第2回	分析⑦	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第3回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第4回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第5回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第6回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第7回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第8回	春学期のまとめ作成	8小節のほどのお題に合わせて、メロディを作曲してもらいます。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲演習 II	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

作編曲は、昨今ではPC上で、各種DAWソフトを使用して行うことが通常となってきましたが、この授業では、楽譜を書いて作編曲を行います。編成による譜表の違い、楽器による記譜法の違い、メロディとコードの関係など、様々な観点で楽譜に書き込む作編曲を学んでいきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

適切な譜表を選び、適切な記譜ができること、その上で、各自の思う音楽を自在に書き表わせるようにしてもらいます。年度末まで8~16小節の小品を作成できることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ベース・ランニング①	曲の要となるベースラインを作っていきます。ベースの音色、系統など知識も学びます。
第2回	ベース・ランニング②	曲の要となるベースラインを作っていきます。色んなベースパターンを聴き、演奏してみます。
第3回	リズム・セクション①	ベースと並び重要な、リズムセクションについて学びます。楽器の種類、記譜法も学びます。
第4回	リズム・セクション②	リズムセクションを作ります。
第5回	コード①	音楽理論で学んだコードを利用した作曲方法を学びます。
第6回	コード②	どんなコードパターンがあるか学びます。循環コードなどを用いて、作曲します。
第7回	3Qまとめ作成	4小節ほどの短い譜面を仕上げます。ベース、リズム、コード、全てしっかり楽譜に書き込みます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メロディー①	コードをもとに、どんなメロディが考えられるか学びます。
第2回	メロディー②	メロディに合うコード、リハーモニゼーションを学びます。
第3回	サブ・メロディー①	カウンターラインを学びます。
第4回	サブ・メロディー②	ストリングスアレンジなど、全体を引き立たせるラインを学びます。
第5回	アンサンブル①	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第6回	アンサンブル②	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第7回	アンサンブル③	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第8回	秋学期まとめ作成	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。この日の提出を持って、試験とします。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、アンサンブル実技授業と連携し、所属アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作します。

到達目標

所属アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作する為に必要な、楽器の音域や特性を学び、スコアの書法についても学んでいきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Aメロの制作	Aメロを制作し、コード付けをします。
第2回	Bメロの制作	Bメロを制作し、コード付けをします。
第3回	AとBのバックギ	様々なバックギ・パターンをリストアップし、メロディに合うバックギを制作します。
第4回	Dr.とBass	Dr.譜、Bass譜の書き方や主なパターンを知り、楽曲に取り入れます。
第5回	試演	音楽理論Ⅲで作成した譜面の試演。
第6回	イントロとコーダ	イントロとコーダを作成します。
第7回	1Q試験	アンサンブル実技用スコア提出。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	演奏時間 / テンポ / 小節数について	演奏時間 / テンポ / 小節数についての関係を知り、計算式に当てはめます。
第2回	楽曲構成 / テーマ作り	1週で作成した計算式を用いて、2分以上の楽曲になる様に構成を決め、テーマを制作します。
第3回	各パーツの作成	2週で決めた構成を踏まえて、必要なテーマ数を把握し制作を進めます。
第4回	試演	音楽理論Ⅲで作成した譜面の試演。
第5回	カウンターライン カウンターメロディ	音楽理論Ⅲで学習した内容を楽曲に取り入れます。
第6回	リフ	音楽理論Ⅲで学習した内容を楽曲に取り入れます。
第7回	スコアチェック	個別スコアチェック。
第8回	2Q試験	アンサンブル実技用スコア提出。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲IV	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、3クォーターはアンサンブル実技用の楽曲制作4クォーターはクラス内のグループ用楽曲制作を行います。

到達目標

編成の異なるアンサンブル作品を書くために、各楽器の特性を活かしたアレンジを目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リファレンス(1)	3Qで制作するアンサンブル作品のリファレンスを各自設定します。
第2回	リファレンス(2)	リファレンスを分析します。
第3回	テーマ制作	音域、担当楽器を踏まえてテーマを制作します。
第4回	ハモリ	管パートのハモリを書き込みます。
第5回	試演	音楽理論授業で作成した楽曲の試演。
第6回	スコアチェック	個別にスコアチェックを行います。
第7回	3Q試験	アンサンブル実技用スコア提出。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	30分プログラム	オリジナル曲で30分プログラムを作成 グループ分けを行います。
第2回	グループ作曲	1週で決めたグループでテーマを制作します。
第3回	グループ作曲(1)	2週で制作したテーマをアレンジします。
第4回	グループ作曲(2)	3週で制作したスコアからパート譜を作成します。
第5回	クラス作曲	クラス全体のアンサンブル曲に取り組みます。
第6回	30分プログラム(リハ)	リハを行います。
第7回	30分プログラム(本番)	30分プログラムを発表します。
第8回	4Q試験	rec.音源をmixします。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	DTM基礎 I	演習	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づき音楽家にとって楽器と同様に必要なパソコンの基本的な使い方、MIDIシーケンサー『CUBASE』、音源の基本操作、およびMIDIの基礎を習得し、2年生で学習する譜面浄書ソフトや上級生でのDAWへの学習の基礎の習得とします。

到達目標

Cubaseの基本操作を習得し、MIDIファイルを作成できるようになります。新規作成、プロジェクト名、保存法、トラックの設定を理解します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	DTMとはなにか？	PCの基本操作を学びます。
第2回	Cubaseの基本操作 I	Cubaseを起動し楽器の設定をして音を出します。プロジェクトの作成と保存。
第3回	Cubaseの基本操作 II	Cubaseにデータを書いて音を出します。ドラムのパートを作成します。
第4回	楽譜からデータ作成 I	与えられた楽譜からデータを作成します。ピアノロールの使い方。データをUSBに保存します。
第5回	楽譜からデータ作成 II	ドラムパートを追加します。名前を変えて保存します。
第6回	楽譜からデータ作成 III	パーカッションパートを追加します。名前を変えて保存します。
第7回	作品提出	完成したデータを提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか？欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	GM音源について	プログラムチェンジを使って使用する楽器を指定します。
第2回	MIDIの基礎知識 I	MIDIについて学習します。MIDIチャンネルについて。
第3回	MIDIの基礎知識 II	アンサンブルの楽譜を入力します。連符の設定、クオンタイズの設定。
第4回	いろいろなパートの作成	ピアノの楽譜を入力します。コードの入力について学習します。
第5回	楽曲データ作成 I	拍子、テンポを設定します。
第6回	楽曲データ作成 II	課題作成作業
第7回	楽曲データ作成 III	課題を完成させます。
第8回	作品提出	完成したデータを提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか？欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	DTM基礎 II	演習	実	有馬 知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づきMIDI規格を理解し、細かい音楽表現を学習します。春学期に習得した技術を応用し、多くの楽曲のデータを作成し実践します。

到達目標

Cubaseで音楽を表現します。音の長さ、強弱を設定して、音楽的なデータを作成します。データをただ入力するだけではなく、記譜されている記号を読み取り、人間の演奏に近い表現を目指す。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDIコントロールチェンジの設定 I	トラックごとにプログラムチェンジを設定し、楽器のセットを作ります。ベロシティを設定してドラムのアクセントをつけます。
第2回	MIDIコントロールチェンジの設定 II	プログラムチェンジ、ボリューム、パン、ピッチベンドを設定します
第3回	クオンタイズ機能	クオンタイズについて、内容と設定を学習します。リムパターン作成。
第4回	MIDIによる音楽的な表現	ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。テクノ風、8ビート、16ビート、4ビート、swingなど。
第5回	MIDIによる音楽的な表現	ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。
第6回	課題作成	与えられた課題曲のデータを作成します
第7回	作品提出	完成したファイルを提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音楽的な演奏データを作る	ピアノ曲のデータを入力します。正確に譜面通り入力します。
第2回	音楽的な演奏データを作る	ピアノ曲のデータに、強弱、テンポ変化をつけます。
第3回	課題作成開始	課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。
第4回	課題作成開始	課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。データを提出します。
第5回	アレンジ作業	トラックをコピーして、パートを増やします。
第6回	アレンジ作業	トラックをコピーして、パートを増やします。データを提出します。
第7回	トラックダウン	全体のバランスを取り完成させます
第8回	作品提出	完成したファイルを提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	譜面浄書 I	演習	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づき、音楽表現を主に今まで習得した入力技術の向上を目指します。MIDIだけではなく、オーディオファイルの基礎を学習し作品の完成度を高めます。

到達目標

MIDIデータをただ入力するだけでなく、音楽的な表現をつけて完成させます。複数トラックのデータのトラックダウンもできるようになります。Cubaseでオーディオを扱う際の基本操作を習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Cubase基本操作I	基礎内容を復習します。保存方法、データのバージョン管理、操作方法等。コントロールチェンジの設定。
第2回	オーディオファイルの読み込み・編集	CDからオーディオファイルを読み込みます。
第3回	オーディオとMIDIの共存	オーディオファイルからテンポを計算します。オーディオファイルに自分で作ったMIDIパートを重ねます。
第4回	練習曲データ作成 I	オーケストラのスコアを入力します
第5回	練習曲データ作成 I	強弱、テンポ変化等の表現をつけます
第6回	データの完成	各パートの音量バランスをとって完成させます。オーディオに変換します。
第7回	作品提出	完成した作品を提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点:25% 末試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。注意事項:授業中の携帯電話、インターネット、メールの使用、他科目の課題作成等はいっさい禁止とし、守られない場合には減点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDIデータによるエフェクト I	コントロールチェンジの設定 基本について学習します。
第2回	MIDIデータによるエフェクト II	コントロールチェンジの設定 実践 エフェクト処理について学習します。
第3回	オリジナル曲のデータ作成	作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
第4回	オリジナル曲のデータ作成	作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
第5回	オリジナル曲のデータ作成	1部のトラックをオーディオファイルに変換します。
第6回	オリジナル曲のデータ作成	アレンジ作業。MIDIエフェクトを追加します。
第7回	オリジナル曲のデータ作成	トラックダウン作業
第8回	作品提出	作品を提出します。

学期末試験評価方法

平常点:25% 末試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。注意事項:授業中の携帯電話、インターネット、メールの使用、他科目の課題作成等はいっさい禁止とし、守られない場合には減点します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	譜面浄書Ⅱ	演習	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー、)に基づき譜面作成ソフト「Finale」の基礎をマスターします。今まで習得したDTMの知識を応用し、DTMソフトと譜面浄書の連携をマスターします。3クォーターでは歌詞、コードのついたメロディ譜、4クォーターでは、スコアを作成します。

到達目標

Finaleを使用してコード、歌詞のついたメロディ譜、リズムパートやスコア譜が作れるようになります。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フィナーレの基礎	フィナーレの起動から初期設定 ステップ入力について。
第2回	フィナーレの実践	音符・休符の入力。臨時記号、音部記号、拍子記号の設定。 簡単なメロディーの入力
第3回	フィナーレの実践	各種ツールの使い方。ショートカット。コード入力。 コードとメロディーの入力
第4回	フィナーレの実践	歌詞入力。ページレイアウト設定。
第5回	楽譜を完成させる	コード、歌詞のついたメロディ譜を完成させる。
第6回	楽譜を完成させる	ページレイアウトの基本設定を学習する。いままで作った楽譜を 完成させる
第7回	楽譜の評価	課題曲の楽譜を完成させ提出

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点、忘れ物5点を平常点から減点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レイヤーの使い方	ピアノ譜を入力して、レイヤーの使い方を学習します。
第2回	レイヤーの使い方	ドラムパートの入力でレイヤーの使い方、高速ステップ入力について学習します。
第3回	MIDIファイルの読み込み	2クォーターに提出したオリジナル曲のMIDIデータを読み込んでスコアを作成します。
第4回	MIDIファイルの読み込み	読み込んだデータをページレイアウト設定で見やすくします。 音域、楽器などを再設定します。
第5回	スコアの入力	セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
第6回	スコアの入力	セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
第7回	スコアの入力	ページレイアウトの設定を学習し、スコアを完成させます。
第8回	楽譜の評価	スコアを完成させ提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点、忘れ物5点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分	担当講師
春	作編曲技法 I	演習	奥田 祐

科目概要

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	1年の授業予定とガイダンス
第2回	コードネーム確認	トライアド、7th、テンション(6th、sus4、add、9th)
第3回	ダイアトニックと機能	メジャーダイアトニックコードの解説
第4回	II V Iについて	II V Iについて解説 楽曲分析
第5回	クリシェ、ベースライン・楽曲分析	クリシェ、ベースラインの作り方解説 楽曲分析
第6回	楽曲分析	楽曲分析まとめ
第7回	コード確認テスト	コードシンボルの確認テスト

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験はペーパーテストの形で行います。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サブドミマイナー	サブドミナントマイナーについて解説
第2回	セカンダリードミナント	セカンダリードミナントについて解説
第3回	セカンダリーD(2)	実際の曲を用いて、セカンダリーを分析
第4回	作曲1	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第5回	作曲2	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第6回	作曲3	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第7回	REC実習1	制作したオリジナル曲をレコーディング
第8回	REC実習2・スコア提出	制作したオリジナル曲をレコーディング メロディ譜を提出。

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は作品の提出という形で行います。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分	担当講師
秋	作編曲技法Ⅱ	演習	奥田 祐

科目概要

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リピートマーク、秒数	リピートマークの種類について
第2回	楽曲分析解説	楽曲分析の方法を実際の曲を用いて解説
第3回	楽曲分析実習1	任意曲を分析し、結果を各自発表
第4回	楽曲分析実習2	任意曲を分析し、結果を各自発表
第5回	マイナースケール	マイナースケール3種の確認
第6回	マイナーダイアトニック	マイナーダイアトニックについて
第7回	楽曲分析テスト	課題曲を分析して提出

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験はペーパーテストの形で行います。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽器編成について	各楽器について解説
第2回	コード付け実習	メロディにコードを付ける実習
第3回	裏コード解説&実習	裏コード(sub7th)の解説と実習
第4回	作曲1	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第5回	作曲2	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第6回	作曲3	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第7回	REC実習1	制作したオリジナル曲をレコーディング
第8回	REC実習2・スコア提出	制作したオリジナル曲をレコーディング メロディ譜を提出。

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は作品の提出という形で行います。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分	担当講師
春	作編曲技法Ⅲ	演習	奥田 祐

科目概要

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	1年の授業予定とガイダンス
第2回	コードネーム確認	トライアド、7th
第3回	バンド譜の書き方	実際の曲を耳コピでバンド譜に起こして提出
第4回	ヴォーカル曲のポイント	ヴォーカル曲の注意点、特徴など
第5回	ストリングス実習	「Yesterday」にストリングスカルテットをつける
第6回	ストリングス実習	「Yesterday」にストリングスカルテットをつける
第7回	日本語歌詞分析提出	任意の日本語歌詞を分析して提出

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は実習の提出という形で行います。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分析の方法	楽曲分析の方法解説。
第2回	分析実習1	任意曲を分析し、結果を各自発表
第3回	分析実習2	任意曲を分析し、結果を各自発表
第4回	分析実習3	任意曲を分析し、結果を各自発表
第5回	作曲1	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第6回	作曲2	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第7回	REC実習1	制作したオリジナル曲をレコーディング
第8回	REC実習2・スコア提出	制作したオリジナル曲をレコーディング 作成したヴォーカル譜を提出

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は作品の提出という形で行います。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分	担当講師
秋	作編曲技法Ⅳ	演習	奥田 祐

科目概要

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	REC講評	前期RECについての考察
第2回	テンションコードについて	テンションコードの使い方
第3回	ブラス解説	ブラス全般に関する解説
第4回	ブラス実習1	「We can work it out」にブラスをつける
第5回	ブラス実習2	「We can work it out」にブラスをつける
第6回	ブラス実習3	「We can work it out」にブラスをつける
第7回	ブラス実習作品提出	「We can work it out」にブラスをつけたスコア(バンドアレンジを含む)を提出

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は実習の提出という形で行います。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	live performanceについて	live performanceの可能性について考察 アーティストlive鑑賞&考察
第2回	作曲1	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第3回	作曲2	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第4回	作曲3	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第5回	作曲4	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第6回	作曲5	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第7回	REC実習1	制作したオリジナル曲をレコーディング
第8回	REC実習2・スコア提出	制作したオリジナル曲をレコーディング 作成したヴォーカル譜を提出

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は作品の提出という形で行います。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲試演実習 I	実習		奥田 祐

科目概要

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	1年の授業予定とガイダンス
第2回	作詞練習	「雨」をテーマに作詞実習
第3回	歌詞分析1	任意曲の歌詞を分析し、結果を各自発表
第4回	歌詞分析2	任意曲の歌詞を分析し、結果を各自発表
第5回	歌詞分析3	任意曲の歌詞を分析し、結果を各自発表
第6回	コードネーム(テンション)	テンションコードについて解説
第7回	コードとメロディ制作テスト	コードとメロディを課題に沿って制作して提出。

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験はプレゼンという形で行います。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スコアの書き方	バンド譜、メロディ譜、2段譜について
第2回	スコア書き実習	実際の曲を用いて、耳コピで譜面制作
第3回	作曲1	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作。
第4回	作曲2	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第5回	作曲3	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第6回	作曲4	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第7回	REC実習1	制作したオリジナル曲をレコーディング
第8回	REC実習2・メロディ譜提出	制作したオリジナル曲をレコーディング メロディ譜を提出

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は作品の提出という形で行います。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分	担当講師
秋	作編曲試演実習Ⅱ	実習	奥田 祐

科目概要

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作詞実習1	「ドライブ」をモチーフに作詞実習
第2回	メロディ実習	歌詞を解説、作例を参照
第3回	コード付け実習1	技法を用いてメロディにコード付け
第4回	コード付け実習2	技法を用いてメロディにコード付け
第5回	英語詞研究1	英語詞を鑑賞、分析
第6回	英語詞研究2	英語詞を鑑賞、分析
第7回	メロディ実習作品提出	メロディ実習作品を提出

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は実習の提出という形で行います。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作曲1	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第2回	作曲2	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第3回	作曲3	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第4回	作曲4	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第5回	作曲5	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第6回	作曲6	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第7回	REC実習1	制作したオリジナル曲をレコーディング
第8回	REC実習2・バンド譜提出	制作したオリジナル曲をレコーディング バンド譜を提出

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は作品の提出という形で行います。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分	担当講師
春	作編曲実習Ⅲ	実習	奥田 祐

科目概要

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	1年の授業予定とガイダンス
第2回	作詞練習	「太陽」をモチーフに作詞実習
第3回	日本語歌詞	さまざまな日本語歌詞を鑑賞、分析
第4回	ストリングス解説	ストリングスカルテットについて解説
第5回	ストリングス実習1	「Yesterday」にストリングスカルテットをつける
第6回	ストリングス実習2	「Yesterday」にストリングスカルテットをつける
第7回	ストリングス実習提出	ストリングス実習作品提出

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は実習の提出という形で行います。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リハモ課題	リハーモナイズ解説 課題の実習
第2回	リハモ課題提出	リハモ課題の実習 提出
第3回	作曲1	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第4回	作曲2	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第5回	作曲3	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第6回	作曲4	各自オリジナル歌詞&曲作り、スコア制作
第7回	REC実習1	制作したオリジナル曲をレコーディング
第8回	REC実習2・バンド譜提出	制作したオリジナル曲をレコーディング 制作したバンド譜を提出

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は作品の提出という形で行います。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分	担当講師
秋	作編曲実習Ⅳ	実習	奥田 祐

科目概要

この授業では、詞、メロディ、コードなどの制作技術を機能的に学びながら、実習作業をくり返し行います。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

学期末には、各々が制作したオリジナル作品を用い、実際にレコーディング実習を行います。その為の作曲技術の習得やメロディ譜・バンド譜を書くスキルの習得を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作詞解説	物語的一人称での作詞
第2回	作詞実習	技法を用いて作詞実習
第3回	日本語詞実習1	曲に日本語詞をつける
第4回	日本語詞実習2	曲に日本語詞をつける
第5回	日本語詞実習3	曲に日本語詞をつける
第6回	日本語詞実習4	曲に日本語詞をつける
第7回	日本語詞実習提出	日本語詞実習作品を提出

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は実習の提出という形で行います。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	live performanceについて	アーティストlive鑑賞 & 考察
第2回	作曲1	各自オリジナル歌詞 & 曲作り、スコア制作
第3回	作曲2	各自オリジナル歌詞 & 曲作り、スコア制作
第4回	作曲3	各自オリジナル歌詞 & 曲作り、スコア制作
第5回	作曲4	各自オリジナル歌詞 & 曲作り、スコア制作
第6回	作曲5	各自オリジナル歌詞 & 曲作り、スコア制作
第7回	REC実習1	制作したオリジナル曲をレコーディング
第8回	REC実習2・バンド譜提出	制作したオリジナル曲をレコーディング 制作したバンド譜を提出

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
試験は作品の提出という形で行います。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ヴォーカルアンサンブル I	演習	実	荒井善博

科目概要

Voアンサンブルでは、複数人での声の合わせ方、ハモリ方や、最終的にはコーラスアレンジなども実践していきます。尚、講師はアカペラ、コーラスを専門にアーティスト活動をし、TV、CM、ゲーム音楽等での歌唱レコーディング、ライブ実務経験を持ちます。

到達目標

- ・ヴォーカルアンサンブルの発声を理解
- ・コードの理解
- ・オリジナルコーラスアレンジ作成

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎力習得1	発声法 譜面の読み方、音符読み書き、コードの理解
第2回	基礎力習得2	発声法 譜面の読み方、授業内容の小テスト
第3回	アンサンブル1	課題曲を通してアンサンブル リハーサル 譜読み
第4回	アンサンブル2	課題曲を通してアンサンブル リハーサル
第5回	アンサンブル3	課題曲を通してアンサンブル リハーサル
第6回	アンサンブル4	クラスでパフォーマンスを研究
第7回	クォータ試験	アンサンブルパフォーマンス発表

クォーター末試験評価方法

出席率を第一に評価します。50%  
 その他基礎の理解度。20%  
 作業達成率や取り組み姿勢など。30%を総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎力習得2-1	発声法 譜面の読み方
第2回	基礎力習得2-2	発声法 譜面の読み方
第3回	アンサンブル2-1	課題曲を通してアンサンブル リハーサル
第4回	アンサンブル2-2	課題曲を通してアンサンブル リハーサル
第5回	アンサンブル2-3	課題曲を通してアンサンブル リハーサル
第6回	アンサンブル2-4	少人数でのアンサンブル発表、演奏表現など全員で評価、提案。
第7回	アンサンブル2-5	少人数でのアンサンブル練習
第8回	クォータ試験	グループ毎にアンサンブル発表

学期末試験評価方法

出席率を第一に評価します。50%  
 アレンジ力、歌唱力、パフォーマンス個々が主体をもってグループへ積極的に参加できているか総合的に評価します。50%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ヴォーカルアンサンブルⅡ	演習	実	荒井善博

科目概要
アンサンブルをする上でより実践的な内容を学びます。春学期で培った基礎力を実践で応用できるようにします。尚、講師はアカペラ、コーラスを専門にアーティスト活動をし、TV、CM、ゲーム音楽等での歌唱レコーディング、ライブ実務経験を持ちます。
到達目標
出席率を第一に評価します。50% グループとしてのまとまり、仲間をフォローしつつも個々の積極性などを総合的に評価します。50%

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コーラスワーク1	グループ分け。課題曲を決める。
第2回	コーラスワーク2	グループ毎にリハーサル
第3回	コーラスワーク3	グループ毎にリハーサル
第4回	コーラスワーク4	グループ毎にリハーサル
第5回	コーラスワーク5	グループ毎にリハーサル
第6回	コーラスワーク6	グループ毎にリハーサル
第7回	クォータ試験	グループ毎に発表
クォーター末試験評価方法		
出席率を第一に評価します。50% グループとしてのまとまり、仲間をフォローしつつも個々の積極性などを総合的に評価します。50%		
4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コーラスワーク2-1	グループ分け、曲決め、アレンジを進める
第2回	コーラスワーク2-2	グループ毎にリハーサル
第3回	コーラスワーク2-3	グループ毎にリハーサル
第4回	コーラスワーク2-4	グループ毎にリハーサル
第5回	コーラスワーク2-5	グループ毎にリハーサル
第6回	コーラスワーク2-6	グループ毎にリハーサル
第7回	コーラスワーク2-7	グループ毎にリハーサル
第8回	試験	グループ毎に発表
学期末試験評価方法		
出席率を第一に評価します。50% アレンジ力、歌唱力、パフォーマンス個々が主体をもってグループへ積極的に参加できているか総合的に評価します。50%		

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ヴォーカルアンサンブルⅢ	演習	実	瀬川 忍

科目概要

この科目では講師の実務経験(アーティスト活動、作曲家、編曲家、合唱団代表)に基づき、学生たちと共により多くの楽曲を取り上げ歌唱することで、学生たちの視野を広げ、豊かな表現力を身に付けることを目的とします。またアカペラというスタイルを取り入れることで、自分たちだけで音楽が成り立っているという喜びとともに、声という楽器を使い和声学にも軽く触れ、楽しみながらアンサンブルを習得できるカリキュラムを目指します。

到達目標

音、リズムだけでなく、息のスピード、発音、音色、そして何より同じ景色を頭で思い浮かべて歌うことがアンサンブルの大切な要素であることを実感し、表現することを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルとは？	音楽において、アンサンブルの重要性、効果などを様々な参考音源、譜面を使ってディスカッションします
第2回	基礎力習得1「いのちの歌」	パートを分け、音取り、譜面の読み方を説明します
第3回	基礎力習得2	自分の音ともう一つの音を耳で掴んで歌う練習をします
第4回	基礎力習得3	音量、抑揚等のバランスを感じながら練習します
第5回	コーラスワーク1	パート毎のもつ音楽的な役割を理解しつつ、歌詞の世界観に身をあずけて、楽しみながら歌唱します
第6回	コーラスワーク2	ピアノ伴奏をつけていた雰囲気を崩さずに、無伴奏(アカペラ)で歌唱します
第7回	発表会	各パート一人ずつでグループを組んで発表します

クォーター末試験評価方法

自分のパートを自信持って歌えているか。他のパートを聞こうとして歌っているか。得意不得意ではなく、授業からなにかを得ようと意欲的に取り組んでいるかを評価いたします。出席率50% 授業態度50%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎力習得1「世界に一つだけの花」	パートを決め、音取り、譜面の読み方を説明します
第2回	基礎力習得2	自分の音ともう一つの音を耳で掴んで歌う練習をします
第3回	基礎力習得3	音量、抑揚等のバランスを感じながら練習します
第4回	基礎力習得4	ブロック毎にハーモニーが完成していく様を感じる練習をします
第5回	コーラスワーク1	パート毎のもつ音楽的な役割を理解しつつ、歌詞の世界観に身をあずけて、楽しみながら歌唱します
第6回	コーラスワーク2	ピアノ伴奏をつけていた雰囲気を崩さずに、無伴奏(アカペラ)で歌唱します
第7回	コーラスワーク3	ハーモニーの精度を上げていく反復練習をします
第8回	歌唱試験	各パート一人ずつでグループを組んで発表します

学期末試験評価方法

自分のパートがその音楽(和声)の中でどのような役割を果たしているのか意識して歌唱しているか。グループ毎の歌唱試験なので、協調性含めグループ単位の評価も行います。出席率50% 授業態度25% 歌唱試験25%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ヴォーカルアンサンブルⅣ	演習	実	瀬川 忍

科目概要

この科目では講師の実務経験(アーティスト活動、作曲家、編曲家、合唱団代表)に基づき、学生たちと共により多くの楽曲を取り上げ歌唱することで、学生たちの視野を広げ、豊かな表現力を身に付けることを目的とします。後期に入ったことで難易度も少し上げ、jazzコーラスもチャレンジし緊張感あるハーモニーも体験します

到達目標

1年間アンサンブルで学んだことが学生たちの自信になり、自分達の音楽活動で積極的にコーラスを取り入れ音楽に彩りを加えていくような学生に成長することを到達目標とします

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎力習得1	ソルフェージュ、キーの探し方、和音の理解
第2回	jazzコーラスワーク1	winter wonder landを題材にjazzコーラスを楽しむ。パート決め、英語の発音、音取りなどをします
第3回	jazzコーラスワーク2	リズムが遅れることなく、自分のパートを歌えるようにします
第4回	jazzコーラスワーク3	ベースとメロディーともう1声で歌えるようにします
第5回	jazzコーラスワーク4	ブロック毎にハーモニーを感じながら歌えるようにします
第6回	jazzコーラスワーク5	バランスの重要性を実演しながら体感します
第7回	発表会	各パート一人ずつでグループを組み歌唱します

クォーター末試験評価方法

他のパートにつられることなく、自分の音を正しく歌えているか。バランスの重要性を感じて調和しようとしているか。を評価します。出席率50% 授業態度50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎力習得1「カントリーロード」	パートを分け、音取り、譜面の読み方を説明します
第2回	基礎力習得2	慣れ親しんでいる曲なので、グループ毎に表現したい曲想を考え、歌唱します
第3回	基礎力習得3	ソロではなくユニゾンでメロディーを歌うという点で、複数の人間が同じ世界観を共有して形にする大切さを体験します
第4回	基礎力習得4	ブロック毎にハーモニーが完成していく様を感じる練習をします
第5回	コーラスワーク1	パート毎のもつ音楽的な役割を理解しつつ、歌詞の世界観に身をあずけて、楽しみながら歌唱します
第6回	コーラスワーク2	ハーモニーの精度を上げていく反復練習をします
第7回	コーラスワーク3	グループ毎に発表して、お互いの良いところ、改善点をディスカッションして、よりよい表現をみつけていきます
第8回	歌唱試験	各パート一人ずつでグループを組んで歌唱します

学期末試験評価方法

グループ自体に連帯感があるか。そこに集まった仲間できかに良いものを作ろうと努力してきたか。試験だけでなく、通常授業内でのグループ練習等も評価の対象とします。1年かけて成長した部分も含め総合的に評価いたします。出席率50% 授業態度25% 歌唱試験25%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ヴォイストレーニング I	演習	実	入来院真嗣

科目概要

この科目では、講師の実務経験(メジャーレコード会社での仮歌収録や所属アーティストの歌唱収録時のディレクションなど)に基づき、基礎から発声を学びます。ヴォーカリストに必要な様々な知識や技術の基礎を身につけることで、個々人のより自由で安定した歌唱表現の一助を目指します。

到達目標

無理のない自然な発声を理解・獲得し歌唱表現に活かすこと、また、グループプレッスンを通して人前で歌うことに慣れ、同時に他者を観察することで得られる自身の表現力向上を目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンスと基礎練習	授業内容や授業を受ける上での心構え、課題曲について説明します。
第2回	呼吸について	基礎トレーニング、及び歌うための準備として姿勢や呼吸について解説・実践していきます。
第3回	呼吸について	基礎トレーニング、及び前回の授業を踏まえ理解度を確認しつつ、姿勢や呼吸についてより深く解説・実践します。
第4回	発声・発話について	基礎トレーニング、及び課題曲を通して発声・発声を発話に繋げるメカニズムについて実践します。
第5回	発声・発話について	基礎トレーニング、及びこれまでの説明と実践を踏まえ課題曲を練習します。
第6回	試験直前対策	基礎トレーニング、及び課題曲の個別歌唱・アドバイスをこなしていきます。
第7回	試験	課題曲の歌唱テストを行います。

クォーター末試験評価方法

出席率及び授業態度(意欲、マナー)を最も評価し(60%)、  
加えて実技試験及び授業の内容理解度(40%)を確認し総合的に判断します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習及び口の形(母音)について	1クォーターの振り返りをして課題曲を設定、加えて表情筋及び日本語の母音についての説明と実践をしていきます。
第2回	口の形(母音)について	基礎トレーニング、及び表情筋トレーニングを徹底し、課題曲の練習を行います。
第3回	舌の動き(子音)について	基礎トレーニング、及び課題曲を通して日本語における子音の説明と実践を行います。
第4回	舌の動き(子音)について	基礎トレーニング、及び課題曲を通して子音及び母音のつながりを確認します。
第5回	音域を広げるために	基礎トレーニング、及び課題曲を通して基礎的な発声の強化及び自身の課題の再確認を目指します。
第6回	音域を広げるために	基礎トレーニング、及び課題曲を通して自身の課題を意識した練習を行います。
第7回	試験直前対策	基礎トレーニング、及び課題曲の個別歌唱・アドバイスをこなしていきます。
第8回	試験	課題曲の歌唱テストを行います。

学期末試験評価方法

出席率及び授業態度(意欲、マナー)を最も評価し(60%)、  
加えて実技試験及び授業の内容理解度(40%)を確認し総合的に判断します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ヴォイストレーニングⅡ	演習	実	入来院真嗣

科目概要
この科目では、講師の実務経験(メジャーレコード会社での仮歌収録や所属アーティストの歌唱収録時のディレクションなど)に基づき、基礎から発声を学びます。ヴォーカリストに必要な様々な知識や技術の基礎を身につけることで、個々人のより自由で安定した歌唱表現の一助を目指します。
到達目標
春期で学んだ基礎をもとに具体的な各種基本技術を意識し、歌唱力(表現力)の向上を目標とします。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の復習	基礎トレーニング、及び春学期の復習をしつつ課題曲を設定します。
第2回	音域を広げるために	基礎トレーニング、及び課題曲を通して高音発声に必要なポイント解説を行います。
第3回	音域を広げるために	基礎トレーニング、及び課題曲を通して高音発声の実践的な練習を行います。
第4回	発声からメロディへ	基礎トレーニング、及び課題曲を通して発声と滑舌の安定・強化を目指します。
第5回	メロディと歌詞の融合	基礎トレーニング、及び課題曲を通して歌唱表現の拡大を目指します。
第6回	試験直前対策	基礎トレーニング、及び課題曲の個別歌唱・アドバイスをを行います。
第7回	試験	課題曲の歌唱テストを行います。

クォーター末試験評価方法  
出席率及び授業態度(意欲、マナー)を最も評価し(60%)、  
加えて実技試験及び授業の内容理解度(40%)を確認し総合的に判断します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	洋楽について	基礎トレーニング及び第3クォーターの復習、課題曲の設定を行います。
第2回	課題曲に慣れる	基礎トレーニング、及び課題曲を通して音節や文法といった日本語との違いを意識します。
第3回	課題曲に慣れる	基礎トレーニング、及び課題曲を通して自身の弱点・課題と向き合うことを目指します。
第4回	テクニックについて	基礎トレーニング、及び課題曲を通して声のグラデーションのイメージ獲得を目指します。
第5回	テクニックについて	基礎トレーニング、及び課題曲を通して呼吸・音程・共鳴変化といった具体的なテクニックのイメージ獲得を目指します。
第6回	テクニックについて	基礎トレーニング、及び課題曲を通して様々なフレージングに挑戦します。
第7回	試験直前対策	基礎トレーニング、及び課題曲の個別歌唱・アドバイスをを行います。
第8回	試験	課題曲の歌唱テストを行います。

学期末試験評価方法  
出席率及び授業態度(意欲、マナー)を最も評価し(60%)、  
加えて実技試験及び授業の内容理解度(40%)を確認し総合的に判断します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ヴォイストレーニングⅢ	演習	実	谷本真規

科目概要
この科目では、講師の実務経験(シンガー、作曲編曲家、俳優の経験と25年以上にわたる発声学身体学研究とそれによる有名シンガー俳優の育成排出経験)に基づき、下記内容を目標にし実施します。 自然発声の理解と定着 発声機能拡張 表現感覚の成長
到達目標
歌う為の基本姿勢と、それを保てるポディーバランスを作る 声帯を柔らかく使えるようにする 口内共鳴感覚とグループ感覚を育てる 声量拡大 音域拡張 声質変化 ロック歌唱テクニック

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新年度授業内容の説明 前年の復習とスキルチェック	新年度の授業説明 個別インタビュー 年度変わりの反省と目標 基礎の復習 歌唱テスト
第2回	発声理論と発声の基礎	ポディーバランストレーニング 筋トレストレッチ 基本発声と発声理論 横隔膜呼吸と声帯制御 呼吸練習
第3回	ファルセット リズムとグループの復習	裏声の基本練習とバリエーション 裏声歌唱 グループの取り方感じ方復讐と練習
第4回	滑舌 母音共鳴 子音調整	滑舌基礎運動 母音形状練習 口内共鳴変化 裏声滑舌歌唱
第5回	英語子音調整	滑舌基礎運動 英語共鳴の感覚 裏声朗読 裏声歌唱
第6回	基本発声からのヴォイスミックス	ポディーバランスを鍛える覚える ヴォイスミックスの感覚トレーニング
第7回	1クォーターのまとめ 中間実技試験	1クォーターの復習 中間実技試験(課題曲) ここまでの疑問や質問 回答と解消

クォーター末試験評価方法
歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 理解度 成長度 ポディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ハイトーン考察	喉の構造と高音発声の状態を理解する ミックス(ミドル)ヴォイスの概念と感覚練習
第2回	音域拡張	ポディーバランスと呼吸筋の動きを作る 喉の均等な脱力と緊張 ミックスヴォイスを使い音域拡張練習
第3回	ウィスパーヴォイス考察	声門の感覚を覚え開く 息声に音程と言葉をつける
第4回	声質の変化と表現テクニック	声門の間隔と声帯のテンション～ 声質の変化と表現へ
第5回	ロック歌唱1ミドルヴォイス	声帯の張り方と声の傾向 既存曲でロックシンガーのテクニックを学ぶ
第6回	ロック歌唱2ウィスパーヴォイス	声の抜き方 しゃがれ方 ベルティングとの使い分け
第7回	期末試験の練習	ロック歌唱まとめ 春学期期末テストの練習とアドバイス
第8回	春学期のまとめと期末実技試験	春学期復習 期末試験でスキルチェック 技術的な疑問や悩みの解消

学期末試験評価方法
歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 授業の理解度と成長度 発声の安定 歌唱時のポディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール 歌唱の総合的レベル(歌唱力)も考慮

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ヴォイストレーニングⅣ	演習	実	谷本真規

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンガー、作曲編曲家、俳優の経験と25年以上にわたる発声学身体学研究とそれによる有名シンガー俳優の育成排出経験)に基づき、下記内容を目標にし実施します。  
 自然発声の理解と定着 発声機能拡張 表現感覚の成長 歌唱テクニック

到達目標

歌う為の基本姿勢を保てるボディーバランス定着  
 自然発声の喉感覚、喉の柔軟性 の定着 口内共鳴感覚とグルーブ感覚を安定させる  
 声量拡大 音域拡張 声質調整 などのテクニカルなコントロール感覚を身につける

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の復習 基本の復習	体勢感覚 喉感覚の復習 個人別課題チェック プロシンガーの映像から体の使い方を学ぶ
第2回	ミュージカル歌唱1ベルティング	生声歌唱での響きと歌唱感覚を覚える 横隔膜の支えと声の張り ベルティング練習
第3回	ミュージカル歌唱2ダイナミクス	語り、囁き、演技、ダイナミクスの作り方 ルバート、ビブラート
第4回	生声歌唱とマイク歌唱の両立	生声の歌唱の感覚とマイク歌唱の感覚の違いと、感覚の揃え方を知る
第5回	英語曲歌唱考察	英語共鳴や喉の位置の特性から歌唱感覚を育てる ミックスヴォイス感覚で歌う
第6回	ブルース歌唱考察	共鳴の聴き方とペンタトニックスケール
第7回	3クォーターのまとめ 中間実技試験	生声歌唱、マイク歌唱、双方での課題曲歌唱試験

クォーター末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 理解度 成長度  
 ナチュラルな発声の定着度 歌唱中の発声の安定感、モニタリングの集中力、歌唱の総合的レベル

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コーラス感覚	喉頭共鳴からコード共振を感じ ハーモニーの体感覚を拾う
第2回	声帯のハモリ感覚	ボディーバランスと呼吸筋の動きを作る 喉の均等な脱力と緊張でミックスを使いこなす
第3回	冬休み明け復習 歌唱バランスチェック	ファルセット ミックスヴォイス グラデーション感覚 生声歌唱とマイク歌唱の両立
第4回	Jazz考察 and R&B考察 1	マイクに乗りやすい響きとプレス リズムとグルーブ
第5回	Jazz考察 and R&B考察 2	マイクテクニックとフレージングテクニック
第6回	歌唱のバランス感覚 悩み苦手の解決	バランス感覚と発声スキルのチェック 質問やできない事の改善法をシェア
第7回	発声歌唱前半の質問と応答 期末試験の練習	質問やできない事の改善法をシェア 期末試験のリハーサルとアドバイス
第8回	秋学期のまとめと学年末実技試験	1年間のまとめ 期末実技試験と個別アドバイス 卒業後の歌との向き合い方について

学期末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 授業の理解度と成長度  
 発声の定着 歌唱時のボディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール  
 歌唱の総合的レベル(歌唱力)も考慮

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ヴォイストレーニング指導法研究Ⅰ	演習	実	谷本真規

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンガー、作曲編曲家、俳優の経験と25年以上にわたる発声学身体学研究とそれによる有名シンガー俳優の育成排出経験)に基づき、下記内容を目標にし実施します。  
自然発声の理解と定着 発声機能拡張 表現感覚の成長

到達目標

歌う為の基本姿勢と、それを保てるポディーバランスを作る  
声帯を柔らかく使えるようにする 口内共鳴感覚とグルーブ感覚を育てる  
声量拡大 音域拡張 声質変化 ヴォイスミックス

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新年度授業内容の説明前年の復習とスキルチェック	新年度の授業説明 個別インタビュー 年度変わりの反省と目標 基礎の復習 歌唱テスト
第2回	発声理論と発声の基礎	ポディーバランストレーニング 筋トレストレッチ 基本発声と発声理論 横隔膜呼吸と声帯制御 呼吸練習
第3回	ファルセットリズムとグルーブの復習	裏声の基本練習とバリエーション 裏声歌唱 グループの取り方感じ方復習と練習
第4回	滑舌 母音共鳴 子音調整	滑舌基礎運動 母音形状練習 口内共鳴変化 裏声滑舌歌唱
第5回	英語子音調整	滑舌基礎運動 英語共鳴の感覚 裏声朗読 裏声歌唱
第6回	基本発声からのヴォイスミックス	ポディーバランスを鍛える覚える ヴォイスミックスの感覚トレーニング
第7回	1クォーターのまとめ中間実技試験	1クォーターの復習 中間実技試験(課題曲) ここまでの疑問や質問 回答と解消

クォーター末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 理解度 成長度  
ポディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ハイトーン考察	喉の構造と高音発声の状態を理解する ミックス(ミドル)ヴォイスの概念と感覚練習
第2回	音域拡張	ポディーバランスと呼吸筋の動きを作る 喉の均等な脱力と緊張 ミックスヴォイスを使い音域拡張練習
第3回	ウィスパーヴォイス考察	声門の感覚を覚え開く 息声に音程と言葉をつける
第4回	声質の変化と表現テクニック	声門の間隔と声帯のテンション～ 声質の変化と表現へ
第5回	ブルーススカット1	ミックスヴォイスのままスカットフレーズを歌いファルセットとの境界線をぼかす
第6回	ブルーススカット2	アフタービートを感じながら歌えるように練習する ペンタニックとブルーノートに慣れる
第7回	期末試験の練習	ブルース感覚とアフタービートの習得度のチェック 春学期期末テストの練習とアドバイス
第8回	春学期のまとめと期末実技試験	春学期復習 期末試験でスキルチェック 技術的な疑問や悩みの解消

学期末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 授業の理解度と成長度  
発声の定着 歌唱時のポディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール  
歌唱の総合的レベル(歌唱力)も考慮

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ヴォイストレーニング指導法研究Ⅱ	演習	実	谷本真規

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンガー、作曲編曲家、俳優の経験と25年以上にわたる発声学身体学研究とそれによる有名シンガー俳優の育成排出経験)に基づき、下記内容を目標にし実施します。

自然発声の理解と定着 発声機能拡張 表現感覚の成長 歌唱テクニック

到達目標

歌う為の基本姿勢を保てるポディーバランス定着  
 自然発声の喉感覚、喉の柔軟性 の定着 口内共鳴感覚とグループ感覚を安定させる  
 声量拡大 音域拡張 声質調整 などのテクニカルなコントロール感覚を身につける

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の復習 基本の復習	体勢感覚 喉感覚の復習 個人別課題チェック プロシンガーの映像から体の使い方を学ぶ
第2回	英語曲歌唱考察	英語共鳴や喉の位置の特性から歌唱感覚を育てる ミックスヴォイス感覚で歌う
第3回	ロック歌唱1ミドルヴォイス	声帯の張り方と声の傾向 既存曲でロックシンガーのテクニックを学ぶ
第4回	ロック歌唱2ウィスパークヴォイス	声の抜き方 しゃがれ方 ベルティングとの使い分け
第5回	ブルース歌唱考察	共鳴の聴き方とペンタトニックスケール
第6回	ビブラートコントロール	呼吸法+声帯感覚+共鳴腔形状のコントロールで ビブラートコントロールのテクニックを学ぶ
第7回	3クォーターのまとめ中間実技試験	マイク歌唱 課題曲歌唱試験

クォーター末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 理解度 成長度  
 ナチュラルな発声の定着度 歌唱中の発声の安定感、モニタリングの集中力、歌唱の総合的レベル

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コーラス感覚	喉頭共鳴からコード共振を感じ ハーモニーの体感覚を拾う
第2回	声帯のハモリ感覚	ポディーバランスと呼吸筋の動きを作る 喉の均等な脱力と緊張 でミックスを使いこなす
第3回	冬休み明け復習歌唱/バランスチェック	ファルセット ミックスヴォイス グラデーション感覚 生声歌唱とマイク歌唱の両立
第4回	Jazz考察 and R&B考察 1	マイクに乗りやすい響きとプレス リズムとグループ
第5回	Jazz考察 and R&B考察 2	マイクテクニックとフレージングテクニック
第6回	歌唱のバランス感覚悩み苦手の解決	バランス感覚と発声スキルのチェック 質問やできない事の改善法をシェア
第7回	発声歌唱前半の質問と応答期末試験の練習	質問やできない事の改善法をシェア 期末試験のリハーサルとアドバイス
第8回	秋学期のまとめと学年末実技試験	1年間のまとめ 期末実技試験と個別アドバイス 卒業後、進級後の方向性につて

学期末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 授業の理解度と成長度  
 発声の定着 歌唱時のポディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール  
 歌唱の総合的レベル(歌唱力)も考慮

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ヴォイストレーニング指導法研究Ⅲ	演習	実	谷本真規

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンガー、作曲編曲家、俳優の経験と25年以上にわたる発声学身体学研究とそれによる有名シンガー俳優の育成排出経験)に基づき、下記内容を目標にし実施します。

Iの内容を踏襲しますが、より深く掘り下げます。

自然発声の理解と定着 発声機能拡張 表現感覚の成長

到達目標

歌う為の基本姿勢と、それを保てるポディーバランスを作る  
 声帯を柔らかく使えるようにする 口内共鳴感覚とグルーブ感覚を育てる  
 声量拡大 音域拡張 声質変化 ヴォイスミックス

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新年度授業内容の説明前年の復習とスキルチェック	新年度の授業説明 個別インタビュー 年度変わりの反省と目標 基礎の復習 歌唱テスト
第2回	発声理論と発声の基礎	ポディーバランストレーニング 筋トレストレッチ 基本発声と発声理論 横隔膜呼吸と声帯制御 呼吸練習
第3回	ファルセットリズムとグルーブの復習	裏声の基本練習とバリエーション 裏声歌唱 グループの取り方感じ方復習と練習
第4回	滑舌 母音共鳴 子音調整	滑舌基礎運動 母音形状練習 口内共鳴変化 裏声滑舌歌唱
第5回	英語子音調整	滑舌基礎運動 英語共鳴の感覚 裏声朗読 裏声歌唱
第6回	基本発声からのヴォイスミックス	ポディーバランスを鍛える覚える ヴォイスミックスの感覚トレーニング
第7回	1クォーターのまとめ中間実技試験	1クォーターの復習 中間実技試験(課題曲) ここまでの疑問や質問 回答と解消

クォーター末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 理解度 成長度  
 ポディーバランスの定着度 声帯の柔軟さ 発声の安定感

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ハイトーン考察	喉の構造と高音発声の状態を理解する ミックス(ミドル)ヴォイスの概念と感覚練習
第2回	音域拡張	ポディーバランスと呼吸筋の動きを作る 喉の均等な脱力と緊張 ミックスヴォイスを使い音域拡張練習
第3回	ウイパーヴォイス考察	声門の感覚を覚え開く 息声に音程と言葉をつける
第4回	声質の変化と表現テクニック	声門の間隔と声帯のテンション～ 声質の変化と表現へ
第5回	ブルーススカット1	ミックスヴォイスのままスカットフレーズを歌いファルセットとの境界線をぼかす
第6回	ブルーススカット2	アフタービートを感じながら歌えるように練習する ペンタニックとブルーノートに慣れる
第7回	期末試験の練習	ブルース感覚とアフタービートの習得度のチェック 春学期期末テストの練習とアドバイス
第8回	春学期のまとめと期末実技試験	春学期復習 期末試験でスキルチェック 技術的な疑問や悩みの解消

学期末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 授業の理解度と成長度  
 発声の定着 歌唱時のポディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール  
 歌唱の総合的レベル(歌唱力)も考慮

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ヴォイストレーニング指導法研究Ⅳ	演習	実	谷本真規

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンガー、作曲編曲家、俳優の経験と25年以上にわたる発声学身体学研究とそれによる有名シンガー俳優の育成排出経験)に基づき、下記内容を目標にし実施します。

Ⅱの内容を踏襲しますが、より深く掘り下げます。

自然発声の理解と定着 発声機能拡張 表現感覚の成長 歌唱テクニック

到達目標

歌う為の基本姿勢を保てるポディーバランス定着

自然発声の喉感覚、喉の柔軟性 の定着 口内共鳴感覚とグループ感覚を安定させる

声量拡大 音域拡張 声質調整 などのテクニカルなコントロール感覚を身につける

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の復習 基本の復習	体勢感覚 喉感覚の復習 個人別課題チェック プロシンガーの映像から体の使い方を学ぶ
第2回	英語曲歌唱考察	英語共鳴や喉の位置の特性から歌唱感覚を育てる ミックスヴォイス感覚で歌う
第3回	ロック歌唱1ミドルヴォイス	声帯の張り方と声の傾向 既存曲でロックシンガーのテクニックを学ぶ
第4回	ロック歌唱2ウィスパークヴォイス	声の抜き方 しゃがれ方 ベルティングとの使い分け
第5回	ブルース歌唱考察	共鳴の聴き方とペンタトニックスケール
第6回	ビブラートコントロール	呼吸法+声帯感覚+共鳴腔形状のコントロールで ビブラートコントロールのテクニックを学ぶ
第7回	3クォーターのまとめ中間実技試験	マイク歌唱 課題曲歌唱試験

クォーター末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 理解度 成長度

ナチュラルな発声の定着度 歌唱中の発声の安定感、モニタリングの集中力、歌唱の総合的レベル

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コーラス感覚	喉頭共鳴からコード共振を感じ ハーモニーの体感覚を拾う
第2回	声帯のハモリ感覚	ポディーバランスと呼吸筋の動きを作る 喉の均等な脱力と緊張 でミックスを使いこなす
第3回	冬休み明け復習歌唱/バランスチェック	ファルセット ミックスヴォイス グラデーション感覚 生声歌唱とマイク歌唱の両立
第4回	Jazz考察 and R&B考察 1	マイクに乗りやすい響きとプレス リズムとグループ
第5回	Jazz考察 and R&B考察 2	マイクテクニックとフレージングテクニック
第6回	歌唱のバランス感覚悩み苦手の解決	バランス感覚と発声スキルのチェック 質問やできない事の改善法をシェア
第7回	発声歌唱前半の質問と応答期末試験の練習	質問やできない事の改善法をシェア 期末試験のリハーサルとアドバイス
第8回	秋学期のまとめと学年末実技試験	1年間のまとめ 期末実技試験と個別アドバイス 卒業後、進級後の方向性につて

学期末試験評価方法

歌う事に対する姿勢 授業に取り組む姿勢(出席状態) 授業の理解度と成長度

発声の定着 歌唱時のポディーバランス 声帯の柔軟さ、表現コントロール

歌唱の総合的レベル(歌唱力)も考慮

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ダンス&パフォーマンス I	演習	実	森結実香

科目概要

メジャーシーンでのバックダンサー、コレオグラファーとしての実務経験に基づき、ステージでかっこよくパフォーマンスが出来るように、基本的なステップや動きを練習します。ストレッチや筋カトレーニング、リズムトレーニングなどパフォーマンスに必要な身体作りやリズムの取り方習得をしていきます。

到達目標

ダンスの基礎、基本的な動きを学び、身体をただ動かすのではなく、しっかり音楽に乗って踊れるようにして行きます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の内容や流れを実際に体を動かしながら説明して行きます。
第2回	ウォーミングアップ	ストレッチや筋カトレーニングなどウォーミングアップの方法を学んで行きます。
第3回	アイソレーション	アイソレーションとは何か、どのように必要なのかを説明し学んで行きます。
第4回	リズムトレーニング	基本的なリズムの取り方を学んで行きます。
第5回	リズムトレーニング応用	基本的なリズムの取り方を学んで行きます。リズムをキープしながらステップが出来るようにして行きます。
第6回	おさらい	ここまでで学んだ身体の使い方、リズムの取り方など試験前の最終確認を行なっていきます。
第7回	テスト	授業で行った範囲内で実技試験を行います。

クォーター末試験評価方法

出席40%、テスト30%、平常点30%とします。授業内で伝えるポイントをしっかり理解し、正しく身体を動かすことが出来ているかを評価します。また、実技試験結果だけではなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ウォーキング	音楽に合わせて魅せる歩き方を学んで行きます。
第2回	ポージング	ポージングをする上でのポイントを学び、ポージングのレパートリーを増やして行きます。
第3回	ターン	ターンの行い方を学びます。
第4回	ターン応用	ターンの行い方を学びます。ステップやウォーキングと組み合わせてターンが出来るようにして行きます。
第5回	振付を覚える	振付を覚えて踊れるようにして行きます。
第6回	振付を正確に踊る	振付をただ覚えるのではなく、より正確に踊れるようにして行きます。
第7回	踊り込み	テスト範囲の振付の注意点を確認し、踊り込みをします。
第8回	テスト	ダンスの実技テストです。1人ずつ行います。

学期末試験評価方法

出席40%、テスト30%、平常点30%とします。振付の正確さ、リズムを正確に取れているか、授業内で伝えるポイントをしっかり理解しているかを評価します。また、実技試験結果だけではなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ダンス&パフォーマンスⅡ	演習	実	森結実香

科目概要

メジャーシーンでのバックダンサー、コレオグラファーとしての実務経験に基づき、春学期で身につけたスキルと体力アップをもとに、振付の難易度も高くなって行きます。ダンスと歌を繋げてイメージした自分により近づけるように表現力を鍛えて行きます。

到達目標

ただ振付を踊るのではなく、ダンスを通してステージ上で自分自身をどう魅せたいのかを考え、表現出来るようにして行きます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の復習	春学期で学んだ事の確認をします。
第2回	アイソレーション応用	細かいニュアンスやリズムを表現出来るように、どのように身体を使うのかを学んで行きます。
第3回	表現方法	感情表現や曲に合った表現が出来るように学んで行きます。
第4回	振付を正確に覚える	長めの振付を決められた時間内でより正確に覚えられるようにして行きます。
第5回	表現方法応用	自分ならどのように表現するかを考え、グループに分かれて見せ合います。
第6回	踊り込み	テスト範囲の振付の注意点を確認し、踊り込みをします。
第7回	テスト	ダンスの実技テストです。1人ずつ行います。

クォーター末試験評価方法

出席40%、テスト30%、平常点30%とします。振付の正確さ、曲に合った表現が出来ているか、授業内で伝えるポイントをしっかり理解しているかを評価します。また、実技試験結果だけではなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自己表現①	自己表現の手段としてのダンスと歌を繋げて行きます。
第2回	自己表現②	ダンスと歌を繋げて行きます。自分のステージ上での姿をイメージし、どうすれば出来るのかを考え表現して行きます。
第3回	自己表現③	ダンスと歌を繋げて行きます。前回考えたイメージを固めて魅せ方を研究して行きます。
第4回	自己表現④	ダンスと歌を繋げて行きます。他の人と表現を見せ合い、お互いの良いところを見つけて情報共有します。
第5回	自分で振付を考える	振付の中のフリーの時間をどのように使うか考えて作って行きます。
第6回	振付の確認	前回の復習をしながら更に振付を進めます。
第7回	踊り込み	テスト範囲の振付の注意点を確認し、踊り込みをします。
第8回	テスト	ダンスの実技テストです。1人ずつ行います。

学期末試験評価方法

出席40%、テスト30%、平常点30%とします。振付の正確さ、自己表現が出来ているか、授業内で伝えるポイントをしっかり理解しているかを評価します。また、実技試験結果だけではなく、出席状況や授業に取り組む姿勢も見て評価します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ダンス&パフォーマンスⅢ	演習	実	青井智佳子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ダンス、大手商業演劇(ミュージカル))、PV、CMなどの出演・振り付け経験など)に基づき、音楽を聴くものだけとしてではなく、パフォーマンスとして「魅せる」事が出来る様に、リズム取り、ポージングから、ウォーキング、ポージングの基礎と初級レベルのダンスを学習してもらいます。

到達目標

ウォーミングアップ、筋トレ、リズム取りなどのメニューの順番と内容と効果を学べるので、自己のコンディション作りの基礎が身に着きます。毎回鏡を見てセルフチェックを続けるので、見栄えのセンスも身に着きます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アップのリズム取り	アップのリズムを取りながらグルーブ感を出す事に必要な基礎を学習します。進行具合を見て振付がスタートします。
第2回	グルーブ感	ジャンル、テンポの違う複数の音楽を使用して、身体の筋肉の使い方の違いを感じて、傾向を掴んでもらいます。
第3回	ダンスの振付	前半は通常のメニューで行い、後半に振付を行います。
第4回	ダンスの振付と固め	既についている振付を何度も踊って体に入れます。
第5回	表現の研究	既に体に入っているであろう振付のポージング部分や、腕の軌道など大きく動かす部分の研究を行います。
第6回	表現の研究と踊りこみ	更に、目線や足の向き、指先の意識など細かい部分をチェックしていきます。
第7回	テスト	リズム取りとダンスの実技のテストです。一人ずつ行います。

クォーター末試験評価方法

振りの正確さと同じ割合で、目線、姿勢、軌道、指先や足の意識の高さを評価していきます。欠席、遅刻、早退は減点対象なので、気を付ける様にして下さい。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダンス	新しい振付をスタートします。
第2回	身体の筋肉の話	必要であれば図を用いて、身体の中の筋肉の位置と特性や役目を学習し、理解を深めます。
第3回	筋肉を意識しながら体を動かす	前回の内容を踏まえた上で、身体を動かしながら自分の筋肉の状態を感じながら踊って行きます。
第4回	ダンスの振付	振付をしっかり覚えてもらいます。
第5回	ダンスの固め	既に体に入っているであろう振付のポージング部分や、腕の軌道など大きく動かす部分の研究を行います。
第6回	表現の話	より細かく、魅せるためのパフォーマンスの組み立て方を探してもらいます。
第7回	ダンスの固め	見栄えにポイントを置いて、魅せ方を更に詰めて行ってもらいます。
第8回	テスト	1人ずつのダンスの実技です。

学期末試験評価方法

振付の正確さと主に、表現力、求心力のあるなしを評価します。引き続き、遅刻、欠席等は減点対象になりますので気を付けてください。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ダンス&パフォーマンスⅣ	演習	実	青井智佳子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ダンス、大手商業演劇(ミュージカル))、PV、CMなどの出演・振り付け経験など)に基づき、音楽を聴くものだけとしてではなく、パフォーマンスとして「魅せる」事が出来る様に、リズム取り、ポージングから、ウォーキング、ポージングの基礎と初中級レベルのダンスを学習してもらいます。

到達目標

ウォーミングアップ、筋トレ、リズム取りなどのメニューの順番と内容と効果に加えて、歌と関連性の深い代表的な筋肉の知識が身に着きます。表現する事の目的を持ち、その手段を習得していきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グルーヴの意識	ジャンルやテンポの異なる音楽を複数持ちいて、乗り方に変化をつけるコツを学びます。
第2回	音楽をよく聴く	単調なリズムの繰り返しで乗るのではなく、ベースとなるリズムに合わせながらアレンジをしていく事を学習します。
第3回	ダンスの振付	フリーで音楽に乗る、踊る事にチャレンジしていきます。
第4回	ダンスの振付と固め	既についている振付を何度も踊って体に入れます。
第5回	表現の研究	既に体に入っているであろう振付のポージング部分や、腕の軌道など大きく動かす部分の研究を行います。
第6回	表現の研究と踊りこみ	更に、目線や足の向き、指先の意識など細かい部分をチェックしていきます。
第7回	テスト	少し長めの振付で一人ずつ踊ってもらい実技にて行います。

クォーター末試験評価方法

振りの正確さと同じ割合で、目線、姿勢、軌道、指先や足の意識の高さを評価していきます。リズムの取り方、ベースとなるリズムをしっかり聞くことが出来ているかも評価に入ります。欠席、遅刻、早退は減点対象なので、気を付ける様にして下さい。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダンス	新しい振付をスタートします。
第2回	身体の筋肉の話(応用)	必要であれば図を用いて、身体の中の筋肉を学習し、理解を深めます。主に柔軟性を高める事にテーマを絞ります。
第3回	体の柔軟性を高める	前回の内容を踏まえた上で、身体を動かしながら自分の筋肉の状態を感じながら踊って行きます。
第4回	ダンスの振付	振付の続きを行います。振り確認は簡単に行いますが、基本各自で忘れないように覚えていた方が良いです。
第5回	ダンスの固め	既に体に入っているであろう振付のポージング部分や、腕の軌道など大きく動かす部分の研究を行います。
第6回	表現の話(流れがある場合)	パフォーマンスにストーリー性を持たせて表現する事を深めていきます。
第7回	ダンスの固め	見栄えにポイントを置いて、魅せ方を更に詰めて行ってもらいます。
第8回	テスト	1人ずつのダンスの実技です。

学期末試験評価方法

振付の正確さと主に、表現力、求心力のあるなしを評価します。引き続き、遅刻、欠席等は減点対象になりますので気を付けてください。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	リリックライティング I	演習	実	越川紀代美

科目概要

この科目は、講師の声楽家、ヴォーカリスト、シンガーソングライターとして、ヨーロッパ、および日本においてのコンサート、ライブ活動、イベントプロデュースの実務体験に基づき、様々な角度から『ことば』にこだわってみることから始めます。ことばの魔力、魅力、威力に感動できたらそこがスタート。イメージを大切に自分の言葉を探し、自分の想いを歌詞にして行きましょう。

到達目標

オリジナル作品制作することを目標にします。制作を試みてみることで、歌うという演奏手段においての「歌詞」の重みを実感することができるでしょう。自分の歌詞に曲を書いてもらうなど、作曲コースのクラスメートとのコラボレーションも体験してみましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業内容、ゴールの説明	各自の作詞体験などを発表。これまで演奏してきた曲、興味のあるアーティスト、作品などについて語り合ってみましょう。
第2回	歌詞への意識	気になる歌詞を拾ってみる！好きなもの、惹かれるもの、苦手なもの、興味のないもの、すべてにサーチライトを当ててみましょう。
第3回	ピックアップ&分析	自分のこだわりを整理してみます。その中から何かが見つかるかもしれません。積極的に音読します。
第4回	日本語ならではの難しさと魅力	日本語のニュアンス、漢字、カタカナ、ひらがな表記による印象の違いなどを確認してみましょう。流し読みをしない癖をつけます。
第5回	偉大なる「作詞家」の作品紹介	作詞家という職業を紐解いてみます。そこから時代のニーズを読み取ってみましょう。
第6回	今一番ときめく歌詞	理想の1曲を探します。こんな歌詞を書いてみたい！という強い思いを持ち、自分の感性を信じて言葉を紡いでみましょう。
第7回	テスト(課題提出)	作品提出。完成させることより「自分の言葉」をどれだけ確認できるかが目標です。

クォーター末試験評価方法

授業出席率、授業態度(積極性、取り組み方)宿題、課題の成果

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	テクニク編 比喩	比喩の色々を学びます。どんなシーンで比喩表現が役立つか、フレーズが豊かになる作品サンプルを探してみましょう。
第2回	テクニク編 倒置法	様々な例を探し、真似、そのテクニクを使うことによるエフェクトを体感してみましょう。
第3回	テクニク編 韻	英語の楽曲にも触れてみます。言葉のリズムや耳障り、感触を楽しむことでそのサウンドを味わってみましょう。
第4回	テクニク編 リフレイン	メロディとの兼ね合いを探ってみましょう。いくつかの楽曲をピックアップして、それをまねてサビの作詞作曲にチャレンジしてみます。
第5回	写真や絵画(静)からのイメージ	何をどう感じるかは自由です。2次元の世界の奥に自分が何を観るかをイメージし、そこから創造していきます。
第6回	映像(動)からのイメージ	映画、アニメ、YOUTUBE、動画をぼんやり見るのではなく、テーマを絞って能動的に鑑賞し、言葉を生み出していきましょう。
第7回	インスト楽曲からのイメージ	歌詞のない曲をじっくり聴いてみます。自分の世界観を言葉につなげていきましょう。
第8回	テスト(課題提出)	曲の構成、サイズ、具体的に曲にのる歌詞に近づけていきましょう。

学期末試験評価方法

授業出席率、授業態度(積極性、取り組み方)宿題、課題の成果

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	リリックライティングⅡ	演習	実	越川紀代美

科目概要

この科目は、講師の声楽家、ヴォーカリスト、シンガーソングライターとして、ヨーロッパ、および日本においてのコンサート、ライブ活動、イベントプロデュースの実務体験に基づいた授業。作品を完成させることも大切ですが、自分の言葉、こだわり、自分らしい感じ方、伝え方を模索する作業は、他人の楽曲をカバーする際の表現力のアップにもつながるので、その喜びを感じましょう。

到達目標

自分だけのストーリーをより多くの人と共有するため、今までに聴いたことのない数々の楽曲と積極的にかかわりましょう。そこから得られるヒントは貴重です。ただ想いをぶつけるだけで書いた自己満足の作品を、最終的には客観視することも目標に置きます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	連想ゲーム～語彙を増やす	様々なシチュエーションの言葉選びを、遊び感覚で試してみます。語彙を増やすことが目的で、対義語、反対語などを駆使してみましょう。
第2回	言葉のリズム	言語のリズム、英語は英語の、日本語は日本語特有の流れがあります。メロディーと一緒に確認してみましょう。
第3回	ジャンルによる違い	言葉の選び方など、ジャンルによってはOKやNGがあるはずです。探ってみましょう。
第4回	スタイルによる違い	言葉の並べ方など、スタイルによってはOKやNGがあるはずです。探ってみましょう。
第5回	シナリオを書いてみる	ストーリーを構築する。時間軸、空間軸、視点を変えて書いてみましょう。
第6回	理想と現実	表現したいこと、実際歌詞にしてみたら結果は？イメージ通りに運ぶでしょうか？
第7回	テスト(課題提出、実演)	作品提出、演奏

クォーター末試験評価方法

授業出席率、授業態度(積極性、取り組み方)宿題、課題の成果

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	時、季節、場所、人物	好奇心をもって、敏感に言葉との接点を感じましょう。自分の感性に響く言葉を使いわけてみましょう。
第2回	感情の吐露	薄っぺらい感情、好き嫌いだけでなく、その背景にあるものを探ってみましょう。心のひだを分析します。
第3回	客観性をもつ	感情に溺れてみたり、それを吐露したりの繰り返しから解放され、少しづつ他者の目線でジャッジしてみましょう。
第4回	誰に伝える？ターゲットを絞る	どんな年齢層のあなたの想いを届けたいか？届きやすいか？など、ターゲットを意識してみましょう。
第5回	時代を読み取る	流行と普遍性、どちらも大切です。音楽のみならず多方面への関心が必要です。
第6回	作品完成への準備	方向性を固めていきましょう。
第7回	作品完成への準備	最終チェック
第8回	実演	完成した作品を演奏してみましょう。

学期末試験評価方法

授業出席率、授業態度(積極性、取り組み方)宿題、課題の成果

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ディクシオン I	演習	実	奥田 祐

科目概要

この授業では、英語詞の分析・歌詞読みなどいろいろな手法を使って、学生ひとりひとりのレパートリーを増やしていきます。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

各セミスター末ごとに、各自で課題曲を選び実習していきます。  
実践的に授業を展開していくクラスですので、積極的な参加が必要です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	1年の授業予定とガイダンス 授業で取り上げる曲を選びます。
第2回	英語の発音	LとR, BとV, FとH, th & sh, ch、
第3回	歌詞と曲の分析	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第4回	課題曲実習1	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第5回	課題曲実習2	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第6回	課題曲実習3	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第7回	課題曲テスト	課題曲の実習テスト

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。  
レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発音実習・課題曲選定	発音実習 各自、課題曲を選びます。
第2回	歌詞と曲の分析1	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第3回	歌詞と曲の分析2	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第4回	課題曲実習1	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第5回	課題曲実習2	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第6回	課題曲実習3	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第7回	課題曲実習4	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第8回	課題曲テスト	課題曲の実習テスト

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。  
レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ディクシオンⅡ	演習	実	奥田 祐

科目概要

この授業では、英語詞の分析・歌詞読みなどいろいろな手法を使って、学生ひとりひとりのレパートリーを増やしていきます。  
尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

各セミスター末ごとに、各自で課題曲を選び実習していきます。  
実践的に授業を展開していくクラスですので、積極的な参加が必要です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発音実習・課題曲選定	発音実習 各自、課題曲を選びます。
第2回	歌詞と曲の分析1	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第3回	歌詞と曲の分析2	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第4回	課題曲実習1	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第5回	課題曲実習2	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第6回	課題曲実習3	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第7回	課題曲テスト	課題曲の実習テスト

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。  
レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発音実習・課題曲選定	発音実習 各自、課題曲を選びます。
第2回	歌詞と曲の分析1	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第3回	歌詞と曲の分析2	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第4回	課題曲実習1	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第5回	課題曲実習2	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第6回	課題曲実習3	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第7回	課題曲実習4	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第8回	課題曲テスト	課題曲の実習テスト

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。  
レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ディクシオンⅢ	演習	実	奥田 祐

科目概要

この授業では、英語詞の分析・歌詞読みなどいろいろな手法を使って、学生ひとりひとりのレパートリーを増やしていきます。Iの内容を踏襲しますが、より深く掘り下げます。尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

各セミスター末ごとに、各自で課題曲を選び実習していきます。実践的に授業を展開していくクラスですので、積極的な参加が必要です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	1年の授業予定とガイダンス 授業で取り上げる曲を選びます。
第2回	英語の発音	LとR, BとV, FとH, th&sh, ch、
第3回	歌詞と曲の分析	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第4回	課題曲実習1	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第5回	課題曲実習2	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第6回	課題曲実習3	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第7回	課題曲テスト	課題曲の実習テスト

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。  
レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発音実習・課題曲選定	発音実習 各自、課題曲を選びます。
第2回	歌詞と曲の分析1	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第3回	歌詞と曲の分析2	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第4回	課題曲実習1	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第5回	課題曲実習2	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第6回	課題曲実習3	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第7回	課題曲実習4	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第8回	課題曲テスト	課題曲の実習テスト

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。  
レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ディクシオンⅣ	演習	実	奥田 祐

科目概要

この授業では、英語詞の分析・歌詞読みなどいろいろな手法を使って、学生ひとりひとりのレパートリーを増やしていきます。Ⅱの内容を踏襲しますが、より深く掘り下げます。尚、講師は多数の演劇作品、映画、演奏会などにおいて作曲家、音楽監督、演奏家としての実務経験を持ちます。

到達目標

各セミスター末ごとに、各自で課題曲を選び実習していきます。実践的に授業を展開していくクラスですので、積極的な参加が必要です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発音実習・課題曲選定	発音実習 各自、課題曲を選びます。
第2回	歌詞と曲の分析1	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第3回	歌詞と曲の分析2	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第4回	課題曲実習1	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第5回	課題曲実習2	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第6回	課題曲実習3	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第7回	課題曲テスト	課題曲の実習テスト

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。  
レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発音実習・課題曲選定	発音実習 各自、課題曲を選びます。
第2回	歌詞と曲の分析1	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第3回	歌詞と曲の分析2	取り上げた曲を分析・解説 歌詞読み
第4回	課題曲実習1	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第5回	課題曲実習2	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第6回	課題曲実習3	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第7回	課題曲実習4	課題曲を実際に歌ってみながら実習していきます。
第8回	課題曲テスト	課題曲の実習テスト

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
試験結果だけではなく、進捗や出席点を重視します。  
レパートリーの幅を広げて行けるように実習していきますので、積極的に取り組んでください。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ヴォーカルアンサンブルゼミ I	演習	実	安村 今日子

科目概要

アカペラやゴスペルクワイア形式等のコーラスアンサンブルを中心に演奏します。  
安定したアンサンブルを目指す為に、ソルフェージュ的要素を重視し、初歩のトレーニングも含め実施していきます。春学期は、リズムを重視させていきます。また、フォーマションミュージカルの理念にのっとり、実作品を用いたトレーニングを行います。  
尚、講師はゴスペル・アカペラ歴20年でホールコンサートからパーティー演奏と幅広く活動しています。

到達目標

基本的訓練をすることで、リズム譜を読む・書くができる。  
メロディーのピッチを良くするだけでなく、耳を養いハーモニーも自在に取ることができる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング①	8beatのリズム、シンコペーション、アフタクト
第2回	リズム② メロディートレーニング①	8beatのリズム、シンコペーション、アフタクト 1オクターブ以内の楽曲を使ってメロディーを歌う、メジャースケール
第3回	リズム③ メロディー② ハーモニートレーニング①	続きおよび第2回で扱った楽曲に簡単なハーモニーをつけてみる。
第4回	リズム④ メロディー③	8beatのリズム、シンコペーション、アフタクト 1オクターブ以内の楽曲を作曲し、メロディーを歌う
第5回	リズム⑤ メロディー④ ハーモニー②	続きおよび第4回で扱った楽曲に簡単なハーモニーをつけてみる。
第6回	リズム⑥ メロディー⑤	8beatのリズム、シンコペーション、アフタクト 1オクターブ以内の楽曲を作曲し、メロディーを歌う
第7回	リズム⑦ メロディー⑥ ハーモニー③	続きおよび第6回で扱った楽曲に簡単なハーモニーをつけてみる。

クォーター末試験評価方法

出席50% 平常点50%  
筆記試験は行わず、1Qの未達点を洗い出し、復習を重ねます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング①	8beatシャッフルのリズム、シンコペーション、アフタクト
第2回	リズム② メロディートレーニング①	8beatシャッフルのリズム、シンコペーション、アフタクト 1オクターブ以内の楽曲を使ってメロディーを歌う
第3回	リズム③ メロディー② ハーモニートレーニング①	続きおよび第2回で扱った楽曲に簡単なハーモニーをつけてみる。
第4回	リズム④ メロディー③	16beatのリズム、シンコペーション、アフタクト 1オクターブ以内の楽曲を作曲しメロディーを歌う
第5回	リズム⑤ メロディー④ ハーモニー②	続きおよび第4回で扱った楽曲に簡単なハーモニーをつけてみる。
第6回	リズム⑥ メロディー⑤	16beatシャッフルのリズム、シンコペーション、アフタクト 1オクターブ以内の楽曲を作曲しメロディーを歌う
第7回	リズム⑦ メロディー⑥ ハーモニー③	続きおよび第6回で扱った楽曲に簡単なハーモニーをつけてみる。
第8回	復習・試験・フィードバック	復習、試験・フィードバック・秋期の課題

学期末試験評価方法

--	--	--

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ヴォーカルアンサンブルゼミⅡ	演習	実	安村 今日子

科目概要

この講義では、アカペラやゴスペルクワイア形式等のコーラスアンサンブルを中心に演奏します。読譜、記譜能力を伸ばすためにソルフェージュを重視し、初歩のトレーニングも含め実施していきます。秋学期では、音程を中心にトレーニングを行います。また、フォーマションミュージカルの理念にのっとり、実作品を用いたトレーニングを行います。春学期の目標到達状況で受講者各々の課題を設定します。尚、講師はゴスペル・アカペラ歴20年でホールコンサートからパーティー演奏と幅広く活動しています。

到達目標

毎回のテーマに沿って一人一人課題を決め、それをクリアできるように努力してください。次第点に達しない場合、課題を出しますので、諦めず次週までにクリアできるようにしてきてください。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2度音程、3度音程のトレーニング	訓練のために作られた曲の他、既存の歌謡曲、ポピュラー曲を使用しながら、確実に身に付けていきます。
第2回	3度音程のトレーニング① ハーモニートレーニング①	ハーモニートレーニングも行い、確実に習得できるようにする
第3回	4度音程のトレーニング① 記譜トレーニング①	聴いて音にする(聴音)ことにより、確実に習得できるようにする
第4回	4度音程のトレーニング② 記譜トレーニング②	聴いて音にする(聴音)ことにより、より確実に習得できるようにする
第5回	5度音程のトレーニング① ハーモニートレーニング②	ハーモニートレーニングも行い、確実に習得できるようにする
第6回	5度音程のトレーニング② ハーモニートレーニング③	ハーモニートレーニングも行い、より確実に習得できるようにする
第7回	実技試験	予見の時間を決めて、新曲視唱を行う 聴音を行う

クォーター末試験評価方法

出席50% 平常点50%

筆記試験は行わず、1Qの未達点を洗い出し、復習を重ねます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムトレーニング①	変拍子のリズムトレーニング
第2回	リズム② メロディトレーニング①	変拍子のリズムトレーニング 音域を限定しない楽曲を使ってメロディーを歌う、特殊なスケール
第3回	リズム③ メロディ② ハーモニートレーニング①	続きおよび第2回で扱った楽曲に簡単なハーモニーをつけてみる。
第4回	リズム④ メロディ③	変拍子のリズムトレーニング 音域を限定しない楽曲を使ってメロディーを歌う、特殊なスケール
第5回	リズム⑤ メロディ④ ハーモニー②	続きおよび第4回で扱った楽曲に簡単なハーモニーをつけてみる。
第6回	リズム⑥ メロディ⑤	変拍子のリズムトレーニング 音域を限定しない楽曲を使ってメロディーを歌う、特殊なスケール
第7回	リズム⑦ メロディ⑥ ハーモニー③	続きおよび第6回で扱った楽曲に簡単なハーモニーをつけてみる。 第4-7回で作った曲を1曲にまとめ、展開のある楽曲を作る
第8回	復習	第7回で作った曲を演奏、フィードバック、復習

学期末試験評価方法

--	--

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ステージパフォーマンスⅠ	演習	実	青井智佳子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ダンス、大手商業演劇(ミュージカル))、PV、CMなどの出演・振り付け経験など)に基づき、音楽を聴くものだけでなく、パフォーマンスとして「魅せる」事が出来る様に、リズム取り、ポージングから、ウォーキング、ポージングの基礎と初級レベルのダンスを学習してもらいます。

到達目標

ウォーミングアップ、筋トレ、リズム取りなどのメニューの順番と内容と効果を学べるので、自己のコンディション作りの基礎が身に着きます。毎回鏡を見てセルフチェックを続けるので、見栄えのセンスも身に着きます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アップのリズム取り	アップのリズムを取りながらグルーブ感を出す事に必要な基礎を学習します。進行具合を見て振付がスタートします。
第2回	グルーブ感	ジャンル、テンポの違う複数の音楽を使用して、身体の筋肉の使い方の違いを感じて、傾向を掴んでもらいます。
第3回	ダンスの振付	前半は通常のメニューで行い、後半に振付を行います。
第4回	ダンスの振付と固め	既についている振付を何度も踊って体に入れます。
第5回	表現の研究	既に体に入っているであろう振付のポージング部分や、腕の軌道など大きく動かす部分の研究を行います。
第6回	表現の研究と踊りこみ	更に、目線や足の向き、指先の意識など細かい部分をチェックしていきます。
第7回	テスト	リズム取りとダンスの実技のテストです。一人ずつ行います。

クォーター末試験評価方法

振りの正確さと同じ割合で、目線、姿勢、軌道、指先や足の意識の高さを評価していきます。欠席、遅刻、早退は減点対象なので、気を付ける様にして下さい。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダンス	新しい振付をスタートします。
第2回	身体の筋肉の話	必要であれば図を用いて、身体の中の筋肉の位置と特性や役目を学習し、理解を深めます。
第3回	筋肉を意識しながら体を動かす	前回の内容を踏まえた上で、身体を動かしながら自分の筋肉の状態を感じながら踊って行きます。
第4回	ダンスの振付	振付をしっかりと覚えてもらいます。
第5回	ダンスの固め	既に体に入っているであろう振付のポージング部分や、腕の軌道など大きく動かす部分の研究を行います。
第6回	表現の話	より細かく、魅せるためのパフォーマンスの組み立て方を探してもらいます。
第7回	ダンスの固め	見栄えにポイントを置いて、魅せ方を更に詰めて行ってもらいます。
第8回	テスト	1人ずつのダンスの実技です。

学期末試験評価方法

振付の正確さと主に、表現力、求心力のあるなしを評価します。引き続き、遅刻、欠席等は減点対象になりますので気を付けてください。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ステージパフォーマンスⅡ	演習	実	青井智佳子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ダンス、大手商業演劇(ミュージカル))、PV、CMなどの出演・振り付け経験など)に基づき、音楽を聴くものだけとしてではなく、パフォーマンスとして「魅せる」事が出来る様に、リズム取り、ポージングから、ウォーキング、ポージングの基礎と初中級レベルのダンスを学習してもらいます。

到達目標

ウォーミングアップ、筋トレ、リズム取りなどのメニューの順番と内容と効果に加えて、歌と関連性の深い代表的な筋肉の知識が身に着きます。表現する事の目的を持ち、その手段を習得していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グルーヴの意識	ジャンルやテンポの異なる音楽を複数持ちいて、乗り方に変化をつけるコツを学びます。
第2回	音楽をよく聴く	単調なリズムの繰り返しで乗るのではなく、ベースとなるリズムに合わせながらアレンジをしていく事を学習します。
第3回	ダンスの振付	フリーで音楽に乗る、踊る事にチャレンジしていきます。
第4回	ダンスの振付と固め	既についている振付を何度も踊って体に入れます。
第5回	表現の研究	既に体に入っているであろう振付のポージング部分や、腕の軌道など大きく動かす部分の研究を行います。
第6回	表現の研究と踊りこみ	更に、目線や足の向き、指先の意識など細かい部分をチェックしていきます。
第7回	テスト	少し長めの振付で一人ずつ踊ってもらい実技にて行います。

クォーター末試験評価方法

振りの正確さと同じ割合で、目線、姿勢、軌道、指先や足の意識の高さを評価していきます。リズムの取り方、ベースとなるリズムをしっかり聞くことが出来ているかも評価に入ります。欠席、遅刻、早退は減点対象なので、気を付ける様にして下さい。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダンス	新しい振付をスタートします。
第2回	身体の筋肉の話(応用)	必要であれば図を用いて、身体の中の筋肉を学習し、理解を深めます。主に柔軟性を高める事にテーマを絞ります。
第3回	体の柔軟性を高める	前回の内容を踏まえた上で、身体を動かしながら自分の筋肉の状態を感じながら踊って行きます。
第4回	ダンスの振付	振付の続きを行います。振り確認は簡単に行いますが、基本各自で忘れないように覚えていた方が良いです。
第5回	ダンスの固め	既に体に入っているであろう振付のポージング部分や、腕の軌道など大きく動かす部分の研究を行います。
第6回	表現の話(流れがある場合)	パフォーマンスにストーリー性を持たせて表現する事を深めていきます。
第7回	ダンスの固め	見栄えにポイントを置いて、魅せ方を更に詰めて行ってもらいます。
第8回	テスト	1人ずつのダンスの実技です。

学期末試験評価方法

振付の正確さと主に、表現力、求心力のあるなしを評価します。引き続き、遅刻、欠席等は減点対象になりますので気を付けてください。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	DTM実践 I	演習	実	滝口北斗

科目概要

現在の音楽制作の現場において欠かす事の出来ないコンピュータを用いた楽曲(トラック)の制作についてを学習します。春学期では、自身では演奏できない楽器をMIDIデータ化する基本的手法を学び、オリジナル楽曲のクオリティアップに繋がられるスキルを身につけます。尚、講師の実務経験としては、DTM/DAWを用いた楽曲制作(作曲、アレンジメント及びレコーディング)を軸に、アーティストへのトラック提供やサウンドプロデュース、配信レーベルの主宰・運営などを持ちます。

到達目標

コンピュータ操作方法の基本を理解。  
DTM/DAWのシステムにおける基本的なオペレーションとMIDIについての基本概念の理解。  
楽器演奏をMIDIデータ化する際の基本的な入力方法と共に、様々な楽器の音色や奏法の理解。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	PCを用いた音楽制作の現状について	デモンストレーション作品の試聴を通じて、DTM/DAWで出来る事を知る。
第2回	PCの基本操作①	演習で使用する環境(システム)と基本設定を理解する。
第3回	PCの基本操作②	データの管理方法とウィンドウ、キーボードショートカットの使い方を理解する。
第4回	Cubaseについて①	実習で使うDTM/DAWソフトウェアの起動から、データの展開とバックアップ方法、作業の終了までの手順を理解する。
第5回	Cubaseについて②	VSTインストゥルメントの使い方(音色の選択と鳴らし方)を理解する。
第6回	Cubaseについて③	様々なウィンドウについて、設定と使い方を理解する。
第7回	テンプレートの作成	自分の楽曲制作に必要な楽器(音色)でテンプレートを作成する。

クォーター末試験評価方法

テンプレートデータの提出により、ソフトウェアの基本理解度を見ます。  
積極性を重視し、授業内での質問や解説に対する反応など、個々の向き合う姿勢も見ます。  
試験:40%  
出席・平常点:60%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDIデータの入力方法	ステップインプットの方法及び音符の長さの関係を理解する。
第2回	ドラムとパーカッション	楽器の構成と奏法を理解し、ステップインプットを用いデータを入力する。
第3回	ピアノとコードトラック	ピアノの音色でコードを入力する。コードトラックの使い方。
第4回	ベース	楽曲内におけるベースの役割、奏法、音色を理解する。
第5回	ギター	ギターの奏法、音色とMIDIデータにする方法を理解する。
第6回	ストリングスと音域	音色と音域を理解する。
第7回	ヒューマナイズ	ベロシティ、デュレーション、特殊な奏法をデータ化する方法について。
第8回	データの作成	1～7回までの学習内容をデータに反映させる。

学期末試験評価方法

各自作成のデータ提出により、データ入力方法の理解度を見ます。  
決められた方法を守っているか、作成されたデータが雑になっていないかなども見ます。  
試験:40%  
出席・平常点:60%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	DTM実践Ⅱ	演習	実	滝口北斗

科目概要

DTM/DAWソフトウェアを用いた制作手法を学習、後期はオリジナル作品のデータ制作を行います。完成形のイメージを伝えやすくするトラック制作の方法や簡単なオーディオレコーディング、ミックスなどにも触れ、楽曲制作現場の流れを体感し作品に反映出来るようにして行きます。尚、講師の実務経験としては、DTM/DAWを用いた楽曲制作を軸に、アーティストへのトラック提供やサウンドプロデュース、配信レーベルの主宰・運営などをもちます。

到達目標

自身が描く完成形に近いデータとして、楽曲の方向性に見合う音色のチョイスやフレーズの構築などが出来るようになることを目指します。  
他者に演奏やアレンジを依頼することを想定した、データに合わせた構成譜の作成もします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲構成譜などの準備	楽曲の基本構成(コードとメロディー)譜などを用意する。
第2回	着地点の決定とリファレンス楽曲の探索	着地点をイメージし、そのイメージに近い参考楽曲があれば、聴いて構成のヒントを得る。
第3回	テンプレートの作成	描いたイメージで使うであろう音色とトラックを作成する。
第4回	ベーシックパートの入力①	ベーシックコード、ガイドメロディの入力。
第5回	ベーシックパートの入力②	ガイドリズムの作成とガイドリズムの重要性について。
第6回	楽曲構成の再構築	作成したベーシックデータを基に、楽曲の構成を再考する。
第7回	データの入力①	確定した構成にデータを入力する。

クォーター末試験評価方法

提出されたデータと制作プロセス、ペースなどを合わせて評価・アドバイスをします。探究心や積極性など、制作と向き合う姿勢も評価します。

試験:40%

平常点・出席:60%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	データの入力②	GrooveAgentを用いたドラムパートの構築。
第2回	オーディオミックスダウン	MIDIデータをオーディオファイルに変換する方法とそのメリット/デメリットを理解する。
第3回	仮歌のレコーディング	作成過程の楽曲に仮歌を取り込む。
第4回	データのブラッシュアップ①	ベロシティやデュレーション、音域などのノードデータにおけるエディットと必要性を理解する。
第5回	データのブラッシュアップ②	エフェクトを用いた音色の加工。
第6回	ラフミックス	完成形のイメージを見えやすくするバランスの重要性を理解する。
第7回	トリートメント	編集ポイントの修正。
第8回	ミックスとトラックダウン	基本的なエフェクトの使い方と最終形の書き出し。

学期末試験評価方法

完成した作品の提出から。楽曲の完成度、DAWの活用度などを評価します。アレンジャーとしての観点から個々の作品へのアドバイスもします。

試験:50%

平常点・出席:50%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	伴奏法 I	演習	実	高島みほ

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ジャズヴォーカリストとして多数のライブ活動、アルバムリリースなど)に基づき、ピアノ弾き語りの基礎から学んでいきます。ピアノ初心者には難しく感じるかもしれませんが、パターンを覚えると、あとは、その応用だけです。基礎練習とレベルを合わせた応用をしていきます。うまくなるコツはとにかくたくさん曲を弾いてみることにし、歌の伴奏を試みる事です。自分のレベルに合わせて目標を決めましょう。

到達目標

音楽の基礎であるセオリーを頭に入れた上でコードの成り立ちを理解します。初心者～経験者までレベルはさまざまですが、基礎をしっかりと固める事で、のちの応用がきくようになります。一人ずつチェックし、セオリーとコードを理解するのが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	弾き語りの基礎となる音楽のセオリーを確認	実際にピアノに触れ、音を目で確かめ、基礎となるセオリーを確認します。一人ずつチェックします。
第2回	基本形と転回形の違いを実際に弾いてみる	弾き語り、伴奏に必要なコードの転回形を練習し、4つのコードを転回形で演奏してみます。
第3回	歌の伴奏にチャレンジしてみて、さらに転回形も使う	誰かに歌ってもらい、転回形でピアノを弾いて場脳をします。簡単な曲で確認し、一人ずつ発表します。
第4回	ベースラインを工夫してビートを刻んでみよう	ベースラインの動かし方とそれに合わせた右手の動かし方を練習します。ビート感を出して一人ずつ発表します。
第5回	アルペジオにチャレンジし、曲を豊かにしよう	アルペジオの基礎の手の動かし方を練習し、応用パターンにつなげます。曲がよりゆたかになっていくのを感じましょう。
第6回	試験曲の練習と中間発表で自分の課題を確認しよう	1クォーターの復習を兼ねて、転回形、アルペジオ、ベースラインの工夫を全て盛り込んだ演奏練習をします。
第7回	6回目の練習の成果を発表し、これからの課題を考えよう	課題曲のピアノの弾き語りを行います。一人ずつ前に出て発表し、本番の緊張感も感じましょう。

クォーター末試験評価方法

1クォーターで基礎となるものを全て学んできました。授業で学んだセオリー、コードの基本形、転回形、ベースライン、アルペジオなどを理解し、課題曲に取り入れる事が出来ていたかを見ます。個人差はありますが、しっかり練習をしたかが大事です。試験30%出席・授業態度70%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ファルインとは何か、ファルインが入る事で曲にどう変化があるか	ファルインを説明後、実際に曲を聞き理解します。ファルインを入れる場所を学び、何パターンか作ってみましょう。
第2回	メジャーキーでの伴奏と、移調の練習	メジャーキーの循環コードでの伴奏と移調の練習をし、エニキーを目指しいろんなキーで伴奏にチャレンジしましょう。
第3回	マイナーキーでの伴奏と、移調の練習	メジャーとマイナーの伴奏の違いを感じ、五線紙に必ず書いて移調していきましょう。
第4回	原曲から移調し、自分であったキーで演奏しよう	課題曲の自分のキーにし、まず譜面づくりをします。出来たら練習開始し、一人ずつチェックしていきます。
第5回	オンコードのしくみ、良さを知り曲に深みをもたせてみよう	オンコードのしくみをまず理解し、譜面を読めるようになったら実際の曲で練習してみましょう。
第6回	テンションコードの良さ、カッコよさを知り、曲をより豊かにしていこう	弾き語りで使うコードに色どりを加えていきます。Add9,sus4,dim,フラット,シャープ5th,9thの練習をします。
第7回	課題曲の練習を開始し、工夫するところを決めて中間発表をしてみよう	2クォーターの復習をしながら、一人ずつ中間発表します。グランドピアノで弾いてみて音の厚みを感じてみましょう。
第8回	7回目の練習をいかし、2クォーターのまとめとして演奏してみよう	2クォーターでは色々なテクニックを学びました。練習の成果を出し、みんなの前で堂々と発表しましょう。

学期末試験評価方法

授業で学んだ内容を理解し、課題取り入れる事が出来ているか、ファルイン・7th・9th・Add9,sus4,dim,を全て理解しているかを見ます。簡単ではありませんが、熱心に取り組めば取り組むほどに上達します。弾けるようになると自分で音楽を作り出す感覚がついていきます。試験30%出席・授業態度70%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	伴奏法Ⅱ	演習	実	高島みほ

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ジャズヴォーカリストとして多数のライブ活動、アルバムリリースなど)に基づき、ピアノ弾き語りの基礎を復習しつつ、さらに内容を深く身につけていきます。第3クォーターは自由曲を決めて、一曲をきちんと弾き語りできるように各自仕上げていきます。第4クォーターは元の曲からのアレンジの歌と伴奏を交互に担当し人の歌を聴きながら伴奏もチャレンジしていきます。

到達目標

難しいことにチャレンジし、出来た時の喜びや音色の美しさを実感しましょう。練習段階では楽しいものではないかもしれませんが、目標を高く持ち、日々ピアノに向き合えると確実に力がついてきます。個人個人目標を決め、そこにたどり着けるようになりましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自分の音域を理解し、キーの認識を高める	各自、音域確認をし自分に合ったキーをみつけ、移調し決めた曲で歌う。また譜面も合わせて作ります。
第2回	自分が日頃歌ってるキーが合っているのかをもう一度確認しよう	自由に曲を持ちより、選曲したら、いろんなキーで歌ってみましょう。ピアノを弾きながら歌うと、また自分のに合うキーが違ってきます。
第3回	コード譜を書き、伴奏者に理解してもらおう	伴奏者に渡す譜面をしっかりと書けるようになるためのトレーニングをします。リピートや調合、強弱に落ち度がないように。
第4回	ピアノ弾き語りの際、強弱のポイントを決めて演奏しよう	p.f・クレッシェンド・デクレッシェンドをつけ、曲にストーリーを持たせ演奏してみよう。必ず譜面にそれぞれ書き込みましょう。
第5回	ダイナミクスをつけて、曲を作り豊かに美しくしていこう	4回目で行った強弱・クレッシェンド・デクレッシェンドを、さらに繊細にしていく作業を行い、一人ずつ発表します。
第6回	自由曲を決め、中間発表し、アドバイスを聞こう	ダイナミクスを付けた演奏を一人ずつ発表し、聞いている人からアドバイスをもらい、次回のテストの参考にしましょう。
第7回	3クォーターのまとめです、いろんな表現をつけて発表しましょう	自由曲にダイナミクスを付け、ピアノを弾き、歌います。一人ずつ前に出て発表し、練習の成果を出しましょう。

クォーター末試験評価方法

歌とピアノのダイナミクスがバラバラにならないように注意しましょう。授業で学んだ内容を理解し、曲に取り入れることができているか、自分で曲全体の構成を考え、まとめられているかどうかを見ます。ピアノは日頃の練習が大切です。授業の時だけの練習にならないようにしましょう。試験50%出席50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	選曲した曲に移調し、ピアノ弾き語り用にアレンジしよう	コードにテンションを付け、繊細さを持たせ、ダイナミクスを譜面に書き込み、さらに自分のキーに移調して演奏しましょう。
第2回	二人組で歌の伴奏をし合い、歌う方が譜面を書こう	曲のイメージをピアノで表現してみましょう。また歌う人が書いた譜面が見やすいか、さらにちゃんと演奏できるかを確認しましょう。
第3回	二人組の相手を変えて歌の伴奏をし合い譜面のチェックをしよう	歌う方がどういう表現をしたのかを確実に伴奏者に伝える必要があります。譜面もしっかり書けるようにしましょう。
第4回	もう一度相手を変えて歌の伴奏をし合い譜面のチェックをしよう	歌い方の意図をくみ取り譜面の作成をします。またイントロとエンディングを作って作品にしましょう。
第5回	三拍子系の刻み方とその工夫をし練習しよう	まず三拍子系の曲を聞き、アクセントやフィルがどこに入っているかを把握し、実際に練習してみましょう。
第6回	ビートの違いをピアノで表現しテクニックを身につけよう	4ビート・8ビート・16ビート・スウィングの違いを感じ、それに合ったピアノを弾けるように練習しましょう。
第7回	わからないところがない様に、この時間で解決させよう	コード・テンション・ダイナミクス・ビートに弾き方、また譜面を書く上での不明な点を全てクリアにしましょう。
第8回	課題曲を決め、一人ずつ発表しよう	表現したいことをはっきりさせた上で一人ずつ前に出て発表しましょう。

学期末試験評価方法

1年を通して勉強してきたことを全てふまえ、発表出来ていたかを見ます。基本形・転回形・7th・難しいアイションコード・オンコード・ダイナミクス・イントロ・フィルイン・エンディング・ビート感を出し、しっかりと「作品」に仕上がっているか、またたくさん練習したかを見ます。試験40%出席60%

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	レパートリ(JAZZ) I Ⅲ	演習	実	藤本暁子

科目概要

スタンダード曲を聴き、歌って自分の中に「ジャズ」というジャンルの引き出しをひとつ増やしてください。そして時代と共に曲調が変わっていく様、歌手によって歌い方が違う、などの知識を養っていけるように進めていきます。まずは、たくさんの「スタンダード曲」と「ジャズヴォーカリスト」を知りましょう。そして歌えるようにしましょう。この科目では、講師の実務経験(プレイヤー、コンポーザー、アレンジャー、)の経験に基づき、実践しながら学んでいきます。

到達目標

試験はピアノトリオと一緒に演奏します。フロントに立つヴォーカリストとして、授業で得た知識を生かし、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	L-O-V-E	ジャズの歴史や特徴、Nat King Cole について学習
第2回	Fly me to the moon	Frank Sinatra について学習
第3回	All of me	Billie Holiday について学習
第4回	How high the moon	Ella Fitzgerald について学習
第5回	まとめ	このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
第6回	試験	このクォーターで学習した4曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
第7回	総括	試験の映像を見て、反省すると共に、2Qに向けての目標を設定する。

クォーター末試験評価方法

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Take the "A" train	Big band & Duke Ellington について学習
第2回	Summertime	Gerge Gershwin について学習
第3回	Night and Day	Cole Porter について学習
第4回	Lullaby Of Birdland	Sarah Vaughan について学習
第5回	Autumn Leaves	ジャズとシャンソンについて学習
第6回	まとめ	このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
第7回	試験	このクォーターで学習した5曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
第8回	総括	試験の映像を見て、反省すると共に、3Qに向けての目標を設定する。

学期末試験評価方法

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	レパートリ(JAZZ)ⅡⅣ	演習	実	藤本暁子

科目概要

I.Ⅱクォーターで学んだスタンダード曲にプラスして、いろいろなリズムのフィールにもチャレンジしていきます。ここでも、まず「アーティスト」と「曲」をたくさん知りましょう。知った上で自分のレパートリーに反映できると良いと思います。この科目では、講師の実務経験(プレイヤー、コンポーザー、アレンジャー、)の経験に基づき、実践しながら学んでいきます。

到達目標

春学期同様、試験はピアノトリオと一緒に演奏します。フロントに立つヴォーカリストとして、授業で得た知識を生かし、しっかりパフォーマンスできているかどうか。春学期よりもより濃い内容のパフォーマンスができているかどうか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Route 66	Blues について学習
第2回	Georgia on my mind	Ray Charles について学習
第3回	On the sunny side of the Street	On The Sunny Side Of The Streetの歌詞について学習
第4回	Só Danço Samba	Samba & Antonio Carlos Jobin について学習
第5回	まとめ	このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
第6回	試験	このクォーターで学習した4曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
第7回	総括	試験の映像を見て、反省すると共に、4Qに向けての目標を設定する。

クォーター末試験評価方法

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	My favorite things	The sound of music について学習
第2回	The girl from Ipanema	Bossa Nova / João Gilbertoについて学習
第3回	You'd be so nice to come home to	Helen Merrill について学習
第4回	My funny valentine	Anita O'day について学習
第5回	What a wonderful world	Louis Armstrong について学習
第6回	まとめ	このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
第7回	試験	このクォーターで学習した5曲をPiano, Bass, Drumのピアノトリオとともに、パフォーマンスする。(録画します。)
第8回	総括	試験の映像を見て、反省すると共に、1年間学習したことを振り返る。

学期末試験評価方法

ジャズスタンダード曲はとても大切です。ヴォーカリストとして活動していく上で、大いに役立ちます。授業で触れた曲は覚えるようにしましょう。それと出席は基本です。必ず授業に遅刻しないで出席するようにしましょう。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	レパートリー(R&B) I III	演習	実	福富英明

科目概要

R&B、JAZZのフィーリングを代表的なシンガーの歌を徹底的に聞いて歌うことによって体感します。グルーブ、声の質感、声量にこだわっていきます。授業開始後ストレッチ、ウォーミングアップをしますが、その段階でヴォーカルエクササイズを加えていきます。キーを捕まえて声を出す等、楽しんでやっていきましょう。尚、講師はライブでR&B、JAZZを歌っておりシンガーとして実務経験を持っております。

到達目標

R&B JAZZを丁寧に聞き、歌うことによって歌唱技術やグルーブを身に着けることを目標にします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	とにかく楽しもう！	AIN'T NO MOUNTAIN HIGH ENOUGH.(MARVIN GAYE&TAMMY TERREL)1コーラス歌唱
第2回	とにかく楽しもう！	AIN'T NO MOUNTAIN HIGH ENOUGH.(MARVIN GAYE&TAMMY TERREL)2コーラス歌唱
第3回	とにかく楽しもう！	AIN'T NO MOUNTAIN HIGH ENOUGH.(MARVIN GAYE&TAMMY TERREL)フルコーラス歌唱
第4回	とにかく楽しもう！	AIN'T NO MOUNTAIN HIGH ENOUGH.(MARVIN GAYE&TAMMY TERREL)フルコーラス歌唱
第5回	とにかく楽しもう！	IT DON'T MEAN A THING歌唱
第6回	とにかく楽しもう！	IT DON'T MEAN A THING歌唱
第7回	テスト	AIN'T NO MOUNTAIN HIGH ENOUGH.(MARVIN GAYE&TAMMY TERREL)フルコーラス歌唱

クォーター末試験評価方法

出席30%授業態度40%テスト30% 出席、授業態度を重視します。遅刻も大きく減点します。テストにおいては歌詞を覚えてからでないと歌にならないので、まず歌詞を覚える、そしてしっかり声を出してうたうことを重視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	深い響きで歌おう！	ORDINARY PEOPLE(JOHN LEGEND)1コーラス歌唱
第2回	深い響きで歌おう！	ORDINARY PEOPLE(JOHN LEGEND)2コーラス歌唱
第3回	深い響きで歌おう！	ORDINARY PEOPLE(JOHN LEGEND)フルコーラス歌唱
第4回	深い響きで歌おう！	ORDINARY PEOPLE(JOHN LEGEND)フルコーラス歌唱
第5回	深い響きで歌おう！	ORDINARY PEOPLE(JOHN LEGEND)フルコーラス歌唱
第6回	深い響きで歌おう！	LULLABY OF BIRDLAND(SARAH VAUGHN)歌唱
第7回	深い響きで歌おう！	LULLABY OF BIRDLAND(SARAH VAUGHN)歌唱
第8回	テスト	ORDINARY PEOPLE(JOHN LEGEND)フルコーラス歌唱

学期末試験評価方法

出席30%授業態度40%テスト30% 出席、授業態度を重視します。遅刻も大きく減点します。テストにおいては歌詞を覚えてからでないと歌にならないので、まず歌詞を覚える、そしてしっかり声を出してうたうことを重視します。フェイクも入れられるとより評価します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	レパートリー(R&B)ⅡⅣ	演習	実	福富英明

科目概要

引き続きしっかり聞いて、耳でコピーしながら歌っていきます。よりリズム、音程、声量、質感を感じるままにコントロールして歌えるように指導していきます。自由な歌、開放感、昂揚感にあふれた歌唱を目指します。授業開始後のウォーミングアップから目的を持って臨みましょう。「私が歌えば空気が変わる。」くらいの意気込みを期待しています。尚、講師はライブでR&B,JAZZを歌っておりシンガーとして実務経験を持っております。

到達目標

より細かいところまで聞き取れる耳を養い、歌を自由に歌えるようになることを目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	マイケル・ジャクソン！！	ROCK WITH YOU1コーラス歌唱
第2回	マイケル・ジャクソン！！	ROCK WITH YOU2コーラス歌唱
第3回	マイケル・ジャクソン！！	ROCK WITH YOUフルコーラス歌唱
第4回	マイケル・ジャクソン！！	ROCK WITH YOUフルコーラス歌唱
第5回	サマータイム	サマータイム歌唱
第6回	サマータイム	サマータイム歌唱
第7回	テスト	ROCK WITH YOUフルコーラス歌唱

クォーター末試験評価方法

出席30%授業態度40%テスト30% 出席、授業態度を重視します。遅刻も大きく減点します。テストにおいては歌詞を覚えてからでないと歌にならないので、まず歌詞を覚える、そしてしっかり声を出してうたうことを重視します。今回は特にリズム、グルーブが気持ちよく決まれば評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	デュエットで盛り上がり！	YOU ARE MY HEAVEN(DONNY HATHAWAY AND ROBERTA FLACK) 1コーラス歌唱
第2回	デュエットで盛り上がり！	YOU ARE MY HEAVEN(DONNY HATHAWAY AND ROBERTA FLACK) 2コーラス歌唱
第3回	デュエットで盛り上がり！	YOU ARE MY HEAVEN(DONNY HATHAWAY AND ROBERTA FLACK))フルコーラス歌唱
第4回	デュエットで盛り上がり！	YOU ARE MY HEAVEN(DONNY HATHAWAY AND ROBERTA FLACK))フルコーラス歌唱
第5回	デュエットで盛り上がり！	MY FUNNY VALENTINE歌唱
第6回	スキヤットに挑戦！	MY FUNNY VALENTINE歌唱
第7回	スキヤットに挑戦！	MY FUNNY VALENTINE歌唱
第8回	テスト	YOU ARE MY HEAVEN(DONNY HATHAWAY AND ROBERTA FLACK))フルコーラス歌唱

学期末試験評価方法

出席30%授業態度40%テスト30% 出席、授業態度を重視します。遅刻も大きく減点します。テストにおいては歌詞を覚えてからでないと歌にならないので、まず歌詞を覚える、そしてしっかり声を出してうたうことを重視します。最後のテストです。一年間学んだ成果を発揮してください。R&B,SOULの楽しさ、奥深さを感じ取って歌えたら評価します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	レパトリー(ROCK&POPS) I Ⅲ	演習	実	桑村達人

科目概要

ポピュラー音楽の歴史を作り、動かした名曲を通してロック、ポップスの有名アーティストをピックアップ、その歌のマジックを体感します。尚、講師はメジャーシーンに於ける歌唱、演奏の実務経験をもちます。

到達目標

楽曲のテイストを自分なりに表現出来るようになること。歌詞の内容を理解した上で、気持ちを込めてパフォーマンス出来るようになること。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グループとコールアンドレスポンス	WHAT'S GOING ON/MARVIN GAYE 歌唱
第2回	グループとコールアンドレスポンス	WHAT'S GOING ON/MARVIN GAYE 歌唱
第3回	80's GIRL POP	TIME AFTER TIME/SYNDI LAUPER 歌唱
第4回	80's GIRL POP	TIME AFTER TIME/SYNDI LAUPER 歌唱
第5回	ROOTS OF DUET	ALL I HAVE TO DO IS DREAM/THE EVERLY BROTHERS歌唱
第6回	ROOTS OF DUET	ALL I HAVE TO DO IS DREAM/THE EVERLY BROTHERS歌唱
第7回	テスト	1Qで歌った曲より任意でピックアップし、歌唱

クォーター末試験評価方法

出席状況、授業態度、パフォーマンスの出来

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	王道LOVE SONG	CAN'T TAKE MY EYES OFF YOU/FRANKIE VALLI 歌唱
第2回	王道LOVE SONG	CAN'T TAKE MY EYES OFF YOU/FRANKIE VALLI 歌唱
第3回	PERFECT ANGEL	LOVING YOU/MINNIE RIPERTON 歌唱
第4回	PERFECT ANGEL	LOVING YOU/MINNIE RIPERTON 歌唱
第5回	3声コーラス	NOWHERE MAN/THE BEATLES 歌唱
第6回	3声コーラス	NOWHERE MAN/THE BEATLES 歌唱
第7回	2Q曲再確認	2Qで歌った曲をおさらい
第8回	テスト	2Qで歌った曲より任意でピックアップし、歌唱

学期末試験評価方法

出席状況、授業態度、パフォーマンスの出来

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	レパートリー(ROCK&POPS)ⅡⅣ	演習	実	桑村達人

科目概要

多くの人に愛される「歌」に触れることが必ずや自分の活動のヒント、刺激になるはずです。まっさらな心で、普段聞かない音楽にも触れ、吸収してください。尚、担当講師はメジャーシーンに於ける歌唱、演奏の実務経験を持ちます。

到達目標

有名曲にアプローチすることによって自分の独自性を見つけること。コーラスの楽しさも実感出来るようになること。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ROOTS OF CHARISMA	LIGHT MY FIRE/THE DOORS 歌唱
第2回	ROOTS OF CHARISMA	LIGHT MY FIRE/THE DOORS 歌唱
第3回	21CENTURY DIVA	BACK TO BLACK/AMY WINEHOUSE 歌唱
第4回	21CENTURY DIVA	BACK TO BLACK/AMY WINEHOUSE 歌唱
第5回	混成コーラス	CALIFORNIA DREAMIN' /THE MAMAS&PAPAS 歌唱
第6回	混成コーラス	CALIFORNIA DREAMIN' /THE MAMAS&PAPAS 歌唱
第7回	テスト	3Qで歌った曲より任意でピックアップし歌唱

クォーター末試験評価方法

出席状況、授業態度、取り組み

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	王道デュエット	ALWAYS/ATLANTIC STAR 歌唱
第2回	王道デュエット	ALWAYS/ATLANTIC STAR 歌唱
第3回	バカラック	WHAT THE WORLD NEEDS NOW/JACKIE DESHANNON 歌唱
第4回	バカラック	WHAT THE WORLD NEEDS NOW/JACKIE DESHANNON 歌唱
第5回	ゴスペルテイストの3声ハーモニー	PEOPLE GET READY/THE IMPRESSIONS 歌唱
第6回	ゴスペルテイストの3声ハーモニー	PEOPLE GET READY/THE IMPRESSIONS 歌唱
第7回	4Q曲再確認	4Qで歌った曲をおさらい
第8回	テスト	4Qで歌った曲より任意でピックアップし歌唱

学期末試験評価方法

出席状況、授業態度、パフォーマンスの出来

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	レパートリー(ミュージカル)I	演習	実	岡崎亮子

科目概要

ミュージカルは歌うことの楽しさ、踊ることの快感など、多くの喜びを感じ、人々に寄り添う人間的な芸術です。春学期では、自然な発声、鮮明な言葉、歌唱力をアップさせるためのテクニック、これら全て舞台に立つために、必要な実践力が身に付く様に指導します。東宝、宝塚歌劇団、音楽事務所、劇団、声優学校など、ボイストレーナーとして、数多くの作品の指導の実務経験と出演経験を持ちます。

到達目標

ミュージカルは特別なものではなく、想像力や洞察力、色々貪欲に知識を吸収する事が、声の表現や、内容の表現につながって行くので、春学期は、歌うと言う事や、表現する事に臆病にならず、一生懸命努力をし、楽しんで新しい可能性を見出してください。大変嬉しいです。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	はじめに「ミュージカルとは」～	日常生活での、自分の体を思い出してもらい、笑う、泣く、あくびなどを実践して、身体で感じてもらいます。
第2回	歌に必要な身体基礎訓練を学びます	表情筋、滑舌、腹筋、背筋など、身体の意識を高め、また、ハミングなどで、骨伝導での響きを感じてもらいます。
第3回	歌ってみましょう「小さな世界」より	ユニゾンから掛け合いと、無理のない明るい音色で、楽しく、気持ちを合わせて、言葉を大切に歌います。
第4回	歌ってみましょう「オリバー」より	「自分の立場を見直そう」八分の六のリズムに乗って、リズム感よく、言葉の楽しさも意識して歌います。
第5回	ラブソング～「プロミス・プロミス」より	「もう恋なんてしない」男女の心の動きを声に乗せ、お互いの気持ちを歌詞に乗せて歌うにはどうするかを、学びます。
第6回	試験曲として今まで学んだ曲から	中間試験で歌う曲を決め、その選んだ理由を聞き、一人ずつ声と言葉のチェックと、歌い込みをします。
第7回	第一クォーター末実技の試験の実施	学習した声の出し方、身体の使い方、作品の内容の理解を含め、ミュージカルとして成立しているかを見ます。

クォーター末試験評価方法

出席点30% 平常点30% 試験40% ミュージカルに興味を持ってもらえたか、楽曲をしっかり理解し、表現力や、言葉の大切さを実感しながら、積極的に前向きに取り組んだかを評価します。平常点は、授業中の前向きな態度と、教えられたことへの理解力を重視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	日本のオペレッタを歌ってみよう	「ハッピーバースデー」二重唱を楽しく歌います。ここでは、言葉の大切さと、レガートの歌い方を学びます。
第2回	ディズニー作品「美女と野獣」より	「Beauty And The Beast」二重唱をつられないで歌います。また、有名な曲なので、音程やリズムに気をつけて歌います。
第3回	ディズニー作品「リトル・マーメイド」より	「アンダー・ザ・シー」シンコーションや、物語の楽しさが伝わるよう、少し音を外して、会話風に歌ってみます。
第4回	ディズニー作品「アラジン」より	「A Whole New World」掛け合いの楽しさを体験し、チームワークとして確立できるように歌います。
第5回	アバの曲「マンマ・ミーア」より	「ダンシング・クイーン」シンコーションやタイなど、リズム的に難しいですが、ノリノリな曲なので、リズムに乗って楽しく歌ってもらいます。
第6回	アバの曲「マンマ・ミーア」より	「ダンシング・クイーン」暗譜をし、ミュージカルの3つの要素の1つであるダンスを取り入れ、みんなで振り付けを考えて歌ってみましょう。
第7回	指定した試験曲のまとめとチェック	自分で決めた曲を、今まで学んできたテクニックを実践して、自分なりの表現で、歌い込みをします。
第8回	第二クォーター末実技の試験の実施	自身で選択した曲の、何を、そして、どこをポイントとして、聞いてもらいたいかを、一人ずつ説明してもらいます。

学期末試験評価方法

出席点30% 平常点30% 試験40% ミュージカルにどれくらい興味を持つことができたか、楽曲をしっかり理解し、表現力や言葉の大切さを実感しながら、積極的に、そして前向きに取り組めたかを評価します。平常点は、授業中の前向きな態度と、教えられたことへの理解力を重視します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	レパートリー(ミュージカル)II	演習	実	岡崎亮子

科目概要

ミュージカルほど幅が広く奥が深く多くの方に楽しんで頂けるものではありません。それはミュージカルには音楽、演劇、舞踊とあらゆる要素が詰まっているからです。第三クォーターではミュージカル作品の抜粋版を、第四クォーターでは1987年代～1997年代のミュージカルを学びます。尚、講師は東宝、宝塚歌劇団、音楽事務所、劇団、声優学校など、ボイストレーナーとして数多くの作品の指導の実務経験と出演経験を持ちます。

到達目標

秋学期はかなりレベルが高くなっています。春学期で学んだ「身体の使い方」をマスターした上で、歌、セリフ、踊りなど色々入り、コミュニケーションが重要になっております。お互いに意見を出し合っ、色々冒険をしながら、それぞれが持ち歌となる曲を見つけて頂ければ幸いです。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サウンド・オブ・ミュージックより	ミュージカルの抜粋版を作るにあたり、資料を読んだり、DVDを見たりして、しっかり作品を勉強します。
第2回	サウンド・オブ・ミュージックより	ミュージカルの曲と曲の間の、台詞を入れてみましょう。台詞は口先だけではなく、心から話すようにしましょう。
第3回	サウンド・オブ・ミュージックより	自分がやりたい役を見つけます。そして、その役の人物像を研究して、本当にやりたい役か、しっかり考えます。
第4回	サウンド・オブ・ミュージックより	役が決まったら、グループを作り、コミュニケーションをとりながら、音楽稽古や、読み合わせをします。
第5回	サウンド・オブ・ミュージックより	みんな意見を出し合い、ステージングを考え、相談しながら動きなどをつけて、作品として仕上げていきます。
第6回	サウンド・オブ・ミュージックより	台本や譜面を外し、動きなどの確認をしてから、試験に向けて、グループごとに、音付きリハーサルをします。
第7回	第三クォーター末実技の試験の実施	グループごとの発表なので、コミュニケーションが一番大事です。家族愛の作品なので、暖かみも大事な評価です。

クォーター末試験評価方法

出席30% 平常点30% 試験40% 歌はストレートに心に入ってきます。ミュージカルは、文学を構成していかなければなりません。また、音楽とダンスが入ることによって、エンターテインメント性が高まり、今回の作品は面白いと感じて積極的に取り組めたかななどを、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1997年代「レ・ミゼラブル」より	ソロの名曲に触れましょう。オペラ仕立てのナンバーなので、難しいと思いますが、しっかり声を出して表現します。
第2回	1997年代「レ・ミゼラブル」より	ソロの曲の歌い込みをします。細かい表現などを確認しながら、身体の支えや、呼吸法をしっかり学びます。
第3回	1997年代「ジキルとハイド」より	「ありのままの」二重唱を勉強します。ドラマ性のあるこの曲を、どのように表現したら、より伝わるかを研究します。
第4回	1997年代「ジキルとハイド」より	「ありのままの」お互い愛する人への気持ちを、感情豊かに、しっかりと声を出し、曲をまとめましょう。
第5回	ミュージカルの持ち歌となる曲を決める	とりあえず、曲を決めましょう！また、何故この曲を選択したか、そして、答えられるようにしましょう。
第6回	ミュージカルの持ち歌となる曲を決める	しっかりと譜面通り歌うことが重要です。内容を理解して、人に伝わるように歌うにはどうしたらよいか、考えましょう。
第7回	ミュージカルの持ち歌となる曲を決める	さあ！まとめです。しっかり暗譜して、心から物語を伝えることができるように頑張りましょう。
第8回	第四クォーター末実技の試験の実施	持ち歌か、授業で歌った曲か、選択して、自由に歌ってもらいます。歌には正解も不正解もありません！楽しく！

学期末試験評価方法

出席30% 平常点30% 試験40% アンサンブルやソロが複雑になってきてます。それぞれの楽曲の特徴をきちんと掴み、楽しい、面白いと感じ、積極的に表現することができたかを、総合的に判断します。平常点は、授業中の前向きな態度と、教えられたことへの理解力を重視します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	レパートリー(舞台音楽)I	演習	実	岡崎亮子

科目概要

レパートリー(ミュージカル)の科目を踏襲しますが、より深く掘り下げます。(曲目は例です)  
春学期では、自然な発声、鮮明な言葉、歌唱力をアップさせるためのテクニック、これら全て舞台に立つために、必要な実践力が身に付く様に指導します。東宝、宝塚歌劇団、音楽事務所、劇団、声優学校など、ボイストレーナーとして、数多くの作品の指導の実務経験と出演経験をもちます。

到達目標

ミュージカルは特別なものではなく、想像力や洞察力、色々貪欲に知識を吸収する事が、声の表現や、内容の表現につながって行くので、春学期は、歌うと言う事や、表現する事に臆病にならず、一生懸命努力をし、楽しんで新しい可能性を見出してください。大変嬉しいです。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	はじめに「ミュージカルとは」～	日常生活での、自分の体を思い出してもらい、笑う、泣く、あくびなどを実践して、身体で感じてもらいます。
第2回	歌に必要な身体基礎訓練を学びます	表情筋、滑舌、腹筋、背筋など、身体の意識を高め、また、ハミングなどで、骨伝導での響きを感じてもらいます。
第3回	歌ってみましょう「小さな世界」より	ユニゾンから掛け合いと、無理のない明るい音色で、楽しく、気持ちを合わせて、言葉を大切に歌います。
第4回	歌ってみましょう「オリバー」より	「自分の立場を見直そう」八分の六のリズムに乗って、リズム感よく、言葉の楽しさも意識して歌います。
第5回	ラブソング～「プロミス・プロミス」より	「もう恋なんてしない」男女の心の動きを声に乗せ、お互いの気持ちを歌詞に乗せて歌うにはどうするかを、学びます。
第6回	試験曲として今まで学んだ曲から	中間試験で歌う曲を決め、その選んだ理由を聞き、一人ずつ声と言葉のチェックと、歌い込みをします。
第7回	第一クォーター末実技の試験の実施	学習した声の出し方、身体の使い方、作品の内容の理解を含め、ミュージカルとして成立しているかを見ます。

クォーター末試験評価方法

出席点30% 平常点30% 試験40% ミュージカルに興味を持ってもらえたか、楽曲をしっかり理解し、表現力や、言葉の大切さを実感しながら、積極的に前向きに取り組んだかを評価します。平常点は、授業中の前向きな態度と、教えられたことへの理解力を重視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	日本のオペレッタを歌ってみよう	「ハッピーバースデー」二重唱を楽しく歌います。ここでは、言葉の大切さと、レガートの歌い方を学びます。
第2回	ディズニー作品「美女と野獣」より	「Beauty And The Beast」二重唱をつられないで歌います。また、有名な曲なので、音程やリズムに気をつけて歌います。
第3回	ディズニー作品「リトル・マーメイド」より	「アンダー・ザ・シー」シンコーションや、物語の楽しさが伝わるよう、少し音を外して、会話風に歌ってみます。
第4回	ディズニー作品「アラジン」より	「A Whole New World」掛け合いの楽しさを体験し、チームワークとして確立できるように歌います。
第5回	アバの曲「マンマ・ミーア」より	「ダンシング・クイーン」シンコーションやタイなど、リズム的に難しいですが、ノリノリな曲なので、リズムに乗って楽しく歌ってもらいます。
第6回	アバの曲「マンマ・ミーア」より	「ダンシング・クイーン」暗譜をし、ミュージカルの3つの要素の1つであるダンスを取り入れ、みんなで振り付けを考えて歌ってみましょう。
第7回	指定した試験曲のまとめとチェック	自分で決めた曲を、今まで学んできたテクニックを実践して、自分なりの表現で、歌い込みをします。
第8回	第二クォーター末実技の試験の実施	自身で選択した曲の、何を、そして、どこをポイントとして、聞いてもらいたいかを、一人ずつ説明してもらいます。

学期末試験評価方法

出席点30% 平常点30% 試験40% ミュージカルにどれくらい興味を持つことができたか、楽曲をしっかり理解し、表現力や言葉の大切さを実感しながら、積極的に、そして前向きに取り組めたかを評価します。平常点は、授業中の前向きな態度と、教えられたことへの理解力を重視します。

音楽総合アカデミー学科 ヴォーカルコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	レパートリー(舞台音楽)II	演習	実	岡崎亮子

科目概要

レパートリー(ミュージカル)の科目を踏襲しますが、より深く掘り下げます。(曲目は例です) 第三クォーターではミュージカル作品の抜粋版を、第四クォーターでは1987年代～1997年代のミュージカルを学びます。尚、講師は東宝、宝塚歌劇団、音楽事務所、劇団、声優学校など、ボイストレーナーとして数多くの作品の指導の実務経験と出演経験を持ちます。

到達目標

秋学期はかなりレベルが高くなっています。春学期で学んだ「身体の使い方」をマスターした上で、歌、セリフ、踊りなど色々入り、コミュニケーションが重要になっております。お互いに意見を出し合っ、色々冒険をしながら、それぞれが持ち歌となる曲を見つけて頂ければ幸いです。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サウンド・オブ・ミュージックより	ミュージカルの抜粋版を作るにあたり、資料を読んだり、DVDを見たりして、しっかり作品を勉強します。
第2回	サウンド・オブ・ミュージックより	ミュージカルの曲と曲の間の、台詞を入れてみましょう。台詞は口先だけではなく、心から話すようにしましょう。
第3回	サウンド・オブ・ミュージックより	自分がやりたい役を見つけます。そして、その役の人物像を研究して、本当にやりたい役か、しっかり考えます。
第4回	サウンド・オブ・ミュージックより	役が決まったら、グループを作り、コミュニケーションをとりながら、音楽稽古や、読み合わせをします。
第5回	サウンド・オブ・ミュージックより	みんなでき意見を出し合い、ステージングを考え、相談しながら動きなどをつけて、作品として仕上げていきます。
第6回	サウンド・オブ・ミュージックより	台本や譜面を外し、動きなどの確認をしてから、試験に向けて、グループごとに、音付きリハーサルをします。
第7回	第三クォーター末実技の試験の実施	グループごとの発表なので、コミュニケーションが一番大事です。家族愛の作品なので、暖かみも大事な評価です。

クォーター末試験評価方法

出席30% 平常点30% 試験40% 歌はストレートに心に入ってきます。ミュージカルは、文学を構成していかなければなりません。また、音楽とダンスが入ることによって、エンターテインメント性が高まり、今回の作品は面白いと感じて積極的に取り組めたかななどを、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1997年代「レ・ミゼラブル」より	ソロの名曲に触れましょう。オペラ仕立てのナンバーなので、難しいと思いますが、しっかり声を出して表現します。
第2回	1997年代「レ・ミゼラブル」より	ソロの曲の歌い込みをします。細かい表現などを確認しながら、身体の支えや、呼吸法をしっかり学びます。
第3回	1997年代「ジキルとハイド」より	「ありのままの」二重唱を勉強します。ドラマ性のあるこの曲を、どのように表現したら、より伝わるかを研究します。
第4回	1997年代「ジキルとハイド」より	「ありのままの」お互い愛する人への気持ちを、感情豊かに、しっかりと声を出し、曲をまとめましょう。
第5回	ミュージカルの持ち歌となる曲を決める	とりあえず、曲を決めましょう！また、何故この曲を選択したか、そして、答えられるようにしましょう。
第6回	ミュージカルの持ち歌となる曲を決める	しっかりと譜面通り歌うことが重要です。内容を理解して、人に伝わるように歌うにはどうしたらよいか、考えましょう。
第7回	ミュージカルの持ち歌となる曲を決める	さあ！まとめです。しっかり暗譜して、心から物語を伝えることができるように頑張りましょう。
第8回	第四クォーター末実技の試験の実施	持ち歌か、授業で歌った曲か、選択して、自由に歌ってもらいます。歌には正解も不正解もありません！楽しく！

学期末試験評価方法

出席30% 平常点30% 試験40% アンサンブルやソロが複雑になってきてます。それぞれの楽曲の特徴をきちんと掴み、楽しい、面白いと感じ、積極的に表現することができたかを、総合的に判断します。平常点は、授業中の前向きな態度と、教えられたことへの理解力を重視します。

アレンジ・作曲コース

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュ I	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step1,2) & 1Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step3,4) & 2Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅡ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。
到達目標
自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step5,6) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法  
 「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step7,8) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法  
 「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュⅢ	演習	実	岡澤理絵

科目概要

この科目では講師の実務経験(様々な分野での作曲編曲家、教育現場での活動)に基づき作曲家として活動するために必要な基礎的な知識・音楽的基礎能力・演奏力・表現力などを身に付けるための総合的な学習を行います。自作自演・アレンジ・グループでのアンサンブル発表なども交え、授業を受けながら楽しく音楽力がアップできるのを目指します。春期ではリズム感を養うことと、歌唱力を付けることに重点をおきます。

到達目標

各自の音楽経験が異なる中で、自分なりに前進することが大切となります。初回の授業では各自が到達目標を設定します。リズムに合わせて体を動かすこと、歌えることは先ず全員がマスターできます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンスとリズム練習	一年生のソルフェージュ授業で出来たこと、足りないことを各自なりに整理して、今年度の目標を立てます。
第2回	4ビート&メロディー視唱&ヒアリング	一定のテンポがキープできるようにビート感を養います。また、正しい音程を身に付けましょう。
第3回	8ビート&メロディー視唱&ヒアリング	曲想を着けて、気持ちを込めて歌います。ヒアリングはメロディーが書けたらベースにもチャレンジしてみましょ。
第4回	16ビート&2重唱&ヒアリング	リズムが細かくなっても、急がず遅れず頑張りましょ。相方のメロディーを聞きながら歌ってみましょ。
第5回	リズムアンサンブル	アンサンブルは息を合わせてビート感を出して行います。元気に楽しく練習できると、成果は倍増します！
第6回	リズムアンサンブル&コラール	2人でハモれたらば、3声に挑戦します。ヒアリングも余裕があれば、メロディー・ベースの他に和音や対旋律も聞き取ります。
第7回	リズムアンサンブル発表&歌	授業内で練習した曲にオリジナルのパートを加えて発表します。

クォーター末試験評価方法

ソルフェージュカの有る無しではなく、各自が毎回授業で頑張った分を平常点として評価します。  
出席+平常点=80%、試験=20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コード①	メロディーの上に記載されているコードを読み、演奏します。弾き歌いにもチャレンジします。
第2回	コード②	与えられたコード進行に合わせて、メロディーを作ります。伴奏を付けて歌ってみましょ。
第3回	コード③	前回作ったメロディーにあわせて、オブリガートを付けてみましょ。できればそのパートを歌いながら、メロディーを弾きます。
第4回	即興演奏	単純なリズム、コードのメロディーを少しアレンジしてみよう。テンポやリズムを変えたり、曲想の変化を楽しんでみましょ。
第5回	簡単なアンサンブルアレンジ①	歌をアレンジしてアンサンブルを作ります。ハモリを加えたり、各自で工夫してみましょ。
第6回	簡単なアンサンブルアレンジ②	前回の続きです。オリジナリティーが出せて楽しくアンサンブルができるように仕上げましょ。
第7回	アンサンブル合わせ	それぞれが作ったアンサンブルを、パートを決めて練習します。出来たら合わせてみましょ。
第8回	アンサンブルの発表	各自が用意したアンサンブルを、発表します。

学期末試験評価方法

出席+平常点=80%、試験=20%  
アンサンブル作りで工夫した点もプラスします。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅣ	演習	実	岡澤理絵

科目概要

この科目では講師の実務経験(様々な分野での作曲編曲家、教育現場での活動)に基づき作曲家として活動するために必要な様々な楽器のために書かれた曲や幅広く音楽を理解します。読譜力を付けたいですね。ちょっと難しそうに見えるハ音記号とも馴染んで行きましょう。小編成の弦楽アンサンブルから始め、次第に大きい編成のスコアリーディングを行います。そして即興演奏や、指揮にも挑戦してみましょう。

到達目標

アルト記号・テナー記号を理解し小編成のオーケストラスコアリーディングも行います。また各種の旋法を分析・使用できるようにします。音階により色彩感が異なることを理解し、即興演奏にもチャレンジ。自分の曲にも活かせるようになります。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アルト記号&即興演奏	ヴィオラの楽譜を読もう。即興で伴奏付けしてみましょう。
第2回	テナー記号&初見試奏	チェロの楽譜を読もう。そのピアノ伴奏譜なども弾いてみましょう。。
第3回	弦楽器のパート譜を弾こう	ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバスの音域や奏法・書き方を把握し、それぞれの楽器の響きの違いも意識してみましょう。
第4回	弦楽四重奏スコアリーディング	シューベルト作曲「死と乙女」のスコアリーディング
第5回	弦楽アンサンブル	バーバー作曲「弦楽のためのアダージョ」のスコアリーディング
第6回	スコアリーディング	各自が選曲した弦楽四重奏曲のスコアリーディング
第7回	弦楽四重奏を弾こう	各自ができる範囲でスコアリーディングを行います。

クォーター末試験評価方法

ソルフェージュカの有る無しではなく、各自が毎回授業で頑張った分を平常点として評価します。出席+平常点=80%、試験=20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オーケストラの楽譜	くるみ割り人形のスコアを用意し、オーケストラスコア入門
第2回	木管楽器を読もう①	フルート・オーボエパートと、テナーやバス譜表も使用するファゴットパートを読んでみましょう。
第3回	木管楽器を読もう②	移調読みをする木管楽器の種類と、それぞれの移調練習を行い、読み方をマスターします。
第4回	金管楽器を読もう	ホルン・トランペット・トロンボーン・チューバ等、金管楽器パートを読みましょう。
第5回	打楽器を読もう	種類が多いパートです。鍵盤楽器も沢山あります。名称を覚えてリズムを読んでみましょう。
第6回	ハープ・チェレスタ等	ハープの書き方や役割に注目してみましょう。花のワルツ・金平糖の踊りなど、弾いてみましょう。
第7回	弦楽器の様々な奏法	ピチカート奏法の響き・弱音器を付けた奏法と音色など聞いてイメージしてスコアリーディングに活かしてみましょう。
第8回	オーケストラ曲の演奏	数名で役割分担し、アンサンブルでオーケストラのスコアリーディング演奏を行います。

学期末試験評価方法

ソルフェージュカの有る無しではなく、各自が毎回授業で頑張った分を平常点として評価します。出席+平常点=80%、試験=20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	専攻ソルフェージュ I	演	実	蒲池 愛

科目概要

作曲家には音楽基礎能力、そしてスピーディーな対応力が求められます。頭を柔軟にして様々な楽器のスコアや音部記号に読譜対応できなくてはなりません。基本的な指揮の仕方なども学びます。講師の実務経験(CMやTV番組、ゲーム、アニメ、映画、の作曲編曲)からレコーディング等で演奏者をお願いする時などに必要な移調楽器対応力や聴音力(ピッチのとり方)など、「聴き所」なども意識していきます。日常生活の中でもトレーニングを取り入れることができます。

到達目標

移調楽器の対応、内声もきちんと聴ける、様々な音間違えを聞き分けることもとても必要です。目的にあった自作ソルフェージュ作曲、ピアノ伴奏演奏にもチャレンジします。指揮もチャレンジします。仕切りのうまい対応も勉強します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クレ譜読み・音の高さ	アルト記号テノール記号の読み方 聴音の復習(個別対応します)
第2回	クレ譜読み・音の高さ	クレ譜記号混合課題を歌う(ブレスやフレーズ、スラーに気をつける)
第3回	リズム	リズム聴音 タイ・符点・3連・5連
第4回	音の高さを意識する	ト音へ音読み混合・音の高さ上下4、5、6、7度
第5回	分析力・クレ譜読み	弦楽四重奏をパート分けて弾く1
第6回	分析力・クレ譜読み	弦楽四重奏をパート分けて弾く2
第7回	試験	視唱・視奏・聴音(メロディ・多声)カデンツ移調奏・他

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席率と積極性を重視します。  
毎時間プリントを使用します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コードを聴き取る	コードを聴き取る
第2回	コード・曲を理解する	聴奏 片手/両手 2声聴音復習
第3回	コード・曲を理解する	曲を聴いてマスタースコアを作る
第4回	リズム・視唱	ポリリズム・2段譜(歌いながらリズムを手で叩く)
第5回	聴奏・輪奏	カノン聴奏(輪奏、1小節遅れで追いかけて弾き)
第6回	拍のとり方・休符	タイと休符・臨時記号・短調の聴音
第7回	両手伴奏	両手でカデンツを弾く・両手伴奏の基本
第8回	試験	視唱・視奏・聴音(メロディ・多声)カデンツ移調奏・他

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席率と積極性を重視します。  
毎時間プリントを使用します。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	専攻ソルフェージュⅡ	演	実	蒲池 愛

科目概要

34Qは、移調楽器のスコアリーディングやコード進行譜を楽曲に追いながらピアノでコードを演奏したり、作曲家に必要なソルフェージュの応用編です。クラシカルなものからポップスまで沢山の楽曲から対応できること。ピアノ音の聴音も他の楽器などでやってみる他、現場での実践力に繋がるソルフェージュを身につけましょう。尚、講師は実務経験があります。(CMやTV番組、ゲーム、アニメ、映画、の作曲編曲)

到達目標

作曲家としてスタジオ現場にて対応できる自信とふるまいを身につけましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コード譜で弾く	歌メロ伴奏をコードでコードを弾いてみる
第2回	コード譜で伴奏	両手伴奏 ひとりづつ伴奏してみる
第3回	移調楽器譜を読む	移調楽器譜 ホルンのパートを歌う弾く
第4回	移調楽器譜を読む	移調楽器譜 サックスのパートを歌う弾く
第5回	木管5重奏を弾く	混合クレ読み・和音付け・木管5重奏を弾く
第6回	金管5重奏を弾く	混合クレ読み・和音付け・金管5重奏を弾く
第7回	試験	視唱・視奏・聴音(メロディ・多声)カデンツ移調奏・他

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席率と積極性を重視します。  
毎時間プリントを使用します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オーケストラ譜を読む	オーケストラ譜を読む1・和音付け・移調奏
第2回	オーケストラ譜を読む	オーケストラ譜を読む2・和音付け・移調奏
第3回	ハモを歌ってみる	ハモを歌ってみる・3度ハモ6度ハモ 1
第4回	カデンツ移調奏	模倣進行を弾いてみる(5度圏全調)
第5回	ソルフェージュ課題作曲	自作ソルフェージュ課題作曲
第6回	ソルフェージュ課題作曲	自作ソルフェージュ課題・発表・伴奏
第7回	発表・伴奏	自作ソルフェージュ課題・全員で歌う・伴奏
第8回	試験	視唱・視奏・聴音(メロディ・多声)カデンツ移調奏・他 総合力チェック

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。  
毎時間プリントを使用します。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽基礎理論	演習	実	歳森今日子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV・舞台・CDなどの音楽制作、大学専門学校における音楽基礎科目担当や向け受験指導の音楽理論受験指導)に基づき、「新総合音楽講座1 楽典」をテキストとして用いて、適宜プリントも使いながら、音楽の基礎的な理論を学びます。

到達目標

音楽や楽譜の基礎知識を習得することによって、作編曲や演奏の実力向上するための大切な土台を作ります。音楽鑑賞力も向上します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	一年間の授業の概説
第2回	記譜法の基礎1	譜表、音名、音符と休符、拍子
第3回	記譜法の基礎2	リズムの書き方、変化記号
第4回	音程1	度数、音程の種類、2音間の音程
第5回	音階1	長音階、調号、5度圏
第6回	音階2	短音階、半音階、特殊な音階
第7回	まとめと試験	筆記試験
クォーター末試験評価方法		
平常点20%、出席点30%、試験50%		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習、音程2	第前期のおさらい、単音程と複音程、転回音程、異名同音音程
第2回	和音1	3和音の種類とコードネーム
第3回	和音2	4和音の種類とコードネーム
第4回	調性1	移調、移調楽器
第5回	調性2	超判定、転調
第6回	楽語、略記法	音楽用語、略記法
第7回	まとめ2	総合問題演習
第8回	まとめと試験	筆記試験
学期末試験評価方法		
平常点20%、出席点30%、試験50%		

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論A I (和声)	演習	実	歳森今日子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV・舞台・CDなどの音楽制作、大学専門学校における音楽基礎科目担当や向け受験指導の音楽理論受験指導)に基づき、混声合唱の形式である四声体による和声連結を学びます。ポピュラー音楽の作編曲をする際にも役に立つ技術です。和声理論と実習1を使用して進めていきます。

到達目標

四声体で和音を連結するバス課題の実施方法を理解し、縦の響きと横の流れを意識して、連続進行その他禁則をおかすことなく美しいハーモニーを形成できるようになる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	基本位置・三和音の配置
第2回	三和音(基本位置)1	基本位置・三和音の連結1
第3回	三和音(基本位置)2	基本位置・三和音の連結2
第4回	機能	カデンツ3種の型～複合カデンツ
第5回	三和音(第一転回形)	三和音・第一転回形の配置
第6回	総合復習	三和音基本形と第一転回形を含むバス課題
第7回	まとめと試験	筆記試験

クォーター末試験評価方法

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	三和音(第二転回形)1	三和音・第二転回形の配置
第2回	三和音(第二転回形)2	三和音・第二転回形の連結
第3回	総合問題	三和音の総合バス課題
第4回	V7の和音	V7の配置
第5回	V7の和音	V7の連結
第6回	総合問題	V7を含む総合バス課題
第7回	V9の和音	V9の配置
第8回	総合問題	筆記試験

学期末試験評価方法

平常点20%、出席点30%、試験50%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分	担当講師
春	音楽理論A(和声)Ⅱ	演習	吉田 真梨

科目概要

西洋音楽の歴史におけるバロックから近代までの和声法を学習します。作曲技法の一つである和声法は、創作と演奏の両面において重要な役割を担います。その学習は緻密な作業の連続で、膨大な時間と労力を必要としますが、その結果得られるものは実り多いことでしょう。

到達目標

初級クラスでは、今までの学習内容(和音の機能、カデンツ、終止形と四声体書法のいくつかの定形)の復習からスタートし、基礎を固めます。続いてドミナント諸和音、副七の和音、準固有和音について学習します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンスと復習	三和音の復習
第2回	属7の和音①	V7の和音・限定進行音、連結
第3回	属7の和音②	先行和音→V7の和音への連結
第4回	属7の和音③	V7→VIの連結
第5回	属7の和音①	V7の和音の根音省略形体
第6回	第1クォーターの復習	課題提出へ向けての見直しと添削
第7回	クォーター末試験	課題提出

クォーター末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	属七の和音の復習	第1クォーターの復習
第2回	属九の和音①	V9の和音の基本配置、連結
第3回	属九の和音②	長調の属九の和音
第4回	属九の和音③	短調の属九の和音
第5回	ドミナント和音のまとめ①	属七と属九の和音を含むバス課題
第6回	ドミナント和音のまとめ②	属七と属九の和音のまとめ
第7回	試験対策	模擬試験問題
第8回	クォーター末試験	バスまたはソプラノ課題の実施

学期末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分	担当講師
秋	音楽理論A(和声)Ⅲ	演習	吉田 真梨

科目概要

西洋音楽の歴史におけるバロックから近代までの和声法を学習します。作曲技法の一つである和声法は、創作と演奏の両面において重要な役割を担います。その学習は緻密な作業の連続で、膨大な時間と労力を必要としますが、その結果得られるものは実り多いことでしょう。

到達目標

初級クラスでは、今までの学習内容(和音の機能、カデンツ、終止形と四声体書法のいくつかの定形)の復習からスタートし、基礎を固めます。続いてドミナント諸和音、副七の和音、準固有和音について学習します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドミナント和音の復習	第2クォーター末試験課題の返却と直し
第2回	Ⅱ7の和音①	Ⅱ7の和音の配置と限定進行音
第3回	Ⅱ7の和音①	ドミナント和音への連結 先行和音からの連結
第4回	Ⅱ7の和音③	Ⅱ7の和音のまとめ
第5回	Ⅱ7の和音④	Ⅱ7を含むバス課題の実施
第6回	第3クォーターの復習	課題提出へ向けての見直しと添削
第7回	クォーター末試験	課題提出

クォーター末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Ⅱ7の和音の復習	第3クォーター末試験課題の返却と直し
第2回	準固有和音①	長調における準固有和音の整理
第3回	準固有和音②	準固有和音を含む2和音の連結
第4回	準固有和音③	準固有和音を含むバス課題
第5回	楽曲分析	Ⅱ7の和音、準固有和音を含む楽曲の分析
第6回	1年間のまとめと復習	第1～第4クォーター学習内容の復習
第7回	試験対策	模擬試験問題
第8回	クォーター末試験	バス課題の実施

学期末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分	担当講師
春	音楽理論A(和声)IV	演習	吉田 真梨

科目概要

西洋音楽の歴史におけるバロックから近代までの和声法を学習します。作曲技法の一つである和声法は、創作と演奏の両面において重要な役割を担います。その学習は緻密な作業の連続で、膨大な時間と労力を必要としますが、その結果得られるものは実り多いことでしょう。

到達目標

中級クラス春期では、主に借用和音について学習します。瞬間的な響きのみを意識を向けるのではなく、対位法観点を養うことによって、より充実したテクニックを身に着けます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドッペルドミナントの和音①	副属七の和音の整理
第2回	ドッペルドミナントの和音②	ドッペルドミナントを含むバス課題
第3回	ドッペルドミナントの和音③	ドッペルドミナントのまとめ
第4回	下方変位の和音①	V/V下方変位の和音の構成音と連結
第5回	下方変位の和音②	V/V下方変位の和音を含むバス課題
第6回	第1クォーターの復習	課題提出へ向けての見直しと添削
第7回	クォーター末試験	課題提出

クォーター末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	各ドッペルドミナントの和音の復習	第1クォーター末試験課題の返却と直し
第2回	サブドミナント和音の応用①	IV7の和音
第3回	サブドミナント和音の応用②	ドリアのIV7の和音
第4回	サブドミナント和音の応用③	ナポリのIIの和音
第5回	サブドミナント和音の応用④	変終止におけるIV付加六の和音
第6回	サブドミナント和音の応用⑤	サブドミナント和音のまとめ
第7回	試験対策	模擬試験問題
第8回	クォーター末試験	バス課題の実施

学期末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分	担当講師
秋	音楽理論A(和声) V	演習	吉田真梨

科目概要

西洋音楽の歴史におけるバロックから近代までの和声法を学習します。作曲技法の一つである和声法は、創作と演奏の両面において重要な役割を担います。その学習は緻密な作業の連続で、膨大な時間と労力を必要としますが、その結果得られるものは実り多いことでしょう。

到達目標

中級クラス秋期では、今まで学習してきた様々な和音を自由に扱いながら、ソプラノの下に3声を付けるソプラノ課題と、近親調への転調を含むバス、ソプラノ課題を学習します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サブドミナント和音の復習	第2クォーター末試験課題の返却と直し
第2回	近親転調①	近親調の確認
第3回	近親転調②	近親転調における和音連結
第4回	近親転調③	近親転調を含むバス課題(調設定)
第5回	近親転調④	近親転調を含むバス課題(実践)
第6回	第3クォーターの復習	課題提出へ向けての見直しと添削
第7回	クォーター末試験	課題提出

クォーター末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	近親転調の復習	第3クォーター末試験課題の返却と直し
第2回	ソプラノ課題①	ソプラノ課題における配置と連結、ドミナント和音定型
第3回	ソプラノ課題②	ソプラノ終止定式
第4回	ソプラノ課題③	転調を含まないソプラノ課題
第5回	ソプラノ課題④	ソプラノによる調判定
第6回	ソプラノ課題⑤	転調を含むソプラノ課題
第7回	試験対策	模擬試験問題
第8回	クォーター末試験	ソプラノ課題の実施

学期末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分	担当講師
春	音楽理論A(和声)VI	演習	吉田 真梨

科目概要

西洋音楽の歴史におけるバロックから近代までの和声法を学習します。作曲技法の一つである和声法は、創作と演奏の両面において重要な役割を担います。その学習は緻密な作業の連続で、膨大な時間と労力を必要としますが、その結果得られるものは実り多いことでしょう。

到達目標

春期上級クラスでは、応用課題に取り組みます。遠隔調への転調、非和声音を含むソプラノ課題など、実際の楽曲に近い形の課題に取り組むことによって、作曲への足掛かりとなる技術を習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	中級和声の復習	近親転調を含むバス、ソプラノ課題
第2回	調設定の原理①	各種調関係と設定
第3回	調設定の原理②	2次主調と大主調、エンハーモニック関係
第4回	借用和音①	各種借用和音と所属調 借用和音を含むカデンツ
第5回	借用和音②	借用和音を含むバス、ソプラノ課題の実施
第6回	第1クォーターの復習	課題提出へ向けての見直しと添削
第7回	クォーター末試験	課題提出

クォーター末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和音の補遺	七の和音の総括
第2回	内部変換①	内部変換の規則
第3回	内部変換②	内部変換を含むソプラノ課題
第4回	内部変換③	修飾音
第5回	内部変換④	内部変換のまとめ
第6回	内部変換⑤	バスにおける修飾音
第7回	試験対策	模擬試験問題
第8回	クォーター末試験	バスまたはソプラノ課題の実施

学期末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。  
毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分	担当講師
秋	音楽理論A(和声)Ⅶ	演習	吉田 真梨

科目概要

西洋音楽の歴史におけるバロックから近代までの和声法を学習します。作曲技法の一つである和声法は、創作と演奏の両面において重要な役割を担います。その学習は緻密な作業の連続で、膨大な時間と労力を必要としますが、その結果得られるものは実り多いことでしょう。

到達目標

秋期上級クラスでは、応用課題に取り組みます。遠隔調への転調、非和声音を含むソプラノ課題など、実際の楽曲に近い形の課題に取り組むことによって、作曲への足掛かりとなる技術を習得します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	第2クォーター学習内容の復習	第2クォーター末試験課題の返却と直し
第2回	構成音の転位①	和声音と非和声音
第3回	構成音の転位②	非和声音の様々な解釈と公理
第4回	構成音の転位③	全長転位と変位音
第5回	構成音の転位④	非和声音を含む内声旋律とまとめ
第6回	第3クォーターの復習	課題提出へ向けての見直しと添削
第7回	クォーター末試験	課題提出

クォーター末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	構成音の転位の復習	第3クォーター末試験課題の返却と直し
第2回	反復進行①	反復進行の分類
第3回	反復進行②	正進行、準正進行型の反復進行
第4回	反復進行③	変進行型、複合型の反復進行
第5回	反復進行④	模倣を含む反復進行
第6回	1年間のまとめと復習	第1～第4クォーター学習内容の復習
第7回	試験対策	模擬試験問題
第8回	クォーター末試験	バスまたはソプラノ課題の実施

学期末試験評価方法

平常点(授業内態度、出席率)30%、課題提出30%、試験結果40%により総合的に評価します。毎週練習課題を出します。積極的に予習・復習をし、学習進度の向上に努めるよう心掛けてください。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論B I (対位法)	演習	実	歳森今日子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV・舞台・CDなどの音楽制作、大学専門学校における音楽基礎科目担当や向け受験指導の音楽理論受験指導)に基づき、対位法を学びます。対位法とは複数の旋律がそれぞれの独立性を保ちながら、同時に美しく響きバランスが良い状態を作る技術です。名曲から学び旋律を自作し、定旋律に対して美しくバランスの良い対旋律を作成する練習を行います。

到達目標

定旋律に対して、美しくバランスの良い対旋律を作成出来るようになります。メロディ(主旋律)に対する良いカウンターメロディ(対旋律)やベースラインは、メロディの良さを引き出し曲の魅力を高めるので、創作する楽曲のレベルや鑑賞力向上につながります。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	一年間の授業の概説
第2回	旋律論1(旋律曲線1)	歴史的な名曲実例から旋律曲線を学ぶ。旋律曲線を意識してメロディを自作してみる。
第3回	旋律論2(旋律曲線2)	歴史的な名曲実例から旋律曲線を学ぶ。旋律曲線を意識してメロディを自作してみる。
第4回	旋律論3(旋律リズム1)	歴史的な名曲実例から旋律リズムを学ぶ。旋律リズムを意識してメロディを自作してみる。
第5回	旋律論4(旋律リズム2)	史的な名曲実例から旋律リズムを学ぶ。旋律リズムを意識してメロディを自作してみる。
第6回	旋律論5(和声リズム)	史的な名曲実例から和声リズムを学ぶ。和声リズムを意識してメロディを自作してみる。
第7回	まとめと試験	筆記試験
クォーター末試験評価方法		
平常点20%、出席点30%、試験50%		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	全音符による対旋律1	(1:1)の実習 音域について 進行上の注意
第2回	全音符による対旋律2	(1:1)の実習 上声課題 曲の開始及び終止について 定旋律に対する音程
第3回	全音符による対旋律3	(1:1)の実習 下声課題 曲の開始及び終止について 定旋律に対する音程
第4回	二分音符による対旋律1	(1:2)の実習 音域について 進行上の注意
第5回	二分音符による対旋律2	(1:2)の実習 上声課題 曲の開始及び終止について 定旋律に対する音程
第6回	二分音符による対旋律3	(1:2)の実習 下声課題 曲の開始及び終止について 定旋律に対する音程
第7回	まとめ	復習、分析
第8回	まとめと試験	筆記試験
学期末試験評価方法		
平常点20%、出席点30%、試験50%		

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論BⅡ(対位法)	演習	実	三上直子

科目概要

色々なカノンについて学び、対位法的な音の動かし方を体感し興味を深める。器楽対位法では転調(借用)を含まない1:1の等時対位法までを学習する。尚、講師は(全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から)作曲家としてオリジナル作品の出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

到達目標

1クォーター: 各種のカノンについて理解を深める。2クォーター: 2声1:1(転調を含まない)において、効果的な音の骨組みを構成できるようになる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス、他。	ガイダンス。教科書について。「パッヘルベルのカノン」
第2回	カノンの種類とスコア/順行カノン	カノンの種類と記譜について。
第3回	順行カノン	同度、5度、4度、2度、7度、8度。バッハの作品。実習。
第4回	反転カノン、拡大、縮小カノン	反転カノンの実習、拡大カノンの実習。
第5回	逆行カノン、巡回カノン等	J.S.バッハ「音楽の捧げもの」「ゴールドベルク変奏曲」
第6回	カノンの作曲	カノンの作曲。
第7回	作品提出	作品提出。

クォーター末試験評価方法

各種のカノンについて理解を深めたかどうか。また、オリジナルのカノンにおいて、今の段階では感覚的でも良いので対位法的な音の動かし方を理解しているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	器楽対位法について	二声の等時対位法(1:1)について。
第2回	2声1:1(第一段階)1	作例の分析と練習問題。
第3回	2声1:1(第一段階/7th含まず)2	練習問題と解答例の提示。
第4回	2声1:1(第二段階/属7の活用)	属7和音に置ける7度2度、増4度、減5度。ホルン5度。終止の5度。
第5回	2声1:1(第二段階/属7の活用と分析)	作例の分析。
第6回	2声1:1(第二段階/属7を含む課題)	属7を含む練習問題と解答の提示。
第7回	2声1:1(第二段階/属7を含む課題と解答)	練習問題と解答の提示。
第8回	試験	2声1:1(第二段階/属7の活用)までの課題。

学期末試験評価方法

転調をふくまない1:1の対位法を理解し、効果的な音の骨組みを構成できるかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論BⅢ(対位法)	演習	実	三上直子

科目概要

副属和音の活用(属7和音の応用)と、1:2(掛留を含まない)までを学習する。作例の和声分析も併せて行う。作例の和声分析も併せて行う。尚、講師は(全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から)作曲家としてオリジナル作品の出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

到達目標

混合対位法を実施することにより、今迄学習してきた事を理解し、自作品に役立てられるようになる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2声(1:1)他調和声の借用	副属和音について。副属和音における進行。
第2回	2声(1:1)他調和声の借用とクロマティズム	例題の和声分析、2度7度の使用法、クロマティズム。
第3回	2声(1:1)他調和声の借用、練習問題	練習問題の実施。
第4回	2声(1:1)他調和声の借用、練習と解答	練習問題の実施と解答の提示。
第5回	2声(1:2)その1(掛留含まず)	2声の不等時対位法。主拍と副拍。例題の和声分析。
第6回	2声(1:2)その1(掛留含まず)練習と解答	練習問題と解答の提示。
第7回	試験	試験課題の実施。

クォーター末試験評価方法

副属和音の活用(属7和音の応用)が正しく出来ているかどうか。また1:2の(掛留含まず)までの理解度を見る。試験80%、出席20%にて評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2声(1:2)(掛留含まず)復習	復習と試験の解答例の提示。
第2回	2声(1:2)その2(掛留)	掛留と結合音。作例の分析。
第3回	2声(1:2)その2(結合音)	掛留と結合音を含む練習問題と解答の提示。
第4回	2声(1:2)(1:4)	予備無しの掛留と、声音の装飾法。作例の和声分析。
第5回	2声(1:4)	1:4の練習問題と解答の提示。
第6回	2声(混合対位法)分析	混合対位法。作例の和声分析。掛留の修飾と自由性の付加。
第7回	2声(混合対位法)練習と解答	混合対位法による練習問題と解答の提示。
第8回	試験	2声(混合対位法)の課題。

学期末試験評価方法

混合対位法を実施することにより、今迄学習してきた対位法をどこまで理解し、応用出来ているかどうか。また、魅力的なメロディーを構成出来ているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論BIV(対位法)	演習	実	三上 直子

科目概要

混合対位法の復習。J.S.バッハのインベンションの分析。構成、モチーフの活用等への理解を深める。また、インベンションの1番を演奏することにより、対位法的楽曲を体得させる。尚、講師は(全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から)作曲家としてオリジナル作品の出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

到達目標

簡単なインヴェンションの実習において、主題に対する的確な対唱等、また、スムーズな転調とモチーフの活用を理解する。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2声(混合対位法)1	復習。課題の実施。
第2回	2声(混合対位法)2と総括	復習。課題の実施と解答の提示。
第3回	インヴェンションを(分析)1 1番を弾く	J.S.バッハ「インヴェンション1番」分析。(ピアノで弾く)
第4回	インヴェンション(分析)2 モチーフの分析	J.S.バッハ「インヴェンション1番」素材の分析と和声分析。(前半)
第5回	インヴェンション(分析)3 和声分析	J.S.バッハ「インヴェンション1番」和声分析(後半)提出。
第6回	インヴェンション(分析)4 8番の分析	J.S.バッハ「インヴェンション8番」分析、提出。
第7回	発表会	ピアノ演奏。(もしくは得意な楽器でもよい)

クォーター末試験評価方法

インヴェンションの分析をどこまで行えたかどうか。また、J.S.バッハのインヴェンション1番をピアノ演奏(上手に演奏する必要はない)し、対位法的楽曲とは、どのような音の動きをするかを把握出来たかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	インヴェンションの実施1(主題と対唱)	全体の構成と主題。対唱。
第2回	インヴェンションの実施(属調への転調)	属調への転調と転調部1。(和声進行とモチーフ)
第3回	インヴェンションの実施(属調)	属調への転調と転調部2。(転調と旋律の流れ)
第4回	インヴェンションの実施(平行調への転調)	平行調への転調と転調部1。(和声進行とモチーフ)
第5回	インヴェンションの実施(平行調)	平行調への転調と転調部2。(転調と旋律の流れ)
第6回	インヴェンションの実施(主調への転調)	主調への転調と転調部。(和声進行とモチーフ)
第7回	インヴェンションの実施(コーダ)	主調への転調と転調部、コーダ。(転調と旋律の流れ)
第8回	提出	インベンションの提出。

学期末試験評価方法

簡単なインベンションの実習において、主題に対する的確な対唱、スムーズな転調とモチーフの活用がなされているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論BV(対位法)	演習	実	三上 直子

科目概要

インベンションの理解を深める。また、バロックスタイルだけでなく、対位法を様々なジャンルに応用するための課題も用いる。4クォーターのシラバスは1例であり、各学生の応用したいジャンルにそれぞれ対応する。尚、講師は(全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から)作曲家としてオリジナル作品の出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

到達目標

ジャンルを問わず、対位法を応用的に使う事が出来るようになる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	インベンション(分析)	J.S.バッハ「インベンション5番」分析。(テキストにスコア有り)
第2回	2声の器楽的手法の総括	2声の器楽的手法の総括。(復習)
第3回	インベンションの実施(主題)	全体の構成と主題。
第4回	インベンションの実施(属調)	属調への転調と転調部。
第5回	インベンションの実施(同主調)	同主調への転調と転調部。
第6回	インベンションの実施(コーダ)	主調への転調と転調部、コーダ。
第7回	提出	インベンションの提出。

クォーター末試験評価方法

2曲目のインベンションを実施するにあたり、1曲目よりも理解を深め、スムーズな転調、スムーズで効果的な音の動かし方が出来ているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	カウンターメロディー	課題の実施。提出。
第2回	カウンターメロディーとベースライン	課題の実施。提出。
第3回	インベンションの分析1	任意の楽曲。(素材と構成の分析)
第4回	インベンションの分析2	和声分析。
第5回	オリジナルのインベンション1	オリジナルのインベンションの実施。(主題、対唱、属調)
第6回	オリジナルのインベンション2	オリジナルのインベンションの実施。(近親転調と主題、模倣)
第7回	オリジナルのインベンション3	オリジナルのインベンションの実施。(コーダ)
第8回	提出	オリジナルのインベンションの提出。

学期末試験評価方法

特定のメロディーに対して、カウンターメロディーやベースラインを付けることで、対位法の応用力を見る。また、オリジナルのインベンションにより、一年間の成果を評価する。メロディーは魅力的かどうか。主題に対するモチーフの動きは的確かどうか。転調はスムーズであるか等。試験80%、出席20%にて評価する。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論BVI(対位法)	演習	実	三上 直子

科目概要

フーガの主要提示部についての理解。また自由唱の作り方、嬉遊句のモチーフ利用やスムーズな和声進行についても学習しながら、副提示部までの構成を把握し実習する。尚、講師は(全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から)作曲家としてオリジナル作品の出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

到達目標

主要提示部から副提示部までを正しく構成。また、自由唱の作り方、嬉遊句のモチーフ利用やスムーズな転調(和声進行)を行える。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フーガの主要提示部について	フーガの主要提示部について。
第2回	主唱と答唱	主唱の和声分析。答唱の正応、変応
第3回	答唱	答唱の作成
第4回	対唱	対唱について。また、対唱の作成
第5回	いくつかのテーマにおける対唱	いくつかの対唱の作成
第6回	答対唱	答対唱の作成
第7回	試験	主唱に対して的確な答唱、対唱、答対唱が作れるかどうか。

クォーター末試験評価方法

フーガの主要提示部において必要な主唱、答唱、対唱、答対唱について理解し、正しく導けているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	主要提示部1	主要提示部の作成(自由唱の動き)1(バスのライン)
第2回	主要提示部2	主要提示部の作成(自由唱の動き)2(内声)
第3回	第一嬉遊句	第一嬉遊句(併行調への転調)
第4回	副提示部	平行調での提示部(主唱、答唱)
第5回	第二嬉遊句	第二嬉遊句(四度調への転調)
第6回	副提示部2	四度調提示部、および四度調の併行調提示部
第7回	第三嬉遊句	第三嬉遊句主調への転調
第8回	提出	主要提示部及び副提示部までの四声のフーガ

学期末試験評価方法

主要提示部から副提示部までを正しく構成出来ているかどうか。また、自由唱の作り方、嬉遊句のモチーフ利用やスムーズな転調(和声進行)が出来ているかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論BⅦ(対位法)	演習	実	三上 直子

科目概要

フーガの追迫部から結尾までの構成と、ストレッタのたたみ掛け方や保続音上での音の動かし方等を学ぶ。併せて自由唱の作り方、モチーフ利用やスムーズな転調を学ぶ。尚、講師は(全音楽譜出版社、河合出版、ヤマハミュージックメディア、現代ギター社等から)作曲家としてオリジナル作品の出版、また教育的配慮を施した楽譜出版や、編曲家としてアレンジ譜の出版といった実務経験を多数持つ。

到達目標

4月から学習してきたフーガ全体の構成を把握。自由唱の作り方、モチーフ利用や、転調がスムーズに作ることが出来る。また、声部ごとのメロディーの流れがスムーズで魅力的に作ることが出来る。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	追迫部(主要追迫区)	主要追迫区について、理解と実習。
第2回	追迫部(対唱追迫区)	対唱追迫区について、理解と実習。
第3回	追迫部(平行調追迫区)	平行調追迫区について、理解と実習。
第4回	追迫部(属調への転調と転調部)	属調への転調と転調部について。
第5回	追迫部(真正追迫区)	真正追迫区(5度保続)主調への転調。
第6回	結尾	コーダ(1度保続)。
第7回	提出	フーガの提出。

クォーター末試験評価方法

フーガ全体の構成を理解し、正しい方向で捉えられているかどうか。ストレッタの作り方を把握出来たかどうか。自由唱の動き、転調はスムーズであるかどうか。試験80%、出席20%にて評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フーガの実習1(主要提示部)	主唱と対唱、答唱と答対唱、自由唱。
第2回	フーガの実習2(副提示部1)	副提示部(平行調)。
第3回	フーガの実習3(副提示部2)	四度調提示部、および四度調の平行調提示部。
第4回	フーガの実習4(主要追迫区)	主要追迫の実施。
第5回	フーガの実習5(対唱追迫区)	対唱追迫区の実施。
第6回	フーガの実習6(平行調追迫区)	平行調追迫区から属調への転調と転調部の実施。
第7回	フーガの実習7(真正追迫区)	真正追迫区からコーダの実施。
第8回	提出	フーガの提出。

学期末試験評価方法

4月から学習してきたフーガ全体の構成を把握出来ているかどうか。また、自由唱の作り方、モチーフ利用や、転調がスムーズであるかどうか。声部ごとのメロディーの流れがスムーズで魅力的かどうか。総合的に判断。試験80%、出席20%にて評価する。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	基礎作曲技法 I	演習	実	山本 正壽

科目概要

古典派までの様式の成立をソナタ形式を中心に取り上げます。作曲と分析の関連、演奏と作曲の関連を記号論の観点で掘り下げていきます。この科目では、講師の実務経験(作曲家)に基づき分析を中心に実施します。

到達目標

音楽コミュニケーションは楽譜が基礎になりますので、音楽家として知っておくべき知識は貪欲に学ぶ姿勢を受講者に期待します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	表現について	ガイダンス
第2回	観点の多様性	アナライズの視点 ・演奏分析 ・楽曲分析 ・文献分析 について
第3回	様式の多様性	様式の変遷 ・バロックから近代までの主な様式の盛衰
第4回	形態の多様性	形態の変遷 ・組曲 ・声楽曲 ・協奏曲
第5回	表現方法の多様性	技法と理論の変遷概論1 楽式論 ・基礎知識
第6回	形式美	技法と理論の変遷概論2 楽式論 ・基礎楽式
第7回	試験	記号分析(楽語)

クォーター末試験評価方法

試験: 楽譜上の記号についての設問に解答する(90分)配点100%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スタイルの交錯	楽式論 ・複合形式
第2回	表現内容の拡大	楽式論 ・複合3部形式
第3回	型とスタイル	譜面と用語
第4回	名作の裏側	マクロとミクロ、モチーフと動機労作
第5回	マテリアル1	変奏曲について
第6回	マテリアル2	厳格変奏曲分析
第7回	隠匿表現	性格変奏曲分析
第8回	試験	非和声音と和音構成音

学期末試験評価方法

試験: 提示された楽曲より非和声音と抽出しその種類を解答する(90分)配点100点  
春学期評点の配分: 1Q末試験40% + 2Q末試験40% + 平常点20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	基礎作曲技法Ⅱ	演習	実	山本 正壽

科目概要

ソナタ形式を中心に分析を行ない、学年末ではソナタ楽曲の変遷について触れていきます。作曲と分析の関連、演奏と作曲の関連を記号論の観点で掘り下げていきます。この科目では、講師の実務経験(作曲家)に基づき分析を中心に実施します。

到達目標

音楽コミュニケーションは楽譜が基礎になりますので、音楽家として知っておくべき知識は貪欲に学ぶ姿勢を受講者に期待します。また、ジャンルやスタイルに応じた楽語を使用できるようにし奏者とのコミュニケーションが的確にできるようにします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コントラスト	古典ソナタ楽曲の分析 ・主題の対比
第2回	音楽の単位	古典ソナタ楽曲の分析 ・動機労作
第3回	様式美など	古典ソナタ楽曲の分析 ・属性分析 ・展開部の要素分析
第4回	ポスト様式1	古典ソナタ分析と模作1
第5回	ポスト様式2	古典ソナタ分析と模作2
第6回	分析の観点	分析レポート作成
第7回	課題提出	分析試験

クォーター末試験評価方法

試験: 指定された楽曲の分析を指定の項目について解答する(90分) 配点100点

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音楽の二元性	ロマン派の時代背景と古典派との比較 音楽的特徴、ロマン派から近代へ
第2回	時代別の様式	ロマン派との作曲家とその傾向
第3回	国別の様式 フランス、ドイツ、ロシア	大抵的な時代別のソナタ形式の特徴1
第4回	主題などの一貫性と作品	・固定楽想 ・循環動機 ・示導動機
第5回	音楽表現の拡大	音響(楽器法を含む)と音色
第6回	ポスト様式3	大抵的な時代別のソナタ形式の特徴2
第7回	楽式の拡張様式	大抵的な時代別のソナタ形式の特徴3
第8回	試験	試験:ソナタ楽曲についての理解度テスト(90分)

学期末試験評価方法

試験:ソナタ楽曲についての理解度テスト(90分) 配点100点

秋学期評点の配分:3Q末試験40%+4Q末試験40%+平常点20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	楽式研究 I	演習	実	徳備 康純

科目概要

古典モードから合成音階などの近代から現代に至る音階の使用法を作品の分析から学び、更に4度構成の和声などから多調性、そしてバルトークの論理的な作曲法についてその基本的な考え方を学び、作品を試作してみる。尚、講師はヤマハ音楽振興会での勤務の後、作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行うなどの実務経験を持つ。

到達目標

教会旋法などの使用法から、ペントニック、ヘキサトニックなどの技法、更に合成音階や移調の限られた旋法などの技法を理解し、それらによる作品の試作を行い、理解を深める。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	近代のはじまり	ワーグナーのトリスタン和音から調性の拡大と崩壊と二十世紀を俯瞰する。
第2回	古典モードの基本的説明	教会旋法などのダイアトニックからペントニック、ヘキサトニックなどの技法の紹介。
第3回	ドビュッシーの夜想曲・沈める寺の分析	各種モードの使用について、ドビュッシーの作品から学びます。
第4回	オスティナータ技法について	モード技法におけるオスティナータ技法をオネゲルの夏の牧歌や芥川也寸志の作品の分析から学ぶ。
第5回	ストラヴィンスキーの組曲第1番の分析	四度和声、あるいは多調性の技法をストラヴィンスキーの管弦楽作品の分析を通じて学ぶ。
第6回	バルトークの音楽について 1	ルーマニア民俗舞曲の分析を通じて教会旋法からより民族的な旋法などの使用とハーモナイズについて学ぶ。
第7回	バルトークの音楽について 2	中心軸システム、フィボナッチの数列、黄金分割などの技法を、バルトークの作品の分析を通じて学ぶ。

クォーター末試験評価方法

モード技法による小品を試作し、そのスコアを提出する。モード技法が理解されているか、オスティナートや4度構成の和音などが理解出来ているかなどを、その作品の内容から判断し評価する。試験80%、出席点20%。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新古典主義の発展と新しい音楽について	バロックの変奏曲形式を応用して作られた作品の分析を通して、新しい響きを作り出したオネゲルの音楽を学ぶ。
第2回	移調の限られた旋法について	オリヴィエ・メシアンの7つの移調の限られた旋法について学び、その使用例を紹介しします。
第3回	世の終わりのための四重奏曲の分析	作品の分析を通じて、移調の限られた旋法、不可逆リズムなどの技法を紹介しします。
第4回	多調性音楽について	ミヨーの小交響曲第1番「春」とオネゲルの「ダヴィデ王」などの分析を行います。
第5回	多調性の音楽の試作	ダヴィデ王の行進曲をもとに、簡単な多調性音楽を試作します。
第6回	11の和音、13の和音について	11、13の和音について、その種類と作り方、使い方を学びます。
第7回	ラヴェルの高雅で感傷的なワルツの分析	ラヴェルの高雅で感傷的なワルツの分析を行い、モード技法と11、13の和音の使用について学びます。
第8回	ベルクのピアノ・ソナタの分	調性の崩壊へと繋がる、極端な半音階主義、11の和音や付加音の多用による調性感のあやうさを学びます。

学期末試験評価方法

近代モードや多調性、中心軸システム、ポリコードなど授業でとりあげた技法のいずれかを使用して、作品を試作し、そのスコアを提出します。これらの技法を理解して作品に応用する技術を身につけているかどうかを、作品のスコアを通して判断し、評価します。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	楽式研究Ⅱ	演習	実	徳備 康純

科目概要

前半は、無調の音楽からドデカフォニー、偶然性の音楽、ミニマル・ミュージックの音楽の紹介とその技法についての理解を深め、それらを使った小曲の試作を行います。また、後半は近代日本の音楽について武満徹氏や細川俊夫氏などの音楽を通じて学びます。尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。

到達目標

一般的な調性を無くした、無調の小曲の試作を通じて、現代の様々な音楽の様式を理解することを目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	キュビズムと調性の崩壊について	20世紀はじめに起こったキュビズムと調性の崩壊の新しい芸術運動から、シェーンベルクの弦楽四重奏曲第2番を分析します。
第2回	表現主義の音楽について	シェーンベルクの「ピエロ・リュネール」からいくつかを分析し、リズムなどに繋がる表現主義について学びます。
第3回	無調の音楽の試作	無調のピアノ小品の試作を行い、その作品の試演を行うことで、無調の音楽の作り方について学ぶ。
第4回	音列技法の基本的な作り方の説明	12音音列を作り、そこから反行、逆行、逆反行の音列表を作り、そこから簡単なメロディーを試作します。
第5回	12音技法の作品の分析と試作	音列技法による徳備作曲の「孤独なカプリチオ」を分析し、実際の楽曲の作り方を学びます。
第6回	ウェーベルンのピアノの為の変奏曲の分析	作品の分析をし、鏡像、響き、ディナーミクなどのパラメータを明らかにすることで、セリエリズムをより深く学びます。
第7回	ウェーベルンの交響曲の分析	ウェーベルンの交響曲の分析を通じて、音色旋律、特殊なソナタ形式の分析により、戦後の現代音楽への道筋を理解する。

クォーター末試験評価方法

12音のよる三声の任意の管・弦楽器による様々な種類のカノンを作成し、無調、ドデカフォニーの音楽の理解を深める。楽器の音域、特徴を生かした作品であることを目指しつつ、より完成度の高いカノンを書くこと。試験80%、出席点20%。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	20世紀前半のアメリカの前衛について	アイヴズ、ヴァレーズの音楽を紹介し、作品の分析をつうじて20世紀前半のアメリカの前衛音楽について学ぶ。
第2回	ガーシュウインの音楽について	ガーシュウインの音楽と同時代の作曲家たちに与えた影響について紹介し、ラプソディー・イン・ブルーを分析する。
第3回	偶然性の音楽について	ジョン・ケージの音楽を紹介し、その哲学について理解し、20世紀音楽に与えた影響について学ぶ。
第4回	ミニマル・ミュージックの音楽	ミニマル系の音楽をいくつか紹介し、ベルトのプリテンへの追悼歌の分析を行う。
第5回	近衛秀麿の「越天楽」の分析	作品の分析を通じて、ヘテロフォニーなどの技法を、民族の古典に繋がる様式について学ぶ。
第6回	伊福部 昭のリトミカ・オスティナータ	伊福部 昭のリトミカ・オスティナータの分析を通じて、奇数拍の使い方などについて学ぶ。
第7回	武満 徹 ノーヴェンバー・ステップス	作品の分析を通じて、邦楽器の使用した協奏曲が与えたインパクトと、図形楽譜の紹介を行います。
第8回	細川俊夫の音楽について	細川俊夫の「線」、「歌」を中心としてその厳しい創造について学ぶ。

学期末試験評価方法

授業の中でとりあげた作品、あるいは作曲家について、詳細な分析を交えたレポート(A4:5枚以上)を提出し、その内容、作品、作曲家への考察をもとに評価します。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作曲技法 I	演奏	実	蒲池 愛

科目概要
<p>本授業は「クラシック作編曲実習」とリンクして進められるもので、各クォーターの制作課題に関連した作曲技法を学んでいきます。この科目では、講師の実務経験(CMやTV番組、ゲーム、アニメ、映画、のBGM作曲)に基づき歴史的な作品をアナリーゼし、自分の作品の幅を広げ本番を想定した楽譜制作してし自分が指揮をして音出します。Iクォーターではリズムにおける各種技法を、IIクォーターでは音色と和音について取り上げます。</p>
到達目標
<p>自身作曲作品において終止線を引くこと、パート譜を演奏者が見やすく完成させることまで到達することは本当に大変だと思いますが、音出しまでクラス全員で協力し合って、演奏者の立場を考えて音出しを成功させることです。</p>

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムと拍子	リズム、拍子に関する考察 アフリカリズムの起源から発展までを考察
第2回	奏法と記譜	打楽器楽器紹介楽器法 素材カテゴリーに分けて考察
第3回	リズム対位法(1)	アンサンブルによるリズム書法 ポリリズムや複合拍子について考えます。
第4回	リズム対位法(2)	アンサンブルによるリズム書法(実習) 楽器の持ち替え 時間案サブル譜の応用について考えます。
第5回	近現代の技法	ポリリズム他 民族音楽からのアイデア ヴァーレーズのIONISATIONを分析し意見交換
第6回	打楽器アンサンブルによる作品制作	打楽器アンサンブルによる作品制作してみます。まずリズムのスケッチを手書きで書き、浄書ソフトによる記譜も実践。
第7回	打楽器アンサンブルによる作品制作および音出し	打楽器アンサンブルによる作品制作および音出し。演奏者にわかりやすく見やすいパート譜やスコア作りと製本を行います。

クォーター末試験評価方法  
 平常点20% 提出物30% 出席点50%  
 出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。音出しの時にクラス全員で協力して、音出しを成功させられるか。演奏者の目線での見やすい楽譜作りを実践してもらいます。演奏者とのコミュニケーションもとても大事です。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音についての考察	倍音と倍音列 ホルンの楽器法、音域、ゲシュトップについて
第2回	音色についての考察	楽器の音色と倍音 各種楽器の特色、音色の相性
第3回	和音の重ね方	各種和弦(木管楽器) 和弦の説明 積み上げ、重ね合わせ、嵌め合わせなど考察します。和弦についての数小節例題課題実施。
第4回	和音の配置-実習(1)	スコアリング実習(前半) ホルンの音域 移調記譜について考えます。
第5回	和音の配置-実習(2)	スコアリング実習(後半) 木管楽器の特色を活かす編曲の考え方。装飾音など。作品企画書やスケッチでプレゼンテーション
第6回	作品制作実習 (1)	木管5重奏による作品制作 ピアノ譜曲を木管5重奏 10重奏にアレンジ
第7回	作品制作実習 (2)	木管5重奏による作品制作
第8回	クォーター末試験	木管5重奏(Fl, Ob., Cl., Bsns.&Hr.)による作品制作および音出し

学期末試験評価方法  
 平常点20% 提出物30% 出席点50%  
 出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。各楽器の音色の特徴を把握しているかどうか。適切な重ね方がなされているかどうか。音出しの時にクラスメートと協力して、音出しを成功させられるか。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作曲技法Ⅱ	演	実	蒲池 愛

科目概要

本授業は「クラシック作編曲実習」とリンクして進められるもので、各クォーターの制作課題に関連した作曲技法を学んでいきます。Ⅲクォーターでは各種和音について、Ⅳクォーターでは対位法書法について取り上げます。

到達目標

習作ですが、そこにどうやって自分のオリジナリティを入れていくか、沢山の作曲家の作品から手法、管弦楽法などを学び、学ぶだけではなく自分の作品に取り入れてみる事が大切です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和音の構造(1)	3度累積和音
第2回	和音の構造(2)	旋法による総合和音 旋法による総合和音についての数小節例題課題実施
第3回	歴史	金管楽器の歴史 吹奏楽の歴史 アメリカ、ヨーロッパの吹奏楽の違い
第4回	和音の重ね方	各種和弦(金管楽器)パーシケッティ20世紀和声法より 各種和弦(金管楽器)についての数小節実施
第5回	近現代の技法	ポリコード、クラスター他 ポリコードの積み方 また、金管ポリコードを使った作品を調べてみる
第6回	作品制作実習	金管アンサンブルによるファンファーレ作品制作
第7回	クォーター末試験	金管ファンファーレを打ち込みにて発表

クォーター末試験評価方法

平常点20% 提出物30% 出席点50%

金管楽器の重ね方が適切になされているかどうか。ファンファーレらしいアーティキュレーションを使った打ち込み方など音出し発表いたします。ポリコードを理解できているか。和音の重ね方など。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋律について	モノフォニー(単旋律、ユニゾン)、ヘテロフォニー他
第2回	ポリフォニー(1)	対旋律(オブリガート)の書法 divisiと重音可能か不可か 対旋律(オブリガート)の書法についての数小節例題課題実施
第3回	ポリフォニー(2)	対旋律の書法 solo と tuttiやunison
第4回	ホモフォニー	伴奏の書法考察 伴奏の書法考察についての課題実施
第5回	近現代の技法	複調、多調他 手書きで弦楽合奏のスケッチをスコアに書いてみる。
第6回	作品制作実習(1)	弦楽合奏による作品制作(前半)
第7回	作品制作実習(2)	弦楽合奏による作品制作(後半)
第8回	クォーター末試験	弦楽合奏による作品制作および音出し

学期末試験評価方法

平常点20% 提出物30% 出席点50%

出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。和弦、重音、div,unis,Tutti,声部受け渡し、オブリガートなどの工夫が適切になされているかどうか。音出しの時にクラス全員で協力して、音出しを成功させられるか。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作曲技法Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、年度末のオーケストラ試演へ向けて、分析と実習を繰り返し、様々な書法を学んでいきます。

到達目標

分析力と楽曲の知識向上、様々な書法の実践をグループ課題を取り入れ進めていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	保続とその効果(1)	保続の効果と使用箇所の分析を行います。
第2回	保続とその効果(2)	保続が使用されている楽曲の発表。
第3回	反復とその効果	各種反復進行 反復を使用した転調手法。
第4回	個別スコアチェック	個別にスコアチェックを行います。
第5回	スコア提出	木管試演曲のスコアを提出します。
第6回	木管試演	木管試演。/ rec.
第7回	1Q試験	試演でrecした音源を提出します。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	金管アンサンブル(1)	金管アンサンブルの試聴・分析。
第2回	金管アンサンブル(2)	金管アンサンブルのスコアリング。
第3回	金管試演振替休講	秋休み期間に行う金管試演の振替休講です。
第4回	カノン試演	制作したカノンをチェンバロで試演します。
第5回	金管アンサンブル個別スコアチェック	個別にスコアチェックを行います。
第6回	年度末試演曲のCメロ譜提出	構成を決定し、譜面を提出します。
第7回	金管アンサンブル スコア提出	スコアを提出します。
第8回	2Q試験	交響曲についての聞き取り試験を行います。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作曲技法Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、年度末のオーケストラ試演へ向けて、分析と実習を繰り返し、様々な書法を学んでいきます。

到達目標

分析力と楽曲の知識向上、様々な書法の実践をグループ課題を取り入れ進めていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クライマックス	オーケストレーション研究 / クライマックスの作り方。
第2回	譜面総括	作家・出版社によるスコア、アーティキレーションの違いを考察。
第3回	ハープについて	既存曲を聞き、譜面を分析します。
第4回	(振替休講)	3月試演分振替。
第5回	ソロ	オーケストラの中のソロの扱いについてを実習します。
第6回	スコアチェック	試演曲のスコアチェックを行います。
第7回	3Q試験	試演。/ rec.

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	個別スコアチェック	Tutti部分のスコアチェックを個別に行います。
第2回	作品研究(1)	オーケストレーション研究?音域、声部の違いによる対比。
第3回	作品研究(2)	オーケストレーション研究?強弱、動きの違いによる対比。
第4回	(振替休講)	3月試演分振替。
第5回	個別スコアチェック	個別にスコアチェックを行います。
第6回	スコア提出	スコアを提出します。
第7回	パート譜提出	パート譜を提出します。
第8回	4Q試験	試演曲の楽曲分析を各々発表します。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲実習 I	演習	実	岡澤 理絵

科目概要

この科目では講師の実務経験(様々な分野での作曲編曲家、教育現場での活動)に基づき、各種アコースティック木管楽器を紹介し、各々の楽器の持つ音質、音域、奏法等知識を習得します。またそれぞれの楽器のための小品を作り、曲の試演を行うことにより楽器を身近に感じつつ、さらに理解を深めます。最終的には二重奏を作り、試演会を行います。

到達目標

移調楽器を理解し木管楽器によるアンサンブル作品が書けるようになります。試演を行うことによりより一層のプロ意識が身に付きます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス・パート譜作成	木管楽器全般についてのガイダンス。ソロ楽器のための楽譜の書き方を学び、参考譜を見ながらパート譜を作成します。
第2回	フルート属の楽器紹介	フルートの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
第3回	フルート試演会	フルートの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
第4回	オーボエ属の楽器紹介	オーボエの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
第5回	オーボエ試演会	オーボエの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
第6回	移調楽器について	クラリネットを学ぶ準備として、B管・A管の移調楽器について学び、読み方、書き方を練習します。
第7回	これまでの授業確認テスト	フルート、オーボエの確認と、移調譜の作成を行います。

クォーター末試験評価方法

提出された作品で、楽器の理解度や曲作りの工夫を評価します 60%  
授業の取り組み方・出席など平常点 40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クラリネット属の楽器紹介	クラリネットの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
第2回	クラリネット試演会	クラリネットの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
第3回	テナー譜表について	ファゴットを学ぶ準備としてバス譜表の確認と、テナー譜表の読み方、書き方を練習します。
第4回	ファゴット属の楽器紹介	ファゴットの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
第5回	ファゴット試演会	ファゴットの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
第6回	二重奏作り～1	二重奏の書き方を学びます。ロンドン橋のメロディーを用いて二重奏にアレンジする練習を行います。
第7回	二重奏作り～2	オリジナル・又はアレンジのデュオ作品を作ります。パート譜も作成します。
第8回	二重奏作品の提出&試演会	各自が作ったオリジナル・又はアレンジのデュオ作品の提出と試演会を行います。

学期末試験評価方法

提出された作品で、楽器の理解度や曲作りの工夫を評価します 60%  
授業の取り組み方・出席など平常点 40%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲実習Ⅱ	演習	実	岡澤 理絵

科目概要

この科目では講師の実務経験(様々な分野での作曲編曲家、教育現場での活動)に基づき、各種の金管楽器について授業を行います。唇の振動→マウスピース→本体へと音を出す仕組みの理解、倍音で構成される高音の難しさや、圧倒的な音量、音域、奏法等知識を習得します。またそれぞれの楽器のための小品を作り、曲の試演を行うことにより楽器を身近に感じつつ、さらに理解を深めます。最終的には各自がファンファーレを作り、試演会を行います。

到達目標

金管楽器のソロやアンサンブル作りが行えるようになります。B管・F管楽譜に慣れ、スコアを読みながら作品の分析も行える力を養います。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	金管楽器について・F管の移調	金管楽器の種類や特性、倍音列を理解します。F管の読み方、書き方も学びます。
第2回	トランペット楽器紹介	トランペットの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
第3回	トランペット試演会	トランペットの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
第4回	チューバ楽器紹介	チューバの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
第5回	チューバ試演会	チューバの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
第6回	トロンボーン楽器紹介	トロンボーンの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
第7回	移調楽器の確認と倍音列の作成	F管・B管の移調練習と、倍音列の確認を行います。

クォーター末試験評価方法

移調楽器の楽譜の書き方と倍音の理解 50%  
 創作と音出しによる意欲など平常点 50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	トロンボーン試演会	トロンボーンの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
第2回	ホルン楽器紹介	ホルンの演奏法や楽器のしくみ、音域と音色を演奏者にお越しいただき学びます。参考曲を楽譜と音で紹介します。
第3回	ホルン試演会	ホルンの作品を作り、楽譜を書きます。更に演奏者による試演を行います。
第4回	ファンファーレ作りの準備	様々な時代につくられた金管楽器のアンサンブルの曲を、楽譜と音で紹介します。楽譜を読み、分析してみます。
第5回	ファンファーレ作り～1	ユーモレスクの金管五重奏アレンジを参考に、エンターテーナーの始めの部分をアレンジしてみましよう。
第6回	ファンファーレ作り～2	ハナミズキの歌を、アレンジしてみよう。金管アンサンブルでは、演奏しやすい調を先ず考えましよう。
第7回	ファンファーレ作り～3	金管アンサンブルの曲を作りましよう。2～5本を使用した編成でのオリジナル作品、又はアレンジの作品作りです。
第8回	金管楽器の作品提出&試演会	各自が作ったオリジナル・又はアレンジの作品提出と試演会を行います。

学期末試験評価方法

提出された作品で、楽器の理解度や曲作りの工夫を評価します 60%  
 授業の取り組み方・出席など平常点 40%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲実習Ⅲ	実習	実	徳備 康純

科目概要

木管五重奏作品を分析し、簡単な作・編曲の練習を繰り返す中から、室内楽の作曲を行います。これにより、アンサンブルの書法を習得し、作った作品の音出しで指揮をするなどして、作曲家としての仕事のあらましを学びます。尚、講師はヤマハ音楽振興会での勤務の後、作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行うなどの実務経験を持つ。

到達目標

楽器法をよく理解し、アンサンブル作品の作曲技法の基礎を理解すること、アンサンブルでインザッツを出すことで、演奏についてもより深く理解することを目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	木管五重奏の各楽器の紹介	フルートとオーボエ、クラリネット、ホルン、パースーンの音域・機能・特徴について説明します。
第2回	移調楽器について	楽器法の続きを行い、クラリネット、ホルンなどの移調楽器の移調方法について実習をします。
第3回	ボザのスケルツォの分析	ボザの木管五重奏のための「スケルツォ」のスコアを分析し、アンサンブルの書法、楽器の受け渡しを学びます。
第4回	ミヨーのルネ王の暖炉の分析	ミヨーの木管五重奏のための「ルネ王の暖炉」のスコアを分析し、楽器の重ね方を学びます。
第5回	イベールの3つの小品の分析	イベールの木管五重奏のための「3つの小品」のスコアを分析し、木管五重奏における伴奏の書法を学びます。
第6回	フランスの木管五重奏曲第1番の分析	平易な響きの中で、フラッターなどの技法を使った作品の分析を行います。
第7回	リゲティの木管五重奏の分析	特殊奏法など木管五重奏の可能性について学びます。

クォーター末試験評価方法

オリジナルの木管五重奏を前提としたコンデンススコアとなっているか、また和声の流れ、構成などに無理がないかなどを総合的に評価します。試験80%、出席点20%。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声的な作品の編曲	ロシア民謡などを題材に、大譜表から木管五重奏に編曲する実習を行います。
第2回	トゥツィとソロ、響きについて	ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第6番を素材として、トゥツィとソロの対比について学びます。
第3回	メロディー+伴奏の単純な編曲 1	マーチの大譜表を木管五重奏に編曲する実習を行います。
第4回	メロディー+伴奏の単純な編曲 2	ワルツの大譜表を木管五重奏に編曲する実習を行います。
第5回	Cメロからの編曲実習 1	よく知られた(よく編曲される)民謡を題材に、声部の受け渡しを使ったコンデンス制作し、木管五重奏への編曲を試作します。
第6回	Cメロからの編曲実習 2	シュトラウスのワルツを題材に、コンデンスを制作し、木管五重奏への編曲を試作します。また、音出しに向けパート譜の説明をします。
第7回	Cメロからの編曲実習 3	シュトラウスのポルカを題材に、コンデンスを制作し、木管五重奏への編曲を試作します。また、音出しに向けパート譜の説明をします。
第8回	生楽器による音だし・録音	自ら作曲し、編曲した木管五重奏のための作品(1分以上の演奏会用小曲)のスコア、パート譜を制作。

学期末試験評価方法

オリジナルの木管五重奏作品のスコアを提出し、その作品を音出しする。楽器法を理解し、正しいスコアを書けているか、そして音楽としてまとまりのある音楽がその編成で実現できているかを総合的に判断し、評価する。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲実習Ⅳ	実習	実	徳備 康純

科目概要

弦楽による室内楽作品の分析、そして編曲・作曲などを中心に行いながら、オーケストラの基本である弦楽四重奏をベースとしてそれを拡大していく方法を学び、オーケストラ編曲法の基礎を学び、最終的に弦楽四重奏作品を作曲し、それを自ら主導して試演します。尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。

到達目標

オーケストラの中で中核となる、弦楽セクションの書法を理解し、弦楽四重奏の小品を作曲し、自ら主導してその音出しをし、録音をします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	弦楽器の基本的な説明	楽器の性能・機能、編成の特徴について基本的な理論をまず理解します。
第2回	ハイドンの弦楽四重奏曲「皇帝」の分析	ハイドンの弦楽四重奏曲「皇帝」の第2楽章を分析し、簡単なメロディーと伴奏の編曲をします。
第3回	モーツァルトの弦楽四重奏曲「狩り」の分析	モーツァルトの弦楽四重奏曲「狩り」の第1楽章を分析し、ハーモナイズされた作品のコンデンスからの編曲を試作してみます。
第4回	モーツァルトの「不協和音」の分析	モーツァルトの弦楽四重奏曲「不協和音」の第1楽章冒頭を分析し、和声的な作品の弦楽との相性の良さを学びます。
第5回	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第1番の分析	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第1番の第1楽章冒頭を分析とし、効果的なトゥッティの書き方について学び、試作します。
第6回	ドビュッシーの弦楽四重奏曲の分析	ドビュッシーの弦楽四重奏曲の分析し、その曲からコンデンスを書き出して、書法を詳しく学び、それを応用して試作します。
第7回	ラヴェルの弦楽四重奏曲の分析	ラヴェルの弦楽四重奏曲の分析し、トレモロ、分散和音などの弦楽器特有の書法を学びます。

クォーター末試験評価方法

大編成の室内楽作品を前提としたコンデンススコアとなっているか、また和声の流れ、構成などに無理がないかなどを総合的に評価します。試験80%、出席点20%。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コントラバスと弦楽セクションについて	モーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」をコンバスが入る場合と入らない場合の違いを知り、その使い方を学びます。
第2回	ストラヴィンスキーの3つの小品の分析	ストラヴィンスキーの弦楽四重奏曲を原曲とする管弦楽のための3つの小品を分析し、四重奏からの拡大方法について学びます。
第3回	ショスタコーヴィチの室内交響曲の分析	ショスタコーヴィチの弦楽四重奏曲第3番を原曲とするバルチャイ編曲の室内交響曲を分析し、編曲法について学びます。
第4回	イベールのサクソフォン協奏曲の分析	イベールのサクソフォン協奏曲のスコアを分析し、各楽器が一人での室内楽編成での配置を学びます。
第5回	ブリテンのシンフォニエッタの分析	ブリテンのシンフォニエッタのスコアを分析し、分厚く音を重ねず、それぞれの楽器の響きを生かした配置を学びます。
第6回	コンデンスからの弦楽四重奏への編曲実習	弦楽四重奏からその拡大編成のスコアへの編曲実習で、まずコンデンスを書き、弦楽四重奏に編曲します。
第7回	弦楽四重奏から室内合奏への編曲実習	前の時間からひき続き、弦楽四重奏からのアンサンブルへの編曲を行います。
第8回	生楽器による音だし・録音	自ら作曲し、編曲した弦楽四重奏のための作品(1分以上の演奏会用小曲)のスコア、パート譜を制作。

学期末試験評価方法

大編成の室内楽作品のスコアを提出し、その音出しをする。楽器法を理解し、正しいスコアを書けているか、そして音楽としてまとまりのある音楽がその編成で実現できているかを総合的に評価します。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラー理論基礎 I(a)	演習	実	隼田義博

科目概要

ハーモニーとメロディの視点からポピュラーミュージックを分析し、自己の作品に模倣・応用できる様々な作曲知識とスキルを学びます。春学期はポップスにおけるダイアトニック・ハーモニーの基礎を中心に学習します。尚、講師はトレイラー専門音楽出版社の作曲家としてトレイラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

ダイアトニック・コードのほか様々なノンダイアトニック・コード、スケールに関する知識をもとに、あらゆるポップスの曲をハーモニーとメロディの視点から分析できることを目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コード 1	トライアド(3和音)とセブンスコード(4和音)の様々な種類と構造について。
第2回	コード 2	コードトーンとテンションの関係、様々なボイスングについて。
第3回	メジャー・キーのダイアトニック・コード 1	メジャー・キーのダイアトニック・コードの種類と構造について。
第4回	メジャー・キーのダイアトニック・コード 2	メジャー・キーのダイアトニックコードの機能と代理機能について。
第5回	マイナー・キーのダイアトニック・コード 1	マイナー・キーのダイアトニック・コードの種類と構造について。
第6回	マイナー・キーのダイアトニック・コード 2	マイナー・キーのダイアトニックコードの機能と代理機能について。
第7回	ダイアトニックコードのまとめ	コード、スケール、メジャー/マイナー・キーのダイアトニックコードのまとめ試験。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メロディ、コードとスケール	コード・トーンとノン・コード・トーン、コードスケールの考え方について。
第2回	セカンダリ・ドミナント 1	セカンダリ・ドミナントの仕組みと構造について。
第3回	セカンダリ・ドミナント 2	セカンダリ・ドミナントを用いた様々な進行について。
第4回	ディミニッシュ・セブンス・コード 1	Dim7th コードの構造、パッシングディミニッシュの使用について。
第5回	ディミニッシュ・セブンス・コード 2	パッシング以外のディミニッシュの使用と、ディミニッシュのコードスケールについて。
第6回	モーダル・インターチェンジ 1	同主短調からの借用和音と様々な進行について。
第7回	モーダル・インターチェンジ 2	同主短調以外からの代表的な借用和音と様々な進行について。
第8回	ノンダイアトニック・コードのまとめ	代表的なノンダイアトニック・コードのまとめ試験。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラー理論基礎 II(a)	演習	実	隼田義博

科目概要
ハーモニーとメロディの視点からポピュラーミュージックを分析し、自己の作品に模倣・応用できる様々な作曲知識とスキルを学びます。春学期では今後の学習における基礎となるダイアトニック・ハーモニーを中心に学習します。尚、講師はトレーラー専門音楽出版社の作曲家としてトレーラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。
到達目標
既存曲をコンセプトに沿ったリハモニゼーションでアレンジしたり、長調短調以外の旋法音楽の響を自己作品に取り入れて表現することができることを目指します。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リハモニゼーション1	ダイアトニックコードを利用した様々なリハモニゼーションについて。
第2回	リハモニゼーション2	ドミナントコードのドミナントモーションおよび他の進行のバリエーションについて。
第3回	リハモニゼーション3	パッシング以外のディミニッシュの使用と、ディミニッシュを使ったリハモニゼーションについて。
第4回	リハモニゼーション4	モーダルインターチェンジコードを使ったリハモニゼーションについて。
第5回	リハモニゼーション5	様々な転調パターンと効果的な転調の仕組みについて。
第6回	リハモニゼーション6	アッパーストラクチャーやグリッパなど様々なボイスの響きを利用したリハモニゼーションについて。
第7回	リハモニゼーションのまとめ	学習したリハモニゼーションのテクニックのまとめ試験。

クォーター末試験評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。</li> <li>・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。</li> <li>・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。</li> </ul>

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	教会旋法の歴史と音階構造	旋法そのものについて意味や調性音楽との響きの違い、教会旋法の音階構造を確認。
第2回	教会旋法の構造と響きの特徴	教会旋法の個々の響きの特徴とその仕組みについて確認。
第3回	旋法音楽の表現方法1	和音進行をともわないリニアな表現方法について。
第4回	旋法音楽の表現方法2	コード進行をともなう表現方法について。
第5回	旋法音楽の表現方法3	ダイアトニックハーモニーをもととした曲の中で旋法の響きをブレンドする表現方法について。
第6回	旋法音楽の表現方法4	旋法の響きを表すその他の様々なアレンジテクニックについて。
第7回	教会旋法以外の様々な旋法	世界の諸民族の旋法、和声/旋律短音階から派生する旋法などについて。
第8回	旋法のまとめ	学習した旋法に関するまとめ試験。

学期末試験評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。</li> <li>・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。</li> <li>・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。</li> </ul>

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラー理論基礎 I (b)	演習	実	隼田義博

科目概要
リズム・セクションの書法、メロディの書法、和音のボイスিংをはじめ、イントロやエンディングなどの編曲の基礎知識を学習します。尚、講師はトレイラー専門音楽出版社の作曲家としてトレイラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。
到達目標
ポピュラー理論基礎 I aで学習したポピュラーセオリーを反映した自身の作曲作品に対して、リズムセクションのアンサンブルでアレンジすることを目指します。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムセクションの概念	ポップミュージックにおけるリズムセクションの重要性について。
第2回	ドラムスの楽器法と記譜法	ドラムの楽器法とその記譜法、奏法について。
第3回	ベース&ギターの楽器法と記譜法	ベースとギターの楽器法とその記譜法、奏法について。
第4回	ピアノ&キーボードの楽器法と記譜法	ピアノとキーボードの記譜法、奏法について。
第5回	アレンジの要素	メロディに合ったリズムのキメやフィルの入れ方、その記譜法について。
第6回	様々なリズム(1)	8ビートと16ビートのリズムとリズムセクションのアレンジについて。
第7回	リズムセクションのまとめ	リズム楽器の記譜法の筆記試験と様々なリズムのヒアリングテスト。

クォーター末試験評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。</li> <li>・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。</li> <li>・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。</li> </ul>

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メロディとフレージング	メロディラインをリズムの種類によって変える方法を学習し、簡単なメロディフェイクも考察。
第2回	シンコペーション、アンティシンペーション	アフタービートのノリやシンコペーションのリズムの表記法やリズムの感じられる譜面の書き方について。
第3回	スラッシュ表記とリズムパターン	リズム譜に使用されるスラッシュの表記法を学習し、コードネームの記す位置や書き方について。
第4回	バックグラウンドライン	主旋律に対する動きのバランスや統一など基礎的な書き方について。
第5回	イントロ	循環コードを用いた簡単なイントロからメロディのモチーフから応用したラインの作成などについて。
第6回	エンディング	簡単な代理コードを使ったクライマックスの作り方やテンポ変化、ドラムのエンドフィルなどについて。
第7回	アレンジ実習	オリジナル曲をもとに4リズム+1パート(メロディ)の編曲を作成。
第8回	アレンジ実習～提出	オリジナル曲をもとに4リズム+1パート(メロディ)の編曲を作成し提出。

学期末試験評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。</li> <li>・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。</li> <li>・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。</li> </ul>

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラー理論基礎 II (b)	演習	実	隼田義博

科目概要

リズム・セクションの書法、メロディの書法、和音のボイスিংをはじめ、イントロやエンディングなどの編曲の基礎知識を学習します。尚、講師はトレイラー専門音楽出版社の作曲家としてトレイラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

ポピュラー理論基礎 IIaで学習したポピュラーセオリーを反映した自身の作曲作品に対して、リズムセクションのアンサンブルでアレンジすることを目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2パートライティング(1)	パートライティングの種類と効果について、既存曲を分析し確認。
第2回	2パートライティング(2)	2パートソリを用いたハーモニーパートの作り方と、パーカッシブなバックアップについて。
第3回	2パートライティング(3)	独立した2パートの書法について。
第4回	様々なリズム(2)	スウィングやシャッフルといったバウンス系のリズム及びその表記法について。
第5回	様々なリズム(3)	サンバやボサノバといったラテン系のリズム及びその表記法について。
第6回	スコアリング(1)	2ホーン+4リズム+ラテンパーカッションの簡単なスコアリングを学習。
第7回	2パートライティングのまとめ試験	2パートライティングに関する筆記試験と様々なリズムのヒアリングテスト。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ヴォーカルアレンジ	男声、女声の声域やアレンジのバラエティを音源等を参考に確認。
第2回	サクソとフルート	サクソ、フルートの楽器法と、楽器の特色など移調も含めて確認。
第3回	トランペットとトロンボーン	トランペット、トロンボーンの音色や特色など移調も含めて確認。
第4回	小編成のブラスセクション1	トランペット、アルトサクソ、トロンボーンの編成でのアレンジについて。(主にユニゾン、オクターブ)
第5回	小編成のブラスセクション2	トランペット、アルトサクソ、トロンボーンの編成でのアレンジについて。(ハーモニーライティング)
第6回	スコアリング(2)	強弱記号やアーティキュレーションの付け方等を学び、又パート譜の作り方について。
第7回	アレンジ実習	4リズム+2ホーン(又はヴォーカル+1ホーン)の編成のスコアリング。
第8回	アレンジ実習～提出	4リズム+2ホーン(又はヴォーカル+1ホーン)の編成のスコアリング完成～提出。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	クラシック作編曲実習 I	演	実	蒲池 愛

科目概要

最終目標であるオーケストラによる作編曲への準備段階として、オーケストラの各セクションの書法について順次学んでいきます。I クォーターでは、打楽器アンサンブル、II クォーターでは木管アンサンブルによる作品制作および音出しを行います。この科目では、講師の実務経験（CMやTV番組、ゲーム、アニメ、映画、のBGM作曲）に基づき音出しの時のレコーディングを勉強します。

到達目標

演奏者にとって見やすい楽譜、見やすい指揮、言葉遣い、スコアの製本など、コミュニケーションを目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	打楽器について(1)	打楽器の構造および種類 リズム起源
第2回	楽器紹介-打楽器	各打楽器の音響と奏法 打楽器科の方の楽器紹介を実施
第3回	打楽器について(2)	打楽器の各種奏法と記譜のしかた
第4回	打楽器アンサンブルの書法(1)	打楽器アンサンブル曲の分析(邦人作曲家・ケチャ他)
第5回	打楽器アンサンブルの書法(2)	打楽器アンサンブル曲の分析(ヴァレーズ・ジョリヴェ他)
第6回	作品制作実習	打楽器アンサンブル作品制作
第7回	打楽器の構造および種類 リズム起源	打楽器アンサンブルによる作品制作および音出し

クォーター末試験評価方法

平常点20% 提出物30% 出席点50%  
出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。各種打楽器がうまく扱われているかどうか。打楽器アンサンブルにふさわしい作品であるかどうか。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	木管楽器について (1)	木管楽器の特徴、各楽器の音域・特性・奏法など
第2回	木管楽器について (2)	木管楽器の組み合わせ方(嵌め合わせ)とホルン奏法
第3回	木管アンサンブルの書法(1)	木管五重奏曲の分析(有名楽曲編曲篇)
第4回	木管アンサンブルの書法(2)	木管五重奏曲の分析(ボザ)
第5回	木管アンサンブルの書法(3)	木管アンサンブル曲の分析・ホルンミュートの使い方特集
第6回	木管アンサンブルの書法(4)	木管アンサンブル曲の分析(Fls.,Obs.,Cls.,Bsns.Hrs.) 楽曲
第7回	作品制作実習	木管管5重奏による作品制作
第8回	クォーター末試験	木管5重奏作品制作および音出し。音出しをクラス全員で協力しあって、演奏者に対してわかりやすい楽譜作成

学期末試験評価方法

平常点20% 提出物30% 出席点50%  
出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。各木管楽器の特性が活かされているかどうか。楽器の使い分けが適切になされているかどうか。音出しにて演奏者とうまくコミュニケーションが取れるか。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	クラシック作編曲実習Ⅱ	演	実	蒲池 愛

科目概要

最終目標であるオーケストラによる作編曲への準備段階として、オーケストラの各セクションの書法について順次学んでいきます。Ⅲクォーターでは、金管アンサンブル、Ⅳクォーターでは弦楽合奏による作品制作および音出しを行います。この科目では、講師の実務経験(CMやTV番組、ゲーム、アニメ、映画、のBGM作曲)に基づき音出しの時のレコーディングを勉強します。

到達目標

ひとつの音楽制作プロダクションと仮定し、音出しをスムーズに細々とした気遣い、全員協力しながら、演奏者との快適な音楽作りを目指し作品を仕上げます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	金管楽器について(1)	金管楽器の特徴、各楽器の音域・特性・奏法など
第2回	金管楽器について(2)	各種ミュート、特殊奏法
第3回	金管アンサンブルの書法(1)	作品研究-ファンファーレ(邦人作曲家)
第4回	金管アンサンブルの書法(2)	作品研究-ファンファーレ(湯浅譲二・ジョンウィリアムズ、武満徹)
第5回	金管アンサンブルの書法(3)	作品研究-金管楽器によるポリコード演習
第6回	作品制作実習	金管アンサンブルによるファンファーレ作品制作
第7回	クォーター末試験	金管アンサンブル打ち込みにてファンファーレ発表

クォーター末試験評価方法

平常点20% 提出物30% 出席点50%  
出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。金管アンサンブルにふさわしい作品であるかどうか。各楽器の使い分けが適切になされているかどうか。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	弦楽器について (1)	弦楽器の特徴、各楽器の音域、特性、奏法など
第2回	弦楽器について (2)	弦楽器の各種奏法-ヴァイオリン独奏曲の研究・考察
第3回	弦楽アンサンブルの書法 (1)	弦楽四重奏曲の分析(アダージョ/チャイコフスキー)
第4回	弦楽アンサンブルの書法 (2)	弦楽合奏曲の分析-低弦の扱い方(グリーグ)
第5回	弦楽アンサンブルの書法 (3)	弦楽合奏曲の分析-和音の重ね方
第6回	弦楽アンサンブルの書法 (4)	弦楽合奏曲の分析-さまざまな奏法 (バルトーク)
第7回	作品制作実習	弦楽合奏による作品制作
第8回	クォーター末試験	弦楽合奏による作品制作および音出し

学期末試験評価方法

平常点20% 提出物30% 出席点50%  
出席率と積極性を重視します。提出物期日厳守。弦楽器の特性が活かされているかどうか。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	クラシック作編曲実習Ⅲ	実習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験（TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動）に基づき、年度末のオーケストラ試演へ向けて、分析と実習を繰り返し、様々な書法を学んでいきます。

到達目標

分析力と楽曲の知識向上、様々な書法の実践をグループ課題を取り入れ進めていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	保続とその効果(1)	保続の効果と使用箇所の分析を行います。
第2回	保続とその効果(2)	保続が使用されている楽曲の発表。
第3回	反復とその効果	各種反復進行 反復を使用した転調手法。
第4回	個別スコアチェック	個別にスコアチェックを行います。
第5回	スコア提出	木管試演曲のスコアを提出します。
第6回	木管試演	木管試演。/ rec.
第7回	1Q試験	試演でrecした音源を提出します。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	金管アンサンブル(1)	金管アンサンブルの試聴・分析。
第2回	金管アンサンブル(2)	金管アンサンブルのスコアリング。
第3回	金管試演振替休講	秋休み期間に行う金管試演の振替休講です。
第4回	カノン試演	制作したカノンをチェンバロで試演します。
第5回	金管アンサンブル個別スコアチェック	個別にスコアチェックを行います。
第6回	年度末試演曲のCメロ譜提出	構成を決定し、譜面を提出します。
第7回	金管アンサンブル スコア提出	スコアを提出します。
第8回	2Q試験	交響曲についての聞き取り試験を行います。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	クラシック作編曲実習Ⅳ	実習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験（TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動）に基づき、年度末のオーケストラ試演へ向けて、分析と実習を繰り返し、様々な書法を学んでいきます。

到達目標

分析力と楽曲の知識向上、様々な書法の実践をグループ課題を取り入れ進めていきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クライマックス	オーケストレーション研究。クライマックスの作り方。
第2回	譜面総括	作家・出版社によるスコア、アーティキレーションの違いを考察。
第3回	ハーブについて	既存曲を聞き、譜面を分析します。
第4回	(振替休講)	3月試演分振替。
第5回	ソロ	オーケストラの中のソロの扱いについてを実習します。
第6回	スコアチェック	試演曲のスコアチェックを行います。
第7回	3Q試験	試演。/ rec.

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	個別スコアチェック	Tutti部分のスコアチェックを個別に行います。
第2回	作品研究(1)	オーケストレーション研究。音域、声部の違いによる対比。
第3回	作品研究(2)	オーケストレーション研究。強弱、動きの違いによる対比。
第4回	(振替休講)	3月試演分振替。
第5回	個別スコアチェック	個別にスコアチェックを行います。
第6回	スコア提出	スコアを提出します。
第7回	パート譜提出	パート譜を提出します。
第8回	4Q試験	試演曲の楽曲分析を各々発表します。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラー音楽理論 I	演習	実	篠崎 秀樹

科目概要

春学期は1,2年時に学習して来た復習から始め、基礎知識の理解度を高めると同時に、単なる復習で終わらず、より難易度の高い内容を講義します。機能的に代理コードを学習し、テンションノートをアヴェイラブルスケール合わせて学習します。尚、講師はアレンジャーとしてジャズポップス及び映像音楽等の実務経験を持ちます。

到達目標

コード進行のアナライズ演習を数多くやる事でコード進行のヴァリエーションを習得します。メロディに即したスケールの選択が出来るようにします。後半はリハモナイズ演習を数多くやる事で応用力を身につけます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	小テスト (これまで学習した事の確認)	学生それぞれのポピュラー基礎理論の理解度を小テストによって確認し、その後の学習に役立てます。
第2回	代理コードとその機能別分類	代理コードを機能別に把握し、テンションの使い分け等を学びます。ポップス曲を課題に演習を行います。
第3回	アヴェイラブルスケールとテンション	V7に使われるスケールの整理、またテンションノートの使い分けなどを学習し、応用力を身につけます。
第4回	ケーデンスとセカンダリードミナント	機能別に偽ケーデンスを把握し、セカンダリードミナントのスケールやテンションを学びます。
第5回	リハモナイゼーション1	セカンダリードミナント、代理コード、II-Vのコード分解を利用したリハモナイゼーションを学びます。
第6回	リハモナイゼーション2	上記以外の様々なリハモナイゼーション、また派生コードなどを学習し、応用力を身につけます。
第7回	筆記試験 (コードスケール、代理コード)	第1クォーターで学習した全般の内容です。

クォーター末試験評価方法

筆記試験70% 小テスト20% 出席及び平常点10%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Voicing1(アプローチノート1)	ノンコードサウンド、アプローチノートサウンド、アプローチノートの概念について学びます。
第2回	Voicing1(アプローチノート2)	ディレイドリゾブルブ、ドミナントアプローチ、ダイアトニックスケールアプローチについて説明します。
第3回	Voicing3	Alternate Voicingやアプローチ定義外のアプローチ処理について説明します。
第4回	Voicing4	4thビルドハーモニーによる3声/4声のVoicingを木管アンサンブルに応用します。
第5回	2Part Writing	テンションを含むメロディラインに対するハーモニーラインの作成方法を学び、演習します。
第6回	4Way Spread Harmony1	4WayスプレッドによるB.G.ハーモニーを作成し、テンションサウンドでリッチな響きを習得します。
第7回	4Way Spread Harmony2	B.G.ハーモニーのトップボイスをメロディのB.G.ラインにする手法を学びます。
第8回	筆記試験と作品提出	第I、IIクォーターで学習した全般の内容です。

学期末試験評価方法

筆記試験50% 提出作品20% 小テスト20% 出席及び平常点10%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラー音楽理論Ⅱ	演習	実	篠崎 秀樹

科目概要

秋学期は作編曲実習の試演奏に連動しながら講義を進めます。ⅢクォーターはUpper Structure Triadを集中的に講義します。Ⅳクォーター前半は短期間で学習するには重い内容なので今後継続して学習して行くべきテーマとして講義します。尚、講師はアレンジャーとしてジャズポップス及び映像音楽等の実務経験を持ちます。

到達目標

ポップスのオーケストレーションに必要なハーモニーの作り方を習得し、様々なジャンルに使える音作りを出来るようにします。又、ブルースフィーリング、アドリブのフレージングなどポピュラー音楽に必要なフィーリングを応用課題によって習得します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期の復習	Upper Structure Triad(U.S.T.)に必要なコードとスケールの理解を深めます。
第2回	Upper Structure Triad(U.S.T.)1	オンベースコードと U.S.T.の違い、またU.S.T.の定義や条件を学びます。
第3回	U.S.T.2	課題曲のコードスケールに従い、U.S.T.サウンドを構築しながら学びます。
第4回	U.S.T.3	5Way以上のVoicingにU.S.T.を用い、U.S.T.サウンドを構築に対して理解を深めます。
第5回	Modal Phrasing	ポップスにもよく使われるモードを中心に、特性音などを使い、より進歩的なフレーズを学びます。
第6回	モーダルハーモニーとリハモナイゼーション	単一モードで作られたメロディラインにModal Harmonyを考えリハモナイゼーションを学びます。
第7回	筆記試験と作品提出	第Ⅲクォーターで学習した内容の筆記試験を行います。また作品のスコアを提出してもらいます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験30% 提出作品40% 小テスト20% 出席及び平常点10%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ポリモードとU.S.T.	U.S.T.のupper/lowerによる2パートライティング、ポリトナーリティーについて学びます。
第2回	様々なスケール(mode)	民族系/ペンタトニック系スケールについて学習します。
第3回	リズムヴァリエーションとコード進行	リズムヴァリエーションの違いによるリハモナイズを試行、オンベースコードの使い方をアナライズします。
第4回	ブルーススケール	ブルースフィーリングが出るリハモナイズについて学習します。
第5回	アドリブのフレージングのアナライズ	アドリブパートを打ち込む為のフレージングを学びます。また曲のカテゴリー別にアナライズします。
第6回	Poly Modeと映像音楽	ポリモードを用いた映画を参考にしながら、課題の映像に曲を制作します。
第7回	1年間の復習と重要なポイントについて	1年間を通じて学習した全般に渡り、重要なポイントや理解度が低いポイントを重点的に復習します。
第8回	作品提出 映像音楽とBig Band譜	映像課題の提出と発表、また作編曲実習の授業と連動でBig Bandのスコア提出と試演奏会を行います。

学期末試験評価方法

提出作品70% 小テスト20% 出席及び平常点10%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラー作編曲実習 I	実習	実	篠崎 秀樹

科目概要

ポップスブラス(サクソを含む)編曲法とポップスストリングス編曲法を講義します。春学期前半はポップスブラス編曲法の基礎を学びます。後半はポピュラーミュージックでは必要不可欠なラテンリズム(ブラジル系&キューバ系)の編曲法も講義します。尚、講師はアレンジャーとしてジャズポップス及び映像音楽等の実務経験を持ちます。

到達目標

ポップスでは不可欠なビート感を各種ジャンルに応じて習得します。またその記譜法も習得します。小編成のブラスセクションとストリングスセクションの書き方を習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズムセクションの概念	リズムセクションの重要性を説明します。リズムの種類を学習し、リズムパターンの表記についても学びます。
第2回	リズムセクションライティング	リズムセクションのアドリブ性等、実際の演奏とスコアを見比べながらwritingを学びます。
第3回	楽器法&記譜法(Sax.)	楽器の構造、移調楽器、記譜法等、クラシックと異なる奏法を学びます。
第4回	楽器法&記譜法(Trp.&Trb.)	楽器の構造、移調楽器、記譜法等、ポップス演奏における奏法を学びます。
第5回	ブラス&Saxのアーティキュレーション	ブラスやサクソのアーティキュレーション、アクセント、オフビートを感じさせる奏法等を学びます。
第6回	その他のブラス楽器法	フレンチホルン、ユーホニウム、チューバ等その他のブラス楽器に付いて記譜法等含めて学びます。
第7回	ヒアリング試験	第1クォーターで学習したリズムの種類とビートの違いをヒアリングテストで行います。

クォーター末試験評価方法

ヒアリング試験50% 演習40% 出席及び平常点10%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スコアライティングの基礎	リハーサルマーク、Col.、Simileなどの奏法、リピートやD.S.の書き方等を学びます。
第2回	strings編曲法1	violinを中心に、音色効果及び運弓法、ダブルストップなどの楽器法を、課題を交えて学びます。
第3回	strings編曲法2	violin以外のstrings楽器法を、クラシックの弦楽奏のスコアアナライズを交えて学びます。
第4回	strings編曲法3	ポップスオーケストラのストリングスセクションのボイスイングやフレージングを学びます。
第5回	Jazz Strings編曲法	Jazz strings4のテンションサウンド、リズムコンビネーションの編曲法を学びます。
第6回	ジャズコーラス編曲法	テンションサウンドでvoicingされたジャズハーモニーのコーラスを学びます。
第7回	Latin Rhythm	ブラジル系&キューバ系のラテンリズムのコンビネーションと楽器法を、実際の演奏を参考に学びます。
第8回	スコア提出と試演奏会	試演奏(音だし)の為に作品のスコアチェックをし、演奏者に試演してもらいます。

学期末試験評価方法

提出作品50% 演習40% 出席及び平常点10%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラー作編曲実習Ⅱ	実習	実	篠崎 秀樹

科目概要

秋学期の前半はポップスでよく使われるWood Windsを中心に講義します。後半はポップス・ジャズ特有のハイノートでのvoicingやリズムのノリやビートを意識したビッグバンドサウンドを中心に講義します。クォーター末にビッグバンド作品を制作し試演奏をしてスタジオ録音します。尚、講師はアレンジャーとしてジャズ・ポップス及び映像音楽等の実務経験を持ちます。

到達目標

ブラス、ストリングスに限らずポップスではいわゆるカッコいいフレージングやrichなサウンドを習得します。現代ポップスシーンで必要不可欠な編曲法を習得します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Wood Winds楽器法1	リコーダー、ティンホイッスル等の笛系と木管楽器の、楽器の構造、移調楽器、記譜法等を学びます。
第2回	Wood Winds楽器法2	ダブルリードの楽器の構造、移調楽器、記譜法等を学びます。
第3回	ノンメカニカル&5noteボイスिंग	ノンメカニカルボイスिंग、また、様々な用途に適応したハーモニーの付け方を学習します。
第4回	Rhythm Combination1	Vampなどで効果的なリズムコンビネーションや、曲のノリ等にあったカウンターポイントを学びます。
第5回	Rhythm Combination2	ラストリズムアタックなど効果的なテンションサウンドの使い方の違いや、コンビネーションを学びます。
第6回	Brass Sectionへの応用	Lead Trp.とハイレンジのTrb. Sectionを参考に、8Brassへの応用法を学びます。
第7回	スコア提出と試演奏会	試演奏の為の作品提出と試演奏の為のスコアチェックをします。

クォーター末試験評価方法

提出作品50% 演習40% 出席及び平常点10%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Big Band Writing1	ポピュラー音楽理論で学んでいる事を加味し、実際の演奏とスコアを見比べwritingを学習します。
第2回	Big Band Writing2	ポピュラー音楽理論で学んでいる事を加味し、実際の演奏とスコアを見比べwritingを学習します。
第3回	Big Band+Strings	ポピュラー音楽理論Bで学んでいる事を加味し、実際の演奏とスコアを見比べwritingを学習します。
第4回	デキシーランドジャズとディズニー映画	ディズニー映画などに使われているデキシーランドジャズの作品に関して学びます。
第5回	ビッグバンドジャズとサスペンス映画	映画などで使われているビッグバンドジャズの作品に関して学びます。
第6回	Symphonic Jazz	ジョージガーシュイン、チックコリアなどのシンホニックジャズオーケストラの作品に関して学びます。
第7回	スコアチェック	試演奏の為の作品のスコアチェックをします。
第8回	スコア提出と試演奏会	試演奏の為の作品提出と試演奏の為のスコアチェックをします。

学期末試験評価方法

提出作品50% 演習40% 出席及び平常点10%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	DTM・DAW I	演習	実	新井 正俊

科目概要

この科目では、講師の実務経験(アニメ、ゲーム、CM等の音楽制作、アーティストへの楽曲提供など  
作曲／編曲家、マニピュレーターとしての活動)に基づき、作品を制作しながら機材操作、MIDIの基礎を習得します。  
授業前半ではテクニック解説と操作練習、後半は作品制作作業となりますので遅刻は厳禁です。

**到達目標**  
DAWの概念、基本操作、機材の名称を理解します。  
PCで表情豊かな演奏、音作りをするためには各種MIDIデータを理解し、使いこなすことが大切です。  
MIDIの基礎知識と楽器の特徴をとらえた表情豊かなデータ作成を習得し、作品を完成させます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	PCを使った音楽制作について	電子楽器の歴史を説明します。 PCを使って実際にどのようなことができるのか説明します。
第2回	PCを使った音楽制作について	教室機材の扱い方を説明します。 CUBASEのセッティング～保存までを練習します。
第3回	PCを使った音楽制作について	CUBASE、VOCALOIDの各種機能を説明します。 童謡を入力しながら基本操作を練習します。
第4回	PCを使った音楽制作について	作品を作りながらデータ入力練習を行います。
第5回	PCを使った音楽制作について	タイミング、ベロシティー、ノートレングスの編集を行います。
第6回	練習作品制作(Ⅲ)	ピッチベンド、モジュレーション、エクスプレッションを使い演奏に表情を付けます。
第7回	試験(作品提出)	音声ファイルフォーマットについて説明します。 簡単なミキシングをしてオーディオファイルとして完成させます。

クォーター末試験評価方法

作品をWAVファイルとして提出します。  
DAWソフトの基本機能を理解できているか、提出作品の完成度から評価します。  
試験(提出作品)60% 平常点20% 出席点20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDI基礎知識	MIDIの基礎知識、ソフト／ハードウェア音源、異なるDAW環境でのデータのやりとりについて説明します。
第2回	楽器の入力テクニック(Ⅰ) 作品制作(Ⅰ)	ドラム&パーカッションの特徴を捉えた打ち込み練習を行い、作品に反映させます。
第3回	楽器の入力テクニック(Ⅱ) 作品制作(Ⅱ)	鍵盤楽器&シーケンスの特徴を捉えた打ち込み練習を行い、作品に反映させます。
第4回	楽器の入力テクニック(Ⅲ) 作品制作(Ⅲ)	ベース&ギターの特徴を捉えた打ち込み練習を行い、作品に反映させます。
第5回	楽器の入力テクニック(Ⅳ) 作品制作(Ⅳ)	管弦楽器の特徴を捉えた打ち込み練習を行い、作品に反映させます。
第6回	譜面作成 作品制作(Ⅴ)	スコアエディター使い方を説明します。 メロディー&コード譜を作成します。
第7回	録音テクニック 作品制作(Ⅵ)	ミキサーとエフェクターについて説明します。 外部音源の録音を実践します。
第8回	試験(作品提出)	ミックスダウンを行い、オーディオファイルとして完成させます。 メロディー&コード譜をPDFファイルとして書き出します。

学期末試験評価方法

作品をWAVファイルとメロディー&コード譜(PDFファイル)として提出します。  
表情のある演奏ができているか、提出作品の完成度から評価します。  
見やすい譜面として完成しているか評価します。  
試験(提出作品)60% 平常点20% 出席点20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	DTM・DAW II	演習	実	新井 正俊

科目概要

この科目では、講師の実務経験(アニメ、ゲーム、CM等の音楽制作、アーティストへの楽曲提供など作曲／編曲家、マニピュレーターとしての活動)に基づき、作品を制作しながらシンセサイザーオペレート、オーディオ編集&エフェクトテクニックを習得します。また、オーディオ素材を扱ったリミックス的手法での楽曲構築、ミックスからマスタリングまでの工程を実践し、クオリティーの高い作品制作を目指します。

到達目標

シンセサイザーとエフェクターの音作り、オーディオ編集テクニック、ミックステクニックを習得し、クオリティーの高い作品に仕上げます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音ネタ制作(Ⅰ)	シンセサイザーの種類、各パラメーターの機能を説明します。効果音を作りながらシンセサイザーの操作練習を行います。
第2回	音ネタ制作(Ⅱ)	VOCALOIDのパラメーター、入力テクニックについて説明します。
第3回	音ネタ制作(Ⅲ)	エフェクターやオートメーションを併用し、フレーズ素材を作成します。
第4回	オーディオベースでの作品制作(Ⅰ)	オーディオ素材から楽曲を構築します。曲の構想、モチーフ等を考えます。
第5回	オーディオベースでの作品制作(Ⅱ)	オーディオ素材から楽曲を構築します。楽曲構成(展開)について考えます。
第6回	オーディオベースでの作品制作(Ⅲ)	エフェクター(EQ、COMP/LIM)について説明します。ミックスダウンを実践します。
第7回	試験(提出・試聴)	完成した楽曲をオーディオファイルとして提出します。試聴会を行い評価します。

クォーター末試験評価方法

作品をWAVファイルとして提出、試聴会を行います。  
音作り／オーディオ編集／エフェクト／ミックスのテクニックを作品の完成度から評価します。  
試験(提出作品)60% 平常点20% 出席点20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オーディオ編集テクニック(Ⅰ)	タイミング修正を実践します。
第2回	オーディオ編集テクニック(Ⅱ)	音程修正を実践します。
第3回	コンピレーション制作(Ⅰ)	グループに分かれ、テーマに沿った楽曲を制作します。各自、作品制作にとりかかります。
第4回	コンピレーション制作(Ⅱ)	各自、作品制作作業を行います。
第5回	コンピレーション制作(Ⅲ)	各自、作品制作作業を行います。グループ内で作業の進行具合を確認します。
第6回	コンピレーション制作(Ⅳ)	各自、作品制作作業を行います。ミックステクニックについて説明します。
第7回	コンピレーション制作(Ⅴ)	各自、ミックスを行い完成させます。グループ単位でマスタリングを行います。
第8回	試験(提出・試聴)	完成したアルバムをオーディオファイルとして提出します。試聴会を行い評価します。

学期末試験評価方法

作品をWAVファイルとして提出、試聴会を行います。  
機材の使いこなし、ミックスを重点におき、個々の楽曲、アルバムとしての完成度を評価します。  
試験(提出作品)60% 平常点20% 出席点20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ミュージックシンセサイズ I	演習	実	三堀 尚和

科目概要

DAWによる音楽制作の様々な操作を学ぶ授業です。第1クォーターでは音の基礎と録音技術、ProToolsとCubaseの違いについて学びます。第2クォーターではCubaseを使用して録音された素材をミックス、マスタリングを行い、完成に至るまでの操作を学びます。尚、講師は作編曲、レコーディングエンジニア、シンセサイザープログラマーとしての実務経験を持ちます。

到達目標

DAWを中心とし、シンセサイザーやサンプラーなどのソフトウェアを使用して、サウンドデザインとシミュレーションの両面において、思い通りの音作りができる能力を得る事を目的とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス～音の基礎知識(1)	授業の内容と進め方、評価方法のルールを説明します。また、基礎知識として音の3要素の一つである音量とdBを解説します。
第2回	音の基礎知識(2)	基礎知識として音の3要素のうち音程について学びます。また、周波数の単位であるHzと音階について解説します。
第3回	音の基礎知識(3)	基礎知識として音の3要素のうち音色について学びます。また、音色と倍音、波形との関連について解説します。
第4回	録音技術の歴史	録音技術の歴史上、必要から生まれたイコライザーやコンプレッサーなどの機材を解説します。
第5回	現代の録音技術	録音に必要なアナログ、デジタルの知識を解説、更に音の入口と出口であるマイク、スピーカー等の機材について解説します。
第6回	DAW上での編集と応用	現在の代表的なDAWであるProToolsとCubaseの違い、編集の可能性と各種フォーマットについて解説します。
第7回	クォーター末試験	基礎知識の理解度を確認するため、筆記試験を行います。

クォーター末試験評価方法

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性とやる気を重要視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミックス課題の実践・PTからのインポート	ProToolsであらかじめ録音されたセッションファイルからマルチトラック素材をCubaseへインポートする方法について解説します。
第2回	Cubase操作・楽器別のステムミックス	マルチトラック素材のミックスを通して作業の流れ、各トラックの説明とグループ作成、Cubase操作のポイント等を解説します。
第3回	エフェクト処理1・音量	コンプレッサーなど、ダイナミクス系プラグインの種類と操作を解説します。内容により順序が前後することがあります。
第4回	エフェクト処理2・音色	各種フィルターを含むイコライザー系プラグインの種類と操作を解説します。内容により順序が前後することがあります。
第5回	エフェクト処理3・残響	ディレイ、リバーブなどの残響系プラグインの種類と操作を解説します。内容により順序が前後することがあります。
第6回	ボーカルのトラック処理	ピッチ修正系を含むボーカル用プラグインの種類と操作を解説します。
第7回	2mixの作成と簡易マスタリング	仕上げの作業として2mixの作成とマキシマイザーを使用した簡易マスタリングの操作について解説します。
第8回	学期末実技試験	総合的な理解度を確認するため、課題曲の発表と提出をもって実技試験とします。

学期末試験評価方法

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性とやる気を重要視します。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ミュージックシンセサイズ II	演習	実	三堀 尚和

科目概要

DAWによる音楽制作の様々な操作を学ぶ授業です。第3クォーターではアナログシンセサイザーの操作、ループ素材の利用法を映像課題を通して学びます。第4クォーターでは代表的なプラグイン、様々な機能の操作等、実際の音楽制作で役立つ操作を習得します。尚、講師は作編曲、レコーディングエンジニア、シンセサイザープログラマーとしての実務経験を持ちます。

到達目標

現代の音楽制作に必要なプラグイン音源やサンプル素材の利用における知識と操作の習得、また映像課題を通してサウンドトラック制作の基礎となるテクニックを習得する事を目的とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	シンセサイザーの基礎1	シンセサイザーの構造～過去から現在までの代表的な音源方式と、音作りの基礎となる構造について解説します。
第2回	シンセサイザーの基礎2	シンセサイザー操作の基礎としてオシレーター、フィルター、アンプリファイヤーの仕組みと操作を解説します。
第3回	シンセサイザーの基礎3	シンセサイザー操作の基礎としてエンベロープ、LFO、モジュレーションマトリクス of の仕組みと操作を解説します。
第4回	シンセサイザーの応用1	映像課題を通して主にアナログシンセサイザーを使用した効果音作成とプラグインを含めた実際の音作りを解説します。
第5回	シンセサイザーの応用2	映像課題を通して主にサンプル素材を使用した効果音作成とプラグインを含めた実際の音作りを解説します。
第6回	シンセサイザーの応用3	映像課題を通して主なプラグイン音源を使用した楽曲制作、生楽器のシミュレーションとの実際の音作りを解説します。
第7回	クォーター末試験	理解度を確認するため、課題曲の発表と提出をもって実技試験とします。

クォーター末試験評価方法

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性とやる気を重要視します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲制作課題・実践と応用1	主にリズムのみで構成されるトラック制作とCubaseのサンプルデータベースの機能の操作を映像課題を通して解説します。
第2回	楽曲制作課題・実践と応用2	主にリズムのみで構成されるトラック制作とそれに適したプラグインの操作を映像課題を通して解説します。
第3回	楽曲制作課題・実践と応用3	リズムを主体としたトラックで構成される映像課題を完成させます。またデータベースの扱いについても解説します。
第4回	楽曲制作課題・実践と応用4	映像課題を通して総合的な楽曲制作を行います。映像に合わせたテンポマップの作成について解説します。
第5回	楽曲制作課題・実践と応用5	映像課題を通して総合的な楽曲制作を行います。効果音と楽曲に分け、様々なテクニックの紹介や操作法を解説します。
第6回	楽曲制作課題・実践と応用6	映像課題を通して総合的な楽曲制作を行います。各種専用音源の紹介や操作法を解説し、可能な限り個別対応します。
第7回	楽曲制作課題・実践と応用7	映像課題を通して総合的な楽曲制作を行います。可能な限り個別対応します。
第8回	学期末実技試験	総合的な理解度を確認するため、課題曲の発表と提出をもって実技試験とします。

学期末試験評価方法

試験の点数(30%)、平常点(20%)、出席数(50%)、トータル100%。減点方式を基本とし、遅刻は欠席同等の減点となります。積極性とやる気を重要視します。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	スタジオマニピュレート演習 I	演習	実	高木則幸

科目概要

この科目では講師の実務経験(アレンジャー、マニピレーター)に基づき、Cubase(又はLogic Pro)をホストアプリケーションとしたサードパーティー製音源やプラグイン(KOMPLETEシリーズ等)の総合的なマニピュレートテクニックを学びます。また、代表的なオーケストラ専用音源「Vienna」を使ったオーケストラの再現テクニックを学びます。

到達目標

サードパーティー製音源やプラグイン(KOMPLETEシリーズ、Vuenna等)を使いこなして、生楽器のシミュレートテクニックやループ音源の効果的な使い方を習得し、商品レベルの作品を完成させます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	科目の内容とスケジュールの確認、使用アプリケーションの解説を行います。
第2回	生楽器打ち込みテクニック1	サンプラーを活かした鍵盤系楽器の打ち込みを学びます。
第3回	生楽器打ち込みテクニック2	サンプラーを活かしたギター系楽器の打ち込みを学びます(前半)
第4回	生楽器打ち込みテクニック3	サンプラーを活かしたギター系楽器の打ち込みを学びます(後半)
第5回	楽曲アレンジ	学習した内容を生かして楽曲をアレンジしていきます。
第6回	仕上げとミキシング	作品を仕上げます。
第7回	クォーター末試験	完成作品の発表。

クォーター末試験評価方法

完成作品クオリティー、授業の理解度を総合評価:40点、平常点(出席点):60点

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Viennaについて	サードパーティー製オーケストラ音源「Vienna」について学びます。
第2回	キースイッチとコントローラー	キースイッチとコントローラーによる音色変化の方法を学びます。
第3回	ストリングスパートの作成	より生演奏に近いストリングスパートの打ち込みについて学びます。
第4回	ストリングスソロパートの作成	バイオリン等のソロパートのシミュレーションテクニックを学びます。
第5回	ブラスパートの作成	リアルな管楽器パートの打ち込みについて学びます。
第6回	打楽器パートの作成	リアルな打楽器パートの打ち込みについて学びます。
第7回	仕上げとミキシング	オーケストラ音源のミキシングについて学び、作品を仕上げます。
第8回	クォーター末試験	完成作品の発表。

学期末試験評価方法

完成作品クオリティー、授業の理解度を総合評価:40点、平常点(出席点):60点

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	スタジオマニピュレート演習Ⅱ	演習	実	高木則幸

科目概要

この科目では講師の実務経験(アレンジャー、マニピュレーター)に基づき、各自のオリジナル曲を使い、D-MAC SONGS等のレーベル制作で行っているような、楽曲のブラッシュアップと本格的なミキシングとマスタリングを学習します。

到達目標

D-MAC SONGS等のレーベルと同クオリティーの、商品レベルの楽曲制作とミキシング、マスタリング技術を習得し、商品レベルの作品を完成させます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	ブラッシュアップするための作品提出。
第2回	アレンジの確認	アレンジのミスや、足りない箇所を修正、追加します。
第3回	音源差し替え1	ドラム系、リズム系の音色を確認、必要であれば音源の差し替えを行います。
第4回	音源差し替え2	その他のパートでも必要に応じて音源の差し替えを行います。
第5回	ボーカルピッチ補正	ボーカルパートのピッチ補正を行います。
第6回	ブラッシュアップ仕上げ	Midiパートのオーディオ書き出しを行い、ミキシングに備えます。
第7回	作品提出	細部のチェックを行い、データの提出と発表。

クォーター末試験評価方法

作品の完成度と学習を活かした制作がされているかを評価…40点、平常点(出席点)60点

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミキシング1	ミキシングの心得と準備を行います。
第2回	ミキシング2	トラックの整理とローカットを行います。
第3回	ミキシング3	ダイナミクス系プラグインの設定を行います。
第4回	ミキシング4	FXセンドとリバーブの設定を行います。
第5回	ミキシング5	マスターレベルの設定とラフミックスを行います。
第6回	ミキシング6	バランス調整と帯域補正を行います。
第7回	マスタリング	音圧の設定と測定を行います。
第8回	作品発表	ファイルフォーマットの確認と作品発表、提出します。

学期末試験評価方法

作品の完成度と学習を活かした制作がされているかを評価…40点、平常点(出席点)60点

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽プログラム研究A	講義	実	有馬知章

科目概要
この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー、大学での研究(音響工学)、スタンフォード大学CCRMA特別講座受講)に基づき、コンピュータを使って音楽を表現するために、音楽に関するいろいろな情報、演奏、音、楽器などを数学的、物理的に研究します。従来の演奏・作曲・編曲という知識を違う視点で考え、自分の発想を広げます。
到達目標
音楽をいつもとは違う角度から考察して、新しい発想で音楽を作れるようになります。コンピュータで音楽を作る際に必要な知識を身につけます。音を作るということを理解します。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	電子音楽の歴史	電子音楽の歴史と作品の鑑賞
第2回	シンセサイザーの仕組み	アナログ、デジタルのシンセサイザーの仕組みを理解します
第3回	音楽を科学する	周波数、波形等音楽を構成する物理的、数学的な要素を理解
第4回	デジタル技術と音楽I	CDを始めとするデジタルオーディオについて理解します
第5回	デジタル技術と音楽II	MIDI規格について
第6回	音楽を数字で表現	初期の自動演奏の仕組みと数字による音楽の表現を理解
第7回	または課題提出	授業内容の理解の確認
クォーター末試験評価方法		
平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。平常点には出席が含まれます。出席を重視します。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	FM音源 I	FM音源の仕組みと、音の作り方について学習します
第2回	FM音源 II	アルゴリズムの選択による音の作り方
第3回	音の実験 I	音を作る。プラグイン音源を使って音を作ります。
第4回	音の実験 II	音の定位、響きを作る
第5回	コンピュータを使った音楽制作 I	サンプラーを使って、日常の音で音楽を作ります。
第6回	コンピュータを使った音楽制作 II	ミニマル系サウンド。繰り返し、単調なフレーズ、リズムを繰り返します。
第7回	コンピュータを使った音楽制作 III	音を自由に操って、不思議な音の世界を作ります。
第8回	作品提出	音を自由に操って、不思議な音の世界を作ります。
学期末試験評価方法		
平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。平常点には出席が含まれます。出席を重視します。		

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽プログラム研究B	講義	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー、大学での研究(音響工学)、スタンフォード大学CCRMA特別講座受講)に基づき、コンピュータを使って音楽を表現することを学びます。3クォーターでは、Band In A Box、Max等を使って、自動演奏、編曲を体験します。4クォーターでは、SWIFTという言語を使ってiPhoneアプリのプログラミングの基礎を学びます。

到達目標

MAX,SWIFを使ってプログラミングの基本をマスターし、簡単なアプリを作成できるようになります。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コンピュータに編曲させる	Band In A Boxの構造を学びます
第2回	MAXの基礎 I	Maxの基本操作を学習します。
第3回	MAXの基礎 II	Maxの基本操作を学習します。MIDI関連、音を出すプログラムを学習します。
第4回	MAXの応用 I	Maxを使って音楽を作ります。自動演奏について学習します。
第5回	MAXの応用 II	Maxを使って音楽を作ります
第6回	Maxで作品を作る	今までの学習内容を応用してMaxで作品を作ります
第7回	課題作成・提出	作品を評価します

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 平常点には出席が含まれます。出席を重視します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	プログラミングの基本	プログラミングの基本を学習します。文章の書き方。数字の扱い方。基本的に構文について。
第2回	XCODEを使ってみる	iPhoneアプリを作るツールXCODでSwiftの基本を学習します。
第3回	XCODEを使ってみる	画面の、ラベル、ボタンを作ります。
第4回	タイマー作成	同じ動作を繰り返すタイマーを作ります。
第5回	音を出す	ボタンをクリックして音を出すアプリを作ります。
第6回	トラブルシューティング	今までの復習とエラーメッセージへの対応について学習します。
第7回	インターフェイスデザイン、音を作る	再生する音を作ります。ボタンや画面をデザインします。
第8回	課題作成・提出	していただいた機能のアプリケーションを作成して提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 平常点には出席が含まれます。出席を重視します。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	コンテンツプロダクト基礎 I	演習	実	斉藤かんじ

科目概要

当授業は制作物を完成させながらそのコンテンツ(例えば個々の楽曲など)のクオリティーを高め、ていくことを目標としています。春学期においては音響制作研究作品を作ります。すなわち動画の映像を借りてその音声・音響部分をすべて作り替えていきます。尚、講師はアニメ・映画の劇伴、主題曲およびゲームBGMの分野等に実務経験があります。

到達目標

SE・MEの制作、Pro toolsのオペレーションやマイキング、アフレコのディレクション、MA(ミックス作業)など多岐にわたる音響制作の基本的知識と技術の習得と、収録されるBGM・劇伴曲のクオリティーアップを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	当授業の目的と目標について説明します。
第2回	重みのあるBGM楽曲	楽器編成とそのアレンジワークにおいて聞き逃しがちな低音楽器についてその重要性を説明します。
第3回	リズムを重視したBGM楽曲	より歯切れの良い楽曲をつくるために必要なアレンジワークとデータエディットについて説明します。
第4回	モードを用いたBGM楽曲	劇伴曲にしばしば用いられる、リディアンモード、ドリアンモードなどを用いた作曲技法について説明します。
第5回	歌楽曲	映像作品のオープニング、エンディングに使用される歌楽曲について、メロディーメイク、アレンジワークを中心に説明します。
第6回	BGM制作課題1	指定された場面のBGMの制作と発表。
第7回	BGM制作課題2(試験課題)	担当する場面に対してのBGMの制作と発表。

クォーター末試験評価方法

出席30% 平常点30% 試験40% 試験については課題楽曲の完成度、クオリティーを評価の対象とします。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	制作会議	音響制作研究作品の制作にあたり、必要な作業、スケジュール、役割担当の決定と確認をします。
第2回	録音技術	録音機器の知識と接続、マイキング、Pro toolsの基本操作を学びます。
第3回	アフレコ1	セリフ、ナレーションの録音時に必要とされるディレクションスキルを学びながら制作します。
第4回	アフレコ2	オーディオ波形編集の技術を学びながら制作します。
第5回	ヴォーカル録音	アニメーションのオープニング、エンディングの歌楽曲にヴォーカルを録音します。
第6回	SE・MEの制作	SE・MEの録音とトラック編集。
第7回	BGMトラック、SE・METラックの提出	完成にむけて担当BGMトラック、担当SE・METラックの提出と動画への貼り付けをします。
第8回	音響制作研究作品完成(試験課題)	MA作業(最終mix作業)と全行程の終了。

学期末試験評価方法

出席30% 平常点30% 試験40% 試験については音響制作研究作品の完成を以って試験とします。各々の担当楽曲、SE・METラックのクオリティーと作品制作における貢献度を評価の対象とします。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	コンテンツプロダクト基礎Ⅱ	演習	実	斉藤かんじ

科目概要

秋学期では全員の作品が収録されたトータルコンセプトアルバムの制作、配信販売をします。その中で収録楽曲のクオリティーアップを目指すとともに、アルバム制作の中で日頃あいまいになりがちな音響用語や各プラグインのパラメーターの意味を確かなものにしていきます。尚、講師はアニメ・映画の劇伴、主題曲およびゲームBGMの分野等に実務経験があります。

到達目標

4年間の折り返し地点において、各々が自信を持って提示出来る楽曲を作ることがまずひとつの目標です。さらにいずれ制作現場で即戦力として活躍できるために必要とされるであろう確かな知識、技術の習得を目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音響用語	音の三要素、周波数、位相、音圧、サンプリングレート、ビットデプスなどについて。
第2回	コンプレッサー、リミッター	コンプレッサー、リミッターのパラメーターについて、さらになぜそれらが必要とされるかについて。
第3回	イコライザー	イコライザーのパラメーターについて、さらになぜそれらが必要とされるかについて。
第4回	プラグインシンセサイザー1	シンセサイザーのパラメーターについて。
第5回	プラグインシンセサイザー2	時流、趨勢を意識しつつ、楽曲にデジタル要素を取り入れていく手法、アイデアを学びます。
第6回	制作課題1	自らの楽曲の音圧、音のヌケを商品化出来るレベルのものにマスタリングして提出して下さい。
第7回	制作課題2(試験課題)	クラシック楽器ベースの楽曲にシンセサイザーを意欲的に盛り込んだ楽曲を提出して下さい。

クォーター末試験評価方法

出席30% 平常点30% 試験40% 試験については課題楽曲の完成度、クオリティーを評価の対象とします。平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	配信アルバム制作会議	コンセプト、担当楽曲、制作スケジュール等の企画会議。
第2回	アルバム制作 デモテイクの提出	楽曲の方向性、モチーフ、構成、楽器編成などの提示。
第3回	アルバム制作 リテイクの提出	完成に向けた計画性、期待感の提示。
第4回	配信システムとその収益性	ディストリビューター、アグリゲイター、必要経費と収益、分配率などについて。
第5回	アルバム制作 文字項、デザインの提出	アルバム制作に必要な文字資料、デザインの確認。
第6回	ミキシング作業	商品化クオリティーをふまえたミキシング作業。
第7回	アルバム制作 完成曲の提出	マスタリング。
第8回	配信アルバムの完成(試験)	配信アルバムのアップロード。

学期末試験評価方法

配信アルバムの完成とそのアップロードを以って試験とし、提供楽曲のクオリティーと制作への貢献度を評価の対象とします。出席30% 平常点30% 試験40% 平常点は授業時、勉学に向かう姿勢と意欲を評価の対象とします。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	コンテンツプロダクトA I (コンクール)	実習	実	徳備 康純

科目概要

日本・世界のコンクールについて調べ、情報を得、どういうコンクールを狙い、自らをキャリアアップしていくかを考えるのが春学期の狙いです。自らもコンクールに作品を応募することを目指して要項に基づいて作品の制作を行います。尚、講師はPTNAの楽曲公募、東京国際作曲コンクールなどに入賞するなど、コンクールに関する実務経験を持つ。

到達目標

実際のコンクールに応募する、もしくは応募できる作品を制作し完成させる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	国内コンクールの研究	コンクールにはどのようなものがあるか？ネットで調べてみよう。
第2回	海外コンクールの研究	海外のコンクールについて。応募する時の注意点など。
第3回	各種コンクール要項の研究	PTNAの作品募集、合唱コンクールの要項を取り寄せ、読み、何を書くのか話し合ってみよう。
第4回	入選作品の研究(A/B部門)	PTNAの入選作品よりソロ部門/やさしい作品を研究します。
第5回	入選作品の研究(C/D部門)	PTNAの入選作品よりソロ部門/ やや難しい作品を研究します。
第6回	入選作品の研究(連弾/A)	PTNAの入選作品よりソ連弾作品 /A部門やさしい作品の書法の研究。
第7回	入選作品の研究(連弾/B)	PTNAの入選作品よりソ連弾作品 /B部門やや難しい作品の書法を研究します。

クォーター末試験評価方法

日本各地、あるいは世界の様々なコンクールについて調べたことをレポートし、個々のレベルに合ったコンクールを決定し、その要項に従った作品のテーマなどを作る。特に決まらない場合は、PTNAの課題曲募集をまず目標に要項などを調べ、作品を制作し、そのスコアを提出する。試験80%、出席点20%。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	国内コンクールの研究(その2)	日本歌曲コンクールについて。
第2回	地域コンクールの研究	地域コンクールについて(ホール、地域文化団体の主催コンペについて)研究します。
第3回	作品の制作 (テーマ選び)	レギュレーションにあわせて、テーマを決め、スタイルを決定する。
第4回	作品の制作 (対象の設定)	部門を決めてどこに、誰に聞かせる作品か、企画を明確にした作品を制作することを学びます。
第5回	作品の制作 (編成の決定とテーマ作り)	編成を決めて、テーマ(イメージ)を決定し、曲を書きはじめよう。
第6回	作品クリニック	個々の作品の個別の指導を行い、仕上げへと持っていくます。
第7回	応募用紙の書き方	作品を完成させ、応募用紙を書く。個々の略歴をどう書き、アピールするかを始動します。
第8回	応募作品の発表とディスカッション	応募作品の音源とスコアを持ち寄り、それによりディスカッションを行います。

学期末試験評価方法

個々に決定したコンクールに向けた作品を制作し、その作品を提出、もしくは制作途中のものを提出する。PTNAに応募しようという場合は、曲を完成させ、応募用紙に作品についての説明、自らの略歴などを書き込み、そのコピーを提出する。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	コンテンツプロダクトAⅡ(コンクール)	実習	実	徳備 康純

科目概要

引き続き東京国際合唱作曲コンクールへの応募を目指して、合唱音楽、特にラテン語などによる宗教作品などの研究を行い、作品の制作を行います。尚、講師はPTNAの楽曲公募、東京国際作曲コンクールなどに入賞するなど、コンクールに関する実務経験を持つ。

到達目標

実際のコンクールに応募する、もしくは応募できる作品を制作し完成させる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合唱や歌曲の作曲コンクールの研究	朝日賞など、合唱関係の作曲コンクールの特徴などを調べる。
第2回	歌の作り方について	歌曲などの詩と音楽の関わりについて調べてみよう。
第3回	歌曲の作り方 1	シューベルト、シューマン、ブラームスなどの先達の作品の詩と音楽について分析する。
第4回	歌曲の作り方 2 日本語と歌	山田耕筰、團伊玖磨、中田喜直などの先達の作品の詩と音楽について分析する。
第5回	歌曲の作り方 3 伴奏について	シューベルトなどの歌曲の伴奏のあり方について作品を通じて学びます。
第6回	歌曲を作ってみよう 1	詩を選び、それにメロディーをつけてみよう。
第7回	歌曲を作ってみよう 2	前回で作ったメロディーに伴奏をつけ、歌曲を完成させよう。

クォーター末試験評価方法

授業で作曲した歌曲の楽譜と詩のコピーを提出する。詩とメロディー、そして伴奏が、歌曲として成立するものとなり得ているかを総合して評価する。試験80%、出席点20%。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合唱コンクールのレギュレーションについて	東京国際合唱コンクールのレギュレーションを調べ、ラテン語について学ぶ。
第2回	ラインベルガーのミサ・プレヴィスの分析	ラインベルガーの作品を通じて、ア・カペラのSATBの書法について学びます。
第3回	ラテン語について	ミサ曲のラテン語について簡単な読み方と意味について説明。
第4回	子音の扱い方など	歌の作り方の記述的な課題について説明し、実際の作曲に役立てよう。
第5回	合唱作品を作ってみよう 1	応募作品を分析し、各自、参考にしつつ、それぞれに合唱作品を制作する。まず、作品の企画を考えよう。
第6回	合唱作品を作ってみよう 2	前回に設定したスタイル、形式などに従って作品を作ってみよう。
第7回	合唱作品を作ってみよう 3	言葉の抑揚、リズム、表現するものの世界に留意しつつ、前々回に設定したスタイルに則って作曲をすすめる。
第8回	合唱作品を作ってみよう 4	作品を仕上げ、それぞれにコンピューターの音源、ピアノなどで音出しし、作品についてディスカッションする。

学期末試験評価方法

コンクールに応募した作品を提出する。どうしても提出に至らなかった者は、国内、海外の作曲コンクールについて、レギュレーションや特徴などをA4レポート五枚以上、10枚未満にまとめ提出すること。作品の完成度を、あるいはレポート提出の場合はその内容を総合的に評価する。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	コンテンツプロダクトB I (ポップス)	実習	実	市川春行

科目概要

この科目では、講師の実務経験(声優アイドルグループプロデュース、J-popコンペ作家)に基づき音楽商品としてのJ-pop、というものを「人の声」でメロディーを表現する、という観点から考察を始め、さらにメロディにまつわるアレンジや歌詞にも時代によって様々な手法、切り口があることを学びます。

到達目標

インスト楽曲には無い、歌もの独特の魅力や制約についての知識を得た上で、実際に歌もの楽曲の制作能力を高めます。また、作曲～アレンジ～MIX～マスタリングといった一連の作業を分担し、チーム制作の経験を積みます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	講座の概要説明と各メンバーの音楽的志向の確認をします。
第2回	歌もの楽曲制作1	短い歌メロのモチーフをもとに制作実習を行います。
第3回	歌もの楽曲制作2	短い歌メロとコード進行のモチーフをもとに制作実習を行います。
第4回	歌詞について 1	テーマの捕らえ方、言葉の使い方・選び方について実例とともに解説します。
第5回	コード進行について	歌メロを導き、より伝わりやすくする為の、また楽曲イメージの背景としてのコード進行を解説します。
第6回	アレンジについて	歌メロをサポートし、より伝わりやすくしつつ、商品としてのニーズに答える方法の解説です。
第7回	クォーターまとめ	提示されたテーマに沿った小曲を、今クォータに得た知識を元に作成し、DATAを提出します。

クォーター末試験評価方法

出席30%、 授業内提出物、レポートの評価40%、 提出作品30%とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	クラスがひとつの制作チームとなり、楽曲の企画、制作、録音、配信までのプロデュース計画を立てます。
第2回	プロデュースとは？	サウンドプロデューサーと(エクゼクティブ)プロデューサーの違いを考察。
第3回	コンセプト造り	作品の商品性も含めたコンセプトを考えます。
第4回	曲作りのアイデア考察1	流行のサウンドや、ジャンルについての考察をします。
第5回	曲作りのアイデア考察2	キャッチーなフレーズや音楽的仕掛け、サウンドやエフェクトについての考察をします。
第6回	仮想テーマ決め	各自に仮想テーマを与え、コンセプトを考え、さらに歌手やタイアップ先を想定します。
第7回	作品発表 1	仮想テーマに沿ってリファレンス曲を決定し、DEMO第一稿としてのデモをプレゼンテーションします。
第8回	作品発表 2	前週のプレゼン時に出たメンバーの意見をもとにしつつ、DEMO決定稿を発表します。

学期末試験評価方法

出席30%、 授業内提出物、レポートの評価40%、 提出作品30%とします。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	コンテンツプロダクトBⅡ(ポップス)	実習	実	市川春行

科目概要

この科目では、講師の実務経験(声優アイドルグループプロデュース、J-pop楽曲提供コンペ作家)に基づき、ただ漠然と歌もの楽曲を作るのではなく、リスナー(マーケット)を意識した、「狙いを持った楽曲制作」、「プロデュース」という考え方を学びます。それにより最終的に「作品と商品の両立」を目指します。

到達目標

春学期よりもさらに一歩進んだ、J-popプロデュースの知識、手法、アイデア等を、実際のJ-pop商品から学び、実際に制作してみることにより、より高品質のJ-pop制作スキルを身に付けます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	現在形の音楽マーケットの考察をします。
第2回	ダンスPOPSについて	R&B、EDM、Discoファンクなどのリズムやアレンジ主体の音楽とPOPSの違いを考えます。
第3回	メロディーについて	歌メロディと器楽メロディの違いを考え、歌詞(言葉)の存在意義についても掘り下げます。
第4回	歌詞について 2	より深いテーマの捕らえ方。言葉、フレーズの扱げ方、使い方、選び方を解説します。
第5回	音楽に付加価値を与える	音楽に音楽以外の付加価値を持たせる方法、アイデアを考察します。
第6回	アイデアの発想法	魅力的な作品と商品の両立を考えます。
第7回	作品発表	付加価値を持たせ、より魅力的な商品性ある作品DEMOをプレゼンテーションします。

クォーター末試験評価方法

出席30%、授業内提出物、レポートの評価40%、提出作品30%とします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	各人の実際の生活における音楽作品、商品との係わりを自身で振り返り、皆と話し合います。
第2回	発注、楽曲コンペとは？	音楽業界の仕組みや役割分担を、職業作家を軸に解説します。
第3回	制作実習1	春学期のチーム制作を経て、個人による企画～作曲～MIXまでの楽曲制作を計画します。
第4回	制作実習2	前回授業をうけて、さらにJ-popコンペに対応するDEMO制作の実習をします。
第5回	歌モノミックス講座 1	実際のデータを使ってのミックス実習、主にエフェクトプラグインのテンプレート制作を目的とします。
第6回	歌モノミックス講座 2	実際のデータを使ってのミックス実習、様々なテクニックやアイデアの習得を目的とします。
第7回	メジャーとインディーズと同人	多様化する日本のマーケットのそれぞれの仕組みの違いと、それぞれの特徴について考察します。
第8回	作品発表	企画プレゼンテーションと楽曲(歌詞とともに)の発表です。

学期末試験評価方法

出席30%、授業内提出物、レポートの評価40%、提出作品30%とします。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	コンテンツプロダクトC I(劇伴)	演習	実	鷲見 文広

科目概要

この科目では、講師の実務経験(映画、CM、PVなどの音楽制作、作・編曲家としての活動)に基づき、映画、アニメ、CM、PV等、映像の為の音楽を創作する授業を行います。春学期は映像から感受した印象を、いかに音として表現出来るのかを学びます。自身の音楽スタイルを生かした、映像の為の音楽を創作して下さい。課題:毎週1曲の制作、設計図(スコア)と録音物を提出します。

到達目標

- 1、映像音楽を創作する為に必要な事は何かを習得する事を目標にします。
- 2、自分の音楽スタイルとは何か、自分の音楽性とは何かを理解する事を目標にします。
- 3、限られた時間の中、どのような工程で曲を制作するのかを習得する事を目標にします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業全体の流れ、映像音楽とは何か、映像音楽の制作方法はどうするのか、等の説明をします。
第2回	変化する3つの色に音楽をつける	10秒ごとに変化していく3つの色に対して音楽をつけます。移り変わる色の印象を自由に表現しましょう。
第3回	絵画に音楽をつける	絵画の為に60秒の音楽を創作します。絵画をどう解釈し、どんな音楽が合うのか考察し、創作して下さい。
第4回	写真に音楽をつける	移り変わる写真の為に90秒の音楽を創作します。写真の印象とストーリーを感じながら創作して下さい。
第5回	風景の映像に音楽をつける	風景の為の音楽を創作します。映像に存在する環境音も音楽の一つとして捉え、自由な音楽を創造します。
第6回	人物の映像に音楽をつける	人物の映像に対して音楽を創作します。その人物にはどんな背景があるのかを想像しながら自由に創作をします。
第7回	60秒の映像に音楽をつける	用意された60秒の映像に対して、自分なりに感じ、解釈をして、自由に音楽を創作して下さい。

クォーター末試験評価方法

制作した音源、スコア、企画書を提出されているのかを評価します。50%/自作曲の創作過程の解説と意図、他学生の作品に対する自分なりの意見を伝えられるのかを評価します。20%/出欠と受講状況:30%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	第2クォーターに行う、映像に対してより踏み込んだ具体的な音楽制作方法について説明をします。
第2回	映像の為のピアノ曲を作る	60秒の映像の中には積極的に描かれていない隠されたテーマを、ピアノを使用し音楽で表現して下さい。
第3回	ピアノ曲をオーケストラ曲に編曲する	前回制作した曲を、同一の目的のもと、オーケストラの楽器を用いて編曲をし、表現して下さい。
第4回	空間の為の音楽を作る	自分の得意とする楽器編成によって、主要なメロディーやリズムのない、空間を表現する音楽を創作して下さい。
第5回	ストーリーのある映像に音楽をつける	映像の中に描かれたストーリーを解釈し反映させ、指定された楽器編成による音楽を創作して下さい。
第6回	映像の動きに同期した音楽を作る	映像のシーンの転換点、人物や背景などの動きに合わせた音楽を、様々な楽器を用いて表現し、創作して下さい。
第7回	感情を表現した音楽を作る	感情を表す音楽表現とは何かについて説明をします。また人の感情を表現する音楽を創作して下さい。
第8回	60秒の映像の為の音楽を創作する	指定された楽器編成で、動画の持つテーマや趣旨を反映した音楽を制作して下さい。

学期末試験評価方法

課題提出、スコア提出、制作した音楽の独自性や質等、自作曲に対する相対的な評価をします:50%/自作曲への創作・制作過程の説明と意図、他学生の作品に対する意見を伝えられるのかを評価します。20%/出欠と受講状況:30%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	コンテンツプロダクトCⅡ(劇伴)	演習	実	鷲見 文広

科目概要

この科目では、講師の実務経験(映画、CM、PVなどの音楽制作、作・編曲家としての活動)に基づき、映画、アニメ、CM、PV等、映像の為の音楽を創作する授業を行います。秋学期は、より具体的な映像に対しての音楽制作を行っていきます。目的の異なる様々な映像に対し、自身の音楽性を生かした多様な制作を行って下さい。課題:毎週1曲の制作、スコアと録音物を提出します。

到達目標

- 1、映像が持つ主旨や目的を大切にし、的確で個性的な音楽を創作する事を目標とします。
- 2、いかに映像と融和あるいは対峙した音楽が創作出来るのかを目標とします。
- 3、限られた創作時間の中、自分の音で、映像の為の的確な表現が出来るのかを目標にします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	CM用音楽の制作#1	CM制作をする際に必要な知識と、CMとは何かについて説明をします。また15秒のCMの音楽制作をします。
第2回	CM用音楽の制作#2	様々な趣旨を持つCMに対しての音楽制作方法について説明をします。30秒のCM音楽制作を行います。
第3回	プロモーションビデオ用音楽の制作#1	プロモーションビデオとは何かについて説明をします。その後、実際に用意されたPVに音楽を創作します。
第4回	プロモーションビデオ用音楽の制作#2	第3回に引き続き、プロモーションビデオ用の音楽制作を行います。
第5回	絵本の為の音楽を制作#1	ナレーションの入った絵本の映像に対して音楽を制作します。各自担当したシーンに対して音楽制作を行います。
第6回	絵本の為の音楽を制作#2	第5回に引き続き、絵本の為の音楽を制作します。各自担当したシーンの音楽の入った一本の絵本の動画を制作します。
第7回	60秒のCM音楽制作	3クォーターの内容を加味し、ストーリーのある、60秒のCM用音楽を制作して下さい。

クォーター末試験評価方法

各映像の趣旨に適した課題提出と制作した音楽のクオリティと個性を評価します。:50%/出来上がった自分の作品、他生徒の作品について意見をきちんと述べられるかを評価します。20%/出欠と受講状況:30%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	映画音楽の制作#1	短編映画の音楽を4回にわたり制作していきます。まずは映画の趣旨を理解し必要な音楽のシーンを確認します。
第2回	映画音楽の制作#2	映画全体に対してスケッチ音楽を制作して行きます。映画の趣旨に合った、象徴的な音楽を制作して下さい。
第3回	映画音楽の制作#3	音楽が必要とされているシーンの音楽制作をします。そのシーンに必要な音楽は何かを考え創作して下さい。
第4回	映画音楽の制作#4	さらに映画音楽を制作します。異なるシーンに統一感を持たせる方法とは何かを考え創作をして下さい。
第5回	MA(Multi Audio)における音楽	全四回で制作した映画音楽を実際に使い、映像音楽の最後の工程であるMAIについて説明をします。
第6回	ゲームの為の音楽制作	ゲーム音楽とは何かを説明します。また、実際のゲームのプレイ映像に対して音楽を制作します。
第7回	アニメーション用音楽制作	アニメーション音楽とは何かについて説明します。また、実際にアニメの映像に対して音楽を制作します。
第8回	自由な映像の為の音楽制作	年間を通して培ってきた技術と音楽性を生かし、映像の為の音楽制作を行って下さい。テーマは自由です。

学期末試験評価方法

楽曲制作において、自分の個性が生かされ、映像作品に適した音楽になっているかどうかを評価します。50%/全ての学生との共同作業を行うにあたり、きちんと意思疎通をし、意見を集約出来るのかを評価します。20%/出欠と受講状況:30%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラーアンサンブル I (Guitar)	演習	実	市川春行

科目概要

この科目では、講師の実務経験(声優アイドルグループプロデュース、LIVEイベント用バックBAND)に基づき、『打ち込み』が主流の今、『楽器、演奏に親しむ』講座です。ここでは、ギターの初級中級者を対象に、構造や弾き方、アンサンブル内の役割、といったものを楽しく学んでいきます。

到達目標

ギターの構え方、ピックの持ち方、右手のストローク、左手のフィンガリングに始まり、学期末には、ローコードによるシンプルな弾き語りとバレーコードによるシンプルなコードカッティングができるようになることを目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	はじめに	必要事項の説明と、年間を通じての目標説明、ならびに質疑応答をします。
第2回	基礎ギター講座	チューニングの話から基本的なフォーム(右、左手)の確認、および基本リズム練習をします。
第3回	ローコード	基本的ないくつかのローコードについての解説と、左手のフォームの練習をします。
第4回	8ビートストローク	特にアコギ弾き語りに必要な、8ビートストロークにおける右手の練習をします。
第5回	課題曲「Stand By Me」	春学期の課題曲「Stand by me」を譜面を確認しながら皆で練習します。
第6回	最終リハーサル	次週の実技演奏に向けての、本番さながらの予行演習です。
第7回	TEST	課題曲「Stand By Me」のギター演奏による実技テストです。

クォーター末試験評価方法

まだこの段階ではきちりコードを鳴らしきるのは難しいです。なので現段階ではローコードのフォームの把握とストロークによるリズムを中心にみます。試験30%、平常点40%、出席状況30%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1Qの復習	8ビートストロークと、ローコードの復習をします。
第2回	リズム練習	右手のみに特化した、様々なリズムトレーニングをします。
第3回	バレーコード1	六弦ルート型のバレーコードを解説し、練習します。
第4回	バレーコード2	五弦ルート型のバレーコードを解説し、練習します。
第5回	16ビートカッティング	エレキギター、バンドアンサンブルに必要な、16ビートカッティングの解説と練習をします。
第6回	課題曲「Lovin' You」	課題曲の解説と使用するバレーコードの練習をします。更に「指弾き」「Jazzコード」の解説もします。
第7回	最終リハーサル	次週の実技演奏に向けての、本番さながらの予行演習です。
第8回	TEST	課題曲「Lovin' You」のギターアンサンブル演奏による実技テストです。

学期末試験評価方法

チームによる演奏で、基本的な伴奏形態(ローコード、バレーコード)が出来ているか？またコードとともに大切なリズムがきちんとギターを通じて表現できているか？をみます。実技30%出席30%平常点40%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラーアンサンブルⅡ (Guitar)	演習	実	市川春行

科目概要

この科目では、講師の実務経験(声優アイドルグループプロデュース、LIVEイベント用バックBAND)に基づき、『打ち込み』が主流の今、『楽器、演奏に親しむ』講座です。ここでは、春学期に学んだ基礎に加え、より踏み込んだギターアレンジ、ギターアンサンブルといったものを学んでいきます。

到達目標

より実践的な、DEMO楽曲のアレンジの際に有効的なギターの弾き方として、バレーコードから発展させた「省略コード」の考え方とバリエーションを学び、適切に演奏に反映させられるスキルを身につけます。また、「ジャズコード」の知識も得ます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2Qの復習	必要事項の説明と、年間を通じての目標説明、ならびに質疑応答をします。
第2回	省略コード1	チューニングの話から基本的なフォーム(右、左手)の確認、および基本リズム練習をします。
第3回	省略コード2	6本のギター弦のうち、主に2.3.4弦を使用した「Rock」に適した省略コードを練習します。
第4回	省略コード3	6本のギター弦のうち、主に1.2.3弦を使用した「16ビート」に適した省略コードを練習します。
第5回	課題曲「Lovin' You」「Stand By Me」	春学期の課題曲「Stand by me」を譜面を確認しながら皆で練習します。
第6回	最終リハーサル	自宅DAWで自作したオリジナルトラックに合わせた、次週の実技演奏に向けての、本番さながらの予行演習です。
第7回	TEST	各学生の自作のDAWデータに合わせた、ギター演奏による実技テストです。

クォーター末試験評価方法

まだこの段階ではきっちりコードを鳴らしきるのは難しいです。なので現段階ではローコードのフォームの把握とストロークによるリズムを中心にみます。試験30%、平常点40%、出席状況30%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	FUNK	7thコード一個を用いたFUNKをテーマに、ファンキーなギター演奏を目指し練習します。
第2回	BLUES	7thコード三個を用いたBLUESをテーマに、ブルージーなギター演奏を目指し練習します。
第3回	ギターインスト曲に挑戦	4QTEST課題曲でもある「パリの散歩道」のAメロ部分の解説と練習です。全員がコードを弾きます。
第4回	課題曲「パリの散歩道」1	「パリの散歩道」のBメロ部分の解説と練習です。全員がコードを弾きます。
第5回	課題曲「パリの散歩道」2	「パリの散歩道」のA'部分の解説と練習です。全体の練習もします。全員がコードを弾きます。
第6回	課題曲「パリの散歩道」3	課題曲の解説と使用するバレーコードの練習をします。更に「指弾き」「Jazzコード」の解説もします。
第7回	最終リハーサル	次週の実技演奏に向けての、本番さながらの予行演習です。
第8回	TEST	課題曲「パリの散歩道」のギターアンサンブル演奏による実技試験です。

学期末試験評価方法

チームによる演奏で、基本的な伴奏形態(ローコード、バレーコード)が出来ているか？またコードとともに大切なリズムがきちんとギターを通じて表現できているか？をみます。実技30%出席30%平常点40%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラーアンサンブル I (Bass)	演習	実	坂本 洋

科目概要

ベースというパートの役割の重要性を再認識しながら、ベースが弾けるようになるということだけでなく、作曲・編曲に役立てることを目標とします。学科には貸し出し用のベースはありません。アンプ接続用のケーブルもご用意ください。尚、講師は(有)オフィス・サラック代表取締役、作曲、編曲、プロデュース、ビクターよりソロデビュー、文化放送の深夜番組DJ、有名アーティストのサポート等の実務経験を持ちます。2020年は庄野真代ニューアルバムのプロデューサー。

到達目標

レコーディングに作曲家あるいは編曲者として携わった際、ベースプレイヤーに的確に指示できるよう、ベースというパートの奥の深さを理解し、独自の価値観を持つ音楽家として成長していくことを目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽器の説明と調弦	弦のセットの仕方から、ベースの各パーツや構造を理解し、調弦(チューニング)の仕方を覚えます。
第2回	左手の押さえ方、右手の弾き方	基本的なスケールを使って、その人の手にあった弦の押さえ方、右手のピッキングの仕方を身につけます。
第3回	運指の練習と右手のタイミング	3種類の運指の練習フレーズを覚えます。そして、そのフレーズを使って運指の練習をします。
第4回	半音階の練習	それぞれの弦ごとに、左手の運指の確認をしながら、左手全体のフレット上の効率的な指、手の移動を身につけます。
第5回	メジャーとマイナーのスケール練習	メジャーとマイナーのスケールの左手のポジションを覚え、3弦ルート、4弦ルートのキーで練習します。
第6回	8ビートのリズムで弾く	8ビートの簡単な楽曲を課題に、8ビートのリズム感を感じ、1曲を通して演奏します。
第7回	中間試験	メジャー、マイナーのスケールを弾いてもらい、且つ、簡単な課題曲を1曲通して演奏します。

クォーター末試験評価方法

中間試験の素点を60%、平常点を40%とし、欠席1回につき2点を減点します。ただし、病欠、公欠は除きます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	休符とリズム感	ベースは止めが命！ 休符でリズムが出ることを実感するフレーズを練習します。
第2回	8ビートのリズムと楽曲①	典型的な8ビートの楽曲にチャレンジ。1曲を通してプレイします。
第3回	8ビートのリズムと楽曲②	少くせのある8ビートの楽曲にチャレンジし、音楽的にファジーな部分を体感してもらいます。
第4回	16ビートのリズムと楽曲①	典型的な16ビートの楽曲にチャレンジし、ベースという楽器の音の立ち上がり、細かなリズム感の関係を体感します。
第5回	16ビートのリズムと楽曲②	同じ16ビートでも、細かくハネたリズム感を感じながら演奏する楽曲にチャレンジします。
第6回	12/8のリズムと楽曲	いわゆる3連といわれる楽曲を課題にし、ゆったりとしたリズム感を感じながら演奏します。
第7回	3/4のリズムと楽曲	3拍子のリズムにおけるベースの独特の存在感を感じながら演奏します。
第8回	期末試験	8ビートの楽曲を課題とし、プレイしてもらいます。

学期末試験評価方法

期末試験の結果を素点とし、1クォーターの点数を加味しながら、試験全体で60%、平常点を40%とし、欠席1回につき2点を減点します。病欠、公欠は除きます。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラーアンサンブルⅡ (Bass)	演習	実	坂本 洋

科目概要

3クォーターからコード譜で、音を確認しながら少しずつ演奏していきます。一步一步ゆっくりと進んでいきますので、初心者の方でも安心して授業を受けてください。音楽に対する幅広い考え方が身につくことと思います。尚、講師は(有)オフィス・サラック代表取締役、作曲、編曲、プロデューサー、ビクターよりソロデビュー、文化放送の深夜番組DJ、有名アーティストのサポート等の実務経験を持ちます。2020年は庄野真代ニューアルバムのプロデューサー。

到達目標

最終的には、その人独自のオリジナリティが出てくればよいと思っています。ベースが弾けるということだけでなく、一つ一つの音に対して、なぜそうなのかという深い洞察力が身につけば、ベーシストとしてのみならず一人のミュージシャンとしてより大きな信頼感が得られることだろうと考えています。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コード進行とフレーズ	コードの響きのなかでのフレーズの作り方と、コード進行のなかでのフレーズの変化について考えます
第2回	コード進行とスケール①	フレットのついた楽器ならではの考え方を基本に、楽曲のなかのコードそれぞれに付随するスケールについて学びます。
第3回	コード進行とスケール②	同じコード進行でもサウンドのとらえ方ひとつで別なスケールに対応できるという、音楽のあいまいさをも含めて考えます。
第4回	コード進行と経過音	コード進行のなかで、サウンドの流れをよりスムーズに聞かせるための経過音について考えてみます。
第5回	オンコードのとらえ方	ベースがそのコードのルート以外の音を提示する際のサウンドのとらえ方、音の使い方などについて学びます。
第6回	特殊コードへの対応	ディミニッシュコードやオーギュメントコードなど、特殊なコードにおけるベースの対応、フレーズの作り方などについて学びます。
第7回	中間試験	コード進行のなかで、それぞれに付随するスケールをこたえてもらい、課題曲を1曲演奏してもらいます。

クォーター末試験評価方法

中間試験の素点を60%、平常点を40%とし、欠席1回につき2点を減点します。ただし、病欠、公欠は除きます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スラップ奏法	スラップ奏法の実際、テクニックなどを学び、且つベースのパーカッションのとらえ方を学びます。
第2回	スラップ奏法の応用	通常の演奏スタイルのなかでのスラップ奏法をどう活かすかを考えてみます。またスラップ奏法を応用した演奏方法も学びます。
第3回	スラップで1曲	比較的簡単な課題曲を題材にスラップ奏法を混ぜて1曲を通して演奏します。
第4回	1年のまとめ ①	8ビートの楽曲を課題曲として、自分で自由にベースラインを作って演奏します。
第5回	1年のまとめ ②	16ビートの楽曲で、自分で自由にベースラインを作り、演奏します。
第6回	1年のまとめ ③	ハネた16ビートの楽曲で、自分で自由にベースラインを構築し、演奏します。
第7回	1年のまとめ ④	3連の楽曲で、自由にベースラインを作り、演奏します。
第8回	期末試験	Dimコードなどを含む、王道のコード進行の楽曲を課題曲とし、演奏してもらいます。

学期末試験評価方法

期末試験の結果を素点とし、3クォーターの点数を加味しながら、試験全体で60%、平常点を40%とし、欠席1回につき2点を減点します。病欠、公欠は除きます。

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラーアンサンブル I (Drums)	演習	実	伊藤 大助

科目概要

この科目では講師の実務経験(「クラムボン」のドラマーとしての演奏活動、ドラムインストラクターとしてのレッスン、講演活動等)に基づき、ドラムセットの演奏法を学びます。基本的な奏法、リズムパターンの習得を通して、リズム感を鍛え、よいグルーブを生み出す方法を身につけていきます。

\* 個人で用意してきてもらうものは「自分に合っていると思うドラムスティック1セット」です。

到達目標

ドラムセットの物理的、音楽的機能を理解し、楽曲演奏に必要なフォーム、ストローク等の基礎を定着させ、基本的なリズムパターンの演奏法を身につけることで、正しい演奏ができるようになることと、リズムに関する感覚やアイデアを楽曲制作に活かすことを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	オリエンテーション及びドラムセットの基礎知識と演奏の基本に関する説明をします。
第2回	スティックコントロール(1)	全ての基本となるフォーム、叩き方、シングルストロークの練習をします。
第3回	スティックコントロール(2)	強弱、休符を含むシングルストロークの練習をします。
第4回	ルーディメンツ	ダブルストローク、パラディドル、フラム、ラフ、ドラッグ等様々なテクニック「ルーディメンツ」の練習をします。
第5回	フットコントロール	バスドラム、ハイハットの基本となるフットコントロールの練習をします。
第6回	コンビネーション	手足のコンビネーション、独立の練習をします。
第7回	基本的奏法の確認(試験)	実技試験を行い、基本となる叩き方と、手足のコンビネーション、独立の練習成果を確認します。

クォーター末試験評価方法

講師作成の試験課題を演奏する実技試験を行います。試験での正しいフォームとスティックコントロール、テンポキープの正確さ(試験結果)と共に、普段の授業内での積極性(平常点)と、毎回の出席(出席点)を合わせて評価します。(試験結果50% 平常点30% 出席点20%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ベーシック8ビート	8分音符を使った基本ビート(8th Note Feel)の練習をします。
第2回	ベーシック16ビート(1)	16分音符を使った基本ビート(16th Note Feel)の練習をします。(主にハイハットを16分音符で演奏するパターン)
第3回	ベーシック16ビート(2)	16分音符を使った基本ビート(16th Note Feel)の練習をします。(主にバスドラムを16分音符で演奏するパターン)
第4回	ベーシック6/8ビート	6/8拍子や、3連符を基調としたリズムパターンの練習をします。
第5回	ベーシックスウィングビート	スウィング(ジャズ)の基本になるパターンの練習ををします。
第6回	フィルイン(1)	フィルインの演奏方法とその練習をします。(1拍、2拍の短いフィルイン)
第7回	フィルイン(2)	フィルインの演奏方法とその練習をします。(4拍等の長いフィルイン)
第8回	リズムパターンとフィルイン(試験)1	実技試験を行い、リズムパターンの4小節目、8小節目にフィルインを入れる演奏で練習成果を確認します。

学期末試験評価方法

講師作成の試験課題を演奏する実技試験を行います。試験でのリズムパターンとフィルインのスムーズな移行、テンポキープの正確さ(試験結果)と共に、普段の授業内での積極性(平常点)と、毎回の出席(出席点)を合わせて評価します。(試験結果50% 平常点30% 出席点20%)

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラーアンサンブル II (Drums)	演習	実	伊藤 大助

科目概要
春学期で学んだドラムセットの基本の演奏法を応用して、様々なリズムパターンのバリエーションや、現代のドラムビートやグルーヴの基になっている様々なスタイル及びジャンルのドラムパターンを練習することで更なるレベルアップを目指します。演奏にニュアンスを加える方法を学んで、より音楽的な演奏力を身につける過程を楽しみましょう。
到達目標
演奏の基礎を継続して守る自己診断力と、リズムパターンにニュアンスを加えるテクニックを習得し、様々なジャンルのリズムを理解することで、リズムの面から楽曲を豊かにする発想力を身につけ、楽曲制作や制作現場における他プレイヤーとのコミュニケーションに役立てます。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	8ビートバリエーション	8ビート(8th Note Feel)のパターンを、主にシンコペーションを使って変化をつける練習します。
第2回	16ビートバリエーション	16ビート(16th Note Feel)のパターンを、主にルーディメントを使って変化をつける練習します。
第3回	6/8ビートバリエーション	6/8の拍子のリズムパターンを、主にバスドラムの入れ方で変化をつける練習です。
第4回	シャッフル	跳ねるリズムパターンを練習します。
第5回	ハーフタイムシャッフル	3連符を感じながらゆったりとしたグルーヴをつくる練習です。
第6回	4ビートバリエーション	スウィング(ジャズ)のパターンにスネアやバスドラムを入れて変化をつける練習します。
第7回	リズムパターンとフィルイン(試験)2	シンコペーション等変化をつけたリズムパターンにフィルインを入れて演奏し成果を確認します。
クォーター末試験評価方法		
講師作成の試験課題を演奏する実技試験を行います。試験でのリズムパターンとフィルインのスムーズな移行、テンポキープの正確さ(試験結果)と共に、普段の授業内での積極性(平常点)と、毎回の出席(出席点)を合わせて評価します。(試験結果50% 平常点30% 出席点20%)		
4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ボサノヴァ	ブラジルのボサノヴァのリズムをドラムセットで練習します。
第2回	サンバ	ブラジルのサンバのリズムをドラムセットで練習します。
第3回	セカンドライン	アメリカ、ニューオーリンズ発祥のセカンドライン・ビートを練習します。
第4回	レゲエ	ジャマイカのレゲエのリズムをドラムセットで練習します。
第5回	モータウン	モータウン・ビートと呼ばれるリズムパターンの代表的なものを複数練習します。
第6回	変拍子1	5/4、7/4等の変拍子(Odd Time Signatures)を練習します。
第7回	変拍子2	6/8+5/8等、複合拍子を練習します。
第8回	リズムパターンとフィルイン(試験)3	第5回で練習したリズムパターンにフィルインを入れて演奏し、ドラマーとしての総合力を確認します。
学期末試験評価方法		
講師作成の試験課題を演奏する実技試験を行います。試験でのリズムパターンとフィルインのスムーズな移行、テンポキープの正確さ(試験結果)と共に、普段の授業内での積極性(平常点)と、毎回の出席(出席点)を合わせて評価します。(試験結果50% 平常点30% 出席点20%)		

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラーアンサンブル I (Keyboard)	演習	実	奈良部 匠平

科目概要

作・編曲家として必要なキーボード演奏の基本を学びます。ステージやスタジオでのパフォーマンスなど、目標に合わせた練習法で様々なスタイルの演奏やコード&スケール演習を重ねることでスキルを身につけます。講師は渡辺美里・吉川晃司・米米CLUBなどのライブサポート、レコーディングに作・編曲科、キーボードプレーヤーとして参加。米 New Yorkにて20年間 同様の音楽活動などの実績がある。

到達目標

春楽器は、初級～上級それぞれのレベルに合わせた目標を定めて練習と実演をしていきます。アドバイス：楽典や、メジャー、マイナー、7th、ディミニッシュ、オーギュメントなど、コードの基礎知識を春学期の開始前に習得しておくで学期開始後に、よりスムーズな楽曲学習ができます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎知識と目標	個別能力や趣向、目標などについてディスカッションします。基礎知識の確認。
第2回	基礎練習の意味	コード&スケール演習と作編曲の関係について説明します。基礎演習の理解。
第3回	楽曲演習と基礎練習	持参曲または既存の譜面を用いた楽曲演習を始めます。ジャンル・様式を理解。
第4回	テンポ感を育てる	メトロノーム、クリックやトラックに合わせた演奏をします。タイミングとグルーブを理解。
第5回	ヴォイスングの魔法	ヴォイスングや分数コードを演奏し雰囲気と世界観の変化を体験します。試験曲の要点を把握。
第6回	課題曲の演習	試験課題曲を選び集中的な演習をします。基礎知識の理解度を確認します。
第7回	クォーター末試験	演奏実技試験。

クォーター末試験評価方法

平常時の授業態度。40% 演奏におけるオリジナリティと努力を重要視。40%  
出席点20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	多様な現場の考察	スタジオ&ステージ上のアンサンブル演奏について。バンド演奏についての理解。
第2回	伴奏者のテクニック	シンガーや楽器ソリストの伴奏について。伴奏についての理解。
第3回	キーボード・ソリスト	ソリストとしての演奏について。ソロ演奏についての理解。
第4回	DAWへの演奏	DAWへ入力時のリアルタイム演奏について。DAW演奏についての理解。
第5回	聴音テクニック	耳コピーのテクニックと自作譜面について。聞き取りについての理解。
第6回	自作譜面の演習	自作譜面演習の際にも各自にアドバイスをします。楽曲演奏についての理解。
第7回	課題曲の要点	試験課題曲を選び集中的な演習をします。試験曲の要点を把握。
第8回	学期末試験	演奏実技試験 演奏の上達を確認します。

学期末試験評価方法

平常時の授業態度。40% 演奏におけるオリジナリティと努力を重要視。40%  
出席点20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラーアンサンブル II (Keyboard)	演習	実	奈良部 匠平

科目概要

作・編曲家として必須なキーボード演奏の基本を学びます。ステージやスタジオでのパフォーマンスなど、目標に合わせた練習法で様々なスタイルの演奏やコード&スケール演習を重ねることでスキルを身につけます。講師は渡辺美里・吉川晃司・米米CLUBなどのライブサポート、レコーディングに作・編曲科、キーボードプレーヤーとして参加。米 New Yorkにて20年間 同様の音楽活動などの実績がある。

到達目標

秋楽器は、前クォーターからの歌手や他楽器も伴うアンサンブルの対応に必要な実演を強化し、スタジオワークやコンサートの為のリハーサルにも対応できる楽譜の書き方を学び、今後の作・編曲・演奏活動に役立てて行きましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	既存曲のアナライズ1	譜面をアナライズ・分析し楽曲の構成や作家の意図を理解し2週を使って実演します。 楽曲1
第2回	楽曲1の実演	前の週にアナライズした楽曲を各自へのアドバイスをもとに実演を深めます。
第3回	既存曲のアナライズ2	譜面をアナライズ・分析し楽曲の構成や作家の意図を理解し2週を使って実演します。 楽曲2
第4回	楽曲2の実演	前の週にアナライズした楽曲を各自へのアドバイスをもとに実演を深めます。
第5回	既存曲のアナライズ3	譜面をアナライズ・分析し楽曲の構成や作家の意図を理解し2週を使って実演します。 楽曲3
第6回	楽曲3の実演	前の週にアナライズした楽曲を各自へのアドバイスをもとに実演を深めます。試験曲を選びます。
第7回	クォーター末試験	筆記試験又は演奏試験。

クォーター末試験評価方法

平常時の授業態度と出席状況。40% 演奏におけるオリジナリティと努力を重要視。40% 出席点20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リズム & グループ 1	リズムカルな楽曲演習 Type1 スポットやグループの理解と演奏。
第2回	バラード曲の演奏 1	バラード楽曲演習 Type1 叙情的な表現の理解と演奏。
第3回	リズム & グループ 2	リズムカルな楽曲演習 Type2 スポットやグループの理解と演奏。
第4回	バラード曲の演奏 2	バラード楽曲演習 Type2 叙情的な表現の理解と演奏。
第5回	リズム & グループ 3	リズムカルな楽曲演習 Type3 スポットやグループの理解と演奏。
第6回	バラード曲の演奏 3	バラード楽曲演習 Type3 叙情的な表現の理解と演奏。
第7回	課題曲の要点	試験課題曲を選び集中的な演習をします。楽曲の要点の理解と演奏。
第8回	学期末試験	演奏実技試験 演奏の上達を確認します。

学期末試験評価方法

平常時の授業態度。40% 演奏におけるオリジナリティと努力を重要視。40% 出席点20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラーアンサンブル I (Vocal)	演習		安村 今日子

科目概要

オリジナル作品を自分の思い描いたとおりに歌うために必要な技術の習得を目指します。自分自身を楽器として鳴らしていくことに意識を向け、より楽に演奏できる身体を作ります。腹式呼吸を身につける為、姿勢・ブレス練習を含むボイストレーニングやストレッチ・身体表現を行っていきますので、動きやすい服装で受講することをお勧めします。

到達目標

呼吸、発声の基礎の習得します。身の声の特徴を知り生かした演奏を可能にする。  
→自分の声、音域を生かした楽曲を作曲、アレンジすることができる

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自分の声を知る	自身の声の特徴を自己分析/音域・音色を知る/腹式呼吸・発声の基礎
第2回	発声の器官としての身体①	腹式呼吸・発声の基礎続き/色々な発声法を知る/発声時の各器官の働きを知る
第3回	発声の器官としての身体②	腹式呼吸・発声の基礎続き/色々な発声法を知る/発声時の各器官の働きを知る
第4回	姿勢・重心・脱力	歌においての《支え》とは何かを体感する/無駄な力を抜いて楽に演奏できる姿勢を知る
第5回	ブレス	曲の高低や強弱をつける際のブレスを研究/様々なブレスの仕方を知る
第6回	まとめ	1Qまとめ、復習/ミニライブで発表する課題曲の練習
第7回	ミニライブ	曲歌唱/自分の良いところを発表/お互いの良いところを発表/フィードバック/現時点での課題を次回までに提出

クォーター末試験評価方法

出席・授業内での積極性を重視します。  
身体を使う授業なので、ストレッチなど体の柔軟性を鍛えることを日々行ってください。  
出席50%、平常点50%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様々な声を出す	ファルセット、ヘッド、ミドル、チェストヴォイスを知り、どの音域で声に一貫性を持たせる/自身の声のスイートスポットを知り選曲に役立てる
第2回	日本語の歌詞にリズムを乗せるには	それぞれのbeatに合わせた発音・呼吸等を研究
第3回	夏休み前のミニライブ	個人課題曲発表/自分の良いところを発表/お互いの良いところを発表/フィードバック/現時点での自身の課題を書き出す
第4回	簡単な3声以上のコーラス曲演奏	ハーモニートレーニング/他者の音を聞いて自分の声を出す
第5回	簡単な3声以上のコーラス曲演奏	ハーモニートレーニング/他者の音を聞いて自分の声を出す
第6回	ステージング	個人曲、コーラス曲のステージでの魅せ方を研究する(鏡を用いる)
第7回	春学期まとめ	春学期で学んだことを書き出し、習得を確実なものにしていく
第8回	ライブ	個人課題曲、グループコーラス曲の発表/自分の良いところを発表/お互いの良いところを発表/フィードバック/自己の課題を提出

学期末試験評価方法

出席・授業内での積極性を重視します。  
1Qと比較してどれだけの変化・向上がみられたかを確認します。他人との比較はしません。  
出席50%、平常点30%、実技試験20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分	担当講師
秋	ポピュラーアンサンブルⅡ(Vocal)	演習	安村 今日子

科目概要

オリジナル作品を自分の思い描いたとおりに歌うために必要な技術の習得を目指します。春学期で習得したテクニックを復習しながら、歌に大切な言葉(発音・滑舌)に重点を置きます。コーラストレニングを取り入れ、アカペラアンサンブルも経験します。

到達目標

苦手なことを認識し、克服をして一人のシンガーとしてステージで演奏できるようにするアンサンブルを経験することにより、人と一緒に演奏する技術を取得する。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スコアトレーニング	譜面から読み取れる情報を把握する/メロディー譜、マスターリズム譜の作成
第2回	リズムトレーニング	明瞭な歌詞発音に必要なリズムのトレーニング
第3回	コーラストレニング① 各課題曲の練習①	小編成のグループに分け、課題楽曲にコーラスを作成、発表 個々の課題曲の練習/セルフフィードバック
第4回	コーラストレニング② 各課題曲の練習②	小編成のグループに分け、課題楽曲にコーラスを作成、発表 個々の課題曲の練習/セルフフィードバック
第5回	コーラストレニング③ 各課題曲の練習③	小編成のグループに分け、課題楽曲にコーラスを作成、発表 個々の課題曲の練習/セルフフィードバック
第6回	コーラストレニング④ 各課題曲の練習④	小編成のグループに分け、課題楽曲にコーラスを作成、発表 個々の課題曲の練習/セルフフィードバック
第7回	ミニライブ	曲歌唱/自分の良いところを発表/お互いの良いところを発表/ フィードバック/現時点での課題を提出

クォーター末試験評価方法

出席・授業内での積極性を重視します。  
グループでのコーラスワークが多くなりますので、安易な欠席は授業進行の妨げになります。  
出席50%、平常点50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アカペラコーラス①	各声部の役割を知り、演奏技術を習得する
第2回	アカペラコーラス②	各グループでオリジナルのアレンジを行い、楽曲に膨らみを出す
第3回	アカペラコーラス(仕上げ)	最終調整を行いミニライブを行う
第4回	選曲・個人曲練習・コーラス曲練習	他人とのバランスにも注目し、盛り上がるライブ演出を行えるようにする。
第5回	個人曲練習・コーラス曲練習	苦手ポイントの克服
第6回	個人曲練習・コーラス曲練習	苦手ポイントの克服
第7回	ライブリハーサル	ひとつの作品としてライブを制作する為に、お互いの演奏・演出も考え合う。
第8回	ライブ	プログラム、MCも考えライブ形式で発表する。

学期末試験評価方法

出席・授業内での積極性を重視します。  
グループでのコーラスワークが多くなりますので、安易な欠席は授業進行の妨げになります。  
3Qまでと比較してどれだけの変化・向上がみられたかを確認します。他人との比較はしません。  
出席50%、平常点30%、実技試験20%

音楽総合アカデミー学科 アレンジ・作曲コース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春(集中)	アレンジ・作曲就業支援講座	講義	実	稲見 英夫

科目概要

作曲家、アレンジャー、作詞家などの音楽クリエイターやアーティストとしてデビューすることや自主的な専門活動を行うこと、または就職を目指す卒業年次生が必要な知識を身に付けて進路実現ができることをサポートするための授業です。尚、講師はこの科目の内容に関連する実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、マネージャーとしての活動)を持っております。

到達目標

デビュー、専門活動、就職に関しての曖昧な情報や噂に基づいて行動すると進路実現が達成できません。この講座を受講することによって正確な情報を得て、的確な行動を行い、進路実現を達成できることを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	進路についての考察	進路の選択肢を把握し、自分の進路を決めるために注意すべきことを理解します。
第2回	専門活動と就職について	2つの進路それぞれの具体的な内容を把握します。
第3回	正社員のメリット	正社員のメリットとフリーターのデメリットを理解します。
第4回	音楽家が得られる主な収入源	音楽家は具体的にどのような手段で収入を得ているのかを把握します。
第5回	音楽家になるために必要不可欠なもの	音楽家としての能力や技術は勿論ですが、それ以外に必要とされるものについても把握します。
第6回	就業に必要な基本知識	正しいメールの書き方、履歴書の書き方、面接の受け方等を把握します。
第7回	試験	自分の進路に関する考察をレポートにまとめて提出

クォーター末試験評価方法

レポート課題提出(100%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	デモの作り方(ソングライター編)	ソングライターとして魅力的に感じてもらいやすく、聴かせた相手による反応効果を高めるためのデモについて理解します。
第2回	デモの作り方(劇伴作家編)	劇伴作家として魅力的に感じてもらいやすく、聴かせた相手による反応効果を高めるためのデモについて理解します。
第3回	デモの作り方(自作自演アーティスト編)	自作自演アーティストとして魅力的に感じてもらいやすく、聴かせた相手による反応効果を高めるためのデモについて理解します。
第4回	デモ音源とプロフィールの作り方	音楽クリエイターやアーティストになるために必要な基本ツールとしてのデモ音源とプロフィールの作成方法を学習します。
第5回	オーディションについて	学内の「業界オーディション」と学外オーディションに関する情報とそれぞれの活用方法を把握します。
第6回	自主活動について	音楽事務所とは関わらずに自主的な音楽活動を行う際に必要なことを理解します。
第7回	キャリアカウンセリングについて	キャリアカウンセリングを用いた進路情報収集や進路相談等の活用方法について把握します。
第8回	試験	自分の魅力を最大限に引き出したデモ音源とプロフィールを提出します。

学期末試験評価方法

制作したデモ音源とプロフィールを提出(100%)

ピアノコース

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュ I	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。
到達目標
自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step1,2) & 1Qのまとめ

クォーター末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step3,4) & 2Qのまとめ

学期末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅡ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step5,6) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step7,8) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュⅢ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step9) & 1Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step10) & 2Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅣ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step11) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step12) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅰ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	一年間で学習する内容のガイダンス、講師・学生の自己紹介、簡単な知識チェックテストを行います。
第2回	譜表・音名	基礎中の基礎、五線、譜表、音名を学びます。音部記号(ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号)の譜面の読み方を学びます。
第3回	音符・休符	音符、休符のそれぞれの長さ、記譜法を学びます。
第4回	拍子	4/4や6/8など、拍子によって変わる読譜、記譜法を学びます。
第5回	リズムの記譜法	前回学んだ拍子に合わせた、リズムの記譜法を学びます。
第6回	変化記号	変化記号のルール、小節内、小節をまたいだ場合、など、各ケースでの変化記号の読み方、付け方を学びます。
第7回	1Qのまとめテスト	1Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音階①	音階がどのようなルールの上に成り立っているのかを学びます。この回では、五度圏表を作成し、調の関係性を見ていきます。
第2回	音階②	前回学んだ五度圏表を用い、それぞれの調号、長音階、短音階を学びます。
第3回	夏休み前の復習、音階③	夏休み前に学んだ、音階を重点的に復習します。
第4回	調①	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。
第5回	調②	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。近親調も学びます。
第6回	音程①	幹音を基本とした、音程の答え方を学んでいきます。
第7回	音程②	基本の音程をベースに、変化記号がついた場合の呼称の変化、転回音程などを学んでいきます。
第8回	春学期のまとめテスト	1Q2Q合わせた春学期の確認テストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅱ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。4Qでは、総ざらいで復習し、基礎を固めて行きます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1Q2Qの復習①	主に音階、調の復習をします。
第2回	1Q2Qの復習②	主に音程の復習をします。
第3回	移調と転調	移調楽器への書き換え、臨時記号による転調の見分け方例を学びます。
第4回	楽語・記号	テキスト後半に記載されている、楽語、標語、各種記号を一通り確認します。
第5回	和音・コード①	和声学における和音の呼称、対応するコードの呼称、音の構成を学びます。
第6回	和音・コード②	いくつかの基本コードの呼称、音の構成を学びます。
第7回	3Qのまとめテスト	3Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習①	1Qで学んだ基礎事項の復習をします。
第2回	復習②	音階、調の復習をします。
第3回	復習③	音階、調の復習をします。この項目は、特に重点的に復習し、確実に習得してもらいます。
第4回	復習④	音程の復習をします。
第5回	復習⑤	移調楽器の復習をします。
第6回	復習⑥	コードの復習をします。
第7回	復習⑦	全体的に、弱点と思われる項目を復習します。
第8回	1年間のまとめテスト	1年間学んだ、全ての項目を網羅したテストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験（TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動）に基づき、コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標

理論学習と実習を繰り返し、学んだ事を自作曲に活かせる様、進めていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ペンタトニック・スケール	様々なジャンルから、ペンタトニック・スケールで構成されている楽曲をリストアップします。
第2回	セカンダリー・ドミナント	セカンダリー・ドミナントを復習します。
第3回	パッシング・ディミニッシュ	パッシング・ディミニッシュを学びます。
第4回	循環コード(1)	循環コードのパターンを分析し、フレーズを作成します。
第5回	循環コード(2)	4週で作成したフレーズを移調楽器用にパート譜を作成します。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	1Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サブドミナント・マイナー	サブドミナント・マイナーの用法を学びます。
第2回	バックイング	duo曲の伴奏を分析し、メロ譜に伴奏を付けます。
第3回	カノン	様々なカノンを分析し、カノンを作成します。
第4回	リズム	リズム譜を読み、2人一組で実習します。
第5回	カウンターライン カウンターメロディ	カウンターライン・カウンターメロディについて。
第6回	リフ	既存曲のリフを分析し、リフからテーマを作成します。
第7回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第8回	2Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、春学期の学習内容を踏まえて、オリジナル作品制作に役立つ理論等を学びます。

到達目標

実習で作成した楽曲の試演を取り入れ、演奏しやすい譜面作りを行います。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	裏コード	裏コードの用法を学びます。
第2回	コード付け	既存曲を分析し、既習したコードを取り入れます。
第3回	ホルンの5度(1)	ホルンの5度の用法を学びます。
第4回	ホルンの5度(2)	前回作成したフレーズをホルン用にパート譜を作成します。
第5回	ナポリの和音	ナポリの和音の用法を学びます。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	3Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドリアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第2回	ミクソリディアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第3回	フリジアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第4回	ジブシー	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第5回	ブルー・ノート	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第6回	試演(1)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第7回	試演(2)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第8回	4Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲技法 I (クラシック系)	演習	実	徳備 康純

科目概要

テキストに沿って、ピアノの書法をよく理解し、スコアを書く力をつけていくこと。大譜表で考える力をつけて、大きな編成のスコアも理解できる力をつけていく。尚、講師はヤマハ音楽振興会での勤務の後、作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行うなどの実務経験を持つ。

到達目標

作編曲試演実習の授業と連動したデュオ作品を制作し、そのスコアを提出する。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノの音色と音域について	楽器の特徴。機能についての概要の説明。
第2回	ピアノの伴奏に適した音域について	ピアノ・ソロの曲で、左手で伴奏する際に適している音域を学ぶ。
第3回	和音での伴奏から様々な音型へ発展	単純なベタ弾きの和音から、リズムを加え、バスを独立させていく方法を学びます。
第4回	ワルツやマーチの伴奏	単純なワルツやマーチのバスを独立させて行う伴奏とオルタネーティング・ベースを学びます。
第5回	アルペジオの伴奏について	音域に留意して、アルペジオによる伴奏を試作し、これを学びます。
第6回	和声形からアルペジオの音楽へ	バッハの平均律などのアルペジオの音楽の書法を分析し、いくつかの和声形から、アルペジオだけの音楽を試作します。
第7回	ピアノの伴奏に適した音域について	単純なベタ弾きの和音から、リズムを加え、バスを独立させていく方法を学びます。
クォーター末試験評価方法		
簡単なメロディー+伴奏のピアノの曲を書き、それを提出する。ピアノの音域の特徴を生かした伴奏が書けているか、メロディーの音域が極端になっていないかなどを考慮し、評価する。試験80%、出席点20%。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノでの伴奏法	片手で進んでいた伴奏を、両手に拡大し、伴奏を更に充実させる方法について説明。
第2回	リズム的な伴奏パターン	マーチやワルツでのリズム的なパターンでの両手伴奏の方法を学びます。
第3回	アルペジオ伴奏	アルペジオで両手にアルペジオを持つもの、左手がバスのもの、両手同時のアルペジオとなるものなどを学びます。
第4回	バスの強調	バスを伸ばしたり、保続したりして、バスのラインを強調することで、音楽を立体的に聞かせる方法を学びます。
第5回	オブリガートの書き方	カウンター・メロディーで、音楽を立体的に聞かせる方法を学びます。
第6回	独奏楽器の伴奏でピアノにメロディーを弾かせる方法	独奏楽器と役割を換えての場合の独奏楽器のパートの書き方とピアノの音域のスプリット。
第7回	アンサンブルでの休みについて	休符をソロにどれだけ与えるか、またピアノは休みはあるのかなど、全休符について学びます。(予備日)
第8回	制作した作品のスコアを提出する。	制作した作品のスコアを浄書し、それを提出する。
学期末試験評価方法		
複合形式によるアンサンブルとしての完成度を楽器法、和声、構成などを、総合的にみて評価する。試験80%、出席点20%。		

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲技法Ⅱ(クラシック系)	演習	実	徳備 康純

科目概要

弦楽四重奏の各楽器の性能、特色を理解し、有名曲などを分析しながら、楽器の特性を生かした書法について学び、さらに弦楽四重奏などのアンサンブルの書法にまで理解を深める。尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。

到達目標

作編曲試演実習の授業と連動しつつ、弦楽三重奏、もしくは四重奏とそれぞれの専攻楽器とのアンサンブル作品を制作し、そのスコアを提出する。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ヴァイオリンについて	Violinの調弦、弓の扱い方、特色などを説明し、ゴセックのガヴォットを分析して弦の書き方を学ぶ。
第2回	ベートーヴェンのスプリング・ソナタの第1楽章の分析	ベートーヴェンのスプリング・ソナタの第1楽章の分析を通じて、ヴァイオリンの伴奏など、役割の交換や分担のあり方を学ぶ。
第3回	ダブルストップの可能性	バッハの無伴奏パルティータからシャコンヌを分析し、ダブルストップの様々な可能性を学ぶ。
第4回	サラサーテのツィゴイネルワイゼンの分析	ヴィルトゥーソ作品におけるヴァイオリンの可能性を学ぶ。
第5回	ヴィオラ、チェロについて	Viola, Violoncelloの調弦、特色などを説明し、グラズノフのエレジー(Op. 44)を分析する。
第6回	フォーレのパピヨン/ポッパーの妖精の踊りの分析	フォーレのパピヨン/ポッパーの妖精の踊りの分析により、チェロの楽器の特色などを研究する。
第7回	サン＝サーンスの「白鳥」フォーレの「夢の後に」などの分析	チェロの大きな歌い回しと、伴奏の関係を考察する。

クォーター末試験評価方法

試作した楽譜を提出し、アンサンブルの書法を理解しているか、正しい和音が付けられているか、複合形式を理解しているかなどを総合的に評価する。試験80%、出席点20%。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	弦楽器の基本的な説明	楽器の性能・機能、編成の特徴について基本的な理論をまず理解します。
第2回	ハイドンの弦楽四重奏曲「皇帝」の分析	ハイドンの弦楽四重奏曲「皇帝」の第2楽章を分析し、簡単なメロディーと伴奏の編曲をします。
第3回	モーツァルトの弦楽四重奏曲「狩り」の分析	モーツァルトの弦楽四重奏曲「狩り」の第1楽章を分析し、ハーモナイズされた作品のコンデンスからの編曲を試作してみます。
第4回	モーツァルトの弦楽四重奏曲「不協和音」の分析	モーツァルトの弦楽四重奏曲「不協和音」の第1楽章冒頭を分析し、和声的な作品の弦楽との相性の良さを学びます。
第5回	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第1番の分析	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第1番の第1楽章冒頭を分析とし、効果的なトゥッティの書き方について学び、試作します。
第6回	ドビュッシーの弦楽四重奏曲の分析	ドビュッシーの弦楽四重奏曲の分析し、その曲からコンデンスを書き出して、書法を詳しく学び、それを応用して試作します。
第7回	ラヴェルの弦楽四重奏曲の分析	ラヴェルの弦楽四重奏曲の分析し、トレモロ、分散和音などの弦楽器特有の書法を学びます。
第8回	制作した作品のスコアを提出	制作した作品のスコアを浄書し、それを提出する。

学期末試験評価方法

効果的なアンサンブル作品となっているかなどに留意し、作品の完成度を楽器法、和声、構成などを、総合的にみて評価する。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲技法Ⅲ(クラシック系)	演習	実	徳備 康純

科目概要

作編曲試演実習の授業と連動して、近現代の技法から今日でも使えるモード技法などを学び、その様式によって作品を制作する。尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。

到達目標

学んだ様々な様式・技法を用いてコンデンススコアを制作し、木管を中心とした五重奏以上の室内楽作品に編曲。そのスコアを提出する。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	教会旋法について	古典モードの基本的説明。
第2回	ドビュッシーの夜想曲の分析	ドビュッシーの夜想曲より「祭り」の分析。(各種モードの使用について)
第3回	ドビュッシーの「沈める寺」の分析	ドビュッシーの「沈める寺」の分析。(各種モードの使用について)
第4回	オネゲルのミクソリディア	オネゲルの「夏の牧歌」を分析し、オスティナート上の旋法の作法を分析します。
第5回	芥川也寸志のオスティナート技法	芥川也寸志の交響管弦楽のための二章の分析。オスティナート作法の可能性について。
第6回	4度構成の和音	ストラヴィンスキーの小管弦楽のための組曲を分析し、4度構成のハーモナイズの方法を学びます。
第7回	バルトークの音楽について	バルトークのマイクロコスモスの分析、4度構成のハーモナイズについて学びます。

クォーター末試験評価方法

旋法などの技法を積極的に用いてコンデンス・スコアを制作し、提出する。試験80%、出席点20%。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	近代旋法について	近代のモード、ペンタトニック、ヘキサトニックについて基本的な説明。
第2回	イベールの「寄港地」の分析	イベールの「寄港地」第2楽章を中心に分析し、その使用方法を理解する。
第3回	多調性音楽について	ミヨーの小交響曲第1番「春」の分析を行い、多調性音楽の最も最初の姿を学び、その基本を理解します。
第4回	多調性の作品の試作	ホルストの三重奏曲の分析を行い、多調性音楽の多様性について理解を深めます。
第5回	近衛秀麿の「越天楽」の分析	雅楽のオーケストレーションを近衛秀麿が様々な工夫をして行った昭和初期の日本的なものの表現の可能性を学びます。
第6回	深井史郎の「パロディ的な4章」「日本の笛」の分析	深井史郎の作品を通じて昭和初期のモダニズムのもたらしたものを理解します。
第7回	日本音階で書いてみよう	日本の音階を使って旋法による小品を書いてみよう。
第8回	制作した作品のスコアを提出する	制作した作品のスコアを浄書し、それを提出する。

学期末試験評価方法

作編曲試演実習の授業と連動しつつ第1クォーターで制作したコンデンス・スコアをもとに、木管を中心とした五重奏以上の室内楽作品へ編曲し、そのスコアを提出する。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲技法Ⅳ(クラシック系)	演習	実	徳備 康純

科目概要

作編曲試演実習の授業と連動して、近現代の技法から今日でも使える簡単ないくつかの技法を作品分析などを通じて学び、それを応用して作曲を行う。尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。

到達目標

様々な近代的な様式・技法によるコンデンス・スコアを制作し、そこから10人以上の大編成の室内楽作品に編曲してそのスコアを提出する

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」の分析	ドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」の分析により 近代のはじまりの曲の管弦楽作品を学びます。
第2回	シベリウスの「悲しきワルツ」の分析	シベリウスの「悲しきワルツ」の分析で、弦楽の使用法を中心に生美鱒。
第3回	バーバーの弦楽のためのアダージョの分析	バーバーの弦楽のためのアダージョの分析により、弦楽の使用法を学びます。
第4回	アイヴズの「答えのない質問」の分析	アイヴズの「答えのない質問」の分析を通じて、20世紀はじめの実験音楽の世界に触れ、20世紀音楽について考えます
第5回	マルティヌーの「調理場のレビュー」の分析	マルティヌーの「調理場のレビュー」の分析し、1920年代からのジャズの影響を学びます。
第6回	メシアンの世の終わりのための四重奏曲の分析	メシアンの作品の分析を通じて、移調の限られた旋法、不可逆リズムなどの技法を紹介しします。
第7回	オネゲルの「ダヴィデ王」の多調性のマーチ 1	オネゲルの「ダヴィデ王」の多調性のマーチを分析して多調性とオスティナートについて学びます。

クォーター末試験評価方法

授業でとりあげた技法を使用しての作品作りが出来ているかに留意し、提出された作品を評価する。試験80%、出席点20%。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サティのジムノペティ第1番の分析	サティのジムノペティ第1番の分析により、付加音と単純な和音の繰り返しを描く世界を学びます。
第2回	バルトークのルーマニア民俗舞曲の分析	バルトークのルーマニア民俗舞曲(ピアノ版とオーケストラ版)の分析を通じて、旋法と多調性。オーケストレーションについて学びます。
第3回	伊福部 昭のリミカ・オスティナータの分析	伊福部 昭のリミカ・オスティナータの分析から奇数拍子へのこだわり。ゴジラの作曲家の民族性について。
第4回	ラヴェルのボレロの分析	ラヴェルのボレロの分析を行い、この作品における独特の形式とハーモニーについて。またオーケストレーションについて説明する。
第5回	ラヴェルの序奏とアレグロの分析	ラヴェルの序奏とアレグロの分析を行い、モード技法による小編成の傑作を学ぶ。
第6回	ウェーベルンが編曲した音楽の捧げ物の分析	ウェーベルンが編曲した音楽の捧げ物の分析を通じて、音色旋律について学びます。
第7回	吉松 隆の朱鷺によせる哀歌の分析	吉松 隆の朱鷺によせる哀歌の分析を行い、調性で書かれた現代音楽。そして、管理されたく偶然性になどの技法について学びます。
第8回	制作した作品のスコアを提出する。	出来上がった作品のスコアを浄書し、それを提出する。

学期末試験評価方法

第3クォーターで制作した作品を、作編曲試演実習の授業と連動しての、大編成の室内楽作品へ編曲し、そのスコアを提出する。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲試演実習 I(クラシック)	実習	実	徳備 康純

科目概要
作編曲技法と連動して、それぞれの専攻楽器とピアノ、あるいはヴァイオリンもしくはフルートなどの高音楽器とピアノによるデュオ作品を、を制作し、それを音出しして録音する。尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。
到達目標
作編曲技法の授業と連動して、デュオ作品を制作し、パート譜とスコアを制作、自らが主導して音出しを行う。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	第1テーマの作曲	音程と調性の不思議な関係と、それからまずワルツかマーチを前提に第1テーマを作ります。
第2回	第2テーマの作曲	近親調について説明し、名曲における第1テーマと第2テーマの関係を学び、前回作ったテーマに対する第2テーマを作ります。
第3回	大楽節に発展させる	半終止と完全終止を学び、8小節のメロディーを繰り返して16小節の大楽節に発展させます。
第4回	最初の部分のブリッジを作る	ブリッジのコード・パターンを説明し、第1主題の一部のゼクエントそこに展開させて、ブリッジを作ります。
第5回	中間部のブリッジを作る	異なるコード・パターンによる第2主題の動機を使ったブリッジを作ります。
第6回	曲にまとめる	AからB、BからAへの転調部分のつながりを作る。
第7回	コーダを作る	前奏とコーダをつけて、コンデンススコアを提出する。
クォーター末試験評価方法		
楽曲から和声の流れを理解し、終止形の基本的な形を(完全終止、半終止等)を理解し、実際の楽曲における用法を書きだし、そのモデル化をして活用できるようにできたかどうかを提出作品から総合的に評価する。試験80%、出席点20%。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ヴァイオリンの楽器法	ヴァイオリンの楽器法を学び、特徴のある奏法(pizz)やトレモロ、重音奏法などを学びます。
第2回	デュオ作品への編曲の設計	デュオ作品への編曲の設計を行い、大譜表から2つの楽器にまずメモで振り分けていきます。
第3回	デュオ作品への編曲(Aの部分)	最初の部分のデュオ作品への編曲を設計に基づいて行います。
第4回	デュオ作品への編曲(中間部)	中間部のデュオ作品への編曲を、設計に基づいて各自行い、作品制作の指導をそれぞれに対して行います。
第5回	デュオ作品への編曲(再現部)	再現部のデュオ作品への編曲を、設計に基づいて各自行い、作品制作の指導をそれぞれに対して行います。
第6回	スコアの仕上げ	スコアを仕上げ、清書する。スラーやアーティキュレーション、ダイナミック、テンポの変化などをみれなく書き込む。
第7回	パート譜の制作	パート譜の書き方を指導し、それに基づきパート譜を制作する
第8回	二重奏作品の音だし	自ら作曲し、編曲したデュオ作品を音出しし、録音する。
学期末試験評価方法		
複合形式によるデュオ作品らしいやりとりが出来ているか。和音が単純であっても正確につけられているか。等を、音出しでの演奏結果と総合的に判断し、評価する。試験80%、出席点20%。		

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲試演実習Ⅱ(クラシック)	実習	実	徳備 康純

科目概要

作編曲試演実習の内容と連動して、それぞれの専攻楽器と弦楽三重奏、もしくは四重奏の室内楽作品を、まず下書きとしてコンデンス・スコアを制作し、そこからアンサンブルへと編曲。演奏会用の小品を制作し、それを音出しして録音する。尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。

到達目標

作編曲試演実習の授業と連動しつつ、弦楽三重奏、もしくは四重奏とそれぞれの専攻楽器とのアンサンブル作品のスコアとパート譜を制作し、自らが主導する形で音出しを行う。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	第1テーマの作曲	音程と調性の不思議な関係と、それからまずワルツかマーチを前提に第1テーマを作ります。
第2回	第2テーマの作曲	近親調について説明し、名曲における第1テーマと第2テーマの関係を学び、前回作ったテーマに対する第2テーマを作ります。
第3回	大楽節に発展させる	半終止と完全終止を学び、8小節のメロディーを繰り返して16小節の大楽節に発展させます。
第4回	最初の部分のブリッジを作る	ブリッジのコード・パターンを説明し、第1主題の一部のゼクエントそこに展開させて、ブリッジを作ります。
第5回	中間部のブリッジを作る	異なるコード・パターンによる第2主題の動機を使ったブリッジを作ります。
第6回	曲にまとめる	AからB、BからAへの転調部分のつなぎを作る。
第7回	コーダを作る	前奏とコーダをつけて、コンデンススコアを提出する。

クォーター末試験評価方法

楽器法も考慮しつつ、室内楽作品の下書きとして、まとまった作品に仕上がっているかどうかを、その和声の流れ、構成などに留意しつつ総合的に評価する。試験80%、出席点20%。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ヴァイオリンの楽器法	ヴァイオリンの楽器法を学び、特徴のある奏法(pizz)やトレモロ、重音奏法などを学びます。
第2回	デュオ作品への編曲の設計	デュオ作品への編曲の設計を行い、大譜表から2つの楽器にまずメモで振り分けていきます。
第3回	デュオ作品への編曲(Aの部分)	最初の部分のデュオ作品への編曲を設計に基づいて行います。
第4回	モーツァルトの弦楽四重奏曲「不協和音」の分析	モーツァルトの弦楽四重奏曲「不協和音」の第1楽章冒頭を分析し、和声的な作品の弦楽との相性の良さを学びます。
第5回	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第1番の分析	ベートーヴェンの弦楽四重奏曲第1番の第1楽章冒頭を分析とし、効果的なトゥッティの書き方について学び、試作します。
第6回	ドビュッシーの弦楽四重奏曲の分析	ドビュッシーの弦楽四重奏曲の分析し、その曲からコンデンスを書き出して、書法を詳しく学び、それを応用して試作します。
第7回	ラヴェルの弦楽四重奏曲の分析	ラヴェルの弦楽四重奏曲の分析し、トレモロ、分散和音などの弦楽器特有の書法を学びます。
第8回	制作した作品のスコアを提出する。	制作した作品のスコアを浄書し、それを提出する。

学期末試験評価方法

楽器法を理解した、効果的なアンサンブル作品となっているかなどに留意しつつ、作品の完成度を総合的に評価する。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲試演実習Ⅲ(クラシック系)	実習	実	徳備 康純

科目概要

木管五重奏、金管五重奏、あるいはサクソフォン四重奏などの編成による演奏会などで演奏できる小品を制作し、自らが主導してその音だしを行う。尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。

到達目標

自らが参加する室内楽作品であることを前提として、下書き(二段譜)を制作し、その楽譜を提出する。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	編成の説明	編成の説明と書法についての説明。
第2回	第1テーマを作る	各自選んだ編成のための第1テーマを作る。
第3回	第2テーマを作る	第2テーマの作り方について復習し、その方法により第2テーマを作曲する。
第4回	第1部のブリッジを作る	第1テーマを大楽節に発展させ、続けてブリッジを作る。
第5回	中間部のブリッジを作る	第2テーマを大楽節に発展させ、続けてブリッジを作る。
第6回	転調部分の制作	第1部から中間部へ、そして中間部から再現部への移行部(転調)を作る。
第7回	コーダを作曲する	主題を使って、作品に相応しいコーダを作り、曲を仕上げる。

クォーター末試験評価方法

大譜表で提出されたオリジナル作品をメロディーとハーモニーのミスはないか、あるいは五重奏などの編成を想定した楽譜になっているかなどを考慮しつつ、総合的に判断し評価する。試験80%、出席点20%。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	木管五重奏の楽器についての説明	フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、バスーンの各楽器の音域、特徴などについて説明を行います。
第2回	金管五重奏の各楽器についての説明	トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバの各楽器の音域、特徴などについての説明を行います。
第3回	編曲の準備	コンデンス・スコアからそれぞれの編成に合った楽器へのふりわけをメモしていく。
第4回	最初の部分を編曲	編曲を行い、一部を実際に音出しして確認してみます。
第5回	中間部の編曲	中間部の編曲をコンデンスから行う。
第6回	再現部の編曲	再現部の編曲をコンデンスから行い、全体を推敲し、仕上げる。
第7回	パート譜の制作	パート譜を制作し、演奏者にわたす。
第8回	試演・録音	自ら作曲し、編曲した五重奏作品を音出しし、録音する。

学期末試験評価方法

それぞれが提出した作品のスコアから、各自が楽器法をよく理解しているか、そしてスコアは正確に書けているかなどを総合的にその完成度を判断し評価する。試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲試演実習Ⅳ(クラシック系)	実習	実	徳備 康純

科目概要

一管編成のオーケストラ編成による演奏会などで演奏できる作品を大譜表にて下書きを完成し、そしてそこから楽器法に留意しつつ、フル・スコアとパート譜を制作し、その音だしをする。尚、講師は作曲家として海外を含めて活動を30年以上にわたって行い、全音などから作品を出版するなど行う等の実務経験を持つ。

到達目標

様々な近代的な様式・技法によるコンデンス・スコアを制作し、そこから10人以上の大編成の室内楽作品に編曲してそのスコアを提出する。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	編成の説明	ブリテンやグノーなどの似た編成の作品のスコアを参考に一管編成のアンサンブルの特徴について説明
第2回	第1テーマを作る	一管編成のことを念頭に第1テーマを作る。
第3回	第2テーマを作る	第2テーマの作り方について復習し、その方法により第2テーマを作曲する。
第4回	第1部のブリッジを作る	第1テーマを大楽節に発展させ、続けてブリッジを作る。
第5回	中間部のブリッジを作る	第2テーマを大楽節に発展させ、続けてブリッジを作る。
第6回	転調部分の制作	第1部から中間部へ、そして中間部から再現部への移行部(転調)を作る。
第7回	コーダを作曲する	主題を使って、作品に相応しいコーダを作り、曲を仕上げる。

クォーター末試験評価方法

大譜表で提出されたオリジナル作品をメロディーとハーモニーのミスはないか、一管編成を想定したコンデンスになっているかなどを総合的に判断し評価する。試験80%、出席点20%。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	編成の説明	楽器法、弦と管の合わせ方、拡大法などを説明する。
第2回	イベールのサクソフォン協奏曲の分析	イベールのサクソフォン協奏曲など似た編成の作品のスコアを参考に一管編成のアンサンブルの特徴について説明。
第3回	編曲の準備	コンデンス・スコアからそれぞれの編成に合った楽器への振りわけをメモしていく。
第4回	最初の部分を編曲	編曲を行い、一部をFinaleなどの音源を使用して音出しして、どういう曲になるか確認して更に編曲を進めていきます。
第5回	中間部の編曲	中間部の編曲をコンデンスから行う。
第6回	再現部の編曲	再現部の編曲をコンデンスから行い、全体を推敲し、仕上げる。
第7回	パート譜の制作	パート譜を制作し、試演の準備を行う。
第8回	試演・録音	自ら作曲し、編曲した一管編成作品を作曲家それぞれが指揮をして音出しし、録音する。

学期末試験評価方法

第3クォーターで制作した作品を、大編成の室内楽作品へ編曲し、スコアとパート譜を制作し、自らが主導して音出しを行う。提試験80%、出席点20%。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽ソフト基礎 I	演習	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(マルチメディアコンテンツ制作プロデューサー、Webデザイナー)に基づき、パソコンの基本操作とアプリケーションについて学びます。WordとExcelでは、文字の入力、装飾、書式設定などを確実に習得し、さらに応用力も身につけます。PowerPointでは、スライド作成の技術だけでなく、プレゼンテーション能力も高めます。

到達目標

Word,Excelを使用して文章の作成、表の作成ができるようになることを目指します。Powerpointを使用してプレゼンテーションを作成します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Word基礎1	PCの基本操作、Wordの基本操作、タイピング、日本語変換について学びます。
第2回	Word基礎2	基本的な編集・設定について学びます
第3回	Word基礎3	便利な機能について学びます。ここまでの復習で達成度を確認します。
第4回	Excel基礎1	Excelの基本操作をマスターします
第5回	Excel基礎2	基本的な数式と関数の利用を学びます
第6回	課題作成	エクセルを使って予定表を作成します
第7回	課題提出	課題を完成させ提出します

クォーター末試験評価方法

演習・課題の完成度だけでなく、取り組む姿勢や意欲を評価します。試験75%、平常点25%。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	PowerPoint基礎1	プレゼンテーションとは何かを理解します
第2回	PowerPoint基礎2	PowerPointの基本操作をマスターします
第3回	プレゼンテーション作成の準備1	基本的な作成方法をマスターします。プレゼンテーションのテーマを考えます。
第4回	プレゼンテーション作成の準備2	プレゼンテーションに必要な資料を収集し、スライドで整理します。
第5回	プレゼンテーション作成の準備3・提出	スライドのデザインを考えます。プレゼン内容のプランを提出します。
第6回	プレゼンテーションの作成	ここまでの内容の復習をします。さまざまなオブジェクトの挿入を演習します。
第7回	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションを完成させます
第8回	プレゼンテーションファイルの完成・提出	プレゼンテーションファイルを完成させ、提出します。

学期末試験評価方法

演習・課題の完成度だけでなく、取り組む姿勢や意欲を評価します。試験50%、平常点(授業態度、課題への取り組み方)10%、出席点40%。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽ソフト基礎Ⅱ	演習	実	有馬知章

科目概要
この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー、譜面浄書、楽譜制作)に基づき、楽譜作成ソフトFinaleの機能を例題演習によって習得し、コンピューターでの楽譜作成技術を身につけます。 メロディ、コード、歌詞の基本的な楽譜の作り方を学びます。
到達目標
コード、歌詞を伴うメロディ譜から、簡単なスコア、アンサンブルのスコアの作成を目指します。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Finale基礎1	Finaleの基本画面について学びます。デフォルトファイルの作成と編集を学びます。ステップ入力でメロディを入力します。
第2回	Finale基礎2	音価の選択。メロディ譜を作成します。
第3回	メロ譜の作成・コードの入力	コードの入力。基本的な記号を学びます。作成したメロディ譜にコードを入力し完成させます。
第4回	歌詞の入力	歌詞の入力を学びます。
第5回	楽器の設定など総合的な設定	セットアップウィザードの使い方を学びます。テンポ記号、拍子記号、音部記号、楽器の設定を学びます。
第6回	課題の作成	ファイル別オプション等の各種設定を学びます。
第7回	課題作成・提出	指定した楽曲の楽譜を作成し提出
クォーター末試験評価方法		
演習・課題の完成度だけでなく、取り組む姿勢や意欲を評価します。授業での指示を聞いているかどうか？試験75%、平常点25%。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。		
4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノ譜の作成 基礎	基本操作の確認。ピアノ譜の作成について学びます。
第2回	ドラム・パーカッションの楽譜	ドラム・パーカッションの入力方法を学びます。レイヤーの使い方。高速ステップ入力。
第3回	記号の作成	発想記号・変形図形・アーティキュレーションツールについて学びます。
第4回	ピアノ譜の作成 応用1	ペダル、指番号などの記号を使ったピアノ譜の作成について学びます
第5回	ピアノ譜の作成 応用2	ページレイアウト設定を学びます
第6回	スコアの作成	スコアの作成方法について学びます。
第7回	スコアの作成	スコア譜を作成します
第8回	課題作成・提出	スコア譜を完成させ提出します。
学期末試験評価方法		
演習・課題の完成度だけでなく、取り組む姿勢や意欲を評価します。授業での指示を聞いているかどうか？試験75%、平常点25%。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。		

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	伴奏法 I	演習	実	多 紗於里

科目概要

この科目では、講師の実務経験（管・弦・打楽器、声楽、オペラの伴奏、オーケストラピアノ、伴奏法セミナー指導とマネージメントなど）に基づき、様々な伴奏スタイル、伴奏スキル、リハーサルテクニックなどを学び、他の楽器の特徴的なポイント、楽譜の読み方、歌詞の理解と発音などを研究していきます。初見トレーニングも定期的に行います。

到達目標

伴奏レパートリーを研究し、多面的な伴奏能力を身につけます。「伴奏」の理解、パートの練習法を学びます。1Qは楽器の伴奏について、2Qは歌の伴奏について学びます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「伴奏」とは	授業内容の確認に続き、伴奏者に必要なスキルなどを学びます。初見トレーニングも始めます。
第2回	コンチェルトの伴奏1	ハイドン・チェロ・コンチェルト前奏のカットを練習します。理想的なカットのタイミングを考えます。
第3回	コンチェルトの伴奏2	モーツァルト・ヴァイオリン協奏曲の前奏カットを練習します。弦楽器とのバランスについて考えます。
第4回	コンチェルトの伴奏3	シュターミッツとホーフマイスター・ヴィオラ・コンチェルトの伴奏法とハ音記号の読み方を学びます。
第5回	コンチェルトの伴奏4	モーツァルト・クラリネット・コンチェルト前奏のカットの他、移調楽譜の読み方を学びます。
第6回	コンチェルトの伴奏5	モーツァルト・ホルン・コンチェルト3曲の前奏カットと多数の移調楽器について学びます。
第7回	試験	指定されたピアノ・コンチェルト前奏の伴奏パートを演奏。初見(ピアノ曲)

クォーター末試験評価方法

授業出席と準備・参加 70%  
試験・演奏実技 30%  
欠席、遅刻は減点

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	歌の伴奏とは	様々な声楽スタイルの伴奏と歌詞の理解と発音の重要性について学びます。シューベルト「ます」を分析します
第2回	合唱の伴奏1	コーラルの伴奏と練習方法について学びます。コーラルのテキストの言語を見分けられるか確認します。
第3回	合唱の伴奏2	ソリスト、合唱とオーケストラのための大曲の伴奏と練習方法とラテン語の発音について学びます。
第4回	ドイツ語歌曲	ドイツ語リートレパートリーより複数の曲目を分析します。ドイツ語の歌詞の発音を聴き取りリピートします
第5回	フランス語歌曲	フランス語の歌曲を分析し、発音について学びます。フランス語の歌詞を聴き取りリピートします
第6回	オペラの伴奏1	バロックと古典派オペラの伴奏について学びます。オールドイングリッシュとドイツ語発音の確認します
第7回	オペラの伴奏2	ロマン派のオペラの伴奏について学びます。ヴェルディのオペラの例でイタリア語発音について学びます。
第8回	試験	ドイツ語歌曲の分析と解説(口頭)とピアノパートの演奏発表。初見(4声コーラル)

学期末試験評価方法

授業出席と準備・参加 70%  
試験:実技・解説・初見 30%  
欠席、遅刻は減点

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	伴奏法 II	演習	実	多 紗於里

科目概要

秋学期のキーワードは「コラボレーション」で、弦楽器、木管楽器とヴォーカルのソリストと実際に合わせてみます。相手とのコミュニケーションスキル、リハーサルテクニック等を高めます。尚、講師は験管・弦・打楽器、声楽、オペラの伴奏、オーケストラピアノ、伴奏法セミナー指導とマネジメントなどの実務経験を持ちます。

到達目標

伴奏レパートリーの知識を深めて、ソリストと共に曲を作り上げていきます。春学期に続けて初見トレーニングもグレードアップします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	歌曲の伴奏の準備	ドイツ語歌曲の合わせを準備し、パートを練習します。歌詞の発音と内容理解を確認します。
第2回	ヴォーカル1	ヴォーカルのソリストと準備した歌曲を合わせてみます。アンサンブル、ブレスのタイミングなどに注目します
第3回	弦楽器伴奏の準備	ヴァイオリンとの伴奏を準備してパートの練習を行い、カットなどを確認します。曲目の音源も聴いてみます
第4回	ヴァイオリン1	準備した曲目をヴァイオリン奏者と合わせてみます。弦楽器、弓と奏法について学びます
第5回	木管楽器伴奏の準備	木管楽器の伴奏を準備してパートの練習を行い、カットなどを確認します。曲目の音源も聴いてみます
第6回	木管1	準備した曲目を木管楽器奏者と合わせてみます。木管楽器の特徴と奏法について学びます
第7回	試験	合唱の伴奏。中高年の歌の伴奏(日本語)。初見(伴奏曲)

クォーター末試験評価方法

授業出席と準備・参加 70%  
試験・演奏実技:30%  
欠席、遅刻は減点

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	歌曲の伴奏の準備	ドイツ語歌曲の合わせを準備・練習し、歌詞の発音と内容理解を確認します。音源を聴いてみます
第2回	ヴォーカル2	ヴォーカリストと準備した曲目を合わせてみます。ブレスのタイミングなどに注目します
第3回	ヴァイオリン・木管の準備	ヴァイオリンと木管の伴奏の準備を続けます。パートを練習し、理想的なテンポで合わせをできるようにします
第4回	ヴァイオリン2	ヴァイオリンとの合わせを続けます。1回目の合わせで学んだスキルの確認とボーイングに注目します
第5回	木管2	木管楽器との合わせを続けます。1回目の合わせで学んだスキルの確認とブレスのタイミングなどに注目します
第6回	ヴァイオリン3	ヴァイオリンとの合わせを続け、ヴァイオリニストにとって理想的なテンポで通せるか最終確認します
第7回	木管3	木管楽器と合わせを続け、木管楽器奏者にとって理想的なテンポで通せるか最終確認します
第8回	試験	秋学期中重ねて練習してきたヴァイオリン・木管の伴奏を演奏発表します。初見(ピアノ曲)

学期末試験評価方法

授業出席と準備・参加 70%  
試験・演奏実技:30%  
欠席、遅刻は減点

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ピアノ音楽史 I	演習	実	武正久美子

科目概要

西洋音楽の歴史を学ぶ授業です。春学期は、中世、ルネサンス期を経てバロック時代と古典派を中心に、各時代の音楽的特徴、作曲家や作品のスタイルを知り、どのように音楽が発展して来たかを考察します。更に当時の絵画、文学、建築等も紹介しながら音楽への影響や関連性にふれていきます。尚、講師はピアニストとして出演、企画、国内外の演奏家との共演の他、国際音楽祭、マスタークラス、講習会での通訳・コレペイトウアの実務経験を持ちます。

到達目標

私たちが日ごろ親しんでいる楽曲には、どのような背景があるのかを知り、作品とその作曲家への理解を深めることを目的としています。実際の演奏や曲を聴くことが、幅広い視点と知識を持つことでより魅力を増し、豊かな感性を持って音楽に向きあえるよう目指していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	西洋音楽史概要/中世ヨーロッパ	祈りと音楽・キリスト教音楽の始まり/グレゴリオ聖歌の発展とポリフォニー音楽の起源
第2回	中世からルネサンスへ	教会旋法の響きとは/ゴシック様式の芸術/ノートルダム大聖堂の音楽・中世の楽譜とリズム表記/アルス ノヴァ
第3回	ルネサンスからバロックへ	ルネサンス背景/宗教改革とルターのコラール/ バロック時代概要・音楽的特徴
第4回	バロック時代 I	バロック音楽の特徴となる様々な作曲法/通奏低音・対位法/ 教会旋法から長・短調へ/器楽音楽の興隆
第5回	バロック時代 II	器楽・鍵盤音楽作品の種類/ ～J.S.バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディの作品を通して～
第6回	バロック時代 III	舞曲・組曲の種類と特徴/変奏曲、トッカータ、トリオ ソナタ、 コンチェルト グロッセ他/フィレンツェ・オペラの誕生
第7回	授業内試験	中世ヨーロッパからバロック時代を中心に、音楽的特徴、作品のスタイルなどについて問う記述式試験

クォーター末試験評価方法

試験前の授業であらかじめ出題する設問に対して、各自自作の文章にて回答する記述式試験を行います。  
試験結果:70% 出席:20% 平常点:10%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロックから古典へ～前古典派～	古典主義音楽の概要・特徴と時代背景/ バロックから古典への過渡期/多感様式 他
第2回	古典派 I	D.スカルラッチィとC.P.E.バッハのソナタ形式/オーケストラ音楽の発展・マンハイム楽派とJ.シュターミッツの活躍
第3回	古典派 II	ソナタ形式と交響曲の確立/ウィーン古典派の三大巨匠 ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの交響曲、弦楽四重奏
第4回	古典派 III	ウィーン古典派/様々な作品から ～楽器の音色とオーケストラのしくみ～
第5回	古典派 IV	ソナタ形式・ Rond 形式の構成/主題労作とは？三部形式の調性の関係～モーツァルトの協奏曲・交響曲の分析から知る～
第6回	古典派 V	ベートーヴェンとピアノ/ソナタの作風、音域とペダルの使用に見る”楽器”としてのピアノ”の発達
第7回	古典派 VI	18世紀のオペラ～イタリア・フランス・ドイツ～ オペラの種類と名作品
第8回	授業内試験	古典派の特徴となる作曲法、作風、活躍した作曲家やその作品について問う記述式試験

学期末試験評価方法

試験前の授業であらかじめ出題する設問に対して、各自自作の文章にて回答する記述式試験を行います。  
試験結果:70% 出席:20% 平常点:10%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ピアノ音楽史Ⅱ	演習	実	武正久美子

科目概要

ロマン派～近現代のピアノ音楽、協奏曲、交響曲、オペラなど多様なスタイルの作品を含め、多くの作曲家の個性にふれていきます。20世紀以降は、国際化の進む中で新しい感性や思想を追求した現代音楽家達、ジャズの影響、邦人音楽家も取り上げ、現代に至る迄の音楽の発展や変化を辿ります。尚、講師はピアニストとして出演、企画、国内外の演奏家との共演の他、国際音楽祭、マスタークラス、講習会での通訳・コレペイトウアの実務経験を持ちます。

到達目標

時代の流れと背景を学び、各時代の音楽的特徴、活躍した音楽家や作品への理解を深めていくことが目標です。現在では当前と思われる楽器の機能、演奏会のスタイル、音楽家の在り方など歴史上でのクラシック音楽の変化と過程を知り、その価値を再確認する事を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ロマン派の音楽Ⅰ	ロマン派 概要/時代背景と文化の特色 文学、芸術とのつながり
第2回	ロマン派の音楽Ⅱ	ロマン派を支えるピアノ音楽/古典派的なロマン派作曲家たち シューベルトのドイツ歌曲～ピアノを歌う楽器に～
第3回	ロマン派の音楽Ⅲ	シューマンの歌曲とピアノ作品/ロマン派最盛期 ヴィルトゥオーゾの活躍/ピアノの発達と演奏会スタイルの変化
第4回	ロマン派の音楽Ⅳ	標題音楽・性格的小品/ リストの交響詩
第5回	ロマン派の音楽Ⅴ	国民楽派の音楽/東欧、北欧、ヨーロッパ諸国の音楽家 ロシア五人組/民族色を音楽に
第6回	ロマン派の音楽Ⅵ	ロマン派のオペラ～イタリア、フランス、ドイツ～ オペラ作曲家と作品/ウィンナーワルツ
第7回	授業内試験	ロマン派の音楽に関する記述式試験

クォーター末試験評価方法

試験前の授業で事前に出題する設問に対し、自作の文章で答える記述式試験を行います。  
試験結果:70% 出席:20% 平常点:10%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ロマン派から近代へ	19世紀末のウィーン/アールヌーヴォーの美術・芸術家 フランス音楽の再始動/印象主義の絵画と音楽への影響
第2回	近代Ⅰ	ドビュッシーの音楽/ 前音階の響きと、音色に表れる印象派の趣
第3回	近代Ⅱ	19世紀末～近代ロシアの作曲家たち/ スクリャービンの神秘和音/ラフマニノフの作品
第4回	近代Ⅲ	新ウィーン楽派/シェーンベルクの十二音技法 リズムの改革/ストラヴィンスキー、バルトーク
第5回	近代Ⅳ	新古典主義・フランス六人組の作風/ジャズの影響
第6回	近代～現代	メシアン/その音楽観・日本人音楽家とのつながり 新しい音楽への試み/アメリカの音楽界
第7回	現代	ケージ・偶然性の音楽/新発想のピアノ奏法/プリバードピアノ他 日本における西洋音楽/邦人音楽家の活躍
第8回	授業内試験	近現代の音楽、作曲家、その作風についてを問う記述式試験

学期末試験評価方法

試験前の授業で事前に出題する設問に対し、自作の文章で答える記述式試験を行います。  
試験結果:70% 出席:20% 平常点:10%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ステージング研究	演習	実	大導寺錬太郎

科目概要

ピアノにおける基本的なステージマナーを実際の演奏を伴った形で学びます。舞台に立つ時の心構えも含め演奏内容も向上するような美しく自然なマナーを身に付けます。尚、講師は国内のコンクール審査員、PTNAステップのアドバイザーを担当、30回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

到達目標

舞台上の振舞の良し悪しが、観客の印象を大きく左右する事を良く理解し、無駄の無い美しいステージマナーを実践できることが目標です。ステージマナーに集中する為には演奏に余裕が必要、クレ読み・初見を行ない読譜力を高めます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	良いステージマナー・悪いステージマナー	コンサート・発表会の映像を鑑賞し、ステージ上の振る舞いで注意すべきポイントを解説します。
第2回	ピアノソロステージマナーVol.1(+初見)	演奏を伴ったステージマナーの実践。各学生1～2曲演奏し、その際のステージマナーをチェックします。
第3回	ピアノソロステージマナーVol.2(+初見)	Vol.1の講評まとめを配付、各自確認しVol.2に活かします。前回と異なる曲を演奏。初見を行なう事もあります。
第4回	連弾ステージマナーVol.1(+初見)	3人1組の班を作り、各班数曲を披露。3回の授業内で必ずPrimo・Secondo・譜捲りの役割を体験して頂きます。
第5回	連弾ステージマナーVol.2(+初見・クレ読み)	第4回の時と役割を変えて実施。読譜力向上の為、初見に加えクレ読みを行なうこともあります。
第6回	連弾ステージマナーVol.3(+初見・クレ読み)	第4・5回の時と役割を変えて実施。更に高度な初見・クレ読み課題を行ないます。
第7回	授業のまとめ(3クォーター末試験)	自由曲(任意のソロ又は連弾曲)の演奏を伴ったステージマナーの実践、初見とクレ読み課題を実施します。

クォーター末試験評価方法

出席25%(第1回～第6回各3点、試験の第7回のみ7点で計算。遅刻は減点1)、平常点25%(受講態度の他、授業内での演奏内容や講評記入内容も含みます)、試験50%の割合で評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	連弾ステージマナーVol.5(6手連弾)	6手連弾のステージマナーを学びます。人数が増えることで注意すべきポイントも多くなります。
第2回	連弾ステージマナーVol.6(6手連弾)	第1回と曲又は担当を変えて実施。ステージマナーの他、演奏面(アンサンブルのポイント等)も指導します。
第3回	2台ピアノステージマナーVol.1	初見演奏を伴う2台PFのステージマナーを学びます。各パートの演奏・譜捲りを体験し注意点を整理します。
第4回	2台ピアノステージマナーVol.2	中規模の作品でステージマナーを確認します。演奏面(主にリズムやテンポの正確さ等)も指導します。
第5回	2台ピアノステージマナーVol.3	中規模の作品でステージマナーを確認します。演奏面(合図の出し方、響きのバランス等)も指導します。
第6回	2台ピアノステージマナーVol.4	中規模の作品でのステージマナー確認。演奏面(細部の表現等)も指導します。
第7回	2台ピアノステージマナーVol.5	試験に向けてのリハーサルを行ないます。問題点を整理し、試験までの調整の仕方を考えます。
第8回	授業のまとめ(4クォーター末試験)	演奏(2台ピアノ)を伴ったステージマナーの披露。又ステージマナーの注意点を問う筆記試験も行ないます。

学期末試験評価方法

出席25%(第1回～第7回各3点、試験の第8回のみ4点で計算。遅刻は減点1)、平常点25%(受講態度の他、授業内での演奏内容や講評記入内容も含みます)、試験50%の割合で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	コンサート企画研究	演習	実	大導寺錬太郎

科目概要

コンサートを企画運営する事の難しさ、楽しさを体験。具体的な聴衆をイメージしたコンサートを企画します。チラシやプログラムノートも作成、プレイヤーとしての更なる自覚、責任を持ちましょう。尚、講師は国内のコンクール審査員、PTNAステップのアドバイザーを担当、30回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

到達目標

決められた時間(3~40分)の中で、対象となる聴衆やテーマに沿った内容で楽しめるコンサートを披露する事が目標です。その為に必要なノウハウを体得できる上、グループの中で作業を進めるうちに調整力や忍耐力も養われます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	試験(コンサート)に向けて	6回の授業の中でどのように準備を進めていくかを解説します。チラシ等の提出締切日も告知します。
第2回	演奏会のプログラムを考えよう Vol.1	幾つかの班に分かれてテーマを決め、それに沿ったプログラムを考えます。演奏時間の計測等も行ないます。
第3回	演奏会のプログラムを考えよう Vol.2	幾つかの班に分かれてテーマを決め、それに沿ったプログラムを考え、完成させます。
第4回	チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.1	チラシのデザインや盛り込む内容を検討します。字体や文字の大きさも考える必要があります。
第5回	チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.2	演奏曲について調べ、曲目解説を仕上げます(文字校正含む)。レイアウトも検討します。
第6回	リハーサル	本番と同じように全体を通します。演奏面・ステージマナー等様々な角度から確認、問題点を整理します。
第7回	1クォーター末試験(ミニコンサート)	30~40分程度の演奏会を実施。他班に対しての講評も記入、客観的に見る事で自身の反省へとつなげます。

クォーター末試験評価方法

出席25%、平常点25%(試験の講評内容、普段の受講態度等)、試験50%(チラシ・プログラムノートの完成度、ステージマナー、演奏内容等、複数項目を採点し50点に換算)の割合で評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	演奏会を企画しよう/スケジュール検討	具体的な聴衆をイメージして演奏会を企画します。試験に向けた準備のスケジュールを検討します。
第2回	演奏会のプログラムを考えよう Vol.3	幾つかの班に分かれ、初回で決めた具体的な対象をイメージしたプログラムを考えます。
第3回	演奏会のプログラムを考えよう Vol.4	プログラムを完成させます。選曲に負担はないか、全体の時間に過不足ないか等、最終確認を行ないます。
第4回	チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.3	チラシを作成します。見易く、対象に相応しい雰囲気になるよう、アイデアを練ります。
第5回	チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.4	内容の確認や文字校正を行ないチラシを完成させます。プログラムノートにも着手します。
第6回	チラシ及びプログラムノートの作成 Vol.5	必要事項が過不足なく盛り込まれているかを確認し、文字校正を経てプログラムノートを完成させます。
第7回	リハーサル	本番と同様に全体を通します。演奏面・ステージマナー等様々な角度から確認、問題点を整理します。
第8回	2クォーター末試験(ミニコンサート)	ミニコンサートの実施及び講評記入。授業の総括に相応しい内容がチェックします。

学期末試験評価方法

出席25%、平常点25%(試験の講評内容、普段の受講態度等)、試験50%(チラシ・プログラムノートの完成度、ステージマナー、演奏内容等、複数項目を採点し50点に換算)の割合で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ピアノアンサンブル技法Ⅰ	演習	実	瀬川千穂

科目概要

春学期は、ピアノで表現力のある演奏をするために基盤となる、さまざまな知識や奏法について学びます。ピアノという楽器をどうやってより美しく響かせるか、また聴いている人を納得させる表現をするために演奏者は何をすべきかを学びます。尚、講師は数々のコンサートで声楽や楽器の伴奏、連弾、2台ピアノのアンサンブルの実務経験を持ちます。

到達目標

Iクォーターは、ピアノの構造、身体の使い方、楽譜を正確に読み取るための知識を学びます。IIクォーターは課題曲を使って、アナリーゼや曲想のイメージ作り、ペダルや音色の可能性について学び、各自の音楽的表現を深めることを目標とします。

授業計画

Iクォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノの構造について	鍵盤、弦、ハンマー、ペダルのメカニズムを勉強します。実際にピアノの内部を見て触れて体感します。
第2回	身体の使い方、脱力について	演奏する時の身体の使い方を研究します。指や手首や肩の関節の可動域や自分の筋肉をチェックしていきます。
第3回	タッチのコントロールについて	スタカート、レガート、ノン・レガートなどタッチについて研究します。指や関節の使い方タッチをコントロールする方法を実習します。
第4回	拍子・リズムについて	拍子とは何か、拍子感やリズムについて勉強します。色々な曲の拍子を感じ取ってみましょう。
第5回	楽譜について 1	楽譜に書かれている情報を読み取れるか、確認していきましょう。題名、テンポ、強弱、楽語、記号などを覚えていきます。
第6回	楽譜について 2	楽語や記号、フレーズ、アーティキュレーションなどを楽譜から読み取れるようにしましょう。原典版など版の違いについて学びます。
第7回	クォーター末試験	Iクォーターの授業内容を問うペーパーテストと、授業内容をピアノ演奏に生かして自由曲を演奏します。

クォーター末試験評価方法

平常点50%＝授業でどれだけ積極的に参加できたか、また課題にしっかり取り組めたか、試験50%＝ペーパーテスト、および授業内容を実技演奏に生かすことが出来たか、を合計して評価を出します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アナリーゼと演奏解釈について	時代様式や作曲家について知ることで演奏解釈を探りましょう。課題曲を選び、演奏法を研究していきます。
第2回	音楽の形式、構造について	ソナタ形式、ロンド形式について確認し、曲を構造的に見ることを学びます。ハーモニーとその機能について学びます。
第3回	拍節法について	楽曲分析から演奏法を導き出す拍節法を解説します。「アウフタクト」「アクセント」「デジナンス」のどの動きに当たるかを考えます。
第4回	「練習」について	譜読み、練習、暗譜について、考えてみましょう。自分の練習方法の再確認しましょう。
第5回	イメージの具体化	楽想、ニュアンスのイメージをはっきり持てるようにします。イメージするだけで音が変わるのを実習しましょう。
第6回	ペダルについて	様々なペダルテクニックについて学びます。ペダルの深さ、長さ、タイミングなど微妙な違いを聴き分け、研究しましょう。
第7回	響きのバランス・音色	ピアノ演奏にとって非常に重要な、響きのバランスをとることについて、ピアノで出せる様々な音色について学びます。
第8回	学期末試験	IIクォーターの授業内容を問うペーパーテストと、授業内容を生かして課題曲を1曲演奏します。

学期末試験評価方法

平常点50%＝授業でどれだけ積極的に参加できたか、また課題にしっかり取り組めたか、試験50%＝ペーパーテスト、および授業内容を実技演奏に生かすことが出来たか、を合計して評価を出します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ピアノアンサンブル技法IⅡ	演習	実	瀬川千穂

科目概要
<p>秋学期はピアノアンサンブル、連弾と2台ピアノを実習していきます。息の合わせ方、バランスの取り方など、パートナーと一緒に音楽的表現を追求しましょう。Ⅲクォーターは連弾曲を、Ⅳクォーターは2台ピアノも含め、コンサートへの応用を目指します。毎回の授業に向けて練習して行くことが重要です。尚、講師は数々のコンサートで声楽や楽器の伴奏、連弾、2台ピアノのアンサンブルの実務経験を持ちます。</p>
到達目標
<p>個人の練習はもちろん、相手のパートについても理解した上で、積極的に合わせ練習に取り組むことが大事です。お互いに良く聴き合い、良いアンサンブルができるよう、パートナーと意見を出し合って共に一つの音楽表現を作り上げることを目標とします。</p>

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	色々な連弾曲／連弾演習1	連弾で演奏する時のポイントを学びます。実際にパートナーと合わせて、アンサンブルの面白さを体験します。
第2回	古典派時代の連弾作品／連弾演習2	モーツァルトの連弾作品を演習します。合図の出し方、メロディーと伴奏の役割、バランスについて研究します。
第3回	古典派時代の連弾作品／連弾演習3	モーツァルトの連弾作品を演習します。曲の構造、調性、メロディーの性格などを観察しながら演奏します。
第4回	ロマン派時代の連弾作品／連弾演習3	ブラームスの連弾作品などを演習します。メロディーと伴奏の役割、バランスの取り方、テンポが変化する時の合わせ方を研究します。
第5回	ロマン派時代の連弾作品／連弾演習4	ブラームスの連弾作品などを演習します。自分たちの演奏を客観的に聴いて、パートナーとアイデアを出し合ひましょう。
第6回	試験に向けて曲の仕上げ	これまでに勉強した曲を試験に向けて仕上げしていきます。パートナーと演奏表現を追求しましょう。
第7回	クォーター末試験	試験ではⅢクォーターで勉強した曲の中から1曲、または2曲演奏します。
クォーター末試験評価方法		
<p>平常点50%＝授業でどれだけ積極的に参加できたか、また課題にしっかり取り組めたか、試験50%＝授業内容を演奏に生かし、充実した連弾アンサンブルが出来たか、を合計して評価を出します。</p>		
4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Ⅳクォーター課題曲	学期末試験と学科コンサートに向けてのプログラムを演習していきます。音源を聴き、スコアリーディングをします。
第2回	コンサートプロジェクト1	自分のパートが受け持つ役割を理解して、合わせの演習をします。そのために個人練習をして準備をすることが大切です。
第3回	コンサートプロジェクト2	良いアンサンブルのために、自分のパートだけでなく、パートナーのパートも理解しておくことが重要です。
第4回	コンサートプロジェクト3	より良い演奏にするために自分たちで意見を出し合ひましょう。曲について調べ、曲想のイメージをしっかりと持てるようにします。
第5回	コンサートプロジェクト4	クラスメイトの演奏を聴いて、バランスの良い響きや、良いペダリング、表現力などについて感じられるようにしましょう。
第6回	コンサートプロジェクト5	テンポ、アンサンブルの精度などを確認し、試験までにどのような練習をしたら良いか、仕上がりをイメージして、目処を立てます。
第7回	コンサートプロジェクト6	試験に向けて、自分のパートだけでなくパートナーのパートも今一度確認し、自分たちの演奏の最終チェックをします。
第8回	学期末試験	コンサート形式で曲の解説をしながら演奏します。一年のまとめとして「お客さま」に聴いてもらうことを意識して演奏しましょう。
学期末試験評価方法		
<p>平常点50%＝授業でどれだけ積極的に参加できたか、また課題にしっかり取り組めたか、試験50%＝授業内容を演奏に生かし、充実した2台ピアノアンサンブルが出来たか、を合計して評価を出します。</p>		

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ピアノアンサンブル技法Ⅲ	演習	実	加藤 明子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(コンサート活動、コンサート企画、音大付属機関での長年の指導・生徒育成、コンクール審査員など)に基づき、一年時に学んだアンサンブル技法の基礎を元に、様々な時代・様々な編成のアンサンブル作品にチャレンジしていきます。また、春学期はオリジナル作品を中心にアンサンブル能力アップを図ります。

到達目標

ピアノは本来一人で音楽創りをする事が基本であるが、アンサンブルを経験することによって(音色、音量、ダイナミクス、アゴーギクの変化など)他者と共に音楽創りをする事を経験し、柔軟で幅広い表現力、より高い音楽的技量を身につける事を目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルの歴史	アンサンブル作品がどのようにして生まれたのか、どのような軌跡を辿って現在に至ったのかを学びます。
第2回	連弾演奏の基礎知識	特に連弾で起きる問題点にフォーカスしながら、アンサンブルにおける基本的な注意点を学んでいきます。
第3回	アンサンブル演奏法・連弾①	連弾の「オリジナル作品」を実際に演奏しながらアンサンブル作品の曲創りを学びます。
第4回	アンサンブル演奏法・連弾②	まずは作曲家の生涯を把握し、楽曲分析をした後、サウンドチェックをしながら進めていきます。
第5回	アンサンブル演奏法・連弾③	演奏家だけでなく聴き手としての「耳」を育て、みんなで意見交換をしながら音楽創りをしていきます。
第6回	1クォーターまとめ	試験に向けてリハーサルをしながら最終確認をしていきます。
第7回	試験	コンサート形式で各曲の解説もスピーチしながら進行していきます。

クォーター末試験評価方法

演奏(100点満点)・演奏時の曲目解説・コメント(100点満点)の平均点に出席点を加減します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	連弾・「編曲作品」にチャレンジ	オリジナル作品との違い、そして原曲を理解した上で、どのようにピアノでの演奏へつなげていくかを学びます。
第2回	連弾・編曲作品の演奏法①	作曲家の生涯を把握し、楽曲分析、又原曲との比較をしながら曲をしっかり理解していきます。
第3回	連弾・編曲作品の演奏法②	録音を取りサウンドチェックをしたり、クラス内でお互いの演奏を聴き合い、意見交換しながら音楽創りをしていきます。
第4回	2台ピアノ・オリジナル作品	今度は編成を変え、2台ピアノ・オリジナル作品に挑戦します。
第5回	連弾と2台ピアノとの相違	基本要素(作曲家生涯・楽曲分析)を把握し、連弾と2台ピアノの演奏法の違いについて学びます。
第6回	2台ピアノ作品の演奏法①	録音を取りサウンドチェックをしたり、クラス内でお互いの演奏を聴き合い、意見交換しながら音楽創りをしていきます。
第7回	2クォーターまとめ	試験に向けてリハーサルをしながら最終確認をしていきます。
第8回	試験	コンサート形式で各曲の解説もスピーチしながら進行していきます。

学期末試験評価方法

演奏(100点満点)・演奏時の曲目解説・コメント(100点満点)の平均点に出席点を加減します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ピアノアンサンブル技法Ⅳ	演習	実	加藤 明子

科目概要

アンサンブル技法応用編として、広い視野から音楽を捉えられるように、アンサンブル能力の向上を図ります。3月のアンサンブルコンサート『infinity』でのステージ演奏をイメージしながら進めていきます。尚、講師は演奏活動及び、音楽大学付属の教育機関においても長年指導(実技・授業)にあたり多くのコンクールで入賞者を輩出している、などの実務経験があります。

各作品(オリジナル作品・編曲作品)、各編成(1台4手・2台4手・2台8手・1台8手)、どのような作品にも対応できる能力を身につけていきます。最終的にはステージ上で、いかに豊かなパフォーマンスが出来るか!を目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルの発展Ⅰ	オーケストラ作品の2台ピアノ用に編曲された作品に取り組んでいきます。3月のインフィニティーコンサート出演を視野に。
第2回	スコアリーディング	オーケストラ用スコアを見ながら各楽器がどのようにピアノパートへ転換されているかを学んでいきます。
第3回	2台ピアノ(オケ編)演奏法①	オーケストラ作品を2台ピアノで再現する、ダイナミックなサウンドを体感し追求していきます。
第4回	2台ピアノ(オケ編)演奏法②	パートナーといかにアーティキュレーションを合わせ、ダイナミクスを創っていくかを学んでいきます。
第5回	2台ピアノ(オケ編)演奏法③	録音を取りサウンドチェックをしたり、クラス内でお互いの演奏を聴き合い、意見交換しながら音楽創りをしていきます。
第6回	3クォーターまとめ	試験に向けてリハーサルをしながら最終確認をしていきます。
第7回	試験	コンサート形式で演奏をしていく。また、スコアリーディングのテストを実施します。

クォーター末試験評価方法

下記各100点満点の平均点に出席点を加減します。

- ・演奏技法=課題曲より任意の曲を演奏
- ・レポート=曲目解説・作品分析

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブルの発展Ⅱ	ここからは2台8手・1台8手など今まで経験していない様々な編成の作品にチャレンジしていきます。
第2回	新しい編成へ	新しい編成の作品についても、原曲把握、スコアリーディング、楽曲分析を経て作品への理解を深めていきます。
第3回	2台8手作品の演奏法①	引き続き楽曲分析やスコアリーディングを並行しながら音楽創りをしていきます。
第4回	2台8手作品の演奏法②	録音を取りサウンドチェックをしたり、クラス内でお互いの演奏を聴き合い、意見交換しながら音楽創りをしていきます。
第5回	2台8手作品の演奏法③まとめ	自分達の演奏の録音を客観的に聴き、細かいニュアンス・様々なコントロールなどをチェックしながら追求していきます。
第6回	1台8手作品の演奏法①	狭いキャパシティーの中でどのように様々なコントロールをし8手のバランスを作っていくのか、実際に体感、演奏していきます。
第7回	年度末・総括	この一年間学んできた様々な編成のアンサンブル作品について、各々の注意点を確認していきます。
第8回	試験	コンサート形式で進行していきます。

学期末試験評価方法

下記各100点満点の平均点に出席点を加減します。

- ・演奏技法=課題曲より任意の曲を演奏
- ・レポート=曲目解説・作品分析

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	専攻ソルフェージュA I	演習	実	宇都宮 三花

科目概要

音楽を演奏することに必要な「基礎能力」を養っていくのが「ソルフェージュ」です。基本的な音楽能力の向上だけでなく、音感を養う歌う事の育成、バロックから現代にいたる幅広いレパートリーを使用しながら読譜力を深めることで、より高い音楽性の獲得を目指します。講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

- (1)より専門的な音楽理論が理解できる。
- (2)読譜、視唱、リズム打ち、及び様々な形態による聴音ができる。
- (3)実際の楽曲を使用した聴奏、移調奏、弾き語りができる。
- (4)理解した知識や方法論を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明、小テスト
第2回	J. S. バッハ	基礎知識、視唱、初見、聴音
第3回	ヘンデル(オラトリオ)	基礎知識、視唱、音部記号の理解、聴音
第4回	D. スカルラッティ(ソナタ)	基礎知識、視唱、初見、聴音、和声の把握
第5回	バロック時代の作曲家達	基礎知識、視唱、リズム、聴音
第6回	復習と補完	総復習
第7回	総合的なQ末試験	基礎知識、視唱、初見、聴音、他

クォーター末試験評価方法

実技・提出50% 出席30% 平常20%  
毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。五線紙と筆記用具は持参のこと。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ハイドン(弦楽四重奏曲)	基礎知識、視唱、聴音、クレ読み
第2回	モーツァルト(交響曲)	基礎知識、聴音、スコアリーディング、和声分析、移調
第3回	モーツァルト(Pf曲)	基礎知識、初見、聴音、形式
第4回	ベートーヴェン(交響曲)	基礎知識、視唱、聴音、スコアリーディング、楽曲分析
第5回	ベートーヴェン(Pf曲)	基礎知識、初見、聴音、リズム、楽曲分析
第6回	シューベルト(歌曲)	基礎知識、視唱、初見、聴音
第7回	復習と補完	総復習
第8回	総合的なQ末試験	基礎知識、視唱、初見、聴音、他

学期末試験評価方法

実技・提出50% 出席30% 平常20%  
毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。五線紙と筆記用具は持参のこと。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	専攻ソルフェージュAⅡ	演習	実	宇都宮 三花

科目概要

音楽を演奏することに必要な「基礎能力」を養っていくのが「ソルフェージュ」です。基本的な音楽能力の向上だけでなく、音感を養う歌う事の育成、バロックから現代にいたる幅広いレパートリーを使用しながら読譜力を深めることで、より高い音楽性の獲得を目指します。講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

- (1)より専門的な音楽理論が理解できる。
- (2)読譜、視唱、リズム打ち、及び様々な形態による聴音ができる。
- (3)実際の楽曲を使用した聴奏、移調奏、弾き語りができる。
- (4)理解した知識や方法論を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ショパンとリスト(Pf曲)	基礎知識、初見、聴音、リズム
第2回	シューマンとブラームス(Pf曲)	基礎知識、視唱、初見、聴音
第3回	ヴェルディ(オペラ)	基礎知識、視唱、聴音、曲の構成
第4回	ワーグナー(楽劇)	基礎知識、視唱、聴音、ライトモチーフ、和声の把握
第5回	ロマン派の作曲家達	基礎知識、視唱、聴音、リズム、移調、曲の構成
第6回	復習と補完	総復習
第7回	総合的なQ末試験	基礎知識、視唱、初見、聴音、他

クォーター末試験評価方法

実技・提出50% 出席30% 平常20%  
毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。五線紙と筆記用具は持参のこと。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	近代フランスの作曲家達①	基礎知識、視唱、初見、聴音
第2回	近代フランスの作曲家達②	基礎知識、視唱、聴音、リズム、曲の構成
第3回	バルトーク(民族舞曲)	基礎知識、視唱、リズム、移調、旋法
第4回	プロコフィエフ(バレエ音楽)	基礎知識、聴音、リズム、曲の構成
第5回	近現代の作曲家達	基礎知識、聴音、初見、スコアリーディング
第6回	20世紀のリズム	基礎知識、視唱、様々なリズムの把握
第7回	復習と補完	総復習
第8回	総合的なQ末試験	基礎知識、視唱、初見、他

学期末試験評価方法

実技・提出50% 出席30% 平常20%  
毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。五線紙と筆記用具は持参のこと。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	専攻ソルフェージュAⅢ	演習	実	宇都宮 三花

科目概要

音楽を演奏することに必要な「基礎能力」を養っていくのが「ソルフェージュ」です。知覚的な音楽性の体得を目指し、より高度なソルフェージュトレーニングを行います。また、西洋音楽の基本理論でもある和声法や対位法に触れることによって、基本理論や和声感の習得、音楽解釈の幅を広げる一助となることを目指します。講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

- (1)和声法の基礎理論が理解できる。
- (2)和声聴音を書き取ることができる。
- (3)対位法で書かれた楽曲を分析・演奏・暗譜することができる。
- (4)理解した知識や方法論を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業の説明、和声の予備知識
第2回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(基本形と転回形)・四声体聴音導入・リズムと視唱
第3回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(終止とカデンツ)・四声体聴音・リズムと視唱
第4回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(声部と配分)・四声体聴音・リズムと視唱
第5回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(和音連結と声部進行)・四声体聴音・リズムと視唱
第6回	復習と補完	総復習
第7回	総合的なQ末試験	和声・リズム・視唱・聴音等の課題

クォーター末試験評価方法

実技・提出50% 出席30% 平常20%  
毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。五線紙と筆記用具は持参のこと。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(終止の定型①)・四声体聴音・記憶演奏
第2回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(終止の定型②)・四声体聴音・記憶演奏
第3回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(非和声音)・四声体聴音・記憶演奏
第4回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(第2転回形)・四声体聴音・記憶演奏
第5回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(様々な和音連結①)・四声体聴音・記憶演奏
第6回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(様々な和音連結②)・四声体聴音・記憶演奏
第7回	復習と補完	総復習
第8回	総合的なQ末試験	和声・リズム・視唱・聴音等の試験

学期末試験評価方法

実技・提出50% 出席30% 平常20%  
毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。五線紙と筆記用具は持参のこと。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	専攻ソルフェージュAIV	演習	実	宇都宮 三花

科目概要

音楽を演奏するために必要な「基礎能力」を養っていくのが「ソルフェージュ」です。知覚的な音楽性の体得を目指し、より高度なソルフェージュトレーニングを行います。また、西洋音楽の基本理論でもある和声法や対位法に触れることによって、基本理論や和声感の習得、音楽解釈の幅を広げる一助となることを目指します。講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

- (1)和声法の基礎理論が理解できる。
- (2)和声聴音を書き取ることができる。
- (3)対位法で書かれた楽曲を分析・演奏・暗譜することができる。
- (4)理解した知識や方法論を応用し、実際の音楽表現に活かすことができる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(バス課題導入)・Bach Inventionを使用して①
第2回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(バス課題①)・Bach Inventionを使用して②
第3回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(バス課題②)・Bach Inventionを使用して③
第4回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(借用和音①)・Bach Inventionを使用して④
第5回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(借用和音②)・Bach Inventionを使用して⑤
第6回	復習と補完	総復習
第7回	総合的なQ末試験	和声・リズム・視唱・聴音等の課題

クォーター末試験評価方法

実技・提出50% 出席30% 平常20%  
毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。五線紙と筆記用具は持参のこと。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(非和声音と分析①)・Bach Sinfoniaを使用して①
第2回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(非和声音と分析②)・Bach Sinfoniaを使用して②
第3回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(総合演習①)・Bach Sinfoniaを使用して③
第4回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(総合演習②)・Bach Sinfoniaを使用して④
第5回	和声・リズム・視唱・聴音	和声(総合演習③)・Bach Sinfoniaを使用して⑤
第6回	和声・リズム・視唱・聴音	総合的な課題
第7回	復習と補完	総復習
第8回	総合的なQ末試験	和声・リズム・視唱・聴音等の試験

学期末試験評価方法

実技・提出50% 出席30% 平常20%  
毎回の個々のチェックと、試験結果から評価します。学習意欲と出欠、遅刻も考慮します。五線紙と筆記用具は持参のこと。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	専攻ソルフェージュB I	演習	実	土屋淑子

科目概要

「ソルフェージュ」という言葉から何を連想しますか？聴音、新曲視唱、等々のイメージが漠然と浮かぶかもしれませんが。そうした「点」を「線」へとつなげることが、この授業で意味する「ソルフェージュ」です。つまり、「聴いた音を弾いたり書いたりできる」「初めて見た楽譜を歌える／弾くことができる」・・・これらの力を総合的につけることによって、実際に楽器で音を出さなくても、まず頭の中だけで音を鳴らすことができるようになります。尚、講師はBLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、コンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。

到達目標

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	小テスト、アンケート
第2回	町で聞くあの音～1	日常にある音の聴音(4小節程度)、初見sol.
第3回	町で聞くあの音～2	日常にある音の聴音(8小節程度)、初見sol.
第4回	小テスト	今までのまとめ(聴音・ソルフェージュ)
第5回	コードについて	基礎の確認と聴音、初見sol.
第6回	スケールについて	基礎の確認と聴音、初見sol.
第7回	クォーター末試験	1クォーターのまとめ(聴音・ソルフェージュ)

クォーター末試験評価方法

出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	聴く・書く・歌う～1	旋律・2声聴音(Major、minor)、初見sol.
第2回	聴く・書く・歌う～2	旋律・2声聴音(M、m～＃×1)、初見sol.
第3回	聴く・書く・歌う～3	旋律・2声聴音(M、m～♭×1)、初見sol.
第4回	小テスト	今までのまとめ(聴音・ソルフェージュ)
第5回	聴く・書く・歌う～4	旋律・2声聴音(M、m～＃×2)、初見sol.
第6回	聴く・書く・歌う～5	旋律・2声聴音(M、m～♭×2)、初見sol.
第7回	聴く・書く・歌う～6	旋律・2声聴音(M、m～＃、♭×2まで)、初見sol.
第8回	学期末試験	春学期のまとめ(聴音・ソルフェージュ)

学期末試験評価方法

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	専攻ソルフェージュBⅡ	演習	実	土屋淑子

科目概要

ソルフェージュとは、音楽の総合力と捉えます。日常生活の中にも、たくさんのミュージカルナンバーやオペラのアリアがあります。初見力、耳コピーの力、コード付けの力・・・等々。実際のミュージカルやオペラから題材をとって、総合的な力を身につけていきましょう。尚、講師はBLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、コンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。

到達目標

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミュージカル①	ミュージカルナンバーから初見、聴音①
第2回	ミュージカル②	ミュージカルナンバーから初見、聴音②
第3回	ミュージカル③	ミュージカルナンバーから初見、聴音③
第4回	小テスト	今までのまとめ(聴音・ソルフェージュ)
第5回	オペラ①	オペラのアリアから初見、聴音①
第6回	オペラ②	オペラのアリアから初見、聴音②
第7回	クォーター末試験	1クォーターのまとめ(聴音・ソルフェージュ)

クォーター末試験評価方法

出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミュージカル④	ミュージカルナンバーから初見、聴音④
第2回	ミュージカル⑤	ミュージカルナンバーから初見、聴音⑤
第3回	ミュージカル⑥	ミュージカルナンバーから初見、聴音⑥
第4回	小テスト	今までのまとめ(聴音・ソルフェージュ)
第5回	オペラ③	オペラのアリアから初見、聴音③
第6回	オペラ④	オペラのアリアから初見、聴音④
第7回	オペラ⑤	オペラのアリアから初見、聴音⑤
第8回	学期末試験	秋学期のまとめ(聴音・ソルフェージュ)

学期末試験評価方法

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	専攻ソルフェージュBⅢ	演習	実	土屋淑子

科目概要

「ソルフェージュ」とは音楽力の基盤ととらえます。見たもの・聴いたものを正確に弾く、歌う、書くことができるためには、耳で聴きとる力、心の耳で鳴らすことのできる力、この2つが対等に必要です。この両方とも音楽をする上で必要不可欠なものです。それによってメロディーに対してすぐにコード付けができたり、初見は正確さにもつながります。今学期は、1段譜の初見からヴォイシングを通じて、アナリーゼをしながら曲の全体像をつかんでいきます。尚、講師はBLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、コンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。

到達目標

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ヴォイシング～1	初見でヴォイシング(早さ・正確さ)
第2回	ヴォイシング～2	初見でヴォイシング(早さ・正確さ)
第3回	小テスト	正解度と各人の課題の確認
第4回	ヴォイシング～3	初見でヴォイシング(早さ・正確さ)
第5回	ヴォイシング～4	初見でヴォイシング(早さ・正確さ)
第6回	ヴォイシング～5	初見でヴォイシング(早さ・正確さ)
第7回	クォーター末試験	正解度、各人の課題の確認

クォーター末試験評価方法

出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	聴く・書く・歌う～1	旋律・4声(Open,Close)Major 初見sol.
第2回	聴く・書く・歌う～2	旋律・4声(Open,Close)minor 初見sol.
第3回	聴く・書く・歌う～3	旋律・4声(Open,Close)M、m 初見sol.
第4回	小テスト	正解度と各人の課題の確認
第5回	聴く・書く・歌う～4	旋律聴音+コード付け Major 初見sol.
第6回	聴く・書く・歌う～5	旋律聴音+コード付け minor 初見sol.
第7回	聴く・書く・歌う～6	旋律聴音+コード付け M、m 初見sol.
第8回	学期末試験	春学期のまとめ(聴音・ソルフェージュ)

学期末試験評価方法

授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	専攻ソルフェージュBIV	演習	実	土屋淑子

科目概要
クラシック以外の分野では、いわゆる耳コピーを必要とする場面が多々あります。よく知られている歌謡曲でも、改めて聴音してみると新しい発見もあります。「聴いたものをそれらしく再現する」力はとても重要なスキルです。秋学期では、ポピュラーソングのメロディーを聴音したのちに、頭の中で鳴っているハーモニーをつけていきます。そして改めて原曲の楽譜を比べてみましょう。尚、講師はBLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、コンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。
到達目標
授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	聴音とコード付け～1	ポップスの旋律聴音・コード付け(M)/初見sol.
第2回	聴音とコード付け～2	ポップスの旋律聴音・コード付け(M)/初見sol.
第3回	小テスト	今までのまとめ(聴音・ソルフェージュ)
第4回	聴音とコード付け～3	ポップスの旋律聴音・コード付け(m)/初見sol.
第5回	聴音とコード付け～4	ポップスの旋律聴音・コード付け(m)/初見sol.
第6回	聴く・書く・歌う・弾く～5	ポップスの旋律聴付けコード聴音/(M、m)、初見sol.
第7回	クォーター末試験	5クォーターのまとめ(聴音・ソルフェージュ)

クォーター末試験評価方法  
出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	聴音とコード付け～1	旋律・4声(Open,Close)Major 初見sol.
第2回	聴音とコード付け～2	旋律・4声(Open,Close)minor 初見sol.
第3回	聴音とコード付け～3	旋律・4声(Open,Close)M、m 初見sol.
第4回	小テスト	正解度と各人の課題の確認
第5回	フレーズとコード～1	ジャズの耳コピーに挑戦(2小節程度)、初見sol.
第6回	フレーズとコード～2	ジャズの耳コピーに挑戦(4小節程度)、初見sol.
第7回	フレーズとコード～3	ジャズの耳コピーに挑戦(8小節程度)、初見sol.
第8回	学期末試験	秋学期のまとめ(聴音・ソルフェージュ)

学期末試験評価方法  
授業で扱った聴音、ソルフェージュ、初見等、総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	クラシック演奏法研究Ⅰ	演習	実	大導寺錬太郎

科目概要

バロック、特にバッハはクラシックを勉強する上で必要不可欠な作曲家です。しかしその緻密で複雑な作曲構造の為、苦手意識をもたれ易いのも事実。バッハのオリジナル(鍵盤)作品の分析は勿論、ポピュラー編曲、ジャズ編曲作品も取り上げ、様々なジャンルの音楽にも対応できるバッハ音楽の懐の深さも紹介します。CD鑑賞、実演を通して耳で、身体でバッハを楽しみましょう。尚、講師は国内のコンクール審査員、PTNAステップのアドバイザーを担当、30回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

到達目標

ポリフォニー作品の演奏に必要な分析力(テーマ調べ・転調調べ・各種舞曲の特徴の理解等)を身に着け、複数の声部を聴き分ける耳を養い、当時の様式から逸脱しない立体的な響きの演奏を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロック以前の音楽～バッハの登場	バッハ登場以前の音楽の歴史や活躍した作曲家を学び、各時代の特徴を整理して覚えます。
第2回	ポリフォニー音楽とは J.S.バッハの作品	ポリフォニー音楽の特徴を学び、作品の簡単な分析や実際の小品を演奏することによって理解を深めます。
第3回	インヴェンション①/いろいろな版	当時と現代の記譜の違いをバッハの自筆譜を通して理解します。又、様々な版の特徴を学びます。
第4回	インヴェンション②/作品分析	第1番の分析を実施します。演奏に必要な最低限のアナリーゼの仕方を学びます。
第5回	シンフォニア①/作品分析・演奏	第8番の分析を行ないます。各声部の横の動きを把握し、どのように絡んでいるか演奏を通して理解します。
第6回	シンフォニア②/装飾音・曲の配列	第5番を取り上げ、多種多様な装飾の記号・名称・奏法を学びます。又15曲の曲の配列の特徴を解説します。
第7回	授業のまとめ(1クォーター試験)	授業のまとめとして筆記・実技の試験を実施します。実技課題は授業で取り上げた作品より指定します。

クォーター末試験評価方法

出席25%(第1～6回は各3点、試験の第7回のみ7点で計算。遅刻は減点1)平常点25%、(授業態度及び授業内での演奏内容)、試験50%。成績は2クォーターの初回授業時に配付します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	BWV番号の解説	バッハ作品主題目録番号を学び、ジャンルごとに分かれた番号を覚えます。
第2回	平均律①/作品の成り立ち	作品の成立年・評価・特徴を学び、タイトルの「平均律」について当時の調律法を絡めて考察します。
第3回	平均律/プレリュードの多様性他	第1巻全24曲の前奏曲を5つの特徴に分けて解説します。又各曲の適切なテンポについても考察します。
第4回	平均律③/グノー・アヴェ・マリアとの関連	グノーのアヴェ・マリアの伴奏としても知られる、第1巻第1番の前奏曲を分析し、2曲の関連を学びます。
第5回	平均律④/フーガの分析・演奏聴き比べ	第1巻第1番の分析を通してフーガの特性を理解します。又様々な演奏を鑑賞し、解釈の多様性を実感します。
第6回	組曲①/バッハの残した組曲	代表的な組曲作品のたまかな特徴を学び、そこに登場する舞曲の名称・特徴を覚えます。
第7回	組曲②、その他の名作、D.スカルラッティ	舞曲、平均律以外の主要な鍵盤作品及びその他の名曲、D.スカルラッティ作品の解説・鑑賞を行ないます。
第8回	授業のまとめ(2クォーター試験)	授業のまとめとして筆記・実技の試験を実施します。実技は指定した課題の演奏となります。

学期末試験評価方法

出席25%(第1～7回各3点、試験の第8回のみ4点で計算。遅刻は減点1)平常点25%、(授業態度及び授業内での演奏内容等)、試験50%の割合で算出。1・2両クォーターの成績の平均が、学期末の評価となります。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	クラシック演奏法研究Ⅱ	演習	実	大導寺錬太郎

科目概要

バロックに引き続き、古典派についてピアノ作品を中心にその様式感を学びます。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの作品を中心に代表的な作品を取り上げ、簡単な形式論を学び、分析を通して演奏法を研究します。同時にピアノ作品と他ジャンルの関連性やピアノの発達についても研究し、CDなどの鑑賞と実習を織り交ぜながら演奏表現法を考えます。尚、講師は国内のコンクール審査員、PTNAステップのアドバイザーを担当、30回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

到達目標

古典派の基本的な知識やリズム感を身に着け、感性だけに頼らない安定かつ説得力のある演奏が出来るようにします。また鍵盤作品以外の名曲を学ぶ事で、作曲家の音楽的な特徴を把握し、適切なタッチやフレージング等を自ら考える事の出来る力を養います。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロック時代から古典派の時代へ	J.S.バッハ没後からハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンが活躍するまでの歴史を学びます。
第2回	古典派時代の「ソナタ」/様々な形式①	古典派時代に確立された「ソナタ」の構成他、様々な形式を学びます。
第3回	様々な形式②/ソナチネ作品演奏	様々な形式の「型」が実際の作品にどう当てはめられているかを、演奏を通して実感します。
第4回	J.ハイドン①～その生涯～	77年の生涯を解説。仕えた貴族や師匠、Mozartとの友情、人物像等を学び名作の生まれた背景を理解します。
第5回	J.ハイドン②～交響曲他、Hob.番号～	ハイドンの残した主要な作品の解説・鑑賞。ハイドン作品目録番号の解説も行ないます。
第6回	J.ハイドン③～ピアノソナタの分析～	代表的なピアノソナタを分析し、ハイドンの作曲上の工夫を知り、適切な表現の仕方を学びます。
第7回	授業のまとめ(3クォーター試験)	授業のまとめとして筆記・実技の試験を実施します。実技は事前に指定した課題の演奏となります。

クォーター末試験評価方法

出席25%(第1～6回は各3点、試験の第7回のみ7点で計算。遅刻は減点1)平常点25%、(授業態度及び授業内での演奏内容)、試験50%。成績は4クォーターの初回授業時に配付します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	モーツァルト①～幼年時代の演奏旅行～	父親と長きに渡る演奏旅行で起きた出来事や影響を受けた人物、彼の天才ぶりを表すエピソード等を解説します。
第2回	モーツァルト②～初期作品演奏・K.番号等～	記念すべき第1作他、初期の小品を演奏し、彼の音楽・感性を体感します。K.番号にも触れます。
第3回	モーツァルト③～作風・ピアノソナタ～	作品の特徴を解説。又18曲のピアノソナタより有名な数曲を解説・鑑賞します。
第4回	モーツァルト④～その他ジャンルの名曲～	様々なジャンルの名曲解説・鑑賞を通して彼の魅力に迫り、ピアノ作品との関連も学びます。
第5回	ベートーヴェン①～交響曲～	ベートーヴェンの交響曲についての解説・鑑賞。鑑賞に伴い、スコアの基本的な読み方も学びます。
第6回	ベートーヴェン②～ピアノ協奏曲・ソナタ～	PF協奏曲の解説。32のピアノソナタより名曲を選んで解説・鑑賞・読譜をします。
第7回	ベートーヴェン③～小品他、シューベルト	その他小品や変奏曲、室内楽、F.シューベルトのピアノ作品、D番号について等、解説・鑑賞します。
第8回	授業のまとめ(4クォーター試験)	授業のまとめとして筆記・実技の試験を実施します。実技は事前に指定した課題の演奏となります。

学期末試験評価方法

出席25%(第1～7回各3点、試験の第8回のみ4点で計算。遅刻は減点1)平常点25%、(授業態度及び授業内での演奏内容等)、試験50%の割合で算出。3・4両クォーターの成績の平均が、学期末の評価となります。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	クラシック演奏法研究 Ⅲ	演習	実	加藤 明子

科目概要

ロマン派ピアノ作品を中心に、その様式感や演奏技法を学びます。作曲家の生きざまや時代背景を知ることで、ロマン派作品の理解を深め、学生それぞれの豊かな表現力を育てていきます。尚、講師は演奏活動及び、音楽大学付属の教育機関においても長年指導(実技・授業)にあたり多くのコンクールで入賞者を輩出している、などの実務経験があります。

到達目標

授業内で学んだ事を元に、譜読み[読譜力]から本番までのプロセスを自身でしっかり考えられ、そして本番で多彩で豊かな音楽を表現でき、伝えられるピアニストになる事が目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロック、古典からロマン派へ	第1回目の授業内容を50字以内で記入してください。このセルは自動折り返しの設定になっています。
第2回	ピアノの歴史	ピアノという「楽器」について、起源からどのように発展、進化し現代のピアノに至ったのかを学びます。
第3回	ロマンチズム ショパン①	ショパンの生涯を把握し、その生きざまがどのように作品に影響しているのかを学びます。
第4回	ロマンチズム ショパン②	ショパンの作品を分析・演奏を通して学んでいきます。課題曲・24のプレリュードop.28より。
第5回	ロマンチズム ショパン③	ショパンの舞曲、ワルツ・ポロネーズについて楽曲分析し、舞曲の特徴を理解した上で演奏法を学んでいきます。
第6回	ロマンチズム ショパン④	ショパンの舞曲・マズルカについて楽曲分析をし、舞曲の特徴を理解した上で演奏法を学んでいきます。
第7回	試験	授業内で学んだ曲より任意の曲を選択し演奏をする。又、授業の内容についてのレポートを提出する。

クォーター末試験評価方法

下記各100点満点の平均点に出席点を加減します。

- ・演奏技法=課題曲より任意の曲を演奏
- ・レポート=曲目解説・作品分析

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ヴィルトゥオーゾ・リスト	リストの生涯を把握し、ヴィルトゥオーゾ作品の演奏法、またリストの音楽界への功績やオーケストラ作品についても学びます。
第2回	性格的小品 メンデルスゾーン①	メンデルスゾーンの生涯を把握し、その生きざまがどのように作品に影響をしているかを学びます。
第3回	性格的小品 メンデルスゾーン②	メンデルスゾーンの「無言歌」についての楽曲分析・演奏法を学んでいきます。
第4回	標題音楽 シューマン①	第4回目の授業内容を50字以内で記入してください。このセルは自動折り返しの設定になっています。
第5回	標題音楽 シューマン②「子供の情景」(後半)	楽曲分析・演奏法を引き続き学ぶ。
第6回	新古典主義 ブラームス①	ブラームスの生涯を把握し、作風を学びます。又、同時代の5人の作曲家の演奏についても学びます。
第7回	本番で最高のパフォーマンスを目指す「心・技・体」	本番に向けての練習と工夫。本番当日のメンタルコントロール。そして「自分流」を発見していきます。
第8回	試験	上記作品より一曲演奏する。分析、解説したレポートも提出する。

学期末試験評価方法

下記各100点満点の平均点に出席点を加減します。

- ・演奏技法=課題曲より任意の曲を演奏
- ・レポート=曲目解説・作品分析

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	クラシック演奏法研究 IV	演習	実	岡野 勇仁

科目概要

レパートリーの拡充と音楽的視野を拡大する観点から、ピアニストに必要な近代以降のピアノ作品を紹介します。近代音楽・現代音楽のコンサート活動実績のある講師が、演奏する際の特有な奏法とピアノ曲以外の作品をとりあげ総合的な知識を獲得します。現代音楽の授業では時代背景や思想、音楽観なども解説します。

到達目標

授業でとりあつかった内容を参考に、オリジナリティのあるプログラミングができるようになることが目標です。様々な様式の音楽を総合的に理解することにより、自分で音楽を分析する力も身につけます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドビュッシー	主要なピアノ楽曲の奏法や管弦楽曲を紹介します。絵画や詩との関連性も解説します。印象派と魔法についての理解を目標とします。
第2回	ラヴェル	主要なピアノ楽曲の奏法や管弦楽曲を解説します。全作品の特徴を把握することを目標とします。
第3回	フランスの作曲家とサティ	ミヨー、プーランク、シャブリエ、セヴェラック、デュティユー、サティの作品と時代背景を理解します。
第4回	フランス～バロック、古典への回帰	サン・サーンス、フォーレ、フランクの楽曲の様式を学習します。同時代の作品と比較することにより、古典様式への理解を深めます。
第5回	北欧～グリーグを中心に	グリーグ、カスキ、シベリウス等の作品を紹介し、北欧の音楽の雰囲気を理解することを目標とします。
第6回	スペインの作曲家	アルベニス、グラナドス、ファリャ、モンポウの作品を学習します。スペインのギター音楽等との関連性の理解も目標とします。
第7回	試験	授業で指定した試験用課題曲を演奏。授業内容についての口頭試問。作曲家の様式や思想を理解しているかを評価します。

クォーター末試験評価方法

出席と授業内容の理解度により評価します。試験50%、出席30%、平常点20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バルトーク・東欧	バルトーク、シマノフスキー、チェコの作曲家をとりあげます。バルトークの作曲法や思想を理解することを目標とします。
第2回	プロコフィエフ・ロシア	ロシア5人組、ストラヴィンスキー、ショスタコーヴィッチ、カバレフスキー等の作品を紹介します。
第3回	ラフマニノフ	ラフマニノフのピアノ楽曲の奏法や管弦楽曲の紹介をおこないません。同時代の他の作品と比較しながら、特長を学びます。
第4回	スクリャービン	スクリャービンのピアノソナタを中心としたピアノ曲や管弦楽曲を学習します。スクリャービンの様式、和声、旋法等を理解します。
第5回	現代音楽のメインストリームと特殊奏法	新ウィーン楽派～クセナキス、メシアン、シュトックハウゼン、リゲティなどの語法と歴史を学習します。
第6回	アメリカの現代音楽と南米の作曲家	ミニマル音楽、即興音楽、ジョン・ケージとプリペアド・ピアノ、ヴィラ・ロボス、ヒナステラ、アストル・ピアソラ等の音楽を学習します。
第7回	同時代の作曲家	西村朗、野村誠、武満徹、伊左治直、ジョン・ウィリアムズ、エンニオ・モリコーネ等同時代の作曲家の作品を学習します。
第8回	試験	授業で指定した試験用課題曲を演奏。授業内容についての口頭試問。作曲家の様式や思想を理解しているかを評価します。

学期末試験評価方法

出席と授業内容の理解度により評価します。試験50%、出席30%、平常点20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ジャズ・ポピュラーピアノ研究Ⅰ	演習	実	秋谷えりこ

科目概要
演奏・アレンジ・作曲に必要なコードの基礎、クローズ・ヴォイスイング全般を習得。また様々なポップス曲の例題を通して、基本的リズム、長調のダイアトニック・コード進行、ヴォイスイング・アレンジの方法をマスターしていきます。尚、講師は、TV、CM、ポップス業界において、演奏家、作曲家、編曲家としての実務経験を持ちます。
到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本コードの習得</li> <li>・メジャー・ダイアトニックコード進行の理解</li> <li>・テンションを含むクローズ・ヴォイスイング全般の理解</li> </ul>

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コード・ベーシック 1	メジャーとマイナー・トライアドの練習／メジャーとマイナー・トライアドの特徴を捉え12キーをマスター。
第2回	コード・ベーシック 2	メジャーとマイナー・トライアドの実践／メジャーとマイナー・トライアドを使って曲を弾く。例題曲：恋はあせらずに
第3回	コード・ベーシック 3	3和音+1の4和音の特徴を捉え12キーのマスター。3和音使って曲を弾く。4和音例題曲：ヘイ・ジュード
第4回	コード・ベーシック 4	US4とディミニッシュ7の特徴を捉え12キーをマスター。SUS4とディミニッシュ7の4和音の例題曲：ラヴィング・ユー
第5回	コード・ベーシック 5	3和音と4和音を含む楽曲でコードの実践をする。4和音全てを含む例題曲：レット・イット・ビー
第6回	総復習	3和音と4和音の総復習として演奏する。例題曲：恋はあせらずに、ヘイ・ジュード、レット・イット・ビー、など。
第7回	実技テスト	クローズ・ヴォイスイング問題と曲演奏。恋はあせらずに、ヘイ・ジュード、レット・イット・ビー、ラヴィング・ユー

クォーター末試験評価方法  
 コードの基本(クローズ・ヴォイスイング)の演奏ができているか。長調の仕組みの理解はできているか。また基本のリズムは把握できたか。  
 実技・提出50% 出席20% 平常30%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	テンションのクローズ・ヴォイスイング 1	テンションの種類と使い方&9th・11th・13th／基本的置き換えと6種の裏技のエクササイズを知る。
第2回	テンションのクローズ・ヴォイスイング 2	基本的置き換えと6種の裏技のエクササイズを使い曲を弾く。例題曲：イズント・シー・ラブリーなど。
第3回	長調のダイアトニック 1	長調のダイアトニックの仕組みと例題曲をアナライズする。例題曲：ティアーズ・イン・ヘブン、レディ・マドンナなど。
第4回	長調のダイアトニック 2	様々な例題曲のアナライズ&曲を作り始める／主要三和音のみでモチーフを作り、代理コードを当てはめ主題を作る。
第5回	長調のダイアトニック 3	様々なダイアトニックの仕組みと例題曲アナライズする。例題曲：ユア・ソング、オネスティ、ペニー・レインなど
第6回	長調のダイアトニック 4	例題曲アナライズ&曲を作り始める／ダイアトニック並進行を使いサビを作る。例題曲：ラヴィング・ユー、エモーション
第7回	長調のダイアトニック 5	ベースを重視した進行の曲のアナライズ。例題曲：オール・アット・ワンス、イエスタデイ・ワンス・モア 他
第8回	実技テスト	長調の曲提出と、曲演奏。ティアーズ・イン・ヘブン、イツ・トゥー・レイト、愛はきらめきの中に

学期末試験評価方法  
 テンションを含むクローズ・ヴォイスイングの使用。メジャー・ダイアトニック進行の理解。  
 実技・提出50% 出席20% 平常30%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ジャズ・ポピュラーピアノ研究Ⅱ	演習	実	秋谷えりこ

科目概要
短調のダイアトニックを理解し演奏。またオープン・ヴォイスを用いてヴォイスिंग・アレンジの幅をひろげていく。4クォーターでは基本的なアドリブ方法を曲を通して学び、ペントニックやブルーノート・スケールなどの理解を深めていきます。尚、講師は、TV、CM、ポップス業界において、演奏家、作曲家、編曲家としての実務経験を持ちます。
到達目標
・マイナー・ダイアトニックコード進行の理解 ・オープン・ヴォイスिंगでのアレンジ方法の理解。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オープン・ヴォイスिंग 1	オープン・ヴォイスिंगのつくり方とエクササイズ/ベーシック・ヴォイスिंग(R.5.3&R. b 7.3)の捉え方をマスターする。
第2回	オープン・ヴォイスिंग 2	オープン・ヴォイスिंगを一部使った曲で実践。 例題曲:ドント・ノー・ホワイなど
第3回	短調のダイアトニック 1	短調のダイアトニックの仕組みと例題曲をアナライズする。 例題曲:君の友達、くよくよするなよ、ケアレス・ウィスパーなど
第4回	短調のダイアトニック 2	短調のダイアトニックの仕組みと例題曲アナライズ。/短調の表を覚える。例題曲:キリング・ミー・ソフトリーなど。
第5回	短調のダイアトニック 3	ベースを重視した進行や特殊なコード(IIIm7.IV7.Vm7)を使った曲の演奏。例題曲:ホワッチャ・ゴナ・ドウ・フォー・ミーなど。
第6回	短調のダイアトニック 4	テンションの裏技を使ったマイナー曲の練習。 例題曲:ケアレス・ウィスパーなど。
第7回	実技テスト	オープン・ヴォイスिंगテストと短調の曲の演奏。イツ・トゥー・レイト、くよくよするなよ、ケアレス・ウィスパーなど。
クォーター末試験評価方法		
オープン・ヴォイスिंगでの演奏はできるか。短調の仕組みの理解はできているか。 実技・提出50% 出席20% 平常30%		
4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アドリヴ 1	ペントニックとブルーノート/ペントニックスケールとブルーノートの使い方の実践そのⅠ 例題曲:ドント・ノー・ホワイ
第2回	アドリヴ 2	ペントニックとブルーノート/ペントニックスケールとブルーノートの使い方の実践そのⅡ 例題曲:フィール・ライク・メイキング・ラヴ
第3回	アドリヴ 3	ペントニックとブルーノート/マイナー・ペントニックスケールの使い方の実践そのⅠ 例題曲:ウォーター・メロンマン
第4回	アドリヴ 4	ペントニックとブルーノート/マイナー・ペントニックスケールの使い方の実践そのⅡ 例題曲:チェンジ・ザ・ワールド
第5回	アドリヴ 5	メジャーとマイナーペントニックのコンビネーションで実際の曲で弾くⅠ 例題曲:サムシング
第6回	アドリヴ 6	メジャーとマイナーペントニックのコンビネーションで実際の曲で弾くⅡ 例題曲:ホワッツ・ゴーイング・オン
第7回	総復習	総復習。演奏曲/ドント・ノウ・ホワイ、フィール・ライク・メイキング・ウォーター・メロンマン、チェンジ・ザ・ワールドなど。
第8回	実技テスト	アドリヴ曲の演奏。ドント・ノウ・ホワイ、フィール・ライク・メイキング・ウォーター・メロンマン、チェンジ・ザ・ワールドなど。
学期末試験評価方法		
基本的アドリヴの理解ができているか。2種のヴォイスिंगの実践ができるようになったか。 実技・提出50% 出席20% 平常30%		

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ジャズ・ポピュラーピアノ研究 III	演習	実	秋谷えりこ

科目概要

スタンダード曲を通し、ジャズ系やラテン系の曲の演奏に必要な、コード進行・ヴォイシング方法・アドリブを演習形式でマスターしていきます。尚、講師は、ジャズ系の演奏家、作曲家、編曲家、プロデューサーとして、と多数の海外アーティストとレコーディングの実務経験を持ちます。

到達目標

- ・ジャズの基本の形式が理解できたか。
- ・2種のヴォイシングの実践はできたか。
- ・スタンダードのレパートリーを増やし、リードシートとソロピアノで弾けるように。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クローズ・ヴォイシング 1	トップ・ノート別ヴォイシング/トップノートを指定された時のヴォイシングの仕方。例題曲:モーニング・ダンス
第2回	クローズ・ヴォイシング 2	6つのテンション裏技のうちV7Iにおけるテンションの併用をマスター。例題曲:情熱大陸
第3回	クローズ・ヴォイシング 3	6つのテンション裏技の全てを使った曲でエクササイズ。例題曲:オーバー・ジョイドなど。
第4回	クローズ・ヴォイシング 4	ダブルリードの使用法/メロディー演奏時のダブルリードをマスター。例題曲:ジョージ・ボージー
第5回	クローズ・ヴォイシング 5	6つのテンション裏技のうちII-VIにおける併用をマスター。例題曲:ユア・マイ・ヘブン
第6回	アドリブ・コーチング	アドリブ基本的スケールの使い分け。/ペンタトニック、ブルーノート、メジャー & マイナー・スケール、ドリアン
第7回	実技テスト	アンサンブルでのコードとアドリブ。曲演奏:モーニング・ダンス、情熱大陸、オーバー・ジョイド、ジョージ・ボージー

クォーター末試験評価方法

コードの基本はできているか。テンションのクローズ・ヴォイシングは使いこなせているか。  
実技・提出50% 出席20% 平常30%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	初見コーチング・スウィングのフィール	ジャズの譜読みに強くなる/ジャズらしい演奏表現の5つのポイント。例題曲:フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン
第2回	オープン・ヴォイシング	オープン・ヴォイシングが実際の曲の中でどのように使われているか。例題曲:リトル・スー
第3回	ヴォイシングの応用 1	クローズとオープンの混合ヴォイシング I 例題曲:A列車で行こう
第4回	ヴォイシングの応用 2	クローズとオープンの混合ヴォイシング II 例題曲:ペリーズ・パラソル
第5回	ヴォイシングの応用 3	借用コードを含むスタンダード。2つのヴォイシングでソロピアノ演奏。例題曲:マイ・ロマンス
第6回	ヴォイシングの応用 4	オスティナートを使ったスタンダード曲の演奏。 例題曲:サマー・タイム
第7回	ヴォイシングの応用 5	カプリングやヴォイシング・アレンジを使用したスタンダードの演奏。例題曲:オータム・リーブス
第8回	実技テスト	ヴォイシング・テスト&ジャズ曲の演奏 フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン、マイ・ロマンス、オータム・リーブス等

学期末試験評価方法

ソロピアノの基本ヴォイシングと様々な基本ヴォイシング方法を使いこなせているかどうか。  
実技・提出50% 出席20% 平常30%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ジャズ・ポピュラーピアノ研究Ⅳ	演習	実	秋谷えりこ

科目概要

IIIクォーターに引き続き、スタンダード曲を通し、ジャズ系やラテン系の曲の演奏に必要な、コード進行・ヴォイス方法・アドリブを演習形式でマスターしていきます。尚、講師は、ジャズ系の演奏家、作曲家、編曲家、プロデューサーとして、と多数の海外アーティストとレコーディングの実務経験を持ちます。

到達目標

- ・ジャズの様々なリズムを理解する。
- ・借用コードと定番のコード進行の理解と応用。
- ・スタンダードのレパートリーを増やし、リードシートとソロピアノで弾けるように。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スタンダード曲 1	セカンダリーとSub V7使用のスタンダード曲の演奏と各種スケール。 例題曲: アイ・リメンバー・エイプリル
第2回	スタンダード曲 2	ノン・ダイアトニックⅡ-V使用のスタンダード曲の演奏。 例題曲: サテン・ドール
第3回	スタンダード曲 3	サブドミナント・マイナー使用のスタンダード曲の演奏とスケール各種。 例題曲: オーバー・ザ・レインボウ
第4回	ブルージーサウンド	ブルージーな奏法使用のスタンダード曲の演奏とブルー・ノート。 例題曲: ジョージア・オン・マイ・マインド
第5回	スタンダード曲 4	オルタード&リディアン♭7&Hmp5↓のスケールを使ったアドリブ。 例題曲: チュニアの夜
第6回	短スタンダード曲 5	コンビネーション・オヴ・ディミニッシュ・スケールを使ったアドリブ。 例題曲: スペイン
第7回	筆記・実技テスト	ノン・ダイアトニックの筆記テストと曲の演奏。 アイ・リメンバー・エイプリル、サテン・ドール、スペインなど

クォーター末試験評価方法

長調・短調のダイアトニックのコード進行と、ジャズらしいノン・ダイアトニックのコード進行は理解できているか。また、ノンダイアトニックのコードでの使用スケールは理解できているか？

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ・コーチング	アレンジの習得方法/ヴォイス方法/アレンジとリハモナイズを混ぜてスタンダードをアレンジするコツを学ぶ。
第2回	ペダル	ペダルの用法使用のスタンダードの演奏。 例題曲: マイ・フーリッシュ・ハート
第3回	変拍子の曲	変拍子のスタンダードの演奏とドリアンを使ったアドリブ。 例題曲: テイク・ファイブ
第4回	クリシェ	2種のクリシェのコード記譜方法を理解し使用曲の演奏。 例題曲: マイ・ワン・アンド・オンリー・ラヴ
第5回	ディミニッシュ	ディミニッシュの用法使用のスタンダードを演奏。 例題曲: アルマンデス・ルンバ
第6回	ジャズ・ワルツ	ジャズワルツの用法/リズムの特徴を掴み、カプリング・ヴォイス方法を使用し演奏。 例題曲: いつか王子様が
第7回	コンサート・コーチング	コンサートで実力を出すために/本番で実力を出し切る、的確な暗譜などプロに必要な対策について学ぶ。
第8回	筆記・実技テスト	様々な用法の筆記テスト&曲の演奏。 マイ・フーリッシュ・ハート、テイク・ファイブ、いつか王子様が など

学期末試験評価方法

ダイアトニックのコード進行は理解できているか。様々なジャズのリズムや定番のコード進行は理解できているか。実技・提出50% 出席20% 平常30%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラー・レパートリー研究 I Ⅲ	演習	実	熱田公紀

科目概要

1段譜(Cメロ譜)からソロピアノ(2段譜)にアレンジしていく方法を学びます。まずはコードネームを正確に理解し、きちんと配置(Voicing)をできるように学習します。授業の形態は講座ではなく、個々の学生のレベルに応じた個人レッスンの形で行います。尚、講師はTV、CMなどの作・編曲。私自身が主催するBig Band(Y'Mex)の作・編曲、指揮。ヤマハ音楽振興への楽曲提供。ピアニストとして多くの演奏会やライブハウスでの演奏などの実務経験を持ちます。

到達目標

メロディーとコードネームの一段譜(リードシート)から左右の内声を使用してのSoloピアノ・スタイルに仕上げます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コードネームから読み取るVoicing(和音の配置)Vol.1	右手、メロディーと内声。左手、ベース・ラインと内声。
第2回	コードネームから読み取るVoicing Vol.2	右手、メロディーが歌い易いように6度以内での内声の配置を考えます。
第3回	コードネームから読み取るVoicing Vol.3	声部の変化、ダイナミックに曲を盛り上げるためのVoicingなど。
第4回	ソロ・ピアノ編曲法Vol.1	同じメロディーがなんども出てくる様な場合の変化を考えます。
第5回	ソロ・ピアノ編曲法Vol.2	左手の伴奏型への考察。
第6回	ソロ・ピアノ編曲法Vol.3	全体を通して構成を考えながら仕上げ。
第7回	テスト	実技試験

クォーター末試験評価方法

実技試験(20%)、出席(80%)

使用する楽曲 Cinema Paradiso(A.Morricone)他5曲の中から1曲選びます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コードネームから読み取るVoicing Vol.1	右手、メロディーと内声(9thを含む)。左手、ベース・ラインと内声。
第2回	コードネームから読み取るVoicing Vol.2	9th、11th、13thのTension Noteの積極的な活用。
第3回	ソロ・ピアノ編曲法Vol.1	半拍前でMelodyに合わせて”くっちはいる”手法の学習。
第4回	ソロ・ピアノ編曲法Vol.2	アクセントを伴ったリズムミクナ”決め”の弾き方。
第5回	ソロ・ピアノ編曲法Vol.3	左手の伴奏型への考察。
第6回	アドリブ(書きリブも可)についての考察 Vol.1	どんなScaleが使えるか考えてみる。(Available Chord Scale)
第7回	アドリブ(書きリブも可)についての考察 Vol.2	フレーズの組み立て方。構築されたSoloへの考察。
第8回	テスト	実技試験

学期末試験評価方法

実技試験(20%)、出席(80%)

使用する楽曲 River Quay(P.Metheny)他5曲の中から1曲選びます。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラー・レパトリー研究ⅡⅣ	演習	実	熱田公紀

科目概要

後期は、リズム的なアプローチについて考えます。これはピアノ学習者のほとんどが苦手としている分野ではないでしょうか。この授業では、それぞれのリズムスタイルの持つ特徴的な音価(Comping)を学び、ポピュラー曲のレパトリーを増やしていきます。尚、講師はTV、CMなどの作・編曲。私自身が主催するBig Band(Y'Mex)の作・編曲、指揮。ヤマハ音楽振興への楽曲提供。ピアニストとして多くの演奏会やライブハウスでの演奏などの実務経験を持ちます。

到達目標

様々なリズムを駆使して1段譜からのアレンジを試みる。  
 アレンジを試みる。  
 左右の内声、オブリガード、Compingなどを交え、Solo・Pianoスタイルに仕上げる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コードネームから読み取るVoicing Vol.1	9th、11th、13th 及び ♭9th、#11th、♭13thのTension Noteの積極的な活用。
第2回	それぞれのリズム、スタイルに応じたCompingの型 Vol.1	内声での”きざみ”をBossa-Nova、Jazz Waltzなどのリズム・スタイルで弾いてみる。
第3回	それぞれのリズム、スタイルに応じたCompingの型 Vol.2	グルーブ感を出すためのメロディー・ラインに対するアプローチの考察。
第4回	それぞれのリズム、スタイルに応じたCompingの型 Vol.3	メロディー・ラインを伴わない両手でのCompingの方法を考える。
第5回	それぞれのリズム、スタイルに応じたCompingの型 Vol.4	左手の伴奏型への考察。休符の効果的な使い方。
第6回	オブリガードの研究	メロディーに対して効果的にオブリガードを入れてみる。
第7回	テスト	実技試験

クォーター末試験評価方法

実技試験(40%)、出席(60%)  
 使用する楽曲 Se Todas Fossem Iguais a Voce(A.C.Jobim)他6曲の中から1曲選びます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コードネームから読み取るVoicing Vol.1	9th、11th、13th、♭9th、#11th、♭13thの組み合わせを考えた配置の研究。
第2回	コードネームから読み取るVoicing Vol.2	ベース音(Root)を弾かないVoicingの研究
第3回	リハモナイズの考察 Vol.1	代理和音の活用。
第4回	リハモナイズの考察 Vol.2	ベースの半音下降進行及びIIIm7 V7の多用。
第5回	ソロ・ピアノ編曲法 Vol.1	Drop2、Drop3、Drop2&4の活用。
第6回	それぞれのリズム、スタイルに応じたCompingの型 Vol.1	休符の効果的な使い方。メロディー・ラインに対してのリズミックなアプローチを考える。
第7回	それぞれのリズム、スタイルに応じたCompingの型 Vol.2	1年間の総まとめ。楽曲を仕上げる。
第8回	テスト	実技試験

学期末試験評価方法

実技試験(40%)、出席(60%)  
 使用する楽曲 My Foolish Heart (N.Washington)他6曲の中から1曲選びます。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	クラシック・レパートリー研究 I	演習	実	小野哲也

科目概要

この科目では、講師のクラシックピアニストとしての演奏活動経験に基づき、ピアノ音楽全体の幅広い時代のレパートリーの中から、学生の皆さんにピアノ演奏を通じて表現すべきことを見つけ出して貰います。春学期は、バロックの時代後半からロマン派の時代前半の鍵盤楽器作品を演奏します。第2クォーターでは、皆さんが春学期で学ぶ時代の範囲の中から曲選びをします。

到達目標

この時代の背景や音楽作品の特徴を学んだ上で、それを演奏に活かせるようにしていきます。2クォーターでは、曲選び自体も各々の意思を持って取り組めるようにします。遠い時代の作品と、今を生きる自分たちとの関わりの中から表現できることを見つけていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲の紹介と振り分け	バロックの時代からロマン派前期までの鍵盤作品群からの課題曲を紹介し、皆さんに弾いてもらう曲を割り振ります。
第2回	バロックの鍵盤音楽	バロックの時代の鍵盤楽器の作品群に触れながら、その時代の音楽の大まかな特徴を学びます。
第3回	古典派のピアノ音楽	古典派の時代のピアノ作品群に触れながら、その時代の音楽の大まかな特徴を学びます。
第4回	課題曲のレッスン①	第1回で割り振りした課題曲について、レッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第5回	課題曲のレッスン②	前回到引き続き、レッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第6回	課題曲のレッスン③	引き続き、レッスンをします。バロック・古典の音楽について、復習もします。
第7回	クォーター末試験	課題曲の演奏をします。演奏についての助言はその場で行います。

クォーター末試験評価方法

授業の出欠状況を40%(欠席1回につき3%減点と計算)、クォーター末試験の演奏を60%とし、合計を100点満点で評価します。作品への理解の度合いと、表現意欲を演奏の上では重視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	前期ロマン派のピアノ音楽①	古典派からロマン派への移り変わりを、その時代の作品群に触れながら学びます。
第2回	前期ロマン派のピアノ音楽②	19世紀前半のピアノ作品群に触れながら、その時代の音楽の大まかな特徴を学びます。
第3回	決めた課題曲について発表	バロック～前期ロマン派の範囲の鍵盤楽器作品から、皆さんが各々課題曲を1曲決め、選曲の動機を含めて発表します。
第4回	課題曲のレッスン①	皆さんが決めた課題曲についてのレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第5回	課題曲のレッスン②	前回到引き続き、課題曲のレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第6回	課題曲のレッスン③	引き続き、レッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第7回	課題曲のレッスン④	引き続き、レッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第8回	春学期末試験	課題曲の演奏をします。その曲についてのレポートも(B5)も1枚提出します。

学期末試験評価方法

春学期全体の出欠状況を40%(欠席1回につき3%減点と計算)、学期末試験の演奏とレポート内容を60%とし、合計を100点満点で評価します。演奏は、表現力を最重視します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	クラシック・レパートリー研究Ⅱ	演習	実	小野哲也

科目概要

この科目でも引き続き講師の演奏活動経験に基づき、幅広い時代のピアノ作品の表現力を身につけて貰います。秋学期では、後期ロマン派から近現代音楽(19世紀後半から20世紀前半まで)のピアノ作品群をテーマとして学び、演奏をしてもらいます。4クォーターでは、秋学期で学ぶ時代の範囲の中から皆さんが選んだ曲を課題とします。

到達目標

この時代の背景をや音楽作品の特徴を学んだ上で、レッスンではそれを演奏に活かせるようにしていきます。4クォーターでは2クォーターと同様、曲選び自体も各自の意思を持って取り組めるようにします。演奏上の個性と客観性の両立を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲の紹介と振り分け	後期ロマン派から近現代までのピアノ作品群からの課題曲を紹介し、皆さんに弾いてもらう曲を振り分けします。
第2回	後期ロマン派のピアノ音楽	課題以外の後期ロマン派のピアノ作品群に触れながら、その時代の音楽の大まかな特徴を学びます。
第3回	国民学派的ピアノ音楽	国民学派と呼ばれる作曲家たちの作品群に触れながら、その楽派の音楽の大まかな特徴を学びます。
第4回	課題曲のレッスン①	第1回で割り振りした課題曲について、レッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第5回	課題曲のレッスン②	前回到引き続き、課題曲のレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第6回	課題曲のレッスン③	引き続き、課題曲のレッスンをします。後期ロマン派・国民学派的音楽について、復習もします。
第7回	クォーター末試験	課題曲の演奏をします。演奏についての助言はその場で行います。

クォーター末試験評価方法

授業の出欠状況を40%(欠席1回につき3%減点と計算)、クォーター末試験の演奏を60%とし、合計を100点満点で評価します。演奏は曲想の表現力を最重視します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	近現代のピアノ音楽①	19世紀から20世紀初頭の作品群に触れながら、その大まかな特徴を学びます。
第2回	近現代のピアノ音楽②	1950年代までの作品群に触れながら、時代背景の大きな移り変わりを含めて、特徴を学びます。
第3回	決めた課題曲について発表	後期ロマン派から近現代の範囲のピアノ作品から、皆さんが各々課題曲を1曲決め、選曲の動機も含めて発表します。
第4回	課題曲のレッスン①	皆さんが決めた課題曲のレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第5回	課題曲のレッスン②	前回到引き続き、課題曲のレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第6回	課題曲のレッスン③	引き続き、課題曲のレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第7回	課題曲のレッスン④	引き続き、課題曲のレッスンをします。20世紀半ばまでのピアノ音楽について、復習もします。
第8回	秋学期末試験	課題曲の演奏をします。その曲についてのレポート(B5)も1枚提出します。

学期末試験評価方法

秋学期全体の出欠状況を40%(欠席1回につき3%減点と計算)、学期末試験の演奏とレポート内容を60%とし、合計を100点満点で評価します。演奏は、曲想の理解力と表現力を重視します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	クラシック・レパートリー研究Ⅲ	演習	実	小野哲也

科目概要

この科目では、講師のクラシックピアニストとしての演奏活動経験に基づき、ピアノ音楽全体の幅広い時代のレパートリーの中から、学生の皆さんにピアノ演奏を通じて表現すべきことを見つけ出して貰います。春学期では、20世紀から現在までのピアノ作品を学びます。2クォーターでは皆さんが各々テーマを設定し、19世紀末までと20世紀以降の作品を1曲ずつ(計2曲)を選び、演奏します。

到達目標

様々な地域や思想から生み出された音楽作品の特徴を学び、それを演奏表現に活かせるようにしていきます。2クォーターは、各自テーマを設定することで、時代や民族を超えて共通する内容をそれぞれの視点で見つけていき、独自でプログラム作りをする能力をつけていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲の紹介と振り分け	20世紀から現在までのピアノ作品群からの課題曲を紹介し、皆さんに弾いてもらう曲を割り振ります。
第2回	20世紀のピアノ音楽①	課題以外の20世紀の作品群に触れながら、それぞれの音楽の共通点や異なる特徴を学びます。
第3回	20世紀のピアノ音楽②	20世紀から21世紀に移り変わっていくピアノ作品群の性格を追いつつ触れていく中で、作品表現について考えます。
第4回	課題曲のレッスン①	第1回で割り振りした課題曲について、レッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第5回	課題曲のレッスン②	前回到引き続き、課題曲のレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第6回	課題曲のレッスン③	引き続き、課題曲のレッスンをします。現代音楽について、復習もします。
第7回	クォーター末試験	課題曲の演奏をします。演奏についての助言は、その場で行います。

クォーター末試験評価方法

授業の出欠状況を40%(欠席1回につき3%減点と計算)、クォーター末試験の演奏を60%とし、合計を100点満点で評価します。演奏表現への意欲や実行力を試験では重視します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	日本のピアノ音楽①	明治以降、日本はどのように西洋クラシック音楽を受け入れ、自分たちのものにしていったかを、曲に触れて学びます。
第2回	日本のピアノ音楽②	日本の現代音楽の発展を、作品に触れ学び、私たち自身との関係性を考えます。
第3回	決めたテーマと課題曲について発表	19世紀末までの1曲、20世紀以降の1曲、皆さんが選ぶ計2曲について、各自設定したテーマも含めて発表します。
第4回	課題曲のレッスン①	皆さんが決めた課題曲についてのレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第5回	課題曲のレッスン②	前回到引き続き、課題曲のレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第6回	課題曲のレッスン③	引き続き、課題曲のレッスンをします。課題曲以外の試聴・試奏も並行して行います。
第7回	課題曲のレッスン④	引き続き、課題曲のレッスンをします。それぞれの課題の曲目解説(1曲につき200字前後)も提出してもらいます。
第8回	春学期末試験	選んだ2曲の課題曲の演奏をします。演奏についての助言はその場で行います。

学期末試験評価方法

春学期全体の出欠状況を40%(欠席1回につき3%減点と計算)、学期末試験の演奏と曲目解説を60%とし、合計を100点満点で評価します。テーマ設定や演奏の創造性を最重視します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	クラシック・レパートリー研究Ⅳ	演習	実	小野哲也

科目概要

この科目でも引き続き講師の演奏活動体験に基づき、幅広い時代のピアノ作品の表現力を身につけて貰います。秋学期は、前年度から学び続けてきた時代の流れをもう一度振り返り、今後いかに自らの活動していくかを見出していくようにします。4クォーターでは、全ての時代の鍵盤楽器作品から、皆さんがテーマを設定して選んだ2曲を課題とします。

到達目標

膨大なクラシックピアノ音楽のレパートリーの中から、それぞれが専門家として何を選び、聴いている人々に何を演奏で伝えられるか、将来を見据えて各自選択して決める力をつけていきます。演奏技術と表現力の一致も目指していきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲の紹介と振り分け	20～21世紀のピアノ連弾曲からの課題曲を紹介し、皆さんに弾いてもらう曲を割り振ります。
第2回	バロック・古典派音楽の復習	17・18世紀の音楽を現代の視点から俯瞰しなおし、演奏を通じて復習します。
第3回	ロマン派音楽の復習	19世紀の音楽を現代の視点から俯瞰しなおし、演奏を通じて復習します。
第4回	課題曲のレッスン①	第1回で割り振りした課題曲について、レッスンをします。それに関連した別の作品の試聴・試奏も並行して行います。
第5回	課題曲のレッスン②	前回到引き続き、課題曲のレッスンをします。それに関連した別の作品の試聴・試奏も並行して行います。
第6回	課題曲のレッスン③	引き続き、課題曲のレッスンをします。ピアノ音楽をより立体的に捉えることを連弾作品で学びます。
第7回	クォーター末試験	課題の連弾曲の演奏をします。演奏についての助言はその場で行います。

クォーター末試験評価方法

授業の出欠状況を40%（欠席1回につき3%減点と計算）、クォーター末試験の演奏を60%とし、合計を100点満点で評価します。連弾演奏にあたり、視野を広く持てるか、アンサンブルを楽しめているか、という点も重視します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	近現代音楽の復習	近現代のピアノ音楽を復習し、試聴・試奏で作品に接して過去から未来へのつながりを考えます。
第2回	時代を超えて流れるもの	全ての時代の音楽をテーマを設定して聴き、演奏することで、各々にとっての音楽の普遍的意味を考えます。
第3回	決めたテーマと課題曲について発表	時代の制限なしで、皆さんがテーマを決めて選んだ2つの課題曲について発表します。
第4回	課題曲のレッスン①	テーマ付き課題曲のレッスンをします。テーマに関連した別の作品にも触れます。
第5回	課題曲のレッスン②	前回到引き続き、課題曲のレッスンをします。テーマに関連した別の作品にも触れます。
第6回	課題曲のレッスン③	引き続き、課題曲のレッスンをします。テーマに関連した別の作品にも触れます。
第7回	課題曲のレッスン④	引き続き、課題曲のレッスンをします。1曲につき200字前後の曲目解説も提出して貰います。
第8回	秋学期末試験	2曲の課題の演奏をします。演奏についての助言はその場で行います。

学期末試験評価方法

秋学期全体の出欠状況を40%（欠席1回につき3%減点と計算）、学期末試験の演奏と曲目解説を60%とし、合計で100点満点で評価します。テーマ設定や演奏表現の創造性を最重視し、加えて完成度も評価の対象とします。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作品分析 I (クラシック楽典)	演習	実	西上和子

科目概要

基礎的な音楽理論、楽典などから学び、音楽のなりたち(形式、メロディー分析、コード分析やモチーフのさまざまな用い方など)を分析していく。またアレンジ能力を総合的に身につけさまざまなジャンルに対応できるような伴奏型を学ぶ。クォーター毎にオリジナル作品を作曲し、発表する。講師は作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

到達目標

楽譜を正しく書く。バイエル程度の曲を自身の力でアナリーゼし、演奏表現につなげていく。オリジナル作品を計画性を持って完成させる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音楽のなりたち	メロディーとコードの関係について。非和声音について学ぶ。与えられたコード進行にメロディーを作成してみよう。
第2回	音楽のなりたち	非和声音を取り入れてメロディー制作に反映させる。モチーフの研究。
第3回	音楽のなりたち	ピアノ伴奏型を学ぶ。与えられたコードにしたがっているような種類の伴奏型を作ってみよう。
第4回	作品制作	オリジナル作曲をするにあたって。構成を考えよう。イメージをふくらませよう。計画をたてよう。
第5回	作品制作	メロディーを書き始める。コードとの関係。伴奏型を工夫して作ってみよう。
第6回	作品制作	仕上げに向けて。速度表示、アーティキュレーション、強弱など、表現を考えてみよう。
第7回	1クォーター試験	1クォーターオリジナルピアノ曲楽譜提出。

クォーター末試験評価方法

オリジナルピアノ曲、楽譜提出(40%)、出席(30%)、平常点(30%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音楽のなりたち	長音階、短音階についてしっかり理解し、演奏する。調性について学ぶ。調判定の課題を実施。
第2回	音楽のなりたち	形式について。二部形式、三部形式について。モチーフの展開について考えてみよう。
第3回	楽曲分析:ソナチネ	ソナチネ作品を分析する。形式、調判定や転調など、メロディーと和声の関係について。
第4回	楽曲分析:各自の楽曲	自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。時代、形式、調や転調について、モチーフの展開について。
第5回	楽曲分析:各自の楽曲	自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。第4回目の授業内容のつづき。
第6回	作品制作	オリジナルピアノ作品を作る。＜夏＞をテーマに、イメージをふくらませよう。
第7回	作品制作	オリジナルピアノ作品を作る。＜夏＞をテーマに、メロディーを書き進める。形式感を意識して曲の頂点となる部分をしっかり作ろう。
第8回	2クォーター試験	2クォーターオリジナルピアノ曲楽譜提出。音楽理論筆記試験。

学期末試験評価方法

オリジナルピアノ曲、楽譜提出(40%)、筆記試験(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作品分析Ⅱ(楽典・分析基礎)	演習	実	西上和子

科目概要

音楽理論、楽典などを学び、音楽のなりたち(形式、メロディー分析、コード分析やモチーフのさまざまな使い方など)を分析していく。またアレンジ能力を総合的に身につけさまざまなジャンルに対応できるような伴奏型を学ぶ。クォーター毎にオリジナル作品を作曲し、発表する。講師は作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

到達目標

ロンド、ソナタ形式の曲を自身の力でアナリーゼし、演奏表現につなげていく。オリジナル作品を計画性を持って完成させる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品分析:和音	和声について。調判定をしっかりと理解できるように学ぶ。和音の機能を学び、ドミナント進行をしっかりと意識する。
第2回	作品分析:ロンド形式	ロンド形式について学ぶ。小ロンド形式Mozart SONATAハ長調3楽章をアナリーゼし、発表しよう。
第3回	作品分析:ロンド形式	ロンド形式について続き。ロンドソナタ形式をアナリーゼし、発表しよう。
第4回	作品制作	オリジナルピアノ曲を作ろう。形式や構成を考える。イメージをふくらませる。メロディーの方向性を考える。
第5回	作品制作	オリジナルピアノ曲を作ろう。形式や構成を考える。イメージをふくらませる。和音の工夫を考えてみよう。
第6回	作品制作	オリジナルピアノ曲仕上げに向けて。アーティキレーション、表現を考える。
第7回	3クォーター試験	3クォーターオリジナルピアノ曲楽譜提出。

クォーター末試験評価方法

オリジナルピアノ曲、楽譜提出(40%)、出席(30%)、平常点(30%)

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作品分析:和声	和声について。和音の機能についておさらい。借用和音、偶成和音について学ぶ。
第2回	作品分析:ソナタ形式	ソナタ形式についてテキストに沿って学ぶ。形式、第一テーマと第二テーマの調整について。
第3回	作品分析:ソナタ形式	ソナタ形式についての続き。Beethoven SONATA No.1 f moll一楽章をアナリーゼし、意見を出し合う。
第4回	作品分析:各自の楽曲	自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。時代、形式、調や転調について、モチーフの展開について。
第5回	作品分析:各自の楽曲	自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。第4回目の授業内容のつづき。
第6回	作品制作	オリジナルピアノ曲を作ろう。形式や構成を考える。イメージをふくらませる。メロディーの方向性を考える。
第7回	作品制作	オリジナルピアノ曲仕上げに向けて。アーティキレーション、表現を考え仕上げる。
第8回	4クォーター試験	3クォーターオリジナルピアノ曲楽譜提出。筆記試験

学期末試験評価方法

オリジナルピアノ曲、楽譜提出(40%)、筆記試験(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作品分析Ⅲ(分析)	演習	実	西上和子

科目概要

ピアノ作品の分析、歴史的背景、楽曲分析などのアナリゼを実施し学習する。和声の知識を深める。またクォーター事にオリジナル作品を制作し、発表する。様々なスタイルの楽曲を例に学び、レパトリーの充実をはかる。講師は作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

到達目標

和声の課題実施を通して正しく理解する。バロック、古典派、ロマン派などのピアノ作品をアナリゼし、どのように演奏表現に反映させていけるか、を自身の力で考えていけるように学習する。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声課題実施	四声体の和声課題の実施。第一章、予備知識、第二章基本位置3和音の配置について学ぶ。
第2回	和声課題実施	四声体の和声課題の実施。第二章、基本位置3和音の配置の続き。第三章、基本位置3和音の連結<共通音のある和声連結>
第3回	楽曲分析: インベンション	対位法的楽曲について。Bach インベンションのアナリゼをしよう。
第4回	楽曲分析: 平均律	対位法的楽曲について。Bach 平均律プレリュードとフーガのアナリゼをしよう。
第5回	楽曲制作	オリジナルピアノ曲を作ろう。形式や構成を考える。イメージをふくらませる。メロディーの方向性を考える。
第6回	楽曲制作	オリジナルピアノ曲仕上げに向けて。アーティキレーション、表現を考え仕上げる。
第7回	Iクォーター試験実施	Iクォーター試験実施。オリジナルピアノ作品楽譜提出。

クォーター末試験評価方法

筆記試験(40%)、楽譜提出(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声課題実施	四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置3和音の連結の続き。<共通音のない和声連結>
第2回	和声課題実施	四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置3和音の連結の続き。<II→Vの連結について>
第3回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題の実施。第三章、の続き。<V→VIの連結について>自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリゼする。
第4回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題の実施。第四章、和音設定の原理。自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリゼする。
第5回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題の実施。第五章、8小節課題の実施。自身のピアノ実技試験で演奏する曲をアナリゼする。
第6回	和声課題実施。楽曲制作	四声体の和声課題の実施。第六章、各種の調、課題実施。オリジナルピアノ曲を作ろう。
第7回	和声課題実施。楽曲制作	四声体の和声課題の実施。第六章、各種の調、課題実施。オリジナルピアノ曲制作仕上げに向けて。
第8回	IIクォーター試験実施	IIクォーター試験実施。オリジナルピアノ作品楽譜提出。和声課題の試験。

学期末試験評価方法

筆記試験(40%)、楽譜提出(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作品分析Ⅳ(作曲技法・様式)	演習	実	西上和子

科目概要

ピアノ作品の分析、歴史的背景、楽曲分析などのアナリゼを実施し学習する。和声の知識を深める。またクォータ事にオリジナル作品を制作し、発表する。様々なスタイルの楽曲を例に学び、レパトリーの充実をはかる。講師は作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

到達目標

和声の課題を積み重ねることによって、盤石な和声感覚を身につけ、演奏表現に反映させていく。二年間の集大成となる楽曲を制作する。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声課題実施	四声体の和声課題実施。第六章、三和音の第一転回位置について
第2回	和声課題実施	四声体の和声課題実施。第六章、三和音の第一転回位置の続き。8小節課題
第3回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。第七章、3和音の第二転回位置。自身の試験曲：アナリゼ
第4回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。第八章、V7の和音について。自身の試験曲：アナリゼ
第5回	和声課題実施。楽曲制作	四声体の和声課題実施。第八章、V7の和音について。オリジナル作品の制作をはじめ。
第6回	和声課題実施。楽曲制作	四声体の和声課題実施。第八章、V7のつづき。オリジナル作品の制作を進めて仕上げに向ける。
第7回	Ⅲクォーター試験実施	Ⅲクォーター試験実施。オリジナルピアノ作品楽譜提出。和声課題の試験。

クォーター末試験評価方法

筆記試験(40%)、楽譜提出(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声課題実施。	四声体の和声課題実施。第九章、V9の和音について
第2回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。第十章、D諸和音の総括について。自身のレッスン曲や発表曲などのアナリゼ
第3回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。カデンツの総括について。自身のレッスン曲や発表曲のアナリゼ
第4回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。補充課題。自身のレッスン曲や発表曲などのアナリゼ
第5回	和声課題実施。楽曲制作	四声体の和声課題実施。S諸和音について。自身の試験曲や発表曲のアナリゼ
第6回	和声課題実施。楽曲制作	四声体の和声課題実施。借用和音について。オリジナル作品の制作をはじめ、進める。
第7回	和声課題実施。楽曲制作	四声体の和声課題実施。ソプラノ課題について。オリジナル作品の制作をまとめ仕上げに向けて。
第8回	Ⅳクォーター試験実施	Ⅳクォーター試験実施。オリジナルピアノ作品、楽譜提出。和声課題の試験

学期末試験評価方法

筆記試験(40%)、楽譜提出(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作品分析 V	演習	実	篠田昌伸

科目概要

この科目では、クラシックの特定の作曲家に焦点を絞り、そのピアノ曲を概観、各回で詳細に分析することによって、作曲家と楽曲へのより深い理解につなげていく。春学期では、ロマン派の作曲家、ショパンとシューマンをとりあげ、個々の作品を分析してゆく。講師はピアニストとして長年活躍している経歴を持つ。

到達目標

楽曲を分析することによって、演奏の技術面以外の、多角的な音楽的アプローチを可能にし、より高度な演奏表現につなげていくことを目的とする。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ショパン I	作曲家について。作品概観。
第2回	ショパン II	バラードについて
第3回	ショパン III	スケルツォについて
第4回	ショパン IV	ソナタについて
第5回	ショパン V	エチュードについて
第6回	ショパン VI	プレリュードについて
第7回	まとめ	分析レポートの提出

クォーター末試験評価方法

課題40% 出席、授業への取り組み60%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	シューマン I	作曲家について。子供の情景
第2回	シューマン II	謝肉祭
第3回	シューマン III	アベッグ変奏曲、交響的練習曲
第4回	シューマン IV	ソナタ第2番、幻想曲ハ長調
第5回	シューマン V	クライスレリアーナ
第6回	シューマン VI	女の愛と生涯
第7回	シューマン VAN	ピアノ協奏曲イ短調
第8回	まとめ	分析レポートの提出

学期末試験評価方法

課題40% 出席、授業への取り組み60%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作品分析 VI	演習	実	篠田昌伸

科目概要

この科目では、クラシックの特定の作曲家に焦点を絞り、そのピアノ曲を概観、各回で詳細に分析することによって、作曲家と楽曲へのより深い理解につなげていく。秋学期では、印象派の作曲家、ドビュッシーとラヴェルをとりあげ、個々の作品を分析してゆく。講師はピアニストとして長年活躍している経歴を持つ。

到達目標

楽曲を分析することによって、演奏の技術面以外の、多角的な音楽的アプローチを可能にし、より高度な演奏表現につなげていくことを目的とする。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドビュッシー I	作曲家について、印象派の和声法について。
第2回	ドビュッシー II	版画
第3回	ドビュッシー III	ピアノのために
第4回	ドビュッシー IV	映像
第5回	ドビュッシー V	練習曲集
第6回	ドビュッシー VI	前奏曲集
第7回	まとめ	分析レポートの提出

クォーター末試験評価方法

課題40% 出席、授業への取り組み60%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ラヴェル I	作曲家について。ソナチネについて。
第2回	ラヴェル II	鏡
第3回	ラヴェル III	夜のガスパール
第4回	ラヴェル IV	連弾、2台ピアノ曲について
第5回	ラヴェル V	ピアノ協奏曲ト長調
第6回	ラヴェル VI	室内楽について
第7回	ラヴェル VII	クーブランの墓
第8回	第8回目の授業(試験)テーマ	分析レポートの提出

学期末試験評価方法

課題40% 出席、授業への取り組み60%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作品分析 VII	演習	実	篠田昌伸

科目概要

この科目では、クラシックの特定の作曲家に焦点を絞り、そのピアノ曲を概観、各回で詳細に分析する。それによって、作曲家と楽曲へのより深い理解につなげていく。1クォーターではブラームスとリストを比較、2クォーターではロシアの作曲家、ラフマニノフとスクリャービンを取り上げ比較する。講師はピアニストとして長年活躍している経歴を持っている。

到達目標

楽曲を分析することによって、演奏の技術面以外の、多角的な音楽的アプローチを可能にし、より高度な演奏表現につなげていくことを目的とする。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ブラームス I	作曲家について。初期ソナタについて
第2回	ブラームス II	変奏曲について
第3回	ブラームス III	中後期小品集
第4回	リスト I	作曲家について。エチュードについて
第5回	リスト II	ソナタ短調について
第6回	リスト III	巡礼の年について
第7回	まとめ	分析レポートの提出

クォーター末試験評価方法

課題40% 出席、授業への取り組み60%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ラフマニノフ I	作曲家について。前奏曲について
第2回	ラフマニノフ II	音の絵第2集
第3回	ラフマニノフ III	ソナタ第2番
第4回	ラフマニノフ IV	ピアノ協奏曲第2番
第5回	ラフマニノフ V	組曲、変奏曲について
第6回	スクリャービン I	作曲家について。小品について
第7回	スクリャービン II	ソナタについて
第8回	まとめ	分析レポートの提出

学期末試験評価方法

課題40% 出席、授業への取り組み60%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作品分析 VIII	演習	実	篠田昌伸

科目概要

この科目では、クラシックの特定の作曲家に焦点を絞り、そのピアノ曲を概観、各回で詳細に分析する。それによって、作曲家と楽曲へのより深い理解につなげていく。3クォーターでは20世紀ロシアのプロコフィエフとショスタコーヴィチを比較、4クォーターでは、スペイン、東欧。近現代の作曲家を1回ずつ取り上げていく。講師はピアニストとして長年活躍している経歴を持っている。

到達目標

楽曲を分析することによって、演奏の技術面以外の、多角的な音楽的アプローチを可能にし、より高度な演奏表現につなげていくことを目的とする。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	プロコフィエフ I	作曲家について。初期ソナタ
第2回	プロコフィエフ II	中期、戦争ソナタ
第3回	プロコフィエフ III	ピアノ協奏曲第3番
第4回	プロコフィエフ IV	室内楽について
第5回	ショスタコーヴィチ I	作曲家について。ソナタ、プレリュードについて。
第6回	ショスタコーヴィチ II	24の前奏曲とフーガ
第7回	まとめ	分析レポートの提出

クォーター末試験評価方法

課題40% 出席、授業への取り組み60%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アルベニス	作曲家、代表的作品について
第2回	グラナドス	作曲家、代表的作品について
第3回	シマノフスキ	作曲家、代表的作品について
第4回	ヤナーチェク	作曲家、代表的作品について
第5回	バルトーク	作曲家、代表的作品について
第6回	リゲティ	作曲家、代表的作品について
第7回	カプーステン	作曲家、代表的作品について
第8回	まとめ	分析レポートの提出

学期末試験評価方法

課題40% 出席、授業への取り組み60%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ピアノ指導法研究 I	演習	実	溝部洋子

科目概要

21世紀に求められているピアノ教師像とは？実際のレッスン映像を見、レッスングッズの実物を使っての実際的な授業です。「ピアノは弾けるけど教え方が分からない」新米ピアノ教師になった時、困らないためのノウハウを学びます。尚、講師は、米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

到達目標

なぜピアノ指導は面白いの？他の職業と何が違うの？ピアノ教師って何がいいの？  
 沢山あるピアノ教本の選び方、初めて教えるとき、何から教えればいいのか？などを学び理解しましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「ピアノ指導法」授業の目的は？	なぜ、この授業があるの？「ピアノ指導法」をなぜ勉強する必要があるのかを知りましょう。
第2回	ピアノ指導者の仕事とは？	ピアノ講師の仕事って、どういう仕事？ピアノ講師、ピアノ教師の仕事について学びましょう。
第3回	沢山あるピアノ教本について	ピアノ教本が沢山あることを知りましょう。 なぜ沢山あるのでしょうか？それを考えよう！
第4回	ピアノ教本の分類法	沢山あるピアノ教本やピアノテキストを見分けられる方法について、その分類の方法を学びます。
第5回	「ミドルCアプローチ」とは？	「ミドルCアプローチ」って何？を習います。 「ミドルCアプローチ」のピアノテキストも沢山紹介します。
第6回	「ランドマークアプローチ」とは？	「ランドマーク」の意味って何？それを「読譜」に利用するとどうなる？発想を転換するスキルをゲットしよう！
第7回	私が選んだピアノテキスト	1クォーターで学んできたことを元に「良いと思う」テキスト選びをし、それについてレポートを作成しましょう。

クォーター末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②楽譜売り場に行き、授業時の指示に従い、ピアノ教本について調べます。③課題は必ず期限までに提出しましょう。①出席40% ②平常点20% ③課題40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	夏休みに誰かを教えてみよう！	夏休みの課題である「誰かを実際に教えてみる」について「どうやって生徒をみつけるの？」など理解しましょう。
第2回	全調メソッドとは？	「全調メソッド」って何？なぜ全調メソッドが必要なのか？全調メソッドについて学びます。
第3回	「バイエル」とは？	「バイエル」って何？なぜ「バイエル」はロングセラーなの？バイエルについて学びましょう。
第4回	「教える生徒」についての発表	夏休みに教える生徒について、プレゼンテーションしましょう。どうやって生徒をみつけたか？何を教えるか？など。
第5回	夏休みの「レッスンプラン」の発表	どういう風にレッスンするか？どんなテキストや曲を使うか、など夏休みのレッスンについて発表しましょう。
第6回	「夏休みのレッスン」の報告	夏休みに行ったレッスンはどうでしたか？自分の行ったレッスンについて発表します。
第7回	教えたレッスンでわからなかったこと	夏休みに行ったレッスンで、わからなかったこと、難しかったこと、途惑ったこと、などを発表し、解決方法を学びましょう。
第8回	夏休みに教えたレッスンレポート	実際に行ったレッスン記録を元に、夏休みに教えたレッスンについてレポートしましょう。

学期末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②夏休みに誰かを教えます。③夏休みに教えるレッスンプランの発表をします。④夏休みに教えたレッスンの発表をします。⑤教えたレッスンのレポートを作成します。  
 ①35% ②③④で30% ⑤35%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ピアノ指導法研究Ⅱ	演習	実	溝部洋子

科目概要

先生役&生徒役になって、バーチャルレッスンをを行い、具体的な指導のスキルや問題解決の方法を学びます。お手本となる演奏についても考え、指導者として示すべき模範、アンサンブルの必要性についても学びます。尚、講師は、米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

到達目標

バーチャルレッスンを通し、具体的な指導のスキルや問題解決の方法を学びます。クラスメイトの発表からは、沢山のことが学べることでしょう。アンサンブルの必要性、指導者として示すべき模範と教えるべきポイントについても学びます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レッスンで最初に教えること	初めてのレッスンで教えるべきことは何か？を考えます。必要不可欠な5項目を学びます。
第2回	鍵盤上の音名	テーマ①「鍵盤上の音名」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンをを行います。
第3回	ドレミの配列	テーマ②「ドレミの配列」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンをを行います。
第4回	譜表上の音名	テーマ③「譜表上の音名」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンをを行います。
第5回	音の方向&音程読み	テーマ④「音の方向&音程読み」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンをを行います。
第6回	リズムと拍子	テーマ⑤「リズムと拍子」テーマに合ったグッズ作りをし、先生役・生徒役となって模擬レッスンをを行います。
第7回	全6回のまとめ	全6回の授業を通して、クラスメイトの行ったレッスンを振り返り、ディスカッションをしましょう。

クォーター末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②バーチャルレッスンのためのグッズ制作をします。③先生役のレッスン計画を作り、実行しましょう。④生徒役を適正に行いましょう。①出席40% ②③課題40% ④平常点20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	お手本となる演奏とは	模範となる演奏について考えます。なぜお手本の演奏が必要なのでしょう？皆で話し合います。
第2回	演奏と発表：導入期の曲	導入期の曲でお手本とするべきポイントは？導入期には何を押さえなければいけないか？を学びます。
第3回	演奏と発表：初級レベルの曲	初級レベルの曲でお手本とするべきポイントは？初級期には何を押さえなければいけないか？を学びます。
第4回	演奏と発表：中級レベルの曲	中級レベルの曲でお手本とするべきポイントは？中級期には何を押さえなければいけないか？を学びます。
第5回	アンサンブルの必要性和合わせ方	なぜアンサンブルが必要なの？連弾や2台ピアノを早くから導入する必要性和合わせ方の基本を学びます。
第6回	連弾又は2台ピアノの演奏	導入・初級・中級レベルより1つ選び、クラスメイトと連弾又は2台ピアノの曲を決めて演奏発表します。
第7回	私が選んだ作曲家について	選択した曲の作曲家について調べ、発表します。子供の生徒でもわかるよう、わかり易く説明しましょう。
第8回	学期末試験	ピアノ指導法の1年間の学びを振り返り、何を学んだか？何が印象に残ったか？などをレポートします。

学期末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②導入・初級・中級のレパートリーから1曲選択して演奏します。③導入・初級・中級の連弾又は2台ピアノのレパートリーから1曲選択して演奏します。④1年のまとめをレポートします。①40% ②③④で60%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ピアノ指導法Ⅲ	演習	実	溝部洋子

科目概要

昨年度学習した事柄や知識を基に、更に深く「ピアノ指導法」について追及します。教える立場に立った時に困らないよう、良いテキストの選び方や年齢別の指導法その他、細かいノウハウを学びます。尚、講師は、米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

到達目標

理想的なピアノテキストを選べるようになるための知識を身につけましょう。教える時、生徒に学習させるべき項目を考え、良いレッスンを展開できる力をつけましょう。学んだことを最大限に活かして、夏休みに実際に教えてみましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	初めに選ぶ教本	理想的なピアノテキストとは？について考えていきます。昨年の授業を参考に皆でディスカッションしましょう。
第2回	3、4歳児向けのテキスト その1	3、4歳児向けのテキストにはどんなものがあるの？ 3、4歳児向けのテキストに必要なことは？について考えます。
第3回	3、4歳児向けのテキスト その2	沢山販売されている3、4歳児向けテキストについて、詳しく見ていきます。
第4回	3、4歳児の教え方	前3回で学んだ、3、4歳児向けテキストの使い方と教え方について学びます。
第5回	5～8歳児向けのテキスト その1	5～8歳児向けのテキストにはどんなものがあるの？ 5～8歳児向けのテキストに必要なことは？について考えます。
第6回	5～8歳児向けのテキスト その2	沢山販売されている5～8歳児向けテキストについて、詳しく見ていきます。
第7回	5～8歳児の教え方	前3回で学んだ、5～8歳児向けテキストの使い方と教え方について学びます。

クォーター末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②楽譜売り場に行き、授業時の指示に従い、ピアノ教本について調べます。③課題は必ず期限までに提出しましょう。①出席40% ②平常点20% ③課題40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	大きい子供と大人の初心者	9歳以上の生徒と大人の初心者の指導について学びます。大きい生徒や大人の初心者レッスンは、子供と何が違うの？
第2回	大きい子供と大人の初心者向けテキスト	大きい生徒や大人の初心者向けのテキストについて学びます。
第3回	夏休みのレッスン①	夏休みに行うレッスンの予行演習を授業内で行います。レッスン計画の立て方を学びます。
第4回	夏休みのレッスン②	夏休みに行うレッスンをシュミレーションしてみましょう。
第5回	夏休みの「レッスンプラン」の発表	どういう風にレッスンするか？どんなテキストや曲を使うか、など夏休みのレッスンについて発表しましょう。
第6回	「夏休みのレッスン」の報告	夏休みに行ったレッスンはどうでしたか？自分の行ったレッスンについて発表します。
第7回	教えたレッスンでわからなかったこと	夏休みに行ったレッスンで、わからなかったこと、難しかったこと、途惑ったこと、などを発表し、解決方法を学びましょう。
第8回	夏休みに教えたレッスンレポート	実際に行ったレッスン記録を元に、夏休みに教えたレッスンについてレポートしましょう。

学期末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②夏休みに誰かを教えます。③夏休みに教えるレッスンプランの発表をします。④夏休みに教えたレッスンの発表をします。⑤教えたレッスンのレポートを作成します。①35% ②③④で30% ⑤35%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ピアノ指導法Ⅳ	演習	実	溝部洋子

科目概要

今まで学んだ知識を基に、中級レベルへつなげるためのテキストの選び方、様々なレパートリーの指導方法を学びます。教室の開き方や保護者対策、発表会の開き方、ピアノ教師になった時、困らないための事柄を学び、しめくります。尚、講師は、米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

到達目標

「四期」の指導がなぜ必要なの？ポップス・ジャズにまでつなげるために、どういうテキストを使う必要があるの？ピアノの講師になった時に困らないためにはどうすればいいの？などの知識をゲットしましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	四期の指導の重要性	なぜ四期を教える必要があるかを考える授業です。「四期」を指導する必要性って何？
第2回	四期の指導①バロック	初級ピアノテキストの中から、バロックにつながるページや曲を探し、分析しましょう。
第3回	四期の指導②古典	初級ピアノテキストの中から、古典のソナチネにつながるページや曲を探し、分析しましょう。
第4回	四期の指導③ロマン	初級ピアノテキストの中から、ロマン派の曲につながるページや曲を探し、分析していきましょう。
第5回	四期の指導④近・現代	初級ピアノテキストの中から、近・現代の曲につながるページや曲を探し、分析してみましょう。
第6回	四期の指導⑤ポップス・ジャズ	アメリカのピアノメソッドがポップス・ジャズにもつながる理由を考え、テキストを見ていきましょう。
第7回	四期の指導⑥ポップス・ジャズ	プレゼンテーション:もし私がポップス・ジャズを教えるとしたら？これがクォーター末の課題です。

クォーター末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②四期の中から1つ選び演奏します。③四期の中から1つ選び、クラスメートを教えます。④ポップス・ジャズも演奏又は指導します。①40% ②③④で60%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノ教室の開き方	どうやって教室を開くの？生徒募集はどうするの？お月謝の設定は？etcを学びます。
第2回	教室理念とルール作り	大切な「教室理念」と教室の「ルール作り」について詳しく学びます。
第3回	教室経営法	どうやったらスムーズに教室が運営できるか、そのノウハウについて考えていきましょう。
第4回	保護者や生徒の対人対策	人とのコミュニケーション能力が必須のピアノ教師です。生徒や保護者対応、対策を考えましょう。
第5回	もし教室を開くとしたら？	私もし教室を開くとしたら、どんな教室にする？どうやって教室を開いたらいい？を考えます。
第6回	もしピアノ講師になったら？	私もしピアノ講師、ピアノ教師になったらどう先生になりたい？何をしたい？を考えましょう。
第7回	私が理想とする「教室&講師」像	自分が理想とする教室とその講師像についてプレゼンテーションしましょう。
第8回	1年間のまとめ	1年間学んできたことを振り返り、その詳細についてレポートしましょう。

学期末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②理想とする「教室」像についてプレゼンテーションしましょう。③自分がなりたい「講師」像についてプレゼンテーションしましょう。④1年間で何を学んだか詳細にレポートしましょう。①40% ②③④で60%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ピアノ指導法 V	演習	実	溝部洋子

科目概要

ピアノを教える時に一番必要な知識「テキスト」について深く学びます。「ミドルC」「ランドマーク」「全調」「バイエル」・・・etc. 必ず押さえておかなければならない分類法と大人のレッスンについて学びます。尚、講師は、米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

到達目標

ピアノ講師になった時に困らないための「テキストの知識」、「子供のレッスン」と「大人のレッスン」の違いを知りましょう。夏休みには誰かを教えて、教えるスキルをアップさせましょう。「アカデミー生」ならではの学び方を修得しましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	良いテキストの選び方	良いピアノテキストとは？良いピアノテキストの条件について考え、確認しましょう。
第2回	ピアノ教本分類法	「ミドルC」「ランドマーク」「全調」アプローチなど、沢山あるピアノテキストを分類方法について学びます。
第3回	ミドルCアプローチのテキスト	「ミドルC」アプローチって何？そのテキストにはどういうものがあるの？を学ぶ授業です。
第4回	ランドマークアプローチのテキスト	聞き慣れない「ランドマーク」アプローチ、その秘密を探ります。これを導入するとレッスンが大きく変わります。
第5回	全調メソッドのテキスト	「全調」の指導は必須アイテムです。「全調メソッド」のテキストについて学びます。
第6回	幼児向けテキスト	幼児向けテキストは沢山あるけれど、何をポイントにどう選び、使えばいいの？を学びます。
第7回	私が選んだ良いテキスト	良いと思うテキストを楽譜屋さんに行って調べ、レポートしましょう。なぜそれが良いと思ったのですか？

クォーター末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②楽譜売り場に行き、授業時の指示に従い、ピアノ教本について調べます。③課題は必ず期限までに提出しましょう。①出席40% ②平常点20% ③課題40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	大人のレッスン	大人のレッスンと子供のレッスンはどこが違うの？大人のレッスンについて学びます。
第2回	大人のピアノテキスト	大人のピアノテキストにはどのようなものがあるか？大人向けには、どういうテキストを使えば良いか？を学びます。
第3回	大人の生徒の教え方	子供とは違う大人の生徒への対応の仕方や教え方を細かく考え、学びましょう。
第4回	夏休みに教えるレッスン	夏休みに教える生徒について、プレゼンテーションしましょう。どうやって生徒をみつけたか？何を教えるか？など。
第5回	夏休みの「レッスンプラン」	どういう風にレッスンするか？どんなテキストや曲を使うか、など夏休みのレッスンについて発表しましょう。
第6回	「夏休みのレッスン」の報告	夏休みに行ったレッスンはどうでしたか？自分の行ったレッスンについて発表します。
第7回	行ったレッスンを改善するために	夏休みに行ったレッスンで、わからなかったこと、難しかったこと、戸惑ったこと、などを発表し、解決方法を学びましょう。
第8回	夏休みに教えたレッスンレポート	実際に行ったレッスン記録を元に、夏休みに教えたレッスンについてレポートしましょう。

学期末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②夏休みに誰かを教えます。③夏休みに教えるレッスンプランの発表をします。④夏休みに教えたレッスンの発表をします。⑤教えたレッスンのレポートを作成します。①35% ②③④で30% ⑤35%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ピアノ指導法 VI	演習	実	溝部洋子

科目概要

「4期」ではない「5期」の指導とは何か？中級・上級へつなげていくために、押さえておかなければならないテキストの選び方や教え方を学びます。必須の「発表会」、生徒や保護者対応についても学びましょう。尚、講師は、米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

到達目標

「5期」が意味するもの、目指すものが何か？それを踏まえてのレッスンの展開の仕方を理解しましょう。講師になった時に困らないための様々な知識をゲットしてください。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	4期ではなく「5期」の指導	なぜ5期を教える必要があるかを考える授業です。なぜ「5期」なの？
第2回	バロック期の教え方	初級・中級ピアノテキストの中から、バロックにつながるページや曲を探し、分析しましょう。
第3回	古典派の教え方	初級・中級ピアノテキストの中から、古典のソナチネにつながるページや曲を探し、分析しましょう。
第4回	ロマン派の教え方	初級・中級ピアノテキストの中から、ロマン派の曲につながるページや曲を探し、分析していきましょう。
第5回	近・現代期の教え方	初級・中級ピアノテキストの中から、近・現代の曲につながるページや曲を探し、分析してみましょう。
第6回	ポップス・ジャズを教えるには？	もしポップス・ジャズを教えるとしたら、どうする？レッスン方法を考えましょう。
第7回	「私が展開する」レッスン	「5期」の中から、一番興味のある様式を選び、クラスメートにレッスンしてみましょう。

クォーター末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②5期の中から1つ選び演奏します。③5期の中から1つ選び、クラスメートを教えます。④ポップス・ジャズも演奏又は指導します。 ①40% ②③④で60%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	発表会は、なぜ必要？	発表会の必要性について考え、クラスメートと話し合います。
第2回	発表会の実例	色々な教室の色々な発表会DVDを見ながら、発表会の実例について学びましょう。
第3回	発表会の開き方	発表会はどうやって開くの？を考え、発表会の開き方について学んでいきます。
第4回	発表会で押さえておくべきポイント	発表会を開催する時に、どうしても押さえておかななくてはならないポイントについて学びます。
第5回	講師演奏をしたら？	発表会で恒例の「講師演奏」について学びます。注意すべきポイントや理想的なレパートリーについて。
第6回	講師演奏の準備	実際にピアノ講師になった時に困らないために、講師演奏ためのレパートリーを弾いてみよう。
第7回	生徒と保護者対策	1人1人異なる個々の生徒への対応の仕方や保護者対策について考え学びましょう。
第8回	1年間のまとめ	「ピアノ指導法」1年間の授業はどうでしたか？レポートを作成し、発表しましょう。

学期末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②自分が開いてみたい理想の「発表会」像についてプレゼンテーションしましょう。③1年間で何を学んだか、詳細にレポートしましょう。 ①40% ②と③で60%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ピアノ指導法 VII	演習	実	溝部洋子

科目概要

3年間の指導法の授業を基に、知っておくべきピアノテキストの内容を分析し、使い方を細かく学びます。卒業後、ピアノ講師になることを前提とした授業を展開します。春学期は、日本人著者によるシリーズのテキストを勉強します。尚、講師は、米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

到達目標

3年間の指導法の授業を基盤にして、1年後にピアノ講師になることを想定し、テキストの内容について、しっかり理解しましょう。各テキストの長所や短所、具体的な使い方を確実に理解し、マスターできるようにしましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	みんなのおけいこ(音友)	全3巻の特徴と導入の方法、テキストの使い方について学びます。
第2回	うたとピアノの絵本(音友)	①みぎて②ひだりて③りょうての全3冊の導入の方法と使い方について学びます。
第3回	アキピアノ教本(音友)	うたとピアノの絵本の続編であるアキピアノ教本①②③について学びます。
第4回	みんなのオルガンピアノの本1、2(ヤマハ)	日本で最も歴史のあるテキストです。内容の分析と使い方を学びます。
第5回	みんなのオルガンピアノの本3、4(ヤマハ)	第4回の授業で学んだテキストの続きがどうなっているのかを学びます。
第6回	ピアノひけるよジュニア1、2(ドレミ)	みんなが知っている歌や曲ばかりを使っている「ひけるよ」シリーズについて学びます。
第7回	ピアノひけるよジュニア3(ドレミ)	第3巻の押さえるべきポイント、使い方や教え方を学びます。

クォーター末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②1クォーターで学んだ全てのテキストについてまとめましょう。③課題は必ず期限までに提出しましょう。①出席40% ②平常点20% ③課題40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノひけるよシニア(ドレミ)	ひけるよジュニア終了後に使うシニアシリーズはどうなっているのか見ていきましょう。
第2回	ピアノランド(音友)	このシリーズの中心は何かを中心に学びます。
第3回	ぴあのどリーむ(学研)	このシリーズの長所と短所について分析します。
第4回	こどものひだりて(サーベル)	なぜこのテキストが必要かを考え、使い方や対象生徒について考えます。
第5回	はじめてのピアノ教本(サーベル)	このシリーズの特徴は何か、使う利点、使い方などを学びます。
第6回	ソーヨ姫とファーデス王子(全音)	このテキストの斬新なアイデアを知り、使い方を考えてみましょう。
第7回	わかーるピアノ(全音)	邦人のテキストとしては最も新しいテキストのひとつである「わかーるピアノ」について学びます。
第8回	夏休みに教えたレッスンレポート	実際に行ったレッスン記録を元に、夏休みに教えたレッスンについてレポートしましょう。

学期末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②授業への取り組み方、積極性など。③春学期に学んだ全てのテキストの中から良いと思うテキストを選び、そのテキストを使って誰かに教え、そのレポートを作成します。①出席40% ②平常点20% ③課題40%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ピアノ指導法 Ⅷ	演習	実	溝部洋子

科目概要

春学期の授業を基に、秋学期は海外のメソッドで邦訳されているテキストについて詳しく学びます。導入～上級まで、どのようにつながるのか細かく分析し、使い方を学びます。4クォーターは「演奏」がテーマです。尚、講師は、米国でのピアノ教師経験、ピアノ教本の翻訳、指導法講座の開催、企画、ピアノ教室の運営等、ピアノ教育界での実務経験を持ちます。

到達目標

あと半年で卒業！ピアノ講師になった時、少しでも困らないよう、テキストの知識を総まとめできるようにしましょう。生徒を教える時のシュミレーションもできるようにしましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アルフレッド導入コースA、B(全音)	なぜこのテキストが必須なのかを学び、絶対に押さえるべきポイントをマスターしましょう。
第2回	アルフレッド導入コースC(全音)	このテキストの「必須」のポイントと、その教え方を学びます。
第3回	アルフレッド基礎コース(全音)	導入コースと何が違うのか、このコースの目指すところは何なのかを学びます。
第4回	バスティンピアノパーティー(東音)	このテキストの画期的な点は何なのか、なぜそれが重要なのかを中心に勉強します。
第5回	バスティンライブラリー(東音)	このテキストが目指していること、なぜ良いのかを分析し学びます。
第6回	バスティンベーシックス(東音)	パーティーシリーズ、ライブラリーシリーズとは何がどう違うのかを中心に学びます。
第7回	ラーニングトゥプレイ(全音)	このテキストの長所と特徴、もし短所があるとすれば何なのかを見ていきましょう。

クォーター末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②3クォーターで学んだ全てのテキストについてまとめましょう。③課題は必ず期限までに提出しましょう。①出席40% ②平常点20% ③課題40%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入期のレッスン その①	導入期のレッスンで、押さえるべき弾き方のポイントを演奏を通して学びます。
第2回	導入期のレッスン その②	導入期のレッスンで、気を付けたい奏法やテクニックを演奏を通して学びます。
第3回	導入期のレッスン その③	このレベルでできるアンサンブルを考え、クラスメートと合わせましょう。
第4回	初級のレッスン その①	初級のレッスンで、押さえるべき弾き方のポイントを演奏を通して学びます。
第5回	初級のレッスン その②	初級のレッスンで、気を付けたい奏法やテクニックを演奏を通して学びます。
第6回	中級のレッスン その①	中級のレッスンは初級の時と何が違うべきなのか、演奏を通して学びます。
第7回	中級のレッスン その②	中級のレッスンで、気を付けたい奏法やテクニックを演奏を通して学びます。
第8回	学期末試験	中級レベルのソロ、アンサンブルの実技試験です。4年間のまとめとなるハイレベルの演奏を目指しましょう。

学期末試験評価方法

評価方法は次の通りです。①まず基本は授業にきちんと出席できることです。遅刻、欠席をしないように心がけましょう。②授業への取り組み方、積極性など。③レパートリーから各々1曲選択して演奏します。①出席40% ②平常点20% ③課題40%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	室内楽演習 I (伴奏法応用)	演習	実	大導寺錬太郎

科目概要

主にピアノのアンサンブル(4手連弾、2台4手、2台8手等)を勉強します。アンサンブルに必要な様々な知識・技術を習得し、より深く多彩な表現を楽しみましょう。尚、講師は国内のコンクール審査員、PTNAステップのアドバイザーを担当、30回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

到達目標

本授業で学んだ成果を10月実施予定のコンサートで披露します。各自のレベルで最高の演奏が出来る事が本授業の目標です。日々の練習方法、気持ちの高め方など、本番を迎えるにあたっての様々な準備の仕方を体得することが出来ます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	読譜～作品の概要を把握する～	楽譜に書かれている様々な情報を確認し、また音源を聴き、曲の大きな雰囲気をつかみます。
第2回	基本的事項の確認及び練習	確実に弾ける速度で、音・リズム等の確認をします。頭に入りにくい部分は何度も反復し覚えます。
第3回	音楽的な掘り下げ①～フレージング～	スラーの長さ等からどこからどこまでが1つのまとまりになっているかを読み解き、音楽の流れを理解します。
第4回	技術面の強化①～苦手な部分の確認～	技術的難所を練習します。1フレーズ又は数小節の単位で確実に弾ける速度で反復し、苦手部分を克服します。
第5回	技術面の強化②(具体的な練習方法の習得)	技術的難所の様々な練習方法を学びます。効率の良い練習法を体得し、安定したテクニックを身に着けます。
第6回	音楽面・技術面のバランスを確認	現在の進捗状況を整理し、出来ている部分に磨きをかけ、出来ない部分は練習を継続して試験に臨みます。
第7回	授業のまとめ(1クォーター末試験)	これまで練習してきた曲を披露します。他の学生の演奏の講評も記入し、客観的な耳を養います。

クォーター末試験評価方法

出席25%(第1回～6回各3点、第7回のみ7点で計算。遅刻は-1。)平常点25%(受講態度、試験時の講評記入内容等)、試験50%の割合で評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1クォーターの反省及び練習計画の検討	1クォーター末試験講評まとめを確認、その内容や自身の反省に基づき、本番に向けての練習計画を練ります。
第2回	側面から作品を理解する	作品の成り立ちや作曲家について調べ、ピアノに向かう練習以外の視点から曲の理解を深めます。
第3回	「耳」を働かせた演奏～響きの調和～	ペダリングを検討。和声進行を理解し、響かせ方・歌わせ方の考え方を共有、統一感のある響きを目指します。
第4回	技術面の強化③～運指のチェック～	指使いの再確認を行います。楽譜の運指が合わない部分は無理をせず、自身の手合ったものを検討します。
第5回	音楽的な掘り下げ②～相手との絡み～	呼吸の合わせ方、フレーズの感じ方、cresc.dim.のタイミング等細かい部分が共有出来ているかを確認します。
第6回	音楽的な掘り下げ③～細部の確認～	アーティキュレーションの再確認し、アンサンブルの一体感を高め、完成度を上げていきます。
第7回	試験に向けて～ステージマナーの確認～	演奏とステージマナーの最終確認を行ないます。見た目にも美しい舞台になるよう仕上げていきます。
第8回	授業のまとめ(2クォーター末試験)	1クォーターから練習してきた曲の総仕上げ。他の学生の演奏の講評も記入し、客観的な耳を養います。

学期末試験評価方法

出席25%(第1回～7回各3点、第8回のみ4点で計算。遅刻は-1。)平常点25%(受講態度、試験時の講評記入内容等)、試験50%の割合で評価します。3・4両クォーターの平均が学年末評価となります。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	室内楽演習Ⅱ(伴奏法応用)	演習	実	大導寺錬太郎

科目概要

春学期で学んだアンサンブルのノウハウ、又コンサートでの舞台経験を活かし、新たな作品に挑戦します。異なるジャンルを学ぶ事でレパートリーが拡がり、様々なタイプのアンサンブルへの対応が可能になります。尚、講師は国内のコンクール審査員、PTNAステップのアドバイザーを担当、30回以上の発表会・勉強会の主催、リサイタル他の定期的な活動を行なう等、指導・演奏面での実務経験を持ちます。

到達目標

秋学期学んだ成果を3月実施予定のコンサートで披露します。春学期で培った練習方法やメンタル面の調整の仕方等を活かし、各自のレベルで1年間の集大成に相応しい演奏が出来る事が本授業の目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	読譜～作品の概要を把握する～	楽譜に書かれている様々な情報を確認し、また音源を聴き、曲の大まかな雰囲気をつかみます。
第2回	基本的事項の確認及び練習	確実に弾ける速度で、音・リズム等の確認をします。頭に入りにくい部分は何度も反復し覚えます。
第3回	音楽的な掘り下げ①～フレージング～	スラーの長さ等からどこからどこまでが1つのまとまりになっているかを読み解き、音楽の流れを理解します。
第4回	技術面の強化①～苦手な部分の確認～	技術的に難しい部分の練習を行いません。1フレーズ又は数小節の単位で確実に弾ける速度で反復し、苦手部分を把握します。
第5回	技術面の強化②(具体的な練習方法の習得)	技術的に難しい部分の様々な練習方法を学びます。効率の良い練習法を体得し、安定したテクニックを身に着けます。
第6回	音楽面・技術面のバランスを確認	試験に向け現段階で出来ている部分に磨きをかけます。曲全体を通し、俯瞰する事で現在の進捗状況を整理します。
第7回	授業のまとめ(3クォーター末試験)	これまで練習してきた曲を披露します。他の学生の演奏の講評も記入し、客観的な耳を養います。

クォーター末試験評価方法

出席25%(第1回～6回各3点、第7回のみ7点で計算。遅刻は-1。)平常点25%(受講態度、試験時の講評記入内容等)、試験50%の割合で評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	3クォーターの反省及び練習計画の検討	3クォーター末試験講評まとめを確認、その内容や自身の反省に基づき、本番に向けての練習計画を練ります。
第2回	側面から作品を理解する	作品の成り立ちや作曲家について調べ、ピアノに向かう練習以外の視点から曲の理解を深めます。
第3回	「耳」を働かせた演奏～響きの調和～	ペダリングを検討。和声進行を理解し、響かせ方・歌わせ方の考え方を共有、統一感のある響きを目指します。
第4回	技術面の強化③～運指のチェック～	指使いの再確認を行います。楽譜の運指が合わない部分は無理をせず、自身の手合ったものを検討します。
第5回	音楽的な掘り下げ②～相手との絡み～	呼吸の合わせ方、フレーズの感じ方、cresc.dim.のタイミング等細かい部分が共有出来ているかを確認します。
第6回	音楽的な掘り下げ③～細部の確認～	アーティキュレーションの再確認し、アンサンブルの一体感を高め、完成度を上げていきます。
第7回	試験に向けて～ステージマナーの確認～	演奏とステージマナーの最終確認を行いません。見た目にも美しい舞台になるよう仕上げていきます。
第8回	授業のまとめ(4クォーター末試験)	3クォーターから練習してきた曲の総仕上げ。他の学生の演奏の講評も記入し、客観的な耳を養います。

学期末試験評価方法

出席25%(第1回～7回各3点、第8回のみ4点で計算。遅刻は-1。)平常点25%(受講態度、試験時の講評記入内容等)、試験50%の割合で評価します。3・4両クォーターの平均が学年末評価となります。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	室内楽演習Ⅲ(室内楽)	演習	実	多 紗於里

科目概要

木管楽器・チェロとピアノによる三重奏のレパートリーを研究します。異なる楽器とのアンサンブルには様々なスキルが必要であります。セメスターを通して指定された曲目を合わせて仕上げます。尚、講師はピアノと管・弦楽器、パーカッションアンサンブル、ピアノアンサンブルなどの室内楽演奏と指導の実務経験を持ちます。

到達目標

授業はレッスンスタイルで進めていきます。高度なアンサンブルスキルを目指してピアノ学科コンサート「Infinity Ⅰ」に向けて準備し、演奏発表します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	打ち合わせ	今年度の内容と進行に関するミーティングを行います。今後のスケジュール、曲目確認とパートの配布を行います
第2回	初めての合わせ	指定された曲の合わせを始めます。チェロ、又は木管楽器とのチューニング方法などを確認します
第3回	合わせ1	合わせを続けます。チェロ、又は木管楽器の音程調整について学びます
第4回	合わせ2	合わせを続け、パートの確認も行います。チェロのボーイングに注目し、どのような音色変化が可能か聴き取ります
第5回	合わせ3	指使い、ペダリング、フレージングなどを確認します。ピアノパートのアーティキュレーションに注目します
第6回	合わせ4	アンサンブルのバランスに注目します。チェロ、又は木管楽器とのタイミング合わせについて学びます
第7回	試験	1Qのまとめ。これまで合わせた部分を確認し今後の課題を探し出します

クォーター末試験評価方法

出席と準備・パートの練習・アンサンブルスキル 100%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合わせ1	曲目の合わせを続けます。理想のテンポをに少しずつ近づけるようにします
第2回	合わせ2	ピアノパートのテクニカルな問題を解決できるようにします。ペダリングと指使いも確認します
第3回	合わせ3	曲の流れと内容に関して学びます。テンポ通りで合わせをできるか確認します
第4回	合わせ4	相手のパートを聴きながら弾けるか確認します。相手のアーティキュレーションに合わせられるようにします
第5回	合わせ5	相手のフレージング、ボーイング、ブレスのタイミングを聴き取れるか確認します
第6回	合わせ6	曲目を少しずつまとめて仕上げていきます。曲目の内容、表現と全体の流れを確認します
第7回	合わせ7	曲目の通しを行い、細かく仕上げていきます。アンサンブル、バランス、テンポの安定感などを確認します
第8回	試験	各グループの曲目を演奏し、全体のアンサンブルスキルを確認します

学期末試験評価方法

出席と準備・パートの練習・アンサンブルスキル 100%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	室内楽演習Ⅳ(室内楽)	演習	実	多 紗於里

科目概要

春学期のグループを入れ替えて木管楽器とチェロのトリオの研究深めます。セメスターを通して指定された新しい曲目を合わせて仕上げます。尚、講師はピアノと管・弦楽器、パーカッションアンサンブル、ピアノアンサンブルなどの室内楽演奏と指導の実務経験を持ちます。

到達目標

授業はレッスンスタイルで行います。学科コンサート「Infinity II」に向けて準備し、演奏発表します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	曲目の確認	グループの組み合わせと曲目の確認を行います。秋学期のスケジュール確認も行います
第2回	合わせ1	春学期と異なるアンサンブルで合わせを始めます。前期とどのような違いを感じるか考えてみます
第3回	合わせ2	パートの確認と問題点を探し出します。ピアノパートの練習法を学びます
第4回	合わせ3	指使い、ペダリング、フレージングなどを確認します。相手のフレージングに合わせられるか確認します
第5回	合わせ4	バランスとアンサンブルに注目します。音色、タッチ、音の長さなどが一致しているか確認します
第6回	合わせ5	相手のアーティキュレーションに注目します。ボーイング、ブレスのタイミングを意識しながら弾けるか確認します
第7回	試験	3Qのまとめ。秋学期の曲目がどの程度進んでいるかチェックします

クォーター末試験評価方法

出席と準備・パートの練習・アンサンブルスキル 100%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合わせ1	テンポ選びとアンサンブルスキルの確認を行います。理想的なテンポ選びについて考えます
第2回	合わせ2	相手のパートを聴きながら弾けるか確認します。相手の細かいパッセージに合わせられるか確認します
第3回	合わせ3	相手のアーティキュレーションを聴き取れるか確認します。ダイナミックスとバランスもチェックします
第4回	合わせ4	曲目を通して少しずつまとめていきます。曲目の内容を表現できているか確認します
第5回	合わせ5	テンポ通りの通しのトライアルをしてみて新たな問題点があるか確認します
第6回	合わせ6	曲目の仕上げ。曲目を通してアンサンブル全体のバランスと流れをチェックします
第7回	合わせ7	通しリハーサルを行います。ピアノパートの最終確認とステージに向けて準備します
第8回	試験	各グループの曲目を演奏し、アンサンブルスキルの確認をします。室内楽演奏のステージマナーも確認します

学期末試験評価方法

出席と準備・パートの練習・アンサンブルスキル 100%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	パイプオルガンゼミ I	演習	実	江尻 弘子

科目概要

講師のオルガンの編曲楽譜出版、パイプオルガニストへの編曲の提供活動等の実務経験に基づき、オルガン奏法を習得していきます。1クォーターでは、講義を中心に歴史、構造について、音や写真を参考にすすめます。2クォーターでは、オルガンに触れ、基礎的奏法から入ります。オルガニストマニュアルテキストから、抜粋したテキストを使用します。

到達目標

講義と実技に対する時間のバランスを考えて進めます。その中で、指の独立を習得し、声部を意識した四声体の演奏を目指します。そして、ペダリングにおいては、基礎から、テクニックをマスターしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	パイプオルガンとは	楽器の概要について、演奏を取り入れながら、音で感じてもらい、オルガンの世界の話をしていきます。
第2回	オルガンの成り立ち、種類について	オルガンの起源から、現在演奏されている実際の楽器の種類を、資料を見ながら説明していきます。
第3回	楽器の構造について	鍵盤の名称(国による違い)パイプの材質、種類など解説していきます。
第4回	パイプの概要 手鍵盤奏法1	パイプの形状と音の関係を理解します。テキストを元に、打鍵、離鍵、指の独立トレーニングをします。
第5回	足鍵盤(ペダル)について	ペダル記号、姿勢、奏法等を説明し体験をします。手鍵盤では、ドリルプリントを使用し四声体の習得をします。
第6回	オルガン奏法基礎	第3回に配布する試験曲、ラインハルトの中から課題曲の仕上げを目指します。
第7回	クォーター末試験(手鍵盤習得)	手鍵盤の課題曲2曲をバリオホールにて演奏します。

クォーター末試験評価方法

ラインハルト50番練習曲集より、テクニックのみえる選曲(コラールの要素、対位法的要素)2曲をバリオホールにて演奏します。評価は出席、授業への取り組み60%、実技試験40%と総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オルガンの時代背景 1	オルガン音楽独特の時代の分け方、ゴシック、ルネッサンスまで音を聞きながら考察していきます。
第2回	オルガンの時代背景 2	バロックからロマンティックを考察し、テキストよりアンサンブル体験をします。
第3回	パイプの種類について 1	フルー管のプリンツィパルグループ、フルートグループの説明をしていきます。
第4回	パイプの種類について 2	弦楽器グループ、リード管について楽器で音を出しながら、説明していきます。
第5回	ペダルトレーニング	パイプの復習をしながら、ペダルのドリルを使ってトレーニングしていきます。
第6回	試験課題曲の奏法確認	第3回から配布し、パート別奏法を習得したものをソロ演奏して仕上がるよう確認していきます。
第7回	春学期総括	春学期を通して学習したものを、試験に向けまとめしていきます。
第8回	期末試験	教室内で筆記試験、バリオホールにて足鍵盤付き楽曲を演奏します。

学期末試験評価方法

筆記試験は、授業で説明したことの理解度をみます。実技試験では、J. シュナイダーオルガン曲集より第2番を演奏。正しいペダリングの確認をします。評価は出席、授業への取り組み30%、筆記試験30%、実技試験40%と総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	パイプオルガンゼミ II	演習	実	江尻 弘子

科目概要

講師の実務経験、オルガンの編曲楽譜出版、パイプオルガニストへの編曲の提供活動に基づき、3クォーターでは、アメージンググレイスを題材に編曲体験、4クォーターでは、J. Sバッハの「8つの小プレリュードとフーガ」から第1番を演奏します。併せて音色の組み合わせも学習します。

到達目標

オルガン音楽を意識した編曲の実践、音色(ストップ)の組み合わせの自立を目指します。演奏面では、バッハの作品に触れ、バロックの奏法を習得します。また、教会のクリスマスで演奏される讃美歌の演奏もマスターします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アメージンググレイスを題材に	讃美歌の成り立ちの説明、いろいろな編曲のアメージンググレイスを分担奏し、内容を考察します。
第2回	対位的編曲	対位的編曲を説明し、参考曲を挙げ、弾きながら分析していきます。
第3回	和声的編曲	和声的編曲を説明し、参考曲を挙げ、弾きながら分析していきます。
第4回	編曲実践とクリスマス讃美歌	各自、編曲楽譜を作成していき、個人確認を行っていきます。
第5回	編曲と奏法 1	個別に確認しながら、編曲の完成を目指します。音色のイメージをつくりながら進めます。
第6回	編曲と奏法 2	編曲の完成と共に、クリスマス讃美歌の奏法を確認していきます。
第7回	クォーター末試験(自編曲の完成)	自編曲のアメージンググレイスとクリスマス讃美歌2曲をバリオホールにて演奏します。

クォーター末試験評価方法

実技試験にて、授業内容理解度を確認、楽譜提出により、併せて内容も確認します。バリオホールでの演奏は響きを感じながら、有名なクリスマス讃美歌の演奏もします。出席、授業への取り組み60%、実技試験40%で総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オルガンの形式について 1	作曲技法の基本とも言われるカノンを説明し、パツフェルベルのカノンをスコア見ながらアンサンブル体験
第2回	オルガンの形式について 2	バリエーション、プレリュード、フーガ、パッサカリア等、実際の曲に触れながら、学習します。
第3回	ドイツのオルガン音楽	北部、中部、南部に分け、オルガニストが多数生まれた経緯など、歴史を紐解き進めます。
第4回	フランスのオルガン音楽	ドイツとは対照的なフランスのオルガン、音源を聞き、テキストと照らし合わせ考察します。
第5回	プレリュードの奏法	テキストの課題曲、バッハのプレリュードの奏法を細かく説明
第6回	バッハの作品に使われる音色	ストップリストを見ながら、バッハの作品に特徴的な音色作りを学習していきます。
第7回	総括、試験曲確認	秋学期で学んだことの確認作業しながら、実技は個別確認していきます。
第8回	期末試験(バッハの作品を演奏)	教室内では、筆記試験、バリオホールにて課題曲演奏します。

学期末試験評価方法

教室内の筆記試験では、秋学期で学んだことの理解度をみます。バリオホールでの実技試験では、小さいながらもバッハの作品・・・「8つの小プレリュードとフーガ」より第1番を演奏します。評価は、出席、授業への取り組み30%、筆記試験30%、実技試験40%と総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	パイプオルガンゼミ Ⅲ	演習	実	江尻 弘子

科目概要

講師のチャペルオルガニスト指導経験及び1000組以上の挙式での演奏経験に基づき、実際に使用する楽曲を取り上げ、進行に従っての演奏体験をします。2クォーターでは、テキスト中心に曲を弾きながら、ストップの考察、コラール作品にも触れ、演奏します。

到達目標

実践で使える演奏力を付けることを目標に、音色作りの自立も目指します。チャペルウエディングでの演奏は、応用力も身に付け、デビューが出来るまで、もっていきたいと考えています。いずれも毎回の授業に変化があり、出席が非常に重要になります。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	チャペルウエディングの現状	日本のブライダル事情について、現状のお話しをします。キリスト教式、人前式など。
第2回	挙式のDVD鑑賞	講師の演奏によるキリスト教式のDVDを鑑賞し、式次第による選曲についての解説をします。
第3回	迎賓から入場曲	アヴェ・ヴェルム・コルプス、ワーグナーの婚礼の合唱を取り上げ、奏法を分析、解説します。
第4回	讃美歌、アヴェマリア	讃美歌より、合唱、ソリストの伴奏法について学びます。
第5回	結婚行進曲	歩幅に合わせた、演奏のタイミング、エンディングの合わせ方、即興力をつける学習をします。
第6回	挙式の流れに沿って	全5曲を、流れに沿って演奏していきます。実際に必要な応用力など身に付けていきます。
第7回	クォーター末試験(5曲マスター)	バリオホールにて、他の学生に新郎新婦を想定し、実際に歩いてもらい、本番さながらの演奏をします。

クォーター末試験評価方法

挙式の流れに沿って5曲演奏しますが、併せて終止の奏法、歌伴奏のタイミングなども、みていきます。評価は、出席、授業への取り組み60%、実技試験40%と総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽譜から読み取るアーティキュレーション	オルガン奏法で使われるアーティキュレーションの研究、テキストより選曲して実践します。
第2回	コラールの成り立ち	歌うコラールとオルガンコラールとの違い、バッハ、ブームスを取り上げ、比較、考察します。
第3回	ブームスのコラール第8番を題材に	単旋律から、四声体、そしてオルガンコラールに変化していく経緯を紐解いていきます。
第4回	テキストからの奏法実践 1	オルガン独特のテクニックが必要な曲を、ピックアップし奏法実践していきます。
第5回	テキストからの奏法実践 2	ペダルのレガート奏法、ロマンティックなオルガンで使われるトゥヒールの実践をします。
第6回	コラール第8番 奏法、確認	試験課題曲、テキストよりのブームスコラール「一輪のバラに咲きて」完成を目指します。
第7回	ストップの組み合わせ	テキストより選曲した、各時代、国の作品を考察していきます。指示されてあるものも、組み合わせせていきます。
第8回	春学期末試験(コラール体験)	課題曲 ブームスコラール「一輪のバラに咲きて」をバリオホールにて演奏します。

学期末試験評価方法

このクォーターでは、授業内で数多くの曲を演奏していますので、バリオホールでの課題曲の演奏もさることながら、出席、授業への取り組みが重要です。評価は、出席、授業への取り組み60%、実技試験40%で、総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	パイプオルガンゼミⅣ	演習	実	江尻 弘子

科目概要

講師のチャペルオルガニスト指導経験及び1000組以上の挙式での演奏経験に基づき、1、2クォーターで学んだ実践の演奏法をよりステップアップし、完成度の高い演奏を目指します。バロック時代の通奏低音の知識、そして知名度、作品完成度の高い小フーガ短調の演奏、2年間使用したオルガンテキストから、任意の曲が、レパートリーとなるような演奏を目指します。

到達目標

オルガン音楽の中でも、名曲と言われる、バッハの小フーガ短調に挑戦し、フーガ演奏の醍醐味を味わいつつ、弾き込めるよう、目指していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フーガとは	フーガの説明後、テキストの楽譜を見ながら、各声部を織りなす主題の印付けをしながらアナリーゼしていきます。
第2回	楽曲アナリーゼ 1	主題の奏法を意識し、アーティキュレーションの分析をしていきます。
第3回	楽曲アナリーゼ 2	各パートを分担奏しながら、指使い、手鍵盤の声部を意識して演奏。ペダリングの確認をします。
第4回	装飾について	トリル、モルデント、シュライファーの奏法について、テキストの楽曲を取り出し、考察します。
第5回	単声部から複声部へ	パート別に確認しながら、声部を増やし、分担奏から全体をつくっていきます。
第6回	独奏にて確認	小節を区切りながら、ソロ演奏を仕上げしていきます。
第7回	クォーター末試験(小フーガ演奏)	バリオホールにて、J. Sバッハの小フーガ短調 BWV578を演奏します。

クォーター末試験評価方法

難易度の高い楽曲への挑戦ですが、演奏レベルが上がっていることを目指します。楽曲への理解度、ステージでの立ち振る舞い(ステージマナー)も含め評価します。出席、授業への取り組み60%、実技試験40%で、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	通奏低音とは	ヴィバルディ四季より冬を、スコア見ながら、通奏低音の即興的要素を聞き比べします。
第2回	通奏低音体験 1	数字付き低音に和音をつけていきます。モーツァルトのレクイエムを題材に通奏低音の体験をします。
第3回	通奏低音体験 2	テキストの曲を題材に和音付けをし、即興的要素を織り交ぜながら、仕上げしていきます。
第4回	任意の試験曲、選曲	2年間学んだテキストから、4曲選曲し、アンサンブル演奏をし、その中から各自選曲していきます。
第5回	讃美歌の成り立ち	讃美歌のできるまでの歴史、時代背景を考察していきます。各国の特徴など讃美歌集からみていきます。
第6回	讃美歌の奏法	各声部の捉え方、前奏、後奏の奏法を、テキストから取り出し、演奏体験します。
第7回	1年間の総まとめ	筆記試験に向け、学習内容の確認、個々の演奏曲の確認をします。
第8回	秋学期末試験(レパートリーの確立)	教室内では、筆記試験、バリオホールにて任意の曲を演奏します。

学期末試験評価方法

筆記試験では、1年間を通して学習してきた内容を確認、理解度をみます。実技試験では、集大成と成り得る完成度を目指し、将来のレパートリーとして、楽曲に触れる際、分析をするという習慣も併せて身に付け、ホールの響き、音の鳴り方も意識出来るようにします。評価は出席、授業への取り組み30%、筆記試験30%、実技試験40%と総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	バロック音楽ゼミⅡ	演習	実	大木 和音

科目概要

バロックと言われる時代の音楽や文化的背景について、学んでいきます。また授業の後半では、各回ともチェンバロ・レッスン時間を設け、バッハを始めとする作品を弾いてもらいます。尚、講師はanaレコーズに所属、バロックから近代スペイン音楽まで幅広いレパートリーを持ち、計5枚のアルバムをリリース。またDSD11.2MHzによる公開ライブ・レコーディング(@スパイラルホール)にも出演し、OTOTOYサイト配信中です。

到達目標

チェンバロの響きを楽しみながら演奏すること、装飾音も音楽の流れに乗せて美しく鳴らせることなどを目指し、各自の専攻楽器でバロック作品を弾く時のイメージの糧にもなることを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロックとは	いつ頃の音楽のことなのか、どんな時代だったのか…など、イメージしていきます。
第2回	チェンバロについて	チェンバロを囲んでもらい、音の出るしくみ、様々なストップ、二段鍵盤について…など説明し、出合ってもらいます。
第3回	J.S.バッハとその息子たち	J.S.バッハ、息子たちの作品を鑑賞したり、彼らの生きたドイツ各地の映像などを見ながらイメージします。
第4回	当時の様々な鍵盤楽器について	この時代に流行していた色々な鍵盤楽器について、説明や鑑賞、楽器も描いたフェルメールの絵画も鑑賞しましょう。
第5回	組曲について その1	まずは馴染み深い「メヌエット」や「ガヴョット」などについて楽譜を見ながら鑑賞。バロック・ダンスの映像も観ます。
第6回	組曲について その2	「アルマンド」「クーラント」「サラバンド」「ジグ」といった基本の舞曲について学び、鑑賞します。
第7回	クォーター末試験	J.S.バッハまたはC.Ph.E.バッハの短い作品を演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

クォーター末試験評価方法

リズム良く良い流れで演奏できているか、自分の音をよく聴きながら演奏しているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	イタリアのバロック	今クォーターは、イタリアの作品について学びます。まずは、イタリアのイメージを探るため様々な写真や映像を観ていきます。
第2回	バッハとイタリア趣味	バッハによるヴィヴァルディを始めとする協奏曲の編曲、そして独自の「イタリア協奏曲」作曲に至るまで。
第3回	ヴィヴァルディ「四季」	音楽に添えられた詩と照らし合わせ、スコアを見ながら鑑賞します。
第4回	ラ・フォリア	A.コレツリを始めとする様々な作曲家の「フォリア」を聴き比べます。
第5回	即興演奏、装飾音について	コレツリのヴァイオリン・ソナタを用い、記されているメロディと装飾譜の双方を比べて、当時の演奏の「コマ」に思いを馳せませす。
第6回	トリオ・ソナタについて	トリオについて、またバッハによるオブリガート・チェンバロによる二重奏や、オルガンのためのトリオ・ソナタなどの意義。
第7回	スカルラッチェのチェンバロ・ソナタ	ナポリ生まれの大家・スカルラッチェについて、ギター音楽とのつながり等についても触れながら学習していきます。
第8回	クォーター末試験	D.スカルラッチェのソナタ集・課題より選択した曲を演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

学期末試験評価方法

スカルラッチェ独特の和声を味わいながら弾いているか、リズムをしっかり感じて弾いているか、装飾音は音楽的に奏でられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	バロック音楽ゼミⅡ	演習	実	大木 和音

科目概要

第3クォーターでは、ヴェルサイユ宮殿で栄えたフランスの作品を学びます。第4クォーターは、声楽曲や管弦楽作品へも広げ、総合的に学びます。チェンバロ・レッスンも継続して行います。尚、講師はanaレコーズに所属、バロックから近代スペイン音楽まで幅広いレパートリーを持ち、計5枚のアルバムをリリース。またDSD11.2MHzによる公開ライブ・レコーディング(@スパイラルホール)にも出演し、OTOTOYサイト配信中です。

到達目標

チェンバロの響きを楽しみながら演奏すること、装飾音も音楽の流れに乗せて美しく鳴らせることなどを目指し、各自の専攻楽器でバロック作品を弾く時のイメージの糧にもなることを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クラヴサン(仏:チェンバロ)について	パリの工房で撮影してきた数々のクラヴサンや、ピアノの写真を見てもらい、フレンチ・バロックの導入とします。
第2回	華やかなフランス宮廷文化	この時代の文化の中心・ヴェルサイユ宮殿について、映像や撮影した写真などを鑑賞し、音楽の背景をイメージします。
第3回	ヴェルサイユ	「マリー・アントワネット」「めぐり逢う朝」映画の一部を鑑賞しながら、宮殿の雰囲気、音楽などをイメージしていきます。
第4回	プレリュード・ノン・ムジュレ	ルイ・クーブランやダンゲルベールなどの作品に出てくる、小節線のないプレリュードについて。
第5回	F.クーブラン：クラヴサン奏法	クーブランの書いた演奏法や装飾音について、またクーブランの文面から読み取れる当時の音楽事情について考察します。
第6回	J-Ph.ラモー：クラヴサン曲集	ラモーの書き記した文章を読みながら、演奏法や装飾音、また演奏における注意点なども考察し、オペラの一部も鑑賞します。
第7回	クォーター末試験	ラモー：クラヴサン曲集より、一曲選んで演奏してもらいます。

クォーター末試験評価方法

良い流れで演奏できているか、ラモー独特の装飾音も音楽に溶け込ませながら演奏できているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら、採点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロックの歌唱	カッチーニ「アマリツリ麗し」様々な演奏を聴きながら、歌唱と通奏低音との表現を探ります。
第2回	レチタティーヴォとアリア	ヘンデルの作品を題材に、歌詞と密なチェンバロの表現について触れていきます。
第3回	バッハ/カンタータ	父と娘の他愛ないやりとりが繰り上げられる「コーヒーカンタータ」を題材に、スコアを見ながら鑑賞していきます。
第4回	バッハ/ブランデンブルク協奏曲	様々な楽器が活躍する「ブランデンブルク協奏曲」をスコアを見ながら鑑賞。バッハの見事な手法に触れます。
第5回	バッハ/管弦楽組曲	「管弦楽組曲」をスコアを見ながら聴きます。各声部の緻密な絡み、各舞曲の様式感を感じ取ります。
第6回	バッハの管弦楽作品とチェンバロ舞曲	管弦楽で聴いたバッハの舞曲のように、スケール大きくチェンバロ演奏にも生かせないかを考えていきます。
第7回	試験に向けて	最終試験を目前にレッスンに集中し、最後の仕上げに入ります。
第8回	クォーター末試験	ヘンデルの組曲より、指定された曲から一曲選んで演奏してもらいます。

学期末試験評価方法

各舞曲の特性をつかんで演奏できているか、楽器をしっかり鳴り響かせているか、装飾音は音楽的に奏でられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	バロック音楽ゼミⅢ	演習	実	大木 和音

科目概要

バロック音楽ゼミⅢ・Ⅳでは、一年を通じてチェンバロ実技に集中し、この楽器をより美しく楽しく弾けることを目指していきます。

尚、講師はanaレコーズに所属、バロックから近代スペイン音楽まで幅広いレパートリーを持ち、計5枚のアルバムをリリース。またDSD11.2MHzによる公開ライブ・レコーディング(@スパイラルホール)にも出演し、OTOTOYサイト配信中です。

到達目標

チェンバロを豊かに鳴らして演奏する、作曲家によって異なる独自の装飾音を音楽的に演奏する、音楽を自然な流れで演奏する…などを目標とし、専攻するピアノやエレクトーンでバロックの作品を演奏するときのイメージーションにも役立てられるようにします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	チェンバロについて	前年度にゼミⅡを受講していなかった学生、また二年目の学生には復習も兼ねて、楽器を囲んで、仕組み等お話しします。
第2回	試験曲について	B.ガルツピ:ソナタ 映像、文献などから、作曲家の背景を考察します。課題曲数曲を配布。取り組みたい曲を選びます。
第3回	試験曲決定とレッスン	B.ガルツピ:ソナタ 各自練習時間を設けた後、レッスンを開始します。
第4回	試験曲レッスン	B.ガルツピ:ソナタ 二段鍵盤の使い分けによる音色、カブラーなども考えます。
第5回	試験曲レッスン	B.ガルツピ:ソナタ ストップ、上下鍵盤の使い方なども具体化していきます。
第6回	試験曲レッスン	B.ガルツピ:ソナタ 試験に向けて仕上げに入ります。
第7回	クォーター末試験	各自選んだ楽章を皆の前で、順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って、演奏してください。

クォーター末試験評価方法

音楽を理解して楽しみながら演奏できているか、音楽は自然に流れているか、チェンバロの音はしっかりと鳴らせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	試験曲について	J.S.バッハについて、フランス組曲について考察します。試験課題曲数曲を配布、取り組みたい曲を考えます。
第2回	試験曲決定とレッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より 各自練習時間を設けた後、レッスンを開始します。
第3回	試験曲レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より アルマンド、クーラント等舞曲の特徴を確認します。
第4回	試験曲レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より アーティキュレーションなども考えていきます。
第5回	試験曲レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より カブラー、ストップなども具体的に決めていきます。
第6回	試験レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より 音楽の流れ、テンポ等の確認もします。
第7回	試験レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より 試験目前となるので、仕上げに入ります。
第8回	クォーター末試験	選んだ舞曲を、順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

学期末試験評価方法

舞曲のキャラクターをつかんで演奏しているか、バッハの装飾音が音楽的に奏でられているか、チェンバロの音をしっかりと響かせられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	バロック音楽ゼミⅣ	演習	実	大木 和音

科目概要

第3クォーターでは、ヴェルサイユ宮殿時代のフランス作品を演奏していきます。第4クォーターでは、各自が希望した曲を、演奏してもらい締めくくります。

尚、講師はanaレコーズに所属、バロックから近代スペイン音楽まで幅広いレパートリーを持ち、計5枚のアルバムをリリース。またDSD11.2MHzによる公開ライブ・レコーディング(@スパイラルホール)にも出演し、OTOTOYサイト配信中です。

到達目標

チェンバロを豊かに鳴らして演奏する、作曲家によって異なる独自の装飾音を音楽的に演奏する、音楽を自然な流れで演奏する…等を目指し、専攻するピアノやエレクトーンでバロックの作品を演奏するときのイメージにも役立てられるようにします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	試験曲について	フランスのバロック時代について映像や写真、絵画などからイメージを膨らませます。課題曲を配布、次週までに選びます。
第2回	試験曲決定とレッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン:クラヴサン曲集よりそれぞれの作曲家の装飾音表や序文を読み、準備をします。
第3回	試験曲レッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン 曲の構成、アーティキュレーションなどみていきます。
第4回	試験曲レッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン 曲の雰囲気を考え、音楽が自然に流れるよう弾きこみます。
第5回	試験曲レッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン 曲の雰囲気を考え、音楽が自然に流れるよう弾きこみます。
第6回	試験曲レッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン フレンチならではの装飾音を美しく、薫るような音色を目標に。
第7回	クォーター末試験	選んだ曲を順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

クォーター末試験評価方法

音楽を理解し楽しみながら演奏できているか、装飾音は音楽に自然に溶け込ませられているか、チェンバロは豊かに鳴り響かせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	試験曲について	各自演奏してみたい曲(2ページ程度)を持参・提示し確認します。課題が思いつかない学生には、こちらで楽譜を配布します。
第2回	各自の試験曲決定とレッスン	各々の選んだ作品の楽譜は全員に配ります。他の人の選んだ曲も、大切なレパートリーとして、聴講しながら学びます。
第3回	試験曲レッスン	リズム、音、装飾音の弾き方など注意を払って取り組みます。
第4回	試験曲レッスン	装飾音は音楽を彩るように、またレジストレーションなども考えていきます。
第5回	試験曲レッスン	曲のキャラクターや雰囲気を考えながら、曲を身体に覚えこませます。
第6回	試験曲レッスン	楽器をしっかりと鳴らせるように、呼吸を使って耳を使って練習。美しい音を出せることを考えます。
第7回	試験曲レッスン	試験目前の最終確認、曲の完成を目指します。
第8回	クォーター末試験	選んだ曲を順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

学期末試験評価方法

音楽を理解し、楽しみながら演奏できているか、装飾音は音楽的に奏でられているか、チェンバロの音は美しく鳴らせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	現代音楽演奏ゼミ I	演習	実	中村和枝

科目概要

「現代音楽」と聞くと自分からは遠い音楽と思われがちですが、今を生活している私たちに最も近い音楽が「現代の音楽」です。今まで学んできたクラシック音楽を基礎として、更に、既存の常識にとらわれない、○や△で書かれた楽譜を解読したり、鍵盤だけでなくピアノの内部を触って美しい音を奏でたり。好奇心を拡げ、心と身体を開放する「新しい音楽」の習得を目標としています。尚、講師は、これまでに現代作品の世界初演と再演を200曲以上行ってきた実務経験を持ちます。

到達目標

春学期では先ず、様々なタイプの現代ピアノ作品を聴き、未知の世界に触れることをテーマとしています。新しい音楽の世界に興味を持ってチャレンジする冒険心や、それを音楽で表現する積極性を伸ばすための「読譜力」を養います。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	現代の音楽について	西洋音楽史の中で、どのように現代音楽が発生してきたのか。「現代の音楽」とは何なのか。その概要を説明します。
第2回	様々な記譜法	ハンガリーの作曲家ジョルジ・クルタークのピアノ曲集「遊び」の中から、様々な新しい記譜法を学び実践します。
第3回	特殊奏法の実践・内部奏法1	ヘンリー・カウエルのピアノ曲「エオリアン・ハーブ」を教材にして、ピアノの内部を演奏する「内部奏法」を学びます。
第4回	特殊奏法の実践・内部奏法2	内部奏法のためのプレパレーション(準備)を学び、演奏を行います。ピアノに負担を掛けずに美しい音を出す方法を学びます。
第5回	特殊奏法の実践・トーンクラスター1	ヘンリー・カウエルのピアノ曲「マノウンの潮流」を教材にして、トーンクラスター奏法などの特殊奏法を学びます。
第6回	特殊奏法の実践・トーンクラスター2	特殊奏法を美しい音で弾くことを目標として、演奏として曲を仕上げます。作品の持つイメージを音にできるよう研鑽します。
第7回	演奏発表試験	1クォーターで学習した曲からそれぞれが課題曲を選曲し、コンサート形式で演奏発表します。

クォーター末試験評価方法

新しく学ぶ様々なことに興味を持ち、楽しんで積極的に挑戦す姿勢を特に評価します。出席50% (遅刻・欠席は減点)、演奏の習熟度50%の割合で評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	12音音楽について1	主にウイーンで1900年台初頭に始められた12音音楽についての概要の説明と楽曲の紹介をします。
第2回	12音音楽について2	ウェーベルン作曲「子供のための小品」を教材に、12音音楽の楽曲分析を行います。
第3回	12音音楽について3	「子供のための小品」を教材に、リズム、アーティキュレーションなどについて学び、実際に曲を演奏します。
第4回	図形楽譜の譜読みと演習1	5線譜に書かれた音符ではなく、様々な図形によって表記された図形楽譜の曲を紹介し、見分を上げます。
第5回	図形楽譜の譜読みと演習2	ラッヘンマン作曲「グエロ」を教材に、楽譜の解読、奏法について学びます。
第6回	図形楽譜の譜読みと演習3	エンリケ作曲「1×4(1台、または2台のピアノのための)」を教材に、楽譜の解読、奏法について学びます。
第7回	図形楽譜の譜読みと演習4	エンリケ作曲「1×4(1台、または2台のピアノのための)」を教材に、2台ピアノでの演奏を研鑽します。
第8回	演奏発表試験	2クォーターで学習した曲からそれぞれが課題曲を選曲し、コンサート形式で演奏発表します。

学期末試験評価方法

新しく学ぶ様々なことに興味を持ち、楽しんで積極的に挑戦す姿勢と共に、演奏発表ではそれぞれが独自の表現力を加味する演奏になっているかを評価のポイントにします。出席50% (遅刻・欠席は減点)、演奏の習熟度50%の割合で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	現代音楽演奏ゼミⅡ	演習	実	中村和枝

科目概要

春学期で学んだことを基礎にして、ミニマルミュージックや、日本人作曲家のピアノ作品等、現代の様々なピアノ作品についての知識と見聞を拓げます。未知の音楽や楽譜に取り組むことにより、読譜力を高め表現の幅を広げます。尚、講師は、日欧の現代音楽ピアノコンクールの優勝経験を有し、これまでに現代作品の世界初演と再演を200曲以上行ってきた実務経験を持ちます。

到達目標

更に様々な現代の音楽の世界を知り、自分の個性と感性に合った曲を見つけレパートリーにすることが秋学期の到達目標です。初めて目にする楽譜について、先ずはその特徴を的確に捉える習慣を身につけ、確かな表現能力を養うことを目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ミニマルミュージックとは何か	ミニマルミュージックについての説明と作品の紹介をして、新しい音楽の形式を知ること、感性の幅を広げます。
第2回	ミニマルミュージック演習1	ライヒ作曲「クラッピング・ミュージック」「ピアノ・フェーズ」の楽譜を解説し、演習します。
第3回	ミニマルミュージック演習2	ミニマルミュージックを実際に演奏・アンサンブルします。
第4回	日本人作曲家の作品を聴く	多くの優れた日本人作曲家のピアノ作品を紹介します。
第5回	日本人作曲家のピアノ作品1	湯浅譲二のピアノ作品「ドのうた」の譜読みと演習を行います。
第6回	日本人作曲家のピアノ作品2	前回の授業で行った譜読みをもとに、演習を行います。
第7回	演奏発表試験	3クォーターで学習した曲からそれぞれが課題曲を選曲し、コンサート形式で演奏発表します。

クォーター末試験評価方法

ミニマルミュージックではポップな感性を、湯浅譲二作品では身近な心情を、いずれも現在の中身に存在するであろうフィーリングを表現することが評価のポイントです。出席50%(遅刻・欠席は減点)、演奏の習熟度50%の割合で評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	日本人作曲家のピアノ作品3	西村朗のピアノ作品「星の鏡」の譜読みと演習を行います。先ずは楽器を弾かずに譜読みをすることにより、作品の特徴を捉えます。
第2回	日本人作曲家のピアノ作品4	前回の授業で行った譜読みをもとに、演習を行います。
第3回	日本人作曲家のピアノ作品5	武満徹のピアノ作品「リタニ」の譜読みと演習を行います。先ずは楽器を弾かずに譜読みをすることにより、作品の特徴を捉えます。
第4回	日本人作曲家のピアノ作品6	前回の授業で行った譜読みをもとに、演習を行います。
第5回	日本人作曲家のピアノ作品7	前回の授業で行った譜読みをもとに、演習を深めます。
第6回	一年のまとめと試験曲の演習	一年間で学んだ作品を振り返り、それぞれが自分の感性に合った作品を学期末試験曲として選曲します。
第7回	試験曲の演習	それぞれの選曲した課題曲を演習します。
第8回	演奏発表試験	コンサート形式で演奏発表します。他の人の演奏を聴くことによって、自分の個性についても考えます。

学期末試験評価方法

常に好奇心を持って学ぶ姿勢、新しい音楽の読譜力、それを実際にピアノで演奏する集中力が一年間でどのように身についたかを評価します。出席50%(遅刻・欠席は減点)、演奏の習熟度50%の割合で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	現代音楽演奏ゼミⅢ	演習	実	中村和枝

科目概要

現代音楽演奏ゼミⅠ・Ⅱで学んだ知識と読譜力をもとに、春学期では現代ピアノ作品の最高峰でもあるオリヴィエ・メシアン作品を軸に演奏能力を高めます。グループレッスン形式で多くの曲に触れることにより、将来のレパートリー作りにつながる研鑽を積みます。尚、講師は、日欧の現代音楽ピアノコンクール優勝経験を有し、これまでに現代作品の世界初演と再演を200曲以上行ってきた実務経験を持ちます。

到達目標

難解に思えるメシアン音楽の中に存在する、同時代性の確認と認識。どのように曲が構成されているかを理解し、自分自身の生き生きとした感性を掘り起こし、積極的に表現するための練習方法を身に着けるのが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	現代のピアノ作品を聴く	現代ピアノ作品の最高峰といわれる数々のピアノ作品の音源と楽譜を紹介し、見聞を広げます。
第2回	メシアン作品1	メシアン作品を紹介し、楽譜を見ながら音源を聴き、自分の課題とする作品を選曲します。
第3回	メシアン作品2	メシアン作曲「幼子イエズスにそそぐ20の眼差し」より「星の眼差し」教材に、音楽の特徴を考え、音の構成やリズム等を譜読みします。
第4回	メシアン作品3	メシアン作曲「4つのリズムエチュード」より「火の島1」教材に、音楽の特徴を考え、音の構成やリズム等を譜読みします。
第5回	メシアン作品4	メシアン作曲「幼子イエズスにそそぐ20の眼差し」より「星の眼差し」教材に、実際に演奏して研鑽します。
第6回	メシアン作品5	メシアン作曲「4つのリズムエチュード」より「火の島1」教材に、実際に演奏して研鑽します。
第7回	演奏発表試験	1クォーターで学習した曲からそれぞれが課題曲を選曲し、コンサート形式で演奏発表します。

クォーター末試験評価方法

メシアン作曲構造についての理解度。未知の音楽に積極的に挑戦する姿勢と共に、クラスの人研鑽する音楽にも興味を持ち共に学ぶ姿勢を評価します。出席50%（遅刻・欠席は減点）、演奏の習熟度50%の割合で評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メシアン作品2-1	メシアン作曲「前奏曲集」の音源を聴き楽譜を考察します。
第2回	メシアン作品2-2	各自課題とする作品を選曲し、楽曲の特徴を理解し、譜読み演奏を開始します。
第3回	メシアン作品2-3	前回に引き続き、譜読み演奏を進めます。
第4回	メシアン作品2-4	実際の演奏を通して曲の理解を深めます。
第5回	メシアン作品2-5	前回に引き続き、演奏の習熟を目指します。
第6回	学期末試験に向けて	1、2クォーターで学習した曲からそれぞれが課題曲を選曲し、グループレッスン形式で演習をします。
第7回	学期末試験に向けて	更に仕上げを目指して演習を続けます。
第8回	演奏発表試験	各自の課題曲をコンサート形式で演奏発表します。

学期末試験評価方法

1、2クォーターを通して取り組んだメシアン作品についての理解度、演奏への積極性を評価します。出席50%（遅刻・欠席は減点）、演奏の習熟度50%の割合で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	現代音楽演奏ゼミⅣ	演習	実	中村和枝

科目概要

春学期で学んだ知識と読譜力をもとに、ブーレーズ作曲「12の音」の演習を行います。全曲12小節で完結する小品集から前衛音楽のエッセンスを学び、演奏能力を養います。尚、講師は、日欧の現代音楽ピアノコンクール優勝経験を有し、これまでに現代作品の世界初演と再演を200曲以上行ってきた実務経験を持ちます。

到達目標

未知のものに興味を持ち自分の力で掘り下げる能力を伸ばし、今後社会に出て音楽の仕事に携わる際に役立つスキルを身に着けることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ブーレーズ作曲「12の音」作品紹介	楽譜を見ながら音源を聴き、作品全体に共通する特徴について考察します。
第2回	ブーレーズ作曲「12の音」演習1	「12の音」第1番の譜読みと演習を行います。
第3回	ブーレーズ作曲「12の音」演習2	「12の音」第2番の譜読みと演習を行います。
第4回	ブーレーズ作曲「12の音」演習3	「12の音」第3番の譜読みと演習を行います。
第5回	ブーレーズ作曲「12の音」演習4	「12の音」第4番の譜読みと演習を行います。
第6回	ブーレーズ作曲「12の音」演習5	「12の音」第5番の譜読みと演習を行います。
第7回	ブーレーズ作曲「12の音」演習6	「12の音」第6番の譜読みと演習を行います。

クォーター末試験評価方法

作品についての理解度と積極的に取り組む姿勢を評価します。出席50%（遅刻・欠席は減点）、演奏の習熟度50%の割合で評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ブーレーズ作曲「12の音」演習7	「12の音」第7番の譜読みと演習を行います。
第2回	ブーレーズ作曲「12の音」演習8	「12の音」第8番の譜読みと演習を行います。
第3回	ブーレーズ作曲「12の音」演習9	「12の音」第9番の譜読みと演習を行います。
第4回	ブーレーズ作曲「12の音」演習10	「12の音」第10番の譜読みと演習を行います。
第5回	ブーレーズ作曲「12の音」演習11	「12の音」第11番の譜読みと演習を行います。
第6回	ブーレーズ作曲「12の音」演習12	「12の音」第12番の譜読みと演習を行います。
第7回	ブーレーズ作曲「12の音」演習まとめ	3, 4クォーターで学んだ作品から各自で選曲し、学期末試験に向けて仕上げの演習を行います。
第8回	演奏発表試験	各自の課題曲をコンサート形式で演奏発表します。

学期末試験評価方法

一年間の授業で得た知識と感性を生かした演奏に仕上げることが出来るか。未知の音楽に対して誠実に積極的に向き合う姿勢を評価のポイントとします。出席50%（遅刻・欠席は減点）、演奏の習熟度50%の割合で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	外部グレード講座(演奏) I	演習	実	土屋淑子

科目概要

ヤマハなど、大手音楽教室のグレードは、例えて言うなら英検や漢検などの検定試験の音楽版と思っていいでしょう。直接、大手音楽教室の講師にならないまでも、個人教室を開設したい場合に、こうしたグレードは大きな説得力につながります。ある種のパターンを学んでいくことで、確実にグレード取得できる力をつけていきます。尚、講師はBLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、コンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。ヤマハ目黒センター財団本部でのシステム講師、学習者グレードの審査員経験を持ちます。

到達目標

C-durで確実に(b)即興のパターンを身につける。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	ヤマハグレードとは
第2回	(b)即興とは	(b)即興のスタイルを学ぶ
第3回	カデンツとは	カデンツのベースラインとパターン
第4回	小テスト	カデンツ
第5回	(b)即興の最初の8小節①	最初の8小節のパターンを学ぶ①
第6回	(b)即興の最初の8小節②	最初の8小節のパターンを学ぶ②
第7回	クォーター末試験	1クォーターのまとめ

クォーター末試験評価方法

出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	(b)即興のB部分のコード進行①	B部分の8小節の作り方①
第2回	(b)即興のB部分のコード進行②	B部分の8小節の作り方②
第3回	(b)即興のB部分のコード進行③	B部分の8小節の作り方③
第4回	小テスト	今までのまとめ
第5回	(b)即興を24小節で完成させる①	モチーフ課題①
第6回	(b)即興を24小節で完成させる②	モチーフ課題②
第7回	(b)即興を24小節で完成させる③	モチーフ課題③
第8回	学期末試験	春学期のまとめ

学期末試験評価方法

授業で扱ったグレード即興力が総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	外部グレード講座(演奏)Ⅱ	演習	実	土屋淑子

科目概要

いわゆるグレード即興は、ある一定のスタイルを学ぶことで応用力が身につきます。秋学期では、さらにいろいろな調(♯、♭×1までの長調、短調)で様々な課題に取り組みます。尚、講師はBLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、コンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。ヤマハ目黒センター財団本部でのシステム講師、学習者グレードの審査員経験を持ちます。

到達目標

♯、♭×1までの長調、短調＝6つの調で確実に(b)即興のパターンを身につける。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	カデンツ①	C-dur、a-moll
第2回	カデンツ②	G-dur、e-moll
第3回	カデンツ③	F-dur、d-moll
第4回	小テスト	今までのまとめ
第5回	モチーフ課題①	(b)即興のA部分8小節①
第6回	モチーフ課題②	(b)即興のA部分8小節②
第7回	クォーター末試験	1クォーターのまとめ

クォーター末試験評価方法

出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	(b)即興のB部分のコード進行①	C-dur、a-moll
第2回	(b)即興のB部分のコード進行②	G-dur、e-moll
第3回	(b)即興のB部分のコード進行③	F-dur、d-moll
第4回	小テスト	今までのまとめ
第5回	(b)即興を24小節で完成させる①	モチーフ課題① C-dur、a-moll
第6回	(b)即興を24小節で完成させる②	モチーフ課題② G-dur、e-moll
第7回	(b)即興を24小節で完成させる③	モチーフ課題③ F-dur、d-moll
第8回	学期末試験	秋学期のまとめ

学期末試験評価方法

授業で扱ったグレード即興力が総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	外部グレード講座(演奏)Ⅲ	演習	実	土屋淑子

科目概要
外部グレード、主にヤマハグレード対策の授業です。特に、グレード即興は通常に想像する即興と少し違って、グレード用のある一定のパターンを学ぶ必要があります。今期は、主に(a)即興について学んでいきます。尚、講師はBLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、コンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。ヤマハ目黒センター財団本部でのシステム講師、学習者グレードの審査員経験を持ちます。
到達目標
C-durで確実に(a)即興のパターンを身につける。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	(a)即興とは>
第2回	変奏の種類①	右手の変奏パターン①
第3回	変奏の種類②	右手の変奏パターン②
第4回	小テスト	カデンツ
第5回	変奏の種類③	左手の変奏パターン①
第6回	変奏の種類④	左手の変奏パターン②
第7回	クォーター末試験	1クォーターのまとめ
クォーター末試験評価方法		
出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	(a)即興の応用①	C-dur課題①
第2回	(a)即興の応用②	C-dur課題②
第3回	(a)即興の応用③	C-dur課題③
第4回	小テスト	今までのまとめ
第5回	(a)即興の応用④	a-moll①
第6回	(a)即興の応用⑤	a-moll②
第7回	(a)即興の応用⑥	a-moll③
第8回	学期末試験	春学期のまとめ
学期末試験評価方法		
授業で扱ったグレード即興力が総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%		

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	外部グレード講座(演奏)Ⅳ	演習	実	土屋淑子

科目概要

春学期で身につけた(a)即興を、今学期ではいろいろな調でも応用できるように、力をつけていきます。尚、講師はBLUE NOTE TOKYO、オーチャードホール他、コンサートの実務経験、及び、舞台・テレビドラマ等での劇伴の作曲／編曲の経験を持ちます。ヤマハ目黒センター財団本部でのシステム講師、学習者グレードの審査員経験を持ちます。

到達目標

6つの調で確実に(a)即興のパターンを身につける。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	変奏即興①	C-dur
第2回	変奏即興②	G-dur
第3回	変奏即興③	F-dur
第4回	小テスト	カデンツ
第5回	変奏の種類③	左手の変奏パターン①
第6回	変奏の種類④	左手の変奏パターン②
第7回	クォーター末試験	1クォーターのまとめ

クォーター末試験評価方法

出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	(a)即興の応用①	C-dur課題①
第2回	(a)即興の応用②	G-dur課題②
第3回	(a)即興の応用③	F-dur課題③
第4回	小テスト	今までのまとめ
第5回	(a)即興の応用④	a-moll①
第6回	(a)即興の応用⑤	e-moll②
第7回	(a)即興の応用⑥	d-moll③
第8回	学期末試験	秋学期のまとめ

学期末試験評価方法

授業で扱ったグレード即興力が総合的にどこまで身についたか、個人個人の到達点を重視します。出席率、平常点(授業に臨む態度)を重視します。テスト点数40%、出席率20%、平常点20%、その他20%

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	外部グレード講座(指導) I	演習	実	羽田正明

科目概要

この科目では、講師の実務経験(30年にわたるヤマハハイグレード試験官)に基づき、ヤマハ指導グレード5級取得を目指します。

到達目標

ヤマハ指導グレードの内容を理解する。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ヤマハ指導グレードの概要	実技と筆記それぞれの内容説明
第2回	実技1	ひきうたい1
第3回	実技2	ひきうたい2
第4回	実技3	ひきうたい3
第5回	実技4	伴奏付け1
第6回	実技5	伴奏付け2
第7回	実技模擬試験	ひきうたいと伴奏付け
クォーター末試験評価方法		
スムーズにできたか？ひきうたい:歌を間違えないで歌えたか？伴奏は適切か？バランスは良いか？ 伴奏付け:和音は正しくついたか？バスは適切か？		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	実技6	メロディー視唱1
第2回	実技7	メロディー視唱2
第3回	実技8	移調奏1
第4回	実技9	移調奏2
第5回	実技10	移調奏3
第6回	実技11	ひきうたい4
第7回	実技12	伴奏付け3
第8回	実技模擬試験	指導実技模擬試験(4項目)
学期末試験評価方法		
スムーズにできたか？ひきうたい:歌を間違えないで歌えたか？伴奏は適切か？バランスは良いか？ 伴奏付け:和音は正しくついたか？バスは適切か？メロディー視唱:音程が正確か？移調奏:正しい調に移調できたか？		

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	外部グレード講座(指導)Ⅱ	演習	実	羽田正明

科目概要

この科目では、講師の実務経験(30年間のヤマハグレード試験官)に基づき、ヤマハ指導グレードの取得を目指します。

到達目標

ヤマハ指導グレード5級の合格。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	筆記の内容	3項目の説明
第2回	楽典1	音程
第3回	楽典2	調性判定
第4回	コード進行法1	カウンターライン
第5回	コード進行法2	カウンターライン
第6回	コード進行法3	カウンターライン
第7回	筆記模擬試験	実際の問題

クォーター末試験評価方法

楽典の理解。カウンターラインの理解。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽典3	調性判定
第2回	楽典4	楽語
第3回	コード進行法4	コードネーム
第4回	コード進行法5	バスライン
第5回	コード進行法6	まとめ
第6回	聴音1	CD聞き取り
第7回	聴音2	CD聞き取り
第8回	筆記模擬試験	実際の問題

学期末試験評価方法

コード進行法の理解。聴音の正確さ。

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	外部グレード講座(指導)Ⅲ	演習	実	羽田正明

科目概要

この科目では、講師の実務経験(30年間のヤマハグレード試験官)に基づき、ヤマハ指導グレードの取得を目指します。

到達目標

実習を重ねてひきうたい、移調奏、メロディ視唱、伴奏づけのコツをつかみましよう。初めて取り組む課題にも落ち着いて取り組める対応力を身につけましよう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	グレード試験の内容を解説します。各項目をしっかりと把握し、それぞれに必要な音楽的要素を確認してください。
第2回	ひきうたい ① 基本テクニック	ひきうたいの基本について学びます。「弾きながら歌う」ことに慣れるようにましよう。
第3回	ひきうたい ② 歌とピアノ	ピアノの伴奏と歌い方、それぞれが正確に、またバランスよく演奏できるよう実習ましよう。
第4回	移調奏 ① 基本テクニック	スムーズに移調して弾くためのポイントを考察まします。左右のパートをそれぞれ確実に移調できるコツをつかんでください。
第5回	移調奏 ② 実習	単に音を移すだけではなく、全体の響きやメロディの動きを掴んで弾くことに慣れましよう。
第6回	ひきうたいと移調奏 表現について	正確さだけでなく、音楽的な表現についても留意して課題に取り組めるよう実習を重ねまします。
第7回	実技試験(ひきうたい、移調奏)	5級グレード程度の課題を出題まします。実際のグレード受験を想定して取り組んでください。

クォーター末試験評価方法

クォーター末の実技試験を中心に評価まします。  
授業内での実習(演奏、初見、ソルフェージュ全般)についても評価の対象とまします。  
(試験+小テスト60%、出席+平常点40%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メロディー視唱 ① 基本テクニック	メロディー視唱の基本について学びまします。初見力、ソルフェージュ力の向上を目指ましよう。
第2回	メロディー視唱 ② 音程とリズム	音程とリズムを正しくとって歌うことに慣れましよう。明確な発音、発声ができるよう、歌の基本も把握してください。
第3回	メロディー視唱 ③ 小テスト	これまでの学習内容を出题範囲としたメロディー視唱の小テストを実施まします。学習の成果を確認ましよう。
第4回	伴奏付け ① 基本テクニック	伴奏づけの基本について学びまします。キーボードハーモニー、和声、初見などさまざまなスキルをもって取り組むことが前提となります。
第5回	伴奏付け ② コードと音の配置	正しいコードの判断とともに音の配置もスムーズに考えられるよう実習を重ねましよう。
第6回	伴奏付け ③ 既成曲実習	既成曲を課題として実習まします。グレード学習で得られるスキルが指導や演奏など実際の現場で活用できることを確認してください。
第7回	今学期のまとめ	ひきうたい、移調奏、メロディー視唱、伴奏づけの復習をまします。正確さだけでなく音楽的な表現を常に意識してください。
第8回	実技試験(メロディー視唱、伴奏づけ)	5級グレード程度の課題を出題まします。実際のグレード受験を想定して取り組んでください。

学期末試験評価方法

クォーター末の実技試験を中心に評価まします。  
授業内での実習(演奏、初見、ソルフェージュ全般)についても評価の対象とまします。  
(試験+小テスト60%、出席+平常点40%)

音楽総合アカデミー学科 ピアノコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	外部グレード講座(指導)Ⅳ	演習	実	羽田正明

科目概要

この科目では、講師の実務経験(30年間のヤマハグレード試験官)に基づき、ヤマハ指導グレードの取得を目指します。調号、近親調、音程、コードネームなど楽典の基礎を確認・学習し、演奏力、対応力の向上を目指します。正確さだけでなく音楽的な表現にも着目し、自身の音楽性にも磨きをかけてください。

到達目標

楽典、コードの基本を習得し、ひきうたい、移調奏、メロディ視唱、伴奏づけの各課題にさらに円滑に取り組める力を身につけましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽典 ① 調号と近親調	3回にわたって楽典の基礎を確認します。即興や初見などの課題をスムーズに取り組むために各項目を確実に習得しましょう。
第2回	楽典 ② 音程、コードネーム	移調奏や伴奏づけにおいて不可欠な要素となるコード、音程の知識を確認します。コードについては基本形、転回形を正しく把握しましょう。
第3回	楽典 ③ 小テスト	第1,2回の学習内容の定着を確認する小テストを実施します。学習の成果を確認しましょう。
第4回	メロディ視唱 ① 臨時記号	臨時記号のついたメロディの視唱を実習します。コード感や調性についても意識を向けて正しく読譜できるようにしましょう。
第5回	メロディ視唱 ② フレーズ感	読譜の段階で全体の構成を読みとり、どのようなフレーズ感で歌うかを判断できるようにしましょう。
第6回	メロディ視唱 ③ まとめ	さまざまな調、曲想のメロディの読譜をとおしてメロディ視唱の総まとめをします。
第7回	筆記試験(楽典)	本クォーターで学習した範囲を出題します。

クォーター末試験評価方法

クォーター末の実技試験を中心に評価します。  
授業内での実習(演奏、初見、ソルフェージュ全般)についても評価の対象とします。  
(試験+小テスト60%、出席+平常点40%)

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	コード進行法 ①基本的な進行	伴奏づけの基礎となるコード進行について学習します。ダイアトニックコードの進行のパターンを把握しましょう。
第2回	コード進行法 ②転調について	転調をふくむメロディのコード進行について学習します。伴奏づけの実習にもしっかりと取り組み定着を確認しましょう。
第3回	コード進行法 ③ポピュラー的進行	ポピュラー曲にみられるコード進行について伝達します。ノンダイアトニックコードにも柔軟に対応しましょう。
第4回	コード進行法 小テスト	第1~3回の学習内容の定着を確認する小テストを実施します。学習の成果を確認しましょう。
第5回	復習 ① 伴奏づけ	伴奏づけの総復習をします。これまで習得した知識を活用して取り組みましょう。
第6回	復習 ② ひきうたい	伴奏づけの総復習をします。音楽的な表現も視野に入れて実習しましょう。
第7回	グレード受験にあたって	グレード受験の実際、受験前の準備や練習の方法について伝達します。受験に向けての今後の目標を立てましょう。
第8回	実技試験(ひきうたい、移調奏)	5級グレード程度の課題を出題します。実際のグレード受験を想定し、1年間の総仕上げとして取り組んでください。

学期末試験評価方法

クォーター末の実技試験を中心に評価します。  
授業内での実習(演奏、初見、ソルフェージュ全般)についても評価の対象とします。  
(試験+小テスト60%、出席+平常点40%)

電子オルガンコース

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュ I	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。
到達目標
自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step1,2) & 1Qのまとめ

クォーター末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step3,4) & 2Qのまとめ

学期末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅡ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step5,6) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step7,8) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅰ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	一年間で学習する内容のガイダンス、講師・学生の自己紹介、簡単な知識チェックテストを行います。
第2回	譜表・音名	基礎中の基礎、五線、譜表、音名を学びます。音部記号(ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号)の譜面の読み方を学びます。
第3回	音符・休符	音符、休符のそれぞれの長さ、記譜法を学びます。
第4回	拍子	4/4や6/8など、拍子によって変わる読譜、記譜法を学びます。
第5回	リズムの記譜法	前回学んだ拍子に合わせた、リズムの記譜法を学びます。
第6回	変化記号	変化記号のルール、小節内、小節をまたいだ場合、など、各ケースでの変化記号の読み方、付け方を学びます。
第7回	1Qのまとめテスト	1Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音階①	音階がどのようなルールの上に成り立っているのかを学びます。この回では、五度圏表を作成し、調の関係性を見ていきます。
第2回	音階②	前回学んだ五度圏表を用い、それぞれの調号、長音階、短音階を学びます。
第3回	夏休み前の復習、音階③	夏休み前に学んだ、音階を重点的に復習します。
第4回	調①	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。
第5回	調②	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。近親調も学びます。
第6回	音程①	幹音を基本とした、音程の答え方を学んでいきます。
第7回	音程②	基本の音程をベースに、変化記号がついた場合の呼称の変化、転回音程などを学んでいきます。
第8回	春学期のまとめテスト	1Q2Q合わせた春学期の確認テストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅱ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。4Qでは、総ざらいで復習し、基礎を固めて行きます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1Q2Qの復習①	主に音階、調の復習をします。
第2回	1Q2Qの復習②	主に音程の復習をします。
第3回	移調と転調	移調楽器への書き換え、臨時記号による転調の見分け方例を学びます。
第4回	楽語・記号	テキスト後半に記載されている、楽語、標語、各種記号を一通り確認します。
第5回	和音・コード①	和声学における和音の呼称、対応するコードの呼称、音の構成を学びます。
第6回	和音・コード②	いくつかの基本コードの呼称、音の構成を学びます。
第7回	3Qのまとめテスト	3Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習①	1Qで学んだ基礎事項の復習をします。
第2回	復習②	音階、調の復習をします。
第3回	復習③	音階、調の復習をします。この項目は、特に重点的に復習し、確実に習得してもらいます。
第4回	復習④	音程の復習をします。
第5回	復習⑤	移調楽器の復習をします。
第6回	復習⑥	コードの復習をします。
第7回	復習⑦	全体的に、弱点と思われる項目を復習します。
第8回	1年間のまとめテスト	1年間学んだ、全ての項目を網羅したテストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験（TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動）に基づき、コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標

理論学習と実習を繰り返し、学んだ事を自作曲に活かせる様、進めていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ペンタニック・スケール	様々なジャンルから、ペンタニック・スケールで構成されている楽曲をリストアップします。
第2回	セカンダリー・ドミナント	セカンダリー・ドミナントを復習します。
第3回	パッシング・ディミニッシュ	パッシング・ディミニッシュを学びます。
第4回	循環コード(1)	循環コードのパターンを分析し、フレーズを作成します。
第5回	循環コード(2)	4週で作成したフレーズを移調楽器用にパート譜を作成します。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	1Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サブドミナント・マイナー	サブドミナント・マイナーの用法を学びます。
第2回	バックイング	duo曲の伴奏を分析し、メロ譜に伴奏を付けます。
第3回	カノン	様々なカノンを分析し、カノンを作成します。
第4回	リズム	リズム譜を読み、2人一組で実習します。
第5回	カウンターライン カウンターメロディ	カウンターライン・カウンターメロディについて。
第6回	リフ	既存曲のリフを分析し、リフからテーマを作成します。
第7回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第8回	2Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、春学期の学習内容を踏まえて、オリジナル作品制作に役立つ理論等を学びます。

到達目標

実習で作成した楽曲の試演を取り入れ、演奏しやすい譜面作りを行います。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	裏コード	裏コードの用法を学びます。
第2回	コード付け	既存曲を分析し、既習したコードを取り入れます。
第3回	ホルンの5度(1)	ホルンの5度の用法を学びます。
第4回	ホルンの5度(2)	前回作成したフレーズをホルン用にパート譜を作成します。
第5回	ナポリの和音	ナポリの和音の用法を学びます。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	3Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドリアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第2回	ミクソリディアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第3回	フリジアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第4回	ジプシー	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第5回	ブルー・ノート	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第6回	試演(1)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第7回	試演(2)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第8回	4Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲演習 I	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

作編曲は、昨今ではPC上で、各種DAWソフトを使用して行うことが通常となってきましたが、この授業では、楽譜を書いて作編曲を行います。編成による譜表の違い、楽器による記譜法の違い、メロディとコードの関係など、様々な観点で楽譜に書き込む作編曲を学んでいきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

適切な譜表を選び、適切な記譜ができること、その上で、各自の思う音楽を自在に書き表わせるようにしてもらいます。年度末まで8～16小節の小品を作成できることが目標です。春学期は、まだ理論の知識が追いついていないこともあり、既存曲の分析を行うことで、作編曲における引き出しを増やしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の解説をします。どんな曲が好きか、どうして好きなのか、どんな曲が作れるようになりたいのかのアンケートを実施します。
第2回	分析①	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第3回	分析②	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第4回	分析③	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第5回	分析④	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第6回	分析⑤	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第7回	1Qのまとめテスト	自分の好きな曲について、聴き込み、どんな構成か、楽器か、音色かなど文章化してもらいます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分析⑥	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第2回	分析⑦	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第3回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第4回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第5回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第6回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第7回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第8回	春学期のまとめ作成	8小節のほのお題に合わせて、メロディを作曲してもらいます。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲演習 II	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

作編曲は、昨今ではPC上で、各種DAWソフトを使用して行うことが通常となってきましたが、この授業では、楽譜を書いて作編曲を行います。編成による譜表の違い、楽器による記譜法の違い、メロディとコードの関係など、様々な観点で楽譜に書き込む作編曲を学んでいきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

適切な譜表を選び、適切な記譜ができること、その上で、各自の思う音楽を自在に書き表わせるようにしてもらいます。年度末まで8~16小節の小品を作成できることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ベース・ランニング①	曲の要となるベースラインを作っていきます。ベースの音色、系統など知識も学びます。
第2回	ベース・ランニング②	曲の要となるベースラインを作っていきます。色んなベースパターンを聴き、演奏してみます。
第3回	リズム・セクション①	ベースと並び重要な、リズムセクションについて学びます。楽器の種類、記譜法も学びます。
第4回	リズム・セクション②	リズムセクションを作ります。
第5回	コード①	音楽理論で学んだコードを利用した作曲方法を学びます。
第6回	コード②	どんなコードパターンがあるか学びます。循環コードなどを用いて、作曲します。
第7回	3Qまとめ作成	4小節ほどの短い譜面を仕上げます。ベース、リズム、コード、全てしっかり楽譜に書き込みます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メロディー①	コードをもとに、どんなメロディが考えられるか学びます。
第2回	メロディー②	メロディに合うコード、リハーモニゼーションを学びます。
第3回	サブ・メロディー①	カウンターラインを学びます。
第4回	サブ・メロディー②	ストリングスアレンジなど、全体を引き立たせるラインを学びます。
第5回	アンサンブル①	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第6回	アンサンブル②	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第7回	アンサンブル③	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第8回	秋学期まとめ作成	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。この日の提出を持って、試験とします。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲演習 I	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(電子オルガン演奏、TV、映画、CMの音楽制作)に基づき、現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガンの特性を背景に実際のオルガンスキルに還元する。  
電子オルガンならではの内部電子音源の仕組みを研究する。

到達目標

PCを用意し電子オルガンと接続し指導する。主にMIDIでの作業を中心とする。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	PC環境での可能性	おすすめPC&アプリケーション紹介
第2回	ツールとしてのPC	シーケンスソフトの概念&説明
第3回	DTM本来の役割	ProTools&Logic&Cubaseどう違う?
第4回	制作概要①	チャンネルとトラックの概念の説明
第5回	制作概要②	System Exclusiveの説明
第6回	音源フォーマットについて	ELS-02におけるXGフォーマットの説明
第7回	データ入力テスト	リズムパターンのインポート

クォーター末試験評価方法

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか 提出物は納品レベルかどうかの  
か。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	DTM(MIDI)楽曲の中身とは?	デュレーション・ベロシティの説明
第2回	リアルな表現Strings系	デュレーション・エクスプレッション
第3回	リアルな表現Brass系	sfzの表現。エクスプレッションの応用
第4回	リアルな表現Guitar系	カッティング(デュレーション)チョーキング(ピッチベント)
第5回	リアルな表現Piano系	共鳴音処理(ブリリアンス)サスティン・ベロシティ
第6回	リアルな表現Rhythm系	Bassの処理。(デュレーション)Drums入力。(ベロシティ)
第7回	Rhythm制作実習	実際に入力する
第8回	Rhythm制作実習	実際に入力する

学期末試験評価方法

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか 提出物は納品レベルかどうかの  
か。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲演習Ⅱ	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(電子オルガン演奏、TV、映画、CMの音楽制作)に基づき、現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガンの特性を背景に実際のオルガンスキルに還元する。  
電子オルガンならではの内部電子音源の仕組みを研究する。

到達目標

PCを用意し電子オルガンと接続し指導する。主にMIDIでの作業を中心とする。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音響&レコーディング	周辺機器、ケーブル類の説明
第2回	有機的な連携	EO・シンセ・DTM・PCの長短所を説明
第3回	作品編集	DTM作品を編集します。
第4回	他楽器の導入	オケ制作のノウハウも含めた形で展開
第5回	アレンジ・コーディネイト	アレンジ・サウンド面のコーディネイト
第6回	MIDI作品研究	音響面のバランス、スコアの確認
第7回	XGサポート	仕組みの研究

クォーター末試験評価方法

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか 授業の理解度はどうなのか。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リスニング実習	ヒアリング曲を選曲
第2回	リスニング導入編	採りやすい音から短い曲をコピー
第3回	リスニング基本編	ベースライン・ハーモニーにチャレンジ
第4回	リスニング応用編	リズムセクション・パターンスコア譜の出力
第5回	スコアの導入	弦楽四重奏のスコア譜を入力
第6回	スコアからの編曲	音色・表現をアドバイス
第7回	スコアからの編曲	音色・表現をアドバイス
第8回	総まとめ	XGサポート付き楽曲演奏

学期末試験評価方法

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか 提出物は納品レベルかどうか。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	DTM基礎 I	講義	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づき音楽家にとって楽器と同様に必要なパソコンの基本的な使い方、MIDIシーケンサー『CUBASE』、音源の基本操作、およびMIDIの基礎を習得し、2年生で学習する譜面浄書ソフトや上級生でのDAWへの学習の基礎の習得とします。

到達目標

Cubaseの基本操作を習得し、MIDIファイルを作成できるようになります。新規作成、プロジェクト名、保存法、トラックの設定を理解します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	DTMとはなにか？	PCの基本操作を学びます。
第2回	Cubaseの基本操作 I	Cubaseを起動し楽器の設定をして音を出します。プロジェクトの作成と保存。
第3回	Cubaseの基本操作 II	Cubaseにデータを書いて音を出します。ドラムのパートを作成します。
第4回	楽譜からデータ作成 I	与えられた楽譜からデータを作成します。ピアノロールの使い方。データをUSBに保存します。
第5回	楽譜からデータ作成 II	ドラムパートを追加します。名前を変えて保存します。
第6回	楽譜からデータ作成 III	パーカッションパートを追加します。名前を変えて保存します。
第7回	作品提出	完成したデータを提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか？欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	GM音源について	プログラムチェンジを使って使用する楽器を指定します。
第2回	MIDIの基礎知識 I	MIDIについて学習します。MIDIチャンネルについて。
第3回	MIDIの基礎知識 II	アンサンブルの楽譜を入力します。連符の設定、クオンタイズの設定。
第4回	いろいろなパートの作成	ピアノの楽譜を入力します。コードの入力について学習します。
第5回	楽曲データ作成 I	拍子、テンポを設定します。
第6回	楽曲データ作成 II	課題作成作業
第7回	楽曲データ作成 III	課題を完成させます。
第8回	作品提出	完成したデータを提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか？欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	DTM基礎 II	講義	実	有馬 知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づきMIDI規格を理解し、細かい音楽表現を学習します。春学期に習得した技術を応用し、多くの楽曲のデータを作成し実践します。

到達目標

Cubaseで音楽を表現します。音の長さ、強弱を設定して、音楽的なデータを作成します。データをただ入力するだけではなく、記譜されている記号を読み取り、人間の演奏に近い表現を目指す。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDIコントロールチェンジの設定 I	トラックごとにプログラムチェンジを設定し、楽器のセットを作ります。ベロシティを設定してドラムのアクセントをつけます。
第2回	MIDIコントロールチェンジの設定 II	プログラムチェンジ、ボリューム、パン、ピッチベンドを設定します
第3回	クオンタイズ機能	クオンタイズについて、内容と設定を学習します。リムパターン作成。
第4回	MIDIによる音楽的な表現	ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。テクノ風、8ビート、16ビート、4ビート、swingなど。
第5回	MIDIによる音楽的な表現	ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。
第6回	課題作成	与えられた課題曲のデータを作成します
第7回	作品提出	完成したファイルを提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音楽的な演奏データを作る	ピアノ曲のデータを入力します。正確に譜面通り入力します。
第2回	音楽的な演奏データを作る	ピアノ曲のデータに、強弱、テンポ変化をつけます。
第3回	課題作成開始	課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。
第4回	課題作成開始	課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。データを提出します。
第5回	アレンジ作業	トラックをコピーして、パートを増やします。
第6回	アレンジ作業	トラックをコピーして、パートを増やします。データを提出します。
第7回	トラックダウン	全体のバランスを取り完成させます
第8回	作品提出	完成したファイルを提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	譜面浄書 I	講義	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づき、音楽表現を主に今まで習得した入力技術の向上を目指します。MIDIだけではなく、オーディオファイルの基礎を学習し作品の完成度を高めます。

到達目標

MIDIデータをただ入力するだけでなく、音楽的な表現をつけて完成させます。複数トラックのデータのトラックダウンもできるようになります。Cubaseでオーディオを扱う際の基本操作を習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Cubase基本操作I	基礎内容を復習します。保存方法、データのバージョン管理、操作方法等。コントロールチェンジの設定。
第2回	オーディオファイルの読み込み・編集	CDからオーディオファイルを読み込みます。
第3回	オーディオとMIDIの共存	オーディオファイルからテンポを計算します。オーディオファイルに自分で作ったMIDIパートを重ねます。
第4回	練習曲データ作成 I	オーケストラのスコアを入力します
第5回	練習曲データ作成 I	強弱、テンポ変化等の表現をつけます
第6回	データの完成	各パートの音量バランスをとって完成させます。オーディオに変換します。
第7回	作品提出	完成した作品を提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点:25% 末試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。注意事項:授業中の携帯電話、インターネット、メールの使用、他科目の課題作成等はいっさい禁止とし、守られない場合には減点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDIデータによるエフェクト I	コントロールチェンジの設定 基本について学習します。
第2回	MIDIデータによるエフェクト II	コントロールチェンジの設定 実践 エフェクト処理について学習します。
第3回	オリジナル曲のデータ作成	作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
第4回	オリジナル曲のデータ作成	作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
第5回	オリジナル曲のデータ作成	1部のトラックをオーディオファイルに変換します。
第6回	オリジナル曲のデータ作成	アレンジ作業。MIDIエフェクトを追加します。
第7回	オリジナル曲のデータ作成	トラックダウン作業
第8回	作品提出	作品を提出します。

学期末試験評価方法

平常点:25% 末試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。注意事項:授業中の携帯電話、インターネット、メールの使用、他科目の課題作成等はいっさい禁止とし、守られない場合には減点します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	譜面浄書Ⅱ	講義	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー、)に基づき譜面作成ソフト「Finale」の基礎をマスターします。今まで習得したDTMの知識を応用し、DTMソフトと譜面浄書の連携をマスターします。3クォーターでは歌詞、コードのついたメロディ譜、4クォーターでは、スコアを作成します。

到達目標

Finaleを使用してコード、歌詞のついたメロディ譜、リズムパートやスコア譜が作れるようになります。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フィナーレの基礎	フィナーレの起動から初期設定 ステップ入力について。
第2回	フィナーレの実践	音符・休符の入力。臨時記号、音部記号、拍子記号の設定。 簡単なメロディーの入力
第3回	フィナーレの実践	各種ツールの使い方。ショートカット。コード入力。 コードとメロディーの入力
第4回	フィナーレの実践	歌詞入力。ページレイアウト設定。
第5回	楽譜を完成させる	コード、歌詞のついたメロディ譜を完成させる。
第6回	楽譜を完成させる	ページレイアウトの基本設定を学習する。いままで作った楽譜を 完成させる
第7回	楽譜の評価	課題曲の楽譜を完成させ提出

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点、忘れ物5点を平常点から減点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レイヤーの使い方	ピアノ譜を入力して、レイヤーの使い方を学習します。
第2回	レイヤーの使い方	ドラムパートの入力でレイヤーの使い方、高速ステップ入力について学習します。
第3回	MIDIファイルの読み込み	2クォーターに提出したオリジナル曲のMIDIデータを読み込んでスコアを作成します。
第4回	MIDIファイルの読み込み	読み込んだデータをページレイアウト設定で見やすくします。 音域、楽器などを再設定します。
第5回	スコアの入力	セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
第6回	スコアの入力	セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
第7回	スコアの入力	ページレイアウトの設定を学習し、スコアを完成させます。
第8回	楽譜の評価	スコアを完成させ提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点、忘れ物5点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲技法 I (ポップス系)	演習	実	隼田義博

科目概要

作編曲を専攻としない学生のためのポピュラーミュージックの作編曲講座。前期は主にスタンダード曲の分析を通して和音進行とメロディー、フォームについての学習をもとにオリジナル作品を制作します。尚、講師は 트레이ラー 専門音楽出版社の作曲家としてトレーラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニックハーモニーの基礎1	コードと音階、長短ダイアトニックコードと機能について確認。
第2回	ダイアトニックハーモニーの基礎2	様々なノンダイアトニックコードとその進行について確認。
第3回	ダイアトニックハーモニーの基礎3	メロディとコードの響きが矛盾するときとはどういう状態かについて楽曲分析を行いながら確認。
第4回	転調	様々な転調パターンと効果的な転調の仕組みについて。
第5回	モチーフ・フレーズ	曲を発展させゆく素材であるモチーフの重要性について楽曲分析を行いながら確認。
第6回	セクションと曲のフォーム	1コーラスの中身についてセクションごとの役割を検証し、フォームの種類を確認。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ1(リズムセクション1)	様々なジャンルやスタイルにおけるドラムとベースのアレンジについて。
第2回	アレンジ2(リズムセクション2)	様々なジャンルやスタイルにおけるギターとキーボードのアレンジについて。
第3回	アレンジ3(他、うわものアレンジ)	様々なイントロとエンディングのパターンと、その効果的な構造と作り方について。
第4回	アレンジ4(イントロ・アウトロ)	主旋律に対する動きのバランスや統一など基礎的な書き方について。
第5回	楽曲制作1	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作2	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作3～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング～完成。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出と音出しセッションへの参加。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲技法Ⅱ(ポップス系)	演習	実	隼田 義博

科目概要

過去から現在までの様々なポップミュージックの分析と、旋法音楽の表現方法の学習を通して、オリジナル作品を仕上げていきます。尚、講師はトレイラー専門音楽出版社の作曲家としてトレイラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様々なスタイルのポップス1	J-Popの過去から現在までの作品に焦点をあて、そのメロディ、ハーモニー、フォーム、アレンジなどについて考察。
第2回	様々なスタイルのポップス2	スティーリー・ダンなどのジャズハーモニーの影響の濃い作品における特徴について考察。
第3回	様々なスタイルのポップス3	ジョビンやイヴァン・リンスなどブラジリアンポップスの作品における特徴について考察。
第4回	様々なスタイルのポップス4	パット・メセニーなどコンテンポラリーポップの作品における特徴について考察。
第5回	楽曲制作1	3クォーター末音出し作品完成に向けての作曲作業～スケッチ。
第6回	楽曲制作2	3クォーター末音出し作品完成に向けての作曲作業～リードシート完成。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋法音楽の表現方法1	調性音楽との響きの違い、教会旋法の音階構造と個々の響きの特徴とその仕組みについて確認。
第2回	旋法音楽の表現方法2	和音進行をともしないリニアな表現とコード進行をともしない表現方法について。
第3回	楽曲制作1	学期末作品完成に向けての作曲作業～アイデアの抽出。
第4回	楽曲制作2	学期末作品完成に向けての作曲作業～メロディーとコード。
第5回	楽曲制作3	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクション。
第6回	楽曲制作4	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～他、うわもの。
第7回	楽曲制作5～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲技法Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、作編曲を専攻としない学生を対象に、ポピュラーミュージックの編曲を学びます。前期は主にスタンダード曲の分析を通して和音進行とメロディー、フォームについての学習をもとにオリジナル作品を制作します。3年次に学習したⅠの内容をより深く掘り下げます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニックハーモニーの基礎1	コードと音階、長短ダイアトニックコードと機能について確認。
第2回	ダイアトニックハーモニーの基礎2	様々なノンダイアトニックコードとその進行について確認。
第3回	ダイアトニックハーモニーの基礎3	メロディとコードの響きが矛盾するときとはどういう状態かについて楽曲分析を行いながら確認。
第4回	転調	様々な転調パターンと効果的な転調の仕組みについて。
第5回	モチーフ・フレーズ	曲を発展させゆく素材であるモチーフの重要性について楽曲分析を行いながら確認。
第6回	セクションと曲のフォーム	1コーラスの中身についてセクションごとの役割を検証し、フォームの種類を確認。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ1(リズムセクション1)	様々なジャンルやスタイルにおけるドラムとベースのアレンジについて。
第2回	アレンジ2(リズムセクション2)	様々なジャンルやスタイルにおけるギターとキーボードのアレンジについて。
第3回	アレンジ3(他、うわものアレンジ)	様々なイントロとエンディングのパターンと、その効果的な構造と作り方について。
第4回	アレンジ4(イントロ・アウトロ)	主旋律に対する動きのバランスや統一など基礎的な書き方について。
第5回	楽曲制作1	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作2	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作3～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング～完成。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出と音出しセッションへの参加。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲技法Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、作編曲を専攻としない学生を対象に、過去から現在までの様々なポップミュージックの分析と、旋法音楽の表現方法の学習を通して、オリジナル作品を仕上げていきます。3年次に学習したⅡの内容をより深く掘り下げます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様々なスタイルのポップス1	J-Popの過去から現在までの作品に焦点をあて、そのメロディ、ハーモニー、フォーム、アレンジなどについて考察。
第2回	様々なスタイルのポップス2	スティーリー・ダンなどのジャズハーモニーの影響の濃い作品における特徴について考察。
第3回	様々なスタイルのポップス3	ジョビンやイヴァン・リンスなどブラジリアンポップスの作品における特徴について考察。
第4回	様々なスタイルのポップス4	パット・メセニーなどコンテンポラリーポップの作品における特徴について考察。
第5回	楽曲制作1	3クォーター末音出し作品完成に向けての作曲作業～スケッチ。
第6回	楽曲制作2	3クォーター末音出し作品完成に向けての作曲作業～リードシート完成。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋法音楽の表現方法1	調性音楽との響きの違い、教会旋法の音階構造と個々の響きの特徴とその仕組みについて確認。
第2回	旋法音楽の表現方法2	和音進行をともなわないリニアな表現とコード進行をともなう表現方法について。
第3回	楽曲制作1	学期末作品完成に向けての作曲作業～アイデアの抽出。
第4回	楽曲制作2	学期末作品完成に向けての作曲作業～メロディーとコード。
第5回	楽曲制作3	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクション。
第6回	楽曲制作4	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～他、うわもの。
第7回	楽曲制作5～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲試演実習 I(ポップス系)	実習	実	隼田義博

科目概要

授業は毎回作編曲技法と連動して直後におこなわれるため、直前の作編曲技法で学習した内容を作編曲の実習を通して各自が学習内容を確認していきます。尚、講師はトレイラー専門音楽出版社の作曲家としてトレイラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスぶんのアレンジ作品を制作します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニックハーモニーの基礎1	ダイアトニックコードを中心としたメジャーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第2回	ダイアトニックハーモニーの基礎2	ノンダイアトニックコードを含むメジャーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第3回	ダイアトニックハーモニーの基礎3	マイナーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第4回	楽曲制作・モチーフ・フレーズ	モチーフを意識した作曲実習。
第5回	楽曲制作・転調	様々な転調パターンの作曲実習。
第6回	楽曲制作・セクションと曲のフォーム	作品制作の仕上げ。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ1(リズムセクション1)	ドラムとベースのアレンジ実習
第2回	アレンジ2(リズムセクション2)	ギターとキーボードのアレンジ実習。
第3回	アレンジ3(ほかうわものアレンジ)	ブラスやストリングスなどのアレンジ実習。
第4回	アレンジ4(イントロ・アウトロ)	イントロとアウトロのアレンジ実習。
第5回	楽曲制作1	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作2	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作3～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出と音出しセッションへの参加。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲試演実習Ⅱ(ポップス系)	実習	実	隼田義博

科目概要

前期から引き続き、作編曲技法で学習したトピックの確認をするためにリスニングや各自が課題の作曲にとりくむ作業を中心に、オリジナル作品を仕上げていきます。尚、講師はトレイラー専門音楽出版社の作曲家としてトレイラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析プレゼンテーション	今後の楽曲分析プレゼンテーションについてのガイダンスと作曲実習。
第2回	学生プレゼンテーション1・作曲実習	J-Popのプレゼンテーションと作曲実習。
第3回	学生プレゼンテーション2・作曲実習	ジャズハーモニーの色濃い作品のプレゼンテーションと作曲実習。
第4回	学生プレゼンテーション3・作曲実習	ブラジリアンポップスのプレゼンテーションと作曲実習。
第5回	学生プレゼンテーション4・作曲実習	コンテンポラリーポップのプレゼンテーションと作曲実習。
第6回	作曲実習	3クォーター作品完成に向けての仕上げ作業。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋法音楽の表現方法1	教会旋法の音階構造と個々の響きの特徴の確認と作曲実習
第2回	旋法音楽の表現方法2	ダイアトニックハーモニーにおいて旋法音楽の表現を意識した作曲実習。
第3回	楽曲制作1	学期末作品完成に向けての作曲作業～アイデアの抽出。
第4回	楽曲制作2	学期末作品完成に向けての作曲作業～曲母体の完成。
第5回	楽曲制作3	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作4	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作5～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲試演実習Ⅲ	実習	実	小松真理

科目概要

授業は毎回作編曲技法と連動して直後におこなわれるため、直前の作編曲技法で学習した内容を作編曲の実習を通して各自が学習内容を確認していきます。尚、講師はTV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動の実務経験があります。3年次に学習したⅠの内容をより深く掘り下げます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスぶんのアレンジ作品を制作します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニックハーモニーの基礎1	ダイアトニックコードを中心としたメジャーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第2回	ダイアトニックハーモニーの基礎2	ノンダイアトニックコードを含むメジャーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第3回	ダイアトニックハーモニーの基礎3	マイナーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第4回	楽曲制作・モチーフ・フレーズ	モチーフを意識した作曲実習。
第5回	楽曲制作・転調	様々な転調パターンの作曲実習。
第6回	楽曲制作・セクションと曲のフォーム	作品制作の仕上げ。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ1(リズムセクション1)	ドラムとベースのアレンジ実習
第2回	アレンジ2(リズムセクション2)	ギターとキーボードのアレンジ実習。
第3回	アレンジ3(ほかうわものアレンジ)	ブラスやストリングスなどのアレンジ実習。
第4回	アレンジ4(イントロ・アウトロ)	イントロとアウトロのアレンジ実習。
第5回	楽曲制作1	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作2	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作3～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出と音出しセッションへの参加。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲試演実習Ⅳ	実習	実	小松真理

科目概要

前期から引き続き、作編曲技法で学習したトピックの確認をするためにリスニングや各自が課題の作曲にとりくむ作業を中心に、オリジナル作品を仕上げていきます。尚、講師はTV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動の実務経験があります。3年次に学習したⅡの内容をより深く掘り下げます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析プレゼンテーション	今後の楽曲分析プレゼンテーションについてのガイダンスと作曲実習。
第2回	学生プレゼンテーション1・作曲実習	J-Popのプレゼンテーションと作曲実習。
第3回	学生プレゼンテーション2・作曲実習	ジャズハーモニーの色濃い作品のプレゼンテーションと作曲実習。
第4回	学生プレゼンテーション3・作曲実習	ブラジリアンポップスのプレゼンテーションと作曲実習。
第5回	学生プレゼンテーション4・作曲実習	コンテンポラリーポップのプレゼンテーションと作曲実習。
第6回	作曲実習	3クォーター作品完成に向けての仕上げ作業。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋法音楽の表現方法1	教会旋法の音階構造と個々の響きの特徴の確認と作曲実習
第2回	旋法音楽の表現方法2	ダイアトニックハーモニーにおいて旋法音楽の表現を意識した作曲実習。
第3回	楽曲制作1	学期末作品完成に向けての作曲作業～アイデアの抽出。
第4回	楽曲制作2	学期末作品完成に向けての作曲作業～曲母体の完成。
第5回	楽曲制作3	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作4	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作5～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	リズムトレーニング I	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき、音楽の3要素であるリズムに焦点を絞った科目である。体を動かし、口でリズムを歌い、両手でリズムを取りながら、グルーヴとは何かを学習する。1クォーターでは8ビート、2クォーターでは3連グルーヴの基礎訓練が主体となる。

到達目標

①ジャズビートとは何かを理解する。②メトロノームを使った練習法の理解。③8ビート、3連に於ける4分音符の理解。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	あなたのリズム感は? 自己診断テスト。目標の理解(ジャズビート)
第2回	8ビート	メトロノームを8分の裏に感じる訓練(右手、左手) 8ビートに於けるジャズビートの理解(メトロノームの使い方)
第3回	8ビートと3連	8ビートに於ける4分音符と3連に於ける4分音符を体でのつてみる
第4回	体でノッてみよう	付点4分と8分音符の繰り返し(3+1) 2ビートと8ビートに於ける体のノリ方の理解
第5回	アクセント(ひざでパタパタ)	アクセントの出し方を訓練(手、足、口のバランス) アクセントを付けた時、8ビートのジャストが揺れていないか
第6回	模擬テスト	Q末試験の予行演習を個別指導 一人で8ビートと3連の一拍を1分間キープ出来るか
第7回	クォーター末試験	8ビート(メトロノーム2,4)と3連の一拍(メトロノームを3連の裏)……各1分間

クォーター末試験評価方法

8ビート(メトロノーム2,4)と3連の一拍(メトロノームを3連の裏)……各1分間 鍵盤で表現できるか。

評価基準: 出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	3連のウラ	メトロノームを3連の裏に感じる訓練(アクセントなし) 3連のジャズビートがどの位歌えているか
第2回	3連のウラ	左右の手のバランスを取る訓練 無駄な力が入っていないか確認
第3回	アクセント	細かいビートを表現しながらアクセントをつける訓練 アクセント小テスト(鍵盤で確認)
第4回	2拍3連と3拍2連の関係	2拍3連と3拍2連の歌い方とその訓練法 4分音符と2拍3連を同時にバランス良く表現できるか
第5回	シャッフル	シャッフルの基本的グルーヴの学習 休符を上手く歌えるか(タウタウタウのウ)
第6回	4ビート	4ビートの基本的グルーヴの学習 4分音符を体で動かし、3連裏ビートが上手く歌えるか(ドゥーバ)
第7回	模擬テスト	Q末試験の予行演習を個別指導 3連の色々なアクセントが歌えているか(メトロノームを3連の裏)
第8回		3連グルーヴ(アクセントなし)(頭アクセント)(2拍3連)(2白3連の裏) (3連の裏)(シャッフル)

学期末試験評価方法

3連グルーヴ(アクセントなし)(頭アクセント)(2拍3連)(2白3連の裏) (3連の裏)(シャッフル)が 手、足、口でバランス良く表現できているか。

評価基準: 出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	リズムトレーニングⅡ	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき、音楽の3要素であるリズムに焦点を絞った科目である。体を動かし、口でリズムを歌い、両手でリズムを取りながら、グルーヴとは何かを学習する。3クォーターでは16ビートのグルーヴについて学習し、4クォーターではシンコペーション、アフリカン、シャッフルについて学習する。

到達目標

①16ビートのジャストビートが理解でき表現できる。②半拍半フレーズの理解。③16ビートの色々な場所にストレス無しにアクセントが付けられる。④シャッフル・ベースラインを鍵盤で演奏できる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	16ビート(アクセント無し)	メトロノームを8分の裏に感じながら訓練。 16ビートのジャストビートがどの位歌えているか
第2回	曲にノッてみよう	曲を聴きながら手、足、口を動かしてみる 色々なジャンルに体や手がどの位反応しているか
第3回	アクセント	細かいビートを表現しながらアクセントをつける訓練 アクセントを付けた時、16ビートのジャストビートが揺れていないか
第4回	半拍半フレーズ	連続する付点8分の訓練(3種類) 半拍半フレーズの理解
第5回	16ビートパターン	代表的な16ビートグルーヴを学習 16ビートの色々な場所にストレス無くアクセントが付けられるか
第6回	模擬テスト	テストと同じ形で個別に指導
第7回	クォーター末試験	16ビートグルーヴ(半拍半フレーズ)

クォーター末試験評価方法

16ビートグルーヴ(半拍半フレーズ)を鍵盤で表現できるか。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習	8ビート、3連、16ビート(平坦、アクセント) これまでの授業をどの位把握出来ているか。
第2回	シンコペーション	8ビート、16ビート、3連に於けるシンコペーションの歌い方、感じ方 シンコペーションの次のアタマを正確に感じられるか
第3回	4拍3連と3拍4連の関係	4拍3連と3拍4連の歌い方とその訓練法 4分音符と4拍3連を同時に表現できるか
第4回	アフリカン	アフリカン12/8拍子の理解ならびに訓練
第5回	シャッフル・ベースライン	シャッフル・ベースラインのグルーヴとその歌い方 実際にベーシストやドラマーがどの様にリズムを歌っているのか
第6回	シャッフル・ベースライン	シャッフル・ベースラインを鍵盤で演奏 ベースラインを演奏し体感
第7回	模擬テスト	テストと同じ形で個別に指導 一人でベースラインを鍵盤で演奏出来るか(メトロノーム3連の裏)
第8回	クォーター末試験	シャッフル・ベースラインを鍵盤で演奏 一人でストレス無く、シャッフル・ベースラインを鍵盤で演奏出来るか

学期末試験評価方法

一人でストレス無く、シャッフル・ベースラインを鍵盤で演奏出来るか。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	リズムトレーニングⅢ	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき、音楽の3要素であるリズムに焦点を絞った科目である。

1クォーターでは楽曲の中でのロック、ファンク、ラテンのグルーヴについて学習する。

2クォーターではポリリズム系のグルーヴについて学習、ラ・フェスタを演奏する。

到達目標

①メトロノームを使ってジャストビートが探せる。②16の裏ビートが歌えて表現ができる。③モンテューノの基本的グルーヴが出来る。④ラ・フェスタ(イントロ～ソロの手前まで)鍵盤でストレス無く演奏が出来る。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	1年次の復習と音符の足し算 1年次の授業をどの程度把握出来ているか。8分ウラ、3連ウラ小テスト
第2回	ロック・グルーヴ(8ビート)	ロック・グルーヴ(8ビート)の色々なパターンを学習(メトロノームを使ったジャストビートの探し方)
第3回	ロック・グルーヴ(シャッフル)	ロック・グルーヴ(シャッフル)の色々なパターンを学習 ストレス無くシャッフルのコンピングが出来るか確認
第4回	ファンク・グルーヴ(16ビート)	ファンク・グルーヴ(16ビート) 16の裏ビートが歌えて表現が出来るか確認
第5回	ラテン・グルーヴ	モンテューノの基本的グルーヴの学習(ベースライン) アタマ抜きベースラインを、2ビートを感じながら演奏出来るか
第6回	ラテン・グルーヴ	モンテューノの基本的グルーヴの学習(ピアノコンピング) 2ビートを感じながらピアノコンピングが出来るか
第7回	クォーター末試験	モンテューノ(ベースラインとピアノコンピング)

クォーター末試験評価方法

一人でストレス無くモンテューノのグルーヴが出来るか

評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2拍3連と3拍2連	2拍3連と3拍2連の訓練法 3/4拍子を3拍子と2拍子でグルーヴ出来るか
第2回	ポリリズム	12/8拍子を6拍子と4拍子でグルーヴ 同じパターンを演奏しながら、リズムの取り方を変えられるか
第3回	ラ・フェスタ	楽曲を聴きながらリズムを足、両手、口で表現 足、両手、口のバランス確認
第4回	ラ・フェスタ・バックイング	バックイングの歌い方、感じ方 8小節パターン中にリズムの取り方を変えられるか
第5回	ラ・フェスタ・サビメロ	サビメロの歌い方、感じ方 サビメロをリズム通りに歌えるか
第6回	ラ・フェスタ	イントロあ～ソロの手前まで鍵盤で演奏 ベースとデュオで演奏して確認
第7回	模擬テスト	一人でメトロノームと演奏出来るか
第8回	クォーター末試験	ラ・フェスタ(イントロ～ソロの手前まで)演奏

学期末試験評価方法

3ラ・フェスタ(イントロ～ソロの手前まで)演奏。手、足、口でバランス良く表現できているか。

評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	リズムトレーニングⅣ	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき、音楽の3要素であるリズムに焦点を絞った科目である。

3クォーターではボサノバ、サンバのグルーヴについて学習、スペインを演奏。

4クォーターでは、ピアノトリオによるコンサートで、好きな曲を選曲し、ベース譜、ドラム譜を書きリハーサルの進め方を学習。自由に思う存分表現する。

到達目標

①ボサノバのグルーヴをピアノで出せる。②サンバのグルーヴをピアノで出せる。③ピアノトリオ、リハーサルから本番までの段取りの理解。④ピアノトリオに於いて、スムーズなリハーサルが出来、本番でアピール出来る。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	2ビート(ボサノバ)	ボサノバの基本グルーヴを学習 ボサノバのグルーヴをピアノで出せるか
第2回	2ビート(サンバ)	サンバの基本グルーヴを学習 サンバのグルーヴをピアノで出せるか
第3回	スペイン	楽曲を聴きながらリズムを足、両手、口で表現 足、両手、口のバランス確認
第4回	スペインメロディー	リズムスタート部分のアクセント練習 休符がしっかり歌えているか
第5回	スペインユニゾン部分	ユニゾン部分のリズム練習 休符がしっかり歌えるかデュオで演奏して確認
第6回	模擬テスト	テストと同じ形で個別に指導
第7回	クォーター末試験	スペインのメロ、ユニゾン部分をピアノで演奏 一人でストレス無くメトロノームと演奏出来るか

クォーター末試験評価方法

1スペインのメロ、ユニゾン部分をピアノでストレス無くメトロノームと演奏出来たか。

評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノトリオ	各自決定した演奏曲を聴いて演奏構成を考える ベース/ドラム譜作成のコツを確認及び指導
第2回	イントロ、エンディング	ピアノ/ベースパートでイントロ、エンディング部分の練習 ベース/ドラム譜の提出
第3回	テーマ部分	ピアノ/ベースによるイントロ、テーマ、エンディング部分の練習 正確に弾けているか確認
第4回	ソロ部分	伴奏に合わせてソロ部分の練習、原曲のフレーズも確認
第5回	リハーサル	ベース/ドラムのサポート付きで全体のリハーサル
第6回	リハーサル	ベース/ドラムのサポート付きで全体のリハーサル
第7回	リハーサル	ベース/ドラムのサポート付きで全体のリハーサル トリオで演奏して確認 ドラマーに説明が出来るか
第8回	クォーター末試験	ピアノトリオによるコンサート本番 スムーズなリハーサルが出来、本番でアピール出来たか

学期末試験評価方法

ピアノトリオに於いて、スムーズなリハーサルが出来、本番でアピール出来たか。

評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	スコアリーディング I	演習	実	齋藤 良

科目概要

電子オルガン専攻者にとってのソルフェージュカとは、スコアリーディング力もあってこそ！オーケストラスコアを研究しながら毎授業エレクトーンに全員が座る機会を設けます。クラシックコンサートの準備も同時に行っていきます。この科目は講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき運営します。

到達目標

オーケストラの配置、編成、それぞれの楽器特有の記号なども学習し、エレクトーンの3段譜ではなくオーケストラスコアそのものを見ながら演奏する力をつけ、譜面の読める人間を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明 スコアリーディング奏法を体験 アイネクライネナハトムジーク
第2回	弦楽四重奏・弦楽合奏①	弦楽器の特性を知り、電子オルガンにおける楽器の選択の違いを学びます。また配置や弦楽器のみにもちいられる奏法用語に取り組みます
第3回	弦楽四重奏・弦楽合奏②	アルト記号に慣れる アルビノーニのアダージョ
第4回	弦楽四重奏・弦楽合奏③	アルト記号に慣れる
第5回	弦楽四重奏・弦楽合奏④	アルト記号に慣れる
第6回	弦楽四重奏・弦楽合奏⑤	弦楽器の奏法をマスターする
第7回	演奏	弦楽器を中心とした曲の演奏で確認をします

クォーター末試験評価方法

リーディング奏法を毎授業行います。出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。

平常60% 出席20% 試験20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	移調楽器①	木管楽器特有の記譜を学びます。楽器の特性、配置を踏まえながら木管アンサンブル譜を演奏します
第2回	移調楽器②	金管楽器特有の記譜を学びます。楽器の特性、配置を踏まえながら金管アンサンブル譜を演奏します
第3回	移調楽器③	Harpのチューニングの記譜法を学びます。グリッサンドに隠された秘密を研究します
第4回	管弦楽曲 I ①	少し編成の大きな曲に取り組みます
第5回	管弦楽曲 I ②	少し編成の大きな曲に取り組みます
第6回	管弦楽曲 I ③	少し編成の大きな曲に取り組みます 夏休みの課題の確認
第7回	管弦楽曲 I ④	少し編成の大きな曲に取り組みます
第8回	演奏	管弦楽曲を演奏し確認をします

学期末試験評価方法

リーディング奏法を毎授業行います。出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。

平常60% 出席20% 試験20%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	スコアリーディングⅡ	演習	実	齋藤 良

科目概要

1. 2クォーターで学んだことをふまえ、編成の大きな楽曲に取り組み、譜分けの方法、演奏方法を学びスコアリーディング力をさらに高めます。クラシックコンサートの準備も同時に行っていきます。この科目は講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき運営します。

到達目標

オーケストラの配置、編成、それぞれの楽器特有の記号なども学習し、エレクトーンの3段譜ではなくオーケストラスコアそのものを見ながら演奏する力をつけ、譜面の読める人間を目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	協奏曲①	小編成の協奏曲 ハイドン/Tp協奏曲など
第2回	協奏曲②	小編成の協奏曲 ハイドン/Tp協奏曲など
第3回	協奏曲③	小編成の協奏曲 ハイドン/Tp協奏曲など
第4回	管弦楽曲Ⅱ①	演奏のしやすさをふまえ譜分けを考える 白鳥の湖
第5回	管弦楽曲Ⅱ②	奏法、細部の確認
第6回	管弦楽曲Ⅱ③	奏法、細部の確認
第7回	演奏	管弦楽曲の演奏をし確認します

クォーター末試験評価方法

リーディング奏法を毎授業行います。出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。

平常60% 出席20% 試験20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	交響曲①	大編成曲の譜分けの方法①
第2回	交響曲②	大編成曲の譜分けの方法②
第3回	交響曲③	研究と演奏の実際①
第4回	交響曲④	研究と演奏の実際② 冬休みの課題の確認
第5回	交響曲⑤	研究と演奏の実際③
第6回	交響曲⑥	学年末試験に向けて①
第7回	交響曲⑦	学年末試験に向けて②
第8回	交響曲⑧	演奏発表

学期末試験評価方法

リーディング奏法を毎授業行います。出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。

平常60% 出席20% 試験20%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	スコアリーディングⅢ	演習	実	齋藤 良

科目概要

電子オルガン専攻者にとってのソルフェージュとは、スコアリーディング力もあってこそ！  
2年生で学んだ復習を含めクラシックコンサートの準備も同時に行っていきます。この科目は講師の実務経験（鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験）に基づき運営します。

到達目標

クラシックコンサートの舞台に向けて準備していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	管弦楽曲①	リダクションし弾いてみる
第3回	管弦楽曲②	楽器と音域等を確認
第4回	管弦楽曲③	細分化した曲を確認
第5回	管弦楽曲④	譜面を実際にひいて確認
第6回	管弦楽曲⑤	譜面を実際にひいて確認
第7回	演奏	区切りの箇所までの確認

クォーター末試験評価方法

出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。  
平常60% 出席20% 試験20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	管弦楽曲⑥	木管楽器特有の記譜を学びます。楽器の特性、配置を踏まえながら木管アンサンブル譜を演奏します
第2回	管弦楽曲⑦	金管楽器特有の記譜を学びます。楽器の特性、配置を踏まえながら金管アンサンブル譜を演奏します
第3回	管弦楽曲⑧	Harpのチューニングの記譜法を学びます。グリッサンドに隠された秘密を研究します
第4回	管弦楽曲⑨	少し編成の大きな曲に取り組みます
第5回	管弦楽曲⑩	少し編成の大きな曲に取り組みます
第6回	管弦楽曲⑪	少し編成の大きな曲に取り組みます 夏休みの課題の確認
第7回	管弦楽曲⑫	少し編成の大きな曲に取り組みます
第8回	演奏	管弦楽曲を演奏し確認します

学期末試験評価方法

出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。  
平常60% 出席20% 試験20%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	スコアリーディングⅣ	演習	実	齋藤 良

科目概要

1. 2クォーターで学んだことをふまえ、最終調整をしていきます。打楽器専攻の学生とアンサンブルする機会もあります(選曲による)。4クォーターはラヴェルからオーケストレーションの方法をスコアから読み取ります。この科目は講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき運営します。

到達目標

クラシックコンサートに向けて最終調整をしていきます。  
4クォーターではピアノ曲をオーケストレーションする方法を研究します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	管弦楽曲⑬	最終確認
第2回	管弦楽曲⑭	最終確認
第3回	管弦楽曲⑮	最終確認
第4回	管弦楽曲⑯	最終確認
第5回	管弦楽曲⑰	打楽器とのリハーサルを行います
第6回	管弦楽曲⑱	打楽器とのリハーサルを行います
第7回	演奏	管弦楽曲の演奏をし確認します

クォーター末試験評価方法

出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。  
平常60% 出席20% 試験20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノ曲からオケへ①	有名な作品から手法を学び取ります
第2回	ピアノ曲からオケへ②	楽器、音域にあったフレーズなのか確認をします
第3回	ピアノ曲からオケへ③	試験曲の選曲
第4回	ピアノ曲からオケへ④	ピアノ特有の動きをどうアレンジしていくのか研究します
第5回	ピアノ曲からオケへ⑤	原曲には無いフレーズなどを考えます
第6回	ピアノ曲からオケへ⑥	学年末試験に向けて①
第7回	ピアノ曲からオケへ⑦	学年末試験に向けて②
第8回	ピアノ曲からオケへ⑧	演奏発表

学期末試験評価方法

出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。  
平常60% 出席20% 試験20%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	スコアトレーニングV	実習	実	大木裕一郎

科目概要
この科目では講師の実務経験に基づき(各楽器店教室での指導者、エレクトーン曲集テキストのアレンジなど)演奏、アレンジに必要なソルフェージュ力を身につけていきます。
到達目標
主にオーケストラスコアを用いて、学習していきます。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	本科目1年間の概説 クラシックコンサートについて
第2回	リスニング-①	バロック・古典派楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
第3回	リスニング-②	ロマン派楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
第4回	リスニング-③	近現代楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
第5回	アレンジ法-①	アレンジの様々な方法について ●オーケストラスコアを3段譜にまとめる際のポイントを説明します。
第6回	アレンジ法-②	2台用アレンジの様々な方法について ●パート分けのポイントについて説明します。
第7回	譜面の提出と添削	進んだ譜面を提出します。
クォーター末試験評価方法		
出席及び授業態度70%、クォーター末試験30%		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ法-③	書いた譜面をチェック、添削していきます。
第2回	アレンジ法-④	書いた譜面をチェック、添削していきます。
第3回	アレンジ法-⑤	書いた譜面をチェック、添削していきます。
第4回	REGIST.-①	エレクトーンでオーケストラサウンドを表現する際に必要なことは?
第5回	REGIST.-②	音色の組み合わせの復習します。
第6回	REGIST.-③	レジストデータの確認とアドバイス ●演奏に効果的に使用したい機能、EFFECTを復習します。
第7回	REGIST.-④	バランスを取っていきながら、完成に向けて行きます。
第8回	演奏試験	IIクォーターで仕上がった所までを音出し確認します。
学期末試験評価方法		
出席及び授業態度70%、クォーター末試験30%		

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	スコアトレーニングⅥ	実習	実	大木裕一郎

科目概要

この科目では講師の実務経験に基づき(各楽器店教室での指導者、エレクトーン曲集テキストのアレンジなど)

演奏、アレンジに必要なソルフェージュ力を身につけていきます。

到達目標

アレンジした楽曲を、秋のクラシックコンサートで演奏して仕上げとします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	管弦楽曲アレンジ ①	ムソルグスキー: 展覧会の絵 プロムナード オーケストラスコアを見ながらパート毎に演奏します。
第2回	管弦楽曲アレンジ ②	木管、金管、弦に分けて、それぞれの 楽譜を起こしていきます。
第3回	管弦楽曲アレンジ ③	各楽器の特性を知り、エレクトーンでの音色作りをしていきます。
第4回	管弦楽曲アレンジ ④	木管、金管、弦に分かれてアンサンブルをします。
第5回	管弦楽曲アレンジ ⑤	ローテーションでアンサンブルします。
第6回	管弦楽曲アレンジ ⑥	テストに向けて課題提示をして予習します。
第7回	演奏試験	簡単な管弦楽曲の演奏をします。

クォーター末試験評価方法

出席及び授業態度70%、クォーター末試験30%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	管弦楽曲アレンジ ⑦	ドボルザーク: 交響曲第9番「新世界」の抜粋 木管、金管、弦に分けて、それぞれの楽譜を起こします。
第2回	管弦楽曲アレンジ ⑧	各楽器の特性を知り、エレクトーンでの音色作りをしていきます。
第3回	管弦楽曲アレンジ ⑨	木管、金管、弦に分かれてアンサンブルをします。
第4回	管弦楽曲アレンジ ⑩	ローテーションでアンサンブルをします。
第5回	オーケストレーション ①	ピアノ曲のオーケストラ版を聴きます。 ラヴェル: クーブランの墓 その他
第6回	オーケストレーション ②	ピアノ曲をオーケストレーションをします。 例を挙げていながら実習します。
第7回	オーケストレーション ③	演奏、音色の研究をしてき、仕上げます。
第8回	演奏試験	オーケストレーションした楽曲の発表をします。

学期末試験評価方法

出席及び授業態度50%、コンサート本番の演奏評価50%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	インプロヴィゼーション I Ⅲ	演習	実	藤本暁子

科目概要

ポピュラー音楽で使う、コードやアドリブについて学習していきます。1クォーターは”ブルース”と”リズムチェンジ”について学習します。同時にテンションコードについても学習します。2クォーターはⅡm7とV7で使えるモードスケールを使ってソロをとる練習をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、キーボーディスト、コンポーザー、アレンジャー、)の経験に基づき、実践しながら学んでいきます。

到達目標

試験はピアノトリオの形で行います。授業で得た知識を生かし、ピアニストとして、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	JazzBlues ①	● key of C
第2回	JazzBlues ②	● key of F
第3回	Rhythm Change ①	● key of Bb
第4回	Rhythm Change ②	● key of Bb
第5回	まとめ	このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
第6回	試験	このクォーターで学習した曲とトランスクリプトした曲をパフォーマンスする。(録画します。)
第7回	総括	試験の映像を見て、反省すると共に、2Qに向けての目標を設定する。

クォーター末試験評価方法

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ツーファイブ進行におけるⅡm7とV7で使えるスケール①	Major key
第2回	ツーファイブ進行におけるⅡm7とV7で使えるスケール②	Minor key
第3回	ツーファイブジャズラインをつくるための基本的な方法①	● アルペジを使う ● 1つのスケールでつくる ● スケールとアルペジオを組み合わせる
第4回	ツーファイブジャズラインをつくるための基本的な方法②	● ターゲット音を使う
第5回	Ending の創り方	Ending の技法とコードプログレッション
第6回	まとめ	このクォーターのまとめと、試験のレクチャー
第7回	試験	このクォーターで学習した曲とトランスクリプトした曲をパフォーマンスする。(録画します。)
第8回	総括	試験の映像を見て、反省すると共に、3Qに向けての目標を設定する。

学期末試験評価方法

試験のパフォーマンスと、毎回の授業への取り組み方で評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	インプロヴィゼーションⅡⅣ	演習	実	藤本暁子

科目概要

Ⅱm7 V7 I、フレーズを練習していきます。代理コードを用いて新しいフレーズをどんどん学習していきます。基本的なⅡm7 V7 I、フレーズをたくさん覚えて自分のソロの引き出しを増やしていきましょう。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、キーボーディスト、コンポーザー、アレンジャー、)の経験に基づき、実践しながら学んでいきます。

到達目標

試験はピアノトリオの形で行います。授業で得た知識を生かし、ピアニストとして、しっかりパフォーマンスできているかどうか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Intro の創り方	● テーマモチーフを利用 ● ペダルポイント ● コードプログレッション
第2回	Ⅱm7 (Ⅱm7b9)/コードトーンまたはテンションノートから始まるツーファイブジャズライン	コードトーンとテンションノートの把握
第3回	アプローチ・ノートを用いたツーファイブジャズライン ①	クロマティックアプローチ
第4回	アプローチ・ノートを用いたツーファイブジャズライン ②	インダイレクト・リゾリューション
第5回	ツーファイブジャズラインのパターン	key of C, Db, D, Eb, E, F, Gb, G, Ab, A, Bb, B,
第6回	試験	このクォーターで学習した曲とトランスクリプトした曲をパフォーマンスする。(録画します。)
第7回	総括	試験の映像を見て、反省すると共に、4Qに向けての目標を設定する。

クォーター末試験評価方法

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	V7の代理コードによるツーファイブジャズライン ①	Lydian b7, Mixolydian scale
第2回	V7の代理コードによるツーファイブジャズライン ②	Lydian b7, Mixolydian scale
第3回	すべてのメジャーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ①	12 keys
第4回	すべてのメジャーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ②	12 keys
第5回	すべてのマイナーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ①	12 keys
第6回	すべてのマイナーキーにおけるさまざまなツーファイブジャズライン ②	12 keys
第7回	試験	このクォーターで学習した曲とトランスクリプトした曲をパフォーマンスする。(録画します。)
第8回	総括	試験の映像を見て、反省すると共に、1年間の授業を振り返る。

学期末試験評価方法

「アンサンブル」という団体競技と「ソロ」という個人競技、両方共がバランスよく発揮できているかどうか。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	レジストリー研究 I	演習	実	大木裕一郎

科目概要

この科目では講師の実務経験に基づき(エレクーン曲集、テキストのアレンジなど)レジストレーションデータ作成をマスターしていくことを目的とした授業です。また、必要であればイベントで演奏する楽曲のデータも作成したり、編集してきます。

到達目標

基本的な操作や用語の意味を復習します。  
レジストレーション制作の流れを一通り学習します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1年間のガイダンス	本科目1年間の概説など。
第2回	データ作成手順を今一度整理しよう。	用語復習と平行して、操作を覚えていきます。
第3回	PRESET音色 STRINGS①	プリセットのストリングス音色の特徴を知ります。
第4回	PRESET音色 STRINGS②	プリセットのストリングス音色の特徴を知ります。
第5回	PRESET音色 BRASS①	プリセットのブラス音色の特徴を知ります。
第6回	PRESET音色 BRASS②	プリセットのブラス音色の特徴を知ります。
第7回	STRINGS音色についての小テスト	音色について簡単なテストをします。

クォーター末試験評価方法

出席及び授業態度60%、クォーター末試験40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	PRESET音色 W.WIND①	プリセットの木管楽器音色の特徴を知ります。
第2回	PRESET音色 W.WIND①	プリセットの木管楽器音色の特徴を知ります。
第3回	PRESET音色 その他	Tuttiや、特徴のあるカテゴリーの音色を知ります。
第4回	PRESET音色とVOICE CONDITION	各機能の説明と復習をします。
第5回	RHYTHM-パターン作成の基本	リズムパターン作成の基本を学びます。
第6回	リズムパターンを組んでみよう。	リズム/レジスト、シーケンス機能を使用します。
第7回	レジストとリズムを作成してみよう。	1曲分のレジストデータを作成します。
第8回	春学期で取り上げた項目からテスト	春学期のまとめをテストします。

学期末試験評価方法

出席及び授業態度60%、クォーター末試験40%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	レジストリー研究Ⅱ	演習	実	大木裕一郎

科目概要

この科目では講師の実務経験に基づき(エレクtoon曲集、テキストのアレンジなど)レジストレーションデータ作成をマスターしていくことを目的とした授業です。また、必要であればイベントで演奏する楽曲のデータも作成したり、編集してきます。

到達目標

1年のまとめ、また2年次の準備として簡単なスコアなどからアレンジをしレジストレーションデータも制作して、作品の完成を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様々なリズムパターンを知る。	様々なジャンルのリズムをELSで再現します。
第2回	PRESETパターンを元に打ち込みの仕方を研究	内蔵されているパターンを研究していきます。
第3回	様々なパターンを入力し、操作に慣れよう。	データ制作実習をしながら操作に慣れていきます。
第4回	アセンブリーを使って、オリジナルパターンを作ろう。	アカンパニメントの効果的な使用法も研究します。
第5回	こだわった設定をしてみよう。	様々な設定をして、こだわったデータ作りをしていきます。
第6回	期末試験に向けての復習	3クォーターの復習です。
第7回	レジストデータを作成し演奏。	レジストデータを作成し演奏します。

クォーター末試験評価方法

出席及び授業態度80%、クォーター末試験20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	簡単アレンジー①	オーケストラスコアから3段譜にアレンジします。
第2回	簡単アレンジー②	オーケストラスコアから3段譜にアレンジします。
第3回	REGIST制作ー①	アレンジした譜面に沿ってデータを作っていきます。
第4回	REGIST制作ー②	アレンジした譜面に沿ってデータを作っていきます。
第5回	REGIST制作ー③	実際に音出しをしながら、バランスを取っていきます。
第6回	REGIST制作ー④	実際に音出しをしながら、バランスを取っていきます。
第7回	1年間のまとめ	アレンジした楽曲の音出しをします。
第8回	試験	データを制作し、演奏までを試験とします。

学期末試験評価方法

出席及び授業態度60%、クォーター末試験40%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	サウンドメイク I	実習	実	大木裕一郎

科目概要

この科目では講師の実務経験に基づき(エレクーン曲集、テキストのアレンジなど)レジストデータの作成を学びます。

1年で学んだ、データ制作の経験を活かし、アレンジを絡めていきます。

到達目標

更に機能に入り込んでいき、アレンジに取り入れていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	1年間の流れを確認します。
第2回	VOICE EDIT①	この機能でできることを学びます。
第3回	VOICE EDIT②	実際に応用していきます。
第4回	VOICE EDIT③	アレンジに活かしていく方法を学びます。
第5回	EFFECT①	EFFECTの種類を学びます。
第6回	EFFECT②	活用法を学びます。
第7回	小テスト	VOICE EDITを用いた小テストをします。

クォーター末試験評価方法

出席及び授業態度60%、クォーター末試験40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クラシックアレンジー①	オーケストラスコアから3段譜にアレンジをします。
第2回	クラシックアレンジー②	2台用にアレンジするには?様々なパート分けをします。
第3回	クラシックアレンジー③	上記でアレンジした曲のレジストを作成します。
第4回	クラシックアレンジー④	実際に譜面にしていき、音出しをしながらチェックします。
第5回	ボイス選択復習	音色の研究-よりリアルな音を追求していきます。
第6回	リズム研究	オーケストラパーカッションの打ち込み研究をします。
第7回	試験に向けてのアドバイス	バランスを取りながら仕上げをしていきます。
第8回	期末試験	Ⅱクォーターでアレンジした曲を二人で演奏します。

学期末試験評価方法

出席及び授業態度60%、クォーター末試験40%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	サウンドメイクⅡ	実習	実	大木裕一郎

科目概要

この科目では講師の実務経験に基づき(エレクトーン曲集、テキストのアレンジなど)レジストデータの作成を学びます。  
春学期で取り上げた内容を更に組み込んでいきます。

到達目標

Ⅲクォーター…… 市販曲集のデータを研究していき、アレンジに活かしていきます。  
Ⅳクォーター…… ポピュラー曲のアレンジをします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ①	アレンジの曲決めなどをします。
第2回	アレンジ②	市販曲集を用いて、アレンジの分析をします。
第3回	アレンジ③	楽曲の音源を参考に、パートを割り振ります。
第4回	アレンジ④	アレンジをした曲の音色データ作成します。
第5回	アレンジ⑤	アレンジをした曲のリズムデータ作成します。
第6回	アレンジ⑥	2台用のバランスを取りながら仕上げをします。
第7回	1クォーターの確認	アレンジの譜面をチェックします。

クォーター末試験評価方法

出席及び授業態度80%、クォーター末試験20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ポピュラーアレンジ①	選曲をし、バンドスコアを用いてアレンジしていきます。
第2回	ポピュラーアレンジ①	出来る範囲で、音源のコピーに挑戦します。
第3回	ポピュラーアレンジ③	アレンジをした曲のレジストデータ作成します。
第4回	ポピュラーアレンジ④	アレンジした曲のリズムを作成します。
第5回	ポピュラーアレンジ⑤	アレンジした曲のリズムを作成します。
第6回	ポピュラーアレンジ⑥	レジストデータのバランスを取っていきます。
第7回	1年間のまとめ	1年間で取り上げた内容の復習をします。
第8回	試験	実技試験- アレンジした曲の演奏を試験とします。

学期末試験評価方法

出席及び授業態度60%、クォーター末試験40%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ポピュラージャンル研究Ⅰ	実習	実	駿河 知子

科目概要

1クォーターは映画・ミュージカルといった複合芸術における音楽を取り上げ、その効果や特徴を文化や社会の時代における変化を意識しながら探っていきます。2クォーターでクラシックの中からバロック・近現代の作品を取り上げ、その様式感を歴史的背景や地域特性などを踏まえて探っていきます。この科目は講師の実務経験（鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験）に基づき運営します。

到達目標

様々な楽曲の特徴を明確に捉え、分類・分析する力を身に着けます。音楽の基礎知識やメディアミックスにおける音楽の効果を学ぶことによって、自分を取り組んでいく音楽を深く理解し、作品制作や表現技法につなげていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	概論〈映像と音楽〉	映画とミュージカルのメディア特性と、そこにおける音楽の使われ方や効果を映像とともに検証
第2回	映画音楽①	サイレント時代からオリジナルスコアの時代へ初期から黎明期の映画音楽の様子、その構造
第3回	映画音楽②	60年代におけるロックやジャズの台頭の様子と、映画音楽の軽量化、ポップス化の波
第4回	映画音楽③	イメージを喚起させる映画音楽から学ぶ、オーケストレーションやモチーフの効果的な使い方
第5回	ミュージカル①	ブロードウェイミュージカルと、初期の作品から生まれたスタンダードナンバーを分析
第6回	ミュージカル②	5～60年代の黄金期のミュージカル作品から生まれたスタンダードナンバー、アレンジの魅力を考察
第7回	ミュージカル③／レポート提出	ヨーロッパのミュージカル作品の特徴を分析 〈映像と音楽〉関連のレポートを提出

クォーター末試験評価方法

不定期に小テストを実施します。また7回目にレポートを提出します。内容の詳細については5回目の授業で提示します。授業ではしっかりノートを取り、また積極的に発言していきましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロックの概要	西洋音楽史と、そこにおけるバロック時代の位置づけを通して、その特徴をつかむ
第2回	バロック①	ビバルディの楽曲を通して、器楽、近代調性、形式他、基礎知識を確認
第3回	バロック②	バッハの楽曲を通してフーガ形式など様々なバロック的技法を確認 ポピュラー音楽への影響も考察
第4回	バロック③	ヘンデルの楽曲を通してバロック音楽におけるポピュラリティの側面について考察
第5回	近現代の概要	西洋音楽史における近現代の位置づけを通して、その多様性を考察
第6回	近現代①	印象派の作品鑑賞を通して形式や和声の拡大を捉える ポピュラー音楽への影響も考察
第7回	近現代②／レポート提出	ストラヴィンスキーの楽曲を通してリズムや和声の可能性について検証 ／クラシック関連のレポートを提出
第8回	試験	1、2クォーターの授業内容に関する筆記試験

学期末試験評価方法

筆記試験・レポート50%、出席率30%、平常点（小テスト、受講態度など）20%  
授業内容を総合的に捉える力が問われます。試験は記述形式での解答となりますので、ノートをしっかり取り、内容をよく理解していきましょう。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ポピュラージャンル研究Ⅱ	実習	実	駿河 智子

科目概要

ポピュラー音楽シーンにおけるロックとジャズの誕生とその普及や変遷の様子を辿りながら、なぜ時代を超えて多くの人々を魅了し影響を及ぼすに至ったか、その普遍性を世相や文化なども絡ませながら分析していきます。この科目は講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき運営します。

到達目標

ロック、ジャズのジャンル感の習得を目指します。今まで聴いてきた音楽が偏っていると自覚する人は、音楽観を広げるきっかけになると良いと思います。音源・映像も沢山使用しますので、電子オルガンにおける楽曲制作やパフォーマンスのヒントとしていきましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ロックンロール革命	ロックの誕生とそのルーツ、初期のスタイルと波及の様子
第2回	黒人たちの作ったポップス	60年代におけるモータウンサウンドの戦略と特徴を分析して、60年代のリズム&ブルースの一角を理解
第3回	ヨーロッパにおけるロックの進化	ヨーロッパにおけるクラシックや民族音楽との融合を踏まえたロックの進化の様子
第4回	ポップスにおける表現の広がり	60年代後半～70年代のアメリカンポップスのサウンドとそのメッセージ性を分析
第5回	80年代の華麗なるサウンド	MTVの躍進によるポップスのメディア的変化の様子や、デジタル技術の進歩に伴うサウンドの構築性を探る
第6回	躍らせるリズムセクション①	6～70年代のファンク音楽を分析してリズムセクションアレンジを聴き分ける
第7回	躍らせるリズムセクション②/レポート提出	80年代以降のヨーロッパを中心としたクラブ系ミュージックを分析 ポップス関連のレポートを提出

クォーター末試験評価方法

不定期に小テストを実施します。また7回目にレポートを提出します。内容の詳細については5回目の授業で提示します。授業ではしっかりノートを取り、また積極的に発言していきましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ジャズに親しむ	いろいろなスタイルのジャズや、メロディー集の中のジャズスタンダードナンバーを体験
第2回	様々なジャズの形態①	ジャズの誕生とそのルーツ、その波及の様子とアーリージャズの特徴
第3回	様々なジャズの形態②	スイング時代からビバップへ、ジャズの変遷とその特徴
第4回	様々なジャズの形態③	モダンジャズからコンテンポラリージャズ、その変化の様子と特徴
第5回	アコースティックとエレクトリック	70年代のフュージョンムーブメントを通してジャズの表現やサウンドの広がりを感じる
第6回	いろいろな楽器とその表現法	ジャズにおける多彩なサウンドと、その楽器特性による表現の違いを探る
第7回	ジャズにおけるアレンジ	スムーズジャズの洒落たアレンジやサウンドを分析 ジャズ関連のレポートを提出
第8回	試験	1、2クォーターの授業内容に関する筆記試験

学期末試験評価方法

筆記試験・レポート50%、出席率30%、平常点(小テスト、受講態度など)20%  
授業内容を総合的に捉える力が問われます。試験は記述形式での解答となりますので、ノートをしっかり取り、内容をよく理解していきましょう。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	イベント制作 I	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(コンサート/ライブ出演の経験)に基づき、実技レッスンとリンクした形で展開し、これまでのレパートリー曲と後の自編曲を含む演奏表現の幅を広げます。ピアノ・キーボード・シンセサイザーを活用し、より高度な演奏を目指します。

到達目標

ソロ演奏からアンサンブルやバンド形式での演奏スタイルを身に付けます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	現状の様々な演奏のシーンと将来的な楽器との携わり方。
第2回	演奏しよう①	レパートリー実習
第3回	演奏しよう②	レパートリー実習
第4回	演奏しよう③	レパートリー実習
第5回	演奏しよう④	レパートリー実習
第6回	演奏しよう⑤	レパートリー実習
第7回	発表会	まとめの発表会

クォーター末試験評価方法

レパートリー曲の拡充と仕上げの具合。技術的な進捗があったかどうか。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	実技の計画	2クォーターの目標設定
第2回	演奏クリニック	EO・シンセ・DAW音源・PC長短所を説明。
第3回	演奏クリニック	シンセを使ってみよう(1)
第4回	演奏クリニック	シンセを使ってみよう(2)
第5回	キーボード・テクニク	キーボードでドラム演奏
第6回	キーボード・テクニク	キーボードでドラム演奏
第7回	キーボード・テクニク	ドラム以外の打楽器
第8回	アンサンブル実習	キーボードのみでバンド編成のアンサンブル

学期末試験評価方法

ピアノ/シンセサイザー等の電子オルガン以外での演奏に対応可能かどうか。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	イベント制作Ⅱ	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(コンサート/ライブ出演の経験)に基づき、実技レッスンとリンクした形で展開し、これまでのレパートリー曲と後の自編曲を含む演奏表現の幅を広げます。ピアノ・キーボード・シンセサイザーを活用し、より高度な演奏を目指します。

到達目標

ソロ演奏からアンサンブルやバンド形式での演奏スタイルを身に付けます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽器研究①	弦楽器(ストリングス)
第2回	楽器研究②	管楽器(木管・金管)
第3回	楽器研究③	オルガン
第4回	楽器研究④	ピアノ
第5回	楽器研究⑤	打楽器
第6回	演奏への応用	オーケストラ編成
第7回	演奏への応用	その他、民族音楽

クォーター末試験評価方法

楽器に対する常識的な知識を持つこと、それらを編曲に応用できることがポイントです。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音楽で社会貢献しよう	童謡
第2回	音楽で社会貢献しよう	民謡
第3回	音楽で社会貢献しよう	昭和の唱歌
第4回	音楽で社会貢献しよう	演歌
第5回	音楽で社会貢献しよう	ダンス音楽
第6回	音楽で社会貢献しよう	子供向け楽曲(1)
第7回	音楽で社会貢献しよう	子供向け楽曲(2)
第8回	演奏実習	任意のテーマに基づき発表

学期末試験評価方法

総合的な構成能力を身につけ、音楽をまとめ上げる能力が必要になります。  
評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	イベント制作Ⅲ	演習	実	日下将太郎

科目概要

ライブ本番に向けて、総合・実践的に取り組んでいきます。尚、講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

到達目標

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を1～2クォーターで作り上げていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ライブについての説明	ライブ実施についての概要を説明、続いて役割分担など、必要事項の取り決めを行ないます。
第2回	コンセプト①	ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い、全体の方向を定めていきます。
第3回	コンセプト②	第2回に引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
第4回	選曲	コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
第5回	進行について①	オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
第6回	進行について②	進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
第7回	内容確認	台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

クォーター末試験評価方法

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析	各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
第2回	課題実習① 編曲	スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。
第3回	課題実習② 編曲	第2回に引き続き、編曲を進めます。
第4回	課題実習③ 編曲	スコアに基づいて、パート譜を作成します。
第5回	課題実習④ 音色作成	レジストレーションを作成します。
第6回	課題実習⑤ 演奏	音色(楽器)に見合う演奏法を探ります。
第7回	リハーサル	ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
第8回	本番	1クォーターから取り組んできた内容を発表。

学期末試験評価方法

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	イベント制作Ⅳ	演習	実	日下将太郎

科目概要

ライブ本番に向けて、総合・実践的に取り組んでいきます。尚、講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

到達目標

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を3～4クォーターで作り上げていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	次ライブに向けて	春学期のライブを踏まえて、次ライブの概要について説明し、必要事項の取り決めを行ないます。
第2回	コンセプト①	ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い、全体の方向を定めていきます。
第3回	コンセプト②	第2回に引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
第4回	選曲	コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
第5回	進行について①	オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
第6回	進行について②	進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
第7回	内容確認	台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

クォーター末試験評価方法

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析	各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
第2回	課題実習① 編曲	スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。
第3回	課題実習② 編曲	第2回に引き続き、編曲を進めます。
第4回	課題実習③ 編曲	スコアに基づいて、パート譜を作成します。
第5回	課題実習④ 音色作成	レジストレーションを作成します。
第6回	課題実習⑤ 演奏	音色(楽器)に見合う演奏法を探ります。
第7回	リハーサル	ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
第8回	本番	3クォーターから取り組んできた内容を発表。

学期末試験評価方法

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	コンサートディレクションI	演習	実	日下将太郎

科目概要

ライブ本番に向けて、総合・実践的に取り組んでいきます。尚、講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

到達目標

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を1～2クォーターで作り上げていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ライブについての説明	ライブ実施についての概要を説明、続いて役割分担など、必要事項の取り決めを行ないます。
第2回	コンセプト①	ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い、全体の方向を定めていきます。
第3回	コンセプト②	第2回に引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
第4回	選曲	コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
第5回	進行について①	オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
第6回	進行について②	進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
第7回	内容確認	台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

クォーター末試験評価方法

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析	各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
第2回	課題実習① 編曲	スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。
第3回	課題実習② 編曲	第2回に引き続き、編曲を進めます。
第4回	課題実習③ 編曲	スコアに基づいて、パート譜を作成します。
第5回	課題実習④ 音色作成	レジストレーションを作成します。
第6回	課題実習⑤ 演奏	音色(楽器)に見合う演奏法を探ります。
第7回	リハーサル	ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
第8回	本番	1クォーターから取り組んできた内容を発表。

学期末試験評価方法

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	コンサートディレクションⅡ	演習	実	日下将太郎

科目概要

ライブ本番に向けて、総合・実践的に取り組んでいきます。尚、講師は各音楽教室でのレッスン、編曲家としての実務経験を持ちます。

到達目標

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を3～4クォーターで作り上げていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	次ライブに向けて	春学期のライブを踏まえて、次ライブの概要について説明し、必要事項の取り決めを行ないます。
第2回	コンセプト①	ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い、全体の方向を定めていきます。
第3回	コンセプト②	第2回に引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
第4回	選曲	コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
第5回	進行について①	オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
第6回	進行について②	進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
第7回	内容確認	台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

クォーター末試験評価方法

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析	各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
第2回	課題実習① 編曲	スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。
第3回	課題実習② 編曲	第2回に引き続き、編曲を進めます。
第4回	課題実習③ 編曲	スコアに基づいて、パート譜を作成します。
第5回	課題実習④ 音色作成	レジストレーションを作成します。
第6回	課題実習⑤ 演奏	音色(楽器)に見合う演奏法を探ります。
第7回	リハーサル	ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
第8回	本番	3クォーターから取り組んできた内容を発表。

学期末試験評価方法

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	コンサートディレクションⅢ	演習	実	笠原康弘

科目概要

コンサートの企画を立て、運営する。それに伴う企画書、ステージ表、進行台本等のファイル作成、ポスター、フライヤー等のデザインも自ら行う。尚、講師はコンピュータデザイン会社にてマイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

到達目標

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を1～2クォーターで作り上げていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ライブについての説明	ライブ実施についての概要を説明、続いて役割分担など、必要事項の取り決めを行ないます。
第2回	コンセプト①	ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い、全体の方向を定めていきます。
第3回	コンセプト②	第2回に引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
第4回	選曲	コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
第5回	進行について①	オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
第6回	進行について②	進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
第7回	内容確認	台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

クォーター末試験評価方法

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析	各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
第2回	課題実習① 編曲	スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。
第3回	課題実習② 編曲	第2回に引き続き、編曲を進めます。
第4回	課題実習③ 編曲	スコアに基づいて、パート譜を作成します。
第5回	課題実習④ 音色作成	レジストレーションを作成します。
第6回	課題実習⑤ 演奏	音色(楽器)に見合う演奏法を探ります。
第7回	リハーサル	ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
第8回	本番	1クォーターから取り組んできた内容を発表。

学期末試験評価方法

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	コンサートディレクションⅣ	演習	実	笠原康弘

科目概要

コンサートの企画を立て、運営する。それに伴う企画書、ステージ表、進行台本等のファイル作成、ポスター、フライヤー等のデザインも自ら行う。尚、講師はコンピュータデザイン会社にてマイクロソフト社・日立等の映像素材制作の経験を持ちます。

到達目標

ライブへの参加を最終目的、目標にして、企画から本番までのステージング、楽曲アレンジ、演奏法を3～4クォーターで作り上げていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	次ライブに向けて	春学期のライブを踏まえて、次ライブの概要について説明し、必要事項の取り決めを行ないます。
第2回	コンセプト①	ライブ出演において各々目標を掲げ、コンセプトや企画内容について意見を出し合い、全体の方向を定めていきます。
第3回	コンセプト②	第2回に引き続き、それぞれ意見交換を行ない、内容をかためていきます。
第4回	選曲	コンセプトに基づいて、割り振りや全体の選曲を行ないます。
第5回	進行について①	オープニングからクロージングまで、本番の進行について取り決め、台本を作成しています。
第6回	進行について②	進行役、映像など、各担当の詳細を決定します。
第7回	内容確認	台本を読み合わせ、内容を確認していき、その都度修正を行ないます。

クォーター末試験評価方法

出席と平常点、授業への取り組み、企画内容について総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析	各々の演奏曲について、構成やスタイルを分析します。
第2回	課題実習① 編曲	スコア作成について説明し、編曲を進めていきます。
第3回	課題実習② 編曲	第2回に引き続き、編曲を進めます。
第4回	課題実習③ 編曲	スコアに基づいて、パート譜を作成します。
第5回	課題実習④ 音色作成	レジストレーションを作成します。
第6回	課題実習⑤ 演奏	音色(楽器)に見合う演奏法を探ります。
第7回	リハーサル	ライブの進行に沿って、リハーサルを行ないます。
第8回	本番	3クォーターから取り組んできた内容を発表。

学期末試験評価方法

本番の完成度、それに至るまでの取り組みを総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作品分析基礎I	演習	実	日下将太郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(主に曲集等、出版物の編曲家としての活動)に基づき、1クォーターでは、原曲を忠実に再現することをテーマに、採譜から演奏まで順を追って取り組んでいきます。2クォーターでは、スタンダード曲をアレンジして演奏することをテーマに、それぞれ進めていきます。尚、講師はアレンジャーとしての実務経験を持ちます。

到達目標

採譜してそれを演奏するまでの再現力と、それを応用して、オリジナル編曲する創造力を養います。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎知識	リズムセクションの知識を習得します。
第2回	楽曲分析	課題楽曲の構成やスタイルを分析します。
第3回	課題実習①	音源から採譜していきます。
第4回	課題実習②	楽譜を書いています。
第5回	課題実習③	楽曲に基づく音色を考え、作成します。
第6回	演奏法	音色(楽器)に見合う演奏法を探ります。
第7回	発表	作品の楽譜提出と演奏発表。

クォーター末試験評価方法

出席と平常点で50%、試験(作品内容)50%。授業への取り組み、楽譜の完成度、演奏から総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎知識	ポピュラー音楽のジャンルについて①
第2回	課題提示	候補曲をピックアップし、編曲の方向性を決定します。
第3回	課題実習①	楽曲の構成を考えます。
第4回	課題実習②	スケッチで、各パートの役割や配分を考えます。
第5回	課題実習③	スコアを作成します。
第6回	課題実習④	レジストレーションを組み立てていきます。
第7回	演奏法	音色(楽器)に見合う演奏法を探ります。
第8回	発表	作品の楽譜提出と演奏発表。

学期末試験評価方法

出席と平常点で50%、試験(作品内容)50%。授業への取り組み、楽譜の完成度、演奏から総合評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作品分析基礎Ⅱ	演習	実	日下将太郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(主に曲集等、出版物の編曲家としての活動)に基づき、3クォーターでは、春学期の応用としてブラスセクションのコピーを行ない、それをスコアにして演奏します。4クォーターでは、構成や編成の複雑なオリジナル・アレンジに取り組みます。

到達目標

採譜してそれを演奏するまでの再現力と、それを応用して、オリジナル編曲する創造力を養います。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎知識	ホーンの知識を習得します。
第2回	楽曲分析	ブラスセクションを含んだ楽曲を分析します。
第3回	課題実習①	課題楽曲の各パートを採譜します。
第4回	課題実習②	ブラスセクションのスコアを作成します。
第5回	課題実習③	ブラス音色の作り方を実習します。
第6回	演奏法	音色(楽器)に見合う演奏法を探ります。
第7回	発表	作品の楽譜提出と演奏発表。

クォーター末試験評価方法

出席と平常点で50%、試験(作品内容)50%。授業への取り組み、楽譜の完成度、演奏から総合評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎知識	ポピュラー音楽のジャンルについて②
第2回	課題提示	候補曲をピックアップし、編曲の方向性を決定します。
第3回	課題実習①	楽曲の構成を考えます。
第4回	課題実習②	スケッチで、各パートの役割や配分を考えます。
第5回	課題実習③	スコアを作成します。
第6回	課題実習④	レジストレーションを組み立てていきます。
第7回	演奏法	レジストレーションを組み立てていきます。
第8回	発表	作品の楽譜提出と演奏発表。

学期末試験評価方法

出席と平常点で50%、試験(作品内容)50%。授業への取り組み、楽譜の完成度、演奏から総合評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作品分析 I	演習	実	齋藤 良

科目概要

クラシックコンサートの舞台に向けて選曲、分析し、3段譜にリダクションしていきます。この科目は講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき運営します。

到達目標

譜面には書かれていないところを読み取る力をつけていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	分析①	楽曲を全体的にとらえる
第3回	分析②	楽曲を細分化
第4回	リダクション①	実際に譜分けをし、リダクションする
第5回	リダクション②	実際に譜分けをし、リダクションする
第6回	リダクション③	実際に譜分けをし、リダクションする
第7回	演奏	作品の確認

クォーター末試験評価方法

出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。  
平常60% 出席20% 試験20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リダクション④	譜分けをし、リダクションする
第2回	リダクション⑤	譜分けをし、リダクションする
第3回	分析Ⅱ①	リダクションした譜面を分析する
第4回	分析Ⅱ②	リダクションした譜面を分析する
第5回	分析Ⅱ③	研究
第6回	分析Ⅱ④	研究 夏休みの課題を確認
第7回	分析Ⅱ⑤	研究
第8回	演奏	作品の確認

学期末試験評価方法

出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。  
平常60% 出席20% 試験20%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作品分析Ⅱ	演習	実	齋藤 良

科目概要

1. 2クォーターで学んだことをふまえ、最終調整をしていきます。この科目は講師の実務経験(鍵盤楽器演奏及びレコーディングの経験)に基づき運営します。

到達目標

最高の作品にすることを目指します

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分析Ⅲ①	楽曲の分析/リダクション
第2回	分析Ⅲ②	楽曲の分析/リダクション
第3回	分析Ⅳ①	楽曲の分析/リダクション
第4回	分析Ⅳ②	最終確認
第5回	分析Ⅳ③	最終確認
第6回	分析Ⅳ④	最終確認
第7回	演奏	作品の確認

クォーター末試験評価方法

出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。  
平常60% 出席20% 試験20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分析①	選曲
第2回	分析②	楽曲の分析/リダクション
第3回	分析③	楽曲の分析/リダクション
第4回	分析④	研究
第5回	分析⑤	研究
第6回	分析⑥	学年末試験に向けて
第7回	分析⑦	学年末試験に向けて
第8回	演奏	演奏発表

学期末試験評価方法

出席状況授業内での取り組む姿勢、授業ごとの習得度を中心に評価します。  
平常60% 出席20% 試験20%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作品分析 Ⅲ	実習	実	大木裕一郎

科目概要

この科目では講師の実務経験に基づき(エレクトーン曲集、テキストのアレンジなど)クラシック楽曲のアレンジに取り組みます。

到達目標

長い時間をかけ、秋のクラシックコンサートに向けて数曲をじっくり作り上げていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	本科目1年間の概説 クラシックコンサートについて
第2回	リスニング-①	バロック・古典派楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
第3回	リスニング-②	ロマン派楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
第4回	リスニング-③	近現代楽曲の試聴・各グループの曲決めをします。
第5回	アレンジ法-①	アレンジの様々な方法について ●オーケストラスコアを3段譜にまとめる際のポイントを説明します。
第6回	アレンジ法-②	2台用アレンジの様々な方法について ●パート分けのポイントについて説明します。
第7回	譜面の提出と添削	進んだ譜面を提出します。

クォーター末試験評価方法

出席及び授業態度70%、クォーター末試験30%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ法-③	書いた譜面をチェック、添削していきます。
第2回	アレンジ法-④	書いた譜面をチェック、添削していきます。
第3回	アレンジ法-⑤	書いた譜面をチェック、添削していきます。
第4回	REGIST.-①	エレクトーンでオーケストラサウンドを表現する際に必要なことは?
第5回	REGIST.-②	音色の組み合わせの復習します。
第6回	REGIST.-③	レジストデータの確認とアドバイス ●演奏に効果的に使用したい機能、EFFECTを復習します。
第7回	REGIST.-④	バランスを取っていきながら、完成に向けて行きます。
第8回	演奏試験	Ⅱクォーターで仕上がった所までを音出し確認します。

学期末試験評価方法

出席及び授業態度70%、クォーター末試験30%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作品分析 IV	実習	実	大木裕一郎

科目概要

この科目では講師の実務経験に基づき(エレクトーン曲集、テキストのアレンジなど)クラシック楽曲のアレンジに取り組みます。

到達目標

長い時間をかけ、秋のクラシックコンサートに向けて数曲をじっくり作り上げていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	仕上げ作業・演奏法①	演奏し、バランスを取りながら最終的なチェック ●リバーブ、バランスなどを細かく見ていきます。
第2回	仕上げ作業・演奏法②	演奏し、バランスを取りながら最終的なチェック ●リバーブ、バランスなどを細かく見ていきます。
第3回	ソロアレンジ①	リスニング～小品～ 弦楽セレナーデ・・・他 (曲決め)
第4回	ソロアレンジ②	リスニング～大編成～ 交響曲・組曲・・・他 (曲決め)
第5回	ソロアレンジ③	ソロ用アレンジする際に無理なく弾きやすい形に アレンジする方法を学びます。
第6回	ソロアレンジ④	ソロ用アレンジする際に無理なく弾きやすい形に アレンジする方法を学びます。
第7回	試験一楽譜提出	提出楽譜をチェックします。

クォーター末試験評価方法

出席及び授業態度70%、クォーター末試験30%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ソロアレンジ⑤	演奏をしながら進捗を確認していきます。
第2回	ソロアレンジ⑥	書いた譜面をチェック、添削していきます。
第3回	ソロアレンジ⑦	レジストデータの確認とアドバイスをしていきます。
第4回	ソロアレンジ⑧	レジストデータの確認とアドバイスをしていきます。
第5回	演奏法①	アレンジを進めながら演奏表現について触れます。
第6回	演奏法②	アレンジを進めながら演奏表現について触れます。
第7回	演奏法③	アレンジを進めながら演奏表現について触れます。
第8回	演奏試験	仕上がった曲を発表します。

学期末試験評価方法

出席及び授業態度50%、コンサート本番の演奏評価50%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	電子オルガン編曲法 I	演習	実	中村美奈子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(エレクトーンアレンジャー、エレクトーンデモンストレーターとしての活動)に基づき、ポピュラー音楽を多角的に捉えた電子オルガンアレンジができるようにします。

到達目標

スケール・カデンツなどの音楽的基礎の復習を踏まえ、ヴォイスングの組み立てをできるようにします。  
後半では、学んだヴォイスングをもとに各楽器のアレンジを研究をしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明、オリエンテーション	1年間の内容と説明
第2回	基礎の確認	電子オルガンでのスケール・カデンツ他の復習
第3回	コード・ヴォイスング①	3.7度のコードを習得します
第4回	コード・ヴォイスング②	3.7度のコード復習をし、様々な曲に対応していきます
第5回	コード・ヴォイスング③	テンションコードについて学びます
第6回	コード・ヴォイスング④	テンションコード、メジャーキー・ツーファイブ、曲の演奏
第7回	試験	授業でおこなった内容を含む演奏試験

クォーター末試験評価方法

試験結果50%  
平常点25%  
出席率25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽器の研究(オルガン)①	オルガンの楽器知識、奏者、演奏、曲から学びます。
第2回	楽器の研究(オルガン)②	オルガンのヴォイスングを研究します
第3回	楽器の研究(ギター)①	アコースティック・エレクトリックギターの楽器知識、奏者、演奏、曲から学びます。
第4回	楽器の研究(ギター)②	ギターのヴォイスングを研究します
第5回	楽器の研究(ベース)①	ベースの楽器知識、奏者、演奏、曲から学びます
第6回	楽器の研究(ベース)②	ベースライン他の研究をします
第7回	まとめ	4リズムのアンサンブルで各楽器の確認をします
第8回	試験	授業でおこなった内容を含むソロ演奏

学期末試験評価方法

試験結果50%  
平常点25%  
出席率25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	電子オルガン編曲法Ⅱ	演習	実	中村美奈子

科目概要

引き続きこの科目では、講師の実務経験(エレクトーンアレンジャー、エレクトーンデモンスレーターとしての活動)に基づき、ポピュラー音楽を多角的に捉えた電子オルガンアレンジができるようにします。

到達目標

更にヴォイスングの幅を広げていき、それをもとに楽器の研究をしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習	1クォーターでおこなったコードヴォイスングの復習
第2回	コードヴォイスング⑤	コードヴォイスング、マイナーキー・ツーファイブ
第3回	コードヴォイスング⑥	前回の復習、様々な曲に対応していきます
第4回	コードプログレッション①	メジャー・マイナーツーファイブの応用をアレンジに取り入れます
第5回	コードプログレッション②	様々な代理コードをアレンジに取り入れていきます
第6回	コードプログレッション③	これまでのまとめ
第7回	試験	授業でおこなった内容を含む演奏試験

クォーター末試験評価方法

試験結果50%  
平常点25%  
出席率25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽器の研究(エレクトリックピアノ他鍵盤)	エレクトリックピアノ他鍵盤の知識、各楽器の奏者、演奏、曲から学びます
第2回	楽器の研究(ブラス①)	ブラスの知識、演奏、曲から学びます
第3回	楽器の研究(ブラス②)	ブラスの知識、ヴォイスングの研究をします
第4回	楽器の研究(ストリングス①)	ストリングスの知識、演奏、曲から学びます
第5回	楽器の研究(ストリングス②)	ストリングスの知識、ヴォイスングの研究をします
第6回	楽器の研究(ドラム・パーカッション①)	ドラム・パーカッションの知識、奏者、演奏から学びます
第7回	楽器の研究(ドラム・パーカッション②)	スタイルに合ったグルーブ感ある打ち込みについて研究します
第8回	試験	授業でおこなった内容を含む演奏試験

学期末試験評価方法

試験結果50%  
平常点25%  
出席率25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	電子オルガン編曲法Ⅲ	演習	実	中村美奈子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(エレクtoonアレンジャー、エレクtoonデモンストレーターとしての活動)に基づき、様々なスタイルのポピュラー音楽を多角的に捉えた電子オルガンアレンジができるようにします。

到達目標

学んだヴォイスिंगをもとに各楽器の研究を進め、ピアノ&電子オルガンアレンジに取り入れていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	電子オルガンアレンジ法Ⅰ、Ⅱの復習	コード、コードプログレッション他の確認
第2回	ピアノ・電子オルガンアレンジ①	ピアノ・電子オルガンのデエツ曲の研究(アナライズ)をします
第3回	ピアノ・電子オルガンアレンジ②	アレンジ曲の選曲をします。
第4回	ピアノ・電子オルガンアレンジ③ (スタイル研究)	アレンジ曲のスタイル選択、ポイントを確認しながら制作していきます
第5回	ピアノ・電子オルガンアレンジ④ (楽器・ヴォイスिंग他研究)	アレンジ曲のポイントを確認しながら制作していきます
第6回	ピアノ・電子オルガンアレンジ⑤	アレンジ曲の音出しをしながら制作していきます
第7回	試験	譜面の提出

クォーター末試験評価方法

試験結果50%  
平常点25%  
出席率25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ピアノ・電子オルガンアレンジ⑥	ピアノ電子オルガンアレンジデータの制作にあたってのポイント
第2回	ピアノ・電子オルガンアレンジ⑦	曲のスタイル、各楽器奏法のポイントを確認しながら制作します
第3回	ピアノ・電子オルガンアレンジ⑧	ドラム・パーカッションのグルーブを意識しながら制作します
第4回	ピアノ・電子オルガンアレンジ⑨	音出し、データバランス・また再度譜面のバランスも確認していきます
第5回	ピアノ・電子オルガンアレンジ⑩	アレンジの微調整、演奏で確認
第6回	ピアノ・電子オルガンアレンジ⑪	奏法、バランスなどに関してディスカッション
第7回	ピアノ・電子オルガンアレンジ⑫	演奏の仕上げ練習
第8回	試験	アレンジ曲の演奏

学期末試験評価方法

試験結果50%  
平常点25%  
出席率25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	電子オルガン編曲法Ⅳ	演習	実	中村美奈子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(エレクtoonアレンジャー、エレクtoonデモンストレーターとしての活動)に基づき、様々なスタイルのポピュラー音楽を多角的に捉えた電子オルガンアレンジができるようにします。

到達目標

学んだヴォイシングをもとに各楽器の研究を進め、各自2台の電子オルガンアレンジに取り入れていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ディスカッション	1.2クォーターの内容をディスカッションします
第2回	電子オルガンアンサンブルアレンジ①	電子オルガンアンサンブル曲の研究(アナライズ)をします
第3回	電子オルガンアンサンブルアレンジ②	アレンジ曲の選曲をします。
第4回	電子オルガンアンサンブルアレンジ③ (スタイル研究)	アレンジ曲のスタイル選択、ポイントを確認しながら制作していきます
第5回	電子オルガンアンサンブルアレンジ④ (楽器・ヴォイシング他研究)	アレンジ曲のポイントを確認しながら制作していきます
第6回	電子オルガンアンサンブルアレンジ⑤	アレンジ曲の音出しをしながら制作していきます
第7回	試験	譜面の提出

クォーター末試験評価方法

試験結果50%  
平常点25%  
出席率25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	電子オルガンアンサンブルアレンジ⑥	アンサンブルアレンジのデータ制作にあたってのポイント
第2回	電子オルガンアンサンブルアレンジ⑦	曲のスタイル、各楽器奏法のポイントを確認しながら制作します
第3回	電子オルガンアンサンブルアレンジ⑧	ドラム・パーカッションのグルーブを意識しながら制作します
第4回	電子オルガンアンサンブルアレンジ⑨	音出しでデータバランス・また再度譜面のバランスも確認していきます
第5回	電子オルガンアンサンブルアレンジ⑩	アレンジの微調整、演奏で確認
第6回	電子オルガンアンサンブルアレンジ⑪	奏法、バランスなどに関してディスカッション
第7回	電子オルガンアンサンブルアレンジ⑫	演奏の仕上げ練習
第8回	試験	アレンジ曲の演奏

学期末試験評価方法

試験結果50%  
平常点25%  
出席率25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	サウンドクリエイター演習ⅠⅢ	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作)に基づき、現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガン専攻生の得意性持つ視点で実際の制作業務をシュミレートする。アニメ・CM・ジングル・キャンペーンテーマソング等あらゆるクライアントからのオーダーに応える実習形式で行う。

到達目標

本人所有のPC(Mac)を用意し制作環境の構築も授業内で指導する。使用DAWは本人の意思に従う。  
作業期間を設定し納品形式で提出する。狙いはより現実的な制作経験との実際に手に職をつける事。  
ここでは仕事ができるようになる！がスローガンである。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	DAWの導入	現状の機材環境を把握し今後必要とされる機材の導入計画と検討を個別で行う。
第2回	DAWの基礎知識	現在のクリエイター事情。なぜDTMでは無くDAWと呼ぶのか。
第3回	MIDIの基礎知識①	物理シンセサイザーの紹介とELSにおけるMIDIの対応性。
第4回	MIDIの基礎知識②	SMFについて解析する。何種類のデータが存在するのか。
第5回	DAWで制作してみる①	提示のCMジングル(3秒)の制作A 「メロディーのライティング」
第6回	DAWで制作してみる②	CMジングル(3秒)の制作B 「音色とサウンドカラーを決定」
第7回	作品提出(納品)	各自DAWのアレンジデータからバウンス(書き出し)しWAV形式で提出。

クォーター末試験評価方法

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか 提出物は納品レベルかどうなのか。

評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	制作の仕事とは	クライアントからどのような依頼があるのか、これまでの作品履歴から簡単にご紹介。
第2回	DAW制作実習 キャンペーンソング①	テーマ:2月恵方巻きソング 大手スーパーやコンビニでの販売キャンペーンソング制作。キャラクターも作ります。
第3回	DAW制作実習 キャンペーンソング①	恵方巻きソング:メロディー・ライティングまたはコードアレンジ。
第4回	DAW制作実習 キャンペーンソング①	恵方巻きソング:コード&リズムアレンジ。
第5回	DAW制作実習 キャンペーンソング①	恵方巻きソング:ミックス
第6回	DAW制作実習 キャンペーンソング②	花粉症対策ソング:メロディーライティング、作詞、コードアレンジ。
第7回	DAW制作実習 キャンペーンソング②	花粉症対策ソング:全体的なアレンジ作業。
第8回	DAW制作実習 キャンペーンソング②	花粉症対策ソング:ミックス&仕上げ作業。

学期末試験評価方法

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか 提出物は納品レベルかどうなのか。

評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	サウンドクリエイター演習ⅡⅣ	実習	実	樺山潤一郎

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作)に基づき、現状の音楽業界の態系を考慮し電子オルガン専攻生の得意性持つ視点で実際の制作業務をシュミレートする。アニメ・CM・ジングル・キャンペーンテーマソング等あらゆるクライアントからのオーダーに応える実習形式で行う。

到達目標

本人所有のPC(Mac)を用意し制作環境の構築も授業内で指導する。使用DAWIは本人の意思に従う。作業期間を設定し納品形式で提出する。狙いはより現実的な制作経験との実際に手に職をつける事。  
ここでは仕事ができるようになる！がスローガンである。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	DAW制作実習 劇伴①	アニメ劇伴の研究 作品から読み取る。
第2回	第2回目の授業テーマ	絵コンテについて
第3回	第3回目の授業テーマ	アニメ音楽で使われる言葉と意味。
第4回	第4回目の授業テーマ	映像との同期。プレビュー。
第5回	第5回目の授業テーマ	コンセプト、方向性の決定。
第6回	第6回目の授業テーマ	メロディーのライティングと編成楽器の設定。
第7回	第7回目の授業(試験)テーマ	ラフの提出。

クォーター末試験評価方法

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか 提出物は納品レベルかどうかの  
か。

評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	自由作品の制作①	テーマ・キャラクター・作品概要等を決める
第2回	自由作品の制作②	どういう風に使われるかを考える。
第3回	自由作品の制作③	メロディー・ライティングまたはコードアレンジ。
第4回	自由作品の制作④	コード&リズムアレンジ。
第5回	自由作品の制作⑤	ミックス
第6回	自由作品の制作⑥	メロディーライティング、作詞、コードアレンジ。
第7回	自由作品の制作⑦	花粉全体的なアレンジ作業。
第8回	作品の納品(まとめ)	ミックス&仕上げ作業。

学期末試験評価方法

自己の環境で期待通りの制作作業が構築出来ているのか 提出物は納品レベルかどうかの  
か。

評価基準:出席50%、平常点25%、試験25%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	パイプオルガンゼミ I	演習	実	江尻 弘子

科目概要

講師のオルガンの編曲楽譜出版、パイプオルガニストへの編曲の提供活動等の実務経験に基づき、オルガン奏法を習得していきます。1クォーターでは、講義を中心に歴史、構造について、音や写真を参考にすすめます。2クォーターでは、オルガンに触れ、基礎的奏法から入ります。オルガニストマニュアルテキストから、抜粋したテキストを使用します。

到達目標

講義と実技に対する時間のバランスを考えて進めます。その中で、指の独立を習得し、声部を意識した四声体の演奏を目指します。そして、ペダリングにおいては、基礎から、テクニックをマスターしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	パイプオルガンとは	楽器の概要について、演奏を取り入れながら、音で感じてもらい、オルガンの世界の話をしていきます。
第2回	オルガンの成り立ち、種類について	オルガンの起源から、現在演奏されている実際の楽器の種類を、資料を見ながら説明していきます。
第3回	楽器の構造について	鍵盤の名称(国による違い)パイプの材質、種類など解説していきます。
第4回	パイプの概要 手鍵盤奏法1	パイプの形状と音の関係を理解します。テキストを元に、打鍵、離鍵、指の独立トレーニングをします。
第5回	足鍵盤(ペダル)について	ペダル記号、姿勢、奏法等を説明し体験をします。手鍵盤では、ドリルプリントを使用し四声体の習得をします。
第6回	オルガン奏法基礎	第3回に配布する試験曲、ラインハルトの中から課題曲の仕上げを目指します。
第7回	クォーター末試験(手鍵盤習得)	手鍵盤の課題曲2曲をバリオホールにて演奏します。

クォーター末試験評価方法

ラインハルト50番練習曲集より、テクニックのみえる選曲(コラールの要素、対位法的要素)2曲をバリオホールにて演奏します。評価は出席、授業への取り組み60%、実技試験40%と総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オルガンの時代背景 1	オルガン音楽独特の時代の分け方、ゴシック、ルネッサンスまで音を聞きながら考察していきます。
第2回	オルガンの時代背景 2	バロックからロマンティックを考察し、テキストよりアンサンブル体験をします。
第3回	パイプの種類について 1	フルー管のプリンツィパルグループ、フルートグループの説明をしていきます。
第4回	パイプの種類について 2	弦楽器グループ、リード管について楽器で音を出しながら、説明していきます。
第5回	ペダルトレーニング	パイプの復習をしながら、ペダルのドリルを使ってトレーニングしていきます。
第6回	試験課題曲の奏法確認	第3回から配布し、パート別奏法を習得したものをソロ演奏して仕上がるよう確認していきます。
第7回	春学期総括	春学期を通して学習したものを、試験に向けまとめていきます。
第8回	期末試験	教室内で筆記試験、バリオホールにて足鍵盤付き楽曲を演奏します。

学期末試験評価方法

筆記試験は、授業で説明したことの理解度をみます。実技試験では、J. シュナイダーオルガン曲集より第2番を演奏。正しいペダリングの確認をします。評価は出席、授業への取り組み30%、筆記試験30%、実技試験40%と総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	パイプオルガンゼミ II	演習	実	江尻 弘子

科目概要

講師の実務経験、オルガンの編曲楽譜出版、パイプオルガニストへの編曲の提供活動に基づき、3クォーターでは、アメージンググレイスを題材に編曲体験、4クォーターでは、J. Sバッハの「8つの小プレリュードとフーガ」から第1番を演奏します。併せて音色の組み合わせも学習します。

到達目標

オルガン音楽を意識した編曲の実践、音色(ストップ)の組み合わせの自立を目指します。演奏面では、バッハの作品に触れ、バロックの奏法を習得します。また、教会のクリスマスで演奏される讃美歌の演奏もマスターします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アメージンググレイスを題材に	讃美歌の成り立ちの説明、いろいろな編曲のアメージンググレイスを分担奏し、内容を考察します。
第2回	対位的編曲	対位的編曲を説明し、参考曲を挙げ、弾きながら分析していきます。
第3回	和声的編曲	和声的編曲を説明し、参考曲を挙げ、弾きながら分析していきます。
第4回	編曲実践とクリスマス讃美歌	各自、編曲楽譜を作成していき、個人確認を行っていきます。
第5回	編曲と奏法 1	個別に確認しながら、編曲の完成を目指します。音色のイメージをつくりながら進めます。
第6回	編曲と奏法 2	編曲の完成と共に、クリスマス讃美歌の奏法を確認していきます。
第7回	クォーター末試験(自編曲の完成)	自編曲のアメージンググレイスとクリスマス讃美歌2曲をバリオホールにて演奏します。

クォーター末試験評価方法

実技試験にて、授業内容理解度を確認、楽譜提出により、併せて内容も確認します。バリオホールでの演奏は響きを感じながら、有名なクリスマス讃美歌の演奏もします。出席、授業への取り組み60%、実技試験40%で総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オルガンの形式について 1	作曲技法の基本とも言われるカノンを説明し、パツフェルベルのカノンをスコア見ながらアンサンブル体験
第2回	オルガンの形式について 2	バリエーション、プレリュード、フーガ、パッサカリア等、実際の曲に触れながら、学習します。
第3回	ドイツのオルガン音楽	北部、中部、南部に分け、オルガニストが多数生まれた経緯など、歴史を紐解き進めます。
第4回	フランスのオルガン音楽	ドイツとは対照的なフランスのオルガン、音源を聞き、テキストと照らし合わせ考察します。
第5回	プレリュードの奏法	テキストの課題曲、バッハのプレリュードの奏法を細かく説明
第6回	バッハの作品に使われる音色	ストップリストを見ながら、バッハの作品に特徴的な音色作りを学習していきます。
第7回	総括、試験曲確認	秋学期で学んだことの確認作業しながら、実技は個別確認していきます。
第8回	期末試験(バッハの作品を演奏)	教室内では、筆記試験、バリオホールにて課題曲演奏します。

学期末試験評価方法

教室内の筆記試験では、秋学期で学んだことの理解度をみます。バリオホールでの実技試験では、小さいながらもバッハの作品・・・「8つの小プレリュードとフーガ」より第1番を演奏します。評価は、出席、授業への取り組み30%、筆記試験30%、実技試験40%と総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	パイプオルガンゼミ Ⅲ	演習	実	江尻 弘子

科目概要

講師のチャペルオルガニスト指導経験及び1000組以上の挙式での演奏経験に基づき、実際に使用する楽曲を取り上げ、進行に従っての演奏体験をします。2クォーターでは、テキスト中心に曲を弾きながら、ストップの考察、コラール作品にも触れ、演奏します。

到達目標

実践で使える演奏力を付けることを目標に、音色作りの自立も目指します。チャペルウエディングでの演奏は、応用力も身に付け、デビューが出来るまで、もっていきたいと考えています。いずれも毎回の授業に変化があり、出席が非常に重要になります。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	チャペルウエディングの現状	日本のブライダル事情について、現状のお話しをします。キリスト教式、人前式など。
第2回	挙式のDVD鑑賞	講師の演奏によるキリスト教式のDVDを鑑賞し、式次第による選曲についての解説をします。
第3回	迎賓から入場曲	アヴェ・ヴェルム・コルプス、ワーグナーの婚礼の合唱を取り上げ、奏法を分析、解説します。
第4回	讃美歌、アヴェマリア	讃美歌より、合唱、ソリストの伴奏法について学びます。
第5回	結婚行進曲	歩幅に合わせた、演奏のタイミング、エンディングの合わせ方、即興力をつける学習をします。
第6回	挙式の流れに沿って	全5曲を、流れに沿って演奏していきます。実際に必要な応用力など身に付けていきます。
第7回	クォーター末試験(5曲マスター)	バリオホールにて、他の学生に新郎新婦を想定し、実際に歩いてもらい、本番さながらの演奏をします。

クォーター末試験評価方法

挙式の流れに沿って5曲演奏しますが、併せて終止の奏法、歌伴奏のタイミングなども、みていきます。評価は、出席、授業への取り組み60%、実技試験40%と総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽譜から読み取るアーティキュレーション	オルガン奏法で使われるアーティキュレーションの研究、テキストより選曲して実践します。
第2回	コラールの成り立ち	歌うコラールとオルガンコラールとの違い、バッハ、ブームスを取り上げ、比較、考察します。
第3回	ブームスのコラール第8番を題材に	単旋律から、四声体、そしてオルガンコラールに変化していく経緯を紐解いていきます。
第4回	テキストからの奏法実践 1	オルガン独特のテクニックが必要な曲を、ピックアップし奏法実践していきます。
第5回	テキストからの奏法実践 2	ペダルのレガート奏法、ロマンティックなオルガンで使われるトゥヒールの実践をします。
第6回	コラール第8番 奏法、確認	試験課題曲、テキストよりのブームスコラール「一輪のバラに咲きて」完成を目指します。
第7回	ストップの組み合わせ	テキストより選曲した、各時代、国の作品を考察していきます。指示されてあるものも、組み合わせていきます。
第8回	春学期末試験(コラール体験)	課題曲 ブームスコラール「一輪のバラに咲きて」をバリオホールにて演奏します。

学期末試験評価方法

このクォーターでは、授業内で数多くの曲を演奏していますので、バリオホールでの課題曲の演奏もさることながら、出席、授業への取り組みが重要です。評価は、出席、授業への取り組み60%、実技試験40%で、総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	パイプオルガンゼミⅣ	演習	実	江尻 弘子

科目概要

講師のチャペルオルガニスト指導経験及び1000組以上の挙式での演奏経験に基づき、1、2クォーターで学んだ実践の演奏法をよりステップアップし、完成度の高い演奏を目指します。バロック時代の通奏低音の知識、そして知名度、作品完成度の高い小フーガ短調の演奏、2年間使用したオルガンテキストから、任意の曲が、レパートリーとなるような演奏を目指します。

到達目標

オルガン音楽の中でも、名曲と言われる、バッハの小フーガ短調に挑戦し、フーガ演奏の醍醐味を味わいつつ、弾き込めるよう、目指していきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フーガとは	フーガの説明後、テキストの楽譜を見ながら、各声部を織りなす主題の印付けをしながらアナリーゼしていきます。
第2回	楽曲アナリーゼ 1	主題の奏法を意識し、アーティキュレーションの分析をしていきます。
第3回	楽曲アナリーゼ 2	各パートを分担奏しながら、指使い、手鍵盤の声部を意識して演奏。ペダリングの確認をします。
第4回	装飾について	トリル、モルデント、シュライファーの奏法について、テキストの楽曲を取り出し、考察します。
第5回	単声部から複声部へ	パート別に確認しながら、声部を増やし、分担奏から全体をつくっていきます。
第6回	独奏にて確認	小節を区切りながら、ソロ演奏を仕上げていきます。
第7回	クォーター末試験(小フーガ演奏)	バリオホールにて、J. S.バッハの小フーガ短調 BWV578を演奏します。

クォーター末試験評価方法

難易度の高い楽曲への挑戦ですが、演奏レベルが上がっていることを目指します。楽曲への理解度、ステージでの立ち振る舞い(ステージマナー)も含め評価します。出席、授業への取り組み60%、実技試験40%で、総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	通奏低音とは	ヴィバルディ四季より冬を、スコア見ながら、通奏低音の即興的要素を聞き比べします。
第2回	通奏低音体験 1	数字付き低音に和音をつけていきます。モーツァルトのレクイエムを題材に通奏低音の体験をします。
第3回	通奏低音体験 2	テキストの曲を題材に和音付けをし、即興的要素を織り交ぜながら、仕上げていきます。
第4回	任意の試験曲、選曲	2年間学んだテキストから、4曲選曲し、アンサンブル演奏をし、その中から各自選曲していきます。
第5回	讃美歌の成り立ち	讃美歌のできるまでの歴史、時代背景を考察していきます。各国の特徴など讃美歌集からみていきます。
第6回	讃美歌の奏法	各声部の捉え方、前奏、後奏の奏法を、テキストから取り出し、演奏体験します。
第7回	1年間の総まとめ	筆記試験に向け、学習内容の確認、個々の演奏曲の確認をします。
第8回	秋学期末試験(レパートリーの確立)	教室内では、筆記試験、バリオホールにて任意の曲を演奏します。

学期末試験評価方法

筆記試験では、1年間を通して学習してきた内容を確認、理解度をみます。実技試験では、集大成と成り得る完成度を目指し、将来のレパートリーとして、楽曲に触れる際、分析をするという習慣も併せて身に付け、ホールの響き、音の鳴り方も意識出来るようにします。評価は出席、授業への取り組み30%、筆記試験30%、実技試験40%と総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	バロック音楽ゼミⅡ	演習	実	大木 和音

科目概要

バロックと言われる時代の音楽や文化的背景について、学んでいきます。また授業の後半では、各回ともチェンバロ・レッスン時間を設け、バッハを始めとする作品を弾いてもらいます。尚、講師はanaレコーズに所属、バロックから近代スペイン音楽まで幅広いレパートリーを持ち、計5枚のアルバムをリリース。またDSD11.2MHzによる公開ライブ・レコーディング(@スパイラルホール)にも出演し、OTOTOYサイト配信中です。

到達目標

チェンバロの響きを楽しみながら演奏すること、装飾音も音楽の流れに乗せて美しく鳴らせることなどを目指し、各自の専攻楽器でバロック作品を弾く時のイメージの糧にもなることを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロックとは	いつ頃の音楽のことなのか、どんな時代だったのか…など、イメージしていきます。
第2回	チェンバロについて	チェンバロを囲んでもらい、音の出るしくみ、様々なストップ、二段鍵盤について…など説明し、出合ってもらいます。
第3回	J.S.バッハとその息子たち	J.S.バッハ、息子たちの作品を鑑賞したり、彼らの生きたドイツ各地の映像などを見ながらイメージします。
第4回	当時の様々な鍵盤楽器について	この時代に流行していた色々な鍵盤楽器について、説明や鑑賞、楽器も描いたフェルメールの絵画も鑑賞しましょう。
第5回	組曲について その1	まずは馴染み深い「メヌエット」や「ガヴョット」などについて楽譜を見ながら鑑賞。バロック・ダンスの映像も観ます。
第6回	組曲について その2	「アルマンド」「クーラント」「サラバンド」「ジーク」といった基本の舞曲について学び、鑑賞します。
第7回	クォーター末試験	J.S.バッハまたはC.Ph.E.バッハの短い作品を演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

クォーター末試験評価方法

リズム良く良い流れで演奏できているか、自分の音をよく聴きながら演奏しているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	イタリアのバロック	今クォーターは、イタリアの作品について学びます。まずは、イタリアのイメージを探るため様々な写真や映像を観ていきます。
第2回	バッハとイタリア趣味	バッハによるヴィヴァルディを始めとする協奏曲の編曲、そして独自の「イタリア協奏曲」作曲に至るまで。
第3回	ヴィヴァルディ「四季」	音楽に添えられた詩と照らし合わせ、スコアを見ながら鑑賞します。
第4回	ラ・フォリア	A.コレツリを始めとする様々な作曲家の「フォリア」を聴き比べます。
第5回	即興演奏、装飾音について	コレツリのヴァイオリン・ソナタを用い、記されているメロディと装飾譜の双方を比べて、当時の演奏の「コマ」に思いを馳せませす。
第6回	トリオ・ソナタについて	トリオについて、またバッハによるオブリガート・チェンバロによる二重奏や、オルガンのためのトリオ・ソナタなどの意義。
第7回	スカルラッチェのチェンバロ・ソナタ	ナポリ生まれの大家・スカルラッチェについて、ギター音楽とのつながり等についても触れながら学習していきます。
第8回	クォーター末試験	D.スカルラッチェのソナタ集・課題より選択した曲を演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

学期末試験評価方法

スカルラッチェ独特の和声を味わいながら弾いているか、リズムをしっかり感じて弾いているか、装飾音は音楽的に奏でられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	バロック音楽ゼミⅡ	演習	実	大木 和音

科目概要

第3クォーターでは、ヴェルサイユ宮殿で栄えたフランスの作品を学びます。第4クォーターは、声楽曲や管弦楽作品へも広げ、総合的に学びます。チェンバロ・レッスンも継続して行います。尚、講師はanaレコーズに所属、バロックから近代スペイン音楽まで幅広いレパートリーを持ち、計5枚のアルバムをリリース。またDSD11.2MHzによる公開ライブ・レコーディング(@スパイラルホール)にも出演し、OTOTOYサイト配信中です。

到達目標

チェンバロの響きを楽しみながら演奏すること、装飾音も音楽の流れに乗せて美しく鳴らせることなどを旨とし、各自の専攻楽器でバロック作品を弾く時のイメージの糧にもなることを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クラヴサン(仏:チェンバロ)について	パリの工房で撮影してきた数々のクラヴサンや、ピアノの写真を見てもらい、フレンチ・バロックの導入とします。
第2回	華やかなフランス宮廷文化	この時代の文化の中心・ヴェルサイユ宮殿について、映像や撮影した写真などを鑑賞し、音楽の背景をイメージします。
第3回	ヴェルサイユ	「マリー・アントワネット」「めぐり逢う朝」映画の一部を鑑賞しながら、宮殿の雰囲気、音楽などをイメージしていきます。
第4回	プレリュード・ノン・ムジュレ	ルイ・クーブランやダンゲルベールなどの作品に出てくる、小節線のないプレリュードについて。
第5回	F.クーブラン：クラヴサン奏法	クーブランの書いた演奏法や装飾音について、またクーブランの文面から読み取れる当時の音楽事情について考察します。
第6回	J-Ph.ラモー：クラヴサン曲集	ラモーの書き記した文章を読みながら、演奏法や装飾音、また演奏における注意点なども考察し、オペラの一部も鑑賞します。
第7回	クォーター末試験	ラモー：クラヴサン曲集より、一曲選んで演奏してもらいます。

クォーター末試験評価方法

良い流れで演奏できているか、ラモー独特の装飾音も音楽に溶け込ませながら演奏できているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら、採点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロックの歌唱	カッチーニ「アマリツリ麗し」様々な演奏を聴きながら、歌唱と通奏低音との表現を探ります。
第2回	レチタティーヴォとアリア	ヘンデルの作品を題材に、歌詞と密なチェンバロの表現について触れていきます。
第3回	バッハ/カンタータ	父と娘の他愛ないやりとりが繰り上げられる「コーヒーカンタータ」を題材に、スコアを見ながら鑑賞していきます。
第4回	バッハ/ブランデンブルク協奏曲	様々な楽器が活躍する「ブランデンブルク協奏曲」をスコアを見ながら鑑賞。バッハの見事な手法に触れます。
第5回	バッハ/管弦楽組曲	「管弦楽組曲」をスコアを見ながら聴きます。各声部の緻密な絡み、各舞曲の様式感を感じ取ります。
第6回	バッハの管弦楽作品とチェンバロ舞曲	管弦楽で聴いたバッハの舞曲のように、スケール大きくチェンバロ演奏にも生かせないかを考えていきます。
第7回	試験に向けて	最終試験を目前にレッスンに集中し、最後の仕上げに入ります。
第8回	クォーター末試験	ヘンデルの組曲より、指定された曲から一曲選んで演奏してもらいます。

学期末試験評価方法

各舞曲の特性をつかんで演奏できているか、楽器をしっかり鳴り響かせているか、装飾音は音楽的に奏でられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	バロック音楽ゼミⅢ	演習	実	大木 和音

科目概要

バロック音楽ゼミⅢ・Ⅳでは、一年を通じてチェンバロ実技に集中し、この楽器をより美しく楽しく弾けることを目指していきます。

尚、講師はanaレコーズに所属、バロックから近代スペイン音楽まで幅広いレパートリーを持ち、計5枚のアルバムをリリース。またDSD11.2MHzによる公開ライブ・レコーディング(@スパイラルホール)にも出演し、OTOTOYサイト配信中です。

到達目標

チェンバロを豊かに鳴らして演奏する、作曲家によって異なる独自の装飾音を音楽的に演奏する、音楽を自然な流れで演奏する…などを目標とし、専攻するピアノやエレクトーンでバロックの作品を演奏するときのイメージーションにも役立てられるようにします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	チェンバロについて	前年度にゼミⅡを受講していなかった学生、また二年目の学生には復習も兼ねて、楽器を囲んで、仕組み等お話しします。
第2回	試験曲について	B.ガルツピ:ソナタ 映像、文献などから、作曲家の背景を考察します。課題曲数曲を配布。取り組みたい曲を選びます。
第3回	試験曲決定とレッスン	B.ガルツピ:ソナタ 各自練習時間を設けた後、レッスンを開始します。
第4回	試験曲レッスン	B.ガルツピ:ソナタ 二段鍵盤の使い分けによる音色、カブラーなども考えます。
第5回	試験曲レッスン	B.ガルツピ:ソナタ ストップ、上下鍵盤の使い方なども具体化していきます。
第6回	試験曲レッスン	B.ガルツピ:ソナタ 試験に向けて仕上げに入ります。
第7回	クォーター末試験	各自選んだ楽章を皆の前で、順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って、演奏してください。

クォーター末試験評価方法

音楽を理解して楽しみながら演奏できているか、音楽は自然に流れているか、チェンバロの音はしっかりと鳴らせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	試験曲について	J.S.バッハについて、フランス組曲について考察します。試験課題曲数曲を配布、取り組みたい曲を考えます。
第2回	試験曲決定とレッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より 各自練習時間を設けた後、レッスンを開始します。
第3回	試験曲レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より アルマンド、クーラント等舞曲の特徴を確認します。
第4回	試験曲レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より アーティキュレーションなども考えていきます。
第5回	試験曲レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より カブラー、ストップなども具体的に決めていきます。
第6回	試験レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より 音楽の流れ、テンポ等の確認もします。
第7回	試験レッスン	J.S.バッハ:フランス組曲より 試験目前となるので、仕上げに入ります。
第8回	クォーター末試験	選んだ舞曲を、順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

学期末試験評価方法

舞曲のキャラクターをつかんで演奏しているか、バッハの装飾音が音楽的に奏でられているか、チェンバロの音をしっかりと響かせられているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	バロック音楽ゼミⅣ	演習	実	大木 和音

科目概要

第3クォーターでは、ヴェルサイユ宮殿時代のフランス作品を演奏していきます。第4クォーターでは、各自が希望した曲を、演奏してもらい締めくくります。

尚、講師はanaレコーズに所属、バロックから近代スペイン音楽まで幅広いレパートリーを持ち、計5枚のアルバムをリリース。またDSD11.2MHzによる公開ライブ・レコーディング(@スパイラルホール)にも出演し、OTOTOYサイト配信中です。

到達目標

チェンバロを豊かに鳴らして演奏する、作曲家によって異なる独自の装飾音を音楽的に演奏する、音楽を自然な流れで演奏する…等を目指し、専攻するピアノやエレクトーンでバロックの作品を演奏するときのイメージにも役立てられるようにします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	試験曲について	フランスのバロック時代について映像や写真、絵画などからイメージを膨らませます。課題曲を配布、次週までに選びます。
第2回	試験曲決定とレッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン:クラヴサン曲集よりそれぞれの作曲家の装飾音表や序文を読み、準備をします。
第3回	試験曲レッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン 曲の構成、アーティキュレーションなどみていきます。
第4回	試験曲レッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン 曲の雰囲気を考え、音楽が自然に流れるよう弾きこみます。
第5回	試験曲レッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン 曲の雰囲気を考え、音楽が自然に流れるよう弾きこみます。
第6回	試験曲レッスン	J-Ph.ラモーまたはF.クーブラン フレンチならではの装飾音を美しく、薫るような音色を目標に。
第7回	クォーター末試験	選んだ曲を順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

クォーター末試験評価方法

音楽を理解し楽しみながら演奏できているか、装飾音は音楽に自然に溶け込ませられているか、チェンバロは豊かに鳴り響かせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	試験曲について	各自演奏してみたい曲(2ページ程度)を持参・提示し確認します。課題が思いつかない学生には、こちらで楽譜を配布します。
第2回	各自の試験曲決定とレッスン	各々の選んだ作品の楽譜は全員に配ります。他の人の選んだ曲も、大切なレパートリーとして、聴講しながら学びます。
第3回	試験曲レッスン	リズム、音、装飾音の弾き方など注意を払って取り組みます。
第4回	試験曲レッスン	装飾音は音楽を彩るように、またレジストレーションなども考えていきます。
第5回	試験曲レッスン	曲のキャラクターや雰囲気を考えながら、曲を身体に覚えこませます。
第6回	試験曲レッスン	楽器をしっかりと鳴らせるように、呼吸を使って耳を使って練習。美しい音を出せることを考えます。
第7回	試験曲レッスン	試験目前の最終確認、曲の完成を目指します。
第8回	クォーター末試験	選んだ曲を順に演奏してもらいます。ミニ・コンサートだと思って演奏してください。

学期末試験評価方法

音楽を理解し、楽しみながら演奏できているか、装飾音は音楽的に奏でられているか、チェンバロの音は美しく鳴らせているか…などに着目し、出席及び平常点も考慮しながら採点します。

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	外部グレード講座(演奏) I III	演習	実	古賀かおり

科目概要
春学期では、ヤマハ演奏グレードの即興演奏力を身につけることを目標に、さまざまな角度から音楽を捉え、即興演奏のコツをつかめるように指導していきます。尚、講師は一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード(エレクトーン演奏・指導)試験官の実務経験を持ちます。
到達目標
アレンジの発想を膨らませ、一段楽譜からジャンルを読み取る力、フレーズを意識して演奏する力、初見力などの総合的な音楽力をつけていきます。グレード受験準備を進めながら、様々な音楽スタイルへの理解、レジストとの関連性も合わせて学んでいきます。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グレード入門・アレンジ要素の導入	グレード概要についてのレクチャー。即興に必要な基礎的要素の確認をしながら、トレーニング素材に取り組みます。
第2回	編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ ①	即興演奏に必要な楽曲アナライゼ方法を提示し、構成や楽器編成などへの理解を深めます。エレクトーン編曲された楽曲を扱います。
第3回	編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ ②	エレクトーン編曲素材をベースに、多方面から即興演奏にオリジナリティを加える手法を学びます。
第4回	コード付き一段譜のアレンジ ①	世界民謡などの一段譜で既知曲の数を増やしながら、コードや様々なジャンルに親しみ、アレンジ要素を膨らませていきます。
第5回	コード付き一段譜のアレンジ ②	一段譜アレンジの内容を精査しながら、即興演奏に活かす手立てを探っていきます。
第6回	2ビートの即興演奏	2(or4)ビートでの即興演奏の具体的な手法を提示し、即興(a)課題に取り組みます。
第7回	課題実習 ①	2(or4)ビートによる、即興演奏発表をします。
クォーター末試験評価方法		
毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	三拍子(六拍子)における即興演奏	三拍子(六拍子)の楽曲を取り上げて、アナライゼ、演奏をしながら編曲要素を広げていきます。
第2回	コード付き一段譜のアレンジ ③	ワルツなどの一段譜アレンジを通して、三拍子における具体的な即興手法を習得していきます。
第3回	コード付き一段譜のアレンジ ④	8ビートのオリジナルアレンジ曲を共有し、8ビート即興手法へと繋げていきます。
第4回	ラテン系のジャンルにおける即興演奏	ラテン系の楽曲に触れ、ジャンルへの理解と、即興手法を学びます。
第5回	8ビートとラテンのまとめ ①	ポピュラーにおける様々なリズム、バックギング・パターンを実践しながら、即興の手法を広げていきます。
第6回	課題実習 ②	今まで学習してきたジャンルの復習をし、即興演奏に取り組みます。
第7回	課題実習 ③	自分なりのパターンを作り、演奏面も磨いていきます。
第8回	期末試験	即興(a)の演奏に必要な要素(初見力/コード理解力/アレンジ力など)の確認をします。
学期末試験評価方法		
毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。ここまでの実力に応じて、具体的な受験予定計画を各自作成していきます。 平常点50% 試験50%		

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	外部グレード講座(演奏)ⅡⅣ	演習	実	古賀かおり

科目概要

春学期に続き、ヤマハ演奏グレードの即興/初見能力を身につけるべく様々な音楽に触れながら、指導グレードの学習にも取り掛かります。尚、講師は一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード(エレクトーン演奏・指導)試験官の実務経験を持ちます。

到達目標

個々のペースにあわせ、具体的な受験準備に入ります。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	弾き歌い・伴奏付け ①	ソルフェージュ的要素に取り組みつつ、ベーシックなコードトレーニングをしていきます。
第2回	弾き歌い・伴奏付け ②	カデンツ移調や様々なコードワークのトレーニングをします。
第3回	移調奏・筆記問題について	移調課題、筆記課題に取り組みます。
第4回	指導グレード項目のまとめ	指導グレード試験課題を用いて、それぞれの項目に必要な力の確認をします。
第5回	モチーフについて	モチーフ即興 [即興(b)]の概要に触れ、メロディー創りのポイントに繋がるトレーニングをします。
第6回	モチーフのまとめ ①	三部形式によるモチーフ演奏。ジャンルを明確にした演奏、レジストの考察をします。
第7回	モチーフのまとめ ②	モチーフ演奏課題に取り組みます。

クォーター末試験評価方法

指導グレード集中講座を踏まえ、指導グレード受験準備を行う。毎回の授業課題内容を評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲クリニック ①	演奏、公開クリニック/グレード試験合格ラインの提示をします。
第2回	課題曲クリニック ②	演奏、公開クリニック/レジストや演奏を磨いていきます。
第3回	初見課題 ①	制限時間内で全体を見るコツ・止まらないための習慣トレーニングを身につけます。
第4回	初見課題 ②	試験課題に取り組みます。
第5回	即興演奏の復習・演奏曲内容確認 ①	受験に向けての個々の状況を確認します。
第6回	即興演奏の復習・演奏曲内容確認 ②	受験に向けての個々の状況を確認します。
第7回	模擬試験課題提示	即興(b)の問題選択におけるコツや、それぞれの項目におけるレジストの調整を行います。
第8回	期末試験	即興演奏、初見演奏

学期末試験評価方法

1年のまとめとして、期末試験でどれだけ自分の力を出せたか、努力を評価します。  
平常点30%試験点70%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	外部グレード講座(指導) I III	演習	実	古賀かおり

科目概要

ヤマハ指導グレードの即興演奏力を身につけることを目標に、さまざまな角度から音楽を捉え、即興演奏のコツをつかめるように指導していきます。尚、講師は一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード(エレクトーン演奏・指導)試験官の実務経験を持ちます。

到達目標

アレンジの発想を膨らませ、一段楽譜からジャンルを読み取る力、フレーズを意識して演奏する力、初見力などの総合的な音楽力をつけていきます。グレード受験準備を進めながら、様々な音楽スタイルへの理解、レジストとの関連性も合わせて学んでいきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	グレード入門・アレンジ要素の導入	グレード概要についてのレクチャー。即興に必要な基礎的要素の確認をしながら、トレーニング素材に取り組みます。
第2回	編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ ①	即興演奏に必要な楽曲アナリーゼ方法を提示し、構成や楽器編成などへの理解を深めます。エレクトーン編曲された楽曲を扱います。
第3回	編曲的な即興 [即興(a)]へのアプローチ ②	エレクトーン編曲素材をベースに、多方面から即興演奏にオリジナリティを加える手法を学びます。
第4回	コード付き一段譜のアレンジ ①	世界民謡などの一段譜で既知曲の数を増やししながら、コードや様々なジャンルに親しみ、アレンジ要素を膨らませていきます。
第5回	コード付き一段譜のアレンジ ②	一段譜アレンジの内容を精査しながら、即興演奏に活かす手立てを探っていきます。
第6回	2ビートの即興演奏	2(or4)ビートでの即興演奏の具体的な手法を提示し、即興(a)課題に取り組みます。
第7回	課題実習 ①	2(or4)ビートによる、即興演奏発表をします。

クォーター末試験評価方法

毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	三拍子(六拍子)における即興演奏	三拍子(六拍子)の楽曲を取り上げて、アナリーゼ、演奏をしながら編曲要素を広げていきます。
第2回	コード付き一段譜のアレンジ ③	ワルツなどの一段譜アレンジを通して、三拍子における具体的な即興手法を習得していきます。
第3回	コード付き一段譜のアレンジ ④	8ビートのオリジナルアレンジ曲を共有し、8ビート即興手法へと繋げていきます。
第4回	ラテン系のジャンルにおける即興演奏	ラテン系の楽曲に触れ、ジャンルへの理解と、即興手法を学びます。
第5回	8ビートとラテンのまとめ ①	ポピュラーにおける様々なリズム、バックギング・パターンを実践しながら、即興の手法を広げていきます。
第6回	課題実習 ②	今まで学習してきたジャンルの復習をし、即興演奏に取り組みます。
第7回	課題実習 ③	自分なりのパターンを作り、演奏面も磨いていきます。
第8回	期末試験	即興(a)の演奏に必要な要素(初見力/コード理解力/アレンジ力など)の確認をします。

学期末試験評価方法

毎回の授業時における課題復習演奏の努力度、演奏力向上の様子と完成度を見ます。ここまでの実力に応じて、具体的な受験予定計画を各自作成していきます。

平常点50% 試験50%

音楽総合アカデミー学科 電子オルガンコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	外部グレード講座(指導)ⅡⅣ	演習	実	古賀かおり

科目概要

ヤマハ指導グレードの即興/初見能力を身につけるべく様々な音楽に触れながら、指導グレードの学習にも取り掛かります。尚、講師は一般財団法人ヤマハ音楽振興会・ヤマハ音楽教育システム講師として幅広い年齢層のレッスン、エレクトーン編曲・テキスト制作業務、ヤマハグレード(エレクトーン演奏・指導)試験官の実務経験を持ちます。

到達目標

個々のペースにあわせ、具体的な受験準備に入ります。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	弾き歌い・伴奏付け ①	ソルフェージュの要素に取り組みつつ、ベーシックなコードトレーニングをしていきます。
第2回	弾き歌い・伴奏付け ②	カデンツ移調や様々なコードワークのトレーニングをします。
第3回	移調奏・筆記問題について	移調課題、筆記課題に取り組みます。
第4回	指導グレード項目のまとめ	指導グレード試験課題を用いて、それぞれの項目に必要な力の確認をします。
第5回	モチーフについて	モチーフ即興 [即興(b)]の概要に触れ、メロディー創りのポイントに繋がるトレーニングをします。
第6回	モチーフのまとめ ①	三部形式によるモチーフ演奏。ジャンルを明確にした演奏、レジストの考察をします。
第7回	モチーフのまとめ ②	モチーフ演奏課題に取り組みます。

クォーター末試験評価方法

指導グレード集中講座を踏まえ、指導グレード受験準備を行う。毎回の授業課題内容を評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲クリニック ①	演奏、公開クリニック/グレード試験合格ラインの提示をします。
第2回	課題曲クリニック ②	演奏、公開クリニック/レジストや演奏を磨いていきます。
第3回	初見課題 ①	制限時間内で全体を見るコツ・止まらないための習慣トレーニングを身につけます。
第4回	初見課題 ②	試験課題に取り組みます。
第5回	即興演奏の復習・演奏曲内容確認 ①	受験に向けての個々の状況を確認します。
第6回	即興演奏の復習・演奏曲内容確認 ②	受験に向けての個々の状況を確認します。
第7回	模擬試験課題提示	即興(b)の問題選択におけるコツや、それぞれの項目におけるレジストの調整を行います。
第8回	期末試験	即興演奏、初見演奏

学期末試験評価方法

1年のまとめとして、期末試験でどれだけ自分の力を出せたか、努力を評価します。  
平常点30%試験点70%

ジャズ・ポピュラーコース

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュ I	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step1,2) & 1Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step3,4) & 2Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅡ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。
到達目標
自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーティキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step5,6) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法  
 「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step7,8) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法  
 「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュⅢ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。
到達目標
1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step9 & 1Qのまとめ)
クォーター末試験評価方法		
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step10) & 2Qのまとめ
学期末試験評価方法		
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。		

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅣ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。この科目では、講師の実務経験（ピアニスト、作編曲家）の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step11) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step12) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	専攻ソルフェージュ I	演習	実	蒲池 愛

科目概要

ヴォーカリストには、さまざまな音楽能力が求められるものです。この授業では講師の実務経験(CMやTV番組、ゲーム、アニメ、映画、の作曲編曲)からレコーディングでプロのヴォーカリストとして作曲家が求めるやり取りが出来るように毎回、「叩く」「書く」「弾く」「歌う」などの多様な実習を行います。最終的に即座に「音楽の理解力」「リズムセンス」「聴音力」などプロとして必要とされる総合的な力をつけて行ける事を目指します。自分で楽しく弾き語りもできるようなコードの押さえ方なども実習します。

到達目標

ヴォーカリストとして、スタジオなど現場で笑顔でふるまえるようにソルフェージュ力を身につけましょう。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	個別ソルフェージュ力チェック	それぞれのレベルをチェックします
第2回	読譜・リズム・聴音	読譜練習・リズム聴音・音程唱・コーリユーブンゲン
第3回	読譜・視唱	読譜練習・視唱・リズム合奏
第4回	音程唱・聴音	音程唱・聴音(メロディ・リズム)・音あて
第5回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(穴埋め)
第6回	引き語り	引き語り発表 (クラスコンサート)
第7回	試験	聴音(メロディ・リズム)・間違い探し

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
毎時間プリントを使用します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	読譜・リズム・視唱	読譜練習・リズム合奏・視唱
第2回	読譜・視唱・聴音	読譜練習 視唱・聴音(穴埋め・間違い探し)
第3回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(穴埋め・間違い探し)
第4回	音程唱・聴音・視奏	音程唱・聴音(音あて・穴埋め)・視奏練習
第5回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(穴埋め・メロディ)
第6回	読譜・音程唱・聴音	読譜練習・音程唱・聴音(穴埋め・メロディ・リズム)
第7回	リズム・視唱・聴音	カデンツ実習・両手伴奏の仕方
第8回	試験	聴音(メロディ・リズム) 弾き語り実習

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
毎時間プリントを使用します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	専攻ソルフェージュⅡ	演習	実	蒲池 愛

科目概要

ヴォーカリストには、さまざまな音楽能力が求められるものです。この授業では講師の実務経験(CMやTV番組、ゲーム、アニメ、映画、の作曲編曲)からレコーディングでプロのヴォーカリストとして作曲家が求めるやり取りが出来るように毎回、「叩く」「書く」「弾く」「歌う」などの多様な実習を行います。最終的に即座に「音楽の理解力」「リズムセンス」「聴音力」などプロとして必要とされる総合的な力をつけて行ける事を目指します。自分で楽しく弾き語りもできるようなコードの押さえ方なども実習します。

到達目標

プロのヴォーカリストとして現場スタジオなどで自信をもってふるまえるように頑張りましょう。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	読譜・音程唱・聴音	読譜練習・音程唱・聴音(音あて・間違い探し)
第2回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(リズム・穴埋め・メロディ)
第3回	読譜・視唱・聴音	読譜練習・視唱・聴音(音あて・間違い探し)
第4回	リズム・視唱・聴音	リズム合奏・視唱・聴音(メロディ・間違い探し)
第5回	読譜・聴音・視奏	読譜練習・聴音(2声音あて・間違い探し)・視奏練習
第6回	引き語り	自由曲で弾き語り発表 2曲
第7回	試験	聴音(メロディ・リズム)・2声 弾き語り実習 ハモリ等

クォーター末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	読譜・聴音・視奏	読譜練習・聴音(2声音あて・間違い探し)・視奏練習
第2回	リズム・視唱・耳コピ	リズム合奏・視唱・耳コピ(導入)
第3回	読譜・音程唱・聴音	読譜練習・音程唱・聴音(2声音あて・穴埋め)
第4回	ハモリの練習	ハモリやコーラスの練習
第5回	自作ソルフェージュ課題作曲	自作ソルフェージュ課題を作曲してみる
第6回	自作ソルフェージュ課題作曲	自作ソルフェージュ課題を作曲してみる 両手伴奏を考える
第7回	自作ソルフェージュ課題発表	自作ソルフェージュ課題 発表 (授業実習)
第8回	試験	視唱・聴音(リズム・メロディ・2声)

学期末試験評価方法

平常点20% 試験30% 出席点50%  
出席点を重視します。積極的に取り組んでください。  
毎時間プリントを使用します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅰ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	一年間で学習する内容のガイダンス、講師・学生の自己紹介、簡単な知識チェックテストを行います。
第2回	譜表・音名	基礎中の基礎、五線、譜表、音名を学びます。音部記号(ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号)の譜面の読み方を学びます。
第3回	音符・休符	音符、休符のそれぞれの長さ、記譜法を学びます。
第4回	拍子	4/4や6/8など、拍子によって変わる読譜、記譜法を学びます。
第5回	リズムの記譜法	前回学んだ拍子に合わせた、リズムの記譜法を学びます。
第6回	変化記号	変化記号のルール、小節内、小節をまたいだ場合、など、各ケースでの変化記号の読み方、付け方を学びます。
第7回	1Qのまとめテスト	1Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音階①	音階がどのようなルールの上に成り立っているのかを学びます。この回では、五度圏表を作成し、調の関係性を見ていきます。
第2回	音階②	前回学んだ五度圏表を用い、それぞれの調号、長音階、短音階を学びます。
第3回	夏休み前の復習、音階③	夏休み前に学んだ、音階を重点的に復習します。
第4回	調①	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。
第5回	調②	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。近親調も学びます。
第6回	音程①	幹音を基本とした、音程の答え方を学んでいきます。
第7回	音程②	基本の音程をベースに、変化記号がついた場合の呼称の変化、転回音程などを学んでいきます。
第8回	春学期のまとめテスト	1Q2Q合わせた春学期の確認テストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅱ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。4Qでは、総ざらいで復習し、基礎を固めて行きます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1Q2Qの復習①	主に音階、調の復習をします。
第2回	1Q2Qの復習②	主に音程の復習をします。
第3回	移調と転調	移調楽器への書き換え、臨時記号による転調の見分け方例を学びます。
第4回	楽語・記号	テキスト後半に記載されている、楽語、標語、各種記号を一通り確認します。
第5回	和音・コード①	和声学における和音の呼称、対応するコードの呼称、音の構成を学びます。
第6回	和音・コード②	いくつかの基本コードの呼称、音の構成を学びます。
第7回	3Qのまとめテスト	3Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習①	1Qで学んだ基礎事項の復習をします。
第2回	復習②	音階、調の復習をします。
第3回	復習③	音階、調の復習をします。この項目は、特に重点的に復習し、確実に習得してもらいます。
第4回	復習④	音程の復習をします。
第5回	復習⑤	移調楽器の復習をします。
第6回	復習⑥	コードの復習をします。
第7回	復習⑦	全体的に、弱点と思われる項目を復習します。
第8回	1年間のまとめテスト	1年間学んだ、全ての項目を網羅したテストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験（TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動）に基づき、コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標

理論学習と実習を繰り返し、学んだ事を自作曲に活かせる様、進めていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ペントニック・スケール	様々なジャンルから、ペントニック・スケールで構成されている楽曲をリストアップします。
第2回	セカンダリー・ドミナント	セカンダリー・ドミナントを復習します。
第3回	パッシング・ディミニッシュ	パッシング・ディミニッシュを学びます。
第4回	循環コード(1)	循環コードのパターンを分析し、フレーズを作成します。
第5回	循環コード(2)	4週で作成したフレーズを移調楽器用にパート譜を作成します。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	1Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サブドミナント・マイナー	サブドミナント・マイナーの用法を学びます。
第2回	バックイング	duo曲の伴奏を分析し、メロ譜に伴奏を付けます。
第3回	カノン	様々なカノン进行分析し、カノンを作成します。
第4回	リズム	リズム譜を読み、2人一組で実習します。
第5回	カウンターライン カウンターメロディ	カウンターライン・カウンターメロディについて。
第6回	リフ	既存曲のリフを分析し、リフからテーマを作成します。
第7回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第8回	2Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、春学期の学習内容を踏まえて、オリジナル作品制作に役立つ理論等を学びます。

到達目標

実習で作成した楽曲の試演を取り入れ、演奏しやすい譜面作りを行います。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	裏コード	裏コードの用法を学びます。
第2回	コード付け	既存曲を分析し、既習したコードを取り入れます。
第3回	ホルンの5度(1)	ホルンの5度の用法を学びます。
第4回	ホルンの5度(2)	前回作成したフレーズをホルン用にパート譜を作成します。
第5回	ナポリの和音	ナポリの和音の用法を学びます。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	3Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドリアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第2回	ミクソリディアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第3回	フリジアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第4回	ジブシー	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第5回	ブルー・ノート	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第6回	試演(1)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第7回	試演(2)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第8回	4Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲演習 I	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

作編曲は、昨今ではPC上で、各種DAWソフトを使用して行うことが通常となってきましたが、この授業では、楽譜を書いて作編曲を行います。編成による譜表の違い、楽器による記譜法の違い、メロディとコードの関係など、様々な観点で楽譜に書き込む作編曲を学んでいきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

適切な譜表を選び、適切な記譜ができること、その上で、各自の思う音楽を自在に書き表わせるようにしてもらいます。年度末まで8～16小節の小品を作成できることが目標です。春学期は、まだ理論の知識が追いついていないこともあり、既存曲の分析を行うことで、作編曲における引き出しを増やしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の解説をします。どんな曲が好きか、どうして好きなのか、どんな曲が作れるようになりたいのかのアンケートを実施します。
第2回	分析①	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第3回	分析②	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第4回	分析③	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第5回	分析④	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第6回	分析⑤	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第7回	1Qのまとめテスト	自分の好きな曲について、聴き込み、どんな構成か、楽器か、音色かなど文章化してもらいます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分析⑥	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第2回	分析⑦	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第3回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第4回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第5回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第6回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第7回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第8回	春学期のまとめ作成	8小節のほどのお題に合わせて、メロディを作曲してもらいます。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲演習 II	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

作編曲は、昨今ではPC上で、各種DAWソフトを使用して行うことが通常となってきましたが、この授業では、楽譜を書いて作編曲を行います。編成による譜表の違い、楽器による記譜法の違い、メロディとコードの関係など、様々な観点で楽譜に書き込む作編曲を学んでいきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

適切な譜表を選び、適切な記譜ができること、その上で、各自の思う音楽を自在に書き表わせるようにしてもらいます。年度末まで8~16小節の小品を作成できることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ベース・ランニング①	曲の要となるベースラインを作っていきます。ベースの音色、系統など知識も学びます。
第2回	ベース・ランニング②	曲の要となるベースラインを作っていきます。色んなベースパターンを聴き、演奏してみます。
第3回	リズム・セクション①	ベースと並び重要な、リズムセクションについて学びます。楽器の種類、記譜法も学びます。
第4回	リズム・セクション②	リズムセクションを作ります。
第5回	コード①	音楽理論で学んだコードを利用した作曲方法を学びます。
第6回	コード②	どんなコードパターンがあるか学びます。循環コードなどを用いて、作曲します。
第7回	3Qまとめ作成	4小節ほどの短い譜面を仕上げます。ベース、リズム、コード、全てしっかり楽譜に書き込みます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メロディー①	コードをもとに、どんなメロディが考えられるか学びます。
第2回	メロディー②	メロディに合うコード、リハーモニゼーションを学びます。
第3回	サブ・メロディー①	カウンターラインを学びます。
第4回	サブ・メロディー②	ストリングスアレンジなど、全体を引き立たせるラインを学びます。
第5回	アンサンブル①	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第6回	アンサンブル②	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第7回	アンサンブル③	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第8回	秋学期まとめ作成	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。この日の提出を持って、試験とします。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、アンサンブル実技授業と連携し、所属アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作します。

到達目標

所属アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作する為に必要な、楽器の音域や特性を学び、スコアの書法についても学んでいきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Aメロの制作	Aメロを制作し、コード付けをします。
第2回	Bメロの制作	Bメロを制作し、コード付けをします。
第3回	AとBのバックギン	様々なバックギン・パターンをリストアップし、メロディに合うバックギンを制作します。
第4回	Dr.とBass	Dr.譜、Bass譜の書き方や主なパターンを知り、楽曲に取り入れます。
第5回	試演	音楽理論Ⅲで作成した譜面の試演。
第6回	イントロとコーダ	イントロとコーダを作成します。
第7回	1Q試験	アンサンブル実技用スコア提出。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	演奏時間 / テンポ / 小節数について	演奏時間 / テンポ / 小節数についての関係を学び、計算式に当てはめます。
第2回	楽曲構成 / テーマ作り	1週で作成した計算式を用いて、2分以上の楽曲になる様に構成を決め、テーマを制作します。
第3回	各パーツの作成	2週で決めた構成を踏まえて、必要なテーマ数を把握し制作を進めます。
第4回	試演	音楽理論Ⅲで作成した譜面の試演。
第5回	カウンターライン カウンターメロディ	音楽理論Ⅲで学習した内容を楽曲に取り入れます。
第6回	リフ	音楽理論Ⅲで学習した内容を楽曲に取り入れます。
第7回	スコアチェック	個別スコアチェック。
第8回	2Q試験	アンサンブル実技用スコア提出。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、3クォーターはアンサンブル実技用の楽曲制作4クォーターはクラス内のグループ用楽曲制作を行います。

到達目標

編成の異なるアンサンブル作品を書くために、各楽器の特性を活かしたアレンジを目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リファレンス(1)	3Qで制作するアンサンブル作品のリファレンスを各自設定します。
第2回	リファレンス(2)	リファレンスを分析します。
第3回	テーマ制作	音域、担当楽器を踏まえてテーマを制作します。
第4回	ハモリ	管パートのハモリを書き込みます。
第5回	試演	音楽理論授業で作成した楽曲の試演。
第6回	スコアチェック	個別にスコアチェックを行います。
第7回	3Q試験	アンサンブル実技用スコア提出。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	30分プログラム	オリジナル曲で30分プログラムを作成 グループ分けを行います。
第2回	グループ作曲	1週で決めたグループでテーマを制作します。
第3回	グループ作曲(1)	2週で制作したテーマをアレンジします。
第4回	グループ作曲(2)	3週で制作したスコアからパート譜を作成します。
第5回	クラス作曲	クラス全体のアンサンブル曲に取り組みます。
第6回	30分プログラム(リハ)	リハを行います。
第7回	30分プログラム(本番)	30分プログラムを発表します。
第8回	4Q試験	rec.音源をmixします。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	DTM基礎 I	実習	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づき音楽家にとって楽器と同様に必要なパソコンの基本的な使い方、MIDIシーケンサー『CUBASE』、音源の基本操作、およびMIDIの基礎を習得し、2年生で学習する譜面浄書ソフトや上級生でのDAWへの学習の基礎の習得とします。

到達目標

Cubaseの基本操作を習得し、MIDIファイルを作成できるようになります。新規作成、プロジェクト名、保存法、トラックの設定を理解します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	DTMとはなにか？	PCの基本操作を学びます。
第2回	Cubaseの基本操作 I	Cubaseを起動し楽器の設定をして音を出します。プロジェクトの作成と保存。
第3回	Cubaseの基本操作 II	Cubaseにデータを書いて音を出します。ドラムのパートを作成します。
第4回	楽譜からデータ作成 I	与えられた楽譜からデータを作成します。ピアノロールの使い方。データをUSBに保存します。
第5回	楽譜からデータ作成 II	ドラムパートを追加します。名前を変えて保存します。
第6回	楽譜からデータ作成 III	パーカッションパートを追加します。名前を変えて保存します。
第7回	作品提出	完成したデータを提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか？欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	GM音源について	プログラムチェンジを使って使用する楽器を指定します。
第2回	MIDIの基礎知識 I	MIDIについて学習します。MIDIチャンネルについて。
第3回	MIDIの基礎知識 II	アンサンブルの楽譜を入力します。連符の設定、クオンタイズの設定。
第4回	いろいろなパートの作成	ピアノの楽譜を入力します。コードの入力について学習します。
第5回	楽曲データ作成 I	拍子、テンポを設定します。
第6回	楽曲データ作成 II	課題作成作業
第7回	楽曲データ作成 III	課題を完成させます。
第8回	作品提出	完成したデータを提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか？欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	DTM基礎 II	実習	実	有馬 知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づきMIDI規格を理解し、細かい音楽表現を学習します。春学期に習得した技術を応用し、多くの楽曲のデータを作成し実践します。

到達目標

Cubaseで音楽を表現します。音の長さ、強弱を設定して、音楽的なデータを作成します。データをただ入力するだけではなく、記譜されている記号を読み取り、人間の演奏に近い表現を目指す。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDIコントロールチェンジの設定 I	トラックごとにプログラムチェンジを設定し、楽器のセットを作ります。ベロシティを設定してドラムのアクセントをつけます。
第2回	MIDIコントロールチェンジの設定 II	プログラムチェンジ、ボリューム、パン、ピッチベンドを設定します
第3回	クオンタイズ機能	クオンタイズについて、内容と設定を学習します。リムパターン作成。
第4回	MIDIによる音楽的な表現	ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。テクノ風、8ビート、16ビート、4ビート、swingなど。
第5回	MIDIによる音楽的な表現	ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。
第6回	課題作成	与えられた課題曲のデータを作成します
第7回	作品提出	完成したファイルを提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音楽的な演奏データを作る	ピアノ曲のデータを入力します。正確に譜面通り入力します。
第2回	音楽的な演奏データを作る	ピアノ曲のデータに、強弱、テンポ変化をつけます。
第3回	課題作成開始	課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。
第4回	課題作成開始	課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。データを提出します。
第5回	アレンジ作業	トラックをコピーして、パートを増やします。
第6回	アレンジ作業	トラックをコピーして、パートを増やします。データを提出します。
第7回	トラックダウン	全体のバランスを取り完成させます
第8回	作品提出	完成したファイルを提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	譜面浄書 I	実習	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づき、音楽表現を主に今まで習得した入力技術の向上を目指します。MIDIだけではなく、オーディオファイルの基礎を学習し作品の完成度を高めます。

到達目標

MIDIデータをただ入力するだけでなく、音楽的な表現をつけて完成させます。複数トラックのデータのトラックダウンもできるようになります。Cubaseでオーディオを扱う際の基本操作を習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Cubase基本操作I	基礎内容を復習します。保存方法、データのバージョン管理、操作方法等。コントロールチェンジの設定。
第2回	オーディオファイルの読み込み・編集	CDからオーディオファイルを読み込みます。
第3回	オーディオとMIDIの共存	オーディオファイルからテンポを計算します。オーディオファイルに自分で作ったMIDIパートを重ねます。
第4回	練習曲データ作成 I	オーケストラのスコアを入力します
第5回	練習曲データ作成 I	強弱、テンポ変化等の表現をつけます
第6回	データの完成	各パートの音量バランスをとって完成させます。オーディオに変換します。
第7回	作品提出	完成した作品を提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点:25% 末試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。注意事項:授業中の携帯電話、インターネット、メールの使用、他科目の課題作成等はいっさい禁止とし、守られない場合には減点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDIデータによるエフェクト I	コントロールチェンジの設定 基本について学習します。
第2回	MIDIデータによるエフェクト II	コントロールチェンジの設定 実践 エフェクト処理について学習します。
第3回	オリジナル曲のデータ作成	作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
第4回	オリジナル曲のデータ作成	作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
第5回	オリジナル曲のデータ作成	1部のトラックをオーディオファイルに変換します。
第6回	オリジナル曲のデータ作成	アレンジ作業。MIDIエフェクトを追加します。
第7回	オリジナル曲のデータ作成	トラックダウン作業
第8回	作品提出	作品を提出します。

学期末試験評価方法

平常点:25% 末試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。注意事項:授業中の携帯電話、インターネット、メールの使用、他科目の課題作成等はいっさい禁止とし、守られない場合には減点します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	譜面浄書Ⅱ	実習	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー、)に基づき譜面作成ソフト「Finale」の基礎をマスターします。今まで習得したDTMの知識を応用し、DTMソフトと譜面浄書の連携をマスターします。3クォーターでは歌詞、コードのついたメロディ譜、4クォーターでは、スコアを作成します。

到達目標

Finaleを使用してコード、歌詞のついたメロディ譜、リズムパートやスコア譜が作れるようになります。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フィナーレの基礎	フィナーレの起動から初期設定 ステップ入力について。
第2回	フィナーレの実践	音符・休符の入力。臨時記号、音部記号、拍子記号の設定。 簡単なメロディーの入力
第3回	フィナーレの実践	各種ツールの使い方。ショートカット。コード入力。 コードとメロディーの入力
第4回	フィナーレの実践	歌詞入力。ページレイアウト設定。
第5回	楽譜を完成させる	コード、歌詞のついたメロディ譜を完成させる。
第6回	楽譜を完成させる	ページレイアウトの基本設定を学習する。いままで作った楽譜を 完成させる
第7回	楽譜の評価	課題曲の楽譜を完成させ提出

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点、忘れ物5点を平常点から減点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レイヤーの使い方	ピアノ譜を入力して、レイヤーの使い方を学習します。
第2回	レイヤーの使い方	ドラムパートの入力でレイヤーの使い方、高速ステップ入力について学習します。
第3回	MIDIファイルの読み込み	2クォーターに提出したオリジナル曲のMIDIデータを読み込んでスコアを作成します。
第4回	MIDIファイルの読み込み	読み込んだデータをページレイアウト設定で見やすくします。 音域、楽器などを再設定します。
第5回	スコアの入力	セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
第6回	スコアの入力	セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
第7回	スコアの入力	ページレイアウトの設定を学習し、スコアを完成させます。
第8回	楽譜の評価	スコアを完成させ提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点、忘れ物5点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲技法 I (ポップス系)	演習	実	隼田義博

科目概要

作編曲を専攻としない学生のためのポピュラーミュージックの作編曲講座。前期は主にスタンダード曲の分析を通して和音進行とメロディー、フォームについての学習をもとにオリジナル作品を制作します。尚、講師は 트레이ラー 専門音楽出版社の作曲家としてトレーラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニックハーモニーの基礎1	コードと音階、長短ダイアトニックコードと機能について確認。
第2回	ダイアトニックハーモニーの基礎2	様々なノンダイアトニックコードとその進行について確認。
第3回	ダイアトニックハーモニーの基礎3	メロディとコードの響きが矛盾するときとはどういう状態かについて楽曲分析を行いながら確認。
第4回	転調	様々な転調パターンと効果的な転調の仕組みについて。
第5回	モチーフ・フレーズ	曲を発展させゆく素材であるモチーフの重要性について楽曲分析を行いながら確認。
第6回	セクションと曲のフォーム	1コーラスの中身についてセクションごとの役割を検証し、フォームの種類を確認。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ1(リズムセクション1)	様々なジャンルやスタイルにおけるドラムとベースのアレンジについて。
第2回	アレンジ2(リズムセクション2)	様々なジャンルやスタイルにおけるギターとキーボードのアレンジについて。
第3回	アレンジ3(他、うわものアレンジ)	様々なイントロとエンディングのパターンと、その効果的な構造と作り方について。
第4回	アレンジ4(イントロ・アウトロ)	主旋律に対する動きのバランスや統一など基礎的な書き方について。
第5回	楽曲制作1	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作2	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作3～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング～完成。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出と音出しセッションへの参加。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲技法Ⅱ(ポップス系)	演習	実	隼田 義博

科目概要

過去から現在までの様々なポップミュージックの分析と、旋法音楽の表現方法の学習を通して、オリジナル作品を仕上げていきます。尚、講師はトレイラー専門音楽出版社の作曲家としてトレイラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様々なスタイルのポップス1	J-Popの過去から現在までの作品に焦点をあて、そのメロディ、ハーモニー、フォーム、アレンジなどについて考察。
第2回	様々なスタイルのポップス2	スティーリー・ダンなどのジャズハーモニーの影響の濃い作品における特徴について考察。
第3回	様々なスタイルのポップス3	ジョビンやイヴァン・リンスなどブラジリアンポップスの作品における特徴について考察。
第4回	様々なスタイルのポップス4	パット・メセニーなどコンテンポラリーポップの作品における特徴について考察。
第5回	楽曲制作1	3クォーター末音出し作品完成に向けての作曲作業～スケッチ。
第6回	楽曲制作2	3クォーター末音出し作品完成に向けての作曲作業～リードシート完成。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋法音楽の表現方法1	調性音楽との響きの違い、教会旋法の音階構造と個々の響きの特徴とその仕組みについて確認。
第2回	旋法音楽の表現方法2	和音進行をともしないリニアな表現とコード進行をともしない表現方法について。
第3回	楽曲制作1	学期末作品完成に向けての作曲作業～アイデアの抽出。
第4回	楽曲制作2	学期末作品完成に向けての作曲作業～メロディーとコード。
第5回	楽曲制作3	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクション。
第6回	楽曲制作4	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～他、うわもの。
第7回	楽曲制作5～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲技法Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、作編曲を専攻としない学生を対象に、ポピュラーミュージックの編曲を学びます。前期は主にスタンダード曲の分析を通して和音進行とメロディー、フォームについての学習をもとにオリジナル作品を制作します。3年次に学習したⅠの内容をより深く掘り下げます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニックハーモニーの基礎1	コードと音階、長短ダイアトニックコードと機能について確認。
第2回	ダイアトニックハーモニーの基礎2	様々なノンダイアトニックコードとその進行について確認。
第3回	ダイアトニックハーモニーの基礎3	メロディとコードの響きが矛盾するときとはどういう状態かについて楽曲分析を行いながら確認。
第4回	転調	様々な転調パターンと効果的な転調の仕組みについて。
第5回	モチーフ・フレーズ	曲を発展させゆく素材であるモチーフの重要性について楽曲分析を行いながら確認。
第6回	セクションと曲のフォーム	1コーラスの中身についてセクションごとの役割を検証し、フォームの種類を確認。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ1(リズムセクション1)	様々なジャンルやスタイルにおけるドラムとベースのアレンジについて。
第2回	アレンジ2(リズムセクション2)	様々なジャンルやスタイルにおけるギターとキーボードのアレンジについて。
第3回	アレンジ3(他、うわものアレンジ)	様々なイントロとエンディングのパターンと、その効果的な構造と作り方について。
第4回	アレンジ4(イントロ・アウトロ)	主旋律に対する動きのバランスや統一など基礎的な書き方について。
第5回	楽曲制作1	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作2	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作3～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング～完成。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出と音出しセッションへの参加。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲技法Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、作編曲を専攻としない学生を対象に、過去から現在までの様々なポップミュージックの分析と、旋法音楽の表現方法の学習を通して、オリジナル作品を仕上げていきます。3年次に学習したⅡの内容をより深く掘り下げます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様々なスタイルのポップス1	J-Popの過去から現在までの作品に焦点をあて、そのメロディ、ハーモニー、フォーム、アレンジなどについて考察。
第2回	様々なスタイルのポップス2	スティーリー・ダンなどのジャズハーモニーの影響の濃い作品における特徴について考察。
第3回	様々なスタイルのポップス3	ジョビーンやイヴァン・リンスなどブラジリアンポップスの作品における特徴について考察。
第4回	様々なスタイルのポップス4	パット・メセニーなどコンテンポラリーポップの作品における特徴について考察。
第5回	楽曲制作1	3クォーター末音出し作品完成に向けての作曲作業～スケッチ。
第6回	楽曲制作2	3クォーター末音出し作品完成に向けての作曲作業～リードシート完成。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋法音楽の表現方法1	調性音楽との響きの違い、教会旋法の音階構造と個々の響きの特徴とその仕組みについて確認。
第2回	旋法音楽の表現方法2	和音進行をともなわないリニアな表現とコード進行をともなう表現方法について。
第3回	楽曲制作1	学期末作品完成に向けての作曲作業～アイデアの抽出。
第4回	楽曲制作2	学期末作品完成に向けての作曲作業～メロディーとコード。
第5回	楽曲制作3	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクション。
第6回	楽曲制作4	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～他、うわもの。
第7回	楽曲制作5～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習内容の理解をチェックする筆記試験と学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲試演実習 I(ポップス系)	実習	実	隼田義博

科目概要

授業は毎回作編曲技法と連動して直後におこなわれるため、直前の作編曲技法で学習した内容を作編曲の実習を通して各自が学習内容を確認していきます。尚、講師はトレイラー専門音楽出版社の作曲家としてトレイラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスぶんのアレンジ作品を制作します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニックハーモニーの基礎1	ダイアトニックコードを中心としたメジャーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第2回	ダイアトニックハーモニーの基礎2	ノンダイアトニックコードを含むメジャーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第3回	ダイアトニックハーモニーの基礎3	マイナーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第4回	楽曲制作・モチーフ・フレーズ	モチーフを意識した作曲実習。
第5回	楽曲制作・転調	様々な転調パターンでの作曲実習。
第6回	楽曲制作・セクションと曲のフォーム	作品制作の仕上げ。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ1(リズムセクション1)	ドラムとベースのアレンジ実習
第2回	アレンジ2(リズムセクション2)	ギターとキーボードのアレンジ実習。
第3回	アレンジ3(ほかうわものアレンジ)	ブラスやストリングスなどのアレンジ実習。
第4回	アレンジ4(イントロ・アウトロ)	イントロとアウトロのアレンジ実習。
第5回	楽曲制作1	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作2	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作3～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出と音出しセッションへの参加。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲試演実習Ⅱ(ポップス系)	実習	実	隼田義博

科目概要

前期から引き続き、作編曲技法で学習したトピックの確認をするためにリスニングや各自が課題の作曲にとりくむ作業を中心に、オリジナル作品を仕上げていきます。尚、講師はトレイラー専門音楽出版社の作曲家としてトレイラー、TV番組のBGMやプロモ用音楽制作の実務経験を持ちます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析プレゼンテーション	今後の楽曲分析プレゼンテーションについてのガイダンスと作曲実習。
第2回	学生プレゼンテーション1・作曲実習	J-Popのプレゼンテーションと作曲実習。
第3回	学生プレゼンテーション2・作曲実習	ジャズハーモニーの色濃い作品のプレゼンテーションと作曲実習。
第4回	学生プレゼンテーション3・作曲実習	ブラジリアンポップスのプレゼンテーションと作曲実習。
第5回	学生プレゼンテーション4・作曲実習	コンテンポラリーポップのプレゼンテーションと作曲実習。
第6回	作曲実習	3クォーター作品完成向けの仕上げ作業。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋法音楽の表現方法1	教会旋法の音階構造と個々の響きの特徴の確認と作曲実習
第2回	旋法音楽の表現方法2	ダイアトニックハーモニーにおいて旋法音楽の表現を意識した作曲実習。
第3回	楽曲制作1	学期末作品完成向けの作曲作業～アイデアの抽出。
第4回	楽曲制作2	学期末作品完成向けの作曲作業～曲母体の完成。
第5回	楽曲制作3	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作4	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作5～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲試演実習Ⅲ	実習	実	小松真理

科目概要

授業は毎回作編曲技法と連動して直後におこなわれるため、直前の作編曲技法で学習した内容を作編曲の実習を通して各自が学習内容を確認していきます。尚、講師はTV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動の実務経験があります。3年次に学習したⅠの内容をより深く掘り下げます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させ、2クォーターの期末作品はリズムセクションとシンプルなうわものを加えた編成で、1コーラスぶんのアレンジ作品を制作します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダイアトニックハーモニーの基礎1	ダイアトニックコードを中心としたメジャーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第2回	ダイアトニックハーモニーの基礎2	ノンダイアトニックコードを含むメジャーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第3回	ダイアトニックハーモニーの基礎3	マイナーキーの曲におけるハーモニーの分析と練習課題。
第4回	楽曲制作・モチーフ・フレーズ	モチーフを意識した作曲実習。
第5回	楽曲制作・転調	様々な転調パターンの作曲実習。
第6回	楽曲制作・セクションと曲のフォーム	作品制作の仕上げ。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アレンジ1(リズムセクション1)	ドラムとベースのアレンジ実習
第2回	アレンジ2(リズムセクション2)	ギターとキーボードのアレンジ実習。
第3回	アレンジ3(ほかうわものアレンジ)	ブラスやストリングスなどのアレンジ実習。
第4回	アレンジ4(イントロ・アウトロ)	イントロとアウトロのアレンジ実習。
第5回	楽曲制作1	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作2	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作3～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出と音出しセッションへの参加。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲試演実習Ⅳ	実習	実	小松真理

科目概要

前期から引き続き、作編曲技法で学習したトピックの確認をするためにリスニングや各自が課題の作曲にとりくむ作業を中心に、オリジナル作品を仕上げていきます。尚、講師はTV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動の実務経験があります。3年次に学習したⅡの内容をより深く掘り下げます。

到達目標

各クォーターごとに作曲作品を完成させます。学期末作品はイントロからエンディングまでのフルコーラスのアレンジ作品を制作します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲分析プレゼンテーション	今後の楽曲分析プレゼンテーションについてのガイダンスと作曲実習。
第2回	学生プレゼンテーション1・作曲実習	J-Popのプレゼンテーションと作曲実習。
第3回	学生プレゼンテーション2・作曲実習	ジャズハーモニーの色濃い作品のプレゼンテーションと作曲実習。
第4回	学生プレゼンテーション3・作曲実習	ブラジリアンポップスのプレゼンテーションと作曲実習。
第5回	学生プレゼンテーション4・作曲実習	コンテンポラリーポップのプレゼンテーションと作曲実習。
第6回	作曲実習	3クォーター作品完成に向けての仕上げ作業。
第7回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

クォーター末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋法音楽の表現方法1	教会旋法の音階構造と個々の響きの特徴の確認と作曲実習
第2回	旋法音楽の表現方法2	ダイアトニックハーモニーにおいて旋法音楽の表現を意識した作曲実習。
第3回	楽曲制作1	学期末作品完成に向けての作曲作業～アイデアの抽出。
第4回	楽曲制作2	学期末作品完成に向けての作曲作業～曲母体の完成。
第5回	楽曲制作3	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～リズムセクションのスケッチ。
第6回	楽曲制作4	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～アレンジ要素の詰め。
第7回	楽曲制作5～完成	学期末作品完成へ向けてのアレンジ作業～イントロ・エンディング。
第8回	作品の総括	クラス内で作品のリスニングとディスカッション。

学期末試験評価方法

- ・出席状況(20%)遅刻・欠席は減点対象。
- ・平常点(40%)受講態度・課題の取り組みや各人の学習状況。
- ・試験(40%)学習した内容を反映した作品提出。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ベーシクトレーニング(Sax) I	演習	実	佐々木亜紀子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMなどの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、サクソファンサンブルアレンジ等)に基づき、コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標

ブルース曲、ジャズスタンダード曲でアドリブソロを演奏出来るようになる事を目指します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アドリブ入門	メジャースケールとマイナースケールを学びます。
第2回	ブルース1	マイナーペンタニックスケールを学びます。
第3回	ブルース2	マイナーペンタニックスケールのフレーズを学びます。
第4回	ブルース3	メジャーペンタニックスケールとフレーズを学びます。
第5回	ブルース4	ブルーススケールを学びます。
第6回	ブルース5	ブルーススケールのフレーズを学びます。
第7回	試験	ブルース曲のテーマとアドリブソロを演奏します。

クォーター末試験評価方法

出席率50%、授業への取り組み方30%、理解力20%で評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メジャーダイアトニックコード1	ダイアトニックコードを理解し、アルペジオで演奏します。
第2回	ダイアトニックコードとモード1	ダイアトニックコードとモードの関係を学びます。
第3回	ダイアトニックコードとモード2	イオニアンとドリアンのスケールとフレーズを学びます。
第4回	ダイアトニックコードとモード3	フリジアンとリディアンのスケールとフレーズを学びます。
第5回	ダイアトニックコードとモード4	ミクソリディアンのスケールとフレーズを学びます。
第6回	ダイアトニックコードとモード5	エオリアンとロクリアンのスケールとフレーズを学びます。
第7回	ダイアトニックコードとモード6	実際に曲を分析して、アドリブソロを演奏します。
第8回	試験	ジャズスタンダード曲のアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。

学期末試験評価方法

出席率50%、授業への取り組み方30%、理解力20%で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ベーシクトレーニング(Sax)Ⅱ	演習	実	佐々木亜紀子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMなどの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、サクソファンサンブルアレンジ等)に基づき、コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標

曲分析(コード進行に対するスケール)の正確さを目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	マイナーダイアトニックコード1	3つのマイナーダイアトニックコードを学びます。
第2回	マイナーダイアトニックコード2	ハーモニックマイナー・パーフェクト5thピロウを学びます。
第3回	マイナーダイアトニックコード3	マイナーダイアトニックコードとモードの関係性を学びます。
第4回	Ⅱ Vフレーズ1	メジャーⅡ Vフレーズを学びます。
第5回	Ⅱ Vフレーズ2	マイナーⅡ Vフレーズを学びます。
第6回	Ⅱ Vフレーズ3	Ⅱ Vフレーズを曲で実践してみます。
第7回	試験	メジャーとマイナーⅡ Vフレーズ例を12keyで演奏します。

クォーター末試験評価方法

出席率50%、授業への取り組み方30%、理解力20%で評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ノンダイアトニックコード1	ノンダイアトニックコードとスケールの関係を学びます。
第2回	ノンダイアトニックコード2	リディアン♭7thのスケールとフレーズを学びます。
第3回	ノンダイアトニックコード3	リディアン♭7thのフレーズを様々なkeyで実践してみます。
第4回	ノンダイアトニックコード4	リディアン♭7thとハーモニックマイナー・パーフェクト5thピロウの使い分けを曲で分析します。
第5回	ノンダイアトニックコード5	オルタードスケールを学びます。
第6回	ノンダイアトニックコード6	オルタードスケールのフレーズを学びます。
第7回	ノンダイアトニックコード7	実際に曲を分析して、アドリブソロを演奏します。
第8回	試験	ジャズスタンダード曲のアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。

学期末試験評価方法

出席率50%、授業への取り組み方30%、理解力20%で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ベーシクトレーニング(Sax)Ⅲ	演習	実	佐々木亜紀子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMなどの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、サクソファンサンブルアレンジ等)に基づき、コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標

ジャンルにあったソロフレーズを数多く習得する事を目標にします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ジャズスケール1	ミクソリディアンビバップスケールを学びます。
第2回	ジャズスケール2	ミクソリディアンビバップスケールのフレーズを学びます。
第3回	ジャズスケール3	ミクソリディアン $\natural$ 6thスケールとフレーズを学びます。
第4回	ジャズスケール4	ロクリアン $\natural$ 2thスケールとフレーズを学びます。
第5回	ジャズスケール5	コンビネーションオブデミニッシュスケールを学びます。
第6回	ジャズスケール6	コンビネーションオブデミニッシュスケールのフレーズを学びます。
第7回	試験	フレーズ例を12keyで演奏します。

クォーター末試験評価方法

出席率50%、授業への取り組み方30%、理解力20%で評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ジャズスケール7	ホールトーンスケールを学びます。
第2回	ジャズスケール8	ホールトーンスケールのフレーズを学びます。
第3回	ジャズスケール9	クロマティックスケールのフレーズを学びます。
第4回	ジャズスケール10	4thフレーズを学びます。
第5回	ジャズスケール11	ⅢⅥⅡⅤフレーズを学びます。
第6回	ジャズスケール12	ⅢⅥⅡⅤフレーズを12keyで演奏します。
第7回	ジャズスケール13	実際に曲を分析して、様々なジャズスケールを取り入れながらアドリブソロを演奏します。
第8回	試験	ジャズスタンダード曲のアドリブと、自分自身のアドリブソロを演奏します。

学期末試験評価方法

出席率50%、授業への取り組み方30%、理解力20%で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ベーシクトレーニング(Sax)IV	演習	実	佐々木亜紀子

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMなどの音楽制作及びアドバイザー、音楽セミナー、サクソファンアンサンブルアレンジ等)に基づき、コード進行とスケールの関係性を学びながら、アドリブソロを習得していきます。

到達目標

初見の曲でもアドリブソロが出来るようになることを目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様々なコード解釈1	裏コードとスケールの関係を学びます。
第2回	様々なコード解釈2	裏コードの曲をアドリブしてみます。
第3回	様々なコード解釈3	リズムチェンジの曲をアドリブしてみます。
第4回	様々なコード解釈4	リズムチェンジの曲のアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。
第5回	様々なコード解釈5	7thコード一発のアドリブを学びます。
第6回	様々なコード解釈6	7thコード一発のアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。
第7回	試験	3クォーターで取り上げたアドリブ例と、自分自身のアドリブソロを演奏します。

クォーター末試験評価方法

出席率50%、授業への取り組み方30%、理解力20%で評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	プレイヤーから学ぶ1	ファンキーフレーズを学びます。
第2回	プレイヤーから学ぶ2	ファンキーフレーズを各自で提案し、それを皆で演奏してみます。
第3回	プレイヤーから学ぶ3	ビバップフレーズを学びます。
第4回	プレイヤーから学ぶ4	ビバップフレーズを各自で提案し、それを皆で演奏してみます。
第5回	プレイヤーから学ぶ5	コルトレーンチェンジを学びます。
第6回	プレイヤーから学ぶ6	スムーズジャズスタイルを学びます。
第7回	プレイヤーから学ぶ7	各自、影響を受けたプレイヤーのフレーズを発表・演奏してもらいます。
第8回	試験	4クォーターで取り上げた曲から任意で選び、アドリブ例と自分自身のアドリブソロを演奏します。

学期末試験評価方法

出席率50%、授業への取り組み方30%、理解力20%で評価します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	アドバンスドテクニック I	演習	実	宮本裕史

科目概要

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ & ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。技法を学びつつ理論も勉強することに重点を置いて、他の授業で得た知識や技術を積極的に取り入れます。

到達目標

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での即興的メロディ創造表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現と音階的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	講義概要説明など	アドリブ方法論の解説と今期の講義予定・目標の説明。また、各生徒一人一人の技術や知識の確認もします。
第2回	分散和音を使った和声解決表現 1	V7での3、5、b7、b9アルベジオとImアルベジオの反復を即興で演奏し、最も原始的なアドリブを経験します。
第3回	分散和音を使った和声解決表現 2	上記練習とダイアトニックでのアドリブとの合流や、前週のテンポアップや転調を経験します。
第4回	アプローチノートの技法 1	様々なアプローチノートとディレイドリゾルブについて説明。その利点と使用法、練習法を解説します。
第5回	アプローチノートの技法 2	3~4音を使ったディレイドリゾルブをマイナーコード上でダイアトニックスケールの練習に織り交ぜる訓練をします。
第6回	これまでの手法の統合 1	これまで身につけた各技法を統合したアドリブラインを、譜面上で作成し、それを評価と解説し理解を深める。
第7回	1クォーターのまとめ	1~6回の授業の理解度を、質問・筆記(ホワイトボードへの板書)・実演にて確認し、追加解説にて不足を補います。

クォーター末試験評価方法

第7回授業での質問・筆記・実演にて判断。それぞれの理解の度合いを評価します

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋律的短音階 Melodic Minor 1	マイナーコードの上でメロディックマイナー中心のメロディづくりを練習します。
第2回	旋律的短音階 Melodic Minor 2	上記練習を土台にII7やV7alt、VII b7(#11)などのシチュエーションでメロディックマイナーを使用する練習をします。
第3回	これまでの手法の統合 2	これまで身につけた各技法を統合したアドリブラインを、譜面上で作成し、それを評価と解説し理解を深めます。
第4回	これまでの手法の統合 3	上記技法統合をスローテンポながらもリアルタイムで演奏し訓練。情報処理速度の向上を目指します。
第5回	combination of diminished scale	combination of diminished scaleの特性の把握と演奏訓練です。ドミナントモーション表現の練習もしていきます。
第6回	夏休み明けの進歩確認	これまでの練習を長期休暇中にどれだけ素早くできるようになったかを確認します。
第7回	模擬試験と採点	次週行う上記技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。
第8回	譜面提出と実演(試験)	技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

学期末試験評価方法

理解度、習得度を重要視し採点。即興実技は多少のテンポダウンを許可しますが、実際のジャムセッション・ライブでも授業で身につけた技術を発揮できそうかどうかを審査します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	アドバンスドテクニックⅡ	演習	実	宮本裕史

科目概要

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ & ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。技法を学びつつ理論も勉強することに重点を置いて、他の授業で得た知識や技術を積極的に取り入れます。

到達目標

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での即興的メロディ創造表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現と音階的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダブルタイムとアップテンポ 1	現在得ている技術を総合し、自分の能力、自分の楽器の特性の中で無理のない範囲の高速フレーズを制作します。
第2回	ダブルタイムとアップテンポ 2	制作した高速フレーズの拍ずらし、連結、即興微調整を訓練します。
第3回	バラード 1	前週までの応用で、バラードでの2倍、4倍テンポでのアドリブを。伴奏と違うビート階層で演奏する手法を学びます。
第4回	バラード 2	バラードにおける様々な音価を使うメロディアスなアドリブ。多様なインターバルの魅力を応用した旋律作りをします。
第5回	diminished scale	トニックディミニッシュなど、ディミニッシュスケールを利用すべき場面での演奏方法の理解と練習をします。
第6回	ディレクションとサジェスチョン	アドリブ中の合図の発信と受信、そしてその項目について研究します。
第7回	カラオケを使ったセッション(試験)	期末試験として、オーソドックスな曲を8曲ほど事前に決めておき、それをジャムセッション的にアドリブ合戦してみます。

クォーター末試験評価方法

各技法の偏りは問題とせず、講師が個々の生徒の演奏をソリストとして魅力を感じたかどうか、どれくらい魅力を感じたかを重視し評価します。明らかな間違いや重度の理解不足を見つけない限り減点はしません。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	無伴奏	無伴奏でも成立するソロや管楽器同士のデュオでのアドリブの実現を目指します。
第2回	無伴奏とインタープレイ	モチーフの模倣や定石的掛け合いなどを多用したリレーを、数小節単位でソロ交代をし続けます。
第3回	無伴奏とインタープレイ2	無伴奏アドリブを、様々なテンポなどで数小節単位でソロ交代し続けます。
第4回	冬休み明けの進歩確認	アドリブにおける情報処理速度を長期休暇中にどれだけアップできたかを確認します。
第5回	アウトサイド1	リズムセクションのハーモニーからの乖離度合調整を楽しむため様々な手法を学びます。
第6回	アウトサイド2	前週の学習の延長。それぞれの手法の応用を実験します。
第7回	模擬試験と採点	次週行うジャズ曲アドリブの筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。曲は選択自由。
第8回	譜面提出と実演(試験)	ジャズ曲アドリブの筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

学期末試験評価方法

各技法の偏りは問題とせず、講師が個々の生徒の演奏をソリストとして魅力を感じたかどうか、どれくらい魅力を感じたかを重視し評価します。明らかな間違いや重度の理解不足を見つけない限り減点はしません。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	アドバンスドテクニックⅢ	演習	実	宮本裕史

科目概要

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ & ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。技法を学びつつ理論も勉強することに重点を置いて、他の授業で得た知識や技術を積極的に取り入れます。

到達目標

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での即興的メロディ創造表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現と音階的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	講義概要説明など	アドリブ方法論の解説と今期の講義予定・目標の説明。また、各生徒一人一人の技術や知識の確認もします。
第2回	分散和音を使った和声解決表現 1	V7での3、5、b7、b9アルペジオとImアルペジオの反復を即興で演奏し、最も原始的なアドリブを経験します。
第3回	分散和音を使った和声解決表現 2	上記練習とダイアトニックでのアドリブとの合流や、前週のテンポアップや転調を経験します。
第4回	アプローチノートの技法 1	様々なアプローチノートとディレイドリゾルブについて説明。その利点と使用法、練習法を解説します。
第5回	アプローチノートの技法 2	3～4音を使ったディレイドリゾルブをマイナーコード上でダイアトニックスケールの練習に織り交ぜる訓練をします。
第6回	これまでの手法の統合 1	これまで身につけた各技法を統合したアドリブラインを、譜面上で作成し、それを評価と解説し理解を深める。
第7回	1クォーターのまとめ	1～6回の授業の理解度を、質問・筆記(ホワイトボードへの板書)・実演にて確認し、追加解説にて不足を補います。

クォーター末試験評価方法

第7回授業での質問・筆記・実演にて判断。それぞれの理解の度合いを評価します

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	旋律的短音階 Melodic Minor 1	マイナーコードの上でメロディックマイナー中心のメロディづくりを練習します。
第2回	旋律的短音階 Melodic Minor 2	上記練習を土台にII7やV7alt、VII b7(#11)などのシチュエーションでメロディックマイナーを使用する練習をします。
第3回	これまでの手法の統合 2	これまで身につけた各技法を統合したアドリブラインを、譜面上で作成し、それを評価と解説し理解を深めます。
第4回	これまでの手法の統合 3	上記技法統合をスローテンポながらもリアルタイムで演奏し訓練。情報処理速度の向上を目指します。
第5回	combination of diminished scale	combination of diminished scaleの特性の把握と演奏訓練です。ドミナントモーション表現の練習もしていきます。
第6回	夏休み明けの進歩確認	これまでの練習を長期休暇中にどれだけ素早くできるようになったかを確認します。
第7回	模擬試験と採点	次週行う上記技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。
第8回	譜面提出と実演(試験)	技法統合の筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

学期末試験評価方法

理解度、習得度を重要視し採点。即興実技は多少のテンポダウンを許可しますが、実際のジャムセッション・ライブでも授業で身につけた技術を発揮できそうかどうかを審査します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	アドバンスドテクニックⅣ	演習	実	宮本裕史

科目概要

この科目では講師の実務経験(ジャズオーケストラのソリスト、セクションプレイヤー、コンボ編成での奏者経験や作・編曲家としての活動)に基づき、ジャズ & ポピュラーにおける金管楽器での多様なアドリブスタイルを習得するための学習です。技法を学びつつ理論も勉強することに重点を置いて、他の授業で得た知識や技術を積極的に取り入れます。

到達目標

ビバップスタイルを基礎にした単音楽器での即興的メロディ創造表現を実現するため、ドミナントモーションの分散和音的表現と音階的表現、そしてアプローチノート各種の習得を目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ダブルタイムとアップテンポ 1	現在得ている技術を総合し、自分の能力、自分の楽器の特性の中で無理のない範囲の高速フレーズを制作します。
第2回	ダブルタイムとアップテンポ 2	制作した高速フレーズの拍ずらし、連結、即興微調整を訓練します。
第3回	バラード 1	前週までの応用で、バラードでの2倍、4倍テンポでのアドリブを。伴奏と違うビート階層で演奏する手法を学びます。
第4回	バラード 2	バラードにおける様々な音価を使うメロディアスなアドリブ。多様なインターバルの魅力を活用した旋律作りをします。
第5回	diminished scale	トニックディミニッシュなど、ディミニッシュスケールを利用すべき場面での演奏方法の理解と練習をします。
第6回	ディレクションとサジェスチョン	アドリブ中の合図の発信と受信、そしてその項目について研究します。
第7回	カラオケを使ったセッション(試験)	期末試験として、オーソドックスな曲を8曲ほど事前に決めておき、それをジャムセッション的にアドリブ合戦してみます。

クォーター末試験評価方法

各技法の偏りは問題とせず、講師が個々の生徒の演奏をソリストとして魅力を感じたかどうか、どれくらい魅力を感じたかを重視し評価します。明らかな間違いや重度の理解不足を見つけない限り減点はしません。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	無伴奏	無伴奏でも成立するソロや管楽器同士のデュオでのアドリブの実現を目指します。
第2回	無伴奏とインタープレイ	モチーフの模倣や定石的掛け合いなどを多用したリレーを、数小節単位でソロ交代をし続けます。
第3回	無伴奏とインタープレイ2	無伴奏アドリブを、様々なテンポなどで数小節単位でソロ交代し続けます。
第4回	冬休み明けの進歩確認	アドリブにおける情報処理速度を長期休暇中にどれだけアップできたかを確認します。
第5回	アウトサイド1	リズムセクションのハーモニーからの乖離度合調整を楽しむため様々な手法を学びます。
第6回	アウトサイド2	前週の学習の延長。それぞれの手法の応用を実験します。
第7回	模擬試験と採点	次週行うジャズ曲アドリブの筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演の模擬試験を行います。曲は選択自由。
第8回	譜面提出と実演(試験)	ジャズ曲アドリブの筆記提出、提出譜面演奏、リアルタイム即興実演。

学期末試験評価方法

各技法の偏りは問題とせず、講師が個々の生徒の演奏をソリストとして魅力を感じたかどうか、どれくらい魅力を感じたかを重視し評価します。明らかな間違いや重度の理解不足を見つけない限り減点はしません。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	セッション I	演習	実	寺屋ナオ

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供)に基づき、小編成でのジャズのアンサンブルにおける演奏の仕方を学びます。事前に細かなアレンジを用意することなく、その場で曲を決めて演奏し、音楽の「即興力」や「会話力」を磨きます。曲目は例です。

到達目標

シンプルな楽曲を使って、セッションに慣れるのが1Qの目標です。2Qは様々なリズムスタイルの要素を取り入れるようになるのが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	セッションの基本ルール	Bluesを題材に、セッションの基本的な演奏法を学びます。
第2回	ブルース1	Watermelon manなどを題材に、ブルース楽曲のセッションを練習します。
第3回	ブルース2	Chitlins con Carneなどを題材に、ブルース楽曲のセッションを練習します。
第4回	変則ブルース1	The sidwinderなどを題材に、変則的なサイズのブルース楽曲を練習します。
第5回	変則ブルース2	The chickenなどを題材に、変則的なサイズのブルース楽曲を練習します。
第6回	リハーサル	実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
第7回	実技試験	他クラスと合同で、ライブ形式の実技試験を行います。

クォーター末試験評価方法

出席を重視します。出席を出席を60%。リハーサルでの立ち振る舞い、及び実技試験での演奏内容、で残り40%の評価をします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様々なリズムスタイルの楽曲1	Back at the chicken shackなどを題材に、シャッフルの楽曲を練習します。
第2回	様々なリズムスタイルの楽曲2	Isn't she lovelyなどを題材に、シャッフルの楽曲を練習します。
第3回	様々なリズムスタイルの楽曲3	Now's the timeなどを題材に、Swingのリズムの楽曲を練習します。
第4回	様々なリズムスタイルの楽曲4	Sugarなどの楽曲を題材に、Swingのリズムの楽曲を練習します。
第5回	様々なリズムスタイルの楽曲5	Blue bossaなどを題材に、ボサノバのリズムの楽曲を練習します。
第6回	様々なリズムスタイルの楽曲6	オルフェのサンバなどを題材に、サンバのリズムの楽曲を練習します。
第7回	リハーサル	実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
第8回	実技試験	他クラスと合同で、ライブ形式の実技試験を行います。

学期末試験評価方法

出席を重視します。出席を出席を60%。リハーサルでの立ち振る舞い、及び実技試験での演奏内容、で残り40%の評価をします。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	セッションⅡ	演習	実	寺屋ナオ

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供)に基づき、小編成でのジャズのアンサンブルにおける演奏の仕方を学びます。事前に細かなアレンジを用意することなく、その場で曲を決めて演奏し、音楽の「即興力」や「会話力」を磨きます。曲目は例です。

到達目標

3Qはスタンダードソングで、イントロやエンディングなどを含めてスムーズにセッションできるようになる事が目標です。4Qは、より難易度の高い曲をセッションできるようになる事が目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スタンダード1	I'll close my eyesなどの楽曲を題材に、スタンダード曲のセッションを練習します。
第2回	スタンダード2	It could happen to youなどの楽曲を題材に、スタンダード曲のセッションを練習します。
第3回	スタンダード3	Alone togetherなどの楽曲を題材に、スタンダード曲のセッションを練習します。
第4回	イントロとエンディング1	スタンダード曲のイントロやエンディングなどの技法を練習します。
第5回	イントロとエンディング2	スタンダード曲のイントロやエンディングなどの技法を練習します。
第6回	リハーサル	実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
第7回	実技試験	他クラスと合同で、ライブ形式での実技試験を実施します。

クォーター末試験評価方法

出席を重視します。出席を出席を60%。リハーサルでの立ち振る舞い、及び実技試験での演奏内容、で残り40%の評価をします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Bebop1	Confirmationなどの楽曲を題材に、Bebop楽曲のセッションを練習します。
第2回	Bebop2	Donna leeなどの楽曲を題材に、Bebop楽曲のセッションを練習します。
第3回	Cool Jazz	Israelなどの楽曲を題材に、Modan Jazz楽曲のセッションを練習します。
第4回	Mode Jazz	So whatなどの楽曲を題材に、Mode Jazz楽曲のセッションを練習します。
第5回	Jazz funk	Strasbourg saint denisなどの楽曲を題材に、Jazz funk楽曲のセッションを練習します。
第6回	Hard bop	Nica's dreamなどの楽曲を題材に、Hard bop楽曲のセッションを練習します。
第7回	リハーサル	実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
第8回	実技試験	他クラスと合同で、ライブ形式での実技試験を実施します。

学期末試験評価方法

出席を重視します。出席を出席を60%。リハーサルでの立ち振る舞い、及び実技試験での演奏内容、で残り40%の評価をします。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	セッションⅢ	演習	実	寺屋ナオ

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供)に基づき、小編成でのジャズのアンサンブルにおける演奏の仕方を学びます。事前に細かなアレンジを用意することなく、その場で曲を決めて演奏し、音楽の「即興力」や「会話力」を磨きます。曲目は例です。

到達目標

シンプルな楽曲を使って、セッションに慣れるのが1Qの目標です。2Qは様々なリズムスタイルの要素を取り入れるようになるのが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	セッションの基本ルール	Bluesを題材に、セッションの基本的な演奏法を学びます。
第2回	ブルース1	Watermelon manなどを題材に、ブルース楽曲のセッションを練習します。
第3回	ブルース2	Chitlins con Carneなどを題材に、ブルース楽曲のセッションを練習します。
第4回	変則ブルース1	The sidwinderなどを題材に、変則的なサイズのブルース楽曲を練習します。
第5回	変則ブルース2	The chickenなどを題材に、変則的なサイズのブルース楽曲を練習します。
第6回	リハーサル	実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
第7回	実技試験	他クラスと合同で、ライブ形式の実技試験を行います。

クォーター末試験評価方法

出席を重視します。出席を出席を60%。リハーサルでの立ち振る舞い、及び実技試験での演奏内容、で残り40%の評価をします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	様々なリズムスタイルの楽曲1	Back at the chicken shackなどを題材に、シャツフルの楽曲を練習します。
第2回	様々なリズムスタイルの楽曲2	Isn't she lovelyなどを題材に、シャツフルの楽曲を練習します。
第3回	様々なリズムスタイルの楽曲3	Now's the timeなどを題材に、Swingのリズムの楽曲を練習します。
第4回	様々なリズムスタイルの楽曲4	Sugarなどの楽曲を題材に、Swingのリズムの楽曲を練習します。
第5回	様々なリズムスタイルの楽曲5	Blue bossaなどを題材に、ボサノバのリズムの楽曲を練習します。
第6回	様々なリズムスタイルの楽曲6	オルフェのサンバなどを題材に、サンバのリズムの楽曲を練習します。
第7回	リハーサル	実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
第8回	実技試験	他クラスと合同で、ライブ形式の実技試験を行います。

学期末試験評価方法

出席を重視します。出席を出席を60%。リハーサルでの立ち振る舞い、及び実技試験での演奏内容、で残り40%の評価をします。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	セッションIV	演習	実	寺屋ナオ

科目概要

この科目では、講師の実務経験(ギター奏者としての演奏活動、作編曲家としての作編曲提供)に基づき、小編成でのジャズのアンサンブルにおける演奏の仕方を学びます。事前に細かなアレンジを用意することなく、その場で曲を決めて演奏し、音楽の「即興力」や「会話力」を磨きます。曲目は例です。

到達目標

3Qはスタンダードソングで、イントロやエンディングなどを含めてスムーズにセッションできるようになる事が目標です。4Qは、より難易度の高い曲をセッションできるようになる事が目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	スタンダード1	I'll close my eyesなどの楽曲を題材に、スタンダード曲のセッションを練習します。
第2回	スタンダード2	It could happen to youなどの楽曲を題材に、スタンダード曲のセッションを練習します。
第3回	スタンダード3	Alone togetherなどの楽曲を題材に、スタンダード曲のセッションを練習します。
第4回	イントロとエンディング1	スタンダード曲のイントロやエンディングなどの技法を練習します。
第5回	イントロとエンディング2	スタンダード曲のイントロやエンディングなどの技法を練習します。
第6回	リハーサル	実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
第7回	実技試験	他クラスと合同で、ライブ形式での実技試験を実施します。

クォーター末試験評価方法

出席を重視します。出席を出席を60%。リハーサルでの立ち振る舞い、及び実技試験での演奏内容、で残り40%の評価をします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Bebop1	Confirmationなどの楽曲を題材に、Bebop楽曲のセッションを練習します。
第2回	Bebop2	Donna leeなどの楽曲を題材に、Bebop楽曲のセッションを練習します。
第3回	Cool Jazz	Israelなどの楽曲を題材に、Modan Jazz楽曲のセッションを練習します。
第4回	Mode Jazz	So whatなどの楽曲を題材に、Mode Jazz楽曲のセッションを練習します。
第5回	Jazz funk	Strasbourg saint denisなどの楽曲を題材に、Jazz funk楽曲のセッションを練習します。
第6回	Hard bop	Nica's dreamなどの楽曲を題材に、Hard bop楽曲のセッションを練習します。
第7回	リハーサル	実技試験に向けての楽曲を決め、リハーサルを行います。
第8回	実技試験	他クラスと合同で、ライブ形式での実技試験を実施します。

学期末試験評価方法

出席を重視します。出席を出席を60%。リハーサルでの立ち振る舞い、及び実技試験での演奏内容、で残り40%の評価をします。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	レコーディング I	実習	実	久保田浩之

科目概要

この科目は講師の実務経験(アーティスト活動、他アーティストのレコーディング参加、サウンドプロデューサー等)に基づき、アーティストや演奏家としてレコーディングに臨む際に必要な知識や姿勢を学びます。スタジオ機材の使用方法や楽曲のタイプ別に異なるレコーディング手法への理解を深めながらアンサンブル力やコミュニケーションスキルを磨いていきます。

到達目標

スタジオ機材(キューボックス等)の使用方法や各種マイクの基本的な特性、DAWの基礎知識を学習します。様々なタイプの楽曲をプリプロを重ねながらレコーディングし、レコーディングに適した楽譜の作成や、エンジニアやプレイヤー間のコミュニケーションスキルを身につけます。また、プリプロの効果的かつ効率的な進め方を研究します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス、課題曲1プリプロ1	スタジオ機材の取り扱い方法、楽曲選定、プリプロの進め方
第2回	課題曲1プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第3回	課題曲1プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第4回	課題曲1レコーディング(小テスト)	レコーディング本番、試聴
第5回	課題曲2プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第6回	課題曲2プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第7回	課題曲2レコーディング(試験)	レコーディング本番、試聴

クォーター末試験評価方法

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識(各種機材の取り扱い等)の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲3プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第2回	課題曲3プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第3回	課題曲3プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第4回	課題曲3レコーディング(小テスト)	レコーディング本番、試聴
第5回	課題曲4プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第6回	課題曲4プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第7回	課題曲4プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第8回	課題曲4レコーディング(試験)	レコーディング本番、試聴

学期末試験評価方法

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識(各種機材の取り扱い等)の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	レコーディングⅡ	実習	実	久保田浩之

科目概要

この科目は講師の実務経験(アーティスト活動、他アーティストのレコーディング参加、サウンドプロデュース等)に基づき、アーティストや演奏家としてレコーディングに臨む際に必要な知識や姿勢を学びます。スタジオ機材の使用方法や楽曲のタイプ別に異なるレコーディング手法への理解を深めながらアンサンプル力やコミュニケーションスキルを磨いていきます。

到達目標

スタジオ機材(キューボックス等)の使用方法や各種マイクの基本的な特性、DAWの基礎知識を学習します。様々なタイプの楽曲をプリプロを重ねながらレコーディングし、レコーディングに適した楽譜の作成や、エンジニアやプレイヤー間のコミュニケーションスキルを身につけます。また、プリプロの効果的かつ効率的な進め方を研究します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲5プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第2回	課題曲5プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第3回	課題曲5プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第4回	課題曲5レコーディング(小テスト)	レコーディング本番、試聴
第5回	課題曲6プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第6回	課題曲6プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第7回	課題曲6レコーディング(試験)	レコーディング本番、試聴

クォーター末試験評価方法

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識(各種機材の取り扱い等)の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲7プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第2回	課題曲7プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第3回	課題曲7プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第4回	課題曲7レコーディング(小テスト)	レコーディング本番、試聴
第5回	課題曲8プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第6回	課題曲8プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第7回	課題曲8プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第8回	課題曲8レコーディング(試験)	レコーディング本番、試聴

学期末試験評価方法

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識(各種機材の取り扱い等)の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	レコーディングⅢ	実技	実	久保田浩之

科目概要

この科目は講師の実務経験(アーティスト活動、他アーティストのレコーディング参加、サウンドプロデューサー等)に基づき、アーティストや演奏家としてレコーディングに臨む際に必要な知識や姿勢を学びます。スタジオ機材の使用方法や楽曲のタイプ別に異なるレコーディング手法への理解を深めながらアンサンブル力やコミュニケーションスキルを磨いていきます。

到達目標

様々なタイプの楽曲をプリプロを重ねながらレコーディングし、レコーディングに適した楽譜の作成や、エンジニアやプレイヤー間のコミュニケーションスキルを身につけます。また、プリプロの効果的かつ効率的な進め方を研究します。スタジオ機材(アウトボードやマイク)やDAWのより発展的な使い方やミックスの手法を実践の中で学びます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス、課題曲1プリプロ1	スタジオ機材の取り扱い方法、楽曲選定、プリプロの進め方
第2回	課題曲1プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第3回	課題曲1プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第4回	課題曲1レコーディング(小テスト)	レコーディング本番、試聴
第5回	課題曲2プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第6回	課題曲2プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第7回	課題曲2レコーディング(試験)	レコーディング本番、試聴

クォーター末試験評価方法

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識(各種機材の取り扱い等)の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲3プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第2回	課題曲3プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第3回	課題曲3プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第4回	課題曲3レコーディング(小テスト)	レコーディング本番、試聴
第5回	課題曲4プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第6回	課題曲4プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第7回	課題曲4プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第8回	課題曲4レコーディング(試験)	レコーディング本番、試聴

学期末試験評価方法

小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識(各種機材の取り扱い等)の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	レコーディングⅣ	実技	実	久保田浩之

科目概要
この科目は講師の実務経験(アーティスト活動、他アーティストのレコーディング参加、サウンドプロデューサー等)に基づき、アーティストや演奏家としてレコーディングに臨む際に必要な知識や姿勢を学びます。スタジオ機材の使用方法や楽曲のタイプ別に異なるレコーディング手法への理解を深めながらアンサンブル力やコミュニケーションスキルを磨いていきます。
到達目標
様々なタイプの楽曲をプリプロを重ねながらレコーディングし、レコーディングに適した楽譜の作成や、エンジニアやプレイヤー間のコミュニケーションスキルを身につけます。また、プリプロの効果的かつ効率的な進め方を研究します。スタジオ機材(アウトボードやマイク)やDAWのより発展的な使い方やミックスの手法を実践の中で学びます。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲5プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第2回	課題曲5プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第3回	課題曲5プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第4回	課題曲5レコーディング(小テスト)	レコーディング本番、試聴
第5回	課題曲6プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第6回	課題曲6プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第7回	課題曲6レコーディング(試験)	レコーディング本番、試聴
クォーター末試験評価方法		
小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識(各種機材の取り扱い等)の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します		
4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	課題曲7プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第2回	課題曲7プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第3回	課題曲7プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第4回	課題曲7レコーディング(小テスト)	レコーディング本番、試聴
第5回	課題曲8プリプロ1	楽曲選定、プリプロの進め方
第6回	課題曲8プリプロ2	プリプロ2回目、デモ音源レコーディング
第7回	課題曲8プリプロ3	プリプロ3回目、デモ音源レコーディング
第8回	課題曲8レコーディング(試験)	レコーディング本番、試聴
学期末試験評価方法		
小テスト・試験での作品のクオリティー30%、必要知識(各種機材の取り扱い等)の理解度20%、演奏力・コミュニケーションスキル20%、出席・受講態度30%で算出します		

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ジャズホップスアンサンブル I III V VII	実習	実	坂本浩志

科目概要

ジャズビッグバンドの重要なレパートリーを学び、楽曲のリズム、メロディー、ハーモニー、アレンジ等、アンサンブルの仕組みを理解した上でのライブパフォーマンスができるようになることを目指します。尚、講師はバンドディレクター、アレンジャー、トロンボーン奏者としての実務経験にもとづき運営します。  
※授業内容内の曲目は昨年度実績からの参考です。変更する場合があります。

到達目標

司会も含み25分のショーを成立させます。  
発表会ではなく、ライブとして聴衆を楽しませることが大前提です。  
※春学期は照明演出はありません。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	全体オリエンテーション①	ジャンルごとのアンサンブルクラスの紹介/試験についての説明
第2回	全体オリエンテーション②	編成調整
第3回	クラスオリエンテーション	メンバー紹介。1年間の流れの説明。合奏セッション。
第4回	レパートリー研究①	Moonlight Serende/In the Mood
第5回	レパートリー研究②	Take The A Train/Satin Doll
第6回	レパートリー研究③	Sing Sing Sing/Freckle Face
第7回	まとめ(演奏映像収録)	1クォーターで演奏した曲を映像収録し、客観的に確認します。

クォーター末試験評価方法

出席は100%が大前提で、欠席する場合は代奏の確保、事前の調整が必要です(やむを得ない事情の場合を除く)。出欠席、遅刻/早退への対応も評価に入れます。  
演奏力、アンサンブル全体への貢献度も評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	試験にむけての選曲①	Sir Duke /1クォーターの楽曲
第2回	試験にむけての選曲②	It's All Right With Me /1クォーターの楽曲
第3回	試験にむけての選曲③	Galaxy Express 999 /1クォーターの楽曲
第4回	試験曲確定	Moonlight Serende / In the Mood / Sir Duke / Galaxy Express 999 / Sing Sing Sing
第5回	曲順/演奏プラン確定(提出)	Moonlight Serende / In the Mood / Sir Duke / Galaxy Express 999 / Sing Sing Sing
第6回	各曲のブラッシュアップ①	Moonlight Serende / In the Mood / Sir Duke
第7回	各曲のブラッシュアップ②	Galaxy Express 999 / Sing Sing Sing
第8回	通し	Moonlight Serende / In the Mood / Sir Duke / Galaxy Express 999 / Sing Sing Sing

学期末試験評価方法

出席は100%が大前提で、欠席する場合は代奏の確保、事前の調整が必要です(やむを得ない事情の場合を除く)。出欠席、遅刻/早退への対応も評価に入れます。  
演奏力、アンサンブル全体への貢献度、本番での立ち振る舞いも評価します。

音楽総合アカデミー学科 ジャズ・ポピュラーコース

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ジャズホップスアンサンブルⅡⅣⅥⅧⅧ	実習	実	坂本浩志

科目概要

ジャズビッグバンドの重要なレパートリーを学び、楽曲のリズム、メロディー、ハーモニー、アレンジ等、アンサンブルの仕組みを理解した上でのライブパフォーマンスができるようになることを目指します。尚、講師はバンドディレクター、アレンジャー、トロンボーン奏者としての実務経験にもとづき運営します。  
※授業内容内の曲目は昨年度実績からの参考です。変更する場合があります。

到達目標

司会も含み30分のショーを成立させます。  
発表会ではなく、ライブとして聴衆を楽しませることが大前提です。  
※秋学期は照明演出もつきます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期試験本番の検証	試験本番のビデオを鑑賞して、ディスカッションします。初見合奏も行います。
第2回	レパートリー研究①	Joshua / Domingo / Three Views of a Secret
第3回	レパートリー研究②	It's All right with me / Goodbye pork pie hat / Seven Steps to Heaven
第4回	レパートリー研究③	Birds of a feather / Baby cakes
第5回	試験にむけての選曲①	When I fall in love / Mambo inn
第6回	試験にむけての選曲②	Riyadh Nights / P's Delight
第7回	まとめ(演奏映像収録)	3クォーターで演奏した曲を映像収録し、客観的に確認します。

クォーター末試験評価方法

出席は100%が大前提で、欠席する場合は代奏の確保、事前の調整が必要です(やむを得ない事情の場合を除く)。出欠席、遅刻/早退への対応も評価に入れます。  
演奏力、アンサンブル全体への貢献度も評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	試験にむけての選曲③	When I fall in love / Riyadh Nights / P's Delight
第2回	試験曲確定	When I fall in love / Riyadh Nights / P's Delight / Domingo / Three Views of a Secret / Seven Steps to Heaven
第3回	曲順/演奏プラン確定(提出)	When I fall in love / Riyadh Nights / P's Delight / Domingo / Three Views of a Secret / Seven Steps to Heaven
第4回	各曲のブラッシュアップ①	When I fall in love / Riyadh Nights / P's Delight / Domingo / Three Views of a Secret / Seven Steps to Heaven
第5回	各曲のブラッシュアップ②(暗譜)	When I fall in love / Riyadh Nights / P's Delight / Domingo / Three Views of a Secret / Seven Steps to Heaven
第6回	通し(演出/ステージング確認)	When I fall in love / Riyadh Nights / P's Delight / Domingo / Three Views of a Secret / Seven Steps to Heaven
第7回	通し	When I fall in love / Riyadh Nights / P's Delight / Domingo / Three Views of a Secret / Seven Steps to Heaven
第8回	映像収録(照明スタッフ用)	When I fall in love / Riyadh Nights / P's Delight / Domingo / Three Views of a Secret / Seven Steps to Heaven

学期末試験評価方法

出席は100%が大前提で、欠席する場合は代奏の確保、事前の調整が必要です(やむを得ない事情の場合を除く)。出欠席、遅刻/早退への対応も評価に入れます。  
演奏力、アンサンブル全体への貢献度、本番での立ち振る舞いも評価します。

# 管弦打楽器コース

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュ I	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。
到達目標
自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(2度)、コンコーネ(1-4)、聴音(step13,14)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step1,2) & 1Qのまとめ

クォーター末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(3度)、コンコーネ(5-9)、聴音(step15,16)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step3,4) & 2Qのまとめ

学期末試験評価方法
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅡ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

自分が思う音と、実際に出ている音が一致しているかどうかを確認できるようになること。同時に、「音」だけではなく、ダイナミクス、アーテキュレーション等も読み取り、感じ取ることができるようになること。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(4度)、コンコーネ(10-13)、聴音(step17,18)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step5,6) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(5度)、コンコーネ(14-18)、聴音(step19,20)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step7,8) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ソルフェージュⅢ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要
1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。
到達目標
1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画		
1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(6度)、コンコーネ(19-22)、聴音(メロディー、step21、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step9) & 1Qのまとめ
クォーター末試験評価方法		
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(7度)、コンコーネ(23-27)、聴音(メロディー、step22、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step10) & 2Qのまとめ
学期末試験評価方法		
「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。		

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ソルフェージュⅣ	演習	実	藤本暁子、宇都宮三花、熊埜御堂可奈子

科目概要

1年次に引き続き「視唱」と「聴音」の訓練をしていきます。「視唱」は、新曲視唱がプラスされます。「聴音」はメロディー聴音だけでなく、2声聴音、4声聴音が新たに追加されます。この科目では、講師の実務経験(ピアニスト、作編曲家)の経験に基づき、学生それぞれが直面している悩みも取り上げ、授業内で解決できるよう進めていきます。

到達目標

1年次よりもより深く、音の高さやリズムに関して、知識と意識が広がっているかどうか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(長調)、コンコーネ(28-32)、聴音(メロディー、step23、2声、4声)
第6回	試験	聴音試験
第7回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step11) & 3Qのまとめ

クォーター末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第2回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第3回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第4回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第5回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第6回	視唱 & 聴音	コールユーブンゲン(短調)、コンコーネ(33-37)、聴音(メロディー、step24、2声、4声)
第7回	試験	聴音試験
第8回	試験 & 総括	視唱試験(新曲視唱 step12) & 4Qのまとめ

学期末試験評価方法

「視唱」と「聴音」の2項目の評価をします。加えて、毎回の授業への取り組み方でも評価します。出席・遅刻も多いに関係しますので授業には積極的に取り組みましょう。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅰ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	一年間で学習する内容のガイダンス、講師・学生の自己紹介、簡単な知識チェックテストを行います。
第2回	譜表・音名	基礎中の基礎、五線、譜表、音名を学びます。音部記号(ト音記号、ヘ音記号、ハ音記号)の譜面の読み方を学びます。
第3回	音符・休符	音符、休符のそれぞれの長さ、記譜法を学びます。
第4回	拍子	4/4や6/8など、拍子によって変わる読譜、記譜法を学びます。
第5回	リズムの記譜法	前回学んだ拍子に合わせた、リズムの記譜法を学びます。
第6回	変化記号	変化記号のルール、小節内、小節をまたいだ場合、など、各ケースでの変化記号の読み方、付け方を学びます。
第7回	1Qのまとめテスト	1Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音階①	音階がどのようなルールの上に成り立っているのかを学びます。この回では、五度圏表を作成し、調の関係性を見ていきます。
第2回	音階②	前回学んだ五度圏表を用い、それぞれの調号、長音階、短音階を学びます。
第3回	夏休み前の復習、音階③	夏休み前に学んだ、音階を重点的に復習します。
第4回	調①	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。
第5回	調②	音階の知識定着を目指し、5度圏表を用い、調号と、それぞれの調をしっかりと覚えていきます。近親調も学びます。
第6回	音程①	幹音を基本とした、音程の答え方を学んでいきます。
第7回	音程②	基本の音程をベースに、変化記号がついた場合の呼称の変化、転回音程などを学んでいきます。
第8回	春学期のまとめテスト	1Q2Q合わせた春学期の確認テストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅱ	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

『新総合音楽講座1 楽典』をテキストとして用い、音楽の基礎的な理論を学びます。知識の習得、演習を主に行っていきます。4Qでは、総ざらいで復習し、基礎を固めて行きます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

テキスト記載の理論は全て知識として習得すること、演習問題を通し、作曲、演奏に際して、応用できるようになることを到達目標とします。学生によっては、既に基本的な音楽理論は知っている人もいますが、基礎から一つ一つ確認して進め、全員に基礎理論を習得してもらいます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	1Q2Qの復習①	主に音階、調の復習をします。
第2回	1Q2Qの復習②	主に音程の復習をします。
第3回	移調と転調	移調楽器への書き換え、臨時記号による転調の見分け方例を学びます。
第4回	楽語・記号	テキスト後半に記載されている、楽語、標語、各種記号を一通り確認します。
第5回	和音・コード①	和声学における和音の呼称、対応するコードの呼称、音の構成を学びます。
第6回	和音・コード②	いくつかの基本コードの呼称、音の構成を学びます。
第7回	3Qのまとめテスト	3Qに学んだ音楽理論の確認テストを実施します。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	復習①	1Qで学んだ基礎事項の復習をします。
第2回	復習②	音階、調の復習をします。
第3回	復習③	音階、調の復習をします。この項目は、特に重点的に復習し、確実に習得してもらいます。
第4回	復習④	音程の復習をします。
第5回	復習⑤	移調楽器の復習をします。
第6回	復習⑥	コードの復習をします。
第7回	復習⑦	全体的に、弱点と思われる項目を復習します。
第8回	1年間のまとめテスト	1年間学んだ、全ての項目を網羅したテストを実施します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	音楽理論Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験（TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動）に基づき、コードとコード進行 / スケール / スコア / 移調楽器 / リズム楽器など、作曲に必要な事柄を学んでいきます。

到達目標

理論学習と実習を繰り返し、学んだ事を自作曲に活かせる様、進めていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ペントニック・スケール	様々なジャンルから、ペントニック・スケールで構成されている楽曲をリストアップします。
第2回	セカンダリー・ドミナント	セカンダリー・ドミナントを復習します。
第3回	パッシング・ディミニッシュ	パッシング・ディミニッシュを学びます。
第4回	循環コード(1)	循環コードのパターンを分析し、フレーズを作成します。
第5回	循環コード(2)	4週で作成したフレーズを移調楽器用にパート譜を作成します。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	1Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	サブドミナント・マイナー	サブドミナント・マイナーの用法を学びます。
第2回	バックイング	duo曲の伴奏を分析し、メロ譜に伴奏を付けます。
第3回	カノン	様々なカノン进行分析し、カノンを作成します。
第4回	リズム	リズム譜を読み、2人一組で実習します。
第5回	カウンターライン カウンターメロディ	カウンターライン・カウンターメロディについて。
第6回	リフ	既存曲のリフを分析し、リフからテーマを作成します。
第7回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第8回	2Q試験	KBDハーモニー筆記実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	音楽理論Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、春学期の学習内容を踏まえて、オリジナル作品制作に役立つ理論等を学びます。

到達目標

実習で作成した楽曲の試演を取り入れ、演奏しやすい譜面作りを行います。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	裏コード	裏コードの用法を学びます。
第2回	コード付け	既存曲を分析し、既習したコードを取り入れます。
第3回	ホルンの5度(1)	ホルンの5度の用法を学びます。
第4回	ホルンの5度(2)	前回作成したフレーズをホルン用にパート譜を作成します。
第5回	ナポリの和音	ナポリの和音の用法を学びます。
第6回	KBDハーモニー	互いに問題を提示し、コードづけし演奏します。
第7回	3Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドリアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第2回	ミクソリディアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第3回	フリジアン	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第4回	ジブシー	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第5回	ブルー・ノート	スケールを使用し、フレーズを作成します。
第6回	試演(1)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第7回	試演(2)	4Qで制作したフレーズを試演します。
第8回	4Q試験	KBDハーモニー筆記・実技試験。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲演習 I	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

作編曲は、昨今ではPC上で、各種DAWソフトを使用して行うことが通常となってきましたが、この授業では、楽譜を書いて作編曲を行います。編成による譜表の違い、楽器による記譜法の違い、メロディとコードの関係など、様々な観点で楽譜に書き込む作編曲を学んでいきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

適切な譜表を選び、適切な記譜ができること、その上で、各自の思う音楽を自在に書き表わせるようにしてもらいます。年度末まで8～16小節の小品を作成できることが目標です。春学期は、まだ理論の知識が追いついていないこともあり、既存曲の分析を行うことで、作編曲における引き出しを増やしていきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の解説をします。どんな曲が好きか、どうして好きなのか、どんな曲が作れるようになりたいのかのアンケートを実施します。
第2回	分析①	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第3回	分析②	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第4回	分析③	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第5回	分析④	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第6回	分析⑤	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第7回	1Qのまとめテスト	自分の好きな曲について、聴き込み、どんな構成か、楽器か、音色かなど文章化してもらいます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分析⑥	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第2回	分析⑦	ガイダンスで出てきた楽曲の分析を行います。一部分だけでも、記譜してみるなどし、模倣しながら作編曲の手法を学んでいきます。
第3回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第4回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第5回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第6回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第7回	作成トライアル①	これまで学んだ内容をもとに、作曲を始めます。大譜表を用い、自由に、メロディを考え、和音をつけていきます。
第8回	春学期のまとめ作成	8小節のほどのお題に合わせて、メロディを作曲してもらいます。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲演習 II	演習	実	ジェニングス貴子

科目概要

作編曲は、昨今ではPC上で、各種DAWソフトを使用して行うことが通常となってきましたが、この授業では、楽譜を書いて作編曲を行います。編成による譜表の違い、楽器による記譜法の違い、メロディとコードの関係など、様々な観点で楽譜に書き込む作編曲を学んでいきます。この科目は講師の実務経験(作曲・編曲・オーケストレーション・ピアノ演奏)に基づき、運営します。

到達目標

適切な譜表を選び、適切な記譜ができること、その上で、各自の思う音楽を自在に書き表わせるようにしてもらいます。年度末まで8~16小節の小品を作成できることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ベース・ランニング①	曲の要となるベースラインを作っていきます。ベースの音色、系統など知識も学びます。
第2回	ベース・ランニング②	曲の要となるベースラインを作っていきます。色んなベースパターンを聴き、演奏してみます。
第3回	リズム・セクション①	ベースと並び重要な、リズムセクションについて学びます。楽器の種類、記譜法も学びます。
第4回	リズム・セクション②	リズムセクションを作ります。
第5回	コード①	音楽理論で学んだコードを利用した作曲方法を学びます。
第6回	コード②	どんなコードパターンがあるか学びます。循環コードなどを用いて、作曲します。
第7回	3Qまとめ作成	4小節ほどの短い譜面を仕上げます。ベース、リズム、コード、全てしっかり楽譜に書き込みます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メロディー①	コードをもとに、どんなメロディが考えられるか学びます。
第2回	メロディー②	メロディに合うコード、リハーモニゼーションを学びます。
第3回	サブ・メロディー①	カウンターラインを学びます。
第4回	サブ・メロディー②	ストリングスアレンジなど、全体を引き立たせるラインを学びます。
第5回	アンサンブル①	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第6回	アンサンブル②	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第7回	アンサンブル③	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。4週間で作成し、提出してもらいます。
第8回	秋学期まとめ作成	これまでの授業をもとに、自由曲を作曲してもらいます。この日の提出を持って、試験とします。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲Ⅲ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、アンサンブル実技授業と連携し、所属アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作します。

到達目標

所属アンサンブルの編成で、アンサンブル作品を制作する為に必要な、楽器の音域や特性を学び、スコアの書法についても学んでいきます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Aメロの制作	Aメロを制作し、コード付けをします。
第2回	Bメロの制作	Bメロを制作し、コード付けをします。
第3回	AとBのバックギ	様々なバックギ・パターンをリストアップし、メロディに合うバックギを制作します。
第4回	Dr.とBass	Dr.譜、Bass譜の書き方や主なパターンを知り、楽曲に取り入れます。
第5回	試演	音楽理論Ⅲで作成した譜面の試演。
第6回	イントロとコーダ	イントロとコーダを作成します。
第7回	1Q試験	アンサンブル実技用スコア提出。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	演奏時間 / テンポ / 小節数について	演奏時間 / テンポ / 小節数についての関係を学び、計算式に当てはめます。
第2回	楽曲構成 / テーマ作り	1週で作成した計算式を用いて、2分以上の楽曲になる様に構成を決め、テーマを制作します。
第3回	各パーツの作成	2週で決めた構成を踏まえて、必要なテーマ数を把握し制作を進めます。
第4回	試演	音楽理論Ⅲで作成した譜面の試演。
第5回	カウンターライン カウンターメロディ	音楽理論Ⅲで学習した内容を楽曲に取り入れます。
第6回	リフ	音楽理論Ⅲで学習した内容を楽曲に取り入れます。
第7回	スコアチェック	個別スコアチェック。
第8回	2Q試験	アンサンブル実技用スコア提出。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲Ⅳ	演習	実	小松真理

科目概要

この科目では、講師の実務経験(TV、映画、CMの音楽制作など、作曲家、編曲家、としての活動)に基づき、3クォーターはアンサンブル実技用の楽曲制作4クォーターはクラス内のグループ用楽曲制作を行います。

到達目標

編成の異なるアンサンブル作品を書くために、各楽器の特性を活かしたアレンジを目指します。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リファレンス(1)	3Qで制作するアンサンブル作品のリファレンスを各自設定します。
第2回	リファレンス(2)	リファレンスを分析します。
第3回	テーマ制作	音域、担当楽器を踏まえてテーマを制作します。
第4回	ハモリ	管パートのハモリを書き込みます。
第5回	試演	音楽理論授業で作成した楽曲の試演。
第6回	スコアチェック	個別にスコアチェックを行います。
第7回	3Q試験	アンサンブル実技用スコア提出。

クォーター末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	30分プログラム	オリジナル曲で30分プログラムを作成 グループ分けを行います。
第2回	グループ作曲	1週で決めたグループでテーマを制作します。
第3回	グループ作曲(1)	2週で制作したテーマをアレンジします。
第4回	グループ作曲(2)	3週で制作したスコアからパート譜を作成します。
第5回	クラス作曲	クラス全体のアンサンブル曲に取り組みます。
第6回	30分プログラム(リハ)	リハを行います。
第7回	30分プログラム(本番)	30分プログラムを発表します。
第8回	4Q試験	rec.音源をmixします。

学期末試験評価方法

試験 50%  
出席 30%  
その他 20%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	DTM基礎 I	講義	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づき音楽家にとって楽器と同様に必要なパソコンの基本的な使い方、MIDIシーケンサー『CUBASE』、音源の基本操作、およびMIDIの基礎を習得し、2年生で学習する譜面浄書ソフトや上級生でのDAWへの学習の基礎の習得とします。

到達目標

Cubaseの基本操作を習得し、MIDIファイルを作成できるようになります。新規作成、プロジェクト名、保存法、トラックの設定を理解します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	DTMとはなにか?	PCの基本操作を学びます。
第2回	Cubaseの基本操作 I	Cubaseを起動し楽器の設定をして音を出します。プロジェクトの作成と保存。
第3回	Cubaseの基本操作 II	Cubaseにデータを書いて音を出します。ドラムのパートを作成します。
第4回	楽譜からデータ作成 I	与えられた楽譜からデータを作成します。ピアノロールの使い方。データをUSBに保存します。
第5回	楽譜からデータ作成 II	ドラムパートを追加します。名前を変えて保存します。
第6回	楽譜からデータ作成 III	パーカッションパートを追加します。名前を変えて保存します。
第7回	作品提出	完成したデータを提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	GM音源について	プログラムチェンジを使って使用する楽器を指定します。
第2回	MIDIの基礎知識 I	MIDIについて学習します。MIDIチャンネルについて。
第3回	MIDIの基礎知識 II	アンサンブルの楽譜を入力します。連符の設定、クオンタイズの設定。
第4回	いろいろなパートの作成	ピアノの楽譜を入力します。コードの入力について学習します。
第5回	楽曲データ作成 I	拍子、テンポを設定します。
第6回	楽曲データ作成 II	課題作成作業
第7回	楽曲データ作成 III	課題を完成させます。
第8回	作品提出	完成したデータを提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	DTM基礎 II	講義	実	有馬 知章

科目概要
この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づきMIDI規格を理解し、細かい音楽表現を学習します。春学期に習得した技術を応用し、多くの楽曲のデータを作成し実践します。
到達目標
Cubaseで音楽を表現します。音の長さ、強弱を設定して、音楽的なデータを作成します。データをただ入力するだけではなく、記譜されている記号を読み取り、人間の演奏に近い表現を目指す。

授業計画		
3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDIコントロールチェンジの設定 I	トラックごとにプログラムチェンジを設定し、楽器のセットを作ります。ベロシティを設定してドラムのアクセントをつけます。
第2回	MIDIコントロールチェンジの設定 II	プログラムチェンジ、ボリューム、パン、ピッチベンドを設定します
第3回	クオンタイズ機能	クオンタイズについて、内容と設定を学習します。リズムパターン作成。
第4回	MIDIによる音楽的な表現	ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。テクノ風、8ビート、16ビート、4ビート、swingなど。
第5回	MIDIによる音楽的な表現	ベース、ドラム、コードでいろいろなパターンを作成します。
第6回	課題作成	与えられた課題曲のデータを作成します
第7回	作品提出	完成したファイルを提出します。

クォーター末試験評価方法
平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音楽的な演奏データを作る	ピアノ曲のデータを入力します。正確に譜面通り入力します。
第2回	音楽的な演奏データを作る	ピアノ曲のデータに、強弱、テンポ変化をつけます。
第3回	課題作成開始	課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。
第4回	課題作成開始	課題曲のスコアを入力します。正確に譜面通り入力します。データを提出します。
第5回	アレンジ作業	トラックをコピーして、パートを増やします。
第6回	アレンジ作業	トラックをコピーして、パートを増やします。データを提出します。
第7回	トラックダウン	全体のバランスを取り完成させます
第8回	作品提出	完成したファイルを提出します。

学期末試験評価方法
平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	譜面浄書 I	講義	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー、)に基づき、音楽表現を主に今まで習得した入力技術の向上を目指します。MIDIだけではなく、オーディオファイルの基礎を学習し作品の完成度を高めます。

到達目標

MIDIデータをただ入力するだけでなく、音楽的な表現をつけて完成させます。複数トラックのデータのトラックダウンもできるようになります。Cubaseでオーディオを扱う際の基本操作を習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	Cubase基本操作I	基礎内容を復習します。保存方法、データのバージョン管理、操作方法等。コントロールチェンジの設定。
第2回	オーディオファイルの読み込み・編集	CDからオーディオファイルを読み込みます。
第3回	オーディオとMIDIの共存	オーディオファイルからテンポを計算します。オーディオファイルに自分で作ったMIDIパートを重ねます。
第4回	練習曲データ作成 I	オーケストラのスコアを入力します
第5回	練習曲データ作成 I	強弱、テンポ変化等の表現をつけます
第6回	データの完成	各パートの音量バランスをとって完成させます。オーディオに変換します。
第7回	作品提出	完成した作品を提出します。

クォーター末試験評価方法

平常点:25% 末試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。注意事項:授業中の携帯電話、インターネット、メールの使用、他科目の課題作成等はいっさい禁止とし、守られない場合には減点します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	MIDIデータによるエフェクト I	コントロールチェンジの設定 基本について学習します。
第2回	MIDIデータによるエフェクト II	コントロールチェンジの設定 実践 エフェクト処理について学習します。
第3回	オリジナル曲のデータ作成	作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
第4回	オリジナル曲のデータ作成	作曲の授業の自作曲の楽譜からデータを作成します。
第5回	オリジナル曲のデータ作成	1部のトラックをオーディオファイルに変換します。
第6回	オリジナル曲のデータ作成	アレンジ作業。MIDIエフェクトを追加します。
第7回	オリジナル曲のデータ作成	トラックダウン作業
第8回	作品提出	作品を提出します。

学期末試験評価方法

平常点:25% 末試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。欠席5点、遅刻3点を平常点から減点します。注意事項:授業中の携帯電話、インターネット、メールの使用、他科目の課題作成等はいっさい禁止とし、守られない場合には減点します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	譜面浄書Ⅱ	講義	実	有馬知章

科目概要

この科目では、講師の実務経験(シンセサイザー・プログラマー、サウンドプロデューサー)に基づき譜面作成ソフト「Finale」の基礎をマスターします。今まで習得したDTMの知識を応用し、DTMソフトと譜面浄書の連携をマスターします。3クォーターでは歌詞、コードのついたメロディ譜、4クォーターでは、スコアを作成します。

到達目標

Finaleを使用してコード、歌詞のついたメロディ譜、リズムパートやスコア譜が作れるようになります。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フィナーレの基礎	フィナーレの起動から初期設定 ステップ入力について。
第2回	フィナーレの実践	音符・休符の入力。臨時記号、音部記号、拍子記号の設定。 簡単なメロディーの入力
第3回	フィナーレの実践	各種ツールの使い方。ショートカット。コード入力。 コードとメロディーの入力
第4回	フィナーレの実践	歌詞入力。ページレイアウト設定。
第5回	楽譜を完成させる	コード、歌詞のついたメロディ譜を完成させる。
第6回	楽譜を完成させる	ページレイアウトの基本設定を学習する。いままで作った楽譜を 完成させる
第7回	楽譜の評価	課題曲の楽譜を完成させ提出

クォーター末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点、忘れ物5点を平常点から減点します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レイヤーの使い方	ピアノ譜を入力して、レイヤーの使い方を学習します。
第2回	レイヤーの使い方	ドラムパートの入力でレイヤーの使い方、高速ステップ入力について学習します。
第3回	MIDIファイルの読み込み	2クォーターに提出したオリジナル曲のMIDIデータを読み込んでスコアを作成します。
第4回	MIDIファイルの読み込み	読み込んだデータをページレイアウト設定で見やすくします。 音域、楽器などを再設定します。
第5回	スコアの入力	セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
第6回	スコアの入力	セットアップ・ウィザードによる作成を学習します。各種記号の使い方、高度な編集機能について学習します。
第7回	スコアの入力	ページレイアウトの設定を学習し、スコアを完成させます。
第8回	楽譜の評価	スコアを完成させ提出します。

学期末試験評価方法

平常点25% 試験:75% 自主的な学習意欲と向上心、探究心を評価します。授業での指示を聞いているかどうか? 欠席5点、遅刻3点、忘れ物5点を平常点から減点します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲技法Ⅰ	演習	実	広瀬 勇人

科目概要

この科目では、吹奏楽・アンサンブルの作曲を数多く手掛けてきた担当講師の経験に基づき、管弦打楽器の編曲法を学びます。編曲したい作品を選び、自分の楽器を含むアンサンブル(木管・金管五重奏などの他、サクソフォン四重奏、打楽器アンサンブル、バリテューバアンサンブル、等の同族アンサンブル)の作品に編曲します。

到達目標

管弦打楽器の編曲に必要な技術(オーケストレーション、移調等)を習得し、学期末に編曲作品を履修生同士で(楽器が足りない場合は履修生以外の学生にもお願いして)試奏・収録します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	科目の説明、作編曲アンケートなど
第2回	選曲、編曲①	選曲／編曲開始
第3回	編曲②	選曲／編成確認
第4回	編曲③	選曲／編成決定
第5回	編曲④	楽譜の体裁
第6回	編曲⑤	進捗度チェック
第7回	編曲⑥、期末提出	スコア提出(出来た所まで)

クォーター末試験評価方法

作品の内容(80%)、出欠状況(10%)、進捗度(10%)を採点基準とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	編曲⑦	1Q終了時までの作業総括
第2回	編曲⑧	全体の長さ、構成のチェック
第3回	編曲⑨	締切日までの配分
第4回	編曲⑩	録音演奏者リストの提出
第5回	編曲⑪	録音タイムテーブルの配布
第6回	パート譜①	パート譜の作成
第7回	パート譜② スコア／パート譜提出	見やすいパート譜の為の工夫
第8回	収録	作品の試奏・収録

学期末試験評価方法

作品の内容(80%)、出欠状況(10%)、進捗度(10%)を採点基準とします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲技法Ⅱ	演習	実	広瀬 勇人

科目概要

この科目では、吹奏楽・アンサンブルの作曲を数多く手掛けてきた担当講師の経験に基づき、管弦打楽器の編曲法を学びます。編曲したい作品を選び、自分の楽器を含むアンサンブル(木管・金管五重奏などの他、サクソフォン四重奏、打楽器アンサンブル、バリテューバアンサンブル、等の同族アンサンブル)の作品に編曲します。

到達目標

管弦打楽器の編曲に必要な技術(オーケストレーション、移調等)を習得し、学期末に編曲作品を履修生同士で(楽器が足りない場合は履修生以外の学生にもお願いして)試奏・収録します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期のおさらい	春学期作品の復習
第2回	選曲、編曲①	選曲／編曲開始
第3回	編曲②	選曲／編成確認
第4回	編曲③	選曲／編成決定
第5回	編曲④	オーケストレーション①
第6回	編曲⑤	オーケストレーション②
第7回	編曲⑥、期末提出	スコア提出(出来た所まで)

クォーター末試験評価方法

作品の内容(80%)、出欠状況(10%)、進捗度(10%)を採点基準とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	編曲⑦	3Q終了時までの作業総括
第2回	編曲⑧	オーケストレーション③
第3回	編曲⑨	オーケストレーション④
第4回	編曲⑩	録音演奏者リストの提出
第5回	編曲⑪	録音タイムテーブルの配布
第6回	パート譜①	パート譜の作成
第7回	パート譜② スコア／パート譜提出	見やすいパート譜の為の工夫
第8回	収録	作品の試奏・収録

学期末試験評価方法

作品の内容(80%)、出欠状況(10%)、進捗度(10%)を採点基準とします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲技法Ⅲ	実習	実	高橋伸哉

科目概要

この科目では、講師の実務経験(管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲の作編曲など、作曲家としての活動)に基づき、吹奏楽小編成の編曲法を学びます。編曲の技術を習得することはもちろん、演奏者の立場から吹奏楽のオーケストレーションや各パートの構成、働きなどを十分に理解し、自身の演奏に生かしましょう。

到達目標

任意の既製曲(各自、自由に選曲)をマーチ風に編曲し、そのコンデンススコアを作成

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	選曲の目安	編曲用の既製曲を選ぶにあたり、編曲に適した楽曲の特徴について学びます。
第2回	編曲プランニング	各自、編曲用の既製曲を決定し、キー設定やメロディーのパート配分などを考えます。
第3回	コンデンススコアの書式	春学期の提出作品となるコンデンススコアの書式について学びます。
第4回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第4回目時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第5回	マーチのベースライン	マーチで使われるベースラインについて、そのリズムパターンや音域、担当パート等を学びます。
第6回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第6回目時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第7回	試験(作品提出)	1クォーター終了時点でのコンデンススコアを提出します。

クォーター末試験評価方法

■提出作品:50% ■平常点(※):40% ■出席状況および受講態度:10%

(※)作品完成までのプロセス(取り組み、計画性等)を、1週おきの「進捗状況チェック」を通して確認の上、平常点として評価の大きなポイントとします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	提出作品返却、講評	1クォーター末試験として提出したコンデンススコアを返却し、個別に講評します。
第2回	マーチの後打ち	マーチの後打ちを担当するハーモニーパートについて、その連結法や音域、担当パート等を学びます。
第3回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第3回目時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第4回	副旋律	合いの手やカウンターライン等の副旋律について、その内容や音域、担当パート等を学びます。
第5回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第5回目時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第6回	イントロとエンディング	マーチのイントロとエンディングの作り方について学びます。
第7回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	作品完成1週間前時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第8回	試験(作品提出)	完成したコンデンススコアを提出します。

学期末試験評価方法

■提出作品:50% ■平常点(※):40% ■出席状況および受講態度:10%

(※)作品完成までのプロセス(取り組み、計画性等)を、1週おきの「進捗状況チェック」を通して確認の上、平常点として評価の大きなポイントとします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲技法Ⅳ	実習	実	高橋伸哉

科目概要

この科目では、講師の実務経験(管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲の作編曲など、作曲家としての活動)に基づき、小編成吹奏楽によるポップス曲の編曲法を学びます。春学期のマーチ編曲とは異なる各パートの動きを知るだけでなく、ポップス曲の編曲では必要不可欠なドラムスの書式についても学びます。

到達目標

任意のポップス曲(各自、自由に選曲)を吹奏楽小編成に編曲し、そのコンデンススコアを作成

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	選曲 ドラムセットの記譜法	ポップス曲の編曲で使用する、ドラムセットの記譜法を学びます。
第2回	編曲プランニング	各自、編曲用の既製曲を決定し、キー設定やメロディーのパート配分などを考えます。
第3回	コンデンススコアの書式	春学期とは異なる、秋学期提出作品用のコンデンススコアの書式について学びます。
第4回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第4回目時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第5回	ポップス曲のベースライン	8ビートをはじめ、ポップス曲で使われるベースラインについて、そのリズムパターンや音域、担当パート等を学びます。
第6回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第6回目時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第7回	試験(作品提出)	3クォーター終了時点でのコンデンススコアを提出します。

クォーター末試験評価方法

■提出作品:50% ■平常点(※):40% ■出席状況および受講態度:10%

(※)作品完成までのプロセス(取り組み、計画性等)を、1週おきの「進捗状況チェック」を通して確認の上、平常点として評価の大きなポイントとします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	提出作品返却、講評	3クォーター末試験として提出したコンデンススコアを返却し、個別に講評します。
第2回	ポップス曲のハーモニーライン	ポップス曲のハーモニーラインについて、その連結法や音域、担当パート等を学びます。
第3回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第3回目時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第4回	副旋律	ポップス曲でよくみられる副旋律について、その内容や音域、担当パート等を学びます。
第5回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第5回目時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第6回	イントロとエンディング	ポップス曲のイントロとエンディングの作り方について学びます。
第7回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	作品完成1週間前時点での編曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第8回	試験(作品提出)	完成したコンデンススコアを提出します。

学期末試験評価方法

■提出作品:50% ■平常点(※):40% ■出席状況および受講態度:10%

(※)作品完成までのプロセス(取り組み、計画性等)を、1週おきの「進捗状況チェック」を通して確認の上、平常点として評価の大きなポイントとします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲試演実習Ⅰ	演習	実	広瀬 勇人

科目概要

この科目では、吹奏楽・アンサンブルの作曲を数多く手掛けてきた担当講師の経験に基づき、管弦打楽器の作曲法を学びます。春学期は自分の専攻楽器のソロ+ピアノ伴奏の作品を作曲し、秋学期は引き続き自分の専攻楽器のソロ+ピアノ伴奏の作品、或いは専攻楽器の含まれたアンサンブル作品を作曲します。

到達目標

自分の専攻楽器の作曲法の理解を深め、同時に管弦打楽器のピアノ伴奏の作り方を習得します。学期末に作曲作品をピアノ伴奏と共に自分で試奏し、収録します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	科目の説明、編曲との違い
第2回	作曲①	作曲をする時(メロディから、コードから)
第3回	作曲②	和音進行の基礎
第4回	作曲③	二部形式 a'とbの作り方
第5回	作曲④	三部形式 cの作り方
第6回	作曲⑤	自由部分の作り方
第7回	作曲⑥、期末提出	スコア提出(出来た所まで)

クォーター末試験評価方法

作品の内容(80%)、出欠状況(10%)、進捗度(10%)を採点基準とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作曲⑦	伴奏形の作り方
第2回	作曲⑧	伴奏形右手の作り方
第3回	作曲⑨	伴奏形左手の作り方
第4回	作曲⑩	コーダの作り方
第5回	作曲⑪	録音タイムテーブルの配布
第6回	作曲⑫	構成のチェック
第7回	パート譜作成	見やすいパート譜の為の工夫
第8回	収録	作品の試奏・収録

学期末試験評価方法

作品の内容(80%)、出欠状況(10%)、進捗度(10%)を採点基準とします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲試演実習Ⅱ	演習	実	広瀬 勇人

科目概要

この科目では、吹奏楽・アンサンブルの作曲を数多く手掛けてきた担当講師の経験に基づき、管弦打楽器の作曲法を学びます。春学期は自分の専攻楽器のソロ+ピアノ伴奏の作品を作曲し、秋学期は引き続き自分の専攻楽器のソロ+ピアノ伴奏の作品、或いは専攻楽器の含まれたアンサンブル作品を作曲します。

到達目標

自分の専攻楽器の作曲法の理解を深め、同時に管弦打楽器のピアノ伴奏の作り方を習得します。学期末に作曲作品をピアノ伴奏と共に自分で試奏し、収録します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期のおさらい	春学期作品の復習
第2回	作曲①	作曲の再開
第3回	作曲②	和音進行の基礎、復習
第4回	作曲③	二部形式 a'とbの作り方、復習
第5回	作曲④	三部形式 cの作り方、復習
第6回	作曲⑤	自由部分の作り方、復習
第7回	作曲⑥、期末提出	スコア提出(出来た所まで)

クォーター末試験評価方法

作品の内容(80%)、出欠状況(10%)、進捗度(10%)を採点基準とします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	作曲⑦	伴奏形の応用、オーケストレーション①
第2回	作曲⑧	伴奏形右手の応用、オーケストレーション②
第3回	作曲⑨	伴奏形左手の応用、オーケストレーション③
第4回	作曲⑩	コーダの応用、オーケストレーション④
第5回	作曲⑪	前奏の応用
第6回	作曲⑫	構成のチェック
第7回	パート譜② スコア/パート譜提出	見やすいパート譜の為の工夫
第8回	収録	作品の試奏・収録

学期末試験評価方法

作品の内容(80%)、出欠状況(10%)、進捗度(10%)を採点基準とします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	作編曲試演実習Ⅲ	実習	実	高橋伸哉

科目概要

この科目では、講師の実務経験(管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲の作編曲など、作曲家としての活動)に基づき、学生自身の専攻楽器を含む3～5重奏の室内楽曲を作曲し、春学期末には音出しも実施します。オリジナル作品の作曲を通して、作曲の能力を高めるだけでなく、演奏者の立場から楽曲構成についての理解も深めましょう。

到達目標

- 自身の専攻楽器を含む、4～5分程度の室内楽曲(3～5重奏)を作曲(＝スコア作成)
- 全パート譜の作成および音出し
- 楽曲解説文の作成(400字程度)

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	音域表作成	作編曲で使用する管楽器の音域表を作成し、各管楽器への理解を深めます。
第2回	作曲プランニング	各自、春学期に創作する楽曲の編成や曲数、曲調などを考えます。
第3回	フルスコアの書式	春学期の提出作品となる、フルスコアの書式について学びます。
第4回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第4回目時点での作曲内容を個々に添削し、同時に作曲の進捗状況についてもチェックします。
第5回	パート数の変化	ソロや二重奏など、曲中でパート数を増減させるアイデアと、その効果について考えます。
第6回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第6回目時点での作曲内容を個々に添削し、同時に作曲の進捗状況についてもチェックします。
第7回	試験(作品提出)	1クォーター終了時点でのフルスコアを提出します。

クォーター末試験評価方法

- 提出作品:50% ■平常点(※):40% ■出席状況および受講態度:10%

(※)作品完成までのプロセス(取り組み、計画性等)を、随時実施の「進捗状況チェック」を通して確認の上、平常点として評価の大きなポイントとします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	提出作品返却、講評	1クォーター末試験として提出したフルスコアを返却し、個別に講評します。
第2回	パート譜作成法	音出し時に必要なパート譜について、その書式や作成上の注意点を学びます。
第3回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第3回目時点での作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第4回	作品解説文	作品完成時にフルスコアとともに提出する、作品解説文について、その書式や作成上の注意点を学びます。
第5回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第5回目時点での作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第6回	フルスコア最終チェック	次週のパート譜作成に向けて、フルスコアの最終チェックを行います。
第7回	パート譜作成	前週で完成したフルスコアをもとに、音出し用のパート譜を作成します。
第8回	試験(作品提出・音出し)	完成したフルスコアと作品解説文を提出し、前週作成したパート譜を使って音出しを実施します。

学期末試験評価方法

- 提出作品:50% ■平常点(※):40% ■出席状況および受講態度:10%

(※)作品完成までのプロセス(取り組み、計画性等)を、随時実施の「進捗状況チェック」を通して確認の上、平常点として評価の大きなポイントとします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	作編曲試演実習Ⅳ	実習	実	高橋伸哉

科目概要

この科目では、講師の実務経験(管弦楽曲や吹奏楽曲、室内楽曲の作編曲など、作曲家としての活動)に基づき、学生自身の専攻楽器以外(※)による3～5重奏の室内楽曲を作曲し、秋学期末には音出しも実施します。

(※) ■木管専攻生→金管アンサンブル曲 ■金管専攻生→木管アンサンブル曲  
 ■打楽器専攻生→木管アンサンブル曲または金管アンサンブル曲(いずれか選択)

到達目標

■自身の専攻楽器を含まない、4～5分程度の室内楽曲(3～5重奏)を作曲(=スコア作成)  
 ■全パート譜の作成および音出し  
 ■楽曲解説文の作成(400字程度)

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	春学期提出作品返却、講評	春学期末試験として提出したフルスコアを返却し、個別に講評します。
第2回	作曲プランニング	各自、秋学期に創作する楽曲の編成や曲数、曲調などを考えます。
第3回	フルスコアの書式	春学期とは異なる、秋学期提出作品用のフルスコアの書式について学びます。
第4回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第4回目時点での作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第5回	パート数の変化	春学期とは異なるパート数変化のアイデアと、その効果について考えます。
第6回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第6回目時点での作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第7回	試験(作品提出)	3クォーター終了時点でのフルスコアを提出します。

クォーター末試験評価方法

■提出作品:50% ■平常点(※):40% ■出席状況および受講態度:10%

(※)作品完成までのプロセス(取り組み、計画性等)を、随時実施の「進捗状況チェック」を通して確認の上、平常点として評価の大きなポイントとします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	提出作品返却、講評	3クォーター末試験として提出したフルスコアを返却し、個別に講評します。
第2回	パート譜作成法	音出し時に必要なパート譜について、春学期との違いについて学びます。
第3回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第3回目時点での作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第4回	作品解説文	春学期の提出時よりもグレードアップした、作品解説文を目指します。
第5回	提出作品添削指導 進捗状況チェック	第5回目時点での作曲内容を個々に添削し、同時に編曲の進捗状況についてもチェックします。
第6回	フルスコア最終チェック	次週のパート譜作成に向けて、フルスコアの最終チェックを行います。
第7回	パート譜作成	前週で完成したフルスコアをもとに、音出し用のパート譜を作成します。
第8回	試験(作品提出・音出し)	完成したフルスコアと作品解説文を提出し、前週作成したパート譜を使って音出しを実施します。

学期末試験評価方法

■提出作品:50% ■平常点(※):40% ■出席状況および受講態度:10%

(※)作品完成までのプロセス(取り組み、計画性等)を、随時実施の「進捗状況チェック」を通して確認の上、平常点として評価の大きなポイントとします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ベーシクトレーニング I (サクソフォン)	演習	実	中村均一

科目概要

音楽を正確に表現するための基礎的な演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を簡単な曲を通して養う。

\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

アンサンブルの基本的なテクニックをグループ毎に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法をみにつける。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	基礎技術	「息」のトレーニング ロングトーンの精度をあげる方法と意味をとらえる
第3回	基礎技術	「口」のトレーニング 音程のコントロール法を取得する
第4回	基礎技術	「舌」のトレーニング タンギングのコントロールを取得する
第5回	基礎技術	「指」のトレーニング スケールベースの練習および音磨きの練習法
第6回	基礎技術	「顎」のトレーニング ヴィブラートのコントロールを取得する
第7回	テスト	基礎練習の実技試験

クォーター末試験評価方法

授業内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	メソッドを使った練習	マルセル・ミュールによる(スケール)
第2回	メソッドを使った練習	オリジナルのCDを使った音感トレーニング
第3回	メソッドを使った練習	トレバーワイによる(テクニック初級)
第4回	メソッドを使った練習	トレバーワイによる(テクニック中級)
第5回	メソッドを使った練習	トレバーワイによる(テクニック上級)
第6回	メソッドを使った練習	オリバー・ネルソンによる(即興パターン)
第7回	メソッドを使った練習	ロンデックスによる(技術練習)
第8回	テスト	1,2クォーターの内容から実技試験

学期末試験評価方法

授業で取り上げたテキストの中から課題を出し正しくトレーニング出来るかを実技試験とする。内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ(サクソフォン)	演習	実	中村均一

科目概要

音楽を専門的に学ぶ者として、あくまでもフィーリングだけでなく論理的に自分や他の演奏を分析し、評論や指導が出来るように実際に管楽器講習会の指導を行うシミュレーションをしながらトレーニングをする。

\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

基礎練習を理論的に捉えて音楽の説明や解説が出来るようになって欲しい。演奏にあたっては常に正しい理論は何かを考えながら練習法を工夫できる様になりたい。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	春学期を振り返って、今後の課題の説明 それぞれの技術的な問題点を話し合う
第2回	講習会シミュレーション1	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第3回	講習会シミュレーション2	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第4回	講習会シミュレーション3	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第5回	講習会シミュレーション4	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第6回	講習会シミュレーション5	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。
第7回	講習会シミュレーション6	一名ずつ講習会を想定した講師になり、他の学生を指導しながら論理的な指導法を模索。他の学生同士でもその内容を吟味する。

クォーター末試験評価方法

授業内で行われたシミュレーションの内容や、評論内容を総合的に評価する。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(ユニゾン中心)
第2回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(音程中心)
第3回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(和音中心)
第4回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(リズム中心)
第5回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(ダイナミクス中心)
第6回	二重奏曲を使った練習	アンサンブル楽曲を用いての演習(アナリーゼ中心)
第7回	まとめ	1年を振り返って、基礎トレーニングの確認
第8回	期末試験	実技試験

学期末試験評価方法

授業内容の理解度、授業・試験での演奏内容、出席、授業態度を総合的に評価。自分の演奏を客観的に分析をして理論に照らし合わせてより良い音楽にするための方法を解説出来る様にしたい。

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ベーシクトレーニング I (トランペット・トロンボーン)	演習	実	班目加奈 山口隼士

科目概要

- 1.呼吸法の確認と習得
  - 2.楽典的知識の習得と演奏への応用
  - 3.基礎技術の確認、トレーニング方法の研究
- \* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	顔合わせ、授業内容の説明
第2回	基礎技術①	C-dur、スラー
第3回	基礎技術②	a-moll
第4回	基礎技術③	F-dur、強弱
第5回	基礎技術④	d-moll
第6回	基礎技術⑤	G-dur、アルペジオ
第7回	まとめ	演奏試験
クォーター末試験評価方法		
出席+取り組み50%、演奏試験50%		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	前回までの確認、授業内容の説明
第2回	基礎技術⑥	e-moll
第3回	基礎技術⑦	B-dur、シンコペーション
第4回	基礎技術⑧	g-moll
第5回	基礎技術⑨	D-dur、リップスラー
第6回	基礎技術⑩	h-moll
第7回	基礎技術⑪	Es-dur、半音階
第8回	まとめ	演奏試験
学期末試験評価方法		
出席+取り組み50%、演奏試験50%		

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅡ (トランペット・トロンボーン)	演習	実	班目加奈 山口隼士

科目概要

- 1.基礎技術の充実
  - 2.楽典的知識の演奏への応用
  - 3.音楽基礎能力の向上
- \* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

スケールを理解し、自分のものにすることができるか。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	基礎技術⑫	c-moll
第3回	基礎技術⑬	A-dur、付点
第4回	基礎技術⑭	fis-moll
第5回	基礎技術⑮	As-dur、ダブルタンギング
第6回	基礎技術⑯	f-moll
第7回	まとめ	演奏試験

クォーター末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	前回までの確認、授業内容の説明
第2回	基礎技術⑰	E-dur、トリプルタンギング
第3回	基礎技術⑱	cis-moll
第4回	基礎技術⑲	Des-dur、b-moll
第5回	基礎技術⑳	H-dur、gis-moll
第6回	基礎技術㉑	Ges-dur、es-moll
第7回	基礎技術㉒	Fis-dur、dis-moll
第8回	まとめ	演奏試験

学期末試験評価方法

出席+取り組み50%、演奏試験50%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ベーシットレーニングⅢ (サクソフォン)	演習	実	波多江史朗

科目概要

1年次の「ベーシットレーニングⅠ・Ⅱ」の積み重ねとして、基本テクニックの定着と、高度な応用力を学びます。

\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

より高い技術を身に付けるために、基礎力を定着させ応用力を付けることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入	自己紹介(経験等の確認) 固定した音域の音階
第2回	基礎技術の定着と練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	Exercices Mécaniques vol.3 p1 / Arpèges: 一度逆打ち [音源鑑賞]George Bizet: L'Arlésienne suite n° 1
第3回	基礎技術の定着と練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上 p2 / gammes: fa dièse majeur / 音域を固定した音階: majeur, mineur[音源鑑賞]Pierre Vellones: Rapsodie op.92
第4回	基礎技術の定着と練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上p3 / 音域を固定した音階: mineur [音源鑑賞]Alexandre Glazounov: Concerto
第5回	基礎技術の定着・練習方法の習得	同上p4 / 音域を固定した音階: majeur マウスピースパッチについて
第6回	基礎技術の定着・練習方法の習得	同上p5 / 音階、分散和音(Es, A) Pierre-Max Dubois: Suite française
第7回	基礎技術の定着と練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上VI / 音階、分散和音(グレード試験に向けて) [音源鑑賞]Jacques Ibert: Ouverture de fête

クォーター末試験評価方法

出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	基礎技術の向上と練習方法の習得	Exercices Mécaniques vol.3 VII マウスピースについて / 音階: 全調性、全音域(「レ」から)
第2回	基礎技術の向上・練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上VIII / 音階: 支点移動(C-g) [音源鑑賞]Jeanine Rueff: Sonate
第3回	基礎技術の向上・練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上IX / 音階: 支点移動(a,e) [音源鑑賞]Pierre Jodlowski: Mixtion
第4回	基礎技術の向上・練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	同上X [音源鑑賞]Jacques Ibert: Concertino da camera
第5回	基礎技術の向上・練習方法の習得 音楽的解釈・理解の研究	フレージング考察 (Lacour:n° 2 «50 étude faciles et progressives»)
第6回	基礎技術の向上・練習方法の習得 レパートリー鑑賞・研究	Exercices d'Intonation A-2 [音源鑑賞]Edison Denisov: Sonate
第7回	基礎技術の向上・練習方法の習得 特殊奏法の研究	Exercices d'Intonation B-3 ダブルタンギング①
第8回	春学期末総括	実技試験

学期末試験評価方法

出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ (サクソフォン)	演習	実	波多江史朗

科目概要

2年間の総括に位置付く、最終クォーターでは、1年次から積み上げた技術力が音楽表現等の適応力へと結びつくよう学んでいきます。

\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

サクソフォン奏者に必須である特殊奏法を身に付け、また様々な音源鑑賞等から、より説得力のある演奏家へステップアップしていくことが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	後期導入	春学期末(試験)の総括と後期の内容確認・計画
第2回	より高い技術への発展と定着 特殊奏法の研究	倍音練習① ダブルタンギング②
第3回	より高い技術への発展と定着 特殊奏法の研究	Exercices d'Intonation C-1 ダブルタンギング③
第4回	より高い技術への発展と定着	同上C-6 音階(全調性)、半音階
第5回	より高い技術への発展と定着	同上D-1 半音階、音階(全調性)
第6回	より高い技術への発展と定着 レパートリー鑑賞・研究	Exercices d'Intonation: tierce mineure:D-1/半音階、長調 [音源鑑賞]Alexandre Tcherepnine: Sonatine sportive
第7回	より高い技術への発展と定着	同上E-2 同主調の音階、分散和音

クォーター末試験評価方法

出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	確実性と高度なテクニックの定着	同上E-3 音階、分散和音(全調性)
第2回	確実性と高度なテクニックの定着 レパートリー鑑賞・研究	同上E-6 [音源鑑賞]Heitor Villa-Lobos: Sextuor mystique
第3回	確実性と高度なテクニックの定着 レパートリー鑑賞・研究	Exercices d'Intonation: E-3,4 [音源鑑賞]Ingolf Dahl: Concerto
第4回	確実性と高度なテクニックの定着 レパートリー鑑賞・研究	旋律的短音階 a,d,e/二重奏: Jacques Arcadelt: Ave maria [音源鑑賞]Isaac Albéniz: Córdoba, Jean Rivier: Grave et presto
第5回	特殊奏法の研究 レパートリー鑑賞・研究	グリッサンド①/二重奏: Jacques Arcadelt: Ave maria [音源鑑賞]Henri Tomasi: Ballade
第6回	特殊奏法の研究 レパートリー鑑賞・研究	アルティッシモ① [音源鑑賞]Régis Campo: Zapp'art
第7回	確実性と高度なテクニックの定着	アルティッシモ② 敏しよ性を上げる練習
第8回	学年末総括	実技試験

学期末試験評価方法

出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	ベーシクトレーニングⅢ (トランペット)	演習	実	宮澤聰宏

科目概要

- ①デイリートレーニングの確立と奏法の研究
  - ②基礎技術の確認(音階・長調・短調の徹底)
  - ③アンサンブルの導入(作品を演奏しながらアンサンブルの基礎を学ぶ)
  - ④作品研究・音楽スタイル、音楽史の知識など
- \*担当講師は、海外での演奏経験も豊富で様々な教育手法の実務経験を持ちます。

到達目標

各自、デイリートレーニングの確立とスケールの理解  
初見力とアンサンブルテクニックの向上

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業の説明
第2回	ウォームアップ1&スケール	呼吸法、マウスピースの練習
第3回	ウォームアップ2&スケール	ロングトーン、ダイナミクスの練習
第4回	ウォームアップ3&スケール	倍音、リップスラー、フレキシビリティの練習
第5回	ウォームアップ4&スケール	タンギングの練習
第6回	まとめ	各自の練習メニューと課題
第7回	試験	演奏試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	アンサンブルの基礎1	デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニック
第3回	アンサンブルの基礎2	デュエットの初見演奏・アンサンブルテクニック
第4回	アンサンブルの実習1	4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
第5回	アンサンブルの実習2	4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
第6回	アンサンブルの実習3	4重奏以上の編成・アンサンブルテクニック
第7回	まとめ	演奏発表
第8回	試験	レポート提出、演奏試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	ベーシクトレーニングⅣ (トランペット)	演習	実	宮澤聰宏

科目概要

- ①オーケストラスタディを学ぶ
- ②作品研究、歴史的意義、金管楽器の特徴について学ぶ
- ③トランスポーズ(読み替え)
- ④セクションでのアンサンブル

\* 担当講師は、海外での演奏経験も豊富で様々な教育手法の実務経験を持ちます。

到達目標

トランスポーズ・音程・ダイナミクス・様式感の理解

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	トランスポーズ1	読み替えの方法
第3回	トランスポーズ2	各種Clefの読み方
第4回	オーケストラスタディ1	オーケストラの旋律を体験
第5回	オーケストラスタディ2	オーケストラの旋律を体験
第6回	まとめ	mock auditionの体験
第7回	試験	レポートもしくは実技試験

クォーター末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	オケスタ(セクション1)	セクションとしての演奏
第3回	オケスタ(セクション2)	サウンドの統一
第4回	オケスタ(セクション3)	スタイルの統一
第5回	移調アンサンブル1	バロック以前の作品で合奏
第6回	移調アンサンブル2	バッハのオルガン曲を合奏
第7回	移調アンサンブル3	古典派以降の作品を合奏
第8回	試験	レポートもしくは実技試験

学期末試験評価方法

演奏を伴う授業である為、出席率を重要視し、平常点も考慮して総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	室内楽 I (サクソフォン)	演習	実	中村均一

科目概要

主に楽曲を①教則的な曲、②リサイタルピース、③アレンジ曲、④コンクールピースの4つのジャンルに振り分けてそれを万遍なく取り上げて、実際の練習の進め方やコミュニケーションの取り方、楽曲をレパートリーにする技術を研究する。

\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

アンサンブルの基本的なテクニックをグループ毎に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法をみにつける。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	練習の進め方	レクチャー
第2回	基礎的なアンサンブルカ1ハーモニー	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)テーマ ハーモニーのトレーニング法を取得する
第3回	基礎的なアンサンブルカ2対位法	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)Var.1 対位法を理解する
第4回	基礎的なアンサンブルカ3声部の役割	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)Var.2 声部毎の役割を理解する
第5回	基礎的なアンサンブルカ4装飾的な表現	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)Var.4 装飾的な表現の仕組みをスコアから読み取って研究をする
第6回	基礎的なアンサンブルカ5テクニック	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)Var.5 テクニカルなアンサンブルカを鍛える
第7回	確認	実技試験

クォーター末試験評価方法

実技試験。「グラスノフ」を演奏する。基礎的なアンサンブルの能力と課題を確認する。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レパートリーの拡大1	オリジナル曲の小品(小品リストより)
第2回	レパートリーの拡大2	オリジナル曲の小品(小品リストより)
第3回	レパートリーの拡大3	バロック曲(小品リストより)
第4回	レパートリーの拡大4	ピアノ曲(小品リストより)
第5回	レパートリーの拡大5	「小四重奏曲」(フランセ))(他選択可)
第6回	レパートリーの拡大6	「ルーマニア民族の主題による組曲」(J. アブシル)
第7回	レパートリーの拡大7	「四重奏曲」(ラクール))(他選択可)
第8回	期末試験	実技試験

学期末試験評価方法

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20% リサイタルピースとして楽曲を取り上げ選曲を含めて様々なジャンルの音楽に向き合い、表現と技術を鍛錬する。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	室内楽Ⅱ(サクソフォン)	演習	実	中村均一

科目概要

レパートリーの拡大を目指す。それと平行してリサイタルを仮定したプログラムをグループ毎に作成。コンサートのコンセプトも考えて演奏スタイルを研究する。バロックから現代まで幅広く選ぶこと。  
\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

バロックから現代まで幅広く時代毎の音楽スタイルを理解し、またオリジナル曲だけでなくピアノ曲、弦楽、などアレンジ曲により音楽と向き合う姿勢を身につける。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リサイタルピース、バロック曲	「サバの女王の入場」(ヘンデル)(他選択可)
第2回	同、ピアノ曲	「楽興の時」(シューベルト)(他選択可)
第3回	同、弦楽器曲1	「弦楽四重奏曲アメリカ」(ドヴォルザーク)(他選択可) I、II
第4回	同、弦楽器曲2	「弦楽四重奏曲アメリカ」(ドヴォルザーク)(他選択可) III、IV
第5回	同、現代1	「グラヴェとプレスト」(リヴィエ)(他選択可) グラヴェ
第6回	同、現代2	「グラヴェとプレスト」(リヴィエ)(他選択可) プレスト
第7回	期末試験	実技試験

クォーター末試験評価方法

グループ毎にリサイタル1回分の演奏について評価。  
選曲やステージマナー、テーマの持ち方や曲目解説も含めて評価する。  
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オーディションピース1	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 1楽章、テーマを捉える、曲の仕組みを理解する。
第2回	オーディションピース2	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 1楽章、テンポとダイナミクスの効果を理解する。
第3回	オーディションピース3	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 2楽章、響きのブレンドとレガート
第4回	オーディションピース4	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 2楽章、緩徐楽章の演奏スタイルを捉える。
第5回	オーディションピース5	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 3楽章、フィナーレにふさわしいテクニックを鍛える。
第6回	オーディションピース6	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可) 3楽章、更にテンポを上げ、完成度を上げる。
第7回	本番前に確認すべき事	リハーサル 曲を仕上げる。
第8回	期末試験	実技試験

学期末試験評価方法

オーディションを想定して実技試験。  
コンクールで演奏されるような難易度の高い曲の完成度をあげ、優れた演奏とは何かを探る。  
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	室内楽 I (トランペット)	演習	実	班目加奈

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。

\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	室内楽Ⅱ(トランペット)	演習	実	班目加奈

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。  
\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	室内楽Ⅲ(サクソフォン)	演習	実	波多江史朗

科目概要

より高いレベルの演奏を目指すためには何が必要か、聴衆へ伝える演奏が出来るプレイヤーとして身に付けるべきテクニックやアンサンブル力を学んでいきます。

\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

1年次の「室内楽Ⅰ・Ⅱ」の積み重ねとして、多くのレパートリーを習得すること、またサクソフォン四重奏の可能性を追求できる演奏家に成長することを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入	自己紹介(経験等の確認) チーム、編成分け
第2回	楽曲研究①-1	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅰ楽章
第3回	楽曲研究①-2	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅰ楽章
第4回	楽曲研究①-3	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅱ楽章
第5回	楽曲研究①-4	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅱ楽章・Ⅲ楽章
第6回	楽曲研究①-5	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅲ楽章
第7回	楽曲研究①-6	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅳ楽章
クォーター末試験評価方法		
出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。		
2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲研究①-7	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー)より Ⅳ楽章
第2回	楽曲研究①-8	サクソフォン四重奏曲(J.B.サンジュレー) 全楽章
第3回	楽曲研究②-1	サクソフォン小四重奏曲(J.フランセ)より Ⅰ楽章
第4回	楽曲研究②-2	サクソフォン小四重奏曲(J.フランセ)より Ⅱ楽章
第5回	楽曲研究②-3	サクソフォン小四重奏曲(J.フランセ)より Ⅲ楽章
第6回	楽曲研究③-1	アンダンテとスケルツェット(P.ランティエ)より アンダンテ
第7回	楽曲研究③-2	アンダンテとスケルツェット(P.ランティエ)より スケルツェット
第8回	楽曲研究②,③試験	室内楽発表会へ向けたオーディション
学期末試験評価方法		
出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。		

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	室内楽Ⅳ(サクソフォン)	演習	実	波多江史朗

科目概要

2年間の総括に位置付く最終クォーターでは、高度な技術を要する作品に取組み、演奏者として充実したレパートリーを持ち合わせることが出来るよう学んでいきます。

\* 担当講師は、プロのオーケストラや吹奏楽団での演奏や指導などの実務経験がある。

到達目標

より多くのレパートリーを習得し、完成度と音楽的 pursuit を求める演奏家に成長することを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲研究④-1	民謡風ロンドの主題による序奏と変奏(G.ピエルネ)
第2回	楽曲研究④-2	民謡風ロンドの主題による序奏と変奏(G.ピエルネ)
第3回	楽曲研究④-3	民謡風ロンドの主題による序奏と変奏(G.ピエルネ)
第4回	楽曲研究⑤-1	序奏とスケルツォ(R.クレリス)
第5回	楽曲研究⑤-2	序奏とスケルツォ(R.クレリス)
第6回	楽曲研究⑤-3	序奏とスケルツォ(R.クレリス)
第7回	楽曲研究④,⑤発表会	授業内発表会

クォーター末試験評価方法

出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	楽曲研究⑥-1	サクソフォン四重奏曲(C.パスカル)より I 楽章
第2回	楽曲研究⑥-2	サクソフォン四重奏曲(C.パスカル)より II 楽章
第3回	楽曲研究⑥-3	サクソフォン四重奏曲(C.パスカル)より III 楽章
第4回	楽曲研究⑥-4	サクソフォン四重奏曲(C.パスカル)より IV 楽章
第5回	大編成による合奏研究①	ラージアンサンプルより選曲合奏
第6回	大編成による合奏研究②	ラージアンサンプルより楽曲合奏
第7回	大編成による合奏研究③	ラージアンサンプルより楽曲合奏
第8回	学年末総括	授業内発表会

学期末試験評価方法

出席率、授業態度や取組を過半数に、授業内容の理解度、実技到達度を含めた総合的な評価をします。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	室内楽Ⅲ(トランペット)	演習	実	班目加奈

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。担当者はプロの吹奏楽団や金管バンドでの演奏や指導など実務経験があります。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	室内楽Ⅳ(トランペット)	演習	実	班目加奈

科目概要

楽譜に書かれた音楽を正確に表現するための演奏技術、それを聴き手に伝えるための表現力の基礎を養うと共に、ソロや合奏の基本となる合わせるという技術に関しても学んでいく。優秀グループはバリオホールでのコンサートに出演。  
 担当者はプロの吹奏楽団や金管バンドでの演奏や指導など実務経験があります。

到達目標

楽曲を理解し、十分表現をできるようになれるか

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	発表	授業内発表

クォーター末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	メンバー決め、選曲
第2回	アナリーゼ	それぞれの曲の分析
第3回	曲の理解	全体像の把握
第4回	アンサンブルテクニック①	バランス、音程、アーティキュレーション、ダイナミクス、ハーモニー感
第5回	アンサンブルテクニック②	音色、バランス、アインザッツ、リズム感、テンポ感、フレージングの統一
第6回	仕上げ	仕上げ
第7回	仕上げ	仕上げ
第8回	演奏会	演奏会形式による実技試験

学期末試験評価方法

出席50%+授業内容の理解、発表会の仕上がり

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	室内楽演習 V VII (SAX)	演習	実	中村均一

科目概要

主に楽曲を①教則的な曲、②リサイタルピース、③アレンジ曲、④コンクールピースの4つのジャンルに振り分けてそれを万遍なく取り上げて、実際の練習の進め方やコミュニケーションの取り方、楽曲をレパートリーにする技術を研究する。3、4年合同のクラスです。尚、講師は演奏家、作編曲家としての実務経験があります。

到達目標

アンサンブルの基本的なテクニックをグループ毎に捉え、話し合い、取得しながら、個々の音楽的な考え方や練習方法をみにつける。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	練習の進め方	レクチャー
第2回	基礎的なアンサンブルカ1	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)
第3回	基礎的なアンサンブルカ2	「カンツォーナ・ヴァリエ」(グラスノフ)
第4回	基礎的なアンサンブルカ3	「四重奏曲」(リュエフ) 1、2
第5回	基礎的なアンサンブルカ4	「四重奏曲」(リュエフ) 3、4
第6回	基礎的なアンサンブルカ5	「四重奏曲」(リュエフ) 5、6
第7回	確認	実技試験

クォーター末試験評価方法

実技試験。「グラスノフ」もしくは「リュエフ」のどちらかを演奏する。基礎的なアンサンブルの能力と課題を確認する。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レパートリーの拡大1	オリジナル曲の小品(小品リストより)
第2回	レパートリーの拡大2	オリジナル曲の小品(小品リストより)
第3回	レパートリーの拡大3	バロック曲(小品リストより)
第4回	レパートリーの拡大4	ピアノ曲(小品リストより)
第5回	レパートリーの拡大5	「小四重奏曲」(フランセ))(他選択可)
第6回	レパートリーの拡大6	「ルーマニア民族の主題による組曲」(J. アブシル)
第7回	レパートリーの拡大7	「四重奏曲」(ラクール))(他選択可)
第8回	期末試験	実技試験

学期末試験評価方法

演奏試験60%、平常点、20%、出欠20% リサイタルピースとして楽曲を取り上げ選曲を含めて様々なジャンルの音楽に向き合い、表現と技術を鍛錬する。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	室内楽演習ⅥⅧ(SAX)	演習	実	中村均一

科目概要

レパートリーの拡大を目指す。それと平行してリサイタルを仮定したプログラムをグループ毎に作成。コンサートのコンセプトも考えて演奏スタイルを研究する。バロックから現代まで幅広く選ぶこと。3, 4年合同のクラスです。尚、講師は演奏家、作編曲家としての実務経験があります。

到達目標

バロックから現代まで幅広く時代毎の音楽スタイルを理解し、またオリジナル曲だけでなくピアノ曲、弦楽、などアレンジ曲により音楽と向き合う姿勢を身につける。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	リサイタルピース、バロック曲	「3つの小品」(スカルラッチェ)(他選択可)
第2回	同、ピアノ曲	「クーランの墓」より(M. ラヴェル)(他選択可)
第3回	同、弦楽器曲	「弦楽四重奏曲」(C. A. ドビュッシー)(他選択可)
第4回	同、変奏曲	「序奏と変奏」(ピエルネ)(他選択可)
第5回	同、現代1	「四重奏曲」(A. デザンクロ)(他選択可)
第6回	同、現代2	「アリアージュ」(ティスネ)(他選択可)
第7回	期末試験	実技試験

クォーター末試験評価方法

グループ毎にリサイタル1回分の演奏について評価。  
選曲やステージマナー、テーマの持ち方や曲目解説も含めて評価する。  
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オーディションピース1	「四重奏曲」(F.シュミット)(他選択可)
第2回	オーディションピース2	「四重奏曲」(F.シュミット)(他選択可)
第3回	オーディションピース3	「四重奏曲」(F.シュミット)(他選択可)
第4回	オーディションピース4	「四重奏曲」(F.シュミット)(他選択可)
第5回	オーディションピース5	「四重奏曲」(F.シュミット)(他選択可)
第6回	オーディションピース6	「四重奏曲」(F.シュミット)(他選択可)
第7回	本番前に確認すべき事	リハーサル
第8回	期末試験	実技試験

学期末試験評価方法

オーディションを想定して実技試験。  
コンクールで演奏されるような難易度の高い曲の完成度をあげ、優れた演奏とは何かを探る。  
演奏試験60%、平常点、20%、出欠20%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	室内楽演習ⅤⅦ(金管)	演習	実	池田英三子

科目概要

金管アンサンブルの授業です。春学期は主にバロック・ルネサンス時代の曲を用いてアンサンブル力を高める練習をします。3, 4年合同のクラスです。尚、講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

自分の音、他人の音を良く聴き、音程やスタイルを合わせることができること、そして全体の中での自分の役割を理解し、表現できるようになることを目標とします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	顔合わせ。授業の説明、注意事項などを説明し、その後インペクを選出しグループや曲の選考をします。
第2回	ハーモニー練習	コーラル集を使ってメンバーを変えながらハーモニー、バランスのとり方などを研究します。
第3回	バロック・ルネサンス時代の曲	既に決めたグループ、曲で、レッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第4回	バロック・ルネサンス時代の曲	各グループのレッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第5回	バロック・ルネサンス時代の曲	各グループのレッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第6回	バロック・ルネサンス時代の曲	各グループのレッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第7回	グループごとの発表(試験)	各グループの発表。

クォーター末試験評価方法

試験(50%)、出席(25%)、平常点(25%)成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価で付けます。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	バロック・ルネサンス時代の曲	1クォーターとはグループ、曲を変えてレッスンを行います。
第2回	バロック・ルネサンス時代の曲	各グループのレッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第3回	バロック・ルネサンス時代の曲	各グループのレッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第4回	バロック・ルネサンス時代の曲	各グループのレッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第5回	バロック・ルネサンス時代の曲	各グループのレッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第6回	バロック・ルネサンス時代の曲	各グループのレッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第7回	バロック・ルネサンス時代の曲	各グループのレッスンを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第8回	グループごとの発表(試験)	各グループの発表。及び室内楽演奏会出演グループを選出します。

学期末試験評価方法

試験(50%)、出席(25%)、平常点(25%)成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価で付けます。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	室内楽演習ⅥⅧ(金管)	演習	実	池田英三子

科目概要

金管アンサンブルの授業です。秋学期は編成、ジャンルを問わず様々なスタイルのアンサンブル曲に取り組みます。3, 4年合同のクラスです。尚、講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

技術的、音楽的向上は勿論、「人に聴いてもらう」という自覚をもち、きちんと音楽的な自己アピールができるようになることを 目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	編成、スタイルの拡大	様々な編成、スタイルの曲を研究します。新しいグループ、新しい曲のレッスンを開始します。
第2回	楽曲研究	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第3回	楽曲研究	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第4回	楽曲研究	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第5回	楽曲研究	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第6回	試験に向けての仕上げ	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第7回	グループごとの発表(試験)	各グループの発表。

クォーター末試験評価方法

試験(50%)、出席(25%)、平常点(25%)成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価で付けます。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	レパートリーの拡大	3クォーターよりも更に難易度の高い曲に取り組みます。新しいグループ、新しい曲のレッスンを開始します。
第2回	楽曲研究	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第3回	楽曲研究	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第4回	楽曲研究	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第5回	楽曲研究	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第6回	試験に向けての仕上げ	各グループのレッスンをを行います。(自分のグループ以外のレッスンは聴講)
第7回	授業内試験(オーディション)	各グループの発表。および室内楽演奏会出演グループの選出をします。
第8回	室内楽演奏会	室内楽演奏会。(出演しないグループのメンバーは鑑賞。)

学期末試験評価方法

試験(50%)、出席(25%)、平常点(25%)成績はグループ全体の評価ではなく、個人に対する評価で付けます。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	室内楽演習ⅤⅦ(打楽器)	演習	実	日比一宏

科目概要

短い時間、限られた時間の中で、アンサンブルを完成させる能力を養います。アンサンブルの基本的なテクニック、効率的な練習の進め方や方法について考え、話し合い、実践します。同時により高度な音楽表現を目指します。3, 4年合同のクラスです。尚、講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

限られた時間の中で、完成度の高いアンサンブルを作ることが目標です。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	基本的なアンサンブル①	オリジナル作品の練習、スコアの確認①
第3回	基本的なアンサンブル②	オリジナル作品の練習、スコアの確認②
第4回	基本的なアンサンブル③	オリジナル作品の練習、スコアの確認③
第5回	基本的なアンサンブル④	オリジナル作品の練習、スコアの確認④
第6回	基本的なアンサンブル⑤	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第7回	テスト	コンサート形式での公開テスト

クォーター末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	アンサンブル①	オリジナル作品の練習、スコアの確認①
第3回	アンサンブル②	オリジナル作品の練習、スコアの確認②
第4回	アンサンブル③	オリジナル作品の練習、スコアの確認③
第5回	アンサンブル④	オリジナル作品の練習、スコアの確認④
第6回	アンサンブル⑤	オリジナル作品の練習、スコアの確認⑤
第7回	アンサンブル⑥	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第8回	テスト	コンサート形式での公開テスト

学期末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	室内楽演習VIⅧ(打楽器)	演習	実	日比一宏

科目概要

決められた条件の中で最適なコンサートを企画し、完成度の高い演奏をすることが目標です。様々な打楽器によるアンサンブルで、レパートリーの拡大を目指すとともに、演奏者としてのステージングやMCのあり方についても考えます。3, 4年合同のクラスです。尚、講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

限られた時間、決められた条件の中で、完成度の高いコンサートを作ることが目標です。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	アンサンブル①	アンサンブルの練習①
第3回	アンサンブル②	アンサンブルの練習②
第4回	アンサンブル③	アンサンブルの練習③
第5回	アンサンブル④	アンサンブルの練習④
第6回	アンサンブル⑤	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第7回	テスト	コンサート形式での公開テスト

クォーター末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業の説明	曲目、メンバー、練習スケジュール、目標の確認 楽譜準備
第2回	アンサンブル①	アンサンブルの練習①
第3回	アンサンブル②	アンサンブルの練習②
第4回	アンサンブル③	アンサンブルの練習③
第5回	アンサンブル④	アンサンブルの練習④
第6回	アンサンブル⑤	アンサンブルの練習⑤
第7回	アンサンブル⑥	テストに向けての通しリハーサル セッティングの確認
第8回	テスト	コンサート形式での公開テスト

学期末試験評価方法

実技試験

演奏の完成度80% セッティング、MC等20%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	アナリーゼ I (クラシック楽典)	演習	実	西上和子

科目概要

2Q末、4Q末の専攻楽器演奏試験で、自身が演奏する楽曲の分析レポートを作成するための授業です。1Qでは、小曲の分析をし、レポートを想定したフォーマットに記入してもらうことで、今後提出する楽曲分析のイメージをつかみます。2Qでは『和声と楽式のアナリーゼ』のテキストを用い、基本的な和声学、形式を学んでいきます。尚、講師は作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

到達目標

多様な視点を持ち、適切な用語を用い、自分の力で分析して文章化できるようになることを目標としています。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ガイダンス	分析とは何かについて説明します。架空の「りんご」を分析し、小レポートを書いてもらいます。
第2回	分析①	星野源『恋』の分析をし、レポートフォーマットに文章を書きます。
第3回	分析②	ショパン『エチュード10-3 別れの曲』の分析をし、レポートフォーマットに文章を書きます。
第4回	分析③	バッハ『G線上のアリア』の分析をし、レポートフォーマットに文章を書きます。
第5回	分析④	ベートーヴェン『弦楽四重奏11番 セリオソ』の分析をし、レポートフォーマットに文章を書きます。
第6回	分析⑤	フォーレ『シチリアーノ』の分析をし、レポートフォーマットに文章を書きます。
第7回	1Qまとめテスト	『自分の楽器について』小論文を書いてもらいます

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声と楽式のアナリーゼ①	テキストをもとに進めていきます。途中の課題もおこないます。
第2回	和声と楽式のアナリーゼ②	テキストをもとに進めていきます。途中の課題もおこないます。
第3回	和声と楽式のアナリーゼ③	テキストをもとに進めていきます。途中の課題もおこないます。
第4回	和声と楽式のアナリーゼ④	テキストをもとに進めていきます。途中の課題もおこないます。
第5回	和声と楽式のアナリーゼ⑤	テキストをもとに進めていきます。途中の課題もおこないます。この時までには、 Rond 形式、ソナタ形式の理解をしてもらいます。
第6回	期末レポート作成①	期末に提出するレポートのアウトラインを立て始めます。
第7回	期末レポート作成②	期末に提出するレポートの内容を詰め、文章化していきます。
第8回	2Qまとめテスト	Rond 形式、ソナタ形式に関してテストを出題します。レポートも提出します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	アナリーゼⅡ(クラシック楽典・分析基礎)	演習	実	西上和子

科目概要

2Q末、4Q末の専攻楽器演奏試験で、自身が演奏する楽曲の分析レポートを作成するための授業です。3Qでは、ロンド形式、ソナタ形式の楽曲を、各時代で分析し、4Qではベートーヴェンの悲愴ソナタを3楽章全て分析します。講師は作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

到達目標

多様な視点を持ち、適切な用語を用い、自分の力で分析して文章化できるようになることを目標としています。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ロンド形式分析(古典)	ベートーヴェン『エリーゼのために』分析
第2回	ソナタ形式分析(古典)	モーツァルト『ピアノソナタK.545』分析
第3回	ロンド形式分析(ロマン)	チャイコフスキー『くるみ割り人形 葦笛の踊り』分析
第4回	ソナタ形式分析(ロマン)	ブラームス『ヴァイオリンソナタ 雨の歌』分析
第5回	ロンド形式分析(近代)	ラヴェル『亡き王女のためのパヴァーヌ』分析
第6回	ソナタ形式分析(近代)	ラヴェル『ソナチネ』分析
第7回	3Qのまとめテスト	小品の分析をし、レポートにまとめます。

クォーター末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ベートーヴェン悲愴ソナタ分析①	第1楽章の分析をします。
第2回	ベートーヴェン悲愴ソナタ分析②	第1楽章の分析をします。レポートにまとめます。
第3回	ベートーヴェン悲愴ソナタ分析③	第2楽章の分析をします。レポートにまとめます。
第4回	ベートーヴェン悲愴ソナタ分析④	第3楽章の分析をします。
第5回	ベートーヴェン悲愴ソナタ分析⑤	第3楽章の分析をします。レポートにまとめます。
第6回	期末レポート作成①	期末に提出するレポートのアウトラインを立て始めます。
第7回	期末レポート作成②	期末に提出するレポートの内容を詰め、文章化していきます。
第8回	4Qのまとめテスト	ロンド形式、ソナタ形式の楽曲を一人で分析し、レポートにまとめます。期末のレポートも提出します。

学期末試験評価方法

筆記試験の結果50%、出席50%をそれぞれ点数化し、評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	アナリーゼⅢ	演習	実	西上和子

科目概要

音楽の成り立ち(形式、メロディー分析、コード分析やモチーフのさまざまな用い方など)を分析していく。和声の知識を深める。アナリーゼのレポートを作成する。講師は作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもこなす。

到達目標

和声の課題実施を通して正しく理解する。バロック、古典派、ロマン派などの作品をアナリーゼし、どのように演奏表現に反映させていけるか、を自身の力で考えていけるように学習する。

授業計画

5クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声課題実施	四声体の和声課題の実施。第一章、予備知識、第二章基本位置3和音の配置について学ぶ。
第2回	和声課題実施	四声体の和声課題の実施。第二章基本位置3和音の配置について学ぶ。
第3回	楽曲分析: インベンション	対位法的楽曲について。Bach インベンションのアナリーゼをしよう。
第4回	楽曲分析: 平均律	対位法的楽曲について。Bach 平均律プレリュードとフーガのアナリーゼをしよう。
第5回	和声課題実施: 楽曲分析	四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置3和音の連結<共通音のある和声連結>。対位法楽曲分析の続き
第6回	楽曲分析: Vクォーターの復習	フーガの作成(冒頭の導入のみを体験作成)。和声課題の復習
第7回	Vクォーター試験実施	Vクォーター試験実施。和声課題の試験

クォーター末試験評価方法

筆記試験(40%)、課題提出(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

6クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声課題実施	四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置3和音の連結の続き。<共通音のない和声連結>
第2回	和声課題実施	四声体の和声課題の実施。第三章、基本位置3和音の連結の続き。<II→Vの連結について>
第3回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題の実施。第三章、の続き。<V→VIの連結について>自身の実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。
第4回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題の実施。第四章、和音設定の原理。自身の実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。
第5回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題の実施。第五章、8小節課題の実施。自身の実技試験で演奏する曲をアナリーゼする。
第6回	和声課題実施。楽曲制作	四声体の和声課題の実施。第六章、各種の調、課題実施。自身の実技試験で演奏する曲のアナリーゼをレポートにまとめる。
第7回	和声課題実施。楽曲制作	四声体の和声課題の実施。第六章、各種の調、課題実施。自身の実技試験で演奏する曲のアナリーゼをレポートにまとめる。
第8回	VIクォーター試験実施	VIクォーター試験実施。和声課題の試験。アナリーゼレポートの提出

学期末試験評価方法

筆記試験(40%)、課題提出(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	アナリーゼⅣ	演習	実	西上和子

科目概要

これまでに培った分析に必要な知識をもとに、実際の楽曲分析などのアナリーゼを意見を出し合いながら学習していく。和声の知識を深める。講師は作編曲家として活動。幅広いジャンルのピアノ演奏で活躍中。その他CDプロデュースや、楽譜出版などもおこなう。

到達目標

和声の課題を積み重ねることによって、盤石な和声感覚を身につけ、演奏表現に反映させていく。アナリーゼのレポートを作成する。

授業計画

7クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声課題実施	四声体の和声課題実施。第六章、三和音の第一転回位置について
第2回	和声課題実施	四声体の和声課題実施。第六章、三和音の第一転回位置の続き。8小節課題
第3回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。第七章、3和音の第二転回位置。室内楽曲のアナリーゼ
第4回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。第八章、V7の和音について。室内楽曲のアナリーゼ
第5回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。第八章、V7の和音について。室内楽曲アナリーゼ
第6回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。第八章、V7のつづき。VIIクォーターのまとめ
第7回	VIIクォーター試験実施	VIIクォーター試験実施。和声課題の試験。

クォーター末試験評価方法

筆記試験(40%)、課題提出(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

8クォーター	テーマ	授業内容
第1回	和声課題実施。	四声体の和声課題実施。第九章、V9の和音について
第2回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。第十章、D諸和音の総括について。大編成の楽曲分析
第3回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。カデンツの総括について。大編成の楽曲分析
第4回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。補充課題。自身のレッスン曲や発表曲などのアナリーゼ
第5回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。S諸和音について。自身のレッスン曲や発表曲などのアナリーゼ
第6回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。借用和音について。自身の実技試験で演奏する曲のアナリーゼ
第7回	和声課題実施。楽曲分析	四声体の和声課題実施。ソプラノ課題について。自身の実技試験で演奏する曲のアナリーゼをレポートにまとめる。
第8回	VIIIクォーター試験実施	VIIIクォーター試験実施。和声課題の試験。アナリーゼレポートの提出

学期末試験評価方法

筆記試験(40%)、課題提出(30%)、出席(20%)、平常点(10%)

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	インプロビゼーション I	演習	実	宮崎隆睦、山岡潤

科目概要

ハーモニーの流れの中で自由に自分の楽器で何かを演奏できる力を養います。本来アドリブ(即興演奏)はジャズに限らず、バロック音楽、クラシック音楽のカデンツァ等、音楽のジャンルを問わず演奏家として是非とも持つべき技能です。さらに深い音楽の理解、解釈の広がりも養われます。講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

コードネームの楽譜を見て「恐怖」を感じないで仕組みを理解して、少し練習すればソロが演奏できる、また、指導することが出来るようにします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	オリエンテーション	この授業でやること、その必要性、各自のこの授業への参加形態の話し合い。デモンストレーション。
第2回	「耳を使って！1」	転調のないコード進行にて即興演奏(即興作曲)伴奏(マイナスワン)に乗って即興演奏することに慣れる。
第3回	「耳を使って！2」	ごく簡単な転調を含むコード進行にて即興演奏転調している感じを耳で聴き分けて、ついて行く。
第4回	メロディーフェイク1「リズム」	今期の試験曲「Autumn Leaves」を使ってアンティシペーションによるリズムのフェイク。その曲でアドリブ！
第5回	メロディーフェイク2「楽譜にない音をいれる」	「Autumn Leaves」のコード進行の分析により調性を把握する。その曲でアドリブ！
第6回	メロディーフェイク2続きと総まとめ	「Autumn Leaves」の残りのコード進行の分析により調性を把握する。その曲でアドリブ！試験の演奏形式で予行練習。
第7回	試験	マイナスワン伴奏にて「Autumn Leaves」のメロディーフェイクとアドリブを行う。

クォーター末試験評価方法

出席点:30%、授業内確認(毎回の授業内での演奏):30% 期末試験(マイナスワン伴奏による試験曲のアドリブ演奏):40%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「サブドミナントのコード」に精通する	I-ii-IV-Vsus4を基本にしたコードの流れのなかでサブドミナントのコードに精通する。「I Got Rhythm」の譜読み。
第2回	「トニックのコード」に精通する	I-iii-vi-I を基本にしたコードの流れのなかでトニックのコードに精通する。「I Got Rhythm」の分析1
第3回	「ドミナントのコード」に精通する	I-vii-V-I を基本にしたコードの流れのなかでドミナントのコードに精通する。「I Got Rhythm」の分析2
第4回	「トニック、サブドミナント、ドミナントそれぞれのコード」に対応して演奏する	I-vi-ii-V-iii-vi-IV-vii-I を基本にしたコードの流れでそれぞれのコードに対応して演奏する。「I Got Rhythm」の分析3
第5回	「ii-V」に慣れよう-1	「ii-Vのフレーズ」を「I Got Rhythm」に活用して演奏する1。
第6回	「ii-V」に慣れよう-2	「ii-Vのフレーズ」を「I Got Rhythm」に活用して演奏する2。
第7回	総まとめ:試験の準備	試験の演奏形式で予行練習。
第8回	期末試験	マイナスワン伴奏にて「I Got Rhythm」のメロディーフェイクとアドリブ演奏を行う。

学期末試験評価方法

出席点:30%、授業内確認(毎回の授業内での演奏):30% 期末試験(マイナスワン伴奏による試験曲のアドリブ演奏):40%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	インプロビゼーションⅡ	演習	実	宮崎隆睦、山岡潤

科目概要

ハーモニーの流れの中で自由に自分の楽器で何かを演奏できる力を養います。本来アドリブ(即興演奏)はジャズに限らず、バロック音楽、クラシック音楽のカデンツァ等、音楽のジャンルを問わず演奏家として是非とも持つべき技能です。さらに深い音楽の理解、解釈の広がりも養われます。講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

コードネームの楽譜を見て「恐怖」を感じないで仕組みを理解して、少し練習すればソロが演奏できる、また、指導することが出来るようにします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「ブルースのハーモニーの解釈1」	ブルーノート・スケールを使ったアドリブに慣れる。
第2回	「ブルースのハーモニーの解釈2」	各コードの調性を考えたアドリブを考える。自分のii-Vのフレーズを作る。
第3回	「ペンタニックの活用」	ペンタニックを使ったアドリブに慣れる。自分のii-Vのフレーズを全調で練習。今期の試験曲「Misty」の譜読み。
第4回	「バラードの演奏1」	「Misty」の分析1 ii-Vのフレーズを全調で演奏する。
第5回	「バラードの演奏2」	「Misty」の分析2 ii-Vのフレーズを全調で演奏する。
第6回	総まとめ:試験の準備	試験の演奏形式で予行練習。
第7回	試験	マイナスワン伴奏にて「Misty」のメロディーフェイクとアドリブを行う。

クォーター末試験評価方法

出席点:30%、授業内確認(毎回の授業内での演奏):30% 期末試験(マイナスワン伴奏による試験曲のアドリブ演奏):40%

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	「iib5-Vb9 (マイナーii-V)」について1	メジャーii-Vとマイナーii-Vの関係。マイナーキーのii-Vのフレーズを作る。
第2回	「iib5-Vb9 (マイナーii-V)」について2	メジャーii-Vとマイナーii-Vのフレーズを全調で演奏。今期の試験曲「Cherokee」の譜読み。
第3回	アップテンポの曲1	「Cherokee」の分析1 メジャーii-Vとマイナーii-Vのフレーズを全調で演奏。
第4回	アップテンポの曲2	「Cherokee」の分析2 メジャーii-Vとマイナーii-Vのフレーズを全調で演奏。
第5回	曲の中でii-V、iib5-Vb9のフレーズを活用する1	「Cherokee」の分析3 メジャーii-Vとマイナーii-Vのフレーズを「Cherokee」に当てはめて演奏。
第6回	曲の中でii-V、iib5-Vb9のフレーズを活用する2	メジャーii-Vとマイナーii-Vのフレーズを「Cherokee」に当てはめてより自由に演奏。
第7回	総まとめ:試験の準備	試験の演奏形式で予行練習。
第8回	試験	マイナスワン伴奏にて「Cherokee」のメロディーフェイクとアドリブ演奏を行う。

学期末試験評価方法

出席点:30%、授業内確認(毎回の授業内での演奏):30% 期末試験(マイナスワン伴奏による試験曲のアドリブ演奏):40%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	インプロビゼーション I (打楽器)	実習	実	増田博之

科目概要

ドラムセット、コンガ、ティンパレスを使用し、ポップス、ラテン、ジャズなどの演奏スタイルと、Fill in、アドリブソロのアプローチについて勉強します。尚、講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

吹奏楽、ビッグバンド、パーカッションアンサンブル等の現場で専門生の高い演奏が出来るようになる。  
ジャンルに合わせたソロ、アドリブの演奏が出来るようになる。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	授業内容の説明	1年間の流れ。各楽器のセッティング、チューニング
第2回	コンガ、ティンパレス(1)	代表的なリズムパターンの説明と練習
第3回	コンガ、ティンパレス(2)	細かな奏法、手順の説明
第4回	ドラムセット(1)	セッティング、チューニングの説明
第5回	ドラムセット(2)	代表的なリズムパターンの説明と練習
第6回	ドラムセット(3)	ドラムで演奏するラテンパターンの説明、練習
第7回	試験	リズムアンサンブルの演奏

クォーター末試験評価方法

各楽器の基本的なセッティング、チューニング、奏法を理解しているか。  
アンサンブルの力はどうか。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アドリブ奏法(1)	リズムアンサンブルの中でFill inを入れる
第2回	アドリブ奏法(2)	フレーズを継いで4小節のソロに
第3回	アドリブ奏法(3)	各楽器でのソロ回しに挑戦
第4回	ラテンリズムの中でのソロ演奏(1)	コンガ、ティンパレスでのFill in
第5回	ラテンリズムの中でのソロ演奏(2)	Fill inのフレーズを伸ばしてソロへ
第6回	ドラムセットのFill in	リズムパターンに合ったFill inの説明
第7回	ドラムセットでのソロ	Fill inのフレーズを伸ばしてソロへ
第8回	試験	リズムアンサンブルの中でのソロ演奏

学期末試験評価方法

ソロのフレーズを作れているか。  
リズムパターン(ジャンル)に合っているか。  
音色はどうか。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	インプロビゼーションⅡ(打楽器)	実習	実	増田博之

科目概要

ドラムセット、コンガ、ティンバレスを使用し、ポップス、ラテン、ジャズなどの演奏スタイルと、Fill in、アドリブソロのアプローチについて勉強します。尚、講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

アンサンブル(楽曲)の中でのドラムセットの演奏が出来るようになる。  
音色、音量をコントロール出来るようになる。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ドラムセット(1)	マイナスワンCDを使って8ビートの演奏
第2回	ドラムセット(2)	マイナスワンCDを使って16ビートの演奏
第3回	ドラムセット(3)	マイナスワンCDを使って4ビートの演奏
第4回	ドラムセット(4)	マイナスワンCDを使ってボサノバの演奏
第5回	ドラムセット(5)	マイナスワンCDを使ってチャチャチャ、マンボの演奏
第6回	復習	このクォーターのリズムパターンの練習
第7回	試験	マイナスワンCDを使ってドラム演奏

クォーター末試験評価方法

各ジャンルの演奏スタイルを理解しているか。  
Fill inの自由に入っているか、曲調に合っているか。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	アンサンブル(1)	ドラム、パーカッション、マリンバ、ビブラフォンを使ってボサノバの演奏
第2回	アンサンブル(2)	バラードでのブラシ演奏
第3回	アンサンブル(3)	16ビートの演奏
第4回	アンサンブル(4)	4ビートの演奏
第5回	アンサンブル(5)	サンバの演奏
第6回	アンサンブル(6)	アンサンブル内でのアドリブ演奏
第7回	復習	このクォーターの音出し、復習
第8回	試験	アンサンブル内でのドラム演奏

学期末試験評価方法

アンサンブルとして良い音が出ているか。  
Fill in、アドリブソロの完成度はどうか。  
B,Drの音量をコントロール出来ているか。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	管弦打楽器研究Ⅰ	演習	実	福島 弘和

科目概要

中学生・高校生に教えることを想定して、楽器の理論や構造、特性を理解し、これから求められる指導力を身につけていく。尚、講師は作編曲家、指揮者としての実務経験があります。

到達目標

楽譜を読む為に必要な移調、楽語の習得を進めつつ、バトンテクニックの基本的な動作に慣れ、拍子、テンポ、スタイルの異なる様々な楽曲に触れます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入	授業のねらい・進行内容の説明、次回の準備について
第2回	トランペット ①	トランペットの概論 (歴史、種類、メカニズム、組立て方、メンテナンス)
第3回	トランペット ②	トランペットの奏法(アンブシュア、基本奏法、指導法)
第4回	トランペット ③	トランペットの奏法(運指、音階)
第5回	トランペット ④	トランペットの奏法(運指、音階、簡単なメロディーの演奏)
第6回	トランペット ⑤	試験(簡単なメロディーの演奏)
第7回	フルート・オーボエ ①	フルート、オーボエの概論 (歴史、種類、メカニズム、組立て方、メンテナンス)

クォーター末試験評価方法

クォーター末試験(指揮実技および楽語、スコアリーディング)の内容を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します(試験80%、出席10%、小テスト等10%)。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	フルート・オーボエ ②	フルート、オーボエの奏法(アンブシュア、基本奏法、指導法)
第2回	フルート・オーボエ ③	フルート、オーボエの奏法(運指、音階)
第3回	フルート・オーボエ ④	フルート、オーボエの奏法(運指、音階、簡単なメロディーの演奏)
第4回	フルート・オーボエ ⑤	試験(簡単なメロディーの演奏)
第5回	クラリネット・ファゴット ①	クラリネット、ファゴットの概論 (歴史、種類、メカニズム、組立て方、メンテナンス)
第6回	クラリネット・ファゴット ②	クラリネット、ファゴットの奏法 (アンブシュア、基本奏法、指導法)
第7回	クラリネット・ファゴット ③	クラリネット、ファゴットの奏法 (運指、音階)
第8回	クラリネット・ファゴット ④	クラリネット、ファゴットの奏法 (運指、音階、簡単なメロディーの演奏)

学期末試験評価方法

クォーター末試験(指揮実技および楽語、スコアリーディング)の内容を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します(試験80%、出席10%、小テスト等10%)。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	管弦打楽器研究Ⅱ	演習	実	福島 弘和

科目概要

中学生・高校生に教えることを想定して、楽器の理論や構造、特性を理解し、これから求められる指導力を身につけていく。尚、講師は作編曲家、指揮者としての実務経験があります。

到達目標

人に情報を伝えていくことの大切さ、難しさを体験を通して身につけていく。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	クラリネット・ファゴット ⑤	試験(簡単なメロディーの演奏)
第2回	サクソフォン ①	サクソフォンの概論 (歴史、種類、メカニズム、組立て方、メンテナンス)
第3回	サクソフォン ②	サクソフォンの奏法(アンブシュア、基本奏法、指導法)
第4回	サクソフォン ③	サクソフォンの奏法(運指、音階、簡単なメロディーの演奏)
第5回	サクソフォン ④	試験(簡単なメロディーの演奏)
第6回	ホルン・ユーフォニアム・コントラバス ①	ホルン・ユーフォニアム、コントラバスの概論 (歴史、種類、メカニズム、組立て方、メンテナンス)
第7回	ホルン・ユーフォニアム・コントラバス ②	ホルン・ユーフォニアム、コントラバスの奏法 (アンブシュア、基本奏法、指導法)

クォーター末試験評価方法

それぞれの楽器について十分に理解しているか。テーマの専攻生については的確な指導ができるか。試験10% 平常点90%

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	ホルン・ユーフォニアム・コントラバス ③	ホルン・ユーフォニアム、コントラバスの奏法 (運指、音階)
第2回	ホルン・ユーフォニアム・コントラバス ④	ホルン・ユーフォニアム、コントラバスの奏法 (運指、音階、簡単なメロディーの演奏)
第3回	ホルン・ユーフォニアム・コントラバス ⑥	試験(簡単なメロディーの演奏)
第4回	パーカッション ①	パーカッションの奏法(基本奏法、譜面の読み方) 小物楽器の紹介(構え方、奏法、リズムパターン 他)
第5回	パーカッション ②	S.Dの奏法(簡単な譜例演奏)
第6回	パーカッション ③	鍵盤打楽器の概論(種類、奏法) ラテン楽器、Timp、小物楽器の概論(種類、奏法)
第7回	パーカッション ④	打楽器まとめ(名称、歴史、種類 等)確認 試験準備(S.Dの簡単な譜例演奏)
第8回	パーカッション⑤ 試験	試験(S.Dの簡単な譜例演奏)、1年間のまとめ・補足

学期末試験評価方法

それぞれの楽器について十分に理解しているか。テーマの専攻生については的確な指導ができるか。試験10% 平常点90%

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	合奏指揮法(指揮法)Ⅰ	演習	実	広瀬 勇人

科目概要

この科目では、担当講師の国内外さまざまな指揮・指導・講習経験を基に、音楽家に必要な指揮法の技術習得を目指します。スコアリーディング、バトンテクニックの基礎から応用まで、指揮・指導に必要な知識と能力を高めると同時に、多くの楽曲を経験して様々な曲に対応できる実践力を養います。

到達目標

楽譜を読む為に必要な移調、楽語の習得を進めつつ、バトンテクニックの基本的な動作に慣れ、拍子、テンポ、スタイルの異なる様々な楽曲に触れます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	①ウェーバー「魔団の射手」1	ガイダンス 授業の概要および指揮実技の基礎
第2回	①ウェーバー「魔団の射手」2	スコア① in Es 楽語① a～b
第3回	②ホルスト「木星」1	スコア② in Es 楽語① 小テスト
第4回	②ホルスト「木星」2	スコア③ in B 楽語② c
第5回	③ワーグナー「結婚行進曲」	スコア④ in B 楽語② 小テスト
第6回	1Qの楽曲復習	スコア⑤ in Es, B
第7回	実技・筆記試験	実技: 楽曲2曲 筆記: 楽語およびスコアリーディング

クォーター末試験評価方法

クォーター末試験(指揮実技および楽語、スコアリーディング)の内容を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します(試験80%、出席10%、小テスト等10%)。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	④モーツァルト「魔笛」序曲 1	スコア⑥ in F I期末試験の復習
第2回	④モーツァルト「魔笛」序曲 2	スコア⑦ in F 楽語③ d～e
第3回	⑤ビゼー「カルメン」前奏曲 1	スコア⑧ in Es, B, F 楽語③ 小テスト
第4回	⑤ビゼー「カルメン」前奏曲 2	スコア⑨ in Es, B, F 楽語④ f～h
第5回	⑥学指揮の曲 1	特集① 楽器音域表 楽語④ 小テスト
第6回	⑥学指揮の曲 2	特集① 楽器音域表小テスト 楽語⑤ i～l
第7回	2Qの楽曲復習	楽語⑤小テスト
第8回	実技・筆記試験	実技: 楽曲3曲 筆記: 楽語およびスコアリーディング

学期末試験評価方法

クォーター末試験(指揮実技および楽語、スコアリーディング)の内容を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します(試験80%、出席10%、小テスト等10%)。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	合奏指揮法(指揮法)Ⅱ	演習	実	広瀬 勇人

科目概要

この科目では、担当講師の国内外さまざまな指揮・指導・講習経験を基に、音楽家に必要な指揮法の技術習得を目指します。スコアリーディング、バトンテクニックの基礎から応用まで、指揮・指導に必要な知識と能力を高めると同時に、多くの楽曲を経験して様々な曲に対応できる実践力を養います。

到達目標

移調と楽語を習得し、複雑な拍子や指揮の困難な楽曲にも触れ、指導現場で一通りの指導が出来る水準までバトンテクニックとスコアリーディングの技術を高めます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	⑦ムソルグスキー「展覧会の絵」1	Ⅱ期末試験の復習 楽語⑥ m～n
第2回	⑦ムソルグスキー「展覧会の絵」2	スコア⑩ in D、アルト記号 楽語⑥ 小テスト
第3回	⑧ボロディン「ダッタン人の踊り」1	スコア⑪ in D、in A、アルト記号 楽語⑦ o～p
第4回	⑧ボロディン「ダッタン人の踊り」2	スコア⑫ 様々な移調 楽語⑦ 小テスト
第5回	⑨シベリウス「フィンランディア」	スコア⑬ 様々な移調 楽語⑧ q～s途中
第6回	3Qの楽曲復習	楽語⑧ 小テスト
第7回	実技・筆記試験	実技：楽曲3曲 筆記：楽語およびスコアリーディング

クォーター末試験評価方法

クォーター末試験(指揮実技および楽語、スコアリーディング)の内容を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します(試験80%、出席10%、小テスト等10%)。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	⑩ストラビンスキー「兵士の物語」1	特集② オケの楽器配置小テスト Ⅲ期末試験の復習
第2回	⑩ストラビンスキー「兵士の物語」2	特集③ ステージマナー 楽語⑨ s途中
第3回	⑪学指揮の曲 1	特集④ 移調楽器の音域 楽語⑨ 小テスト
第4回	⑪学指揮の曲 2	特集④ 移調楽器の音域小テスト 楽語⑩ t～u
第5回	⑫ マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」1	特集⑤ 様々な打楽器 楽語⑩ 小テスト
第6回	⑫ マスカーニ「カヴァレリア・ルスティカーナ」2	特集⑥ 様々な打楽器小テスト 楽語⑪ v～z
第7回	4Qの楽曲復習	楽語⑪小テスト
第8回	実技・筆記試験	実技：楽曲3曲 筆記：楽語およびスコアリーディング

学期末試験評価方法

クォーター末試験(指揮実技および楽語、スコアリーディング)の内容を中心に、出席状況、小テスト等を総合的に評価します(試験80%、出席10%、小テスト等10%)。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	吹奏楽 I III V VII	実技	実	武田 晃

科目概要

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀初・中期の歴史的な作品ならびに現代の作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。尚、講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めたほか、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

到達目標

合奏の音作りの基本を習得するとともにアンサンブル能力を向上させ、併せて曲に対する知識を深めることを目標にします。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	導入及び合奏の基本	授業の内容と目的を説明するとともに、必要な予習と授業に臨む姿勢について説明します。
第2回	合奏能力の把握と課題の確認	読譜能力とアンサンブル能力を把握し、学んでいく上での課題を明らかにし、今後の目標を示します。
第3回	スタンダードマーチと吹奏楽の古典1	行進曲と吹奏楽の古典的作品を通して、拍子感と基本的な表現力を学びます。
第4回	スタンダードマーチと吹奏楽の古典2	拍子感と基本的な表現力に加えて、バランスの調整及びアーティキュレーションの統一について学びます。
第5回	スタンダードマーチと吹奏楽の古典3	前回までの学習事項に加えて、フレージングと表現力を学び、合奏を仕上げます。
第6回	新たなレパートリーの開拓1	新たなレパートリーである小編成及びフレキシブル編成の合奏を通して、少人数のアンサンブルについて学びます。
第7回	新たなレパートリーの開拓2	新たなレパートリーである小編成及びフレキシブル編成の楽曲の録音を通して、少人数のアンサンブル能力を向上させます。

クォーター末試験評価方法

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品1	吹奏楽の特徴を生かした20世紀中期の作品と管弦楽曲からの編曲作品を通して、曲のスタイルと表現法を学びます。
第2回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品2	バランスの調整及びアーティキュレーションの統一を図り、まとまりのあるアンサンブルを生み出すことを学びます
第3回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品3	フレージングとアゴーギクについて学び、曲の表現力をさらに高めることを学びます。
第4回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品4	前期発表会に向け、プログラム全体の構成とエネルギーの配分について学びます。
第5回	20世紀中期の吹奏楽曲と編曲作品5	1クォーター及び2クォーターで学んだ楽曲による前期発表会を行います。
第6回	レパートリーの拡充1	スタンダードマーチ及び20世紀初・中期の作品の中から経験しておくべき楽曲について学びます。
第7回	レパートリーの拡充2	それぞれの作品の作曲の背景と曲のスタイルについて合奏を通して学びます。
第8回	レパートリーの拡充3	現代の吹奏楽作品の特徴と表現法について学びます。

学期末試験評価方法

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	吹奏楽ⅡⅣⅥⅧⅧ	実技	実	武田 晃

科目概要

吹奏楽の演奏者及び指導者を目指す者が学ばなければならないレパートリーとして、スタンダードマーチ及び20世紀後期から現代の優れた作品を取り上げ、それぞれの曲のスタイルと表現法について習得します。尚、講師は陸上自衛隊中央音楽隊の隊長を10年間務めたほか、アマチュア吹奏楽団の指導者としての実務経験を持ちます。

到達目標

積極的に表現出来る能力とアンサンブル全体を把握できる能力を高め、高いレベルの合奏を実現することを目標とします。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新たなレパートリーの開拓3	新たなレパートリーであるピアノ曲及び声楽曲等からの編曲作品を通して、管楽器による表現法の向上について学びます。
第2回	新たなレパートリーの開拓4	新たなレパートリーであるピアノ曲及び声楽曲等からの編曲作品の録音を通して、アンサンブル能力と表現力をさらに向上させます
第3回	新たなレパートリーの開拓5	作曲コンクールに応募された新作の合奏を通して、参考演奏のない状態からの音楽作りについて学びます。
第4回	レパートリーの拡充4	古典から現代に至る吹奏楽のレパートリーの中から経験しておくべき楽曲について学びます。
第5回	レパートリーの拡充5	古典から現代に至る吹奏楽のレパートリーの中から経験しておくべき楽曲について、アンサンブル能力の向上を重点に学びます。
第6回	レパートリーの拡充6	古典から現代に至る吹奏楽のレパートリーの中から経験しておくべき楽曲について、表現力の向上を重点に学びます。
第7回	新たなレパートリーの開拓6	これまでにない編成の楽曲を通して、柔軟なアンサンブル能力の習得について学びます。

クォーター末試験評価方法

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価します。

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	新たなレパートリーの開拓7	これまでにない編成の楽曲の表現の仕方について学びます。
第2回	新たなレパートリーの開拓8	これまでにない編成の楽曲を通して、前例にとらわれない柔軟なアンサンブル能力と表現能力について学びます。
第3回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品1	高い能力を要求される現代の吹奏楽曲と管弦楽曲からの編曲作品を通して、高度なアンサンブル能力と表現法について学びます。
第4回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品2	独奏楽器と吹奏楽のための作品を通して、伴奏の演奏法及び独奏楽器とのバランスについて学びます。
第5回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品3	現代の吹奏楽曲と管弦楽曲からの編曲作品を通して、高度なアンサンブル能力と表現法をさらに向上させます。
第6回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品4	独奏楽器と吹奏楽のための作品を通して、伴奏の演奏法及び独奏楽器とのバランスについてさらに向上させます。
第7回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品5	ウインター・バンドフェスティバルでの演奏を前に、全体の構成とエネルギーの配分について学びます。
第8回	現代の吹奏楽曲と新しい編曲作品6	1年間の授業の総仕上げとして、演奏能力だけではない質の高いコンサートのありかたについて学びます。

学期末試験評価方法

アンサンブル能力、表現力、合奏への貢献度を90%、出席・受講状況を10%として総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	オーケストラⅠⅢⅤⅦ	演習	実	舘市正克 他

科目概要

オーケストラの合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。4学年合同の授業です。コンサートの開催日によってスケジュールは変更になる場合があります。

尚、講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、などの向上を目指します。

さらに楽曲分析の方法やコンサートまでの取り組み方なども学びます。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み	管打楽器パート決めオーディション 弦楽器は譜読み、ボウイングの決定
第2回	管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み	管打楽器パート決めオーディション 弦楽器は譜読み、ボウイングの決定
第3回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で全体像を把握します。
第4回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で全体像を把握します。
第5回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第6回	分奏	「コンチェルトのタベ」準備 分奏で細部を詰めます。
第7回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。

クォーター末試験評価方法

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、楽曲分析、コンサートまでの取り組みなどを総合的に評価します。

演奏会運営への協力(60%)、練習への取り組み(20%)、出席率(20%)

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	分奏	「コンチェルトのタベ」準備 分奏で細部を詰めます。
第2回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第3回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第4回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第5回	合奏	「コンチェルトのタベ」準備 合奏で指揮者との通し練習をします。
第6回	本番	「コンチェルトのタベ」演奏会 本番(パリオホール)
第7回	管打楽器オーディション/弦楽器は譜読み	管打楽器パート決めオーディション 弦楽器は譜読み、ボウイングの決定
第8回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。

学期末試験評価方法

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、楽曲分析、コンサートまでの取り組みなどを総合的に評価します。

演奏会運営への協力(60%)、練習への取り組み(20%)、出席率(20%)

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	オーケストラⅡⅣⅥⅧⅧ	演習	実	舘市正克 他

科目概要

オーケストラの合奏におけるアンサンブルの基本と応用を学び、依頼演奏に対応できる演奏レベルを目指します。管打楽器のメンバーはオーディションによってパートを決定します。4学年合同の授業です。コンサートの開催日によってスケジュールは変更になる場合があります。尚、講師は演奏家、指導者としての実務経験があります。

到達目標

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、などの向上を目指します。さらに楽曲分析の方法やコンサートまでの取り組み方なども学びます。

授業計画

3クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。
第2回	分奏	「オータムコンサート」準備 分奏で細部を詰めます。
第3回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。
第4回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で全体像を把握します。
第5回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第6回	合奏	「オータムコンサート」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第7回	本番	「オータムコンサート」演奏会 本番(パリオホール)

クォーター末試験評価方法

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、楽曲分析、コンサートまでの取り組みなどを総合的に評価します。  
演奏会運営への協力(60%)、練習への取り組み(20%)、出席率(20%)

4クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で全体像を把握します。
第2回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で全体像を把握します。
第3回	分奏	「研究発表会」準備 分奏で細部を詰めます。
第4回	分奏	「研究発表会」準備 分奏で細部を詰めます。
第5回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第6回	合奏	「研究発表会」準備 合奏で指揮者との合わせをします。
第7回	合奏	「コンチェルトの夕べ」準備 合奏で指揮者との通し練習をします。
第8回	本番	「コンチェルトの夕べ」演奏会 本番(パリオホール)

学期末試験評価方法

コンサートにて個々やセクションの技術、音色、アンサンブル能力、表現力、楽曲分析、コンサートまでの取り組みなどを総合的に評価します。  
演奏会運営への協力(60%)、練習への取り組み(20%)、出席率(20%)

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除くを除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
春	吹奏楽指導実習 I, III	演習	実	広瀬 勇人

科目概要

この科目では、学生指揮者が履修生によるウインド・オーケストラを指導・指揮し、演奏者への技術的・音楽的な指示からリハーサルの仕切りまで、合奏指導に必要な技術を実践的に学びます。担当講師の高校、大学等の講師としての吹奏楽指導、セミナー、講習会での指導等のこれまでの豊富な指導経験を基にさまざまな指揮・指導の方法を伝え、選曲からリハーサル、本番まで全体の流れを統括します。

到達目標

限られた練習時間、編成、演奏条件の中で、どの様にリハーサルを組み立て、どの様な言葉、表情、伝え方で合奏を指導するとより効果的か、リハーサルから本番までの一連の流れの中で習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	前期ガイダンス	学生指揮者、曲目、パートリーダー他の決定 合奏日程等の確認
第2回	指揮者レッスン①	学生指揮者の指揮個人レッスン① (履修生聴講可)
第3回	指揮者レッスン②	学生指揮者の指揮個人レッスン② (履修生聴講可)
第4回	指揮者レッスン③	学生指揮者の指揮個人レッスン③ (履修生聴講可)
第5回	指揮者レッスン④	学生指揮者の指揮個人レッスン④ (履修生聴講可)
第6回	合奏①-1	学生指揮者による合奏① (リハーサル:講師仕切り)
第7回	合奏①-2	学生指揮者による合奏② (リハーサル:講師仕切り)

クォーター末試験評価方法

出席状況(80%)、学生指揮者・パートリーダー他の担当(10%)、授業への取り組み方など(10%)を総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合奏①-3	学生指揮者による合奏③ (リハーサル:講師仕切り)
第2回	合奏②-1	学生指揮者による合奏④ (リハーサル:講師/学生指揮者仕切り)
第3回	合奏②-2	学生指揮者による合奏⑤ (リハーサル:講師/学生指揮者仕切り)
第4回	合奏③-1	学生指揮者による合奏⑥ (リハーサル:学生指揮者仕切り)
第5回	合奏③-2	学生指揮者による合奏⑦ (リハーサル:学生指揮者仕切り)
第6回	合奏④-1 ゲネプロ	学生指揮者による合奏⑧ (リハーサル:学生指揮者仕切り)
第7回	合奏④-1 ゲネプロ	学生指揮者による合奏⑨ (リハーサル:学生指揮者仕切り)
第8回	本番	学生指揮者による本番演奏

学期末試験評価方法

出席状況(80%)、学生指揮者・パートリーダー他の担当(10%)、授業への取り組み方など(10%)を総合的に評価します。

音楽総合アカデミー学科 管弦打楽器コース(吹奏楽・マーチング専攻を除く)

学期	科目名	科目区分		担当講師
秋	吹奏楽指導実習Ⅱ,Ⅳ	演習	実	広瀬 勇人

科目概要

この科目では、学生指揮者が履修生によるウインド・オーケストラを指導・指揮し、演奏者への技術的・音楽的な指示からリハーサルの仕切りまで、合奏指導に必要な技術を実践的に学びます。担当講師はこれまでの豊富な指導経験を基にさまざまな指揮・指導の方法を伝え、選曲からリハーサル、本番まで全体の流れを統括します。

到達目標

限られた練習時間、編成、演奏条件の中で、どの様にリハーサルを組み立て、どの様な言葉、表情、伝え方で合奏を指導するとより効果的か、リハーサルから本番までの一連の流れの中で習得します。

授業計画

1クォーター	テーマ	授業内容
第1回	後期ガイダンス	学生指揮者、曲目の決定 合奏日程等の確認
第2回	指揮者レッスン①	学生指揮者の指揮個人レッスン① (履修生聴講可)
第3回	指揮者レッスン②	学生指揮者の指揮個人レッスン② (履修生聴講可)
第4回	指揮者レッスン③	学生指揮者の指揮個人レッスン③ (履修生聴講可)
第5回	指揮者レッスン④	学生指揮者の指揮個人レッスン④ (履修生聴講可)
第6回	合奏①-1	学生指揮者による合奏① (リハーサル:講師仕切り)
第7回	合奏①-2	学生指揮者による合奏② (リハーサル:講師仕切り)

クォーター末試験評価方法

出席状況(80%)、学生指揮者・パートリーダー他の担当(10%)、授業への取り組み方など(10%)を総合的に評価します。

2クォーター	テーマ	授業内容
第1回	合奏①-3	学生指揮者による合奏③ (リハーサル:講師仕切り)
第2回	合奏②-1	学生指揮者による合奏④ (リハーサル:講師/学生指揮者仕切り)
第3回	合奏②-2	学生指揮者による合奏⑤ (リハーサル:講師/学生指揮者仕切り)
第4回	合奏③-1	学生指揮者による合奏⑥ (リハーサル:学生指揮者仕切り)
第5回	合奏③-2	学生指揮者による合奏⑦ (リハーサル:学生指揮者仕切り)
第6回	合奏④-1 ゲネプロ	学生指揮者による合奏⑧ (リハーサル:学生指揮者仕切り)
第7回	合奏④-2 ゲネプロ	学生指揮者による合奏⑨ (リハーサル:学生指揮者仕切り)
第8回	本番	学生指揮者による本番演奏

学期末試験評価方法

出席状況(80%)、学生指揮者・パートリーダー他の担当(10%)、授業への取り組み方など(10%)を総合的に評価します。